後賀中割遺跡（T007遺跡）

㈠下高尾小幡線　庭谷工区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県富岡土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第698集
後賀中割遺跡（T007遺跡）
㈠下高尾小幡線　庭谷工区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二一
群馬県富岡土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

後賀中割遺跡（T007遺跡）

㈠下高尾小幡線　庭谷工区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県富岡土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

後賀中割遺跡２区７号墳全景（南から）

後賀中割遺跡全景（東から）

口絵 2

後賀中割遺跡全景（北から）

後賀中割遺跡全景（西から）

序

県道下高尾小幡線は群馬県富岡市「下高尾交差点」を起点とし、甘楽郡甘楽町「小幡交差点」までを繋ぐ一般県道197号線です。本県道は下高尾から大きく東に迂回しながら南下し、富岡市で「塩畑堂交差点」と県道245号線と交差して富岡市後賀地区を通過します。後賀地区では現道を拡幅することとなり、平成29年度と平成30年度の２度にわたる発掘調査を実施しました。

整理業務は、令和元年２月から令和３年度にわたり実施しました。

本遺跡の調査では、縄文時代と弥生時代後期の竪穴建物や、方形周溝墓とともに７基の古墳が調査されました。古墳の中には５世紀代の葺石を持つ方墳が調査された他、３区８号墳からは、全国的にも出土例の少ない渦巻形杏葉をはじめとして豊富な副葬品が出土しました。これらの出土遺物は、富岡市の歴史を考える上で大変貴重であり、富岡市だけでなく群馬県の古墳時代研究に寄与する発見です。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県富岡土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、富岡市教育委員会をはじめとする関係機関や地元の皆様には多大なるご尽力を賜りました。

本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和３年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理　事　長　　向　田　忠　正

例　言

1．本書は社会資本総合整備(一)下高尾小幡線 庭谷工区に伴い実施した、Ｔ007遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。発掘調査は平成29年度から発掘調査を開始した。しかし、古墳７基、縄文時代の柄鏡型竪穴建物を含む５棟、集石遺構６基、弥生時代後期竪穴建物３棟が検出され、遺構量が当初の想定より大幅に増加したため次年度の30年度にわたり実施した。

報告書作成作業は令和元年度から令和３年度に継続して作業が行われた。平成２年４月１日よりＴ007遺跡を後賀中割遺跡(Ｔ007)と変更して作業を継続した。

2．後賀中割遺跡(Ｔ007)は群馬県富岡市後賀字中割101−３、101−４、102−３、102−４字中屋敷845−３、845−３地先、字波風山792−７、793−４、795−３、795−４、795−５、796−５、796−６、797−６、799−１地先、799−３、799−４、800−２番地内に所在する。

3．(１)事業主体　群馬県富岡土木事務所

(２)調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

(３)整理主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

4．平成29年度

(１)調査期間　平成29年８月１日～平成29年９月30日

履行期間　平成29年７月１日～平成29年11月30日

平成30年度

調査期間　平成30年９月１日～平成31年１月31日

履行期間　平成30年８月１日～平成31年３月31日

(２)調査面積　2169．86㎡

遺跡掘削工事　平成29年度　技研コンサル株式会社

平成30年度　スナガ環境測設株式会社

測量委託業者　平成29・30年度　技研コンサル株式会社

(３)調査体制　平成29年度　小原俊行(専門員主任)

友廣哲也(専門調査役)

平成30年度　新井　仁(上席調査研究員)

宮下　寛(主任調査研究員)

武井　学(調査研究員)

関　明愛(調査研究員)

5．(１)整理体制　整理期間

令和元年度　令和２年２月１日～令和２年３月31日

令和２年度　令和２年４月１日～令和３年３月31日

令和３年度　令和３年９月１日～令和３年10月31日

履行期間

(令和３年度)　令和３年９月１日～令和３年12月31日

（２）本書作成担当　整理担当

編集・執筆・遺物写真撮影　友廣哲也（令和元～３年度）

遺構写真　新井　仁、宮下　寛、武井　学、関　明愛、小原俊行、友廣哲也

遺物観察

縄文土器　山口逸弘（専門調査役）

弥生土器　友廣哲也

土 師 器　神谷佳明（専門調査役）

石 製 品　松村和男（上席調査研究員）（令和元・２年度）

岩崎泰一（専門調査役）（令和３年度）

金属製品保存処理　板垣泰之（専門員（主任））

金属器実測　杉山秀宏（専門調査役）、川口　亮（専門員（主任））

小札実測　友廣哲也

小札分類・実測指導　内山敏行（公益法人　とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター）

６．本文執筆　第４章　波田野悠夏[(1)]・吉田貴恵[(1)]・鈴木敏彦[(1)]・辰巳晃司[(2)]・佐伯史子[(2)]・奈良貴史[(2)]

（１）東北大学大学院歯学研究科

（２）新潟医療福祉大学

第５章　右島和夫（群馬県立歴史博物館　特別館長）

第５章　杉山秀宏（後賀中割遺跡出土武器他について（P157）　本事業団職員）

第５章　川口　亮（渦巻文杏葉について（P159）　本事業団職員）

第５章　内山敏行（公益法人　とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター）

上記以外　友廣哲也

７．石材の同定は、飯島静男氏（群馬地質研究会）に依頼した。

８．発掘調査の記録資料と出土資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

９．発掘調査と報告書の作成にあたり、群馬県地域創生部文化財保護課、富岡市教育委員会にご助言ご指導をいただいた。個人では、諫早直人氏、石川雅俊氏、内山敏行氏、大谷晃司氏、片山健太郎氏、金　宇大氏、清水　司氏、塚越徳司氏、津金澤吉茂氏、徳江秀夫氏、平野進一氏、右島和夫氏、水田雅美氏、横田公男氏のご指導、ご助言をいただきました。記して感謝いたします。

10．小札の分類・実測については、公益法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター内山敏行氏に直接ご助言・ご指導いただき、合わせて玉稿をいただきましたました。記して感謝いたします。

11．専門的な自然科学分析は、専門機関・研究者に依頼・委託した。

蛍光Ｘ線分析　群馬大学　研究・産学連携推進機構　機器分析センター

Ｘ線ＣＴ　群馬県立産業技術センター

凡　例

1．本書で使用した座標値および方位は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)を用い、座標北で示した。

2．等高線・遺構断面図等に記した数値は、海抜標高を示す。

3．遺構名については、発掘調査時の名称を踏襲し、各区ごとに遺構種別に通し番号で標記した。

例：１区１面１号竪穴建物、２区１面１号竪穴建物、３区１面１号竪穴建物・・・。

例：１区１面１号土坑、２区１面１号土坑、３区１面１号土坑・・・。

※「竪穴建物」の名称は、調査時には「住居」として付していた。

4．各遺構の土層断面に記した色調は 、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に依っている。

5．遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。

遺構図：　遺構全体図　1/250　1/400　　古墳　1/150　1/100　1/80　1/60　1/40　1/30

方形周溝墓　1/100　1/60　　竪穴建物　1/60　　カマド　1/30　　土坑　1/40　　ピット　1/40

溝　1/40　1/60　　集石　1/40　1/100　　遺物集中　1/20

遺物図：　土師・須恵器　1/2　1/3　1/4

石器・石製品　1/1　1/2　1/3　1/4

金属製品類　1/1　1/2　2/3　1/4　4/5

6．遺物の掲載は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。

7．図中で使用したスクリーントーンおよびマークは、次のことを示している。

焼土　　粘土　　炭化物　　攪乱(断面)

黒色　　釉

鉄製品

銀　　黒色　　白色　　有機質

8．遺構の計測は、全容が計測できない遺構について残存値(　)で表記してある。

9．降下テフラについては、以下の略号を使用した。

As-A　：天明３年(1783年)浅間山噴出浅間Ａテフラ

As-B　：天仁元年(1108年)浅間山噴出浅間Ｂテフラ

As-C　：３世紀末～４世紀初頭 浅間山噴出浅間Ｃテフラ

Hr-FP ：６世紀中葉　榛名山二ツ岳噴出伊香保テフラ

Hr-FA ：６世紀初頭　榛名山二ツ岳噴出渋川テフラ

As-YP ：浅間板鼻黄色テフラ

As-BP ：浅間板鼻褐色テフラ群

As-MP ：浅間室田テフラ

10. 本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」「上野吉井」

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　調査の経過と事業の経過
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・ 1
　第２節　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・ 1
　第３節　整理事業の経過・・・・・・・・・・・・ 5

第２章　遺跡を取り巻く環境
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・ 6
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・ 6
　第３節　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・10

第３章　検出された遺構と遺物
　第１節　遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・11
　　1.古墳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　2.方形周溝墓 ・・・・・・・・・・・・・・・76
　　3.弥生時代の竪穴建物 ・・・・・・・・・・・85
　　4.縄文時代の竪穴建物 ・・・・・・・・・・・92
　　5.土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・108
　　6.ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・116
　　7.溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
　　8.集石遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・128
　　9.遺物集中 ・・・・・・・・・・・・・・・・135
　　10.旧石器トレンチ ・・・・・・・・・・・・・136
　　11.遺構外の出土遺物 ・・・・・・・・・・・139

第４章　分析
　群馬県後賀中割遺跡古墳出土人骨について 146
　蛍光Ｘ線分析・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
　渦巻形杏葉Ｘ線ＣＴ・・・・・・・・・・・・・ 154

第５章　まとめ
　後賀中割遺跡出土武器他について・・・・ 157
　渦巻文杏葉について・・・・・・・・・・・・ 159
　後賀中割遺跡８号墳の小札甲と関連資料・ 162
　後賀中割遺跡７号墳調査の意義・・・・・ 168
　後賀中割遺跡まとめ・・・・・・・・・・・・ 178

遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
金属器部位の計測位置図・・・・・・・・・・・・ 198
金属器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210

抄録
写真図版
奥付

挿図目次

第１図　遺跡の位置
（国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」を編集・加工）・・・ 3
第２図　後賀中割遺跡の位置（国土地理院地形図1/25,000を編集・加工）・・・ 4
第３図　調査区配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第４図　周辺遺跡分布図（国土地理院電子地形図1/25,000
「富岡」「上野吉井」を編集・加工） ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第５図　基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第６図　１区１面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第７図　２区１面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第８図　３区１面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第９図　１区２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
第10図　２区２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第11図　３区２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第12図　１区１号墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第13図　１区１号墳土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
第14図　１区１号墳石室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第15図　１区１号墳石室掘り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第16図　１区１号墳臼玉・金属器出土位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第17図　１区１号墳出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第18図　１区１号墳出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第19図　１区１号墳出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
第20図　１区１号墳出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第21図　１区１号墳出土遺物（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第22図　１区２号墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第23図　１区２号墳土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
第24図　１区２号墳遺物出土位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第25図　１区２号墳出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第26図　１区２号墳出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
第27図　１区２号墳出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第28図　１区３号墳・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
第29図　２区５号墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第30図　２区５号墳土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第31図　２区５号墳出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第32図　２区７号墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第33図　２区７号墳土層断面図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第34図　２区７号墳土層断面図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第35図　２区７号墳土層断面図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第36図　２区15号土坑・出土遺物、２区７号墳出土縄文土器・・・・・・ 45
第37図　２区７号墳土器・石器出土位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
第38図　２区７号墳出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第39図　２区７号墳出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第40図　２区７号墳出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第41図　２区７号墳出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第42図　３区８号墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第43図　３区８号墳土層断面図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第44図　３区８号墳土層断面図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
第45図　３区８号墳土層断面図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
第46図　３区８号墳土層断面図（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第47図　３区８号墳土層断面図（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第48図　３区８号墳石室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第49図　３区８号墳土器・小札出土位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第50図　３区８号墳金属器出土位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第51図　３区８号墳出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第52図　３区８号墳出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第53図　３区８号墳出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第54図　３区８号墳出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第55図　３区８号墳出土遺物（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第56図　３区８号墳出土遺物（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第57図　３区８号墳出土遺物（７）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第58図　３区８号墳出土遺物（８）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第59図　３区８号墳出土遺物（９）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第60図　３区８号墳出土遺物（10）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
第61図　３区８号墳出土遺物（11）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第62図　３区８号墳出土遺物（12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第63図　３区８号墳出土遺物（13）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第64図　３区８号墳出土遺物（14）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
第65図　３区８号墳出土遺物（15）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第66図　２区10号墳・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第67図　３区１号方形周溝墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第68図　３区１号方形周溝墓土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第69図　３区１号方形周溝墓出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第70図　３区１号方形周溝墓出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第71図　２区２号方形周溝墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
第72図　２区２号方形周溝墓土層断面図・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 82
第73図　２区３号方形周溝墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第74図　２区４号方形周溝墓出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第75図　２区４号方形周溝墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第76図　１区５号竪穴建物・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
第77図　１区６号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
第78図　１区６号竪穴建物出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
第79図　１区６号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
第80図　１区７号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第81図　１区７号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
第82図　３区１号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
第83図　３区１号竪穴建物遺物出土位置図・出土遺物（１）・・・・・・・ 95
第84図　３区１号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
第85図　３区１号竪穴建物出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
第86図　３区２号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
第87図　３区２号竪穴建物炉、柱穴土層断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 99
第88図　３区２号竪穴建物遺物出土位置図・出土遺物（１）・・・・・・ 100
第89図　３区２号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
第90図　３区３号竪穴建物・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
第91図　２区４号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
第92図　２区４号竪穴建物掘り方・出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・ 104
第93図　２区４号竪穴建物出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第94図　２区４号竪穴建物出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第95図　２区８号竪穴建物・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第96図　３区１号～３号・６号・７号土坑、１区５号土坑、５号・６号土坑
出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第97図　３区８号～10号・12号土坑、出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・ 112
第98図　２区13号・14号土坑、14号土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 113
第99図　２区16号・17号・19号土坑、１区20号土坑、16号・17号・20号土坑
出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
第100図　１区21号・22号土坑、21号土坑出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 115
第101図　２区・３区１面１号～12号・58号～62号ピット、１号ピット
出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
第102図　１区２面80号～92号・100号～102号ピット、91号ピット出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
第103図　１区・２区２面63号～65号・73号・75号・76号・79号・103号～106号
ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
第104図　３区２面13号・15号～21号・25号～29号・35号ピット・・・・・ 119
第105図　３区２面22号～24号・30号～34号・36号～39号ピット ・・・・ 120
第106図　３区２面40号～46号・50号～52号・57号ピット ・・・・・・・・ 121
第107図　２区３号・４号溝、４号溝出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 123
第108図　１区５号・２区６号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
第109図　２区７号～９号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
第110図　１区10号溝・出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
第111図　１区11号・12号溝、11号溝出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 127
第112図　２区１号集石 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
第113図　２区２号集石・出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
第114図　２区２号集石出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
第115図　２区２号集石出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
第116図　２区３号・４号集石出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
第117図　２区３号・４号集石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133
第118図　２区５号・６号集石、出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
第119図　２区１号遺物集中・出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135

第120図　１区１号旧石器トレンチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
第121図　２区２号旧石器トレンチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
第122図　３区３号旧石器トレンチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
第123図　遺構外出土縄文土器（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第124図　遺構外出土縄文土器（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
第125図　遺構外出土縄文土器（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
第126図　遺構外出土縄文土器（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
第127図　遺構外出土縄文土器（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143
第128図　遺構外出土縄文土器（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
第129図　遺構外出土石器・金属器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
第130図　有頸柳葉鏃図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
第131図　長頸柳葉（長三角形）鏃図①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
第132図　長頸柳葉（長三角形）鏃図②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
第133図　長頸片刃鏃図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
第134図　渦巻文杏葉の分布 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
第135図　渦巻文杏葉の類例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
第136図　伝藤岡市平井出土の複環式鏡板付轡
（Image:TNM Image Archives）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
第137図　長野県高森町上洞３号墳出土の複環式鏡板付轡・・・・・・・ 161
第138図　小針鎧塚型小札甲および関連資料の変遷と札幅・・・・・・・ 165
第139図　小札縅法の関連資料　胴部各段縅２列円頭系
小針鎧塚型・富木車塚型・金鈴塚型 ・・・・・・・・・・・・・・ 166
第140図　八幡観音塚古墳と若田坂上４号墳の小札 ・・・・・・・・・・・・ 167

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９
第２表　歯冠計測値（㎜）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148
第３表　蛍光Ｘ線分析装置（XRF）による分析結果・・・・・・・・・・・・ 150
第４表　古墳一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
第５表　方形周溝墓一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
第６表　溝一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
第７表　集石・遺物集中一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
第８表　竪穴建物一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
第９表　土坑一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
第10表　ピット一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213

写真目次

PL．１　１区１号墳石室（西から）
１区１号墳直刀出土状態（西から）
１区１号墳直刀出土状態（西から）
１区１号墳土層断面Ｃ－Ｃ′（南から）
１区１号墳土層断面Ａ－Ａ′（南から）
PL．２　１区１号墳石室床面全景（西から）
１区１号墳石室全景（南から）
PL．３　１区１号墳石室全景（北から）
１区１号墳全景（空撮　上が東）
PL．４　１区１号墳石室梱石全景（南から）
１区１号墳石室梱石全景（南から）
１区１号墳奥壁・側壁設定状況（東から）
１区１号墳周堀石器出土状況（北から）
１区１号墳石室全景（東から）
PL．５　１区１号墳石室全景（北から）
１区１号墳石室全景（西から）
PL．６　１区１号墳骨・鉄製品出土状態（東から）
１区１号墳長頸鏃（53）出土状態（東から）
１区１号墳臼玉（20）出土状態（西から）
１区１号墳石棒（30）出土状態（南から）
１区１号墳石室全景（北から）
PL．７　１区２号墳全景（北から）
１区２号墳全景（北から）
PL．８　１区２号墳全景（空撮　上が南東）
１区２号墳全景（北から）
PL．９　１区２号墳全景（北から）
１区２号墳北側周溝全景（北から）
PL.10　１区２号墳全景（西から）
１区２号墳裏込め全景（西から）
PL.11　１区２号墳全景（西から）
１区２号墳遺物出土状態（北から）
１区２号墳須恵器壺（８）出土状態（北から）
１区２号墳須恵器壺（７）出土状態（北から）
１区２号墳遺物出土状態（北から）
PL.12　１区３号墳周堀全景（東から）
２区５号墳全景（北から）
PL.13　２区５号墳南周堀礫出土状況（東から）
２区５号墳北周堀礫出土状況（北から）
２区５号墳南周堀礫出土状況（南から）
２区５号墳北周堀礫出土状況（西から）
２区５号墳完掘全景（北から）
PL.14　２区７号墳南側検出（南から）
２区７号墳南側浮石（南から）
２区７号墳南側浮石（南から）
２区７号墳墳丘南側前凝灰岩（東から）
２区７号墳墳丘南側前凝灰岩（東から）
２区７号墳墳丘北側（東から）
２区７号墳調査風景（北東から）
２区７号墳調査風景（北から）
PL.15　２区７号墳北側葺石（北東から）
２区７号墳北側葺石（北東から）
PL.16　２区７号墳北側葺石（北から）
２区７号墳北側葺石（北から）
２区７号墳墳丘南側前凝灰岩（南から）
２区７号墳墳丘南側（南から）
２区７号墳墳丘南側（南から）
２区７号墳南側下層葺石（南から）
２区７号墳墳丘南側（南から）
２区７号墳墳丘南側前凝灰岩（南から）
PL.17　２区７号墳墳丘南側（南から）
２区７号墳南半部断面Ａ－Ａ′（南西から）
PL.18　２区７号墳南面葺石状況（南から）
２区７号墳南面区画列石状況（南から）
PL.19　２区７号墳南面区画列石状況（南から）
２区７号墳南面区画列石状況（南から）
PL.20　２区７号墳南下出土石器（南から）
２区７号墳墳丘北側周溝遺物出土状態（北から）
２区７号墳南下出土石器（南から）
２区７号墳南下出土石器（南から）
２区７号墳南下出土石器（南から）

２区７号墳南下出土石器(南から)
２区７号墳周溝内石錘(11)出土状態(北東から)
２区７号墳周溝内石核(27)出土状態(北東から)
２区７号墳南下礫器(30)出土状態(南から)
２区７号墳南下石器出土状態(南から)
２区７号墳南下石器出土状態(南から)
２区７号墳南下石器出土状態(南から)
２区７号墳墳丘北側周溝土師器出土状態(北東から)
２区７号墳墳丘北側周溝土師器出土状態(北から)
２区７号墳墳丘北側周溝土師器出土状態(北から)
PL.21　２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)出土状態(東から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)出土状態(南から)
PL.22　２区15号土坑石製模造品刀子形(２)出土状態(南から)
２区15号土坑石製模造品刀子形(２)出土状態(南から)
PL.23　３区８号墳石室全景(東から)
３区８号墳周堀全景(南東から)
PL.24　３区８号墳石室全景(東から)
３区８号墳石室礫確認状況(北から)
３区８号墳石室礫確認状況(南東から)
３区８号墳石室礫確認状況(北から)
３区８号墳石室礫確認状況(南から)
PL.25　３区８号墳土層断面Ｄ－Ｄ′(南東から)
３区８号墳土層断面Ａ－Ａ′(南西から)
３区８号墳土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区８号墳土層断面Ｃ－Ｃ′(南から)
３区８号墳土層断面Ａ－Ａ′(西から)
３区８号墳土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区８号墳土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区８号墳土層断面Ｃ－Ｃ′(南から)
PL.26　３区８号墳周溝内葺石崩落状況(北から)
３区８号墳周溝内葺石崩落状況(北から)
３区８号墳周溝内葺石崩落状況(東から)
３区８号墳土層断面Ａ－Ａ′(西から)
３区８号墳土層断面Ａ－Ａ′(西から)
PL.27　３区８号墳前庭・羨道(南西から)
３区８号墳前庭右側壁石積(東から)
PL.28　３区８号墳前庭土層断面Ａ－Ａ′(西から)
３区８号墳前庭土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区８号墳前庭下層土層断面Ｆ－Ｆ′(西から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(西から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(西から)
PL.29　３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭須恵器大甕(２)出土状態(東から)
３区８号墳前庭小札(32)出土状態(東から)
３区８号墳前庭小札(33)出土状態(南から)
３区８号墳前庭長頸鏃(94)出土状態(南から)
PL.30　３区８号墳羨道閉塞石下部(南から)
３区８号墳羨道左壁裏込め(東から)
３区８号墳羨道右壁(東から)
３区８号墳羨道断面Ｋ－Ｋ′(東から)
３区８号墳羨道断面Ｋ－Ｋ′(東から)
PL.31　３区８号墳羨道石下断面Ｃ－Ｃ′(南から)
３区８号墳羨道小札(39)出土状態(東から)
３区８号墳羨道小札(44)出土状態(東から)
３区８号墳羨道小札(51)出土状態(北から)
３区８号墳羨道直刀(64)出土状態(南から)
３区８号墳羨道長頸片刃鏃(76)、長頸鏃(85)出土状態(東から)
３区８号墳羨道鏃茎片(118)出土状態(西から)
３区８号墳羨道絞具(161)出土状態(北から)
PL.32　３区８号墳羨道鞍片(163)出土状態(西から)
３区８号墳羨道金銅製連結金具(165)出土状態(東から)
３区８号墳羨道木製鐙吊金具(171)出土状態(東から)
３区８号墳羨道釘(189)出土状態(西から)
３区８号墳前庭全景(南から)
PL.33　３区８号墳羨道・前庭下層全景(南から)
３区８号墳羨門西側石積状況(南から)
PL.34　３区８号墳玄室土層断面Ａ－Ａ′(西から)
３区８号墳玄室西壁下石出土状況(西から)
３区８号墳玄室石出土状態(東から)
３区８号墳玄室出土須恵器甕(１)出土状態(東から)
３区８号墳玄室遺物出土状態(東から)
３区８号墳玄室骨出土状態(東から)
３区８号墳玄室骨出土状態(東から)
３区８号墳玄室小札出土状態(南から)
PL.35　３区８号墳玄室小札(16)出土状態(東から)
３区８号墳玄室小札(19)出土状態(東から)
３区８号墳小札(38)出土状態(北から)
３区８号墳玄室小札(40)出土状態(東から)
３区８号墳玄室小札(41)出土状態(東から)
３区８号墳玄室小札(43)出土状態(南から)
３区８号墳玄室小札(46)出土状態(東から)
３区８号墳玄室小札(47)出土状態(北東から)
PL.36　３区８号墳玄室小札(48)出土状態(南から)
３区８号墳玄室小札(52)出土状態(東から)
３区８号墳玄室耳環(57)出土状態(南から)
３区８号墳玄室耳環(58)出土状態(東から)
３区８号墳玄室耳環(60)、長頸片刃鏃(76)出土状態(東から)
３区８号墳玄室耳環(61)出土状態(東から)
３区８号墳玄室鏡(179)出土状態(東から)
３区８号墳玄室長頸片刃鏃(75)出土状態(東から)
PL.37　３区８号墳玄室長頸鏃(90)出土状態(東から)
３区８号墳玄室鏃茎(122)出土状態(東から)
３区８号墳玄室鏃茎(123)出土状態(東から)
３区８号墳玄室長頸鏃(89)出土状態(東から)
３区８号墳玄室長頸鏃出土状態(東から)
３区８号墳玄室長頸鏃(95)出土状態(東から)
３区８号墳玄室鉄器出土状態(東から)
３区８号墳玄室長頸鏃(103)出土状態(東から)
PL.38　３区８号墳玄室釘(105)出土状態(南から)
３区８号墳玄室長頸鏃(111)出土状態(東から)
３区８号墳玄室長頸鏃(114)出土状態(東から)
３区８号墳玄室長頸鏃(115・116)出土状態(東から)
３区８号墳玄室銀装具付刀子(126)出土状態(南から)
３区８号墳玄室刀子(128)出土状態(東から)
３区８号墳玄室四脚辻金具(136)出土状態(東から)
３区８号墳玄室コハゼ形金具(141)出土状態(東から)
PL.39　３区８号墳玄室花弁形座金属(173)出土状態(東から)
３区８号墳玄室刃装具(181)出土状態(東から)
３区８号墳玄室棒板状品(183)出土状態(東から)
３区８号墳玄室釘(190)出土状態(東から)
３区８号墳閉塞部正面(南から)
PL.40　３区８号墳閉塞部断面(東から)
３区８号墳閉塞石断面(東から)
３区８号墳羨道作業風景(南から)
３区８号墳石室作業風景(南西から)
３区８号墳玄室左壁裏込め断面Ｄ－Ｄ′(南から)
PL.41　３区８号墳玄室右壁裏込め断面Ｄ－Ｄ′(南から)
３区８号墳羨道右壁裏込め断面Ｃ－Ｃ′(北から)
３区８号墳羨道右壁裏込め断面Ｃ－Ｃ′(北から)
３区８号墳羨道左壁裏込め断面Ｃ－Ｃ′(北から)
３区８号墳玄室奥壁裏込め断面Ａ－Ａ′(西から)
PL.42　３区８号墳奥壁裏込め被覆検出状況(東から)
３区８号墳裏込め小札(27)出土状態(東から)
３区８号墳裏込め小札(53)出土状態(南から)
３区８号墳裏込め銀製鋲(63)出土状態(東から)
３区８号墳裏込め刀鞘出土状態(北から)

PL.43　３区８号墳掘り方土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区８号墳掘り方土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区８号墳掘り方土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区８号墳掘り方北側周堀石列(東から)
３区８号墳ベルト須恵器大甕(２)胴部破片出土状態(西から)
３区８号墳ベルト須恵器大甕(２)胴部破片出土状態(西から)
３区８号墳ベルト遺物出土状態(西から)
３区８号墳ベルト遺物出土状態(南から)
PL.44　３区１号方形周溝墓西溝全景(北から)
３区１号方形周溝墓土層断面Ａ－Ａ′(南から)
３区１号方形周溝墓土層断面Ｃ－Ｃ′(北から)
３区１号方形周溝墓遺物出土状態(南から)
３区１号方形周溝墓土師器壺(３)出土状態(東から)
３区１号方形周溝墓内１号土坑全景(東から)
２区２号方形周溝墓全景(西から)
２区２号方形周溝墓土層断面Ａ－Ａ′(南西から)
PL.45　２区２号方形周溝墓遺物出土状態(北西から)
２区２号方形周溝墓土師器壺(２)出土状態(西から)
２区３号方形周溝墓全景(北から)
２区３号方形周溝墓土層断面Ａ－Ａ′(南西から)
２区３号方形周溝墓遺物出土状態(西から)
２区４号方形周溝墓全景(南西から)
２区４号方形周溝墓土層断面Ｂ－Ｂ′(北から)
２区４号方形周溝墓土層断面Ｄ－Ｄ′(南東から)
PL.46　１区５号竪穴建物全景(西から)
１区５号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′(南から)
１区５号竪穴建物遺物出土状態(西から)
１区５号竪穴建物Ｐ１全景(西から)
１区６号竪穴建物全景(北から)
PL.47　１区６号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′西側(南西から)
１区６号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′東側(南西から)
１区６号竪穴建物土層断面Ｂ－Ｂ′(北西から)
１区６号竪穴建物遺物出土状態(北東から)
１区６号竪穴建物遺物出土状態(北から)
１区６号竪穴建物炉全景(南から)
１区６号竪穴建物炉土層断面Ｃ－Ｃ′(西から)
PL.48　１区７号竪穴建物全景(北東から)
１区７号竪穴建物遺物出土状態(南西から)
１区７号竪穴建物弥生土器壺(８)出土状態(北西から)
１区７号竪穴建物炭化物出土状態(北西から)
１区７号竪穴建物炉土層断面Ｃ－Ｃ′(南西から)
PL.49　３区１号竪穴建物全景(北西から)
３区１号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′(北から)
３区１号竪穴建物土層断面Ｂ－Ｂ′(西から)
３区１号竪穴建物遺物出土状態(東から)
３区１号竪穴建物炉全景(北から)
PL.50　３区１号竪穴建物炉土層断面Ｃ－Ｃ′(北東から)
３区１号竪穴建物炉埋甕(深鉢１)出土状態(南西から)
３区１号竪穴建物炉下部埋甕(深鉢２)出土状態(北から)
３区１号竪穴建物炉掘り方全景(北から)
３区１号竪穴建物Ｐ１全景(東から)
３区１号竪穴建物Ｐ２全景(東から)
３区１号竪穴建物Ｐ３全景(南から)
３区１号竪穴建物Ｐ４全景(南から)
PL.51　３区２号竪穴建物全景(南から)
３区２号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′(西から)
３区２号竪穴建物土層断面Ｂ－Ｂ′(南から)
３区２号竪穴建物遺物出土状態(北から)
３区２号竪穴建物Ｐ４上敷石出土状態(南東から)
PL.52　３区２号竪穴建物炉全景(北から)
３区２号竪穴建物炉土層断面Ｅ－Ｅ′(西から)
３区２号竪穴建物縄文土器深鉢(１)出土状態(西から)
３区２号竪穴建物炉掘り方全景(南から)
３区２号竪穴建物Ｐ４全景(東から)
３区３号竪穴建物全景(北東から)
３区３号竪穴建物炉全景(東から)
３区３号竪穴建物遺物出土状態(北から)
PL.53　２区４号竪穴建物全景(北西から)
２区４号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′北部(南西から)
２区４号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′南部(南西から)
２区４号竪穴建物内土坑全景(南東から)
２区４号竪穴建物炉全景(北西から)
PL.54　２区４号竪穴建物炉遺物出土状態(北東から)
２区４号竪穴建物炉土層断面Ｂ－Ｂ′(南東から)
２区４号竪穴建物炉掘り方全景(北西から)
２区４号竪穴建物内土坑遺物出土状態(西から)
２区４号竪穴建物内土坑遺物出土状態(北東から)
２区４号竪穴建物内土坑遺物出土状態(北東から)
２区４号竪穴建物内土坑掘り方全景(北東から)
２区４号竪穴建物１号埋設土器(南西から)
PL.55　２区４号竪穴建物Ｐ１全景(北から)
２区４号竪穴建物Ｐ２全景(北から)
２区４号竪穴建物Ｐ３全景(北から)
２区４号竪穴建物Ｐ４全景(北から)
２区４号竪穴建物Ｐ５全景(北から)
２区４号竪穴建物Ｐ６全景(北から)
２区４号竪穴建物Ｐ７全景(北から)
２区４号竪穴建物Ｐ８全景(北から)
PL.56　３区１号土坑全景(南から)
３区２号土坑全景(南から)
３区３号土坑全景(南から)
１区５号土坑剝片(１)出土状態(西から)
１区５号土坑全景(南東から)
３区６号土坑全景(東から)
３区７号土坑全景(南から)
３区８号土坑磨製石斧(１)出土状態(南から)
３区８号土坑全景(南から)
３区９号土坑全景(北から)
３区10号土坑全景(北から)
３区12号土坑全景(西から)
２区13号土坑遺物出土状態(南西から)
２区13号土坑全景(南から)
２区14号土坑遺物出土状態(東から)
PL.57　２区14号土坑全景(東から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)出土状態(東から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)出土状態(南から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)遺物出土状態(西から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)遺物出土状態(南東から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)遺物出土状態(東から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)石製模造品刀子形(２)出土状態(西から)
２区15号土坑(７号墳墳丘内陪葬)全景(東から)
２区16号土坑全景(南から)
２区17号土坑縄文土器深鉢(１)出土状態(南西から)
２区17号土坑全景(北から)
２区19号土坑全景(北から)
１区20号土坑全景(東から)
１区21号土坑全景(西から)
１区22号土坑全景(南西から)
PL.58　３区10号ピット全景(北から)
３区12号ピット全景(北から)
３区13号ピット全景(南から)
３区14号ピット(１号竪穴建物Ｐ６)全景(南から)
３区15号(左)・16号(右)ピット全景(南西から)
３区17号ピット全景(東から)
３区18号ピット全景(東から)
３区19号ピット全景(東から)
３区20号ピット全景(南から)
３区21号ピット全景(南から)
３区22号ピット全景(東から)
３区23号ピット全景(南から)
３区24号ピット全景(南から)

３区25号(左)・26号(右)ピット全景(南から)
３区27号ピット全景(西から)
PL.59　３区28号ピット全景(南西から)
３区29号ピット全景(南西から)
３区30号ピット全景(南東から)
３区31号ピット全景(南から)
３区31号(左)・32号(右)ピット全景(南から)
３区33号(左)・34号(右)ピット全景(東から)
３区35号ピット全景(西から)
３区36号ピット全景(南から)
３区37号ピット全景(南から)
３区38号ピット全景(東から)
３区39号ピット全景(東から)
３区40号ピット全景(東から)
３区41号ピット全景(南東から)
３区42号ピット全景(東から)
３区43号ピット全景(南東から)
PL.60　３区44号ピット全景(南東から)
３区45号ピット全景(南東から)
３区46号ピット全景(東から)
３区47号ピット(２号竪穴建物Ｐ６)全景(南から)
３区48号ピット(３号竪穴建物Ｐ４)全景(南から)
３区49号ピット(３号竪穴建物Ｐ５)全景(南から)
３区50号ピット全景(南東から)
３区51号ピット全景(南から)
３区52号ピット全景(東から)
３区53号ピット(２号竪穴建物Ｐ５)全景(南から)
３区54号ピット(３号竪穴建物Ｐ２)全景(西から)
３区55号ピット(３号竪穴建物Ｐ３)全景(南から)
３区56号ピット(３号竪穴建物Ｐ１)全景(南東から)
３区57号ピット全景(南から)
２区61号ピット全景(南から)
PL.61　２区62号ピット全景(北から)
２区63号ピット全景(北から)
２区64号ピット全景(北から)
２区65号ピット全景(北から)
２区66号ピット(８号竪穴建物Ｐ２)全景(北から)
２区67号ピット(８号竪穴建物Ｐ３)全景(北から)
２区68号ピット(８号竪穴建物Ｐ５)全景(北から)
２区69号ピット(８号竪穴建物Ｐ６)全景(北から)
２区70号ピット(８号竪穴建物Ｐ７)全景(西から)
２区72号ピット(８号竪穴建物Ｐ８)全景(北から)
２区73号ピット全景(北から)
２区74号ピット(８号竪穴建物Ｐ４)全景(北から)
２区75号ピット全景(北から)
２区76号ピット全景(北から)
２区77号ピット(８号竪穴建物Ｐ１)全景(北から)
PL.62　２区78号ピット(８号竪穴建物Ｐ９)全景(北から)
２区79号ピット全景(北から)
１区80号ピット全景(東から)
１区81号ピット全景(東から)
１区82号ピット全景(東から)
１区83号ピット全景(東から)
１区84号ピット全景(東から)
１区85号ピット全景(東から)
１区86号ピット全景(東から)
１区89号ピット全景(東から)
１区90号ピット全景(東から)
１区91号ピット全景(東から)
１区92号ピット全景(東から)
２区93号ピット(４号竪穴建物Ｐ11)全景(東から)
２区94号ピット(４号竪穴建物Ｐ12)全景(東から)
PL.63　２区95号ピット(４号竪穴建物Ｐ９)全景(東から)
２区96号ピット(４号竪穴建物Ｐ13)全景(東から)
２区97号ピット(４号竪穴建物Ｐ14)全景(東から)
２区98号ピット(４号竪穴建物Ｐ10)全景(北東から)
２区99号ピット(４号竪穴建物Ｐ15)全景(東から)
１区100号ピット全景(東から)
１区101号ピット全景(東から)
１区102号ピット全景(東から)
１区103号ピット全景(東から)
１区104号ピット全景(東から)
１区105号ピット全景(西から)
PL.64　２区３号溝全景(西から)
２区４号溝全景(西から)
１区５号溝全景(西から)
２区６号溝全景(西から)
２区７号溝全景(東から)
２区９号溝全景(北から)
１区10号溝全景(西から)
１区12号溝全景(東から)
PL.65　２区２号集石全景(東から)
２区３号集石全景(西から)
PL.66　２区３号集石礫出土状態(西から)
２区３号集石礫出土状態(西から)
PL.67　２区３号集石礫出土状態(西から)
２区３号集石礫出土状態(西から)
PL.68　２区３号集石礫出土状態(西から)
２区４号集石全景(東から)
PL.69　１区１号墳出土遺物(１)
PL.70　１区１号墳出土遺物(２)、１区２号墳出土遺物(１)
PL.71　１区２号墳出土遺物(２)
PL.72　１区２号墳出土遺物(３)、１区３号・２区５号墳出土遺物、２区15号土坑出土遺物、２区７号墳出土遺物(１)
PL.73　２区７号墳出土遺物(２)
PL.74　２区８号墳出土遺物(１)
PL.75　２区８号墳出土遺物(２)
PL.76　２区８号墳出土遺物(３)
PL.77　２区８号墳出土遺物(４)
PL.78　２区８号墳出土遺物(５)
PL.79　２区８号墳出土遺物(６)
PL.80　２区８号墳出土遺物(７)
PL.81　２区８号墳出土遺物(８)
PL.82　２区８号墳出土遺物(９)
PL.83　２区８号墳出土遺物(10)、２区10号墳出土遺物
PL.84　３区１号方形周溝墓出土遺物(１)
PL.85　３区１号方形周溝墓出土遺物(２)、２区２号・４号方形周溝墓出土遺物、１区５号竪穴建物出土遺物
PL.86　１区６号竪穴建物出土遺物、１区７号竪穴建物出土遺物(１)
PL.87　１区７号竪穴建物出土遺物(２)、３区１号竪穴建物出土遺物(１)
PL.88　３区１号竪穴建物出土遺物(２)、３区２号竪穴建物出土遺物(１)
PL.89　３区２号竪穴建物出土遺物(２)、３区３号竪穴建物、２区４号竪穴建物(１)出土遺物
PL.90　２区４号竪穴建物出土遺物(２)、２区８号竪穴建物出土遺物、１区５号・３区６号・８号～10号・１区12号・２区14号土坑出土遺物
PL.91　２区16号・17号・１区20号・21号土坑出土遺物、３区１号・１区91号ピット出土遺物、２区４号・１区10号・11号溝出土遺物、２区１号遺物集中出土遺物
PL.92　２区２号～６号集石出土遺物
PL.93　遺構外出土縄文土器(１)
PL.94　遺構外出土縄文土器(２)
PL.95　遺構外出土縄文土器(３)
PL.96　遺構外出土石器・金属製品

第１章　調査の経過と事業の経過

第１節　調査に至る経緯

本書は、平成29・30年度社会資本総合整備(一)下高尾小幡線庭谷工区に伴うＴ007遺跡の発掘調査に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。県道下高尾小幡線は、群馬県富岡市「下高尾交差点」から「甘楽町小幡交差点」を繋ぐ一般県道197号線で、全長は7.5㎞である。発掘調査対象地は富岡市後賀字中割地区にあたる。

本事業地は、富岡市教育委員会(以下富岡市教委)により、周知の埋蔵文化財包蔵地(富岡市遺跡番号Ｔ007)内にある。平成28年、群馬県富岡土木事務所(富岡土木)は群馬県教育委員会文化財保護課(以下文化財保護課)に事業照会を行った。

これを受け、文化財保護課は事業地が埋蔵文化財包蔵地内にあるため「確認調査」が必要と回答した。同年富岡土木は文化財保護課に確認調査を依頼した。これを受け文化財保護課は平成28年７月14・15日の２日間、本事業地内の確認調査の結果、遺構を確認し、本調査が必要と判断した。

平成28年、文化財保護課の調整を経て公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下事業団)を調査主体とし、平成29年８～９月の２ヶ月の本調査を実施した。

調査区は１～３区に分け、発掘調査が開始された。調査は表土掘削から始まり、人力による遺構確認作業まで行ったところで、古墳、竪穴建物、周溝墓等の遺構が多数確認されたため、事業団は富岡土木と文化財保護課と発掘調査の期間について調整を行い、次年度以降に発掘調査を継続して実施することとなった。

第２節　調査の方法と経過

以下年度ごとに概要を示す。

平成29年度

平成29年８月１日から同年９月30日の調査期間で本調査を開始した。後賀中割遺跡は富岡市後賀地内にある。遺跡は鏑川の左岸に位置する。遺跡は調査対象地を１区～３区の各区に分けて調査を開始した。１区から２区へかけて川に向かい比高約１～２ｍ緩やかに傾斜している。また３区は１・２区より西に向かい５～６ｍ高く急傾斜を持っている。遺跡はこのような丘陵地帯に所在する。さらに遺跡周辺は古墳が多く確認されている。ただし遺跡地内は後世に古墳群は削平され、１～３区ともに古墳があったが壊されていた。調査対象地は、昭和に入り、傾斜地を開墾し、平坦な畑へと改変していた。

このため文化財保護課による確認調査時には１～３区ともに調査対象地はほぼ平坦な畑地であり、野菜等が植栽されていた。標高は１区141m、２区140～141m、３区147mである。

事業団による調査は、まず重機による畑の耕作土の除去から始まり、その後の遺構確認作業に移った。表土掘削の中で破壊された古墳が確認された。遺構数は古墳が７基、古墳の下面からは弥生時代末から古墳時代初頭にかかる方形周溝墓４基、縄文時代竪穴建物５棟、配石遺構６基、弥生時代竪穴建物３棟が確認され、ほかに土坑19基、溝10条、ピットが81基確認された。事業団と富岡土木事務所、文化財保護課は発掘調査期間について調整を行い、次年度以降に発掘調査を継続して実施することとした。

調整の結果、29年度調査の実施は比較的葺石の残りの良かった２区７号墳の調査と、３区北半分に絞って実施することとなった。２区７号墳は方墳とわかり、葺石を４面に確認した。石室は確認されず、上半部は削平されていた。この結果、石室の構造は周辺に存在する古墳時代終末期の群集墳の時期と異なる竪穴式石室であることが想定されたが、その確認ができないまま、調査は次年度の調査へ引き継がれることとなった。

29年度の調査は２区７号墳の測量は測量会社に委託し、写真、空撮等を行った。３区北半部は丘陵地帯の岩盤である塩畑堂凝灰岩の面を確認し、中央部で３基の土坑の測量写真を撮影し、シートをかけ、埋め戻して29年度２ヶ月の調査を終了した。

平成29年調査日誌抄

８月１日　現地調査事務所用地の環境整備開始、設営。
８月３日　１区重機による掘削開始。並行して事務所設営開始、設営。
８月４日　１区遺構確認調査開始、１号墳確認。
８月７日　１区遺構確認調査継続。２号墳確認、平面調査開始。２区遺構確認調査開始。
８月９日　１区１・２号墳確認面写真撮影、現況写真撮影、平面実測開始。２・３区重機による掘削開始、遺構確認調査開始。
８月10日　１区１・２号墳平面確認調査、セクション調査。２・３区重機による掘削継続、遺構確認調査継続。
８月17日　１区１・２号墳セクション調査。３区遺構確認調査継続。３区重機による掘削継続、１～３号土坑、セクション写真、注記、平面測量、全景写真。
８月18日　２区４～７号墳確認、調査開始。
７号墳セクション調査。３区８号墳確認、調査開始。１号ピットセクション写真、注記遺構測量。
８月21日　１区重機による掘削開始､遺構確認調査継続。２区７号墳セクション調査。３区重機による掘削継続、遺構確認調査継続。
８月23日　２区重機による掘削継続､遺構確認調査継続。２区７号墳セクション調査、平面調査。３区調査区全体測量開始。
８月29日　１～３区内調査区域測量作業。
９月１日　２区10号墳確認。４・６号墳遺構範囲確認調査、１～４号溝遺構範囲確認調査。
９月４日　２区７号墳周溝掘削開始､南部遺構確認調査。
９月７日　２区７号墳墳丘範囲確認調査、墳丘部北部葺石確認。４号方形周溝墓人力掘削開始。
９月８日　１～３区内の遺構量の想定が発掘前の遺構量試掘調査結果を超えることを確認。期間の再検討開始。７号墳墳丘範囲確認調査継続、墳丘南側の凝灰岩分布範囲確認。４号方形周溝墓調査継続範囲測量。
９月12日　遺跡全体の遺構量を踏まえ､富岡土木事務所･県文化財保護課、事業団で次年度調査費、期間打ち合わせ開始。
９月20日　富岡土木事務所、県文化財保護課、事業団協議、次年度に再調査を行う事で一旦埋め戻しを決定。埋め戻しの作業準備開始。
９月25日　重機による埋め戻し作業開始､。
９月29日　１～３区の埋め戻し終了。平成29年度の調査を中断する。

平成30年度

平成30年９月１日から平成31年１月31日の調査期間で本調査を再開した。１～３区の昨年度埋め戻した土を除去して、30年度調査を開始した。

前年度に引き続き古墳、方形周溝墓、竪穴建物等の調査を実施した。古墳の墳丘は削平されており、石室を確認できたものは１・８号墳である。他の古墳では石室は壊されており、葺石も外され、周溝内に捨てられていた。

１区では、１号墳の石室の最下面をかろうじて確認できた。石室内から鉄製馬具・耳環等が出土した。南区と北区から２・３号墳の２基を確認した。１号墳の石室の調査を終了すると、下面から弥生時代の竪穴建物が３棟確認された。竪穴建物の時期は、後期樽式土器が出土したことから弥生時代後期である。他の遺構は溝、土坑が確認された。１区では縄文時代の遺構は確認されていない。

２区では、７号墳の南側で５号墳が確認された。５号墳は円墳であり、墳丘はすべて削平され、周溝のみの確認であった。２区北東部では10号墳が確認されている。東・北部は道路に壊され、周溝の一部だけ確認した。調査区際で石室の壁材とみられる巨礫とその周囲に葺石が出土している。５・７号墳の石の下から２号方形周溝墓を確認した。

７号墳の南に縄文時代の竪穴建物１棟、その北西部に縄文時代の柄鏡形竪穴建物１棟が確認された。他に２区内では縄文時代の集石が６基確認されている。

３区では、８号墳が１基確認されている。８号墳は石室の残りが一番良いが、石室床面は後世の攪乱を受け、石室内からは鉄製の馬具や耳環等が散乱した状態で出土している。古墳の下面には古墳時代前期の方形周溝墓の溝を確認した。北西の溝の下面に方形を呈する土坑が確認されたが、壺棺墓と考えられる。出土土器は二重口縁

壺の土師器であるが、胴部の器形は卵型の長胴で樽式土器の伝統を持っている。

その他に遺跡内では、縄文時代の竪穴建物が３棟確認されている。

１～３区各区で旧石器の確認調査を行ったが、旧石器時代の遺物は確認できなかった。

平成30年調査日誌抄

９月３日　調査準備開始。

９月４日　周辺環境整備、事務所設営開始、設営。近隣住民、区長への挨拶、測量業者との打ち合わせ。富岡土木事務所、事業団と立会、打ち合わせ。コピー機、ＰＣ機器搬入。

９月６日　１区重機による埋土除去開始。

９月12日　１区遺構確認作業開始、１～３号墳確認、調査開始。

９月13日　１区北端部調査終了埋め戻し作業開始。２区埋め土除去作業開始。

９月18日　１区２号墳調査開始、３区８号墳調査開始、ベルト設定。

９月20日　１区２号墳・３区８号墳調査継続。

９月25日　３区８号墳調査継続、石室内調査開始。２区埋め土除去作継続。

９月27日　１区１号墳・３区８号墳調査継続、８号墳石室内写真撮影。

９月28日　１区１・２号墳周溝調査継続。３区８号墳高所作業車による全景写真撮影。

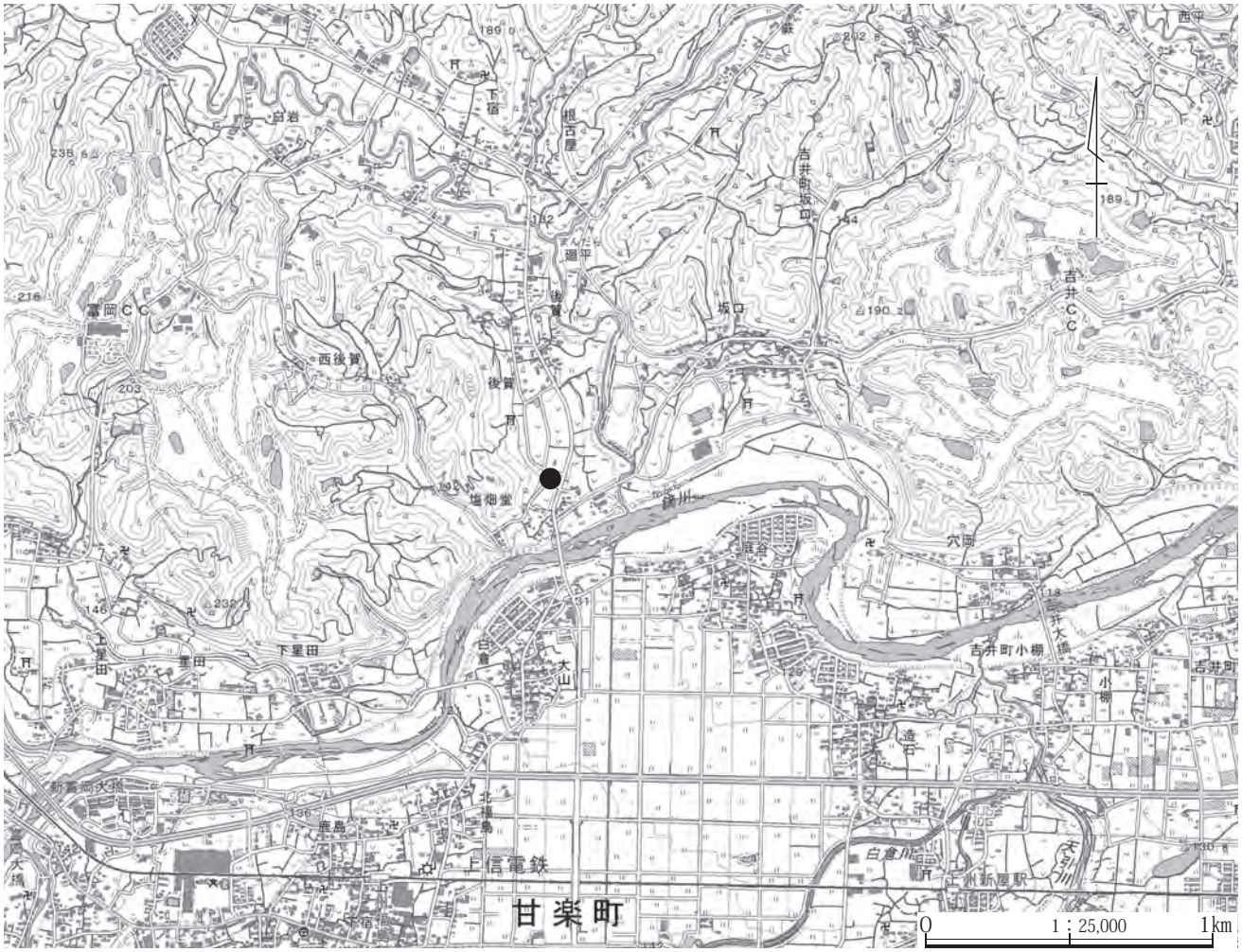
10月５日　１区１・２号墳、３区８号墳調査継続。

10月12日　１区１・２号墳調査継続、３区８号墳測量。

10月16日　１区１・２号墳周溝調査、３区８号墳石室前庭部遺物取り上げ。

10月22日　１区１号墳周溝測量、３区８号墳羨道閉塞部写真撮影、測量。

10月23日　高所作業車で、３区８号墳石室全景、３区全



第１図　遺跡の位置（国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」を編集・加工）

体写真撮影。

10月31日　１区１・２号墳、３区８号墳調査継続。

11月６日　３区８号墳石室裏込め礫除去作業開始。

11月７日　２区埋め土除去、遺構確認作業開始。

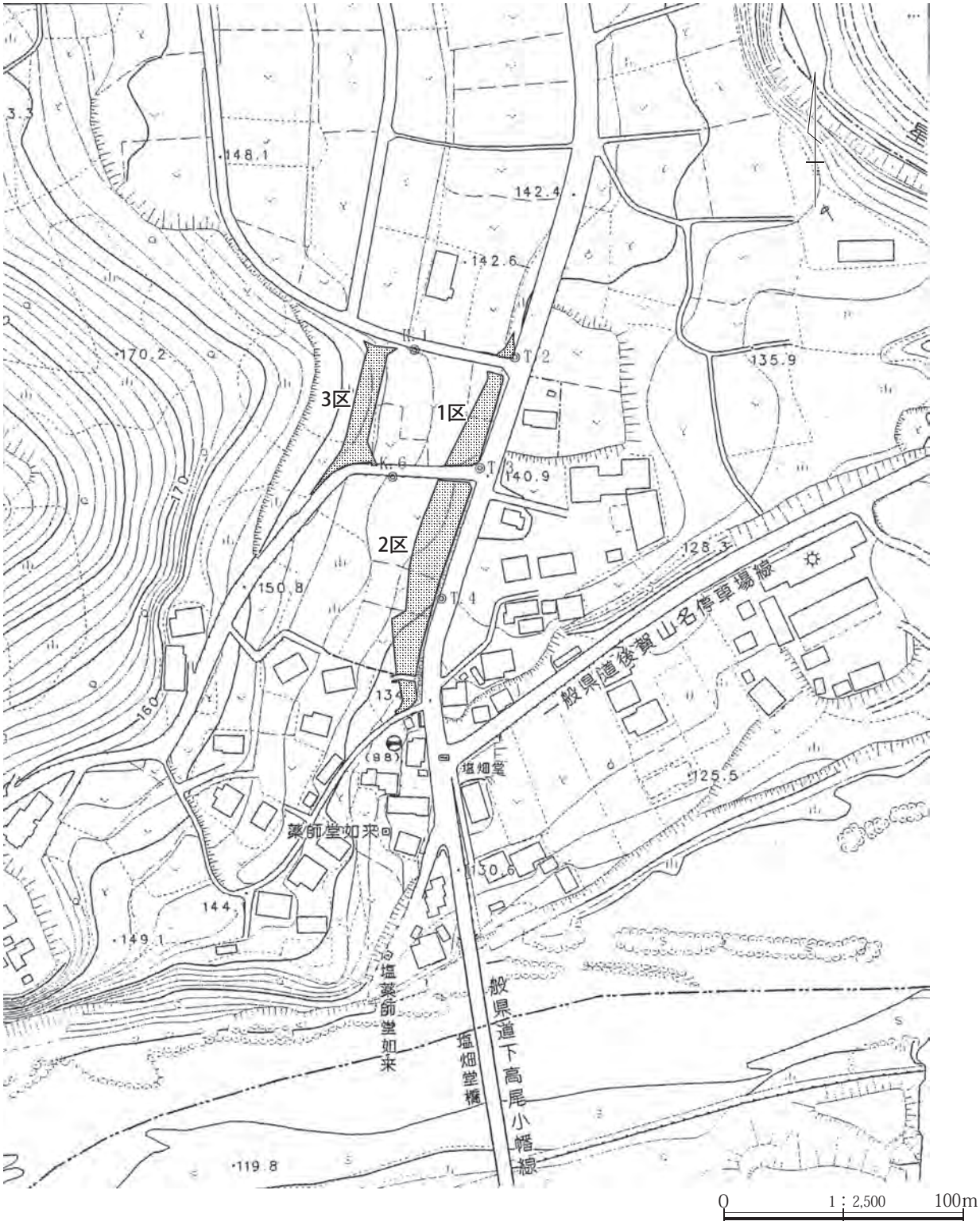
11月19日　３区１号方形周溝墓調査。

11月21日　３区１・２号竪穴建物、１号方形周溝墓調査継続。

12月３日　２区４号方形周溝墓、７号墳調査開始。

12月17日　２区７号墳葺石除去作業開始。

12月21日　２区２・４号方形周溝墓調査継続。７号墳盛



第２図　後賀中割遺跡の位置（国土地理院地形図1/25,000を編集・加工）

土掘削作業開始。

１月８日　１区１号墳石室内人骨､金属器出土状態記録。

１月９日　２区７号墳盛土内15号土坑、７号墳内陪葬土坑を検出確認。

１月10日　２区７号墳盛土掘削継続、15号土坑精査。旧石器試掘調査開始。

１月16日　２区15号土坑(陪葬墓)精査、石製模造品出土確認。

１月21日　２区７号墳盛土除去、旧石器試掘継続。

１月25日　遺跡内旧石器試掘記録、調査終了、撤収準備。

１月28日　埋め戻し開始。

１月31日　埋め戻し終了。調査終了。

第３節　整理事業の経過

整理作業は令和元年２月１日に開始した。発掘調査が終了したのは、平成30年(令和元年)１月31日である。

発掘調査が終了するまで本遺跡は、富岡市教育委員会の遺跡番号、包蔵地Ｔ007の記号で呼ばれ、令和２年４月に文化財保護課と富岡市教委の間で協議が行われ、『後賀中割遺跡(ごかなかわりいせき)』という名称に変更された。令和２年４月以降から後賀中割遺跡の名称で整理事業が行われた。令和３年３月31日をもって整理作業は中断し、新たに令和３年度９・10月の２ヶ月で編集刊行となった。

令和元年(平成30年度)２月から開始された整理作業は、遺構図面の照合、修正から始め全体図の作成までの基礎的な作業から、時期別に個別の遺構へと開始した。令和元年度の作業はほとんどが図面の整理、台帳づくりに費やされた。図面は機械トレースを行った。

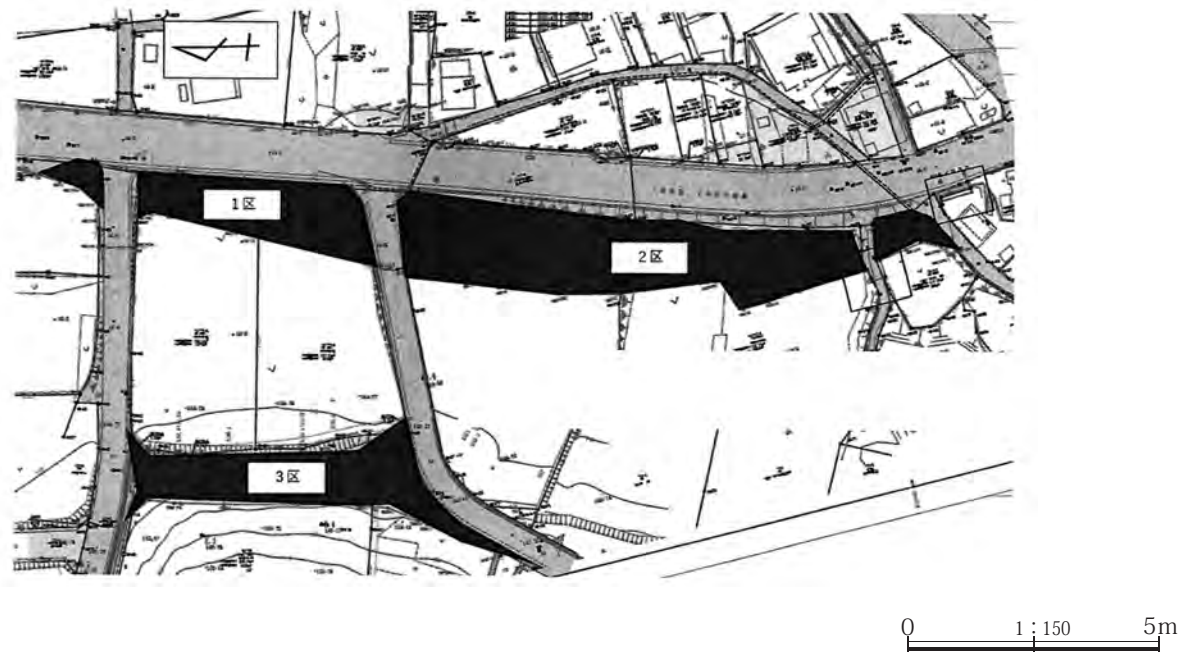
令和２年４月より区ごとに土師器、弥生時代、縄文時代の遺物の分類、接合、復元を行った。他に古墳出土金属製品等の分類を行い、個別の遺物の掲載、非掲載の分類を行なった。遺物は実測、トレースを行い、掲載用の写真を撮影。金属製品はさび落としをし、土器と同じく掲載用の遺物は、実測、トレース、写真撮影を行った。

一方、遺構測量図は前年度の図面と合わせ、測量面の集成を行い、古墳、竪穴建物、周溝墓等に分け同じ遺構ごとにレイアウトを作成。

その後、図面レイアウト、遺構原稿、遺物を合わせ、デジタル編集作業およびデジタル組版を行い、令和２年度は終了した。

令和３年度は前年度にデジタル編集を行った図版を９・10月の２ヶ月をかけ、報告書の全体の編集を行い刊行した。

掲載遺物、非掲載遺物の遺物管理台帳を作成し、活用に備え資料の収納作業を行った。



第３図　調査区配置図

第２章　遺跡を取り巻く環境

第１節　地理的環境

本遺跡の南を流れる利根川支流の鏑川は、水源の上信国境荒船山(海抜1422m)から約50㎞東流し、関東平野に入った高崎市南部で榛名山西側から南東流してくる烏川と合流する。さらに約10㎞東で利根川本流に合流する。

烏川は他に上信国境関東山地から流れてくる碓氷川、神流川を併せている。

鏑川の流域は、北の碓氷川との間に奇峰妙義山(海抜1104㎞)から続く比高280m弱の岩野山丘陵にあり、南は神流川との間に赤久縄山(1522m)と西御荷鉾山(1286m)をピークとする関東山地の山稜が走り、その裾には河岸段丘が発達している。両側の山地に挟まれた現在水田になっている平地は南北の幅が１～３㎞程度と狭いが、鏑川の流れは平地が形成される富岡市南蛇井付近から東は大きな蛇行が少ないため、東西方向は眺望が良く開放的な景観を示している。そのため、鏑川流域(古代名は甘楽)全体は、東西走向の回廊地域として認識できる。

荒船山は頂上が長く平坦で、航空母艦のような特異な形状をしている。頂上北側の内山峠への断崖を含めて、背後の活火山浅間山(海抜2542m)とともに、広く関東平野北部全体から識別できる。碓氷峠などその他のいくつかの関東山地の峠を越えると、千曲川上流の長野県佐久地方に達する。千曲川は下流では信濃川と呼ばれて新潟県で日本海に注いでいる。すなわち、荒船山周辺は本州の分水嶺にあたるが、前後には通行がそれほど難しくない峠が多い。

また、佐久地方から南西には蓼科山塊が広がるが、遠州灘に流れる天竜川源流の諏訪湖に達することはいくつかの峠を経て容易である。このように甘楽回廊は中部山地へ深く入り込んだ関東平野の最西端であると同時に、本州中部山地の末端としても見ることができる。北関東を大きく俯瞰すると富岡の地勢はこのようになる。

富岡市は群馬県の西端に位置し、前述のように鏑川は富岡市内をほぼ西から東へ向かい流下している。市内は大きく分けて３つの地勢に分けることができる。西部の一ノ宮、富岡、高瀬、田篠では鏑川は２段の河岸段丘が広がっている。南部は山地を構成している。

後賀中割遺跡がある丘陵地は黒岩･小野地区と呼ばれ、標高250m前後の丘頂面が広く発達している。後賀中割遺跡が所在する後賀はさらに南に位置し、標高が146m前後を測る。碓氷川と鏑川の間にある岩野谷丘陵の南端にある。遺跡の東側を星川が流下している。星川は上黒岩の打越付近に源を発し、下黒岩、上高尾を流下し、蛇行して塩畑堂で鏑川に注ぐ。「塩畑堂交差点」は後賀中割遺跡南約100mである。

第２節　歴史的環境

富岡市内では、縄文時代から中近世に至るまで多くの遺跡が確認されている。縄文時代から弥生時代中期に至る遺跡は丘陵地帯に所在し、弥生時代中・後期・古墳時代集落遺跡は鏑川が緩やかな平野部、中央回廊を中心に立地している。

旧石器時代

富岡市内では、富岡市妙義町下高田で下高田下原遺跡が確認されている。数十年以前に無壁中学校の生徒が槍先型尖頭器を採集したとの話はあったが、現在の所在は不明である。遺物の存在が事実であれば、今後旧石器時代の遺跡が確認される可能性は高い。

昭和62年富岡市野上地区に所在する『野上塩野入遺跡』で縄文前期から中期にかかる遺跡内で、As-MP上層より、スクレイパーが１点出土している。

『下高瀬寺山遺跡』ではローム層中より、黒曜石製のスクレイパーと剥片の２点が出土している。

縄文時代

縄文時代の集落はあまり多くなく、草創期の遺跡はほとんど確認できないが、富岡市野上地区では『西平原遺跡』『鞘戸原Ⅰ・Ⅱ遺跡』で前期黒浜期、諸磯期の集落が確認されている。

また旧妙義町、現富岡市古立・八木連地区で『八木連荒畑遺跡』『八木連狸沢遺跡』『古立中村遺跡』『古立東山遺跡』等で、縄文時代から平安時代の集落遺跡が確認

されている。南蛇井地区にある『南蛇井増光寺遺跡』では前期前半花積下層、関山、黒浜(有尾系)式から諸磯、十三菩提式、中期になると初頭から前半の五領ヶ台、阿玉台、勝坂式、中期後半になると加曾利Ｅ式、後期初頭から中葉の称名寺、堀之内、加曾利Ｂ式、後期後半では曽谷(高井東式)の土器群が出土している。

弥生時代

弥生時代は、中期から確認できる。『小塚遺跡』では中期後半の環濠集落跡、『上人見遺跡』では再葬墓が確認されている。『阿曽岡・権現堂遺跡』では集落跡、南蛇井地区で『南蛇井増光寺遺跡』が確認され、弥生時代の竪穴建物集落が確認されている。主体は後期樽式土器の集落である。『中高瀬観音山遺跡』では後期の竪穴建物96棟が確認されている。『三笠山岩陰遺跡』では三笠山の岩陰から後期の土器、焼人骨、歯が出土している。

『南蛇井増光寺遺跡』は縄文時代から平安時代までの複合集落で、竪穴建物は全体で800棟に及ぶ。このうち弥生時代後期の竪穴建物は154棟が確認されている。

古墳時代

古墳時代は、鏑川周辺の河岸段丘面に古墳群、集落が大規模に展開していく。前期古墳は径40ｍの円墳『北山茶臼山古墳』、全長２ｍの前方後方墳『北山茶臼山西古墳』である。時期は出土遺物より、西古墳が旧いと考えられる。前期の竪穴建物は多くなく、『内匠日向周地遺跡』『中高瀬観音山遺跡』『中沢平賀界戸遺跡』『下高瀬上野原遺跡』等で１～数棟が確認されている。

中期の古墳は『内匠日影周地遺跡』で１基、『下高瀬上之原遺跡』で７基確認されている。後期になると古墳は富岡市内に広がり、各所に古墳群が構成されるようになる。古墳群は鏑川両岸の平坦地にあり、主なものは『塚原古墳群』『上田篠古墳群』『善慶寺古墳群』『長久保古墳群』『桐渕古墳群』『横瀬古墳群』『芝宮古墳群』『七日市古墳群』『一ノ宮古墳群』等、鏑川北側の丘陵地にも広がる。古墳群に伴い周辺には集落が広がる。集落は鏑川右岸の平坦地、田篠、内匠地区に広がる。古墳群、集落のほかに『本宿・郷土遺跡』では居宅の周濠が検出されている。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の集落跡は、基本的には古墳時代後期の集落から続くものが多い。『本宿・郷土遺跡』では約100棟の竪穴建物が確認され、『田篠上平遺跡』では竪穴建物50棟、掘立柱建物23棟が確認されている。『南蛇井増光寺遺跡』では竪穴建物が100棟以上確認されている。

『内匠日向周地遺跡』『南蛇井増光寺遺跡』では浅間Ｂ軽石に覆われた水田跡が確認された。

中近世

中近世の調査をした遺跡はあまり多くない。『本宿・郷土遺跡』、隣接する『稲荷森遺跡』では中世の溝、井戸、掘立柱建物、墓壙、土坑等が確認されている。

『内匠上之宿遺跡』では内匠城の外堀に隣接して整地面上に掘立柱建物、竪穴状遺構、配石遺構の他井戸、墓壙が検出された。『内匠日向周地遺跡』では中近世の水田２面、『南蛇井増光寺遺跡』では中世の掘立柱建物、堀、井戸、土坑が確認されている。城郭は他に『下鎌田城』『塩ノ入城』『内匠城』『宇田城』『宮崎城』などが調査されている。

近世の遺構は『内匠諏訪前遺跡』では近世の屋敷跡、掘立柱建物、井戸が確認され、『田篠上平遺跡』では墓壙、『下高瀬上之原遺跡』では墓壙、庚申塔基礎、『中高瀬庚申塔遺跡』では配石遺構が検出されている。

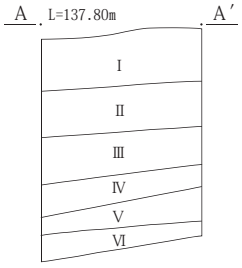
第４図　周辺遺跡分布図(国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」「上野吉井」を編集・加工)

第１表　周辺遺跡一覧表

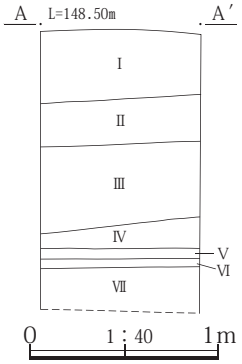
No.	遺跡名	所在地	概要	備考
1	後賀中割遺跡(T007)	富岡市後賀		本報告書
2	後賀遺跡	富岡市	縄文土器片、打製石斧。	『富岡市史』1987
3	大山鬼塚古墳	甘楽郡甘楽町天引	現在は舟形石棺を残すのみ。鏡、石製模造品、馬具等が出土。	『甘楽町史』1979
4	福島椿森遺跡	甘楽郡甘楽町福島字椿森	中世～近世。墓壙３基、土坑61基。	『田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
5	甘楽条理遺跡	甘楽郡甘楽町新屋	古墳前期、B軽石下、A軽石下の水田跡。古墳後期滑石製品工房跡。	『甘楽条理遺跡』甘楽町教育委員会1984
6	福島鹿嶋下遺跡	甘楽郡甘楽町福島字鹿嶋下	居住。縄文～古墳。配石５基、竪穴建物20軒。縄文土器、土偶、石棒、滑石模造品、土師器。滑石工房跡。	『田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
7	福島駒形遺跡	甘楽郡甘楽町福島字駒形	墓、居住、その他。弥生～古墳。古墳１基、竪穴建物34軒、掘立柱建物11棟。滑石模造品、土師器、須恵器。滑石工房跡。	『田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
8	田篠塚原遺跡	富岡市田篠字塚原	墓、居住、生産、その他。弥生～古墳。方形周溝墓１基、古墳７基、竪穴建物13軒、畠１面。ガラス玉、耳環、鉄鏃、刀装具、弥生土器、土師器、須恵器。	『田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
9	曾木森裏遺跡	富岡市曾木森裏	縄文～平安集落跡。建物跡は縄文前期２軒、奈良１軒、平安１軒。古墳前期方形周溝墓と考えられる溝が確認。	『曾木森裏遺跡』富岡市教育委員会1996
10	久保遺跡	富岡市	古墳時代祭祀遺跡。滑石製模造品等多数出土。	『富岡市史』1987
11	芝宮古墳群	富岡市富岡	鏑川流域最大級の古墳群。100基以上が確認。築造は６～７世紀。	『芝宮古墳群』富岡市教育委員会1992
12	内匠遺跡	富岡市内匠	古墳～平安集落跡。竪穴建物27軒。	『富岡市史』1987
13	原田篠古墳群	富岡市	６世紀からの築造、７基。	『上田篠古墳群・原田篠遺跡』富岡市教育委員会1984
14	布和田古墳群	富岡市田篠字布和田	古墳。墳墓。	上毛古墳綜覧福島町第31～37号墳
15	原田篠遺跡	富岡市字菅川	古墳後期～平安の竪穴建物18軒。鬼高期滑石製品工房跡。	『上田篠古墳群・原田篠古墳群発掘調査報告書』富岡市教育委員会1984
16	上田篠古墳群	富岡市田篠	古墳後期の群集墳。30数基。	『上田篠古墳群・原田篠古墳群発掘調査報告書』富岡市教育委員会1984
17	田篠上平遺跡	富岡市田篠	古墳３基(１基は周堀のみ)。横穴式両袖型石室。７世紀。奈良・平安の竪穴建物、掘立柱建物。	『田篠上平遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988
18	田篠中原遺跡	富岡市田篠	縄文中期集落跡。環状列石１、敷石竪穴建物11軒、竪穴建物２軒、配石遺構36。	『田篠中原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990
19	善慶寺早道場遺跡	甘楽郡甘楽町善慶寺	縄文土坑、埋設土器(中期)。古墳後期～奈良・平安竪穴建物、掘立柱建物、古墳１基(周堀のみ)。	『善慶寺早道場遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
20	内匠上之宿遺跡	富岡市内匠	縄文～古墳竪穴建物、縄文配石遺構５、埋設土器10、中世城郭。	『内匠上之宿遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1993
21	内匠日向周地遺跡	富岡市内匠	縄文～中世。古墳前期～後期竪穴建物８軒、水田３面(平安・中世・近世)。古代木簡出土。	『内匠日向周地遺跡他』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1995
22	内匠日影周地遺跡	富岡市内匠	縄文～近世。縄文前期竪穴建物１軒、弥生竪穴建物14軒、古墳竪穴建物12軒、方形周溝墓１基、古墳１基。	『内匠日影周地遺跡他』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1992
23	善慶寺古墳群	甘楽郡甘楽町善慶寺	古墳後期の群集墳。20基。	『甘楽町史』1979
24	二日市古墳群	甘楽郡甘楽町福島	円墳、20基。	上毛古墳綜覧福島町第２～22号墳
25	笹森稲荷塚古墳	甘楽郡甘楽町福島	甘楽地区の最大規模の前方後円墳。横穴式石室。稲荷社社宝の五鈴鏡、金環、玉類の出土。	『甘楽町史』1979
26	天王塚古墳	甘楽郡甘楽町福島	稲荷塚古墳東方400mに位置。竪穴系の主体部を有する前方後円墳。	『甘楽町史』1979
27	笹遺跡	甘楽郡甘楽町小川	弥生後期～古墳の集落跡。石製模造品多数出土。	『笹遺跡』群馬県立博物館1964・1966
28	上野寺場遺跡	甘楽郡甘楽町	古墳初頭～中期の竪穴建物７軒、奈良・平安の竪穴建物23軒、土坑55基、焼土分布地点４ヶ所、掘立柱建物２棟、溝３条、中世の塚１基、縄文包含層１ヶ所。	『上野寺場遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991
29	上野松葉遺跡	甘楽郡甘楽町	弥生終末期～奈良時代竪穴建物82軒、平安時代の竪穴建物１軒、縄文時代陥穴状土坑３基。土器・石器が検出、有舌尖頭器出土。	『上野松葉遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991・1992
30	松葉・慈学寺遺跡	甘楽郡甘楽町上野	古墳～平安集落跡。暗文土器多数出土。表採遺物に縄文土器片(前期～中期)、黒曜石製有舌尖頭器。	『松葉慈学寺遺跡他』甘楽町調査会1994
31	白倉下原遺跡	甘楽郡甘楽町字白倉	旧石器。縄文～平安集落跡。磨製石鏃工房跡。方形周溝墓。	『白倉下原・天引向原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
32	天引向原遺跡	甘楽郡甘楽町字天引	旧石器。縄文～古墳集落跡。	『白倉下原・天引向原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
33	天引狐崎遺跡	甘楽郡甘楽町天引	台地部分と三途川の旧河道調査。AT直下の石器群や縄文前期～後期の遺物、弥生時代竪穴建物40軒、６世紀後半古墳２基。旧河道から古墳時代中心の木製品。	『天引狐崎遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991
34	上野城跡		中世。城館。	『群馬県古城塁址の研究　下巻』山崎一1978
35	佐久間遺跡	甘楽郡甘楽町小幡	縄文前期竪穴建物５軒、中期竪穴建物１軒、竪穴建物４軒、土坑53基。	『佐久間遺跡』山武考古学研究所1988

第３節　基本土層

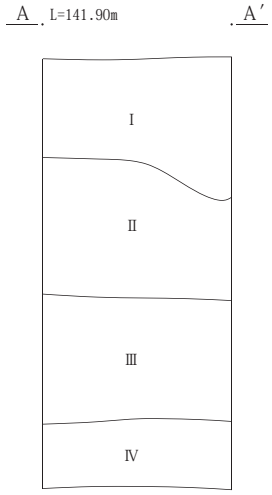
２区基本土層



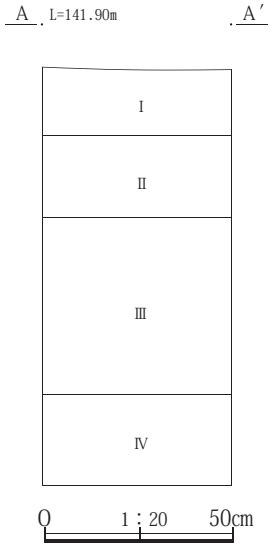
３区基本土層



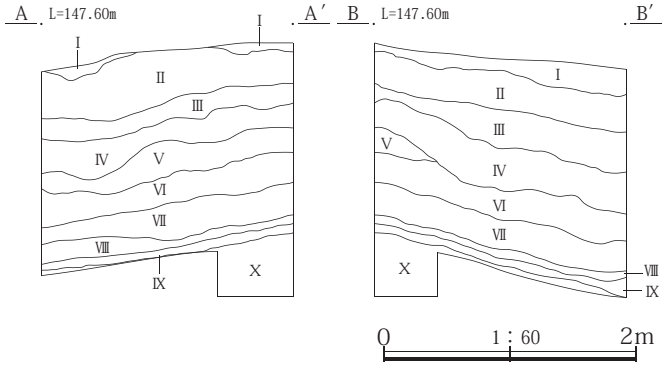
１区１号旧石器トレンチ



２区２号旧石器トレンチ



３区３号旧石器トレンチ



基本土層

２区

Ⅰ　黒褐色土10YR3/2　現表土。耕作土。しまりなし、粘性あり。
Ⅱ　暗褐色土10YR3/3　As-A含。しまりあり、粘性なし。
Ⅲ　暗褐色土10YR3/3　ローム小少量含。しまり・粘性あり。
Ⅳ　灰褐色土7.5YR4/2　にぶい黄褐色土小塊少量含。しまり・粘性あり。
Ⅴ　にぶい黄褐色土10YR5/4　粘質土。第Ⅳ層灰褐色土少量含。しまり・粘性あり。
Ⅵ　黄灰色土2.5Y6/1　粘質土。上層酸化鉄分多量含。湧水影響ローム変色。しまり・粘性あり。

３区

Ⅰ　にぶい黄褐色土10YR5/4　As-AかAs-C？　白色軽石（３～10㎜）30％含。
Ⅱ　暗褐色土10YR3/4　As-BP。黄褐色軽石少量含。攪乱？
Ⅲ　黄褐色土10YR5/8　As-BP。粘性高軽石安定。水つき？
Ⅳ　にぶい黄橙色土10YR7/4　As-BP一部、As-MPか。水つき。
Ⅴ　にぶい黄橙色土10YR7/4　暗色帯上位？
Ⅵ　にぶい黄橙色土10YR5/4　灰白粒ブロック状含。AT層？
Ⅶ　にぶい黄橙色土10YR5/4　黄橙色粒子・灰色粒・礫片含。暗色帯？As-MP、As-BP間層の可能性。

旧石器

１区１号旧石器トレンチ

Ⅰ　黒褐色土とローム混土。
Ⅱ　褐色土10YR4/6　黒褐色土ブロック・As-YPブロック中量含。
Ⅲ　褐色土10YR4/6　As-YP(？)微量含。
Ⅳ　黄褐色土10YR5/8　As-BP細粒多量含。

２区２号旧石器トレンチ

Ⅰ　黒褐色土10YR3/2　白色粒多量含。
Ⅱ　黒褐色縄文包含層。
Ⅲ　黄褐色土10YR5/6　ローム層。黒褐色土、根攪乱あり。
Ⅳ　灰白色粗粒砂土10YR7/1

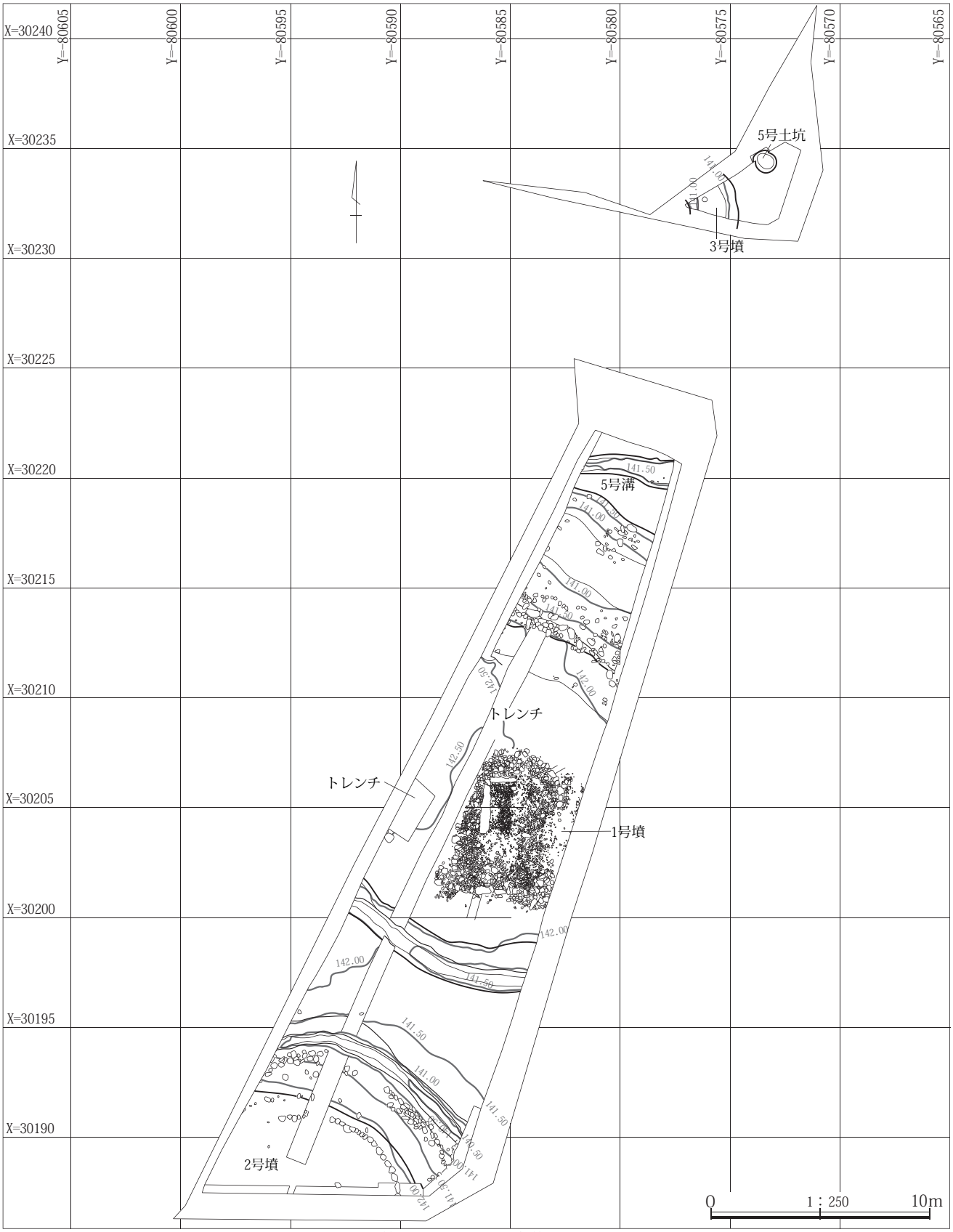
３区３号旧石器トレンチ

Ⅰ　褐色土10YR4/6　As-YP・白色粒子多量含。しまり・粘性あり。
Ⅱ　褐色土10YR4/6　白色粒子・砂粒少量含。しまり・粘性あり。
Ⅲ　黄褐色土10YR5/6　白色粒子・褐色軽石少量含。しまり・粘性あり。
Ⅳ　明黄褐色土10YR6/8　As-BPブロック状多量含。しまり・粘性あり。
Ⅴ　にぶい黄褐色土10YR5/4　白色粒子・黄色粒子(As-BP細粒？)極多量含。
Ⅵ　にぶい黄褐色土10YR5/3　白色粒子・黄色粒子(As-BP細粒？)中量含。しまり・粘性あり。
Ⅶ　黄褐色土10YR5/8　褐色軽石(As-MP)層。しまり・粘性あり。
Ⅷ　にぶい黄褐色土10YR5/3　白色粒子多量含。しまりなし、粘性あり。
Ⅸ　にぶい黄褐色土10YR5/4　白色粒子中量含。しまり・粘性あり。粘質土。
Ⅹ　灰黄褐色土10YR5/2　マンガン沈着物極多量含。しまり・粘性あり。粘質土。

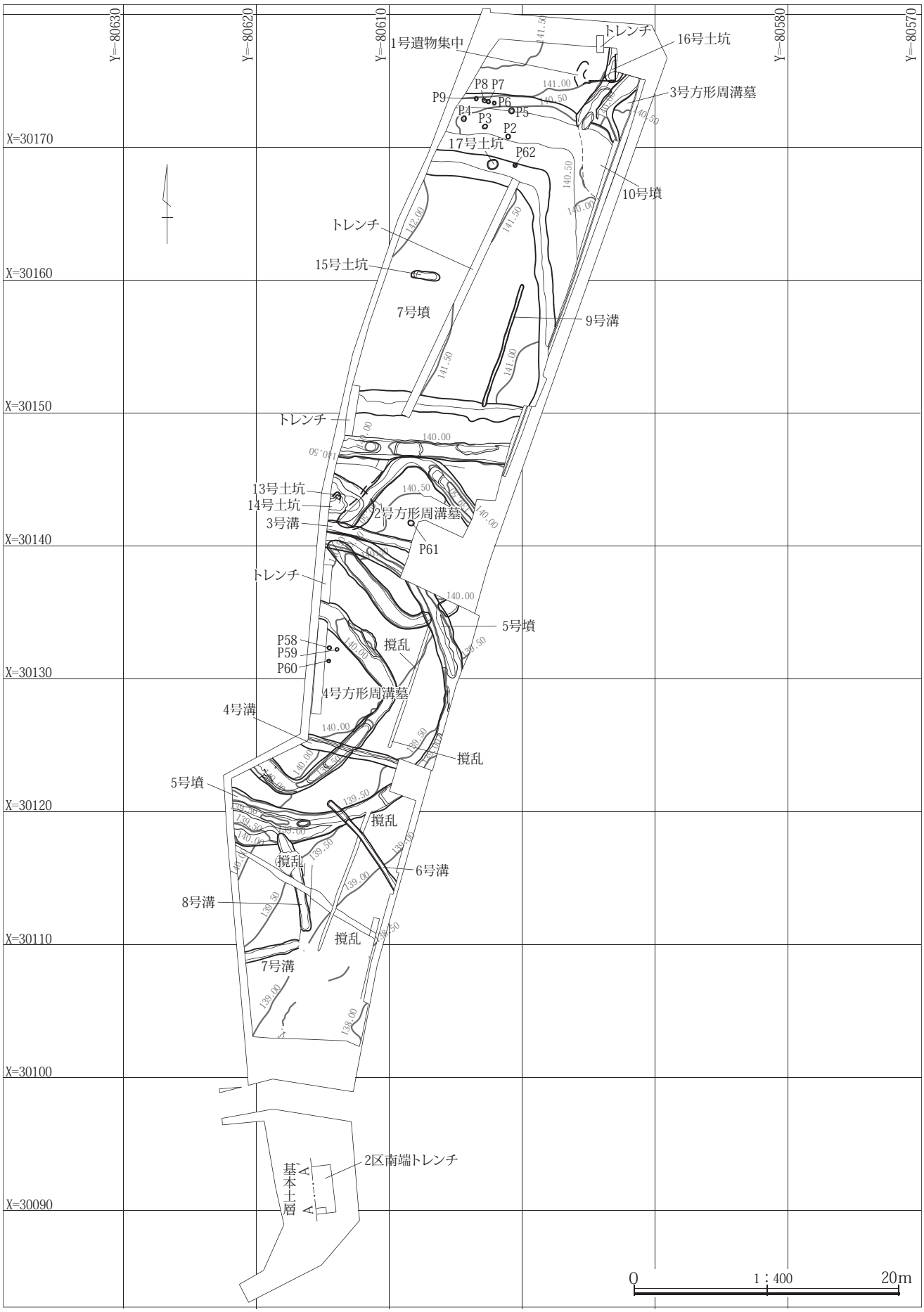
第５図　基本土層

第３章　検出された遺構と遺物

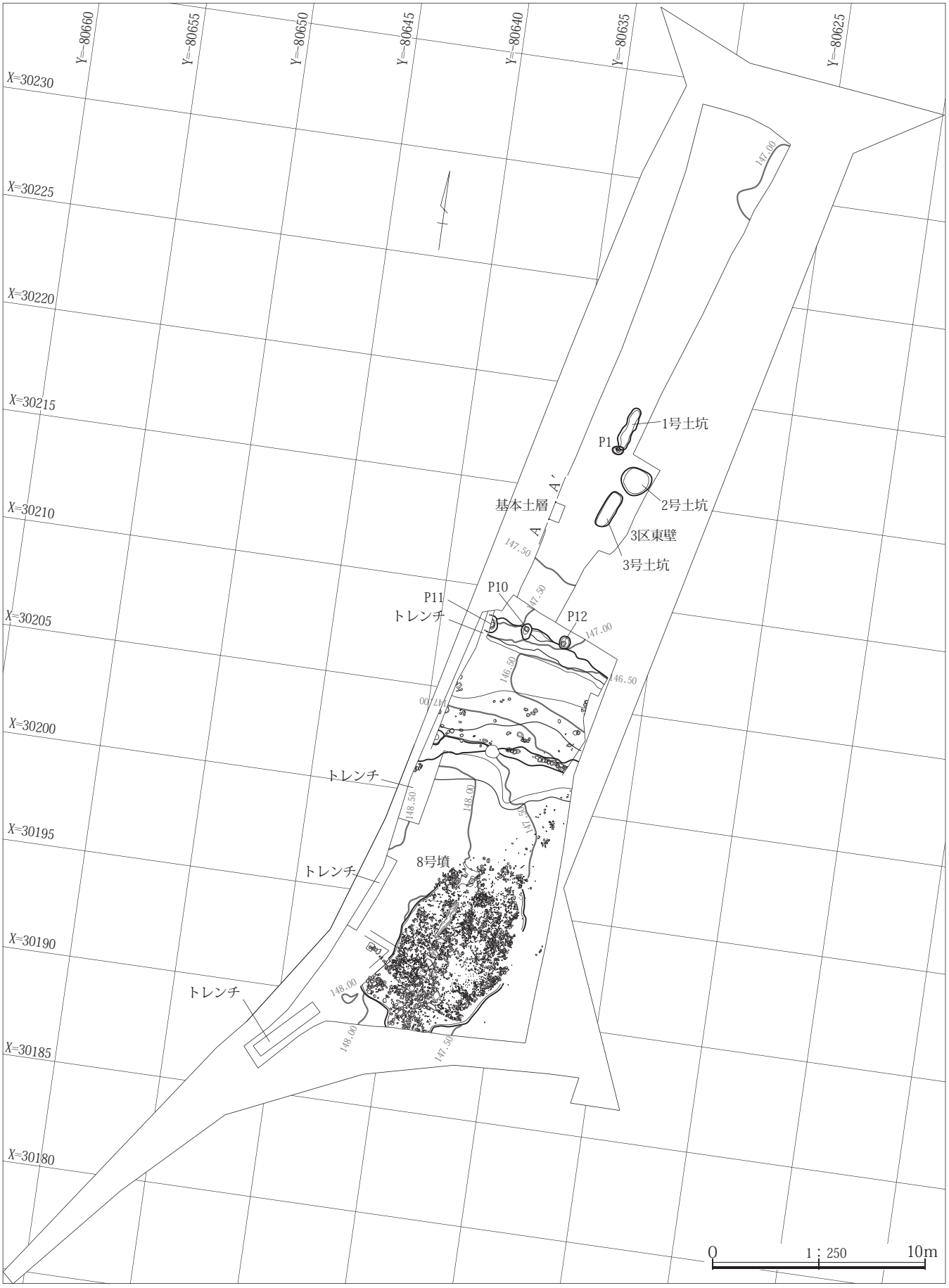
第１節　遺跡の概要



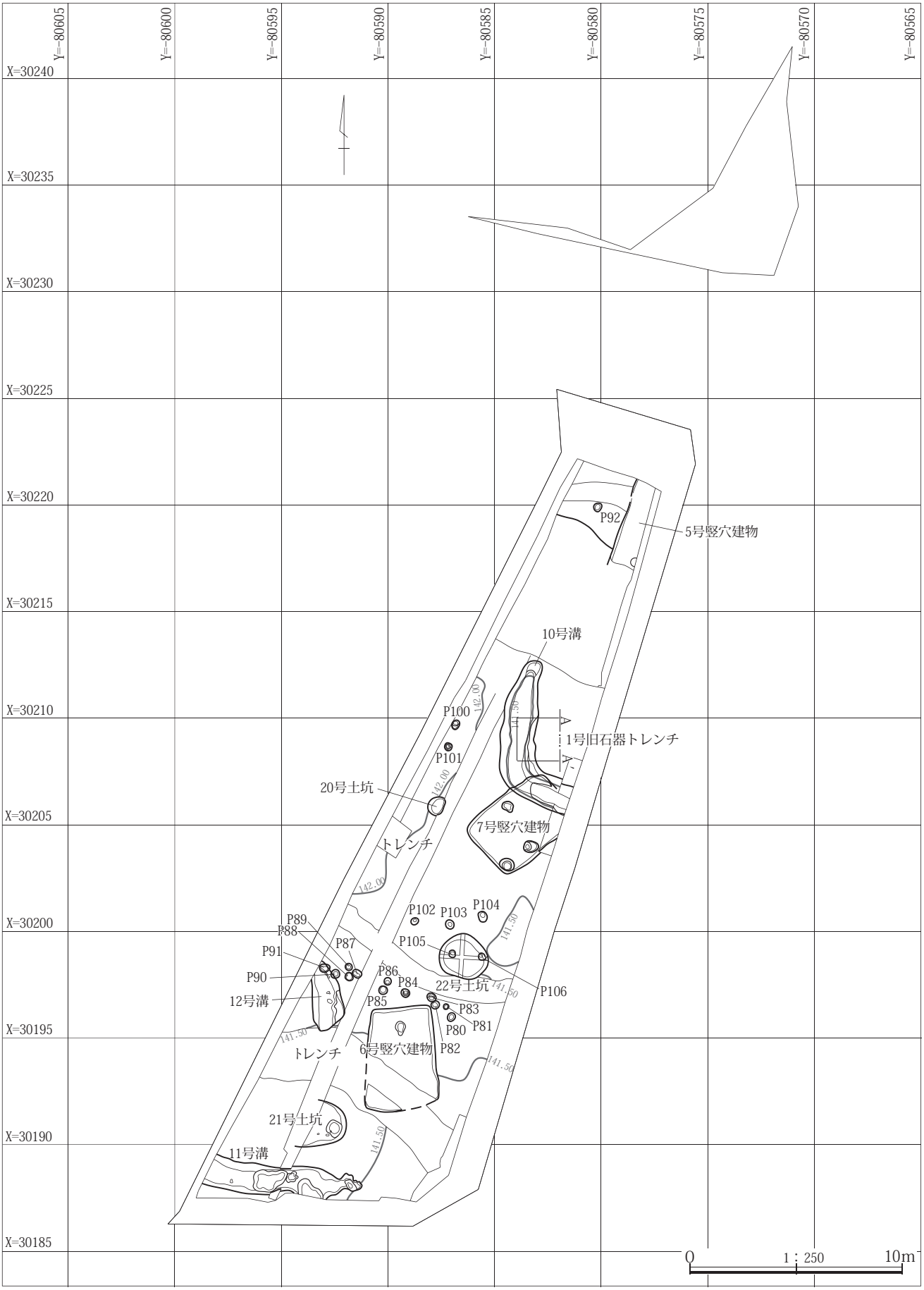
第６図　１区１面全体図


Y=80630
Y=80620
Y=80610
Y=80580
Y=80570
X=30170
X=30160
X=30150
X=30140
X=30130
X=30120
X=30110
X=30100
X=30090
1号遺物集中
トレンチ
16号土坑
3号方形周溝墓
P8 P7
P9
P6
P4
P3
P5
P2
17号土坑
P62
10号墳
トレンチ
15号土坑
7号墳
9号溝
トレンチ
13号土坑
14号土坑
3号溝
2号方形周溝墓
P61
トレンチ
5号墳
P58
P59
P60
撹乱
4号方形周溝墓
4号溝
撹乱
5号墳
撹乱
撹乱
6号溝
8号溝
撹乱
7号溝
基本土層
2区南端トレンチ
0
1：400
20m

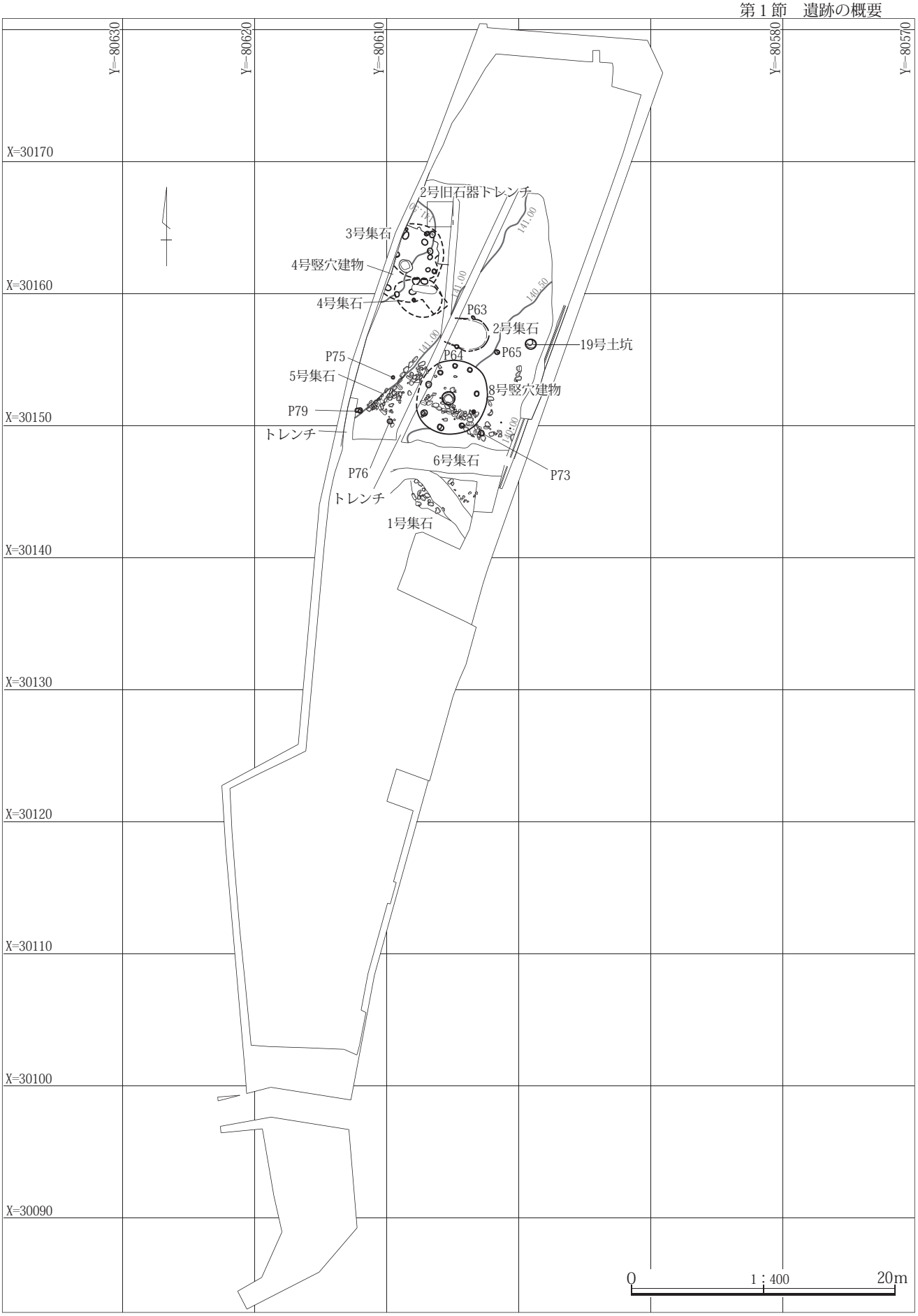
第７図　２区１面全体図


Y=80660
Y=80655
Y=80650
Y=80645
Y=80640
Y=80635
Y=80625
X=30230
X=30225
X=30220
X=30215
X=30210
X=30205
X=30200
X=30195
X=30190
X=30185
X=30180
1号土坑
P1
2号土坑
基本土層
A
A'
3区東壁
3号土坑
P10
P11
トレンチ
P12
トレンチ
トレンチ
8号墳
トレンチ
147.00
147.50
146.50
148.50
148.00
0
1：250
10m

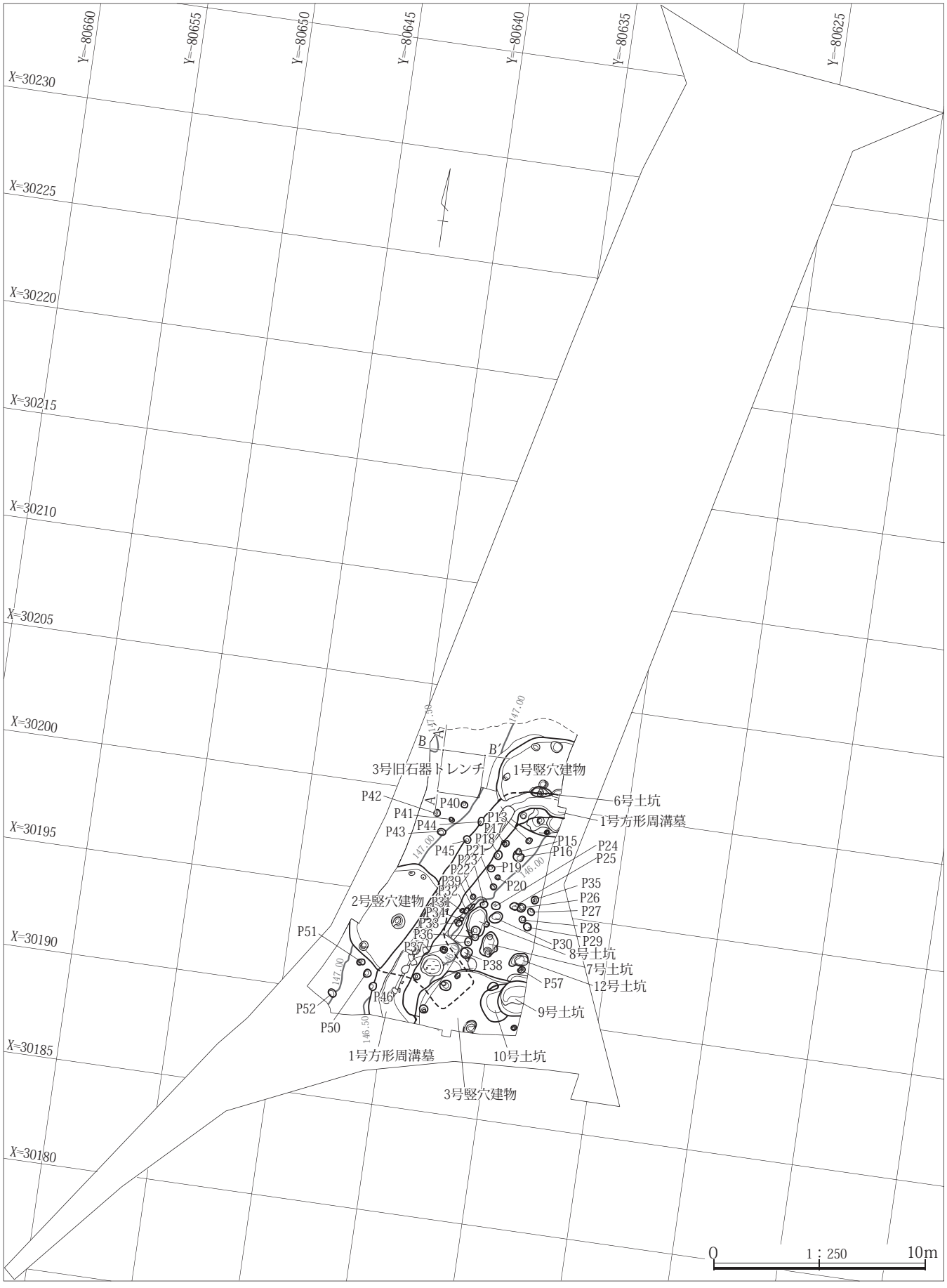
第８図　３区１面全体図


Y=-80605
Y=-80600
Y=-80595
Y=-80590
Y=-80585
Y=-80580
Y=-80575
Y=-80570
Y=-80565
X=30240
X=30235
X=30230
X=30225
X=30220
X=30215
X=30210
X=30205
X=30200
X=30195
X=30190
X=30185
P92
5号竪穴建物
10号溝
P100
P101
142.00
141.50
A
A'
1号旧石器トレンチ
20号土坑
7号竪穴建物
トレンチ
142.00
P102
P103
P104
141.50
P89
P88
P87
P91
P105
P90
P86
P84
22号土坑
141.50
P106
12号溝
P85
P83
P81
P80
141.50
トレンチ
6号竪穴建物
P82
141.50
21号土坑
141.50
11号溝
0
1：250
10m

第９図　１区２面全体図



第10図　２区２面全体図



第11図　３区２面全体図

１．古墳

後賀中割遺跡では今回の発掘調査で７基の古墳が確認されている。古墳のほとんどは墳丘や石室は破壊され、耕されていた。１号墳は石室が確認されたが石室底面のみで、表土剥ぎの時に石室内から太刀が確認された。ほぼすべての古墳はここ20～30年内に畠の持ち主が畠とするために壊された後であった。１号墳はそんな中、石室を区画する石はほとんどが取り外され、北西部に石室を区画した角部の１部が確認された。周堀が北側と南側に２ヶ所確認され、周堀には葺石が投げ込まれ土を載せ平坦な畠になった。石室の周囲には裏込めの石が平らに敷かれていた。２号墳は１号墳の南に周堀と葺石の最初に巡る基底部の石が円形に確認できた周堀の中に、１号墳と同じように葺石が確認された。墳丘内に、裏込めの石が平らに敷かれていた。３号墳は１区の北西隅で周堀の一部を確認した。５号墳は周溝墓や溝と重複しているが、５号墳の周堀中にのみ葺石が投げ込まれていた。墳丘が確認されたのは７号墳だけであった。１区南部に確認された７号墳は葺石を持つ方墳である。傾斜地の低い部分に造られたため周溝を埋めて平らに整地され、畠となっていた。さらに西半部は調査区域外に延びるため石室が確認されていない。葺石は２段築盛が確認され、それより上位は削平されている。また５世紀代の土師器高杯、壺等が確認され、墳丘内に石で蓋をした土壙墓が１基確認された(15号土坑)。土壙墓は７号墳の「陪葬」と考えられ、土壙墓からは剣形石製模造品が出土している。

８号墳は石室部のみが確認され、鉄製品が多量に出土している。葺石は周堀に投げ込まれたものと、遺跡周辺の傾斜地の崩れを抑えるために石垣上に積まれている。畠の周辺には多くの葺石が散乱していた。

以下個別に計測値を記載する。

１区１号墳(第12～21図・第４表・PL.１～６・69・70)

位　　置　X＝30196～219　Y＝-80578～592

重複遺構　なし

形　　状　円墳　　**主軸方位**　N-８°-E

規　　模　総長南北で22.3m

北部幅6.95m　深さ1.35m

南部幅2.00m　深さ0.97m

埋没土層　人為的に埋められたためAs-Bやローム粒、ロームブロックを含んでいる。

出土遺物　須恵器甕(14～19)、高杯(３～５)、管玉(21)、臼玉(20)が出土している。また縄文時代の大型の石棒(30)や打製石斧(24～26)、古墳時代前期のＳ字状口縁台付甕(９～12)、凹石(28)等が出土している。石室内から直刀刃片(36)、覆土中より直刀(33)が出土した。

所　　見　概要で述べた通り、１号墳の墳丘はすべて、石室の石の大部分は取り外されている。埋葬に伴う副葬品は鉄剣や太刀以外はほとんど盗掘されたものと考えられる。近年の畠にするために削平され、葺石は周堀の中に投げ込まれている。石室の開口部は南向き、やや西に振れている。石室東側は区画の石をはがすために大きく攪乱を受けていた。石室の裏込めは石室周辺に投げ出されている。時期は須恵器、土師器の様相から６世紀後半代と考えられる。

遺物概要　１号墳からは多くの遺物が出土している。装身具として種類の異なる耳環２点、武器として直刀１点と、別の直刀茎片１点、刃部片１点、有窓鍔片１点、鏃片23点、工具としての刀子茎片１点、馬具の杏葉か鏡板の可能性がある１点、小型の釘１点が出土している。

装 身 具　耳環は、２種類ある。(31)は、やや細身で銅の中実製で金・銀の数値が少量出ており、メッキを施した可能性のあるものである。(32)は、大型で、銅地に銀を張り､その上から金メッキをしているものと推定する。

武　　器　直刀(33)が２つに折れるようにして出土しており、他の場所から出土した刀の切先部と併せて、両関を有する１本の刀に復元できる。さらに別の直刀の目釘のある茎片と、刃部の破片、窓のある鍔破片である。これらの破片が同一の刀となるかは不明である。

鏃が23点出土している。鏃はほとんどが長頸鏃で、ごく一部に有頸の平根鏃がある。長頸鏃の鏃身は３種類ある。鏃身関が直角を呈し、鏃身の長さが異なる柳葉(長三角形)鏃３点、鏃身関が斜関の柳葉(長三角形)鏃２点、どちらか不明な柳葉(長三角形)鏃２点が出土している。また、すべて関が不明瞭な長頸片刃鏃を３点確認している。有頸の平根鏃は直角の関を持つ長三角形鏃である。鏃身関はすべて棘状関である。

工　　具　刀子の茎(37)と推定される、細身で、目釘穴を持つ茎片が出土している。

馬　　具　杏葉か鏡板の破片と推定される破片(61)が出土した。縁板金具があり、鉄鋲が確認されている。本来の形態は不明である。

釘　小型で頭部が良く残っている釘(62)を１点確認した。

遺物から見た年代　鏃の刃関における斜関の状況や、棘状関から、６世紀末～７世紀初頭に比定される。

１区２号墳(第22～27図・第４表・PL．７～11・70～72)

位　　置　X=30187～195　Y=-80586～599

重複遺構　なし

形　　状　円墳と考えられる。　　**主軸方位**　不明

規　　模　周堀幅4.07m、深さ1.61m

埋没土層　As-Bローム粒、ロームブロック含む。

出土遺物　須恵器甕片(６)、壺(７～９)、杯蓋片(１)、鏃１点、斧１点、刀子１点、釘１点が出土している。

所　　見　本古墳も墳丘はなく、石室も確認されていない。葺石は崩され、周堀に投げ込まれている。墳丘の最低面の１列が残存している。裏込めの石はその縁の中側で確認されている。

副葬品概要　２号墳は盗掘でほとんどの副葬品が無くなっているが、武器として鏃が１点、工具として斧１点、刀子１点、釘１点が出土した。

武　　器　刃関が直角関に近い斜め関で、刃は片丸造の長頸長三角形鏃(15)が１点出土している。

工　　具　無肩袋柄斧(14)で、袋部は、完全に閉じられておらず、肩は持たないが、刃先に向かいやや細くなった後に、また広がる形態をとる。刀子片(16)も出土した。

釘　小型の釘(17)が１点出土している。

遺物から見た年代　長頸長三角形鏃の刃部の造りや刃関の形態からは６世紀後半～７世紀初頭までの年代が比定できるが、釘の存在から７世紀初頭と推定する。

１区３号墳(第28図・第４表・PL.12・72)

位　　置　X=30231～233　Y=-80574～576

重複遺構　なし

形　　状　不明　　**主軸方位**　不明

規　　模　不明

埋没土層　ローム粒、ブロック含む。

出土遺物　石鏃(１)が出土している。

所　　見　周堀の一部のみの検出で、出土遺物も弥生時代の石鏃片のみである。

２区５号墳(第29～31図・第４表・PL.12・13・72)

位　　置　X=30117～141　Y=-80604～621

重複遺構　２・４号方形周溝墓、３・４・６・８号溝。新旧関係は本６号墳が新しい。

形　　状　円墳　　**主軸方位**　不明

規　　模　北南23.0m

周溝規模　南溝幅3.40m　深さ1.21m
　　北構幅1.30m　深さ0.50m

埋没土層　下半部にはローム粒が含まれ、上位にはAs-Bが確認された。地形は南に向かい傾斜し、傾斜に合わせて削平されていた。

出土遺物　須恵器甕片(１～５)、打製石斧(６・７)、鏃の茎(８)が出土している。

所　　見　２区南半部に位置し、傾斜は北溝から南溝で約１m弱あり、もとの地形に沿い畠地に開墾している。溝内には除去せずに葺石が多量に確認されている。時期は須恵器片から古代である。

副葬品概要　５号墳からは、鏃の茎(８)と推定される破片が出土しているのみである。

遺物から見た年代　年代は不明である。

２区７号墳(第32～41図・第４表・PL.14～22・72・73)

位　　置　X=30145～174　Y=-80593～613

重複遺構　９号溝、１・２号方形周溝墓、１・２号集石、17号土坑、62号ピット。新旧関係は本古墳が一番新しい。

形　　状　方墳　　**主軸方位**　不明

規　　模　南北長27.8mを測る。古墳の全体は確認されず、推定で１辺35～40mを測るものと考えられる。

埋没土層　上層はAs-C～Bが混入し、下位はローム粒、ローム土が混じる。

出土遺物　土師器高杯(１～３)、壺(４)、石匙(９)、打製・磨製石斧(12～26)、石鏃(28・29)、凹石(31～34)、鉄製品は、鏃(41)、工具片(42)、板状品(43)が出土している。

所　　見　調査開始当初は墳丘や葺石等から７世紀後半代と考えられたが、墳丘上葺石の間から５世紀代の土師器が確認されたこと、墳丘盛り土内に掘り込んだ陪葬墓とみられる土壙が確認された。この15号土坑内から石製模造品が確認されている。詳細は考察編で右島氏が詳述

するが、時期的には５世紀代とみて間違いないと考えられる。

遺物概要　７号墳からはごく少数の遺物が出土した。鏃１点、工具片１点、板状片が１点出土した。

武　器　短頸で細身の刃部を持つ有頸柳葉鏃(41)が１点出土している。

工　具　断面四角で、先端が尖る形態で、工具の茎の可能性がある(42)。

不明品　薄い鉄板状品(43)。端で鉄板を折り返した箇所がある。用途不明。

遺物から見た年代　短頸で細身の柳葉鏃から５世紀第２四半期と推定する。

３区８号墳(第42～65図・第４表・PL.23～43・74～83)

位　置　X=30187～208　Y=-80631～644

重複遺構　１号方形周溝墓､新旧関係は本古墳が新しい。

形　状　不明　　**主軸方位**　不明

規　模　南北長(20.0)ｍ

周溝規模　北溝幅6.00m　深さ0.97m

埋没土層　上位層から下層にかけ、ローム粒・ロームブロック混じる。

出土遺物　多量の金属製品、馬具、武器・武具、太刀等が出土している。

所　見　８号墳は横穴石室が検出されている｡しかし、他の古墳と同じく盗掘され､昭和時代の畠開墾等により、石室も壊され、葺石等が埋め戻してある。調査前には平坦な畠地で、古墳の存在ははっきり理解できなかった。

遺物概要　８号墳からは多くの遺物が出土している。装身具として種類の異なる耳環６点､武器として直刀１点、鞘尻金具１点、銀製刀装具破片２点、鉄板破片２点、鏃が54点出土している。鏃は、刃部片12点、頸部＋茎部片28点、頸部片７点、茎部片７点の構成である。工具として、銀装刀子片１点、銀装具片１点、刀子茎片２点、刀子片１点、針状工具４点がある。馬具は、渦巻形杏葉５点、四脚辻金具２点、三脚辻金具２点、コハゼ形金具13点､(長形(５鋲)１点､長形(２鋲)１点､短形(３鋲)４点、短形(２鋲)３点、長短鋲数不明４点の構成である。方形金具(４鋲)が４点、絞具が７点、鞍が２点、吊金具が４点、鐙吊金具が１点、雲珠の座金具の装飾と想定される銀製花弁形飾金具２点出土している。さらに、金銅製の連結状金具が２点あり、馬具の可能性もある。他に馬具の可能性のある細板状の金具類が４点出土している。刀装具の可能性のある、幅広板状の湾曲する鉄製品が１点ある。細板状製品が２点、工具の破片の可能性もあるもの２点、鉄滓が１点出土している。さらに大小の釘が13点出土している。

耳　環　６点ある。58と59、60と61がセットになる可能性が高い。57は小型で銅地銀張りのものである。58・59は銅地で金メッキを施しているものである。60・61は大型で、銅地に金を張ったものである。62は大型で銅地中空のもので、金メッキを施すものである。少なくとも４セットの耳環があったことが分る。

武　器　直刀(64)は幅広の刃身を持つものである。また、銀製の鎺(63)が出土している。鎺は、有段で内側に段差を有して高くなる。さらに銀製の装具(65)があり、柄頭の可能性もあるが、懸通孔が無いことなどから鞘尻金具とした。畔目状の刻みを尻端部に持つもので、反対側の端部に銅製の縁金を上から銀を被せているものである。類例は見つけられなかった。他に装具として、銀製の小破片(66・67)が２点、鉄製の小破片(68・69)が２点ある。

鏃(70～123)は、総数54点のうち、刃部は10点確認されている｡刃関が不明瞭な撫関の長頸柳葉鏃(71)が１点、角関状を呈する長頸柳葉鏃(72)が１点、やはり刃関が不明瞭な撫関の片刃鏃(74～81)が８点出土している。角関状を呈する長頸柳葉鏃以外は､関が不明瞭なものである。また、鏃身関を見るとすべて明瞭な棘状関である。

工　具　工具として分類するのは難しいかも知れないが､金属製装具を有する刀子が破片と併せると２点(124･126)出土している。１点は、刀子に装着している状況(126)で出土し、銀装具の装着の様子が分かる。もう１点は銅製小型装具が単独(124)で出土している。刀子の茎が１点(128)、刀子刃部が２点(125・127)出土している。銀･銅装刀子を含めて最大で５点あったことになる。

針(129)が４点まとめて錆着して出土しており、元々まとめて収められたものであろう。針部の先端部は一部残り、尻部は欠損しており、針孔の確認はできない。他に、工具の破片として可能性のあるものとして、細板状の製品(182・183)がある。

馬　具　馬具は豊富な種類がある。まず、渦巻形杏葉

(130～134)であるが計５点出土している。コハゼ形の立聞部に円棒状鉄棒に捩じりを加えたものを両端から内側に巻いて２つの渦巻部を形成するものである。さらに中央部の部分を叩いて平たくした部分と立聞部の下部を鍛接している。立聞部には、上端部に１鋲、下端部に２鋲の３鋲ある。また２つの渦巻部の中央にやはり飾り鋲がある。立聞部や渦巻部中央の鋲・飾り鋲には、銀を張り込んでいる。責金具が、立聞部の下端部に巡らされている。鉄地に銀を貼りこんでいる。渦巻形杏葉は、全体の大きさが小さく､杏葉というには逡巡するものがあるが､類例を含めた詳細は別稿を参照してもらいたい。

辻金具類には四脚形・三脚形のものがある。四脚形(135・136)の鉄鋲は、４つの各脚部に頂部に１点、足部に２点の３鋲あり、中央部にも１鋲あり、計13鋲(現状では12個)あるもの(135)と中央の鋲が無く、計12個のもの(136)がある。三脚形(137・138)のものは、３つの各脚部に頂部に１点、足部に２点の３鋲あり、計９鋲ある。いずれも、鉄鋲に銀が貼りこまれている。

革金具　コハゼ形金具は、総計13点(139～151)ある。長形で５鋲を有するものが１点(139)あり、端部が屈曲している。長形で２鋲を有するものが１点(144)ある。短形で３鋲のものが４点(140～143)、短形で２鋲のものが３点(145～147)ある。長短及び鋲数不明が４点(148～151)ある。いずれの鋲頭にも銀が貼りこまれている。

方形金具が４点(152～155)ある。鋲は４つ頂辺部に打ち込まれている｡いずれも鋲頭に銀が貼りこまれている。

絞具は７点(156～162)ある。絞具には４種類ある。絞具頭である楕円形環部と下部に回転自在の横棒に刺金を装着したもので、下部端にもう１本横棒を装着している形態のものが２点(158・159)ある。

上部に向かい内側に少し湾曲しながら開く形態で、頂部が直線状になる形態が２点(156・161)、上部に向かい直線状に開き、頂部は直線状のものが２点(157・162)、上部に向かい内側に少し湾曲しながら開く形態で、頂部が円弧状を呈するものが１点(160)ある。

鞍は鞍の座金具であり、２点(163･164)出土している。円盤状の座金具の中央穿孔部に扁平な鉄棒を折り曲げて差し込み、破片となり本来の形は不明な輪金の基部を搦めている(163・164復元)。座金具を介して、木製鞍橋に打ち込んで、裏側に突き抜けた後、約2.5㎝ほどの扁平な鉄棒に穿孔して、細鉄棒を差し込み、鞍橋に押さえている(163復元)。(164)も同様の構造と推定する。

留金具が４点(167～170)出土している。いずれも片方の脚部が、幅広く大きい。鏃に近似する。

壺鐙の吊金具が１点(171)出土している。コの字形で、脚部は中央がやや広がる長楕円形状の平面である。その脚部に２鋲が打ち込まれている。

金銅製で、連結状金具の製品(165・166)がある。馬具の轡金具の銜の小型品の可能性も考えたが、はっきりしない。銅地に金メッキを施している。

雲珠の座金具の破片として花弁形の飾りが２点(172・173)出土している。花弁部の幅・形態が微妙に異なるので、別個体と考えている。鉄地に銀を貼りこんでいる。

他に、細板状の破片３点(175～177)や、一部が屈曲する鏃に近似する破片が２点(178・179)出土している。

その他として、小型の鉄滓が１点(180)出土している。また、幅広の鉄製薄板状で、湾曲している製品(181)がある。刀の装具かとも想定したが、湾曲の度合いが緩やかで大きく、別の用途の製品と想定する。また、工具の所ですでに紹介しているが、断面長方形の細板状品が２点(182・183)出土している。

釘は、完形に近い製品から推定すると、全長７㎝ほどの大型品が８点(188～195)、全長４㎝未満の小型品が５点(184～187・196)ある。有機質の木質遺存は認められない。

遺物から見た年代　以上の遺物から見た８号墳の年代は、渦巻形杏葉は６世紀末～７世紀前半に特徴的な遺物である。さらに、鏃を見ると刃関が斜関で不明瞭な長頸長三角形・長頸片刃鏃があり、年代的には、７世紀初頭～前半に比定できる。

２区10号古墳(第66図・第４表・PL.83)

位　　置　X=30166～175　Y=-80591～595

重複遺構　なし　　**形　　状**　不明　　**主軸方位**　不明

埋没土層　東壁の最上面にAs-Aが確認された。

規　　模　周溝等は確認できず、計測不能である。

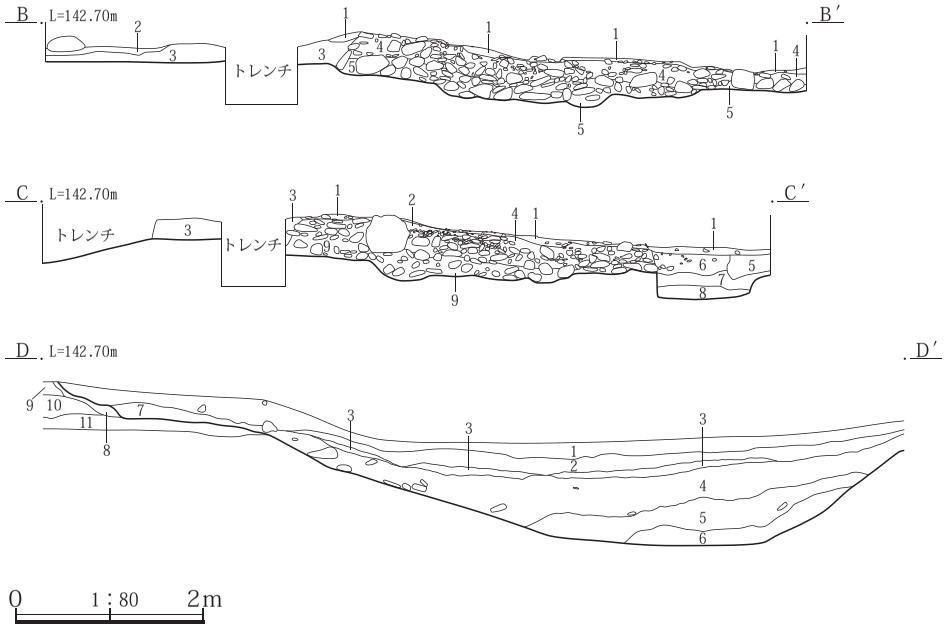
出土遺物　打製石斧１点(２)、石鏃１点(１)が出土。

所　　見　10号古墳は墳丘・周溝は確認されず、古墳の葺石と石室の石が確認された。

E. L=142.70m
E′
A. L=142.70m
A′
D
D′
141.50
141.00
142.00
217
-578
197
-584
調査区外
調査区外
トレンチ
トレンチ
トレンチ
ベルト
C
C′
B
B′
0 1:80 2m
0 1:100 5m

第12図　1区1号墳

１区１号墳　A-A′
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。１～３㎜白色軽石３％含。
2　褐色土7.5YR4/3　砂質土。しまりあり、粘性なし。１～２㎜白色軽石２％含。
3　暗褐色土7.5Y3/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。As-B軽石３％含。
4　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。As-B軽石３％含。
5　黒褐色土10YR3/2　砂質土。しまりあり、粘性なし。
6　にぶい黄褐色土10YR4/3　ローム含細砂質土。しまり・粘性あり。
7　灰黄褐色土10YR4/2　ローム多量含砂質土。しまり・粘性あり。
8　にぶい黄褐色土10YR5/4　粘土含。しまり・粘性あり。
9　にぶい黄褐色土10YR5/3　粘質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土１～５㎝ブロック40％含。
10　黒褐色土10YR3/2　シルト質土。しまりあり、粘性なし。
11　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。
12　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりなし、粘性あり。11層の崩落土か。
13　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性なし。崩落土。
14　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
15　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・ロームブロック微量含。しまり・粘性あり。



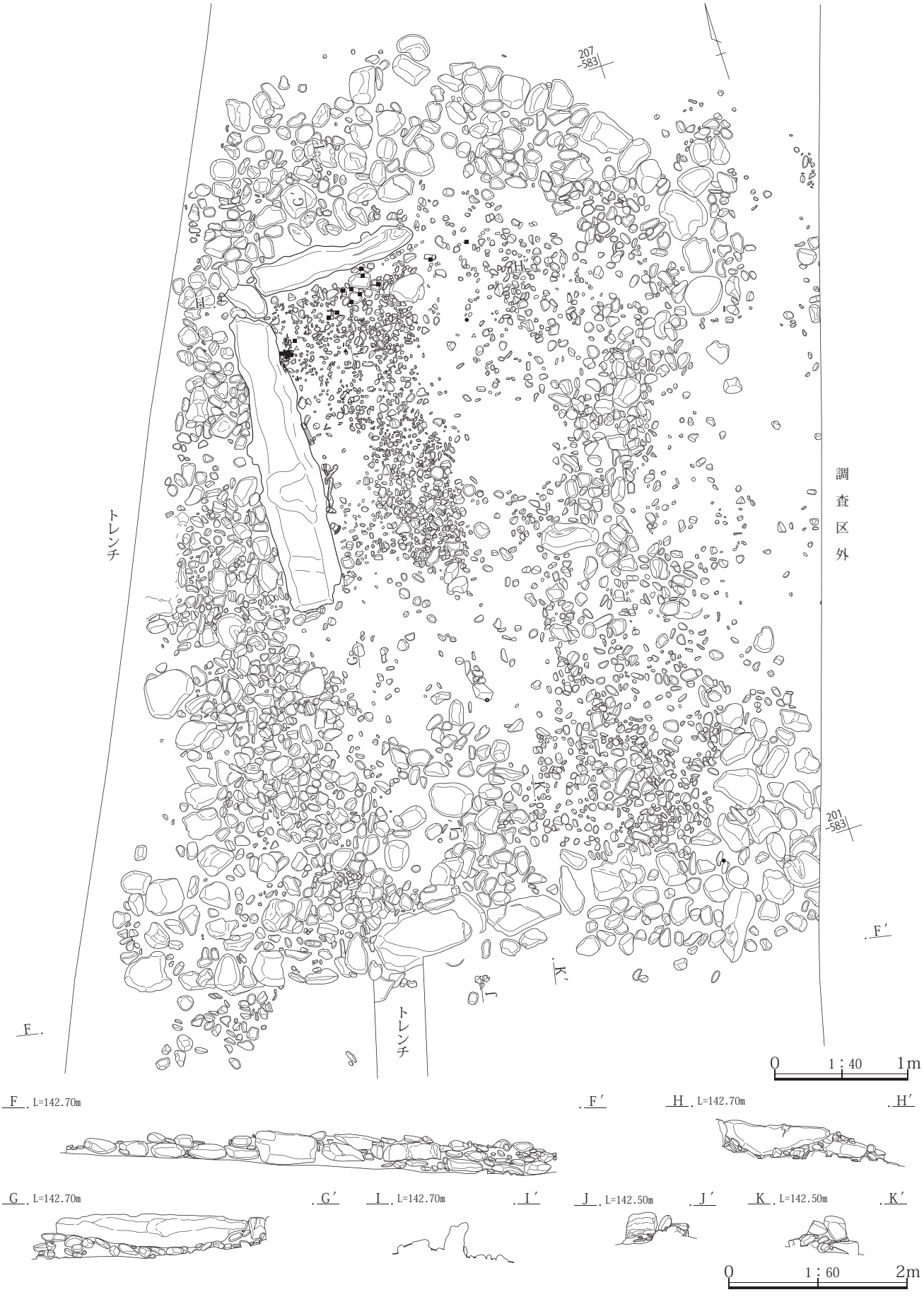
第13図　１区１号墳土層断面図

１号墳　B-B′
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。１～３㎜白色軽石３％含。
2　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土２～３㎝ブロック10％含。
3　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。
4　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性なし。崩落土。
5　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。

１号墳　C-C′
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。１～３㎜白色軽石３％含。
2　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。
3　にぶい黄褐色土10YR4/3　砂質土。しまり・粘性なし。
4　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまりあり、粘性なし。１㎜白色軽石２％含。攪乱土。
5　褐色土10YR4/4　細砂質土。しまり・粘性なし。攪乱土。
6　黒褐色土10YR2/2　シルト質土。しまりあり、粘性なし。
7　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。シルト、粘土少量含。しまり・粘性なし。
8　黒褐色土10YR3/2　白色・黄色粒子少量含。しまりなし、粘性あり。
9　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。

１号墳　D-D′
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　砂質土。しまりあり、粘性なし。１～３㎜白色軽石少量含。
2　黒褐色土10YR3/1　粗砂質土。しまり・粘性なし。As-B軽石多量含。
3　As-B
4　黒褐色土2.5Y3/2　粘土含粗砂質土。しまりなし、粘性あり。１～２㎜明赤褐色砂粒少量含。
5　黒褐色土10YR2/2　粘土含シルト質土。しまりなし、粘性あり。
6　黒褐色土10YR2/2　粘土含シルト質土。しまりなし、粘性あり。黄褐色ローム土４～10㎝ブロック30％含。
7　にぶい黄褐色土10YR4/3　砂質土。しまり･粘性なし。１～２㎝黄褐色砂粒少量､黄褐色ローム土含。
8　暗灰黄色土2.5Y5/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土少量含。
9　黄褐色土2.5Y5/4　ローム混細砂質土。しまりあり、粘性なし。１～２㎜白色軽石少量含。
10　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまりあり、粘性なし。１㎜白色軽石・１～５㎜黄褐色砂粒少量含。
11　暗オリーブ褐色土2.5Y3/3　砂質土。しまりなし、粘性あり。黄褐色ローム土20％含。

１号墳　E-E′
1　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性なし。0.1～１㎝黄褐色砂礫３％含。
2　褐色土10YR4/4　ローム混砂質土。しまりあり、粘性なし。
3　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性なし。
4　にぶい黄褐色土10YR4/3　砂質土。しまり・粘性なし。
5　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土２～10㎝ブロック40％含。
6　暗褐色土10YR3/3　粘土少量含砂質土。しまり・粘性なし。
7　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土１～５㎝ブロック20％含。
8　黒褐色土10YR2/2　砂質土。しまり・粘性なし。
9　黒褐色土10YR3/2　砂質土。しまり・粘性なし。北側下層黄褐色砂粒含。
10　暗オリーブ褐色土2.5Y3/3　砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土20％含。
11　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
12　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土下層少量含。
13　にぶい黄褐色土10YR4/3　ローム多量含砂質土。しまりなし、粘性あり。

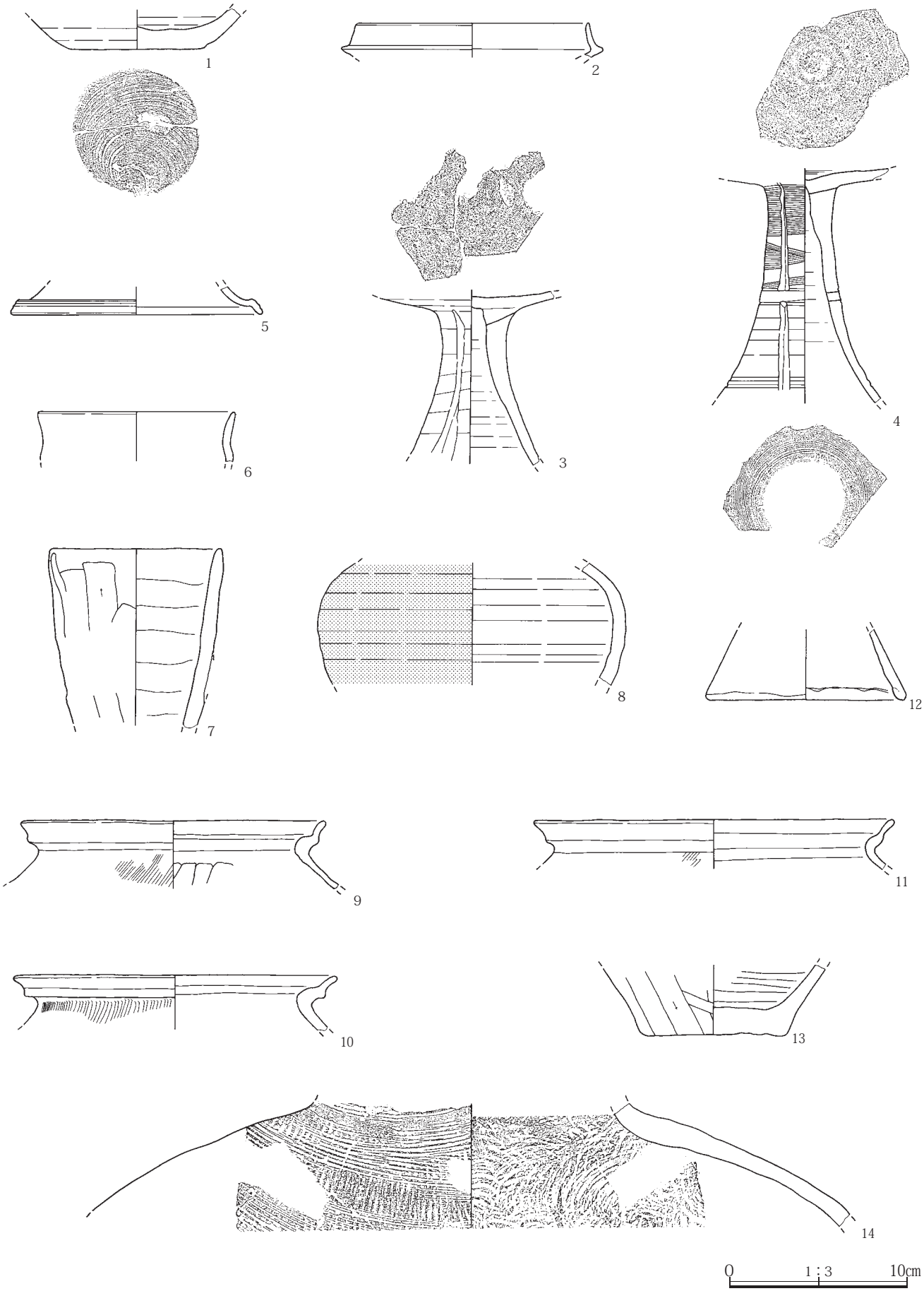


第14図　１区１号墳石室

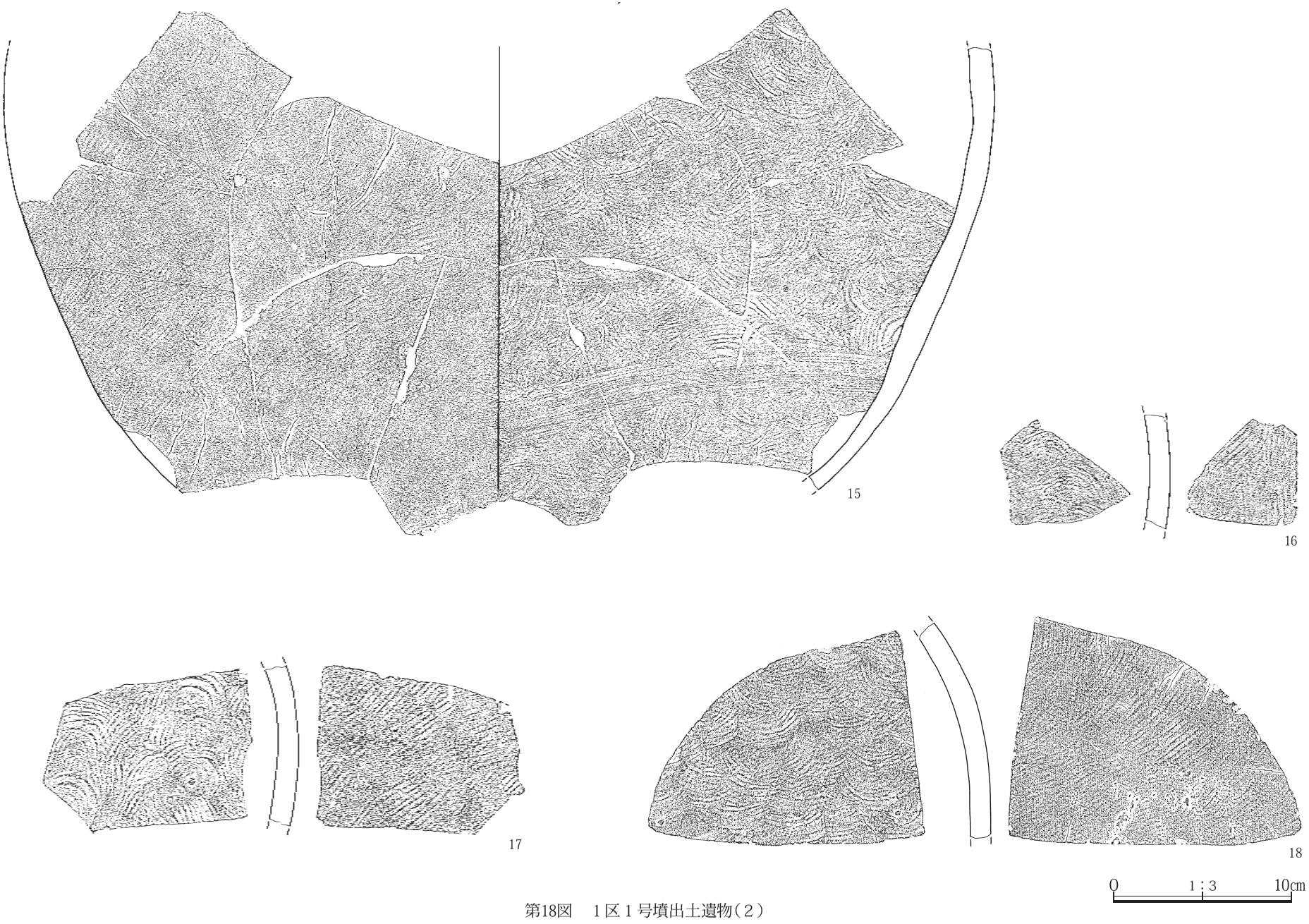
掘り方

第15図　１区１号墳石室掘り方

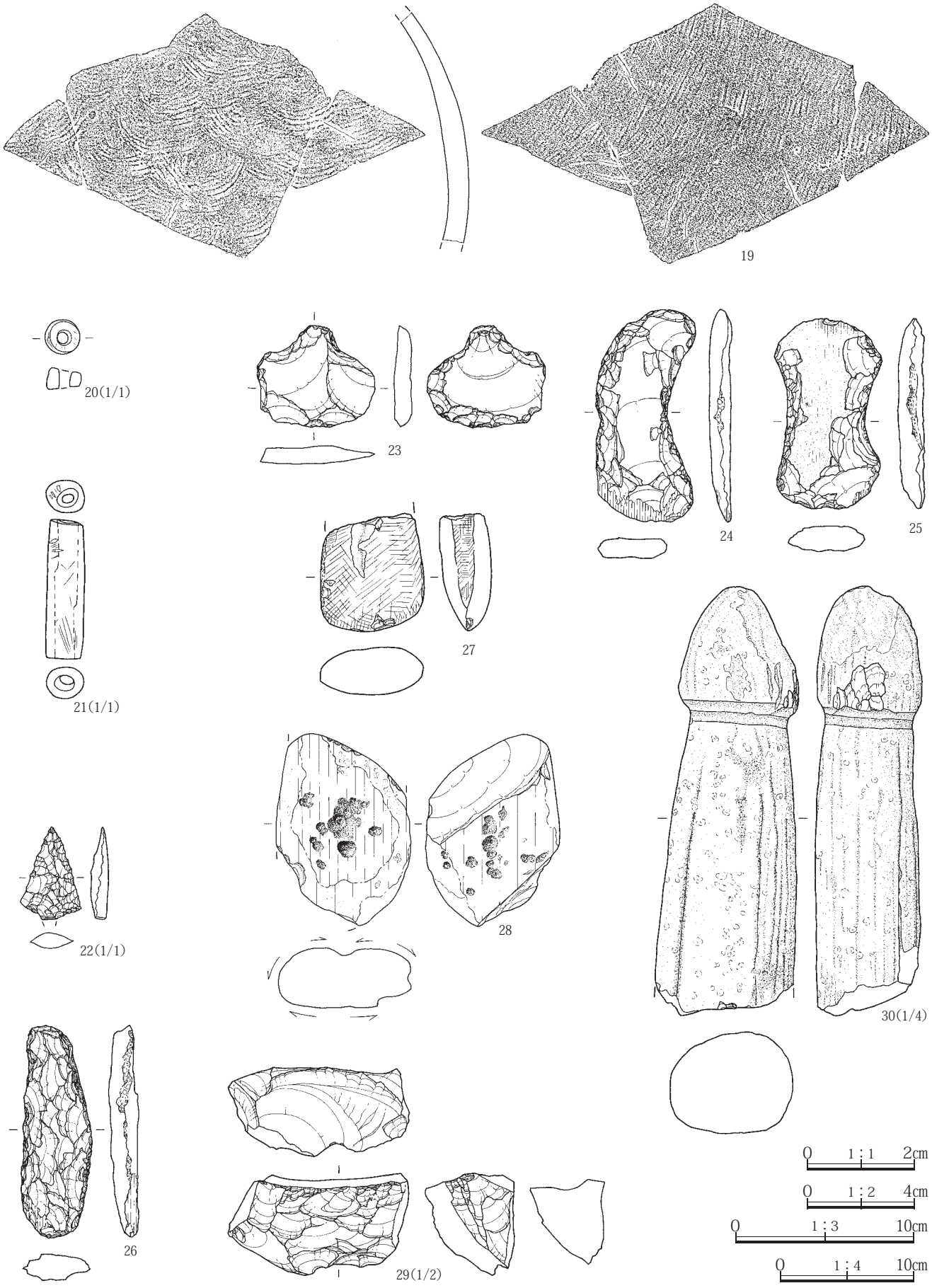
第16図　１区１号墳臼玉・金属器出土位置図



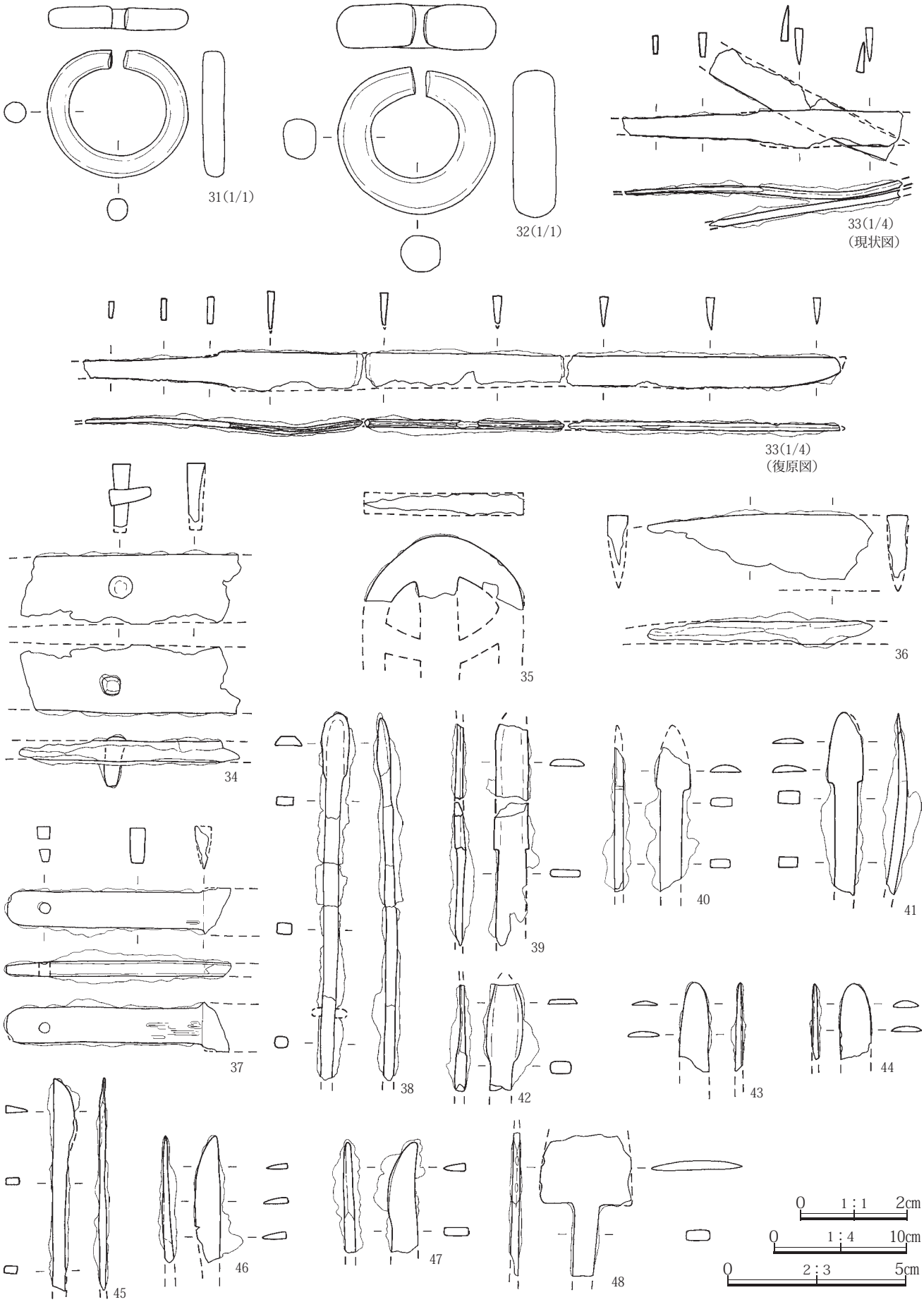
第17図　１区１号墳出土遺物（１）



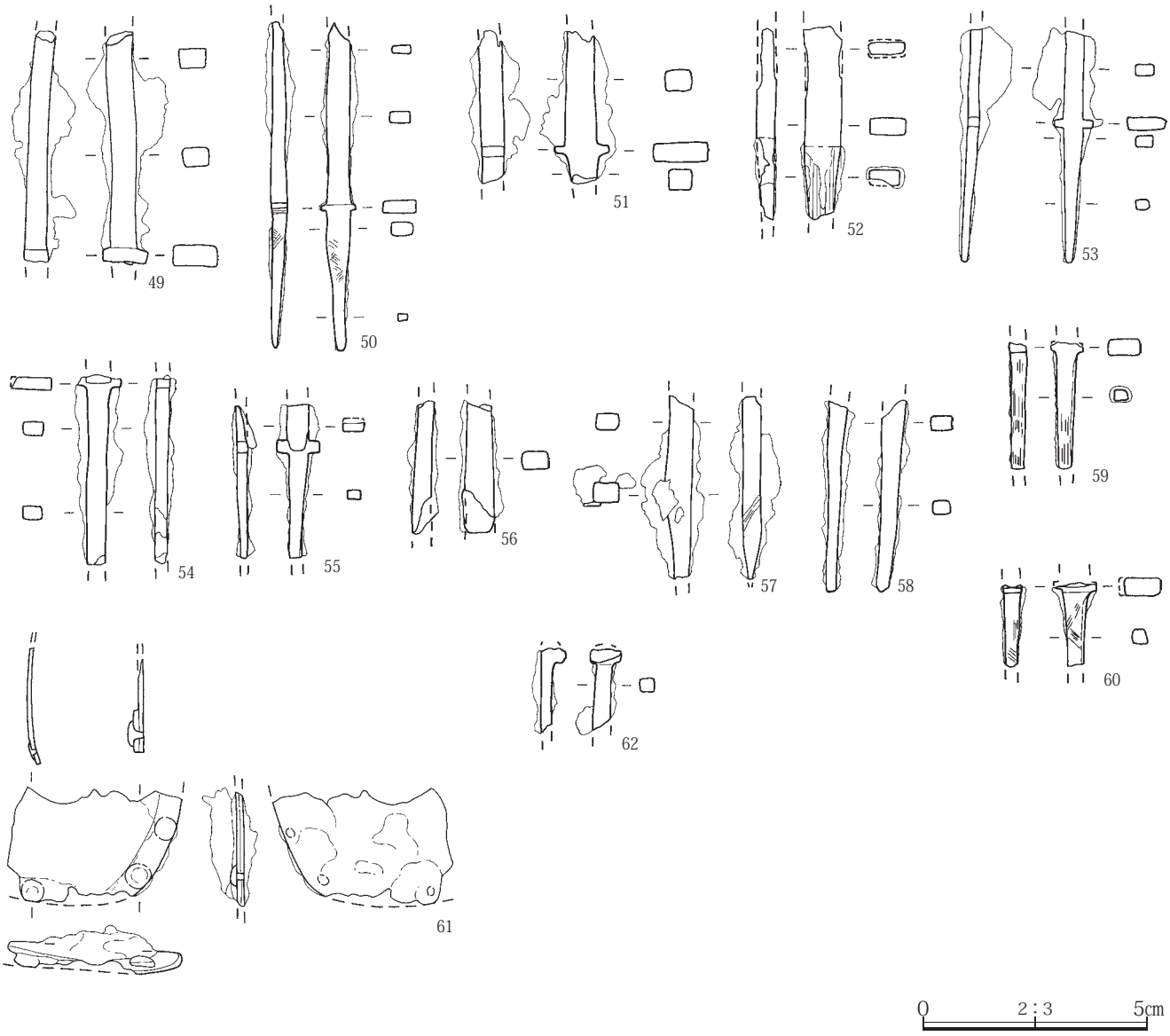
第18図　１区１号墳出土遺物（２）



第19図　１区１号墳出土遺物（３）



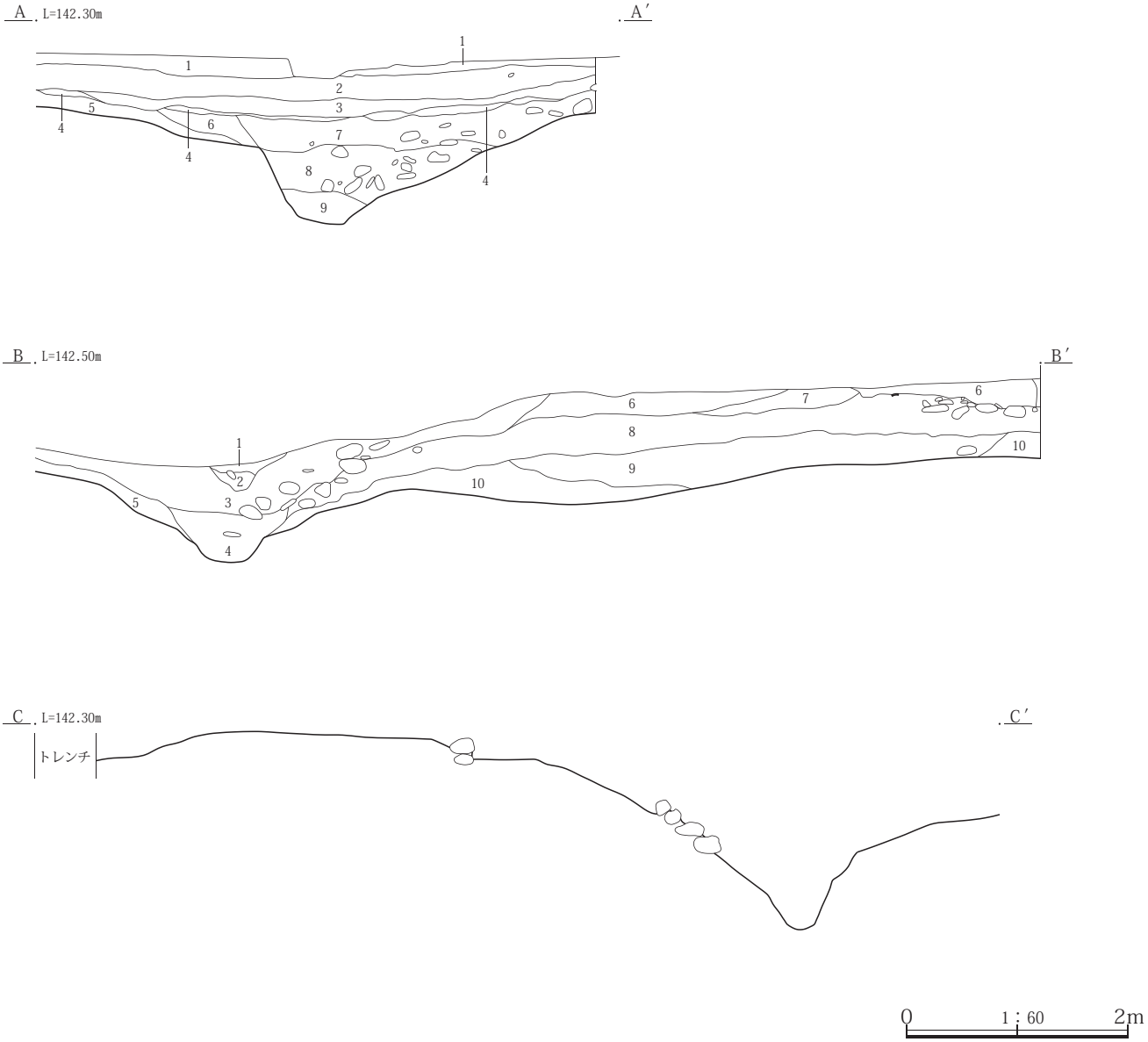
第20図　１区１号墳出土遺物（４）



第21図　１区１号墳出土遺物（５）

A
A′
B
B′
C
C′
141.00
140.50
141.50
142.00
193
-589
193
-597
トレンチ
トレンチ
トレンチ
調査区外
裏込め
0
1：60
2m

第22図　１区２号墳



２号墳　A-A′

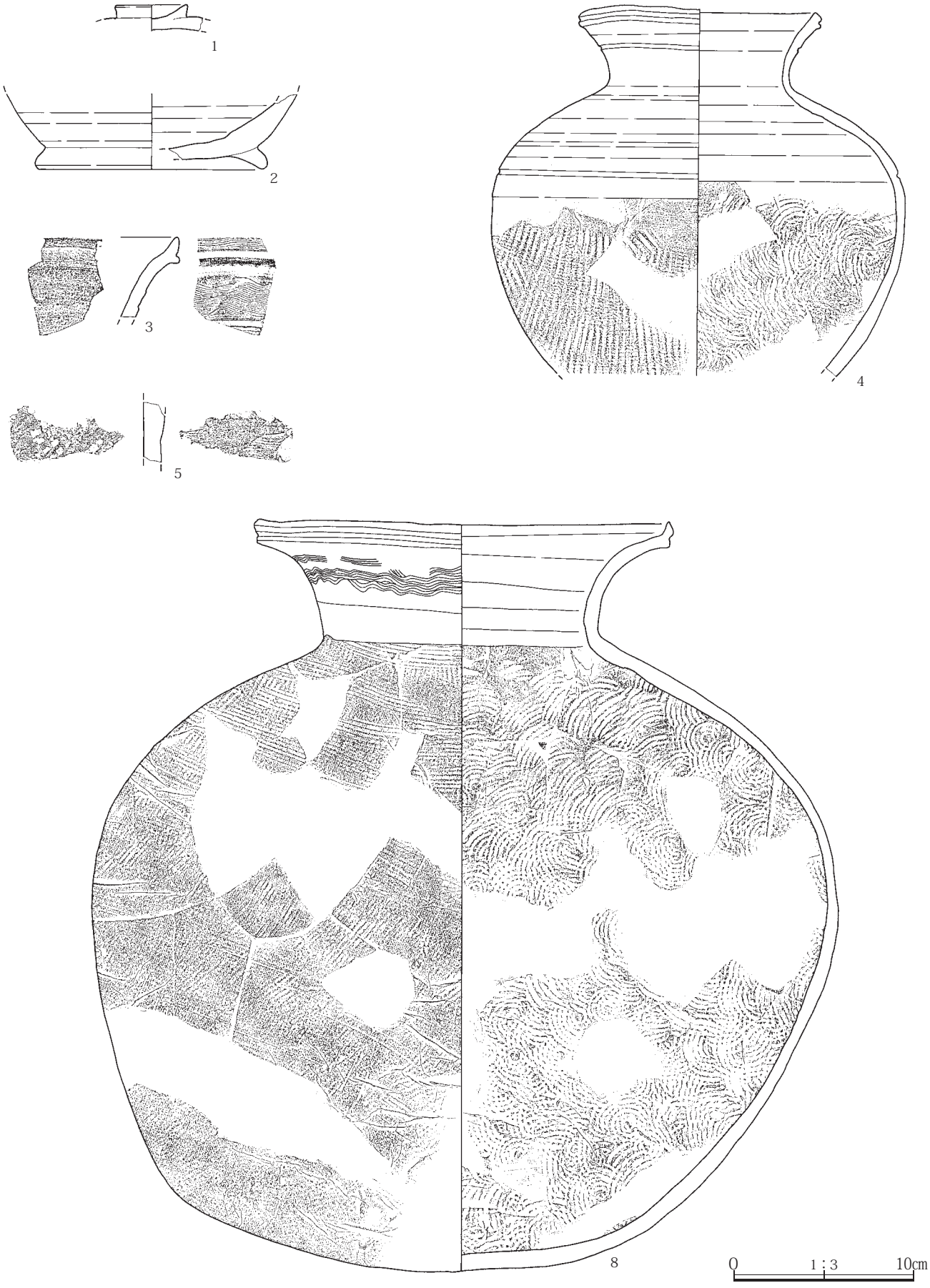
1　褐色土7.5YR4/3　砂質土。しまり･粘性あり。１～２㎜白色軽石２％含。
2　暗褐色土7.5Y3/4　砂質土。しまり・粘性あり。As-B軽石３％含。
3　黒褐色砂10YR3/2　As-B多量含。土少量含。しまり・粘性なし。
4　As-B
5　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまり・粘性あり。
6　褐色土7.5YR3/2　粗砂含粘質土。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土10YR3/2　粘土少量含砂質土。しまり・粘性あり。
8　極暗褐色土7.5YR2/3　粘土含砂質土。しまり・粘性あり。
9　暗褐色土10YR3/3　砂含ローム土。しまり・粘性あり。

２号墳　B-B′

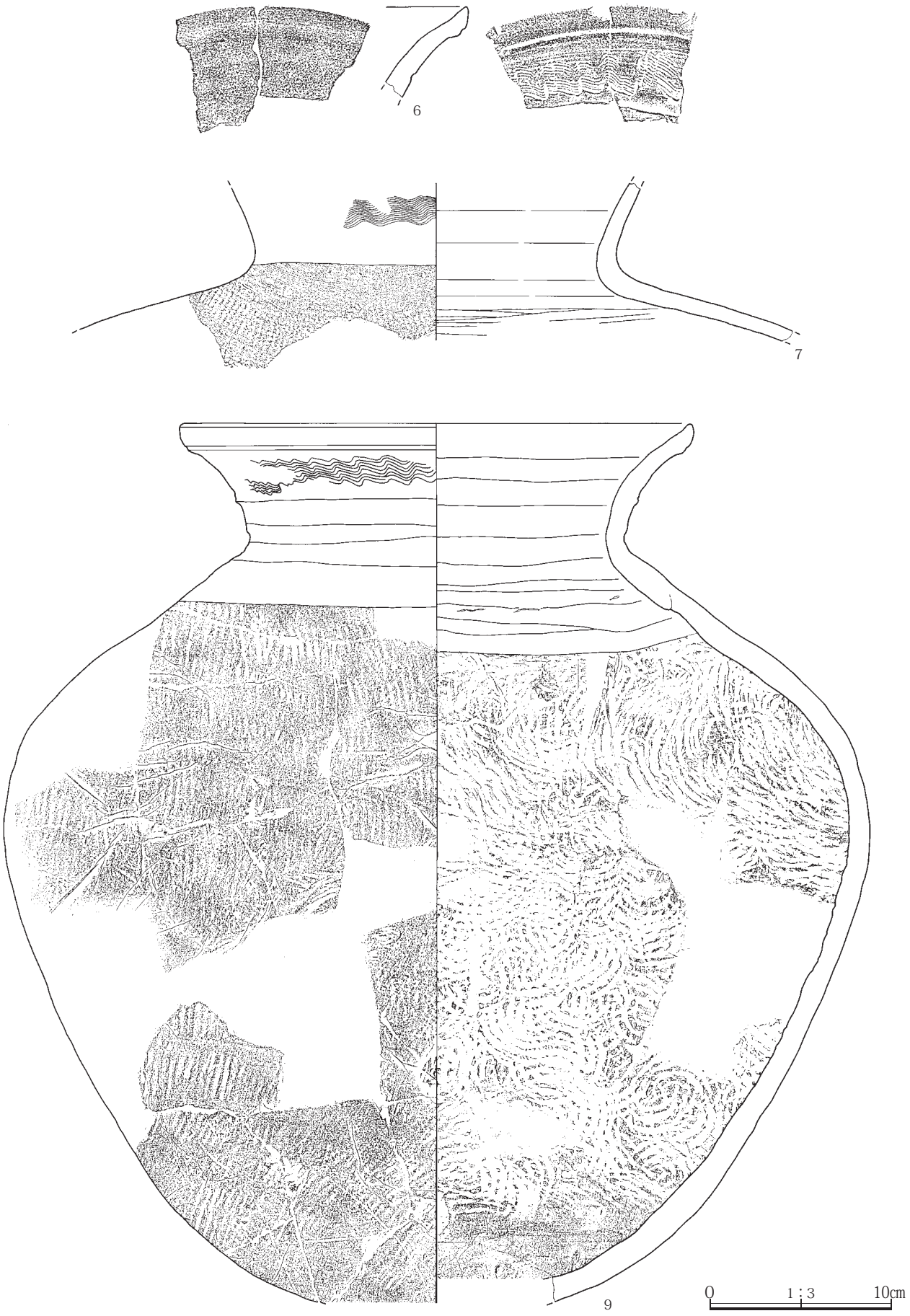
1　黒色土10YR2/1　粘土少量含砂質土。しまり・粘性あり。
2　黄褐色土2.5Y5/3　粘土少量含砂質土。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまり・粘性あり。１～３㎜黄褐色砂粒少量含。
4　暗オリーブ褐色土2.5Y3/3　砂多量含シルト質土。しまりあり、粘性なし。
5　黄褐色土10YR5/6　ローム土。しまり・粘性あり。
6　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまりあり、粘性なし。
7　にぶい黄褐色土10YR5/3　砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土２～４㎝ブロック40％含。
8　暗褐色土10YR3/3　粘土含細砂質土。しまり・粘性あり。
9　暗褐色土10YR3/3　粘土、シルト含細砂質土。しまり・粘性あり。
10　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘土少量含シルト質土。しまり･粘性あり。黄褐色ローム土30％まばらに含。

第23図　１区２号墳土層断面図

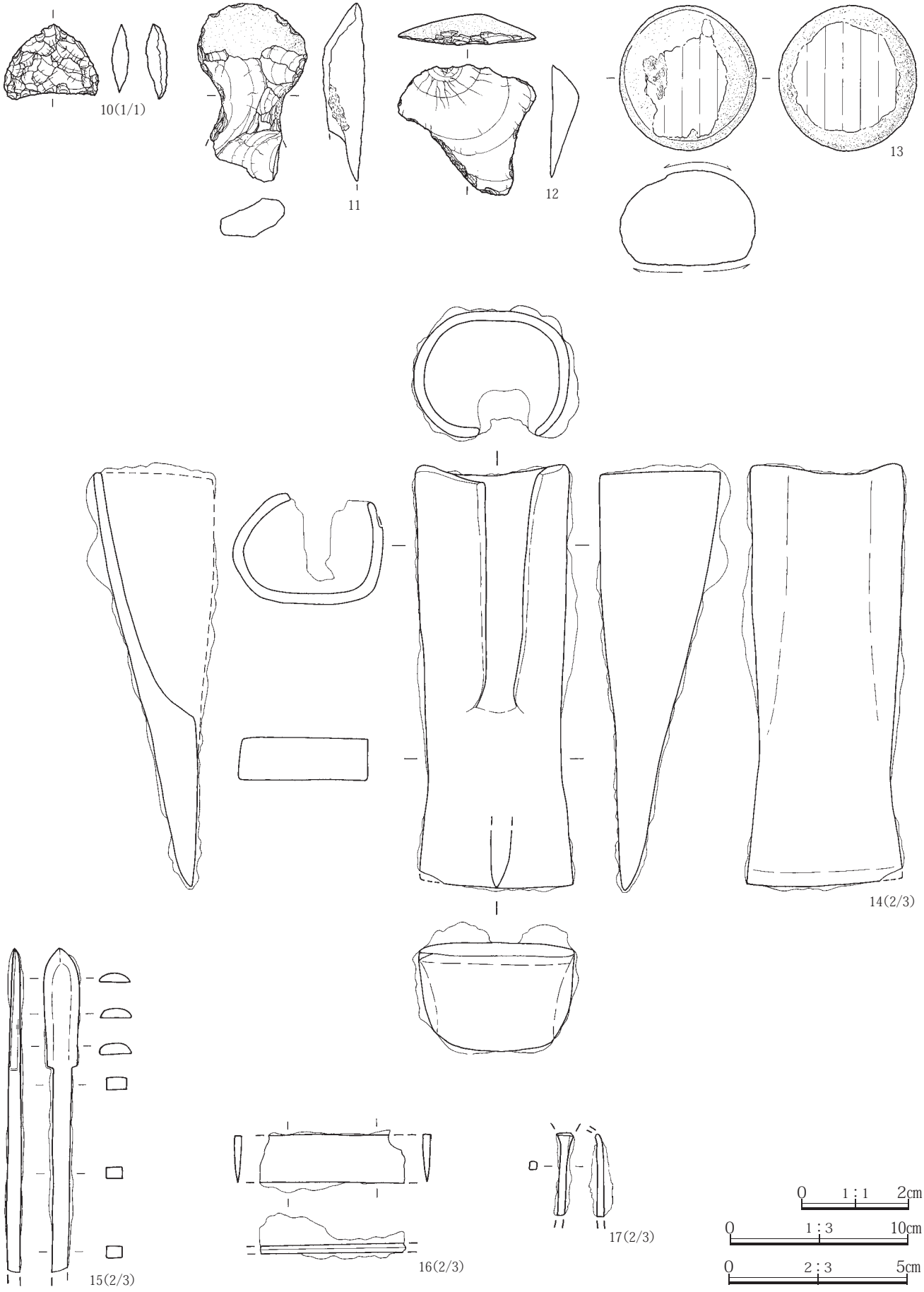
第24図　１区２号墳遺物出土位置図



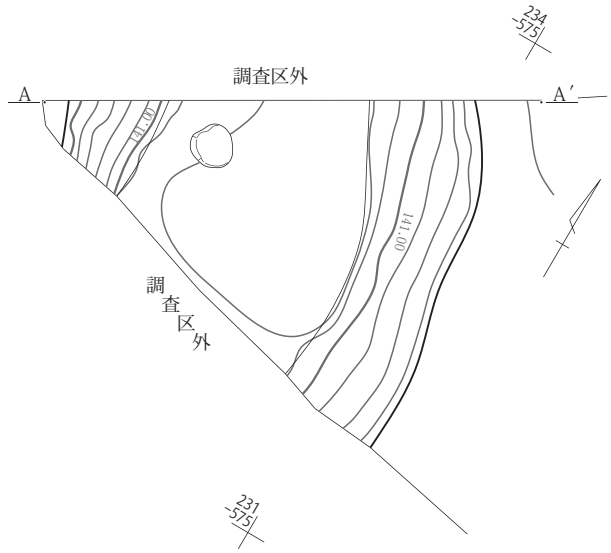
第25図　１区２号墳出土遺物（１）

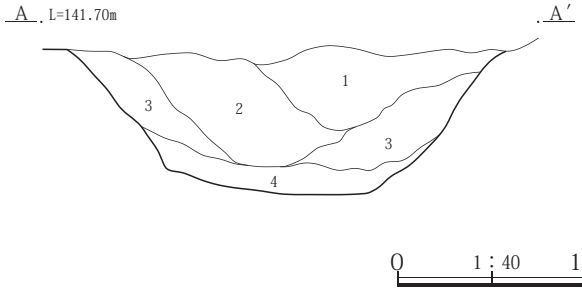


第26図　１区２号墳出土遺物（２）

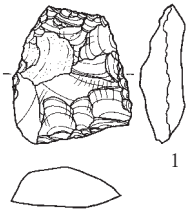


第27図　１区２号墳出土遺物（３）





0　1：40　1m



0　1：1　2cm

３号墳　A-A′

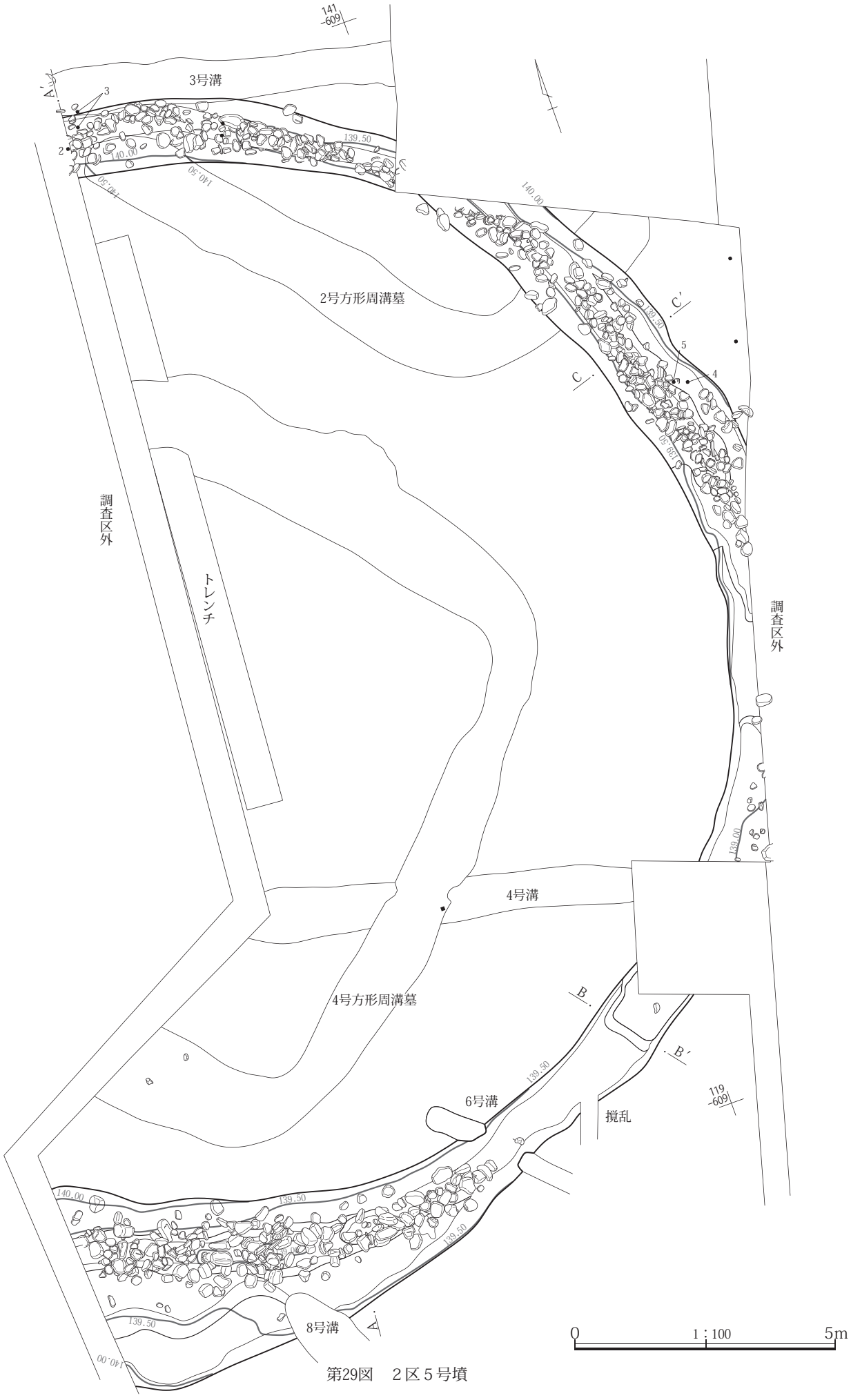
1　にぶい黄褐色土10YR3/1　黒褐色土含。小礫約１cm少量、ローム粒含。しまり・粘性あり。

2　黒褐色土10YR3/1　ローム粒均質多量含。しまり・粘性あり。

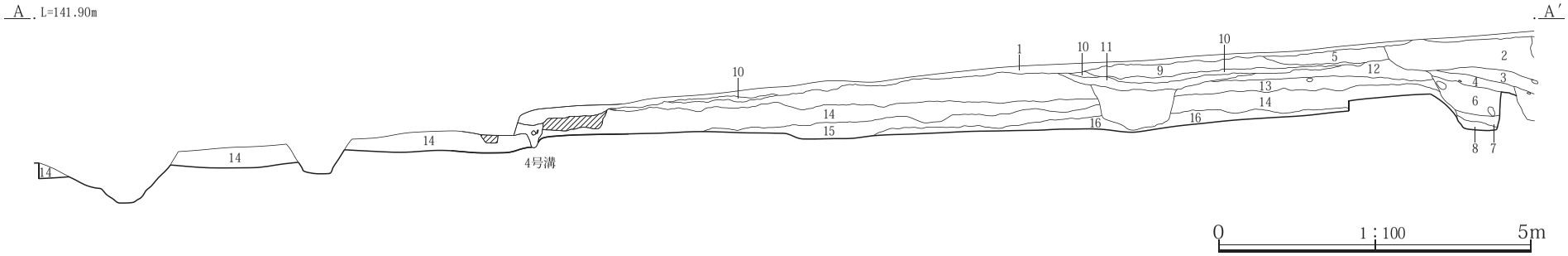
3　にぶい黄褐色土10YR5/4　ローム小～大塊・粒多量含。しまり・粘性あり。

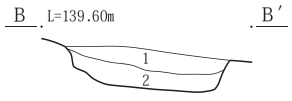
4　黄褐色土10YR5/6　ローム塊主体、にぶい黄褐色土含。しまり・粘性あり。

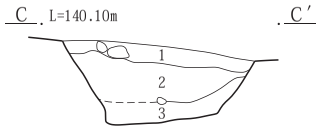
第28図　１区３号墳・出土遺物

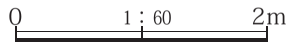

141
-609
3号溝
A'
A
3
2
139.50
140.00
140.30
140.50
140.00
2号方形周溝墓
C'
C
139.50
5
4
139.50
調査区外
トレンチ
調査区外
139.00
4号溝
4号方形周溝墓
B
B'
139.50
6号溝
119
-609
攪乱
140.00
139.50
139.50
139.50
8号溝
A'
A
140.00
0
1:100
5m

第29図　２区５号墳









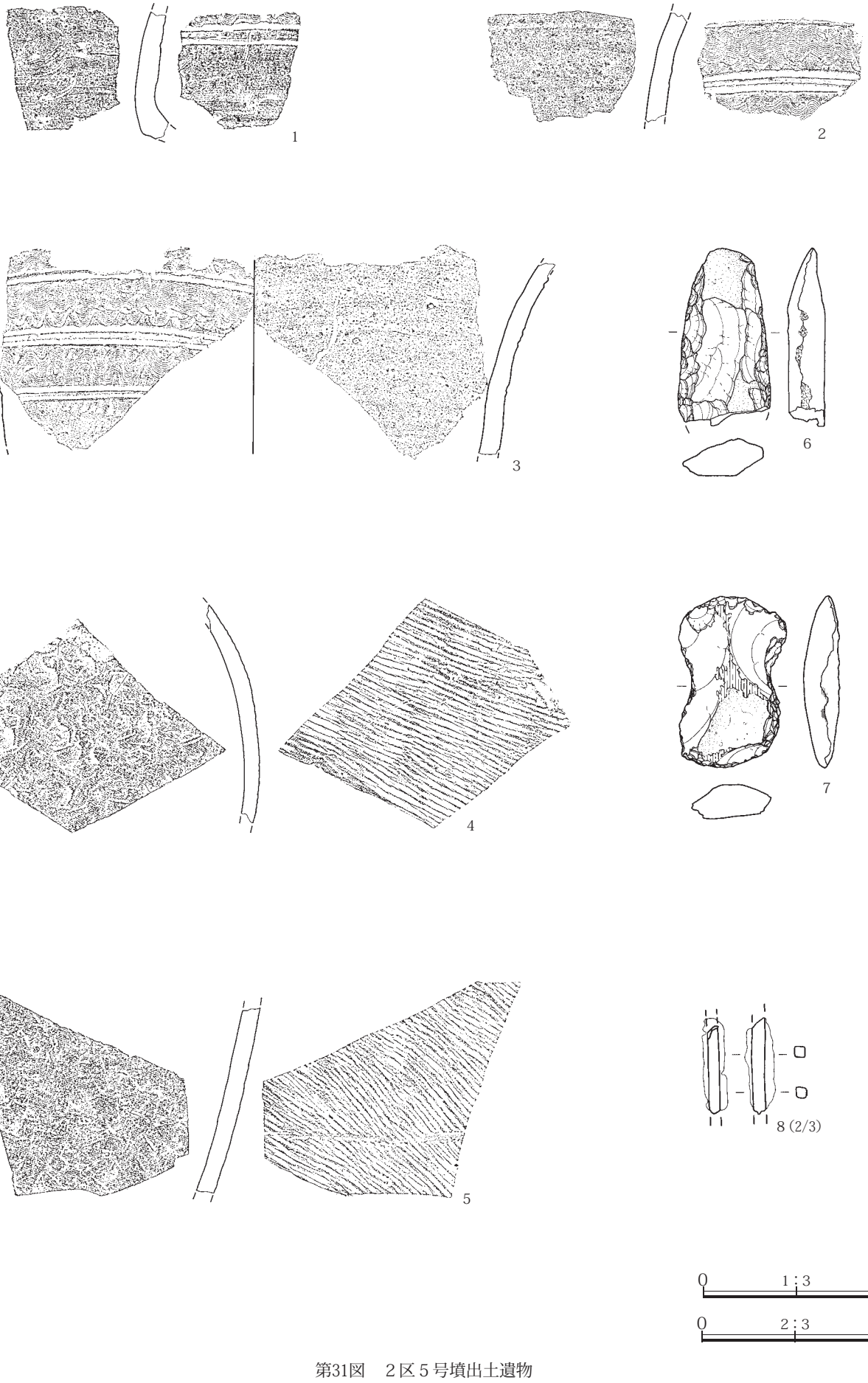
5号墳　B-B′・C-C′

1　黒褐色土10YR2/2　砂粒・黄色粒子極微量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　砂粒・黄色・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック極多量含。しまり・粘性あり。

5号墳　A-A′

1　暗褐色土10YR3/3　耕作土
2　暗褐色土10YR3/3　As-B・砂粒・礫多量含。しまりあり、粘性なし。
3　黒褐色土10YR2/3　As-B多量含。しまりあり、粘性なし。
4　黒褐色土10YR2/2　As-B極多量含。しまりあり、粘性なし。
5　黒褐色土10YR3/2　As-B・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土10YR2/2　砂粒・黄色粒子極微量含。しまり・粘性あり。５号墳周堀埋土。
7　黒褐色土10YR2/3　砂粒・黄色・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。５号墳周堀埋土。
8　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック極多量含。しまり・粘性あり。５号墳周堀埋土。
9　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック極多量含。しまりあり、粘性なし。５号墳墳丘盛土。
10　黒褐色土10YR3/2　酸化鉄分中量含。しまり・粘性あり。５号墳墳丘盛土。
11　黒褐色土10YR2/3　凝灰岩小破片多量含。しまり・粘性あり。５号墳墳丘盛土。
12　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。縄文包含層。
13　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。縄文包含層。
14　褐色土10YR4/6　ローム主体。黒褐色土ブロック多量含。しまり･粘性あり。ローム漸移層か。
15　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・砂粒多量含。しまり・粘性あり。
16　黄褐色ローム層

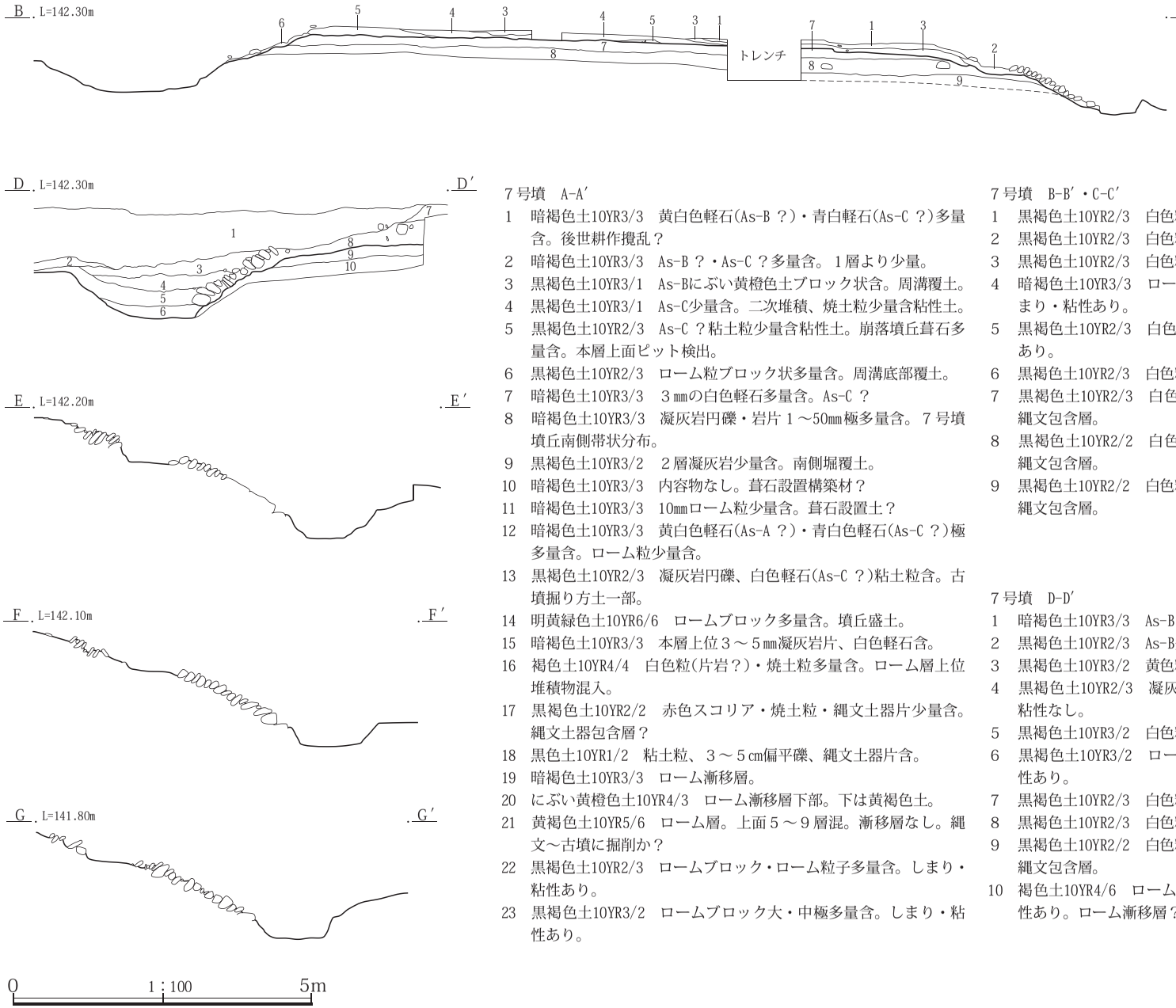
第30図　２区５号墳土層断面図



第31図　２区５号墳出土遺物

A
L=141.90m
A′
C
L=142.30m
C′
トレンチ
15号土坑
試掘トレンチ
167
-609
145
-609
0
1：150
5m
0
1：100
5m

第32図　２区７号墳



７号墳　A-A′

1　暗褐色土10YR3/3　黄白色軽石(As-B ？)・青白軽石(As-C ？)多量含。後世耕作攪乱？
2　暗褐色土10YR3/3　As-B ？・As-C ？多量含。１層より少量。
3　黒褐色土10YR3/1　As-Bにぶい黄橙色土ブロック状含。周溝覆土。
4　黒褐色土10YR3/1　As-C少量含。二次堆積、焼土粒少量含粘性土。
5　黒褐色土10YR2/3　As-C ？粘土粒少量含粘性土。崩落墳丘葺石多量含。本層上面ピット検出。
6　黒褐色土10YR2/3　ローム粒ブロック状多量含。周溝底部覆土。
7　暗褐色土10YR3/3　３㎜の白色軽石多量含。As-C ？
8　暗褐色土10YR3/3　凝灰岩円礫・岩片１～50㎜極多量含。７号墳墳丘南側帯状分布。
9　黒褐色土10YR3/2　２層凝灰岩少量含。南側堀覆土。
10　暗褐色土10YR3/3　内容物なし。葺石設置構築材？
11　暗褐色土10YR3/3　10㎜ローム粒少量含。葺石設置土？
12　暗褐色土10YR3/3　黄白色軽石(As-A ？)・青白色軽石(As-C ？)極多量含。ローム粒少量含。
13　黒褐色土10YR2/3　凝灰岩円礫、白色軽石(As-C ？)粘土粒含。古墳掘り方土一部。
14　明黄緑色土10YR6/6　ロームブロック多量含。墳丘盛土。
15　暗褐色土10YR3/3　本層上位３～５㎜凝灰岩片、白色軽石含。
16　褐色土10YR4/4　白色粒(片岩？)・焼土粒多量含。ローム層上位堆積物混入。
17　黒褐色土10YR2/2　赤色スコリア・焼土粒・縄文土器片少量含。縄文土器包含層？
18　黒色土10YR1/2　粘土粒、３～５㎝偏平礫、縄文土器片含。
19　暗褐色土10YR3/3　ローム漸移層。
20　にぶい黄橙色土10YR4/3　ローム漸移層下部。下は黄褐色土。
21　黄褐色土10YR5/6　ローム層。上面５～９層混。漸移層なし。縄文～古墳に掘削か？
22　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック・ローム粒子多量含。しまり・粘性あり。
23　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック大・中極多量含。しまり・粘性あり。

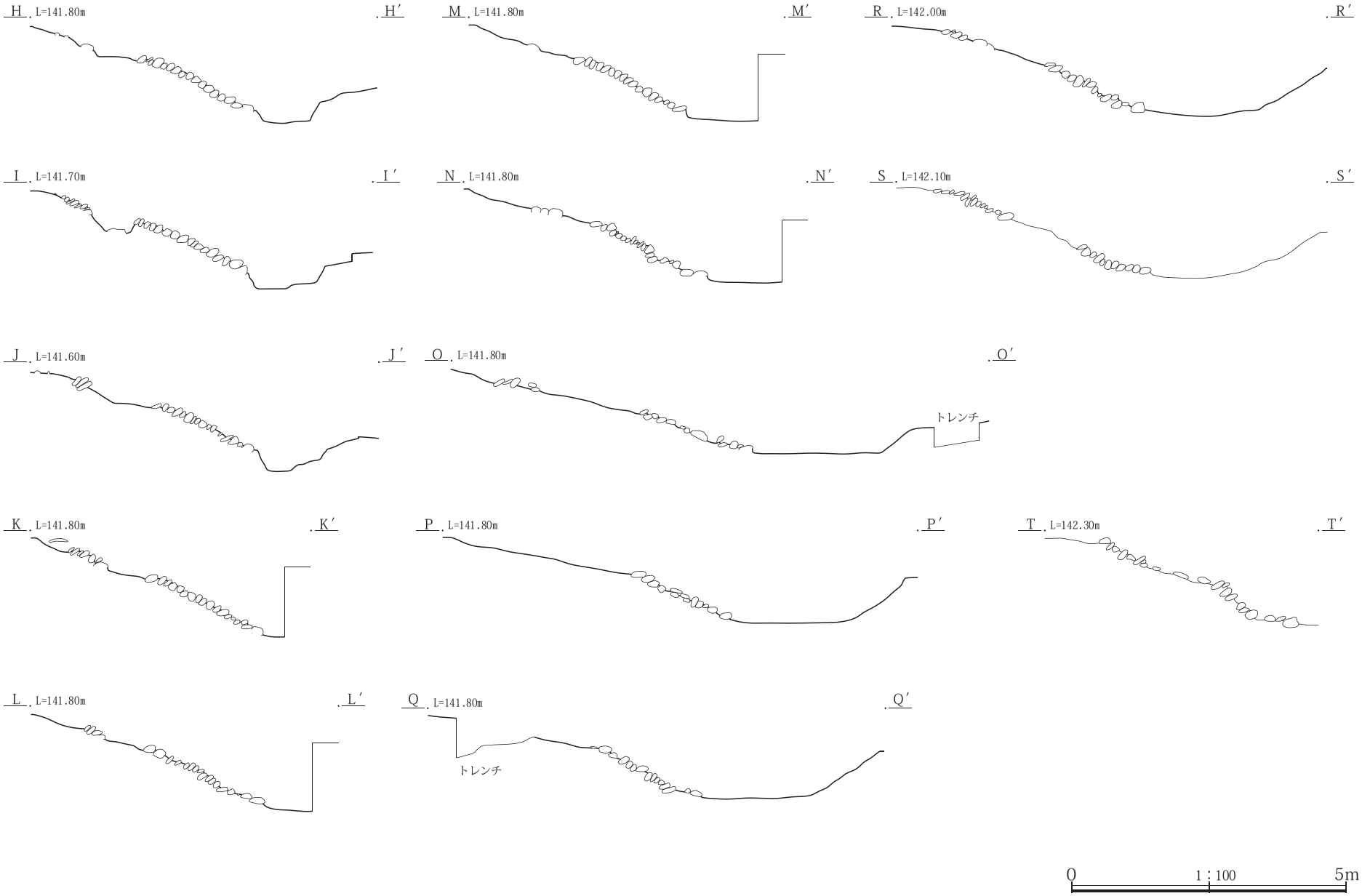
７号墳　B-B′・C-C′

1　黒褐色土10YR2/3　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　白色粒子少量含。しまりあり、粘性なし。
3　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック層状多量含。白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土10YR2/3　白色粒子少量、ローム粒子微量含。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまりあり、粘性やや弱。
7　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。縄文包含層。
8　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・黄色粒子微量含。しまり・粘性あり。縄文包含層。
9　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。縄文包含層。

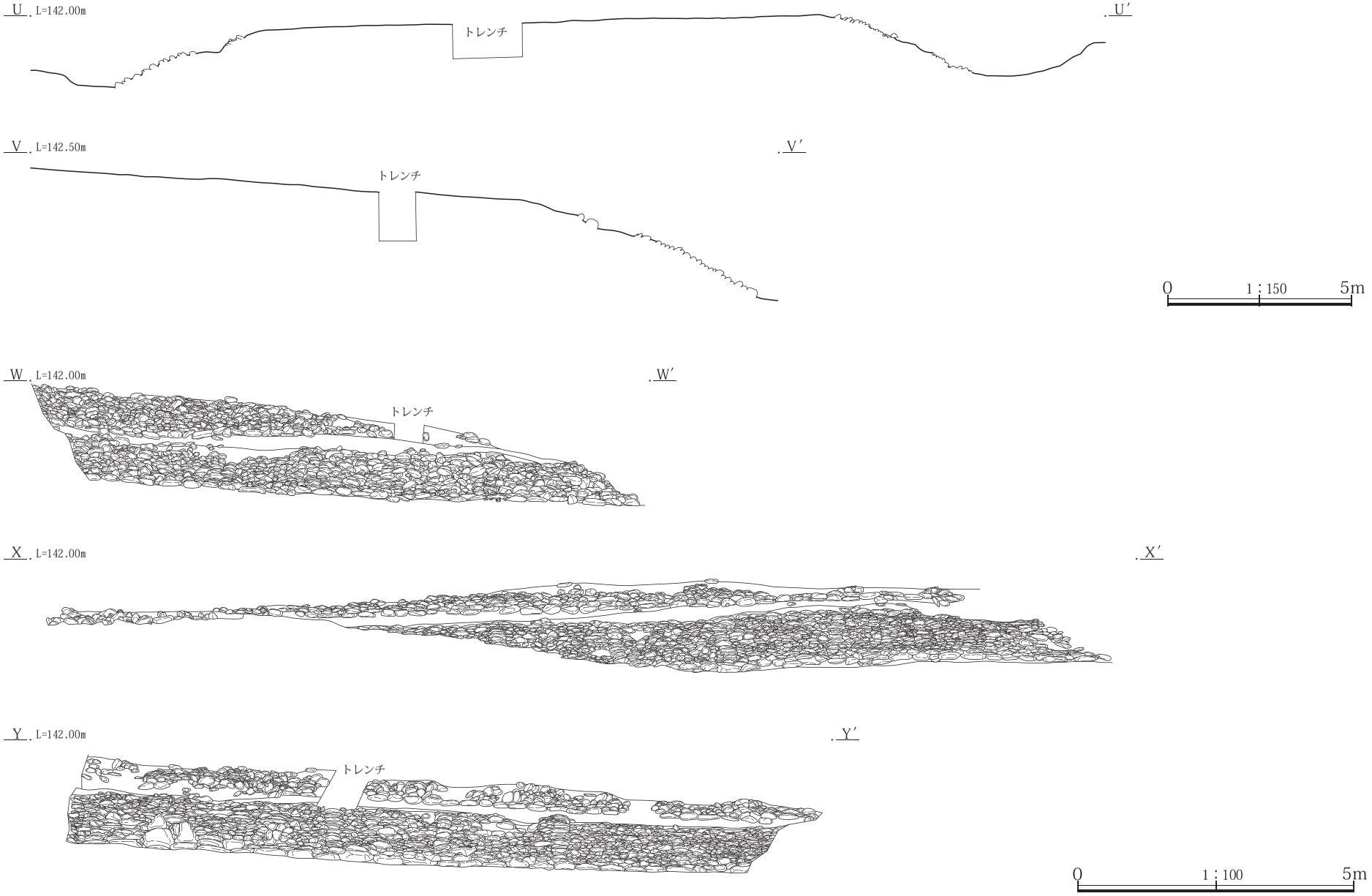
７号墳　D-D′

1　暗褐色土10YR3/3　As-B・砂粒・礫多量含。しまりあり、粘性なし。
2　黒褐色土10YR2/3　As-B多量含。しまりあり、粘性なし。
3　黒褐色土10YR3/2　黄色粒子・白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土10YR2/3　凝灰岩ブロック１～５㎝極多量含。しまりあり、粘性なし。
5　黒褐色土10YR3/2　白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック0.5～３㎝極多量含。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。縄文包含層。
10　褐色土10YR4/6　ローム主体。黒褐色土ブロック多量含。しまり・粘性あり。ローム漸移層？

第33図　２区７号墳土層断面図(１)



第34図　２区７号墳土層断面図（２）



第35図　２区７号墳土層断面図（３）

２区15号土坑(第36図・第９表・PL.21・22・57・72)

位　　置　X=30159・160　Y=-80606～608

重複遺構　本15号土坑は７号墳の墳丘内に掘り込まれている。新旧関係は所見で述べる。

形　　状　楕円形

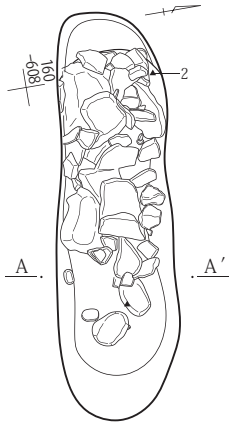
主軸方位　N-85°-W

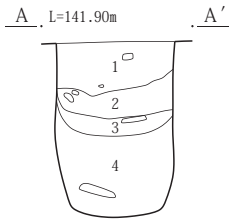
規　　模　長軸2.17m　短軸0.64m　深さ1.01m

埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。

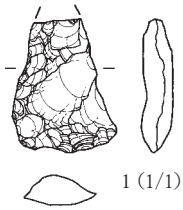
出土遺物　蛇紋岩製の石製模造品刀子形(２)、石鏃(１)出土。

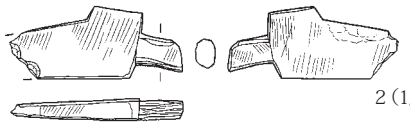
所　　見　本土坑は７号墳構築の際の陪葬墓と考えられる。掘り込みは盛り土で、石で蓋をしている。同様な例は県内では大泉町「古海地内10番古墳」があげられる。





0　1：40　1m

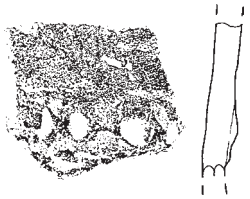


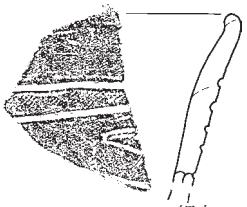


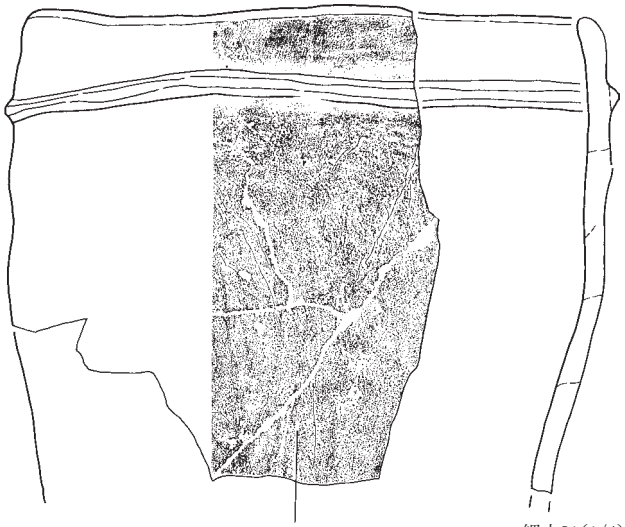
0　1：1　2cm

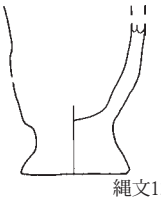
0　1：2　4cm

15号土坑
1　暗褐色土10YR3/4　２㎝大角礫・小石・白色軽石・ローム粒・黒褐色土多量含。
2　黒褐色土10YR2/2　やや粘性。ローム粒多量、白色粒少量含。
3　ロームブロック土主体層。黒褐色土含。
4　２層似。ローム粒・こぶし大礫少量含。
※７号墳盛土除去後確認。古墳時代前期遺構？







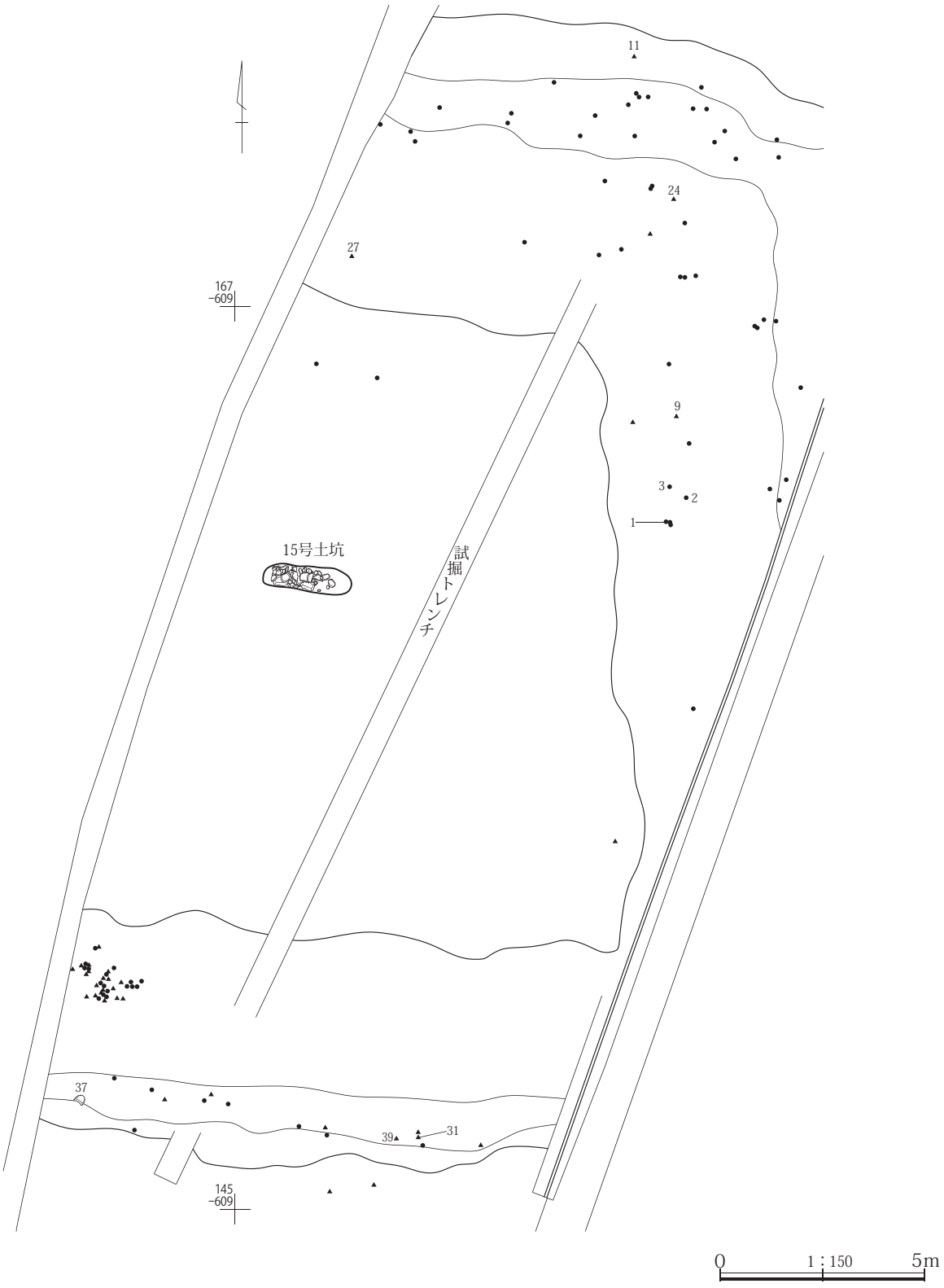


0　1：2　4cm

0　1：3　10cm

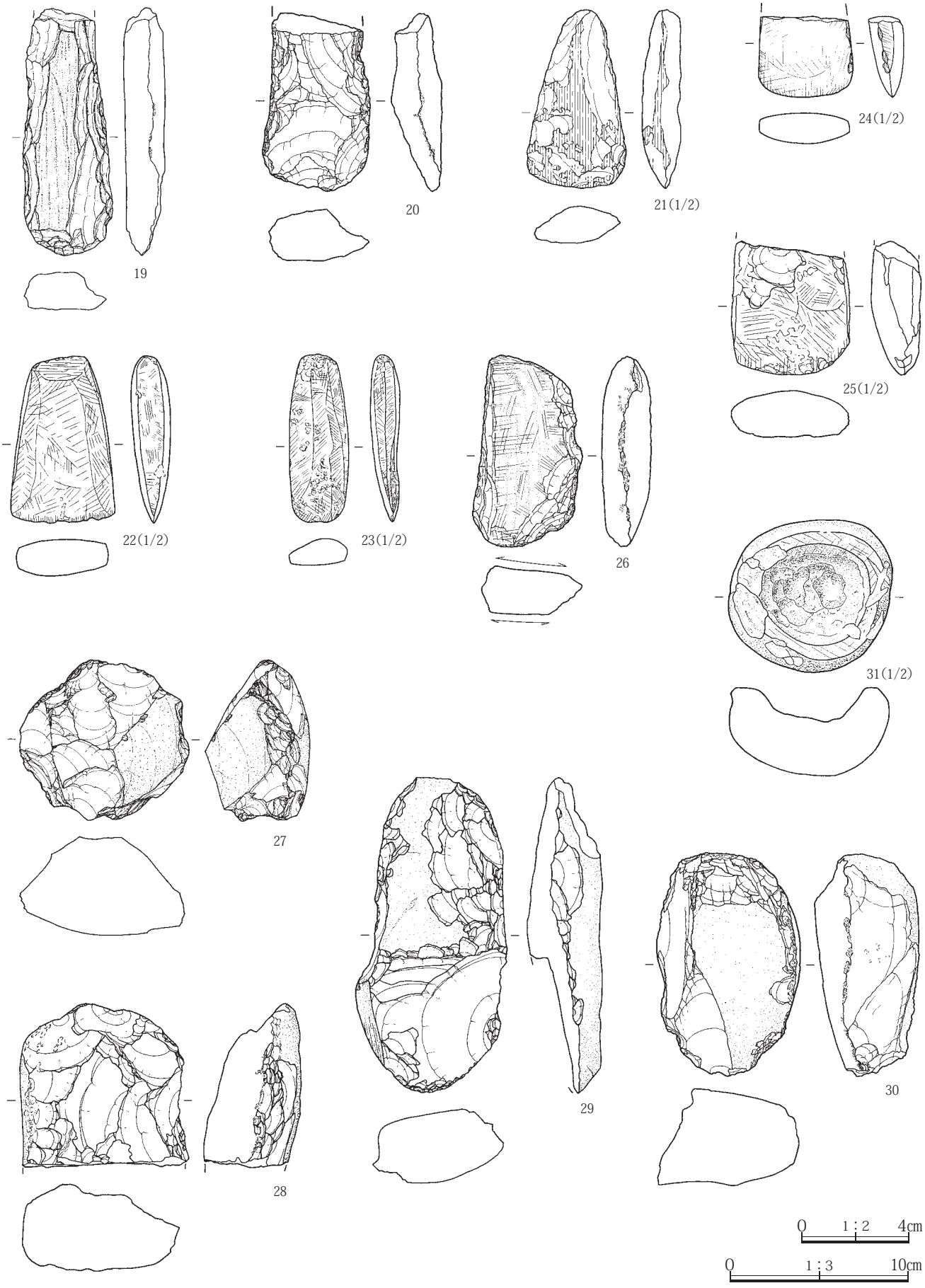
0　1：4　10cm

第36図　２区15号土坑・出土遺物、２区７号墳出土縄文土器

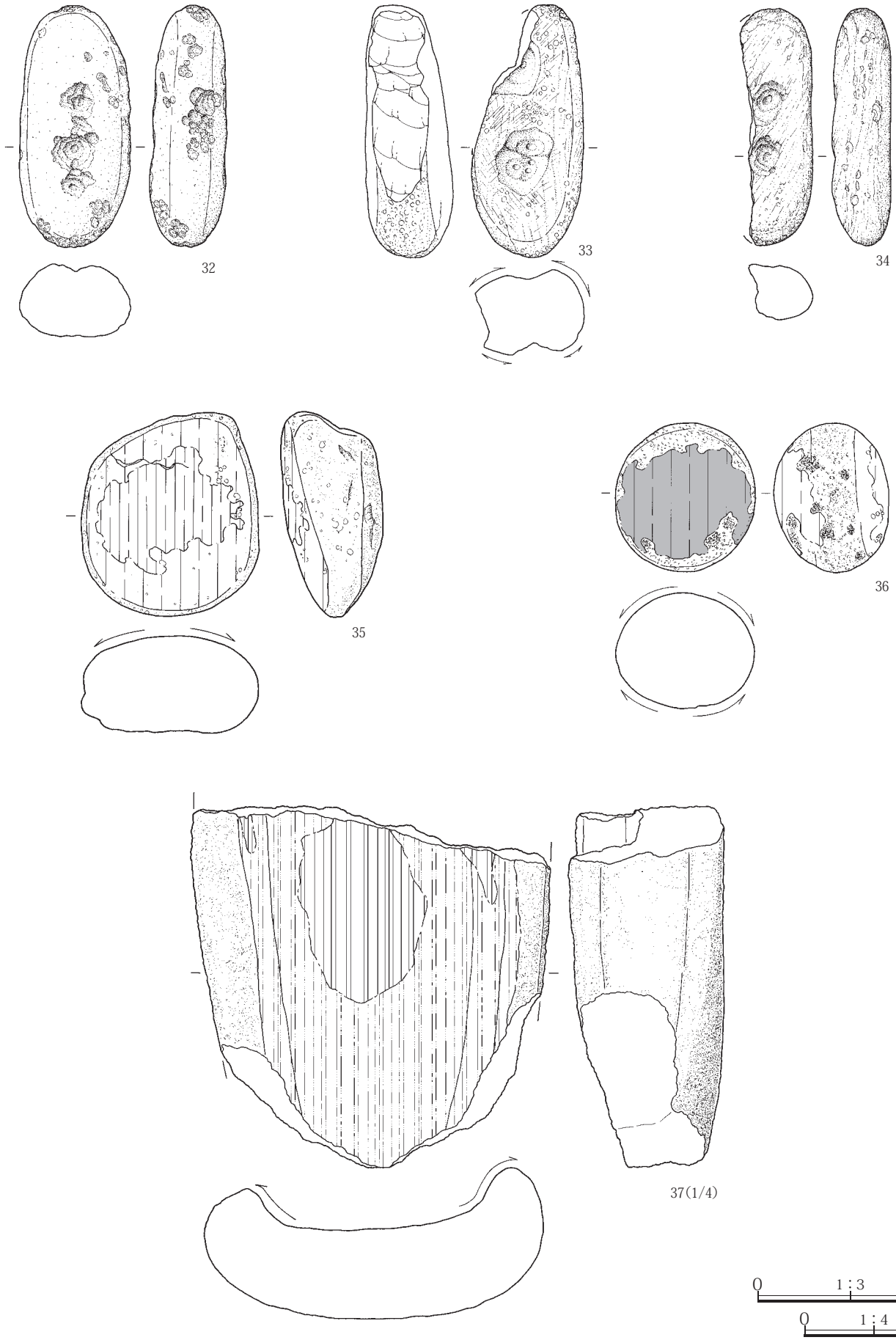


第37図　２区７号墳土器・石器出土位置図

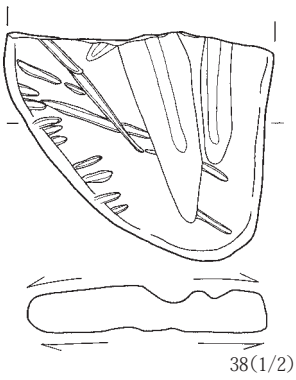
第38図　２区７号墳出土遺物（１）

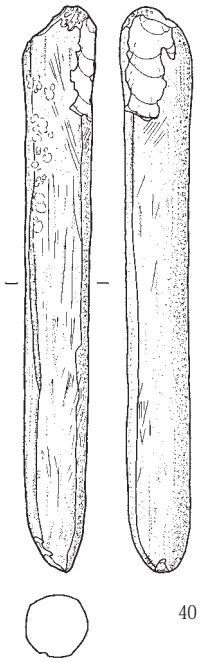


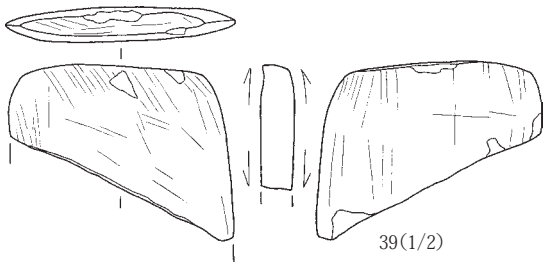
第39図　２区７号墳出土遺物（２）

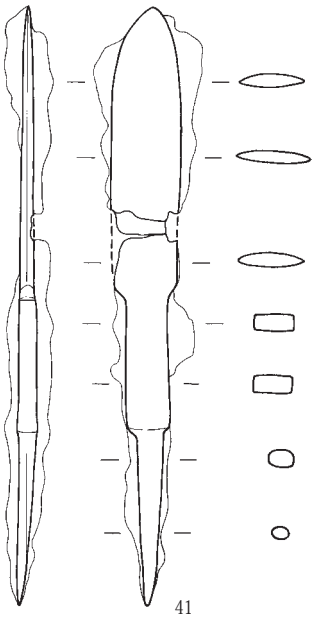


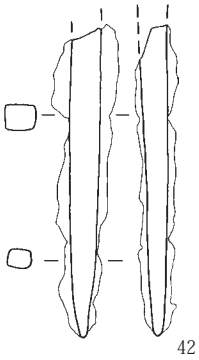
第40図　２区７号墳出土遺物（３）

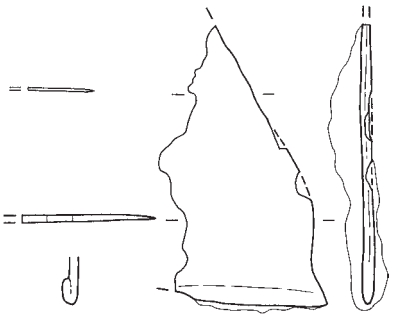


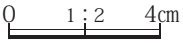


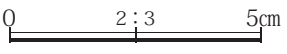








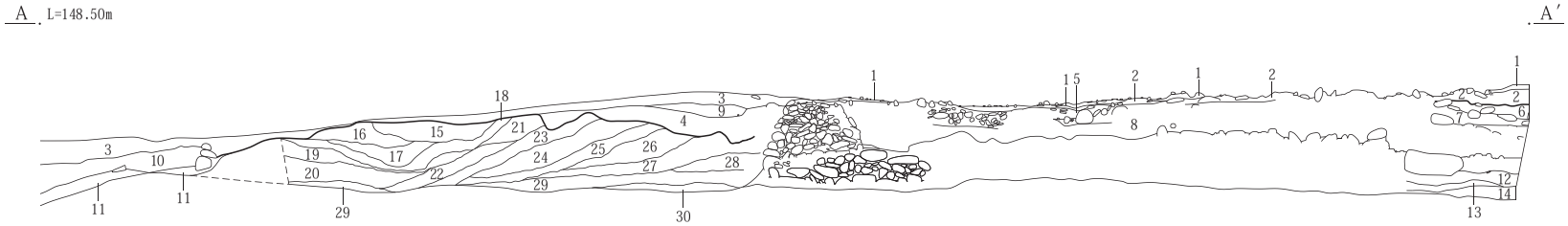




第41図　２区７号墳出土遺物（４）

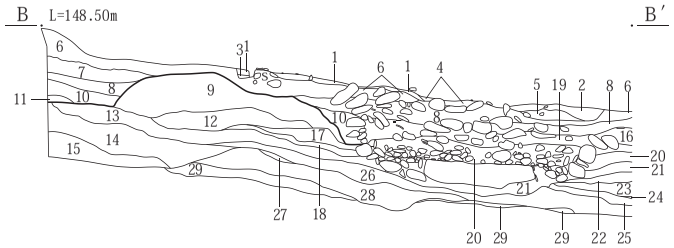
10号ピット
12号ピット
11号ピット
トレンチ
147.50
147.00
146.50
147.00
147.50
205
-640
187
-640
調査区外
調査区外
撹乱
撹乱
ベルト
前庭
トレンチ
トレンチ
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
F
F′
G
G′
H
H′
I
I′
K
K′
L
L′
M
M′
N
N′
O
O′
0
1：100
5m

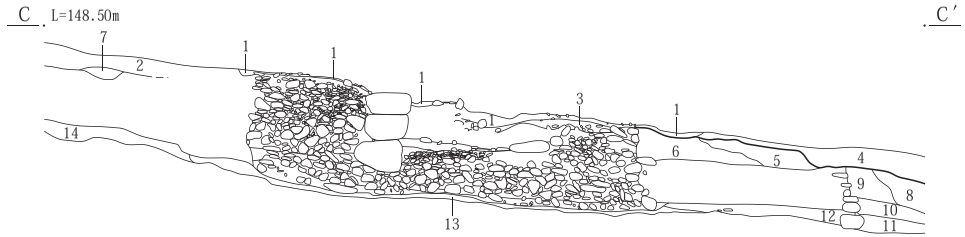
第42図　３区８号墳



８号墳　A-A′

1　黄褐色土10YR5/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。４～６㎝礫多量含撹乱土。
2　褐色土10YR4/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。２～４㎝礫多量含。
3　にぶい黄褐色土10YR5/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。２～３㎜程度の白色軽石２％含。
4　褐色土10YR4/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
5　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
6　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
7　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性あり。
8　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
9　にぶい黄褐色土10YR4/3　砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土３～４㎝ブロック少量含。
10　暗褐色土10YR3/3　As-B軽石少含細砂。しまり・粘性なし。
11　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性なし。
12　黒褐色土10YR2/3　ローム粒子微量含。しまり・粘性あり。
13　黄褐色土10YR5/8　ローム主体。黒褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
14　黒褐色土10YR2/3　砂粒微量含。しまり・粘性あり。
15　黄褐色土10YR5/6　ローム主体。褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
16　褐色土10YR4/4　ロームブロック中量、白色粒子少量含。しまりあり、粘性なし。
17　黄褐色土10YR5/8　ローム主体。褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
18　褐色土10YR4/4　ロームブロック・暗褐色土ブロック中量含。しまりあり、粘性なし。
19　黄褐色土10YR5/6　ローム主体。褐色・暗褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
20　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック・白色粒子少量含。しまり・粘性なし。
21　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・ローム粒子少量含。しまりあり、粘性なし。
22　褐色土10YR4/6　ロームブロック・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
23　褐色土10YR4/4　ロームブロック極多量含。しまりあり、粘性なし。
24　褐色土10YR4/4　ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性なし。
25　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
26　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
27　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・ローム粒子・白色粒子少量含。しまりあり、粘性なし。
28　暗褐色土10YR3/3　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
29　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性・なし。
30　暗褐色土10YR3/3　白色粒子極微量含。ローム粒子中量含。しまり・粘性なし。





0　1：80　2m

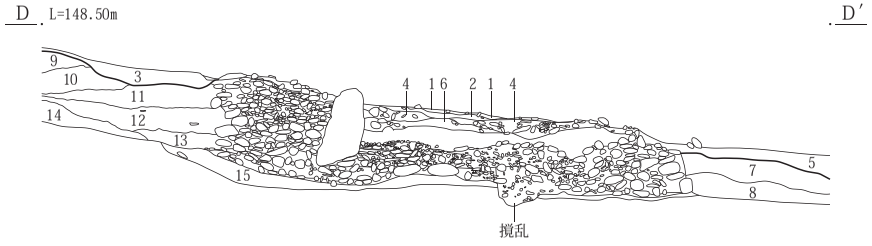
第43図　３区８号墳土層断面図（１）

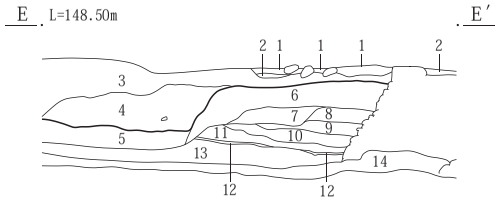
８号古墳 B-B′

1　黄褐色土2.5Y5/4　細砂質土。ローム土含。白色軽石少量含。しまりあり、粘性なし。
2　にぶい黄褐色土10YR5/4　細砂質土。白色軽石少量含。しまりあり、粘性なし。
3　黄褐色土2.5Y5/4　細砂質土。ローム含。しまりあり、粘性なし。
4　にぶい黄褐色土10YR4/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
5　にぶい黄褐色土10YR4/3　細砂質土。しまりややあり、粘性なし。
6　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土３～４㎝ブロック含。
7　暗褐色土10YR3/3　粘土含砂質土。黄褐色ローム土多量含。しまり・粘性なし。
8　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。１㎜白色軽石少量含。
9　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。
10　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。粘土含。しまりなし、粘性あり。
11　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。粘土含。しまりなし、粘性あり。
12　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまりなし、粘性あり。明黄褐色ローム土ブロック状20%含。
13　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりなし、粘性あり。にぶい黄褐色土ブロック状30%含。
14　黒色土7.5YR2/1　砂含シルト質土。しまりなし、粘性あり。
15　黒褐色土7.5YR2/2　シルト多量含砂質土。しまり・粘性なし。南側ローム土わずか含。
16　黒褐色土7.5YR2/2　砂質土。しまり・粘性なし。
17　褐色土10YR4/6　暗褐色土ブロック少量、黄色・白色軽石微量含。しまり・粘性あり。
18　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
19　黒褐色土10YR2/3　砂粒微量含。しまり・粘性あり。
20　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
21　黒褐色土10YR2/2　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
22　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。
23　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック極多量含。しまり・粘性なし。
24　黒色土10YR2/1　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
25　褐色土10YR4/6　ローム主体。暗褐色土ブロック含。しまり・粘性あり。
26　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。
27　暗褐色土10YR3/4　ローム層状含。しまりあり。床面状にしまる。
28　黄褐色土10YR5/8　ローム主体。黒褐色土ブロック少含。しまり・粘性あり。
29　黒褐色土10YR2/3　砂粒微量含。しまり・粘性あり。

８号墳　C-C′

1　褐色土10YR4/4　細砂質土。しまり・粘性なし。
2　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘土含砂質土。黄褐色ローム土多量含。しまり・粘性なし。
3　暗褐色土10YR3/3　細い砂質土。しまり・粘性なし。
4　褐色土10YR4/4　粗砂含砂質土。しまりあり、粘性なし。２㎜白色軽石少量含。
5　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりなし、粘性あり。
6　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりなし、粘性あり。黄褐色ローム土１㎝ブロック５％含。
7　黒褐色土7.5YR3/2　細砂質土。しまりなし、粘性あり。
8　褐色土10YR4/4　黄色軽石・砂粒微量含。ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
9　黄褐色土10YR5/6　ローム主体。暗褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
10　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック中量含。しまり・粘性あり。
11　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。
12　暗褐色土10YR3/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
13　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
14　黒褐色土10YR3/2　褐色土ブロック多量含。しまり・粘性あり。





0　1：80　2m

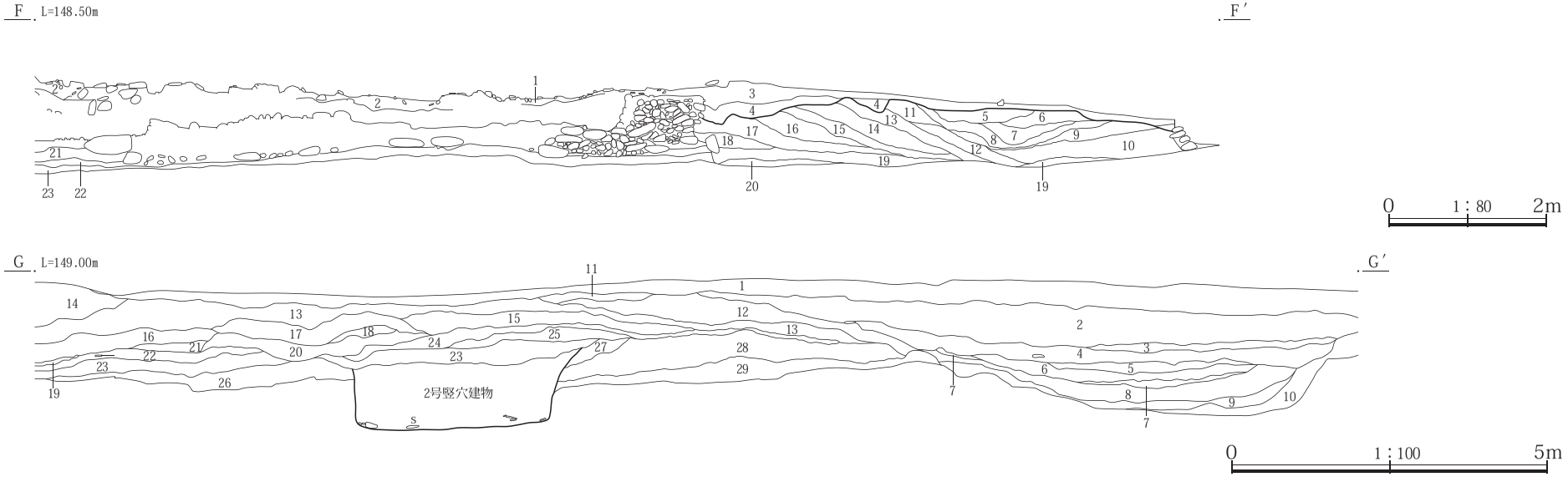
第44図　３区８号墳土層断面図（２）

８号墳　D-D′

1　にぶい黄褐色土10YR5/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。４～６㎝礫多量含。
2　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土３～４㎝ブロック含。
3　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性なし。
4　褐色土10YR4/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。２～３㎜白色軽石少量含。
5　にぶい黄褐色土10YR4/3　細砂質土。しまり・粘性なし。１～２㎜白色軽石少量含。
6　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまりあり、粘性なし。
7　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性なし。
8　黒褐色土7.5YR3/2　細砂質土。しまり・粘性なし。
9　暗褐色土10YR3/4　白色粒子中量、ロームブロック微量含。しまりあり、粘性なし。
10　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック・ローム粒子少量、白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
11　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
12　黒褐色土10YR2/2　ローム粒子・白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
13　黒色土10YR2/1　砂粒極微量含。しまりなし、粘性あり。
14　暗褐色土10YR3/3　黒色土ブロック少量含。しまりなし、粘性あり。縄文埋土か。
15　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。

８号墳　E-E′

1　黄褐色土2.5Y5/4　細砂質土。ローム土混入。白色軽石少量含。しまりあり、粘性なし。
2　黄褐色土2.5Y5/4　細砂質土。ローム土混入。しまりあり、粘性なし。
3　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土３～４㎝ブロック含。
4　黒褐色土2.5Y3/2　粘土多量含シルト質土。しまり・粘性あり。
5　黒色土7.5YR2/1　砂含シルト質土。しまりなし、粘性あり。
6　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。
7　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまりなし、粘性あり。明黄褐色ローム土ブロック状20％含。
8　褐色土10YR4/6　暗褐色土ブロック少量、黄色・白色軽石微量含。しまり・粘性あり。
9　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
10　黒褐色土10YR2/3　ローム粒子微量含。しまり・粘性あり。
11　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。
12　暗褐色土10YR3/4　ローム層状含。しまりあり、床面状にしまる。
13　黒褐色土10YR2/2　ローム粒子極微量含。しまり・粘性あり。
14　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。



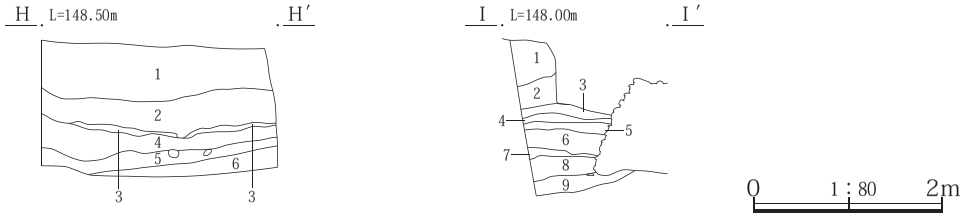
第45図　３区８号墳土層断面図（３）

８号墳　F-F′

1　黄褐色土10YR5/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。４～６cm礫多量含撹乱土。
2　褐色土10YR4/4　細砂質土。しまりあり、粘性なし。２～４cm礫多量含。
3　にぶい黄褐色土10YR5/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。２～３㎜白色軽石２％含。
4　As-A混土
5　黄褐色土10YR5/6　ローム主体。褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
6　褐色土10YR4/4　ロームブロック中量、白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
7　黄褐色土10YR5/8　ローム主体。褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
8　褐色土10YR4/4　ロームブロック・暗褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
9　黄褐色土10YR5/6　ローム主体。褐色・暗褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
10　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
11　暗褐色土10YR3/4　白色粒子少量、ローム粒子微量含。しまり・粘性あり。
12　褐色土10YR4/6　ロームブロック・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。
13　褐色土10YR4/4　ロームブロック極多量含。しまり・粘性あり。
14　褐色土10YR4/4　ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
15　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。
16　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
17　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・ローム粒子・白色粒子少量含。しまりあり、粘性なし。
18　暗褐色土10YR3/3　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
19　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
20　暗褐色土10YR3/3　白色粒子極微量含。しまり・粘性あり。
21　黒褐色土10YR2/3　ローム粒子微量含。しまり・粘性あり。
22　黄褐色土10YR5/8　ローム主体。黒褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
23　黒褐色土10YR2/3　砂粒微量含。しまり・粘性あり。

８号古墳　G-G′

1　にぶい黄褐色土10YR5/4　砂質土。しまり・粘性なし。現耕作土。
2　にぶい黄褐色土10YR5/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。白色軽石少量含。
3　黄褐色土2.5Y5/4　細砂質土。ローム土含。しまりあり、粘性なし。
4　にぶい黄褐色土10YR4/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。１～２㎜白色軽石３％含。
5　黒色土10YR2/1　シルト含砂質土。しまり・粘性なし。上部As-B軽石含。
6　暗褐色砂10YR3/3　As-B軽石含細砂。しまり・粘性なし。
7　As-B
8　黒褐色土7.5YR3/1　粘土含シルト質土。しまりなし、粘性あり。
9　暗オリーブ褐色土2.5Y3/3　シルト質土。しまりあり、粘性なし。１～２㎜白色軽石、明赤褐色砂質土少量含。
10　黄褐色2.5Y5/3　粘土含細砂質土。しまりあり、粘性なし。上部黒褐色土、下部浅黄色ローム土含。
11　オリーブ褐色土2.5Y4/3　ローム土多量含砂質土。しまりなし、粘性あり。
12　オリーブ褐色土2.5Y4/6　ローム土。２～３㎜明赤褐色砂粒少量含。しまり・粘性あり。
13　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土３～４cmブロック含。
14　にぶい黄褐色土10YR5/3　砂質土。しまりあり、粘性なし。２～３cm角礫多量含撹乱土。
15　黒褐色土10YR2/2　粘土含細砂質土。しまり・粘性なし。
16　暗オリーブ褐色土2.5Y3/3　粘土多量含砂質土。しまりなし、粘性あり。As-B軽石混入。
17　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘土含砂質土。黄褐色ローム土多量含。しまり・粘性なし。
18　黒褐色土10YR2/3　粘土含砂質土。黄褐色ローム土３～４cmブロック10%含。しまり・粘性なし。
19　オリーブ褐色土2.5Y4/3　As-B軽石多量含砂質土。しまり・粘性なし。
20　黒色土10YR2/1　砂含シルト質土。しまりなし、粘性あり。黄褐色土３～４cmブロック10%含。
21　黒褐色土2.5Y3/2　粘土多含シルト質土。しまり・粘性あり。
22　黒褐色土10YR3/2　粘土微含シルト質土。しまり・粘性あり。
23　黒色土7.5YR2/1　砂含シルト質土。しまりなし、粘性あり。
24　暗褐色土10YR3/4　粘土少量含細砂質土。黄褐色ローム土多量含。しまり・粘性なし。
25　暗褐色土7.5YR3/3　粘土含砂質土。しまり・粘性なし。
26　黒褐色土7.5YR2/2　シルト多量含砂質土。しまり・粘性なし。南側ローム土含。
27　暗褐色土10YR3/4　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
28　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・黄色軽石少量含。しまり・粘性あり。
29　黄褐色ローム層

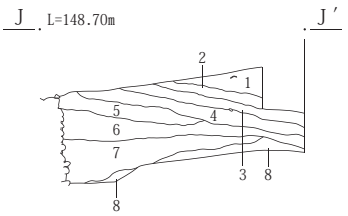


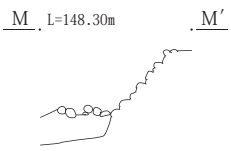
第46図　３区８号墳土層断面図（４）

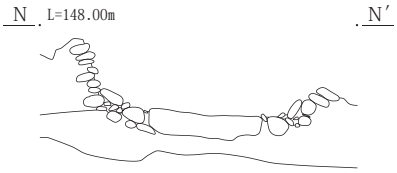
８号墳　H-H′
1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。
2　にぶい黄褐色土10YR5/4　砂質土。しまりあり、粘性なし。２～３㎜白色軽石２％含。
3　にぶい黄褐色土10YR4/3　細砂質土。しまりあり、粘性なし。１～２㎜白色軽石少量含。
4　褐色土10YR4/4　砂質土。しまり・粘性あり。明黄褐色ローム土１～５㎝ブロック20％含。
5　明黄褐色土10YR6/6　ローム土。しまり・粘性あり。にぶい黄褐色砂質土40％含。
6　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりなし、粘性あり。ローム土・明黄褐色ローム土５％含。

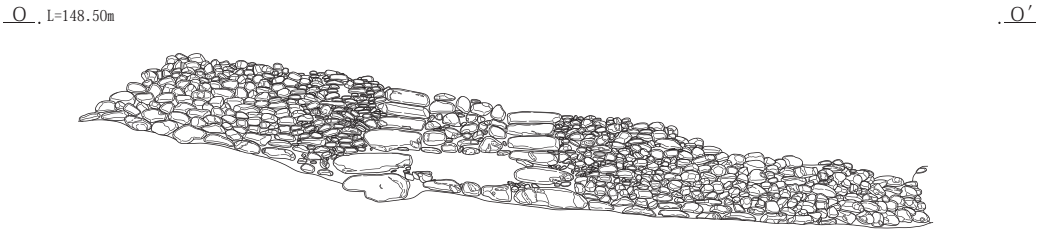
８号墳　I-I′
1　黒褐色土10YR2/3　As-A中量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　砂粒微量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック少量含。しまり・粘性なし。
4　黒褐色土10YR2/2　ロームブロック少量含。しまり・粘性なし。
5　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック多量含。しまりなし、粘性あり。
6　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック極多量含。しまり・粘性なし。
7　黒色土10YR2/2　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
8　褐色土10YR4/6　ローム主体。暗褐色土ブロック含。しまり・粘性あり。
9　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

８号墳　J-J′
1　暗褐色土10YR3/4　白色粒子中量、ロームブロック微量含。しまりあり、粘性なし。
2　褐色土10YR4/4　ローム層状多量含。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック・ローム粒子少量、白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック中量、白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
5　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土10YR2/2　ローム粒子・白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
7　黒色土10YR2/1　砂粒極微量含。しまりなし、粘性あり。
8　暗褐色土10YR3/3　黒色土ブロック少量含。しまりなし、粘性あり。縄文埋土か。





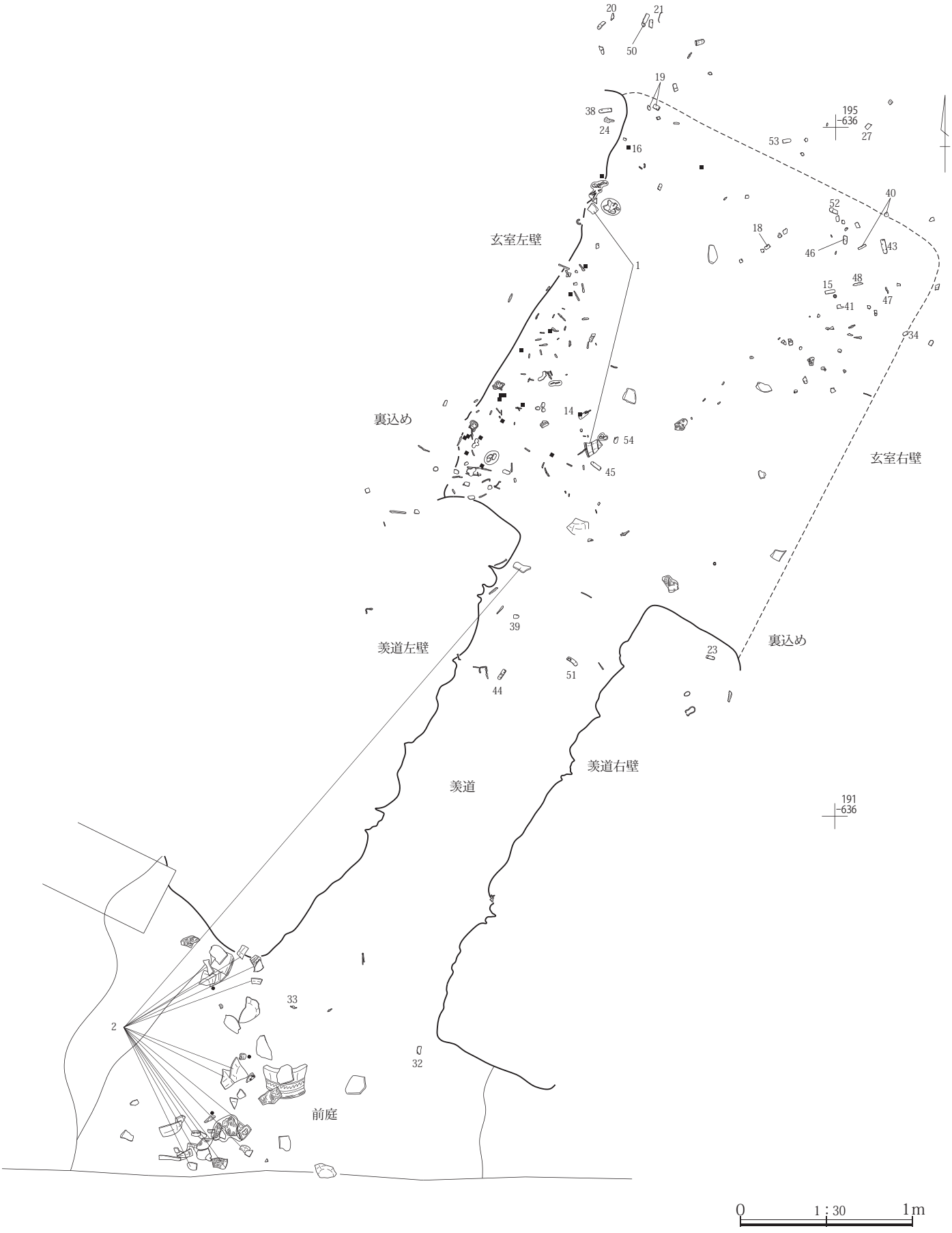




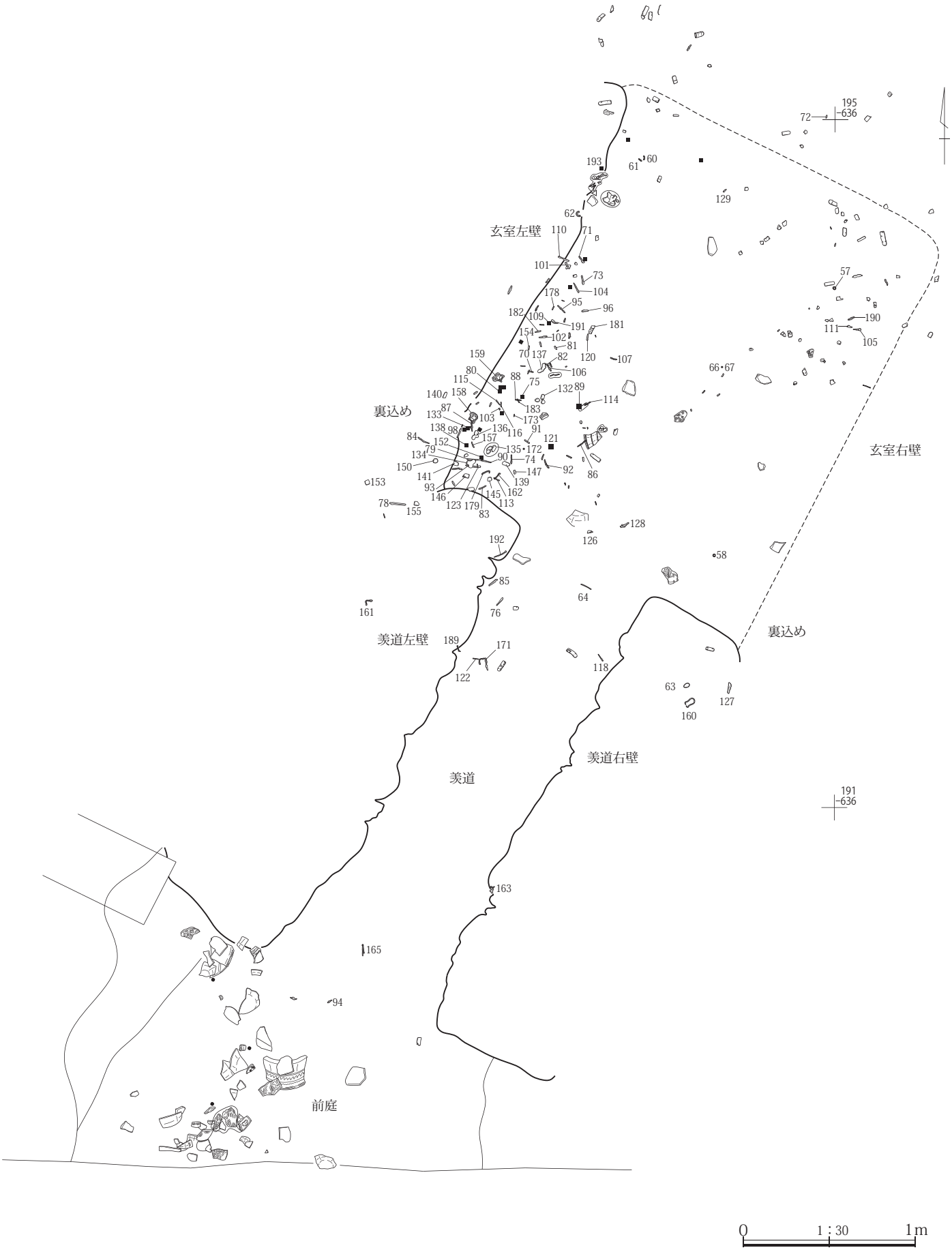
0　1：80　2m

第47図　３区８号墳土層断面図（５）

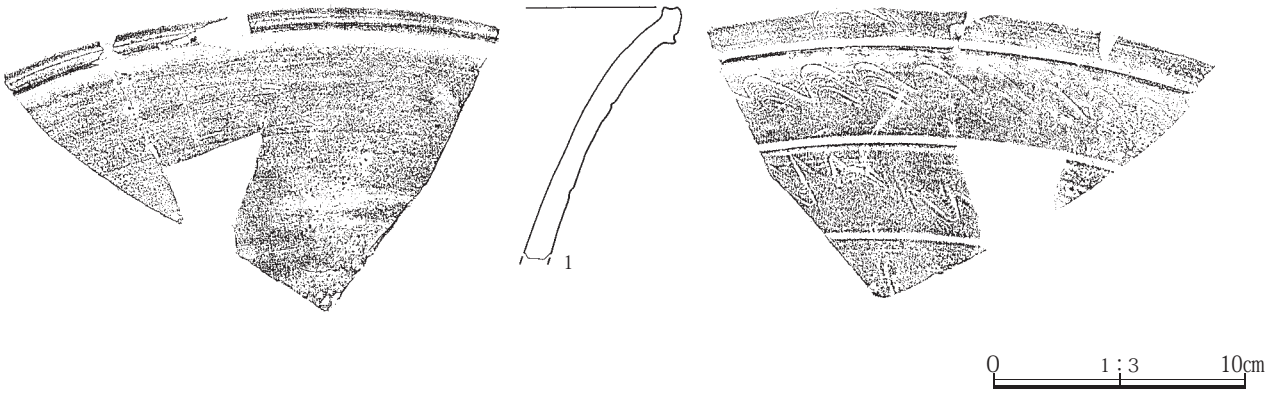
第48図　３区８号墳石室

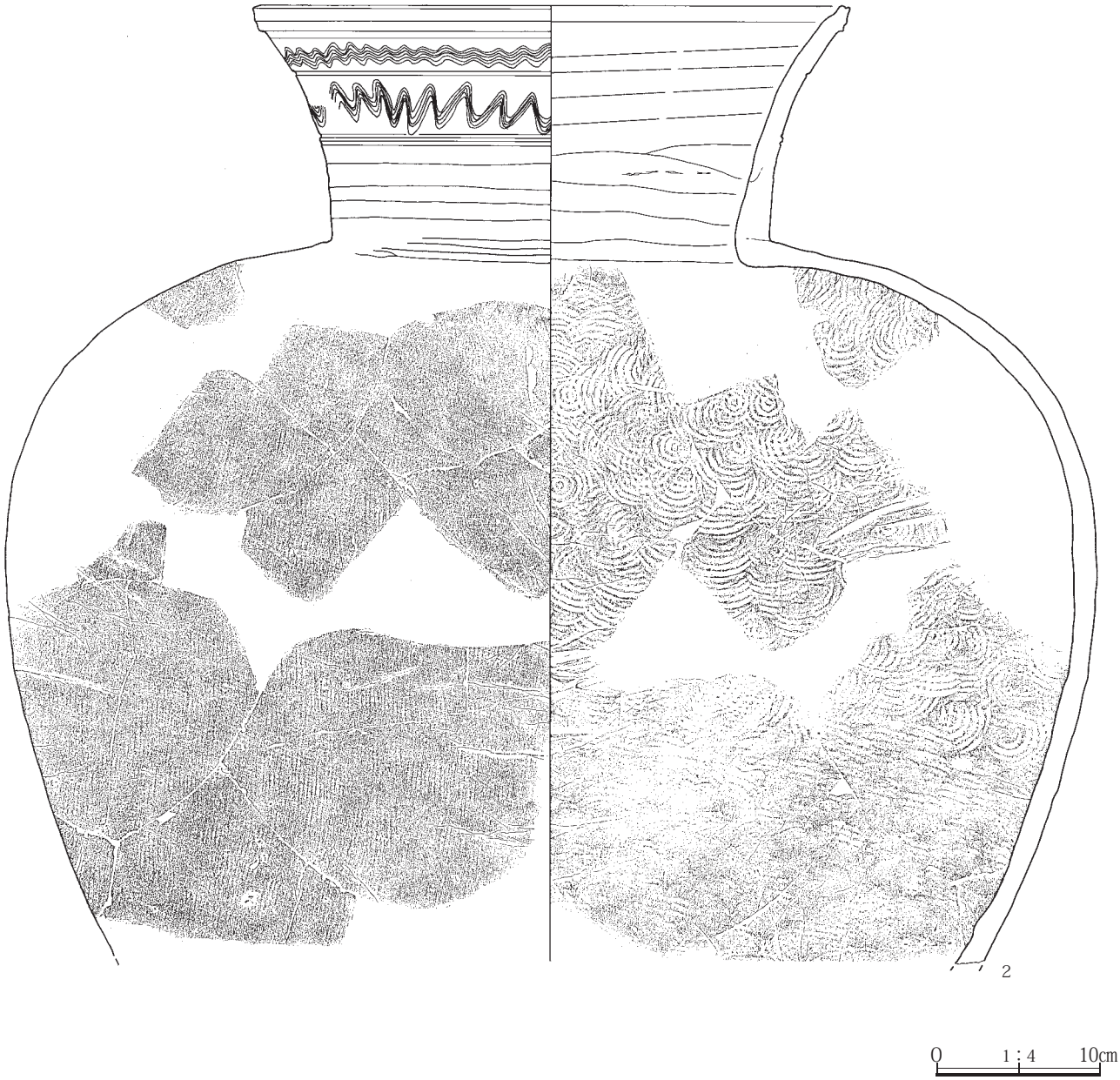


第49図　３区８号墳土器・小札出土位置図

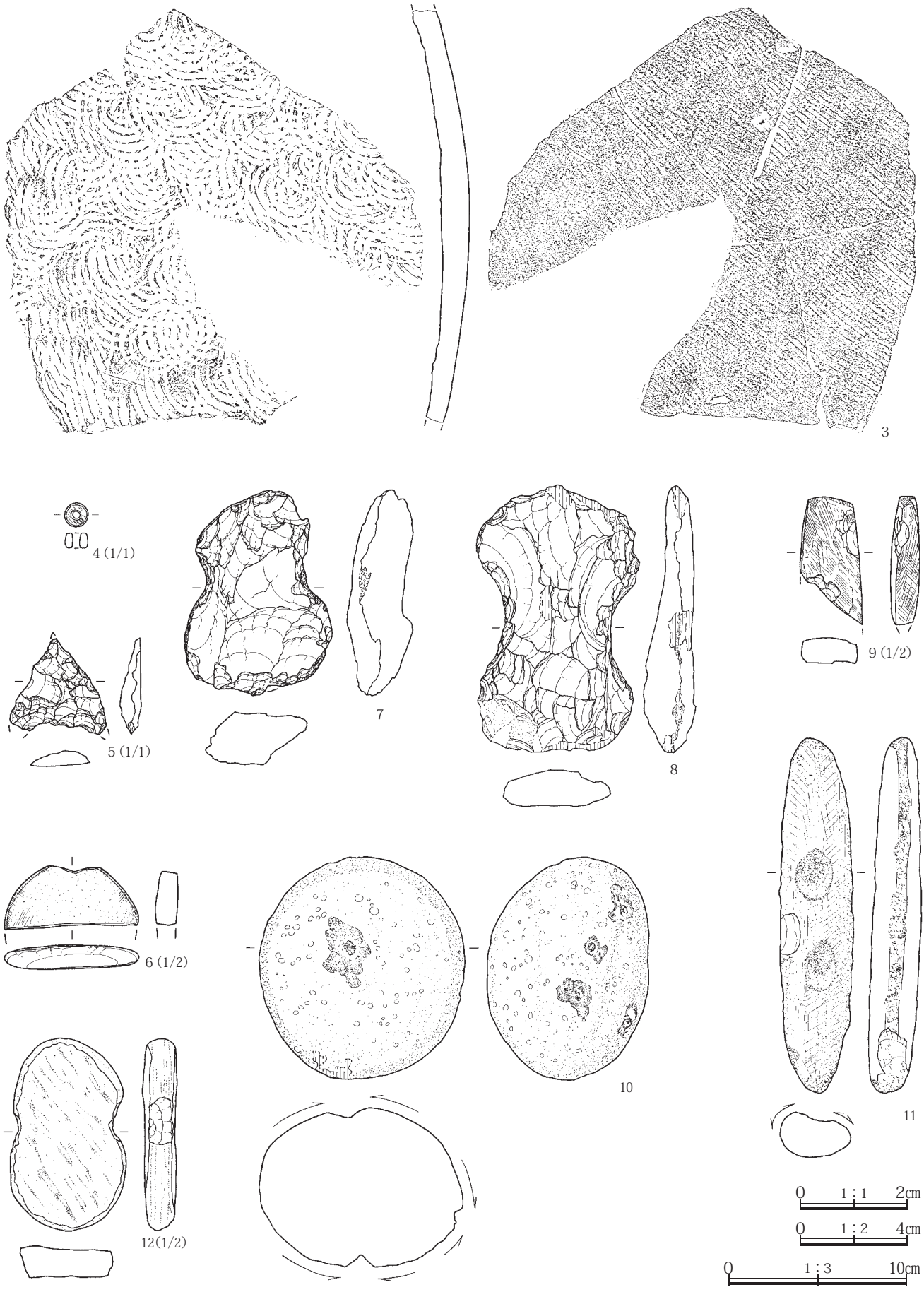


第50図　３区８号墳金属器出土位置図

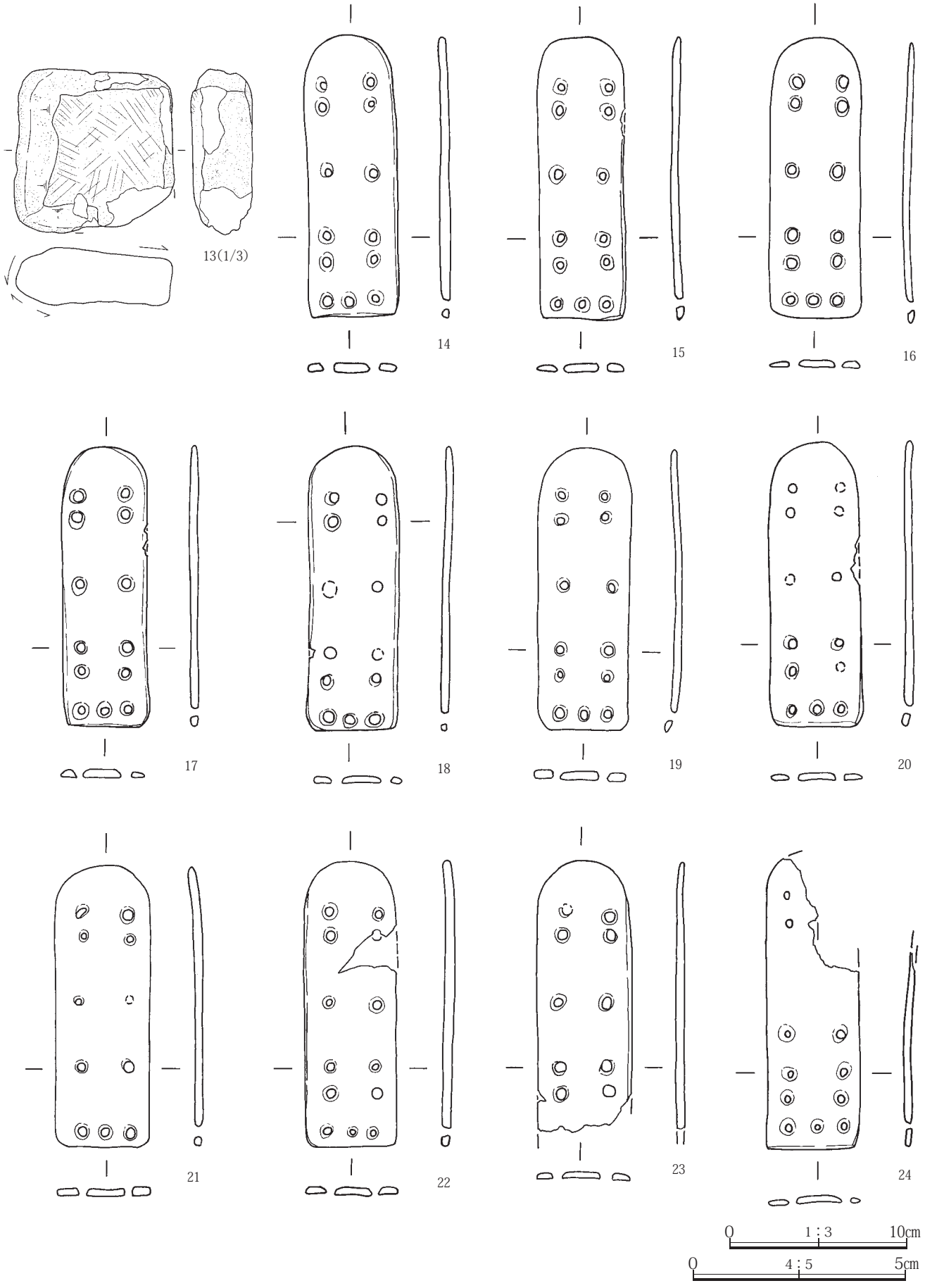




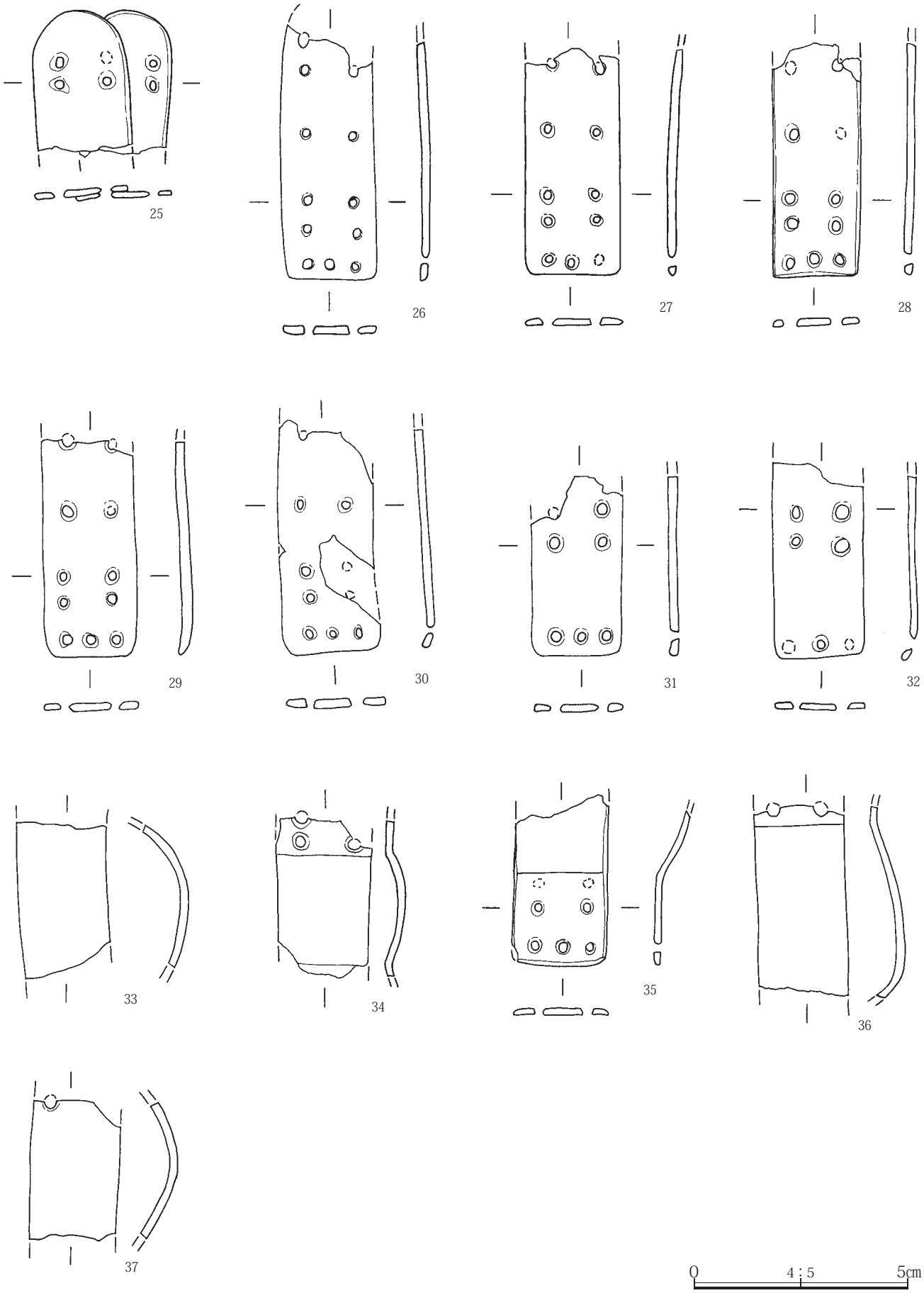
第51図　３区８号墳出土遺物（１）



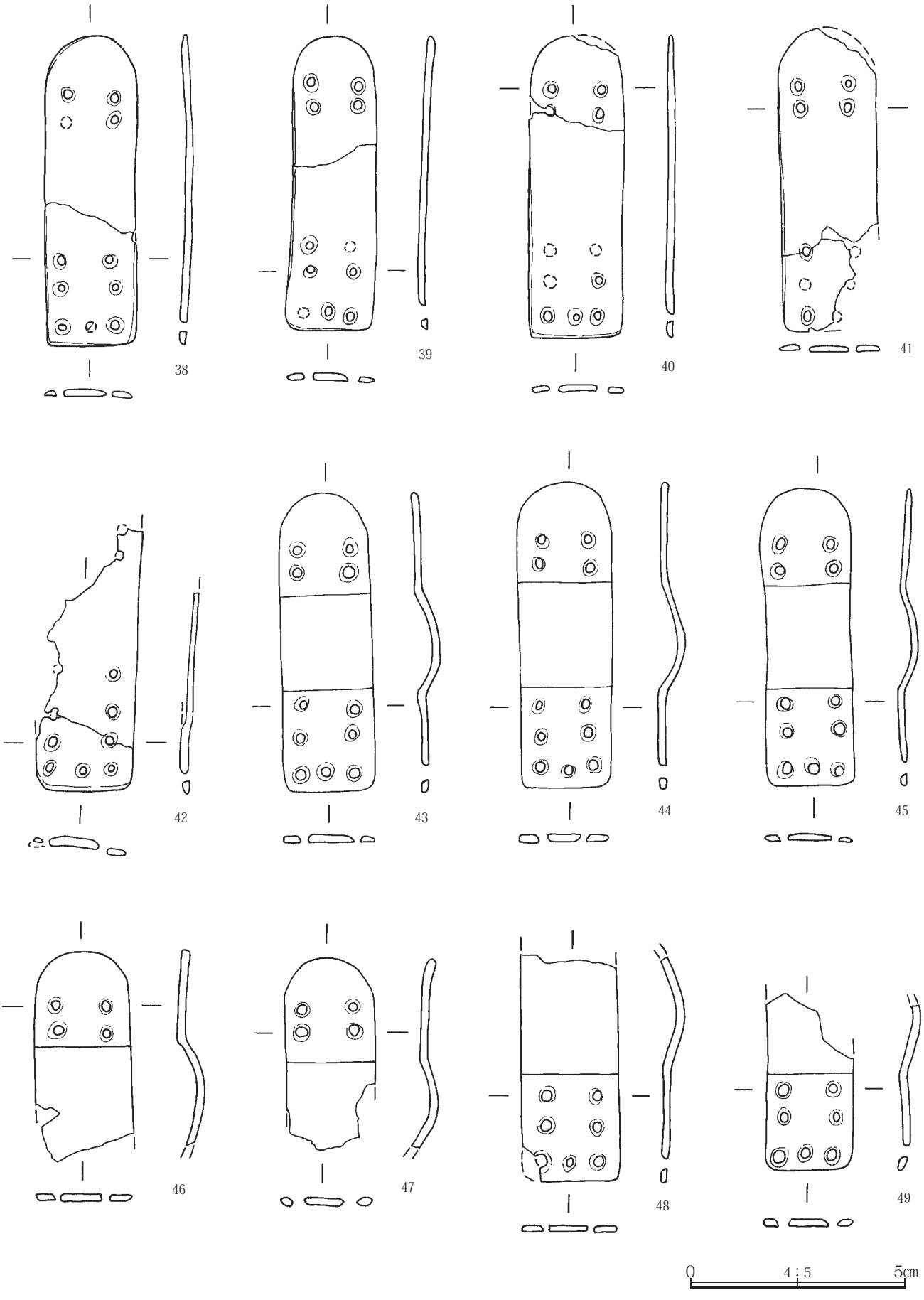
第52図　３区８号墳出土遺物（２）



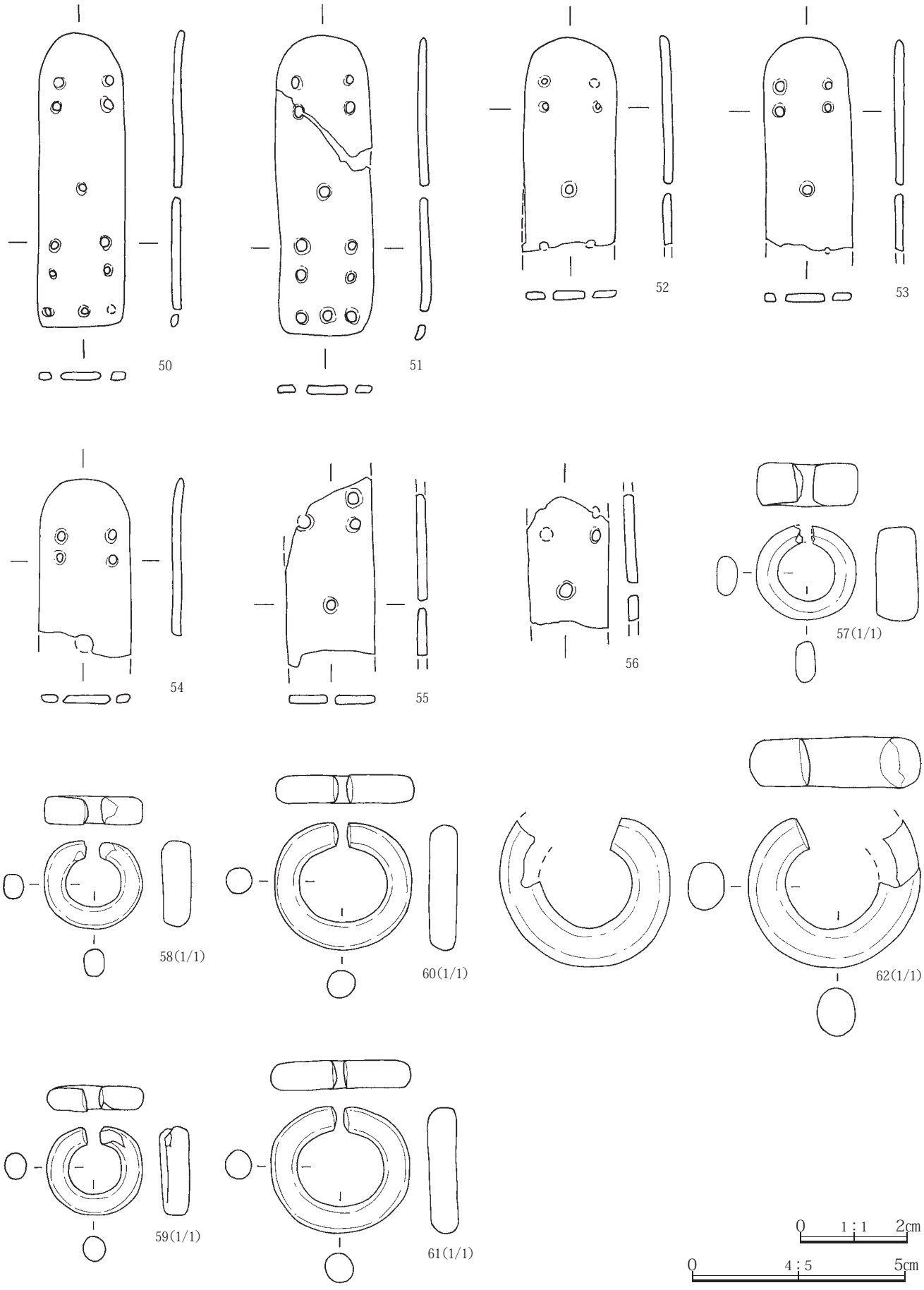
第53図　３区８号墳出土遺物（３）



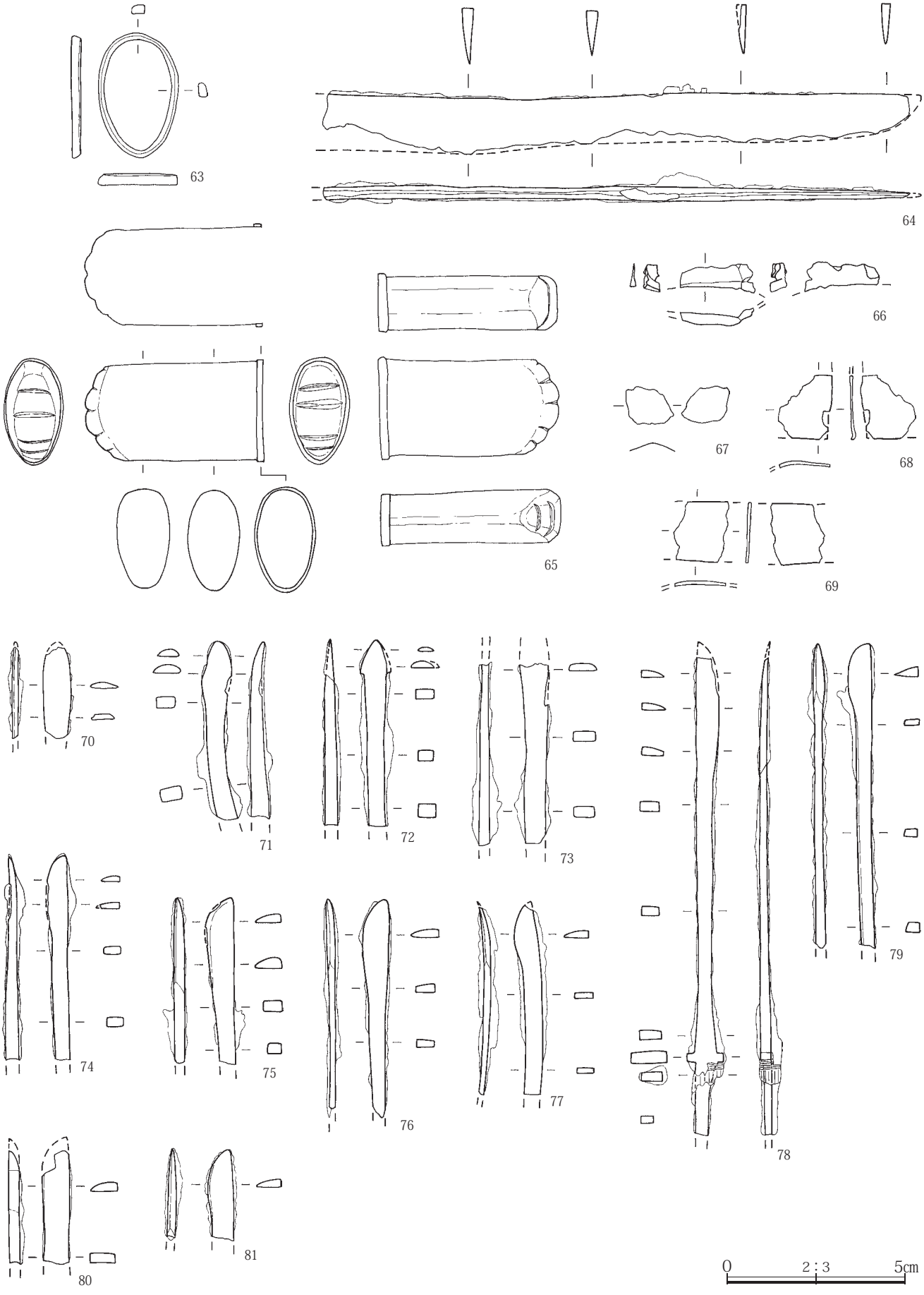
第54図　３区８号墳出土遺物（４）



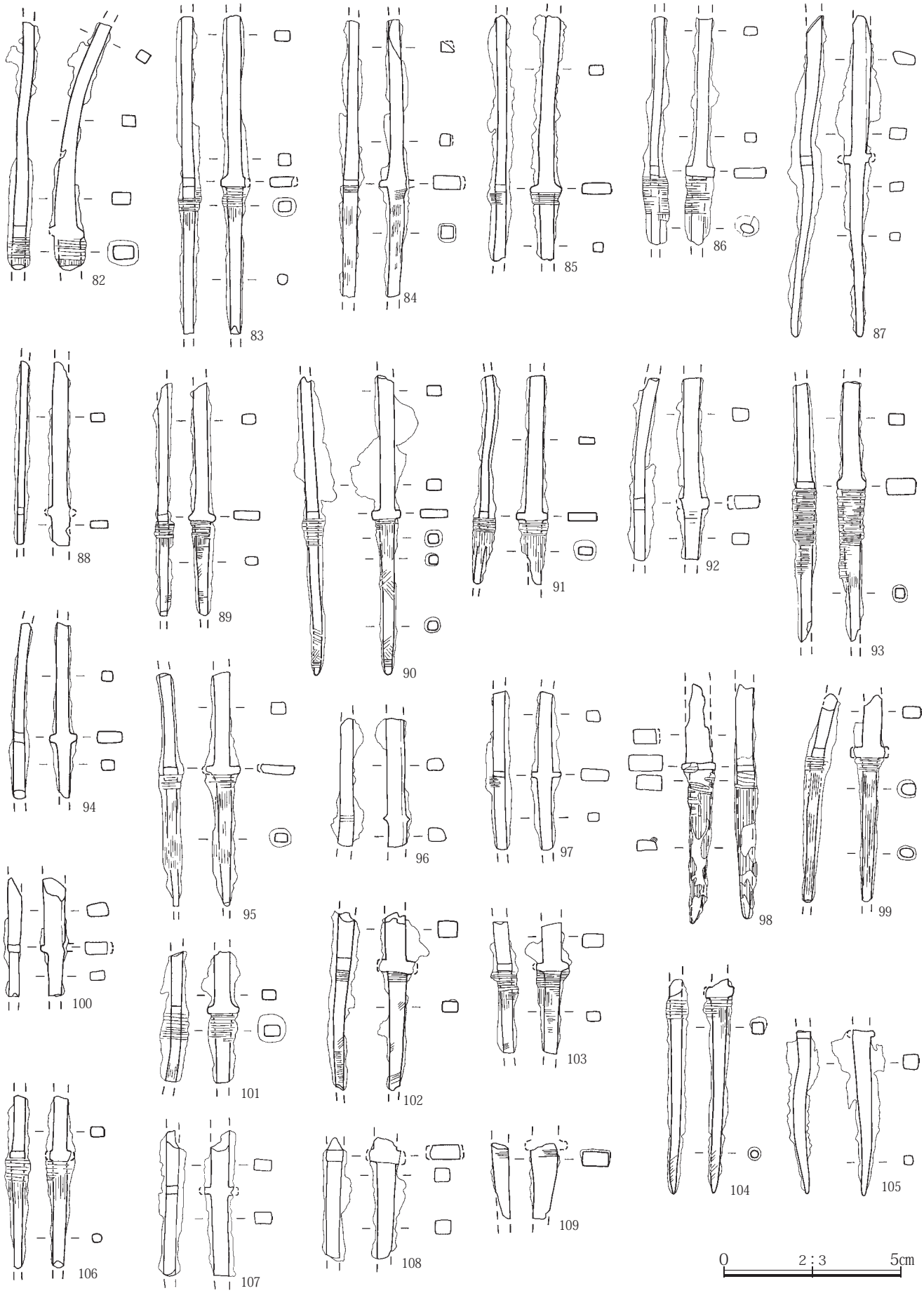
第55図　３区８号墳出土遺物（５）



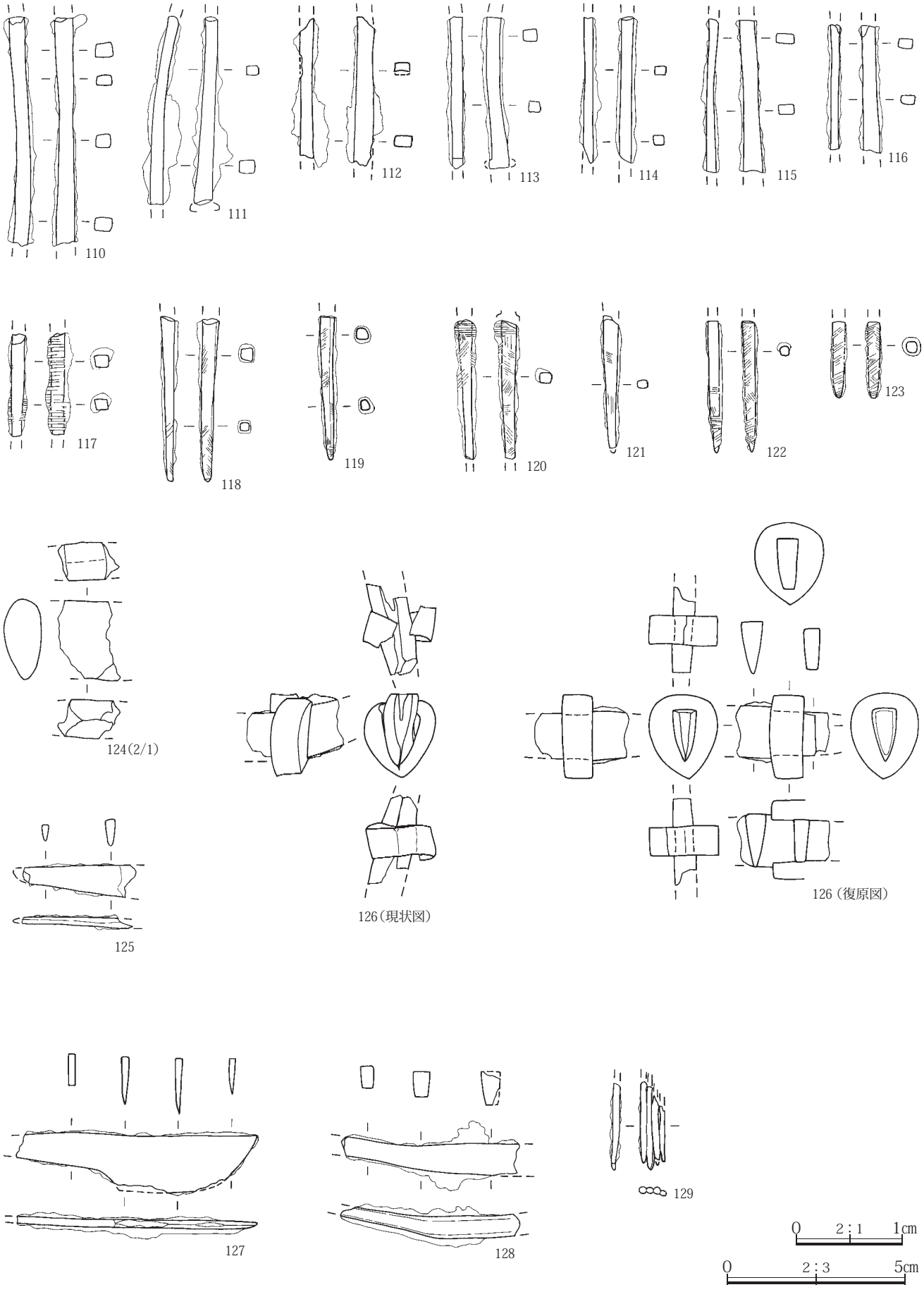
第56図　３区８号墳出土遺物（６）



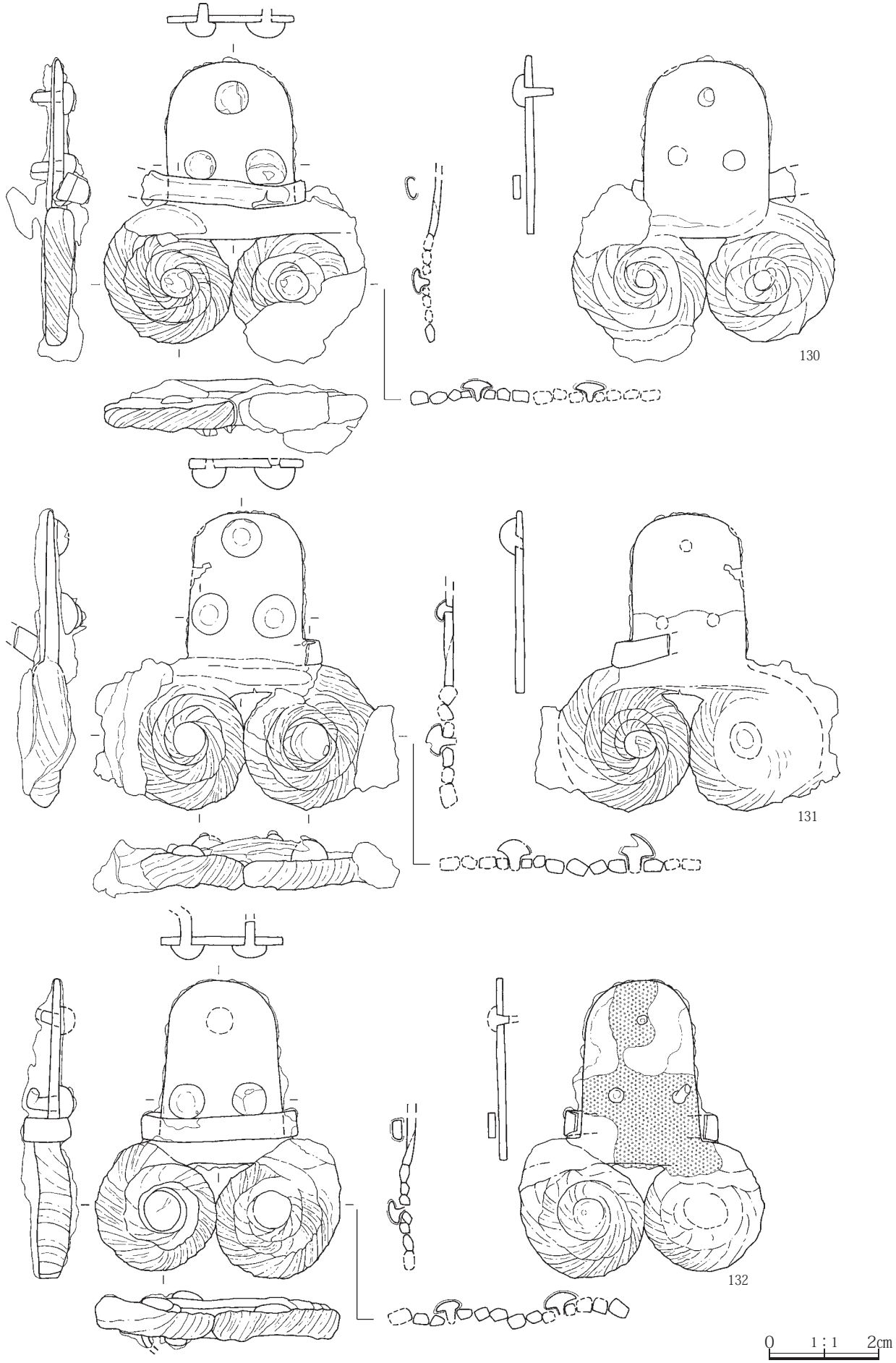
第57図　３区８号墳出土遺物（７）



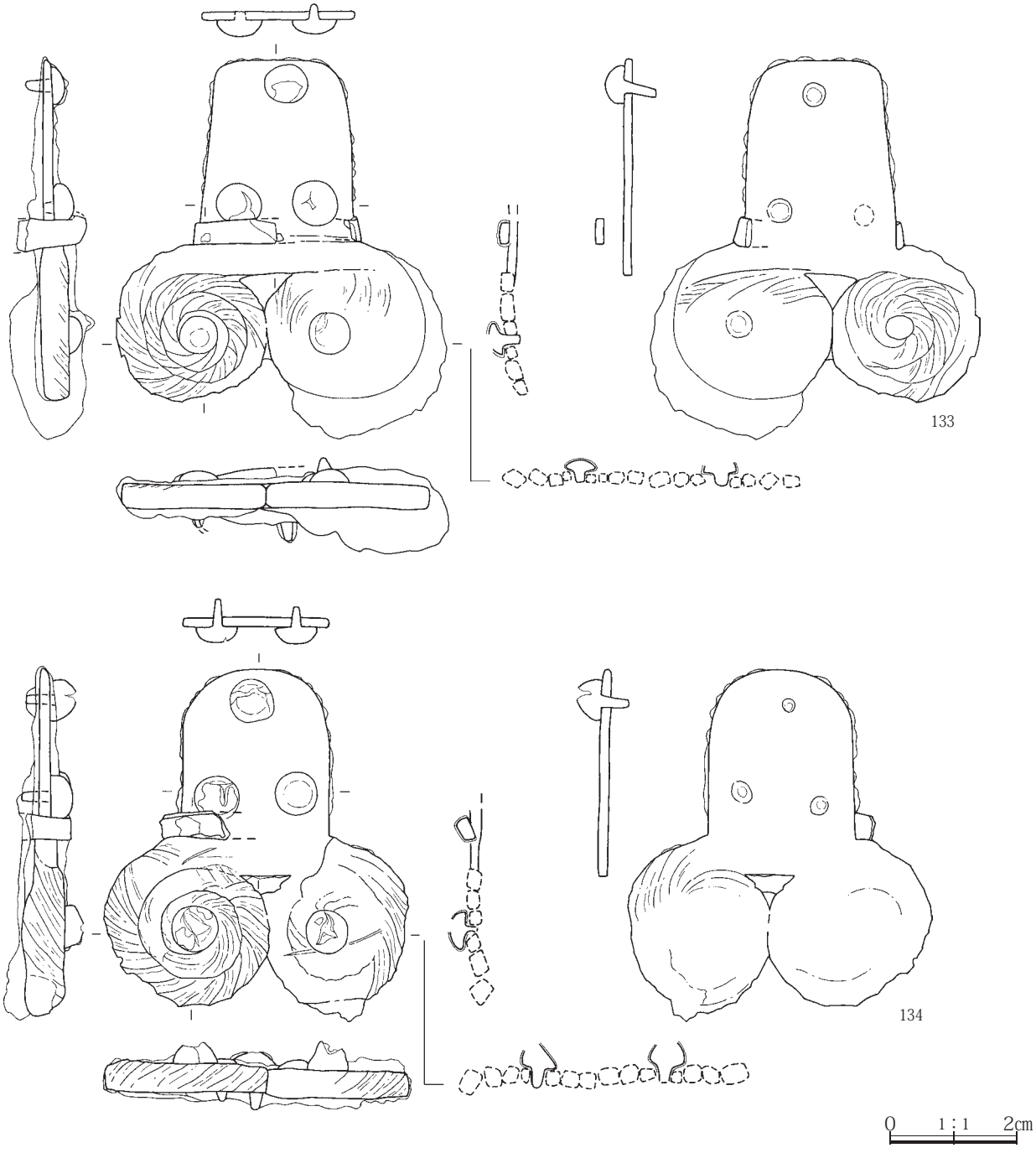
第58図　３区８号墳出土遺物（８）



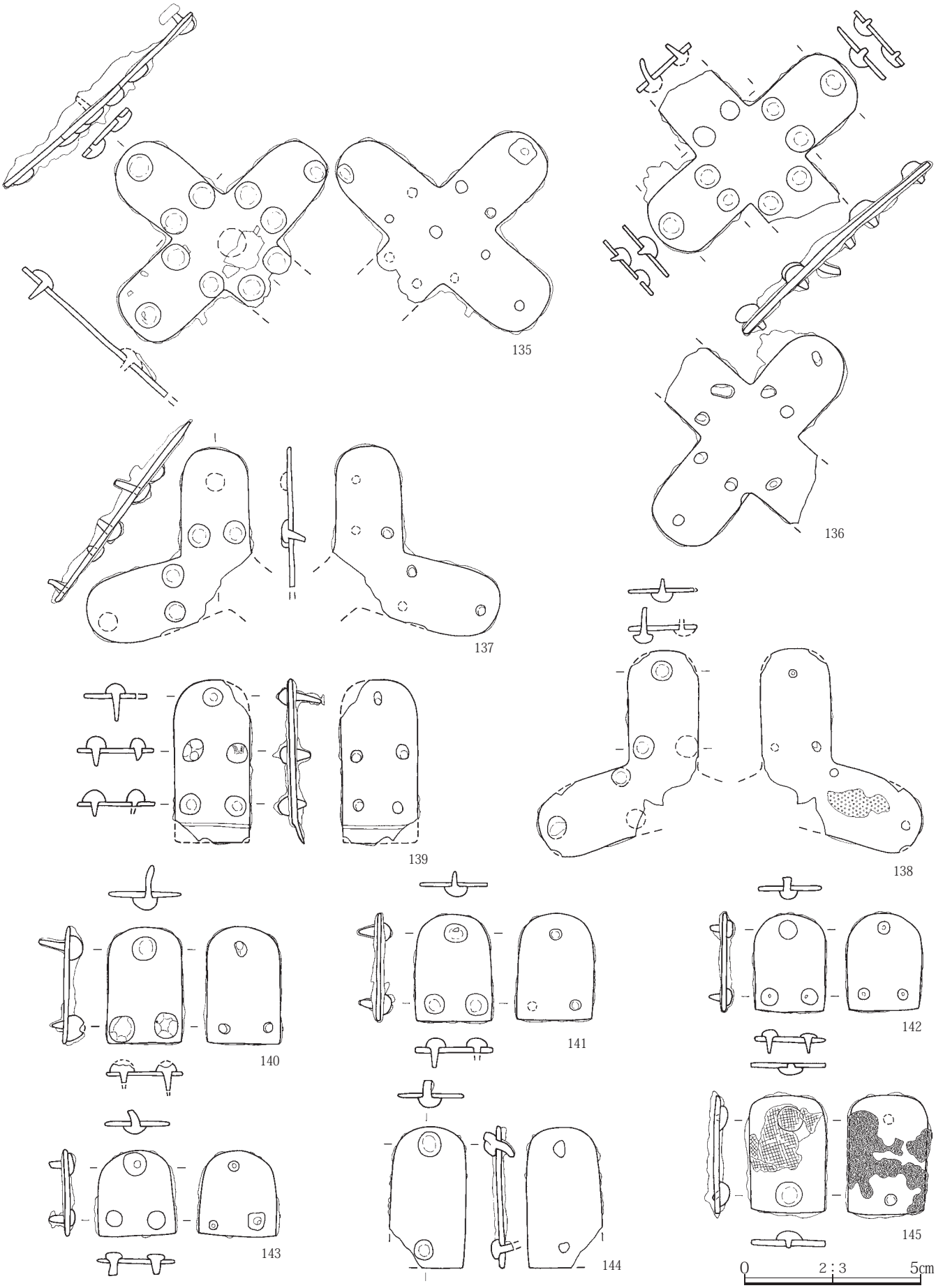
第59図　３区８号墳出土遺物（９）



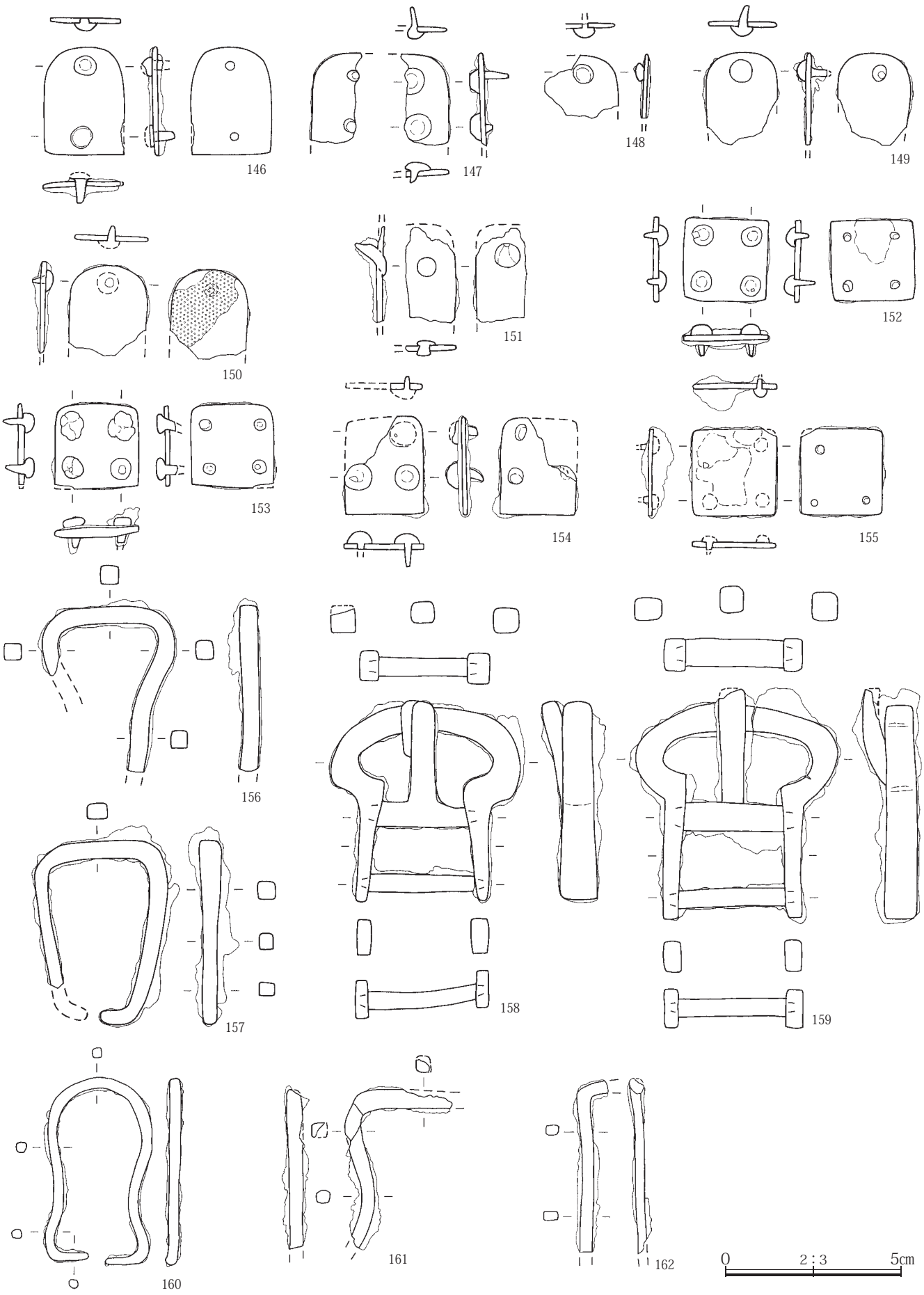
第60図　３区８号墳出土遺物(10)



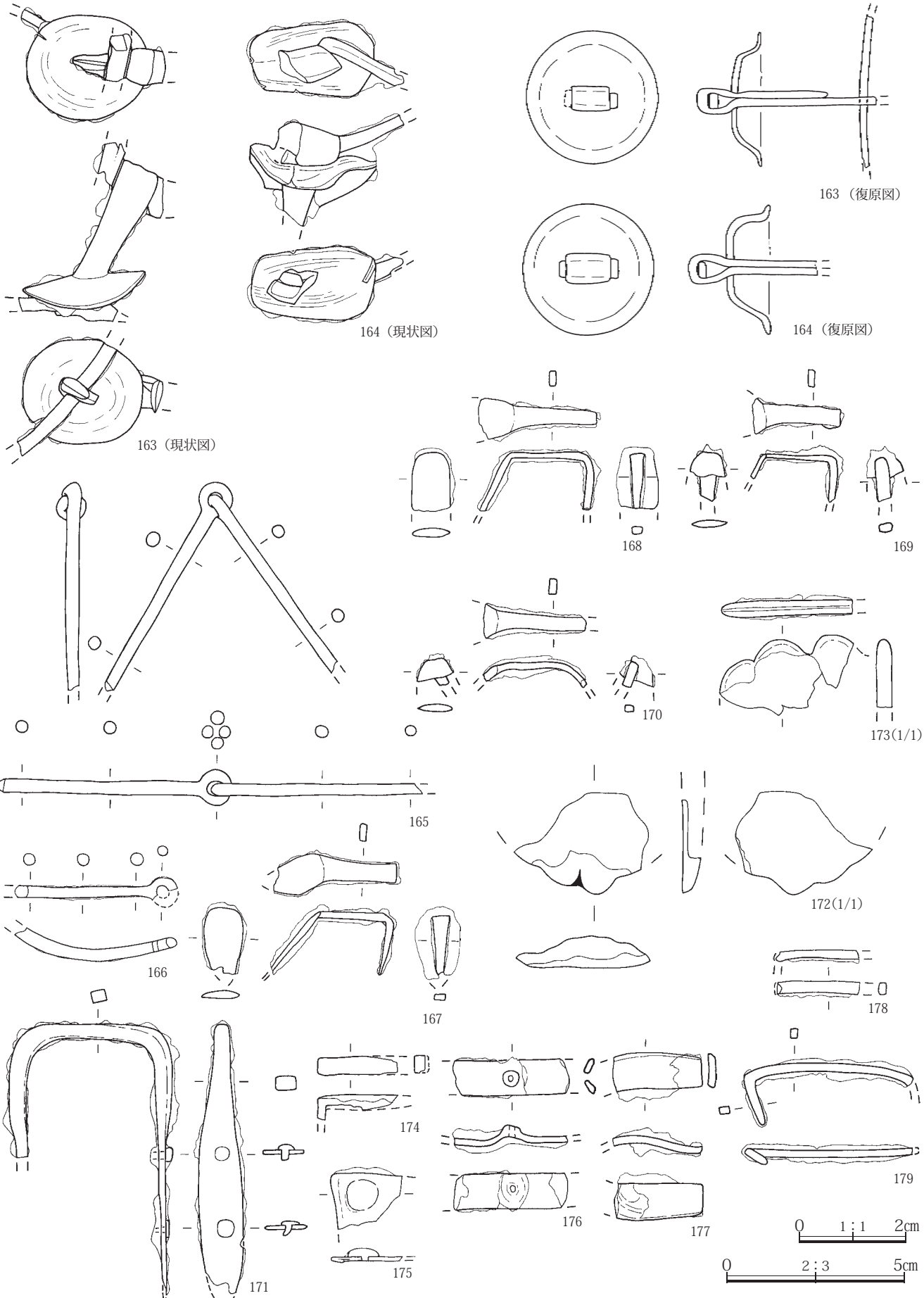
第61図　３区８号墳出土遺物(11)



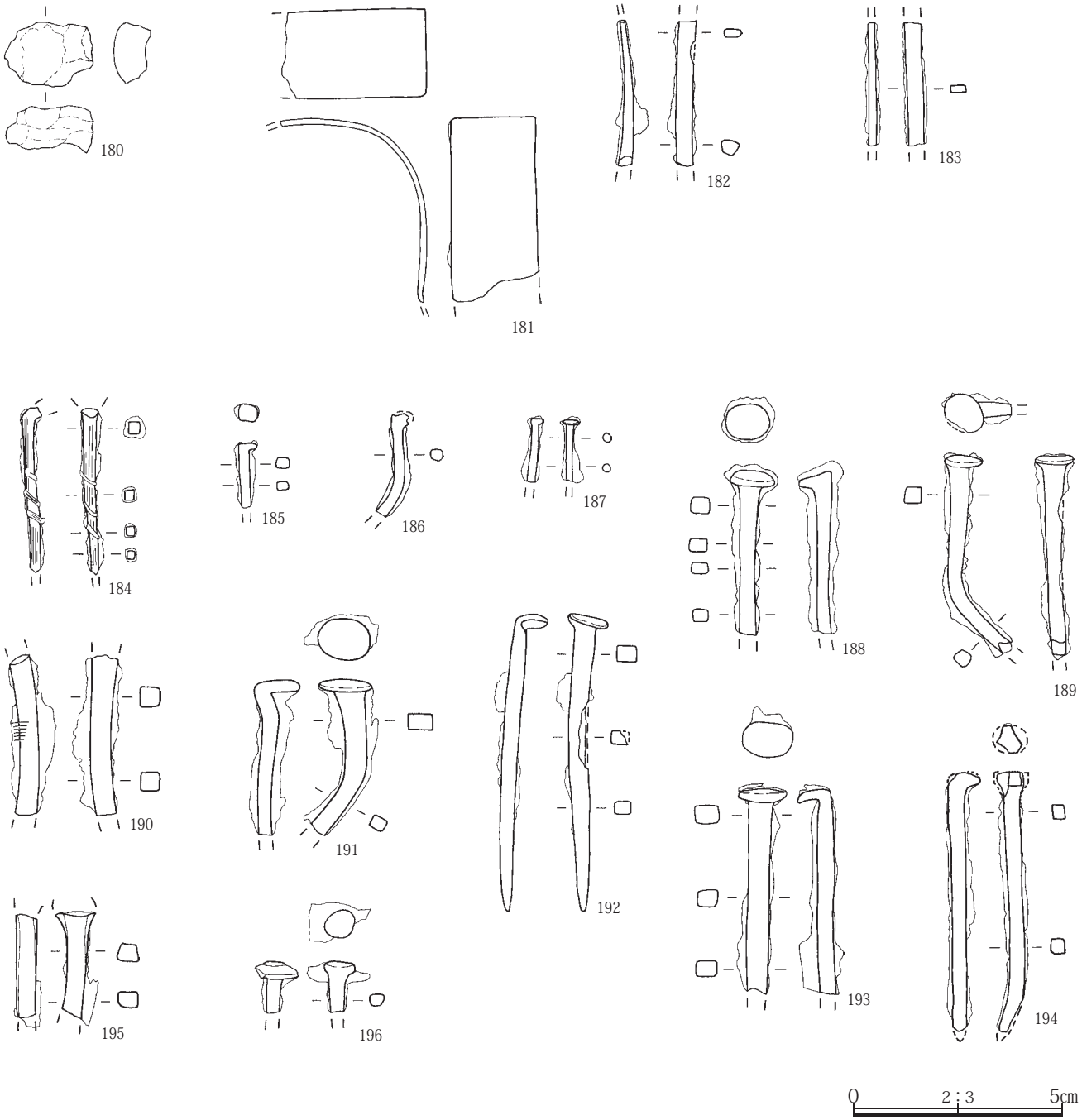
第62図　３区８号墳出土遺物(12)



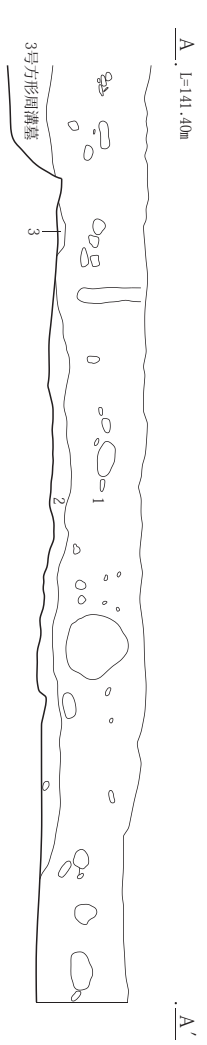
第63図　３区８号墳出土遺物(13)



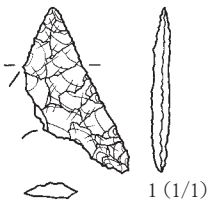
第64図　３区８号墳出土遺物(14)

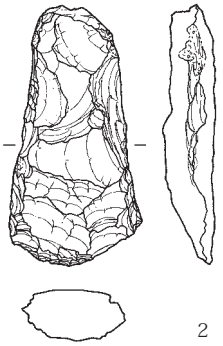


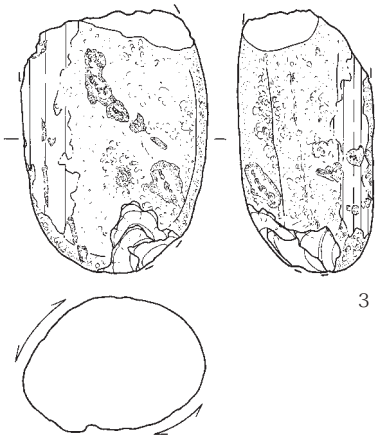
第65図　３区８号墳出土遺物(15)



10号墳　A-A′
1　暗褐色土10YR3/3　As-A多量含。しまりあり・粘性なし。
2　黒褐色土10YR2/3　As-A多量含。しまりあり・粘性なし。
3　黒褐色土10YR2/3　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。







第66図　２区10号墳・出土遺物

２．方形周溝墓

方形周溝墓は２・３区で古墳構築時に壊されているものも含め、４基が検出された。時期は４基ともに古墳時代初頭から前期に比定される。

１号方形周溝墓は８号墳の下に確認され、北西周溝底面に壺棺墓が確認された。２号方形周溝墓から小形坩に脚が付けられたような土師器高杯が出土している。

３区１号方形周溝墓(第67～70図・第５表・PL.44・84・85)

位　　置　X=30188～200　Y=-80632～640

重複遺構　１・２・３号竪穴建物と重複する。本方形周溝墓が新しい。

形　　状　不明　　**主軸方位**　N-25°-E

規　　模　南北長11.0m　東西長北辺(2.20)m
溝幅最長1.87m　最短1.12m
深さ　最深0.87m　最浅0.74m

埋没土層　褐色土にローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物　土師器坩(１)、壺(３)、台付甕(２)、他に石鏃(４)、打製石斧(５～７)、磨製石斧(８)、砥石(10・11)、凹石(９)、刀子(12)が出土している。

所　　見　本遺構は３棟の縄文時代竪穴建物と重複している。南北方向のほぼ中央溝底部に土坑が掘られ、土坑底面の南壁寄りで中から壺(３)が出土している。壺は横位の状態で出土し、人骨等は確認されていない。壺の頸は細く再葬墓の可能性が考えられる。台付甕(２)は口縁部だけが確認できていない。時期は坩、壺、S字状口縁台付甕の様相から４世紀初頭～前期と考えられる。

２区２号方形周溝墓(第71・72図・第５表・PL.44・45・85)

位　　置　X=30133～146　Y=-80603～614

重複遺構　５・７号墳、３号溝、14号土坑、１号集石と重複する。本方形周溝墓は５・７号墳、３号溝より旧く、１号集石より新しい。14号土坑との関係は不明である。

形　　状　方形　　**主軸方位**　N-43°-W

規　　模　西側南北長8.50m　東側南北長(6.00)m
北側東西7.00m　　南側東西長(4.00)m
溝幅最長1.60m　　最短1.08m
深さ　最深1.09m　最浅0.59m

埋没土層　白・黄色粒、ローム粒、ロームブロックを含む暗・黒褐色土。

出土遺物　高杯(１)、壺(２)、石皿(３)、石棒(４)の破片が出土している。

所　　見　本方形周溝墓は南北のコーナーは切れていないが、東西コーナー部は東が電柱の下に入り、西は５号墳、３号溝に切られている。このため方形に巡るか、東西どちらかが切れるものかは不明である。出土遺物の中から珍しい高杯(１)が出土している。杯部は小形坩に脚を付けたような土器である。粘土のうちに脚を下から突き刺し、内面底部の粘土を上から平らに調整している。外来土器と高杯が融合したものと考えられる。

２区３号方形周溝墓(第73図・第５表・PL.45)

位　　置　X=30170～175　Y=-80591～594

重複遺構　７号墳と重複する。本方形周溝墓が旧い。

形　　状　不明　　**主軸方位**　N-31°-E

規　　模　南北長(4.40m)　東西長(2.20m)
幅長1.32m　深さ0.44m～0.56m

埋没土層　白色粒多量、ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物　図化できる遺物は出土しなかった。

所　　見　本３号方形周溝墓は南東部で７号墳に一部壊されている。北東部は調査区域外に延び、南西部は７号古墳の周溝に壊され、溝の一部しか確認されていない。出土遺物、形状は不明のため、時期は不明である。

２区４号方形周溝墓(第74・75図・第5表・PL.45・85)

位　　置　X=30121～135　Y=-80609～620

重複遺構　４号溝と重複する。本方形周溝墓が新しい。

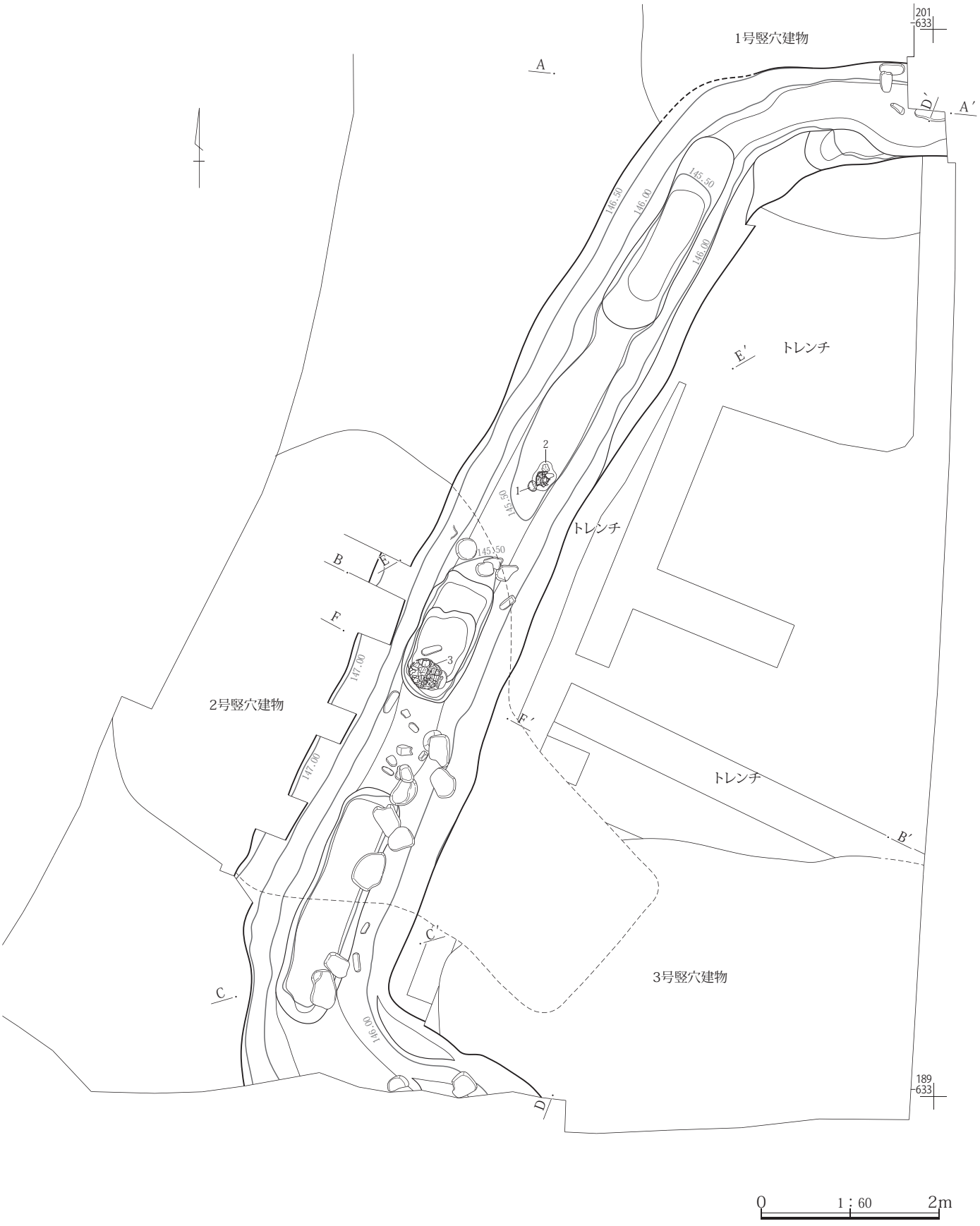
形　　状　方形　　**主軸方位**　N-52°-E

規　　模　南北長11.0m　北側東西長(8.50)m
南側東西長(3.00)m
溝幅最長2.10m　最短1.25m
最深0.86m　最浅0.50m

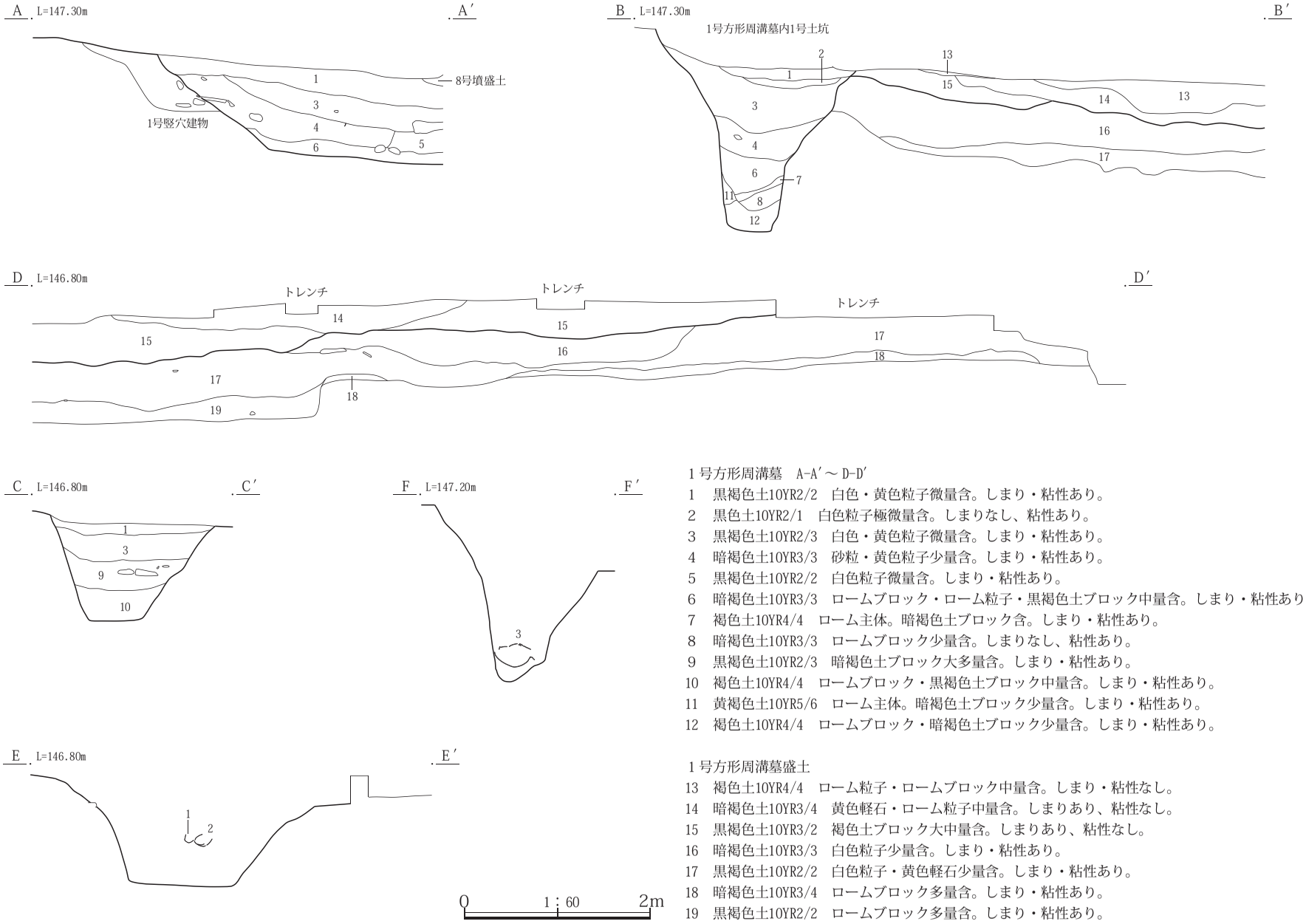
埋没土層　白･黄色粒､ローム粒､ロームブロックを含む。

出土遺物　石鏃(１)、打製石斧(２)、二次加工のある剥片(３)、砥石(４)が出土している。

所　　見　本方形周溝墓は３方向の溝が確認されたが、出土遺物はほとんどが小破片のため、形になる土器が確認されていない。このため時期は不明である。



第67図　３区１号方形周溝墓



1号方形周溝墓　A-A′～D-D′

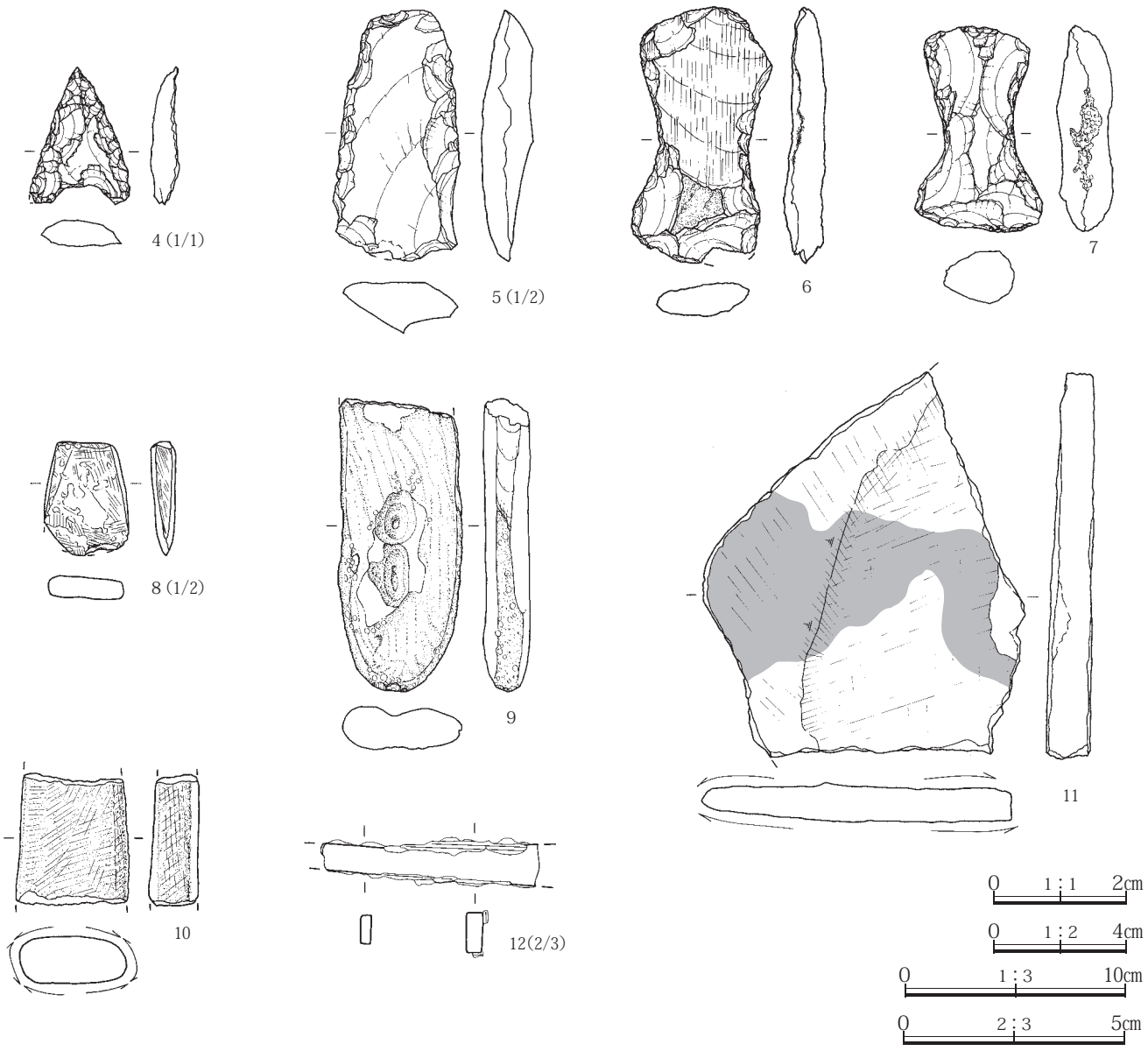
1　黒褐色土10YR2/2　白色・黄色粒子微量含。しまり・粘性あり。
2　黒色土10YR2/1　白色粒子極微量含。しまりなし、粘性あり。
3　黒褐色土10YR2/3　白色・黄色粒子微量含。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土10YR3/3　砂粒・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土10YR2/2　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
6　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・ローム粒子・黒褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
7　褐色土10YR4/4　ローム主体。暗褐色土ブロック含。しまり・粘性あり。
8　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック少量含。しまりなし、粘性あり。
9　黒褐色土10YR2/3　暗褐色土ブロック大多量含。しまり・粘性あり。
10　褐色土10YR4/4　ロームブロック・黒褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
11　黄褐色土10YR5/6　ローム主体。暗褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
12　褐色土10YR4/4　ロームブロック・暗褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

1号方形周溝墓盛土

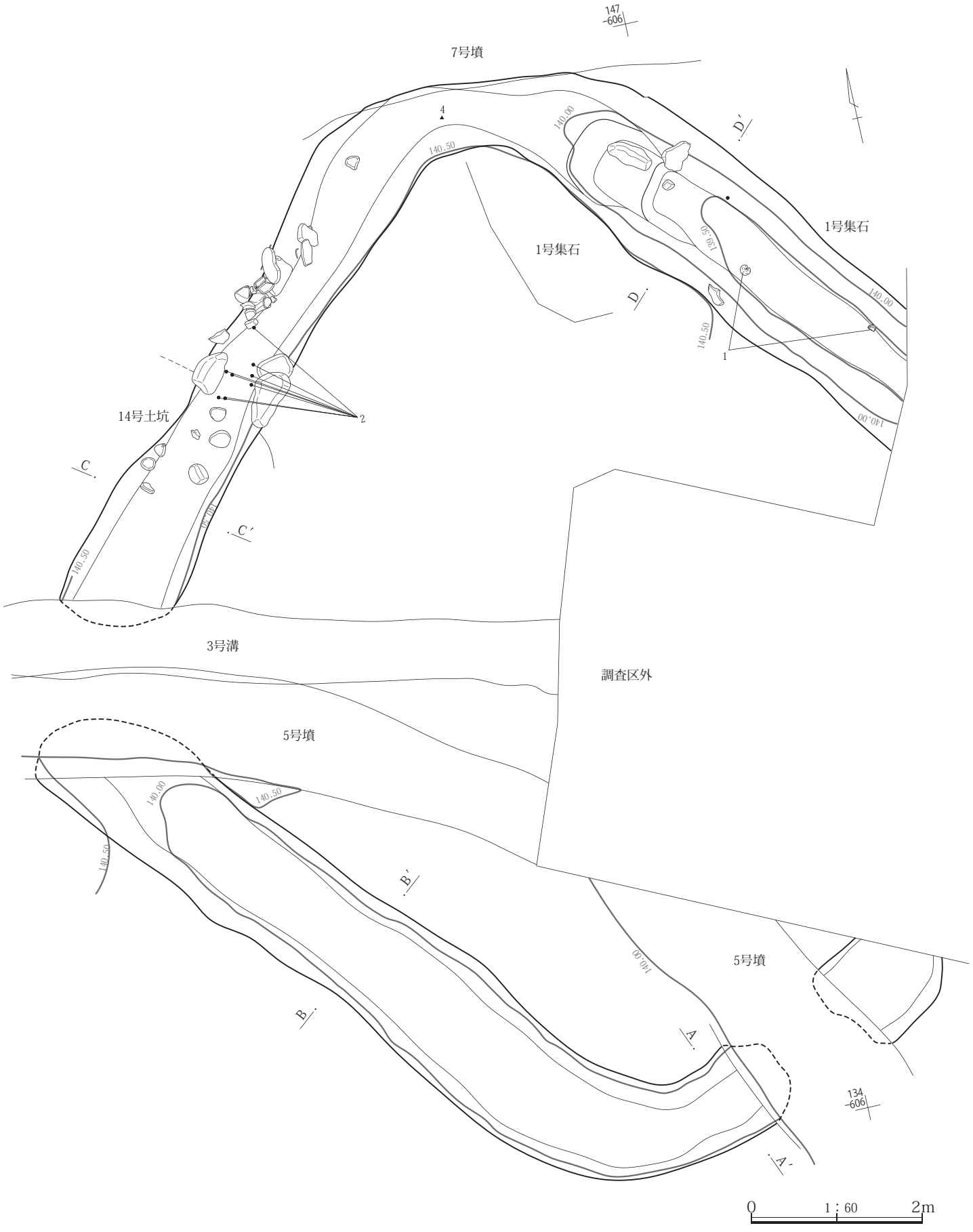
13　褐色土10YR4/4　ローム粒子・ロームブロック中量含。しまり・粘性なし。
14　暗褐色土10YR3/4　黄色軽石・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
15　黒褐色土10YR3/2　褐色土ブロック大中量含。しまりあり、粘性なし。
16　暗褐色土10YR3/3　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
17　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・黄色軽石少量含。しまり・粘性あり。
18　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。
19　黒褐色土10YR2/2　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

第68図　３区１号方形周溝墓土層断面図

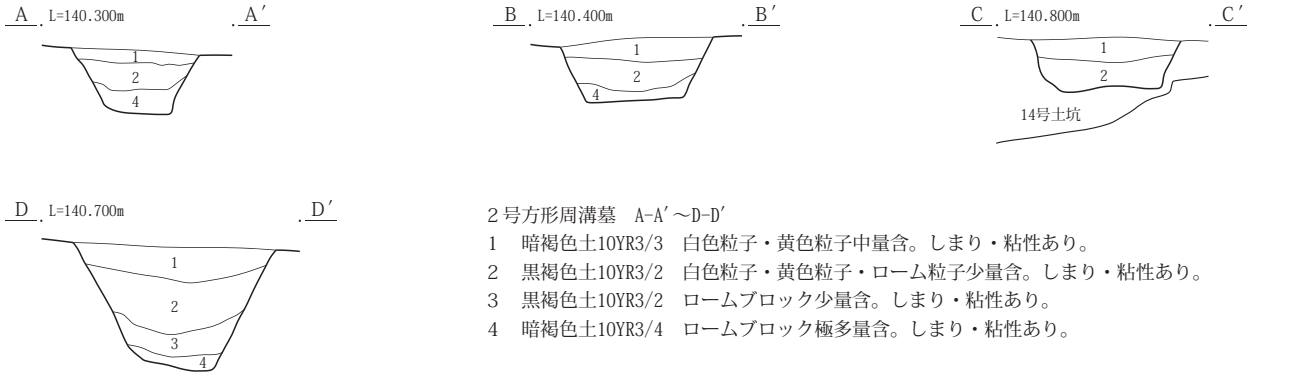
第69図　３区１号方形周溝墓出土遺物（１）



第70図　３区１号方形周溝墓出土遺物（２）

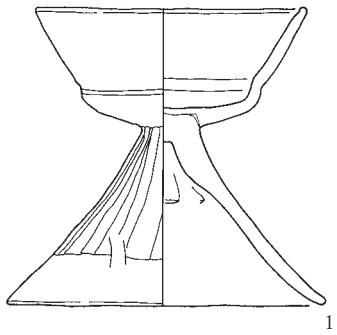


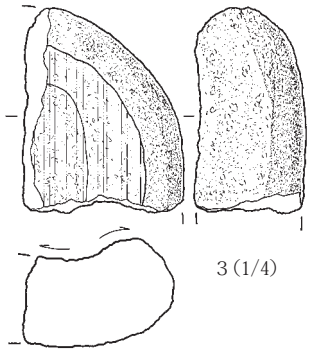
第71図　２区２号方形周溝墓

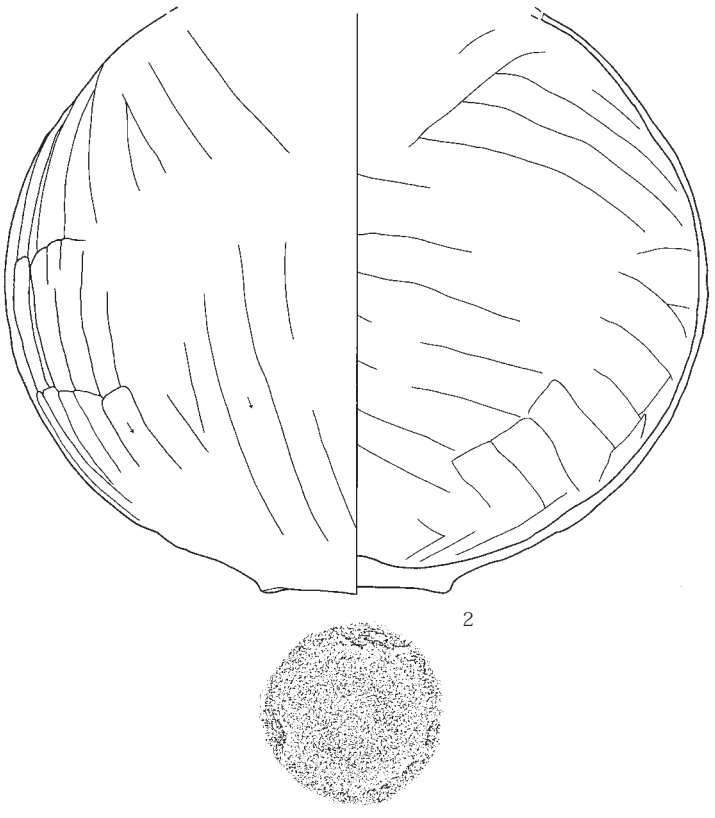


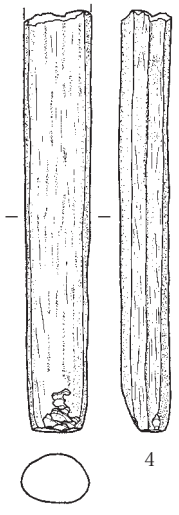
２号方形周溝墓　A-A′～D-D′
1　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・黄色粒子中量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR3/2　白色粒子・黄色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック極多量含。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m


1


3（1/4）

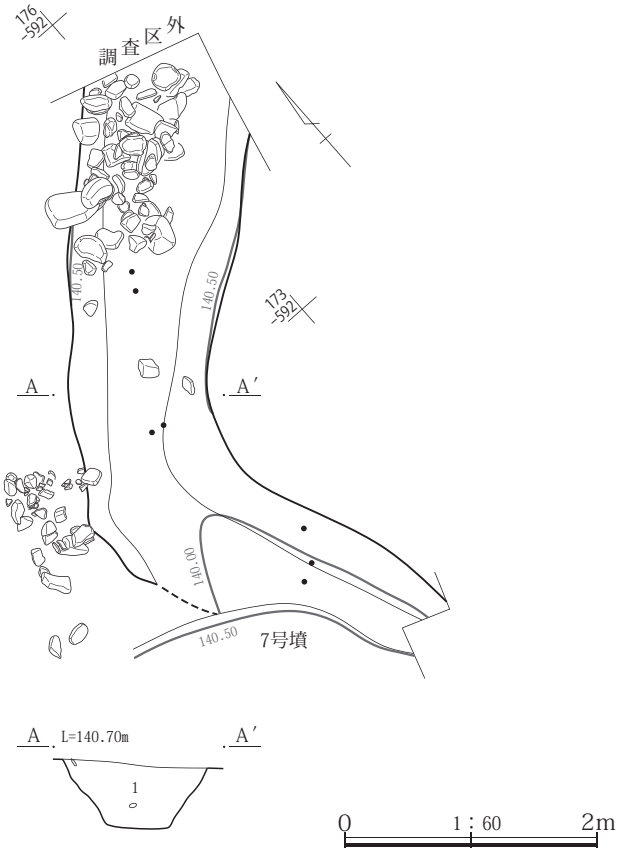

2


4

0　1：3　10cm

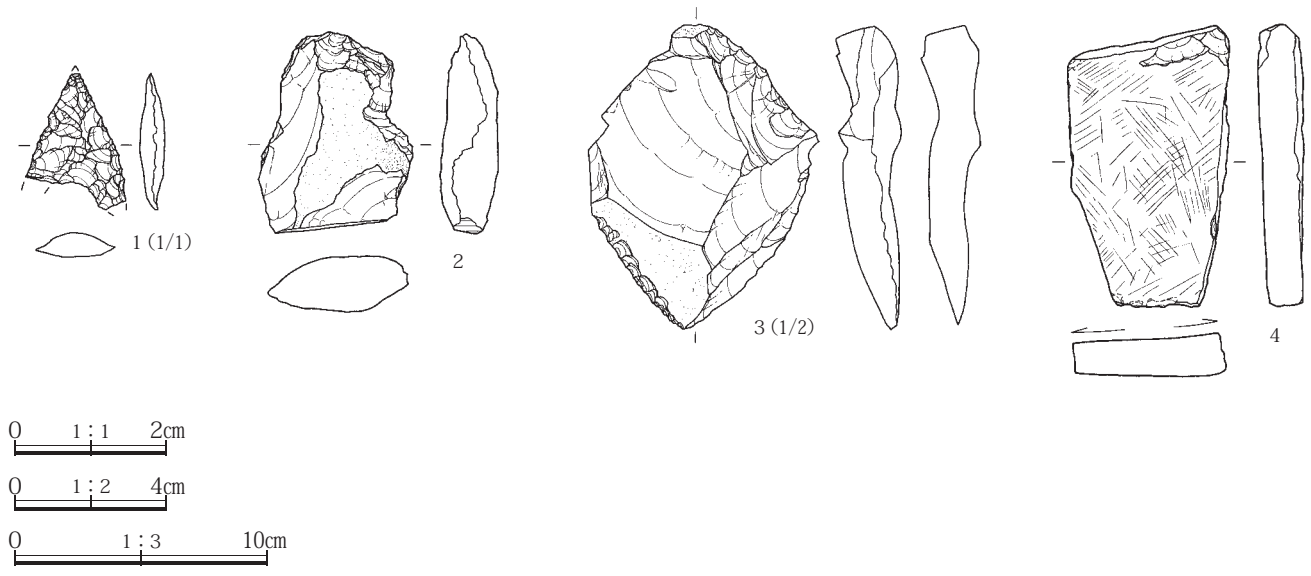
0　1：4　10cm

第72図　２区２号方形周溝墓土層断面図・出土遺物

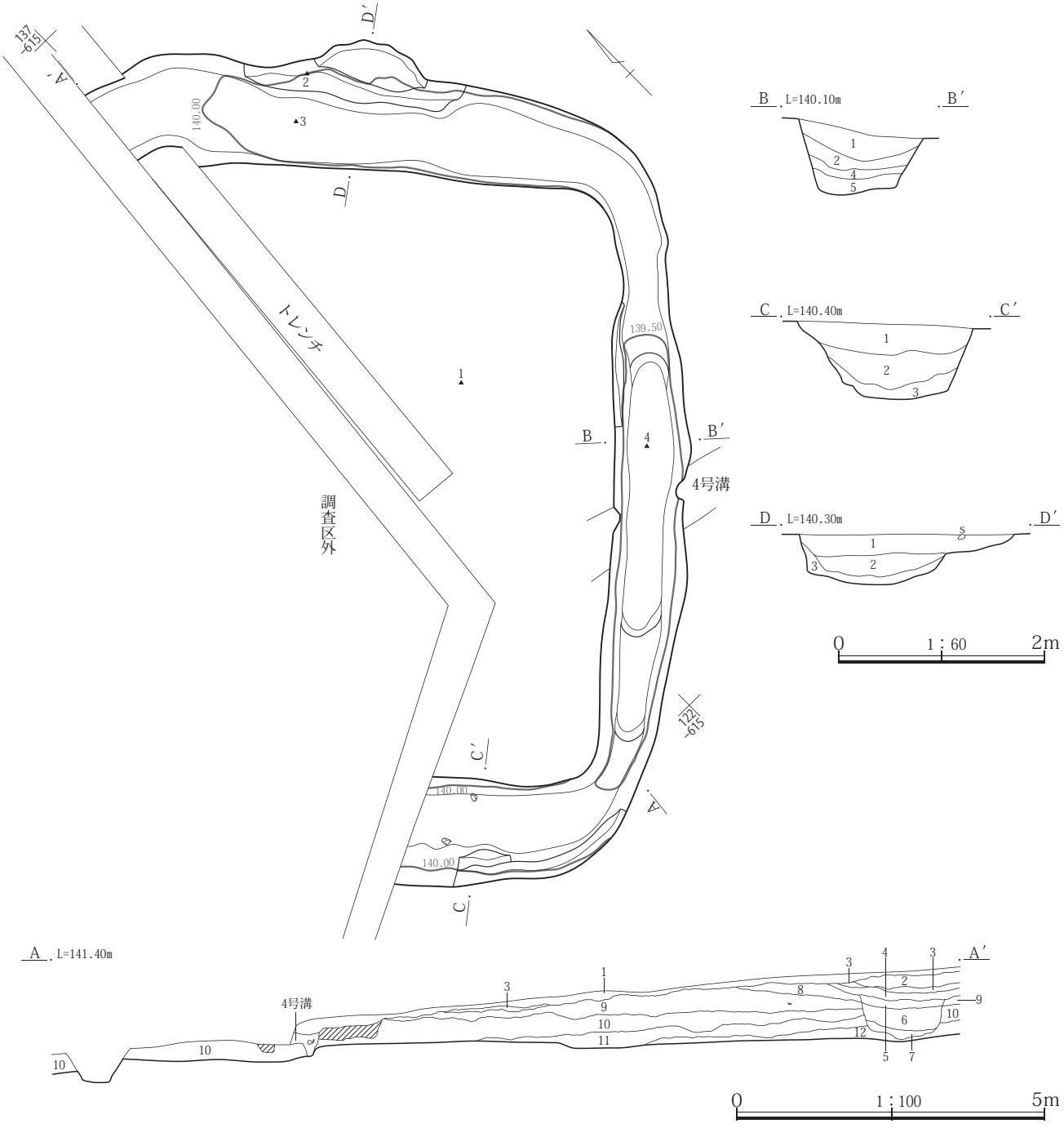


３号方形周溝墓　A-A′
1　黒褐色土10YR3/2　やや明。こぶし～人頭大礫多量含。白色粒多量、
　　土師・縄文片・ロームブロック・炭化物粒・黄橙色粒少量含。

第73図　２区３号方形周溝墓



第74図　２区４号方形周溝墓出土遺物



4号方形周溝墓　A-A′

1　暗褐色土10YR3/3　耕作土
2　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック極多量含。しまりあり､粘性なし。５号墳墳丘盛土。
3　黒褐色土10YR3/2　酸化鉄分中量含。しまり・粘性あり。５号墳墳丘盛土。
4　黒褐色土10YR2/3　凝灰岩小破片多量含。しまり・粘性あり。５号墳墳丘盛土。
5　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。周溝埋土。
6　暗褐色土10YR3/3　白色粒子少量、ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。周溝埋土。
7　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック多量混含。しまり・粘性あり。周溝埋土。
8　暗褐色土10YR3/4　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
9　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・焼土粒子微量含。しまり・粘性あり。
10　褐色土10YR4/6　ローム主体。黒褐色土ブロック多量含。しまり・粘性あり。ローム漸移層か。
11　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・砂粒多量含。しまり・粘性あり。
12　黄褐色ローム層

4号方形周溝墓　B-B′～D-D′

1　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　白色粒子少、ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土10YR2/3　ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。

第75図　２区４号方形周溝墓

３．弥生時代の竪穴建物

竪穴建物１～３区であわせて８棟が確認され、このうち３棟が弥生時代後期、縄文時代後期が５基確認されている。その他土坑、溝、ピットが確認されている。

１区５号竪穴建物(第76図・第８表・PL.46・85)

位　　置　X=30216～221　Y=-80577～579

重複遺構　１号墳、５号溝と重複。本竪穴建物が１号墳、５号溝より旧い。

形　　状　不明

主軸方位　N-18°-E

規　　模　長軸(4.04)m　短軸(1.18)m　残存深度0.35m

床 面 積　(3.94)㎡

炉 位 置　不明

柱　　穴　１基検出した。規模は以下の通り。

Ｐ１　長軸 40㎝　短軸（22)㎝　　深さ 38㎝

埋 没 土　ローム粒、炭化物粒、白色粒を含む。

出土遺物　弥生時代後期樽式土器壺（２)、甕（３)。台付甕の破片(１)、石鏃(４)、剥片(５）が出土している。

所　　見　本竪穴建物は１区南区の北東角に西壁の一部を検出した。北側は現道で確認できず、東側の大半は調査区外に延びる。さらに、西側は東西に走る５号溝に切られ、南側は１号墳の周堀により壊されている。ピットも東側の半分は東調査区域外にあり西側半分を確認したのみである。遺物の出土は１号墳の周堀縁辺で確認され、古墳築造時には周堀中段にあったため残存したと考えられ、北側は広い溝によって遺物は検出されなかったと考えられる。

１区６号竪穴建物(第77～79図・第８表・PL.46・47・86)

位　　置　X=30191～196　Y=-80587～591

重複遺構　２号墳と重複。本竪穴建物が旧い。

形　　状　隅丸長方形

主軸方位　N-０°

規　　模　長軸4.87m　短軸3.40m　残存深度0.58m

床 面 積　(13.48)㎡

炉 位 置　中央北壁寄り

炉 規 模　長軸66㎝　短軸47㎝　深さ２㎝

柱　　穴　確認されていない。

埋 没 土　白色粒子、ローム粒子、褐色土ブロックを含む。

出土遺物　弥生時代後期樽式土器壺(６～９)、甕(５)、高杯片(３・４)、二次加工のある剥片(10)、石核(11)が出土している。

所　　見　本竪穴建物は南東部を２号墳の周堀に切られている。２号墳の南西部墳丘の盛り土下から竪穴建物の南西部を確認した。出土した弥生土器甕(５)は東海東部から南関東系の土器で、科野等の他の地域からの交流が認められる。弥生土器壺(６)は赤く塗られている。

炉は浅く焼土、炭化物のほかに枕石が置かれ、位置、枕石の存在から弥生時代後期の特徴を示している。

１区７号竪穴建物(第80・81図・第８表・PL.48・86・87)

位　　置　X=30202～207　Y=-80581～586

重複遺構　10号溝と重複。本竪穴建物が旧い。

形　　状　隅丸長方形

主軸方位　N-50°-E

規　　模　長軸(4.56)m　短軸3.24m　残存深度0.63m

床 面 積　(11.88)㎡

炉 位 置　中央西壁寄り

炉 規 模　長軸56㎝　短軸43㎝　深さ６㎝

柱　　穴　１基確認した。規模は以下の通り。

Ｐ１　長軸70㎝　短軸55㎝　深さ24㎝

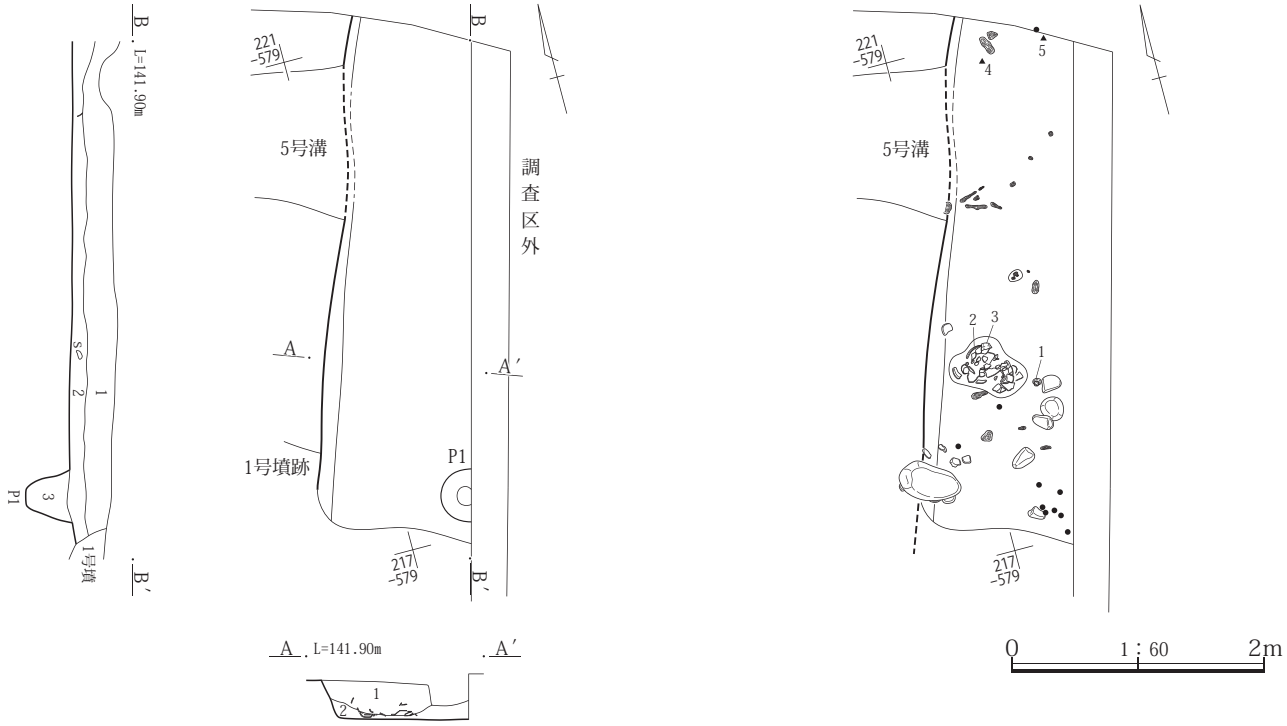
貯蔵穴位置　南東コーナー部に検出した。

貯蔵穴規模　長軸70㎝　短軸56　深さ40㎝

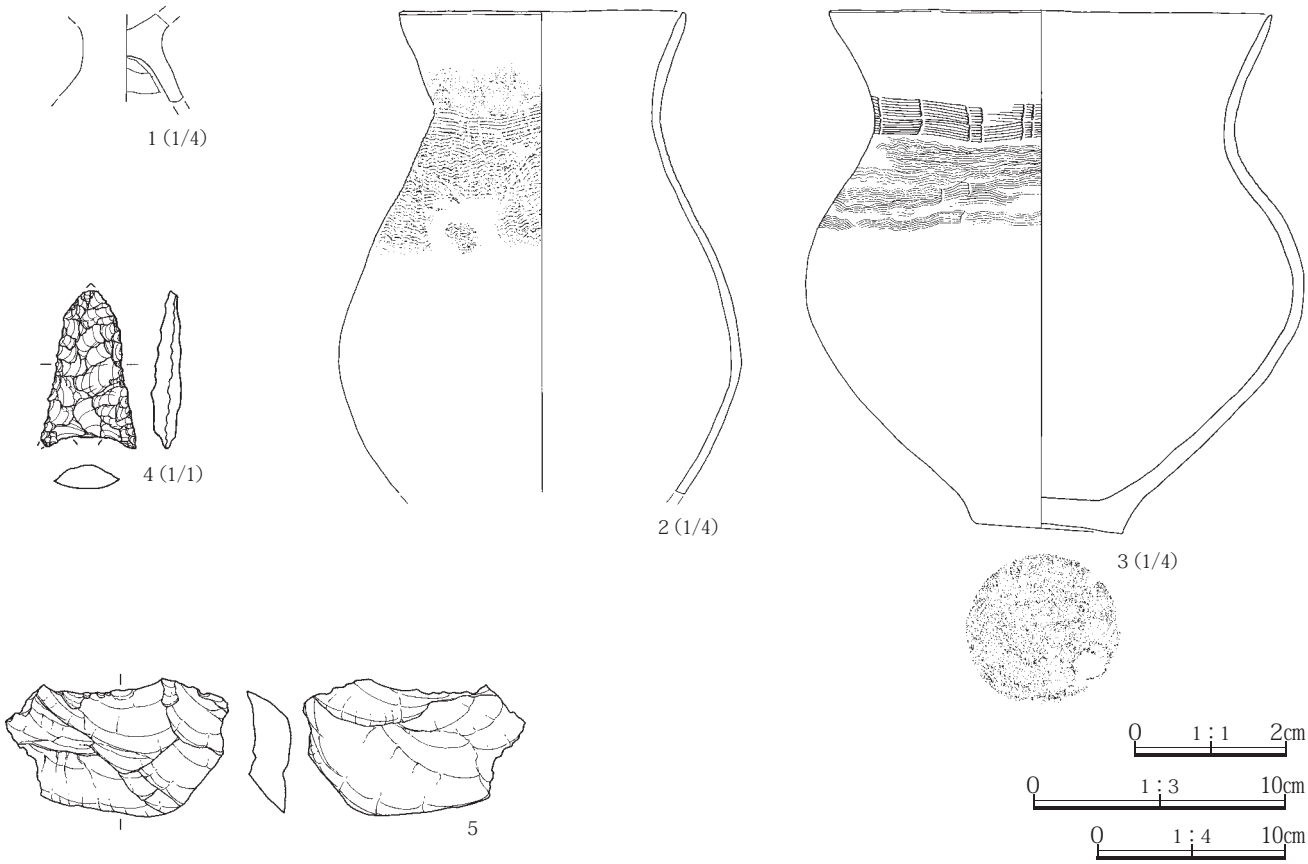
埋 没 土　白色粒、黄色粒、ロームブロックを含む。

出土遺物　弥生時代後期樽式土器(５～８)、高杯片(４)、スクレーパー（９)、二次加工のある剥片(10・11)、敲石(12・13)が出土している。

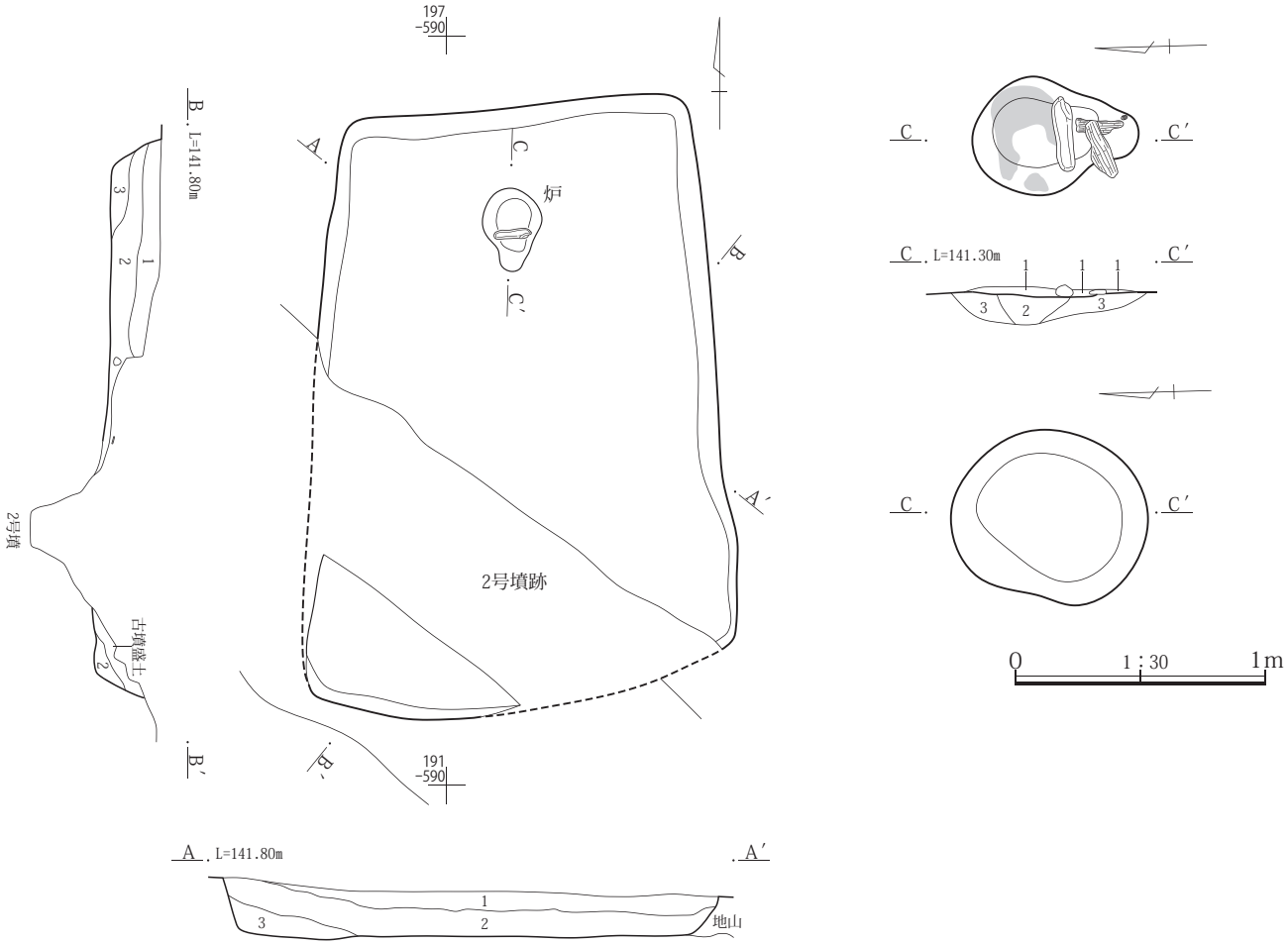
所　　見　本竪穴建物は北壁を10号溝に壊されている。弥生時代後期樽式土器を持つ竪穴建物であるが、炉の位置がやや普遍的な樽期の位置とは異なっている。床面上に垂木のような炭化材と焼土が散布しており、焼失家屋と考えられる。屋根材が崩れ、焼土と材の炭化物が床上に散布している。さらに10号溝の縁にある長い石の周りにも焼土が確認でき、炉の位置は樽期の普遍的な場所にあると考えることができる。



５号竪穴建物　A-A′・B-B′
1　暗褐色土10YR3/4　ローム粒子中量、炭化粒子・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。
3　Ｐ１埋土



第76図　１区５号竪穴建物・出土遺物



６号竪穴建物　A-A′・B-B′

1　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。

2　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・黄色粒子微量、褐色土ブロック大中量、炭化物少量含。しまり・粘性あり。

3　暗褐色土10YR3/3　褐色土ブロック大多量含。しまり・粘性あり。

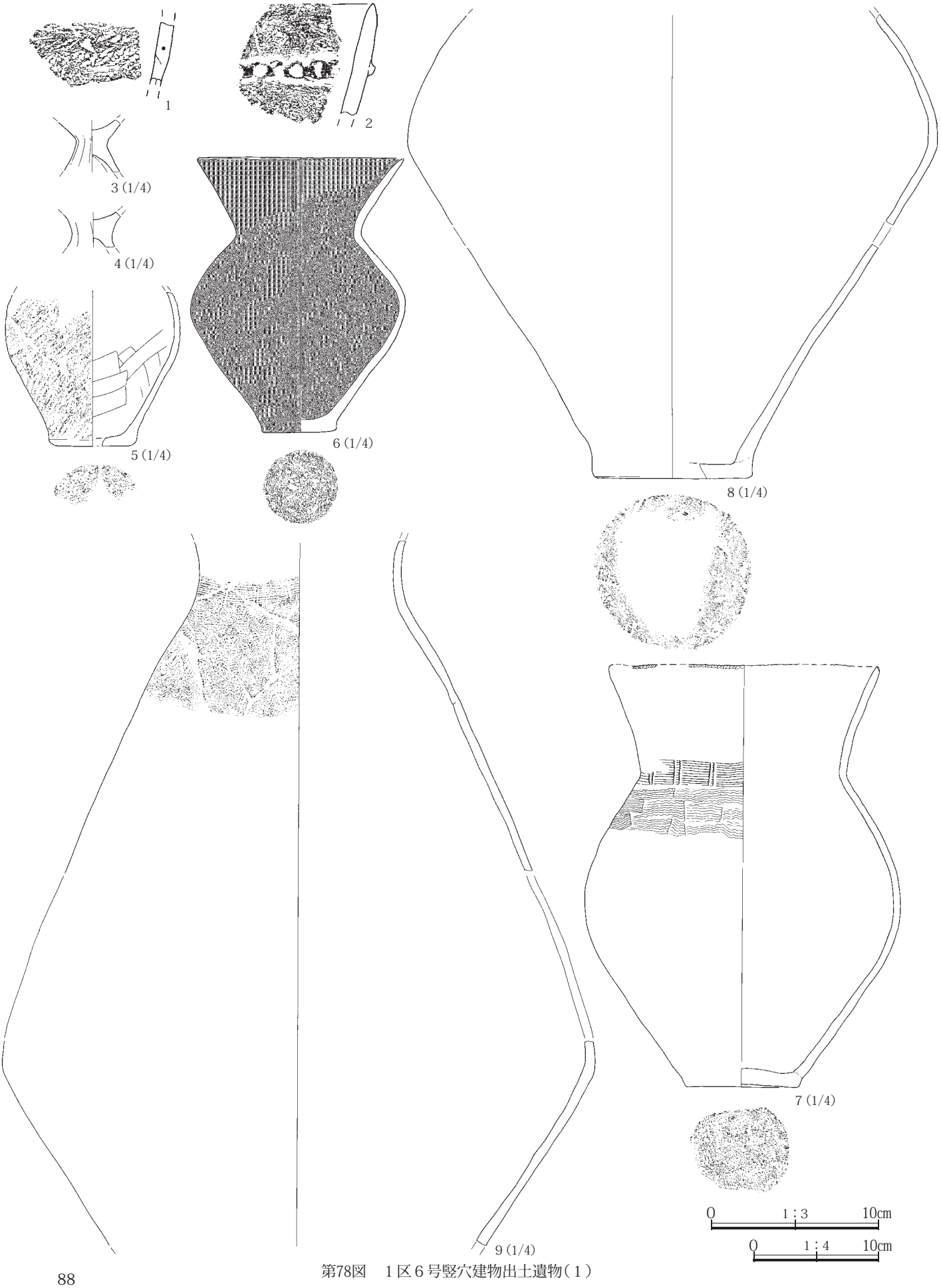
６号竪穴建物炉　C-C′

1　暗褐色土10YR3/4　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。

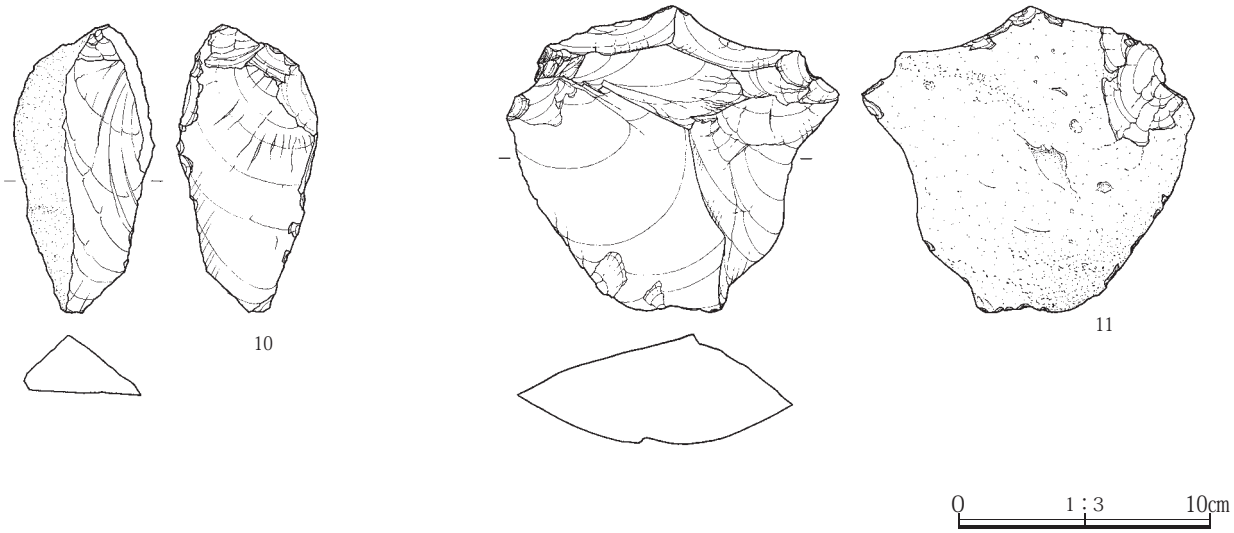
2　褐色土10YR4/6　焼土、褐色土混。しまり・粘性あり。

3　暗褐色土10YR3/4　上層炭化物。焼土粒子・炭化粒子微量含。しまり・粘性あり。

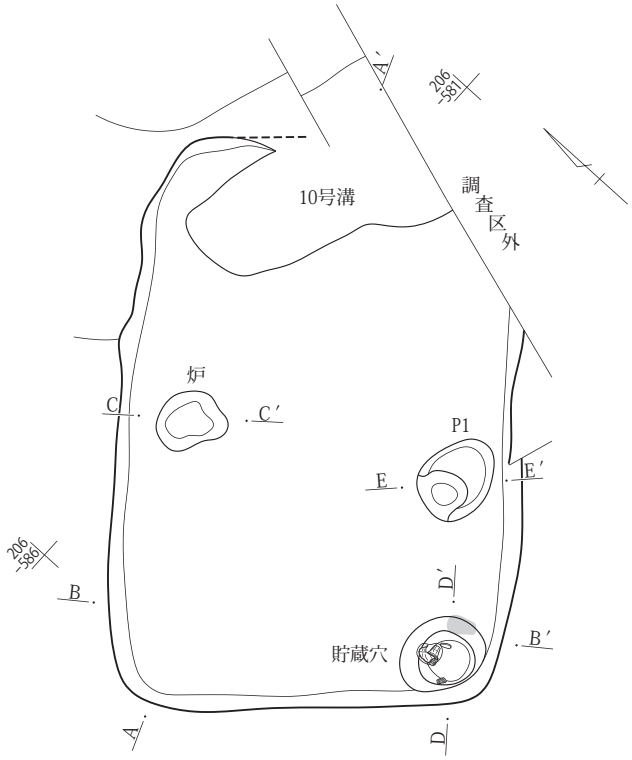
第77図　１区６号竪穴建物

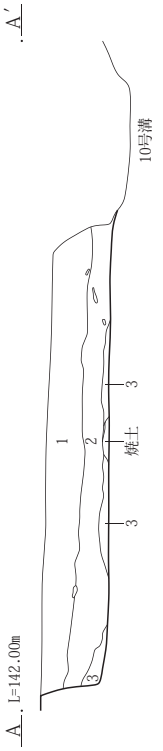


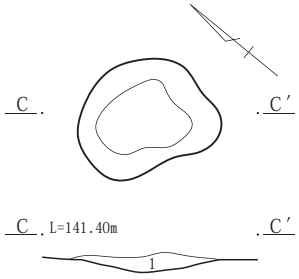
第78図　１区６号竪穴建物出土遺物（１）



第79図　１区６号竪穴建物出土遺物（２）

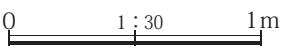


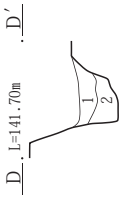


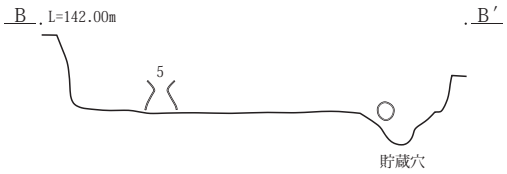


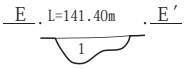
7号竪穴建物炉　C-C′

1　暗褐色土10YR3/4　上層炭化物。焼土粒子微量、ローム層状含。しまり・粘性あり。







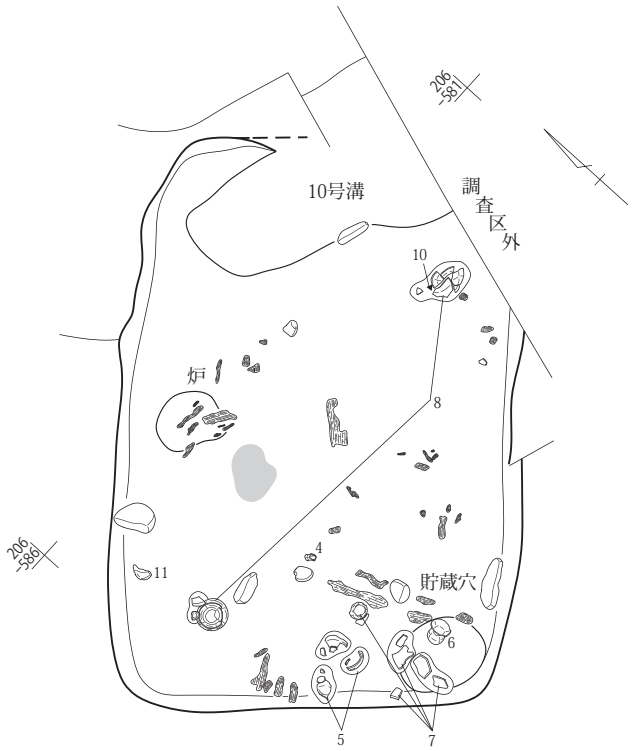


7号竪穴建物　A-A′

1　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・黄色粒子・ロームブロック小・黒褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

2　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・黄色粒子微量、ローム粒子中量、炭化粒子少量含。しまり・粘性あり。

3　黒褐色土10YR2/3　焼土粒子･炭化物中量､ロームブロック中少量含。しまりなし、粘性あり。



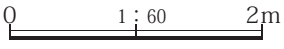
7号竪穴建物貯蔵穴　D-D′

1　暗褐色土10YR3/4　炭化物・焼土ブロック・ロームブロック中量含。しまりなし、粘性あり。

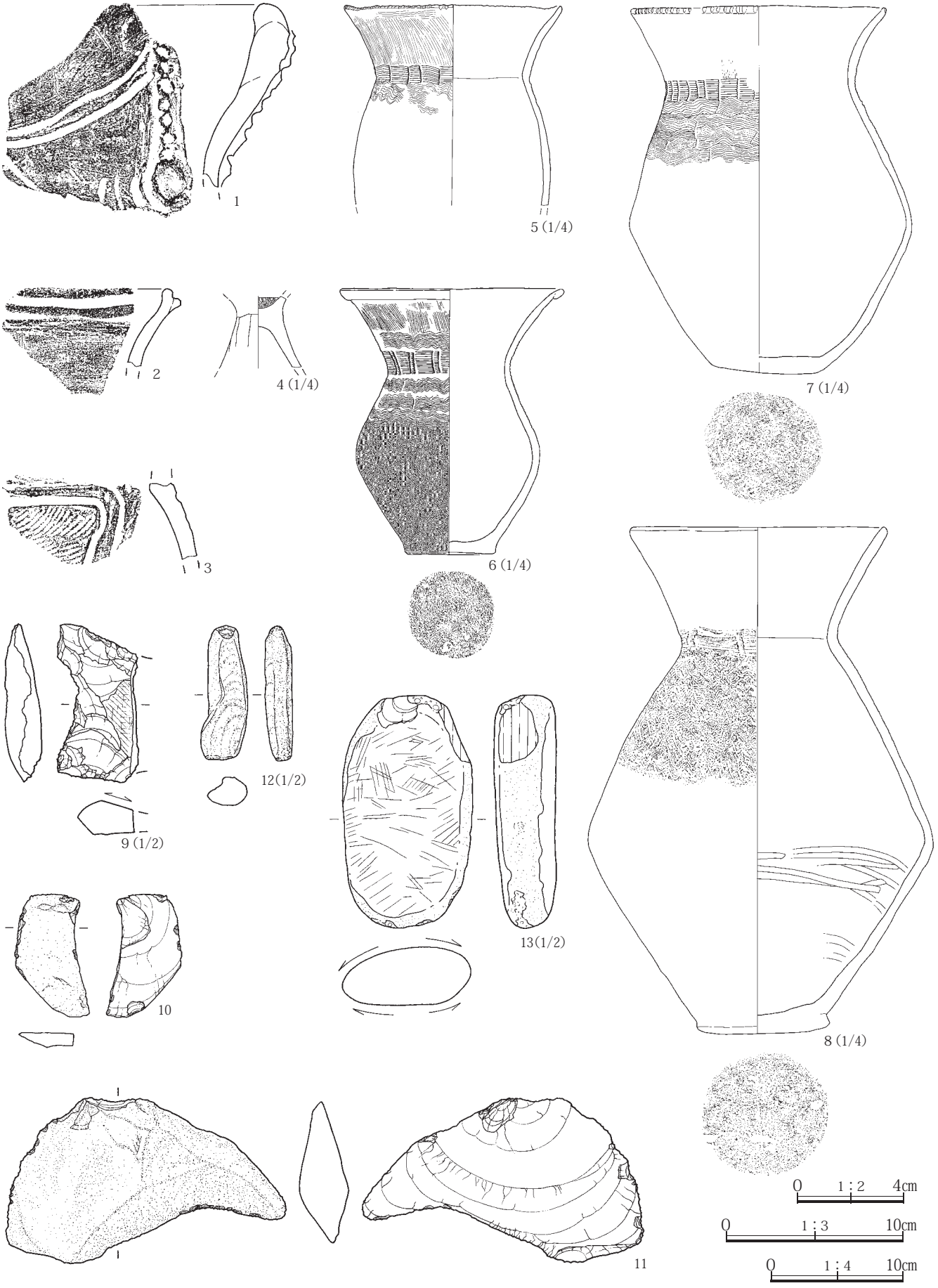
2　黒褐色土10YR2/3　炭化物・ロームブロック微量含。しまりなし、粘性あり。

1区7号竪穴建物Ｐ1　E-E′

1　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック中中量含。しまり・粘性あり。



第80図　1区7号竪穴建物



第81図　１区７号竪穴建物出土遺物

４．縄文時代の竪穴建物

３区１号竪穴建物（第82～85図・第８表・PL.49・50・58・87・88）

位　　置　X=30198～203　Y=-80632～636

重複遺構　１号方形周溝墓、６号土坑と重複。周溝墓と土坑が本竪穴建物より新しい。

形　　状　円形？　　**主軸方位**　N-９°-E

規　　模　長軸4.63m　短軸(3.54)m　残存深度0.59m

床 面 積　(13.38)㎡

炉 位 置　中央部　埋甕を使用したと考えられる。

炉 規 模　長軸44cm　短軸38cm　深さ14cm

柱　　穴　柱穴は床面に６基確認された。各々の規模は以下の通りである。

Ｐ１　長軸34cm　短軸32cm　深さ70cm
Ｐ２　長軸30cm　短軸28cm　深さ65cm
Ｐ３　長軸39cm　短軸34cm　深さ21cm
Ｐ４　長軸58cm　短軸50cm　深さ25cm
Ｐ５　長軸30cm　短軸26cm　深さ74cm
Ｐ６　長軸23cm　短軸20cm　深さ28cm

埋 没 土　上層は８号墳盛土で、中層は白色・黄色軽石を少量含む。床面近くはローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物　ほとんどの遺物は堀之内１式（１～16）で称名寺２式(17)が１点共伴している。打製石斧(18)、磨製石斧(19)、磨製石斧未成品(20)、尖頭器(21)、凹石(22)、石皿(24)、多孔石(25)、石棒(26・27)が出土している。

所　　見　床面は平坦な敷石竪穴建物である。敷石のほとんどははがれている。東部の大半は調査区域外に延び、南壁の一部は１号方形周溝墓で壊されている。構造は時期的に考えると、柄鏡型になる可能性が高いが、柄の部分は東側調査区域外に延びているため検出されていない。円形部の中央に確認された炉内で深鉢が検出された。６基の柱穴は円形部の壁際に沿い円弧を描いている。敷石以外には長さ約10.5cmを測る尖頭器が検出されたが、先端部の一部は欠けている。その他に、円礫、凹石、石棒が出土している。

３区２号竪穴建物（第86～89図・第８表・PL.51・52・60・88・89）

位　　置　X=30189～196　Y=-80636～642

重複遺構　１号方形周溝墓と重複。本遺構が旧い。

形　　状　柄鏡形　　**主軸方位**　N-49°-E

規　　模　長軸(6.68)m　短軸4.98m　残存深度0.67m

床 面 積　(18.52)㎡

炉 位 置　円形部のほぼ中央

炉 規 模　長軸72cm　短軸64cm　残存深度23cm

柱　　穴　２号竪穴建物内で柱穴は６基確認された。規模は以下の通りである。

Ｐ１　長軸23cm　短軸20cm　深さ37cm
Ｐ２　長軸28cm　短軸19cm　深さ53cm
Ｐ３　長軸45cm　短軸39cm　深さ62cm
Ｐ４　長軸105cm　短軸100cm　深さ51cm
Ｐ５　長軸33cm　短軸31cm　深さ28cm
Ｐ６　長軸32cm　短軸30cm　深さ28cm

埋没土　上層はローム粒、ロームブロック、焼土を少量含み、下層はロームブロック、ローム粒、焼土を含む。

出土遺物　堀之内１式（１～14）、称名寺２式(15)１点が出土した。

所　見　本竪穴建物も出土遺物は堀之内１・称名寺２式で１号竪穴建物と同様の時期にあり、柄鏡型で敷石を持つ。ちょうど柄鏡の柄の部分から円形の床面につながる部分を南北に走る１号方形周溝墓に壊されている。１号方形周溝墓の東の縁に竪穴建物の床面から10～15cm高い部分に敷石を重ねて置いてある。石はランダムに重なり、後の１号方形周溝墓を造った時にどかした可能性も多少考えられるが、不明である。この敷石をどかし、黒土を床面まで掘り下げると土坑Ｐ４を確認した。本竪穴建物の入口施設か。炉は円形部のほぼ中央部に確認された。深さ23cmある炉内から深鉢（１）が確認され、縁に石が２個、１個体は土器の中から確認された。

３区３号竪穴建物（第90図・第８表・PL.52・60・89）

位　　置　X=30188～191　Y=-80633～638

重複遺構　９・10号土坑と重複。土坑が新しい。

形　　状　不明　　**主軸方位**　不明

規　　模　長軸(4.88)m　短軸(2.95)m　残存深度0.92m

床 面 積　(12.01)㎡

炉 位 置　南部中央

炉 規 模　長軸60cm　短軸50cm　深さ21cm

柱　　穴　５基確認され、規模は以下の通りである。

Ｐ１　長軸50㎝　短軸35㎝　深さ23㎝
Ｐ２　長軸26㎝　短軸23㎝　深さ43㎝
Ｐ３　長軸40㎝　短軸39㎝　深さ48㎝
Ｐ４　長軸52㎝　短軸51㎝　深さ67㎝
Ｐ５　長軸28㎝　短軸21㎝　深さ79㎝

埋 没 土　上層は砂質土、床面近くはローム粒を多量に含む。

出土遺物　堀之内１式土器片（１～６）、打製石斧片（７）が出土している。

所　　見　３区の南東隅に確認され、全体の形状は不明である。１・２号竪穴建物の時期と並行するが、本竪穴建物の床面からは敷石は確認できていない。

２区４号竪穴建物（第91～94図・第８表・PL.53～55・62・63・89・90）

位　　置　X=30158～165　Y=-80605～610
重複遺構　15号土坑と重複し、本竪穴建物が旧い。
形　　状　柄鏡形　　**主軸方位**　N-38°-W
規　　模　長軸(6.50)ｍ　短軸(6.00)ｍ　残存深度0.13m
床 面 積　(20.09)㎡
炉 位 置　円形床の中央
炉 規 模　長軸104㎝　短軸90㎝　深さ48㎝
柱　　穴　15基検出した。規模は以下の通りである。

Ｐ１　長軸60㎝　短軸40㎝　深さ29㎝
Ｐ２　長軸47㎝　短軸40㎝　深さ25㎝
Ｐ３　長軸38㎝　短軸37㎝　深さ29㎝
Ｐ４　長軸34㎝　短軸30㎝　深さ26㎝
Ｐ５　長軸52㎝　短軸45㎝　深さ42㎝
Ｐ６　長軸(54)㎝　短軸40㎝　深さ44㎝
Ｐ７　長軸40㎝　短軸34㎝　深さ29㎝
Ｐ８　長軸(37)㎝　短軸40㎝　深さ43㎝
Ｐ９　長軸20㎝　短軸18㎝　深さ10㎝
Ｐ10　長軸38㎝　短軸30㎝　深さ24㎝
Ｐ11　長軸45㎝　短軸39㎝　深さ37㎝
Ｐ12　長軸48㎝　短軸39㎝　深さ50㎝
Ｐ13　長軸35㎝　短軸30㎝　深さ37㎝
Ｐ14　長軸25㎝　短軸24㎝　深さ28㎝
Ｐ15　長軸(38)㎝　短軸(22)㎝　深さ49㎝

埋 没 土　本竪穴建物は床面で確認され、床上の覆土は白色粒、ロームブロックを多量に含む。

出土遺物　堀之内１式土器片（１～14）、加曾利Ｅ３式土器片(15)、加曾利Ｅ４式土器片(16)、打製石斧(17・18)、磨製石斧(19～25)等が出土している。

所　　見　攪乱や上面の土坑等で覆土は確認されていない。床面で確認した柄鏡の部分に深鉢が埋められている。炉は方形に円礫で仕切られ、深鉢（１）が設置されている。炉の中の深鉢の外側断面には焼土面が確認され(10・11層)、炉が一時期のものではなく、造り替えされた可能性がある。深鉢の設置は後の時期の可能性が考えられる。床面上から出土する石は円礫が多く、敷石に使われる扁平な石の出土はない。

２区８号竪穴建物（第95図・第８表・PL.61・62・90）

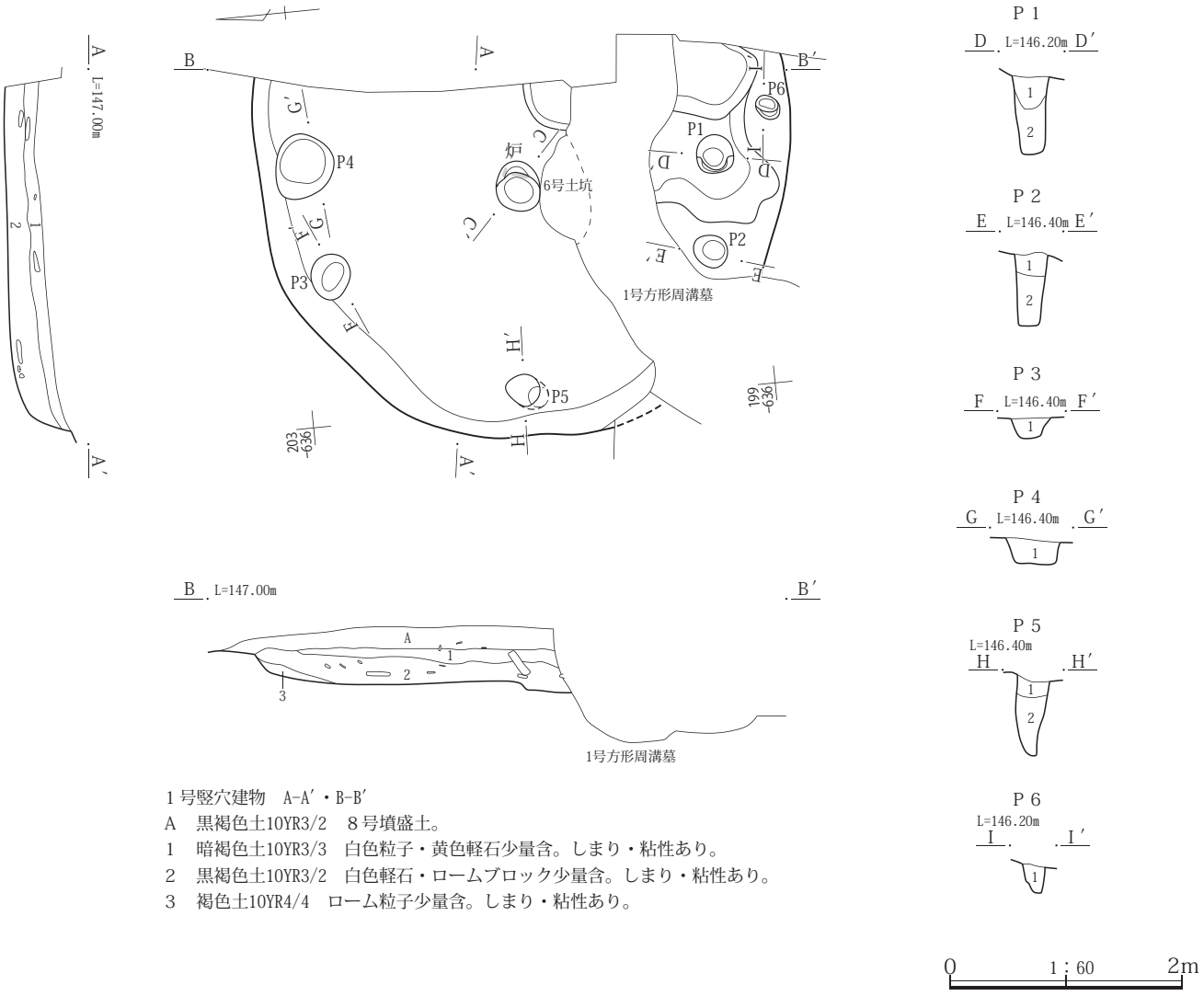
位　　置　X=30149～154　Y=-80602～607
重複遺構　なし
形　　状　円形？　　**主軸方位**　N-０°
規　　模　長軸5.57ｍ　短軸(4.55)ｍ　残存深度0.10m
床 面 積　(23.96)㎡
炉 位 置　中央
炉 規 模　長軸100㎝　短軸95㎝　深さ21㎝
柱　　穴　９基検出した。規模は以下の通りである。

Ｐ１　長軸35㎝　短軸33㎝　深さ27㎝
Ｐ２　長軸38㎝　短軸35㎝　深さ19㎝
Ｐ３　長軸26㎝　短軸26㎝　深さ25㎝
Ｐ４　長軸40㎝　短軸38㎝　深さ32㎝
Ｐ５　長軸50㎝　短軸40㎝　深さ21㎝
Ｐ６　長軸48㎝　短軸45㎝　深さ52㎝
Ｐ７　長軸49㎝　短軸41㎝　深さ72㎝
Ｐ８　長軸38㎝　短軸33㎝　深さ22㎝
Ｐ９　長軸33㎝　短軸32㎝　深さ19㎝

埋 没 土　上面後代の土坑により大きく攪乱を受け、古墳築造で整地を受け、さらに古墳時代前期方形周溝墓等の削平を受けたと思われる。埋没土は認識できなかった。

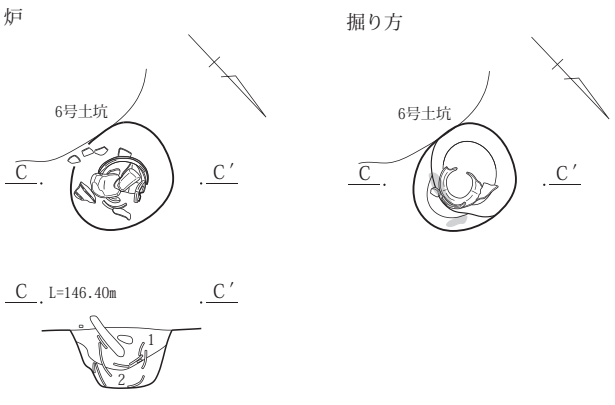
出土遺物　堀之内１式土器片（１・２）が出土している。

所　　見　本竪穴建物は７号墳南に位置し、古墳時代前期の方形周溝墓等の整地で削られ南に向かい傾斜していた。炉を確認し、炉を囲むように柱穴が弧を描いていたため竪穴建物とした。調査時炉には土坑ナンバー、柱穴にはピットナンバーを付していた。整理時に全体図の中で整理担当が竪穴建物ナンバーを付したものである。



1号竪穴建物　A-A′・B-B′

A　黒褐色土10YR3/2　８号墳盛土。
1　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・黄色軽石少量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR3/2　白色軽石・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
3　褐色土10YR4/4　ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。



1号竪穴建物炉　C-C′

1　暗褐色土10YR3/4　ローム粒子少量含。しまり・粘性なし。
2　暗褐色土10YR3/4　ローム粒子少量含。しまりなし、粘性あり。

1号竪穴建物Ｐ１　D-D′

1　にぶい黄褐色土10YR5/4　ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。黄褐色ローム粒少量含。
2　にぶい黄褐色土10YR5/3　ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。

1号竪穴建物Ｐ２・Ｐ５　E-E′・H-H′

1　褐色土10YR4/4　ローム含砂質土。しまり・粘性あり。３～５㎜黄褐色ローム粒少量含。
2　にぶい黄褐色土10YR5/3　ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。

1号竪穴建物Ｐ３　F-F′

1　褐色土10YR4/6　黄褐色・黒褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

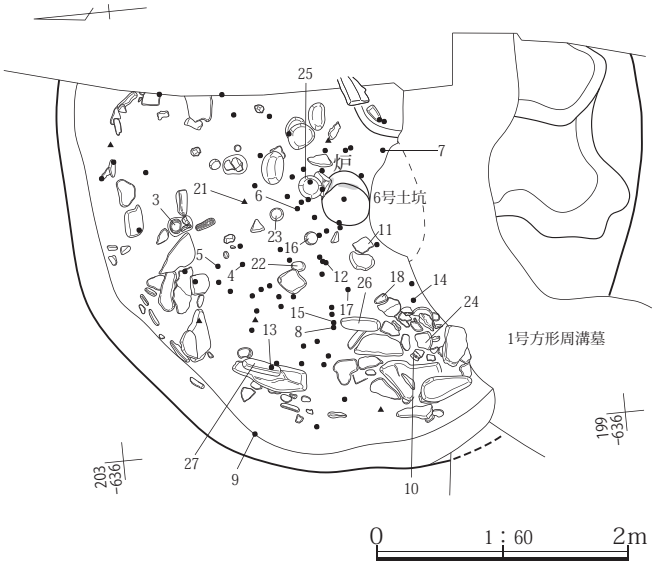
1号竪穴建物Ｐ４　G-G′

1　暗褐色土10YR3/4　黒褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。

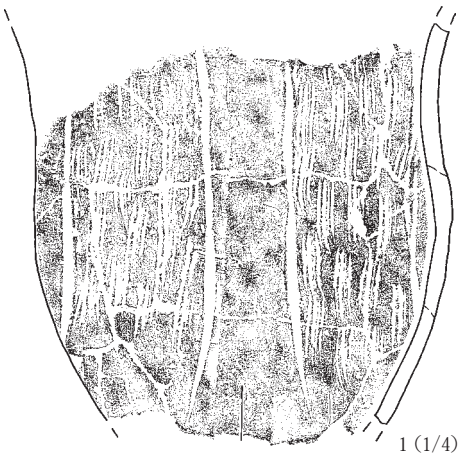
1号竪穴建物Ｐ６　I-I′

1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。２～５㎜黄褐色ローム粒３％含。

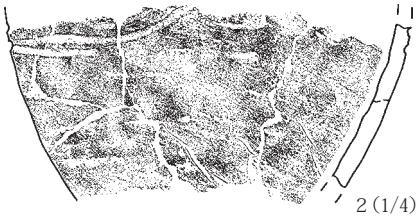
第82図　３区１号竪穴建物



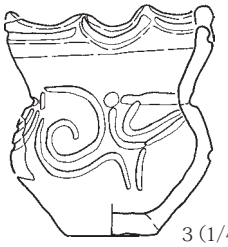
0　1：60　2m



1（1/4）



2（1/4）

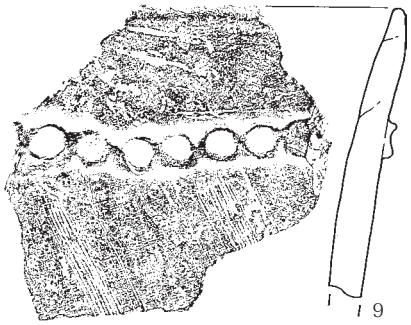


3（1/4）

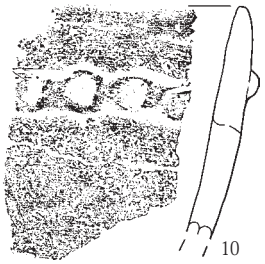
4

5

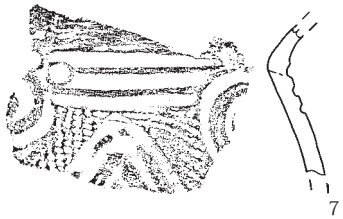
6



9

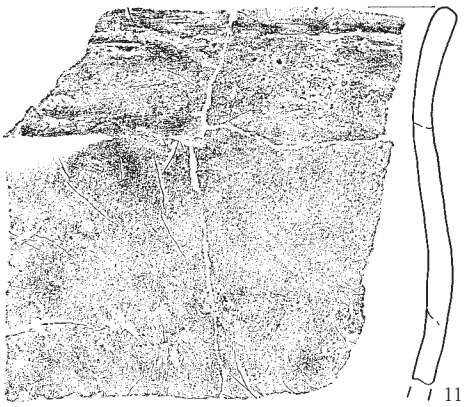


10

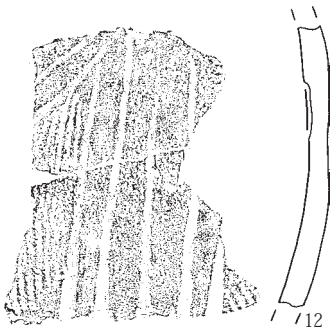


7

8



11

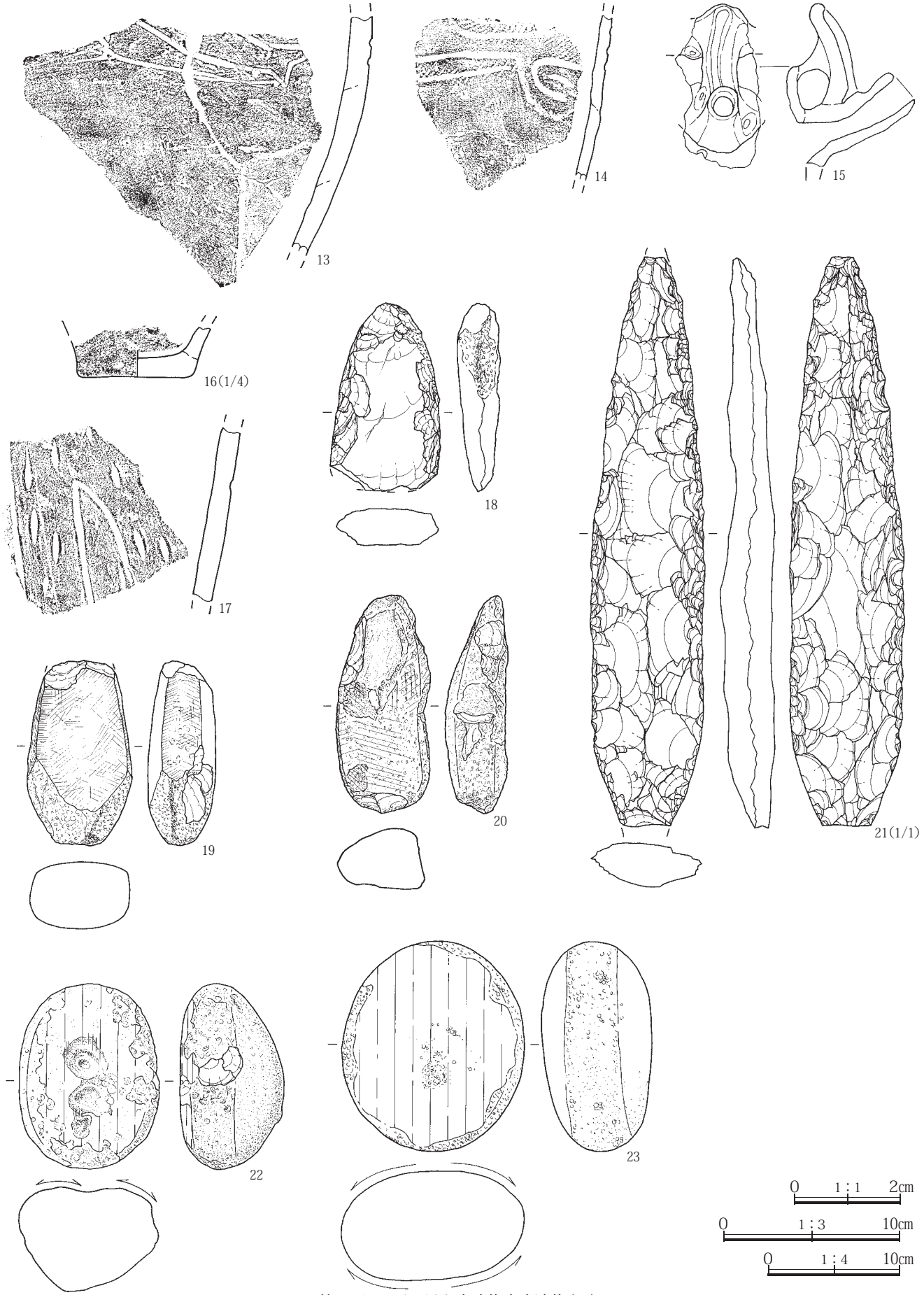


12

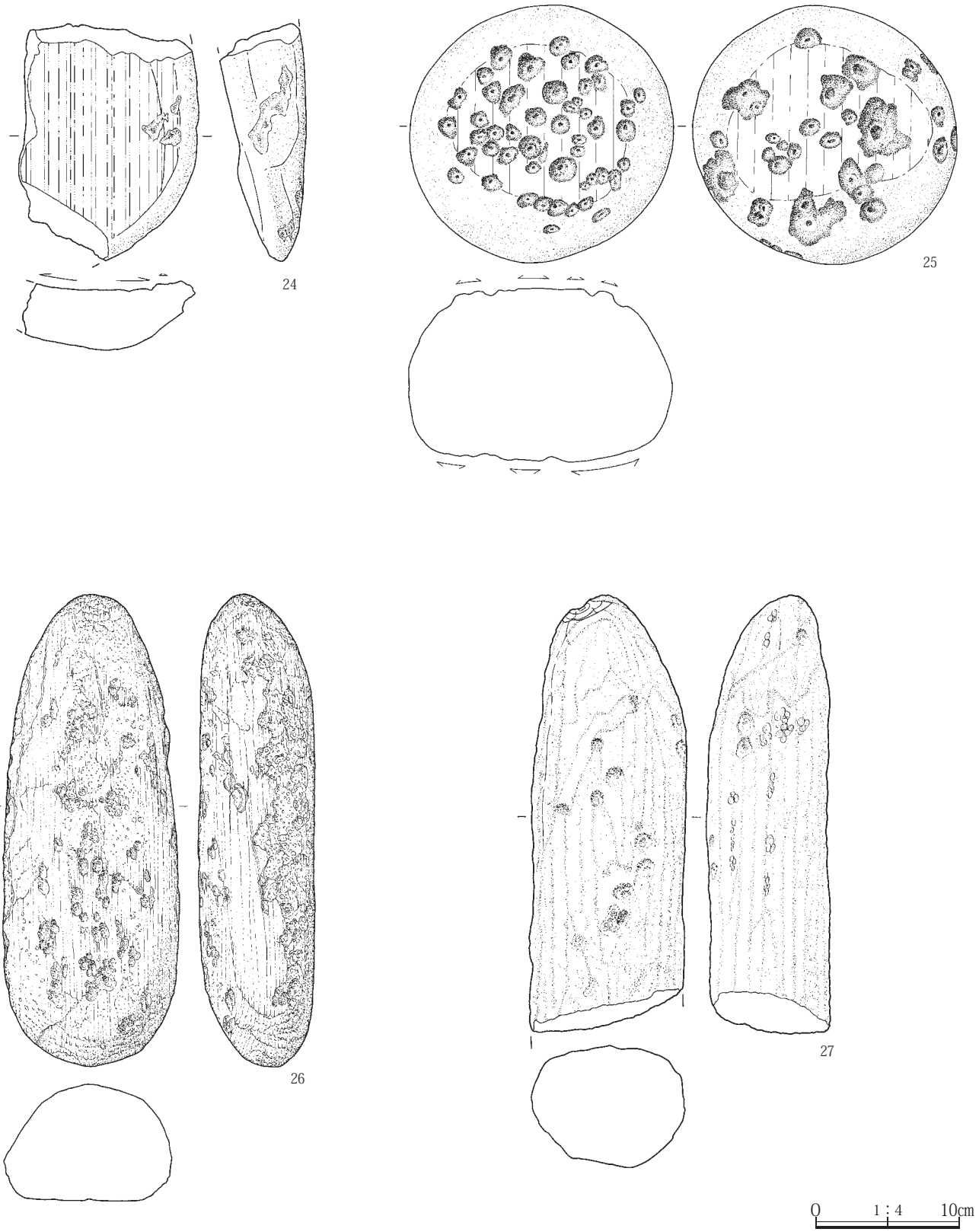
0　1：3　10cm

0　1：4　10cm

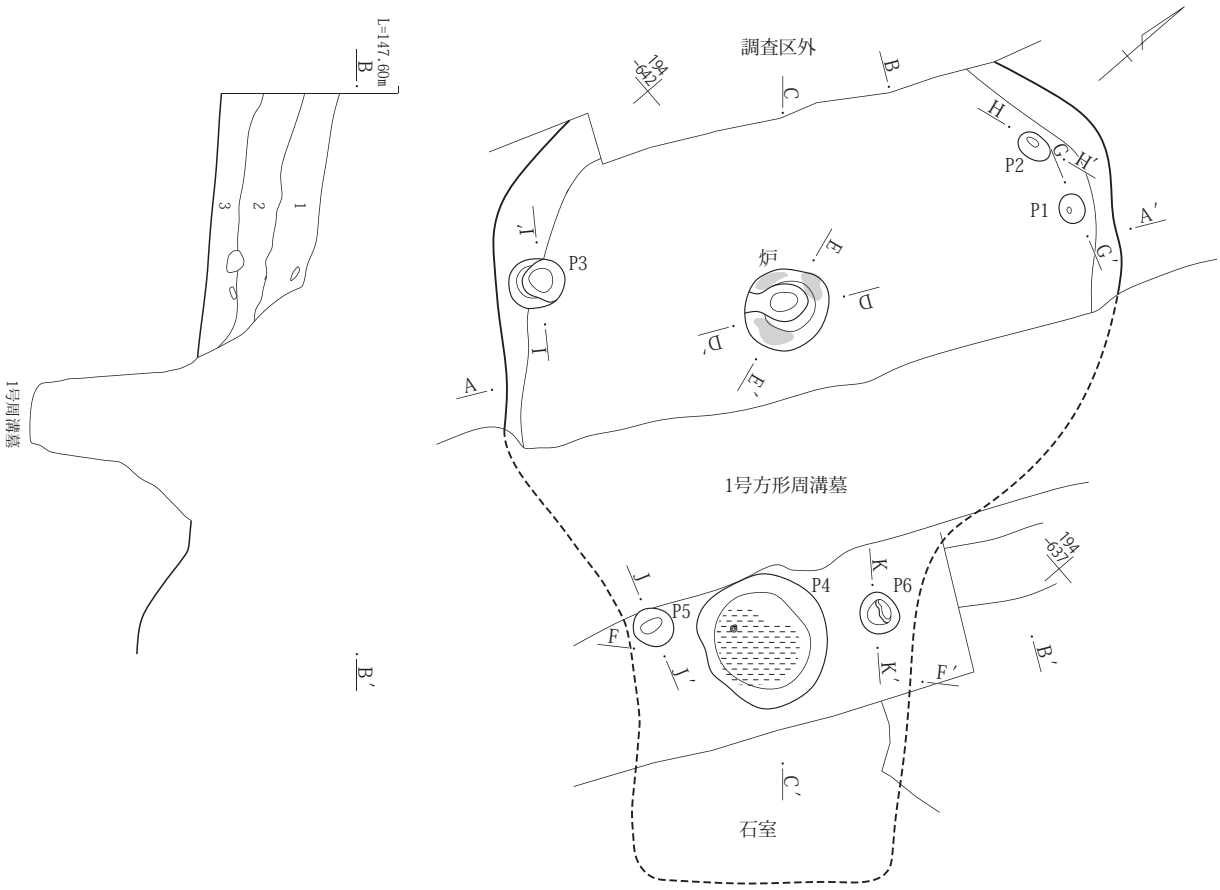
第83図　３区１号竪穴建物遺物出土位置図・出土遺物（１）

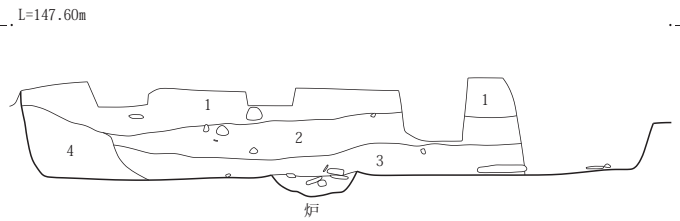


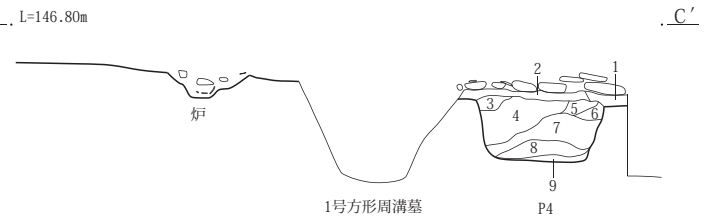
第84図　３区１号竪穴建物出土遺物（２）

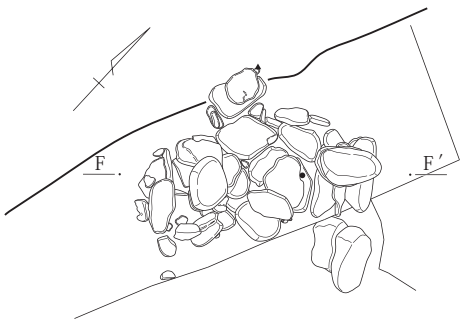


第85図　３区１号竪穴建物出土遺物（３）









２号竪穴建物　A-A′・B-B′

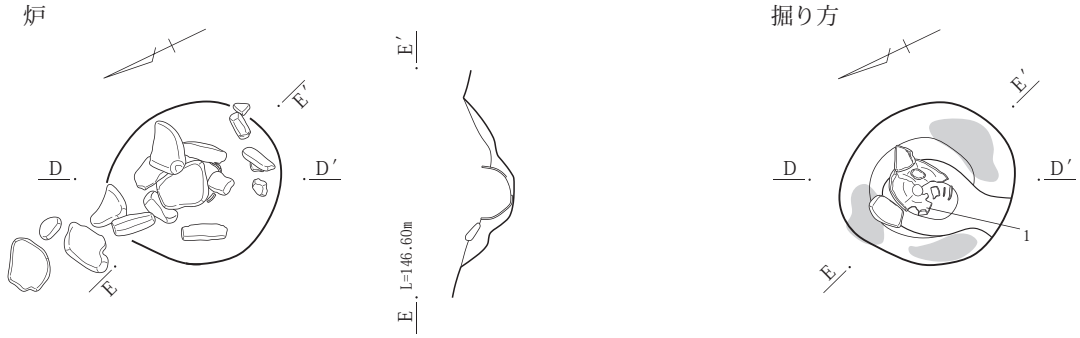
1　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・黒褐色土ブロック少量含。しまりあり、粘性なし。
2　黒褐色土10YR3/2　白色粒子・黄色粒子少量含。しまりあり、粘性なし。
3　褐色土10YR4/4　　白色粒子微量含。しまり・粘性なし。
4　褐色土10YR4/4　　白色軽石少量含。しまり、粘性なし。

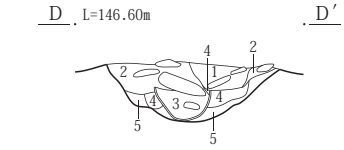
２号竪穴建物　C-C′

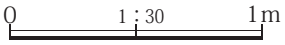
1　暗褐色土10YR3/3　褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土10YR4/3　焼土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/3　黒褐色土ブロック・焼土ブロック微量含。しまりあり、粘性なし。
4　明褐色土7.5YR5/8　焼土主体。黒褐色土・暗褐色土ブロック大中量含。しまりあり、粘性なし。
5　暗褐色土7.5YR3/4　焼土ブロック少量含。
6　暗褐色土10YR3/3　黄色軽石微量含。しまり・粘性あり。
7　褐色土7.5YR4/4　焼土・黒褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。
8　黒褐色土10YR3/2　焼土ブロック・黄色軽石少量・炭化物微量含。しまり・粘性あり。
9　暗褐色土10YR3/3　炭化物中量含。しまり・粘性あり。

0　1：60　2m

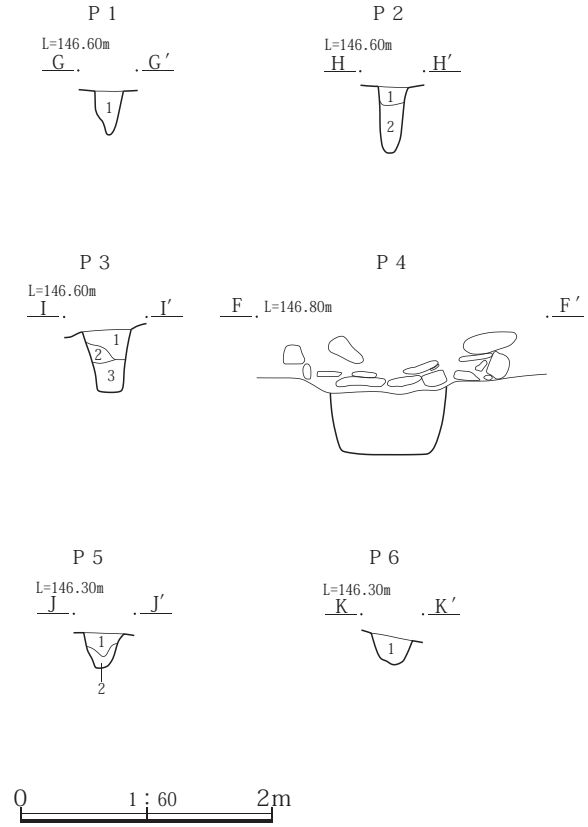
第86図　３区２号竪穴建物







２号竪穴建物炉　D-D′
1　黒褐色土10YR2/3　砂粒微量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　砂粒･ロームブロック･焼土ブロック微量含。しまり･粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/4　ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土10YR3/2　ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
5　褐色土10YR4/4　ローム粒子・焼土ブロック微量含。しまり・粘性あり。



２号竪穴建物Ｐ１　G-G′
1　褐色土10YR4/6　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

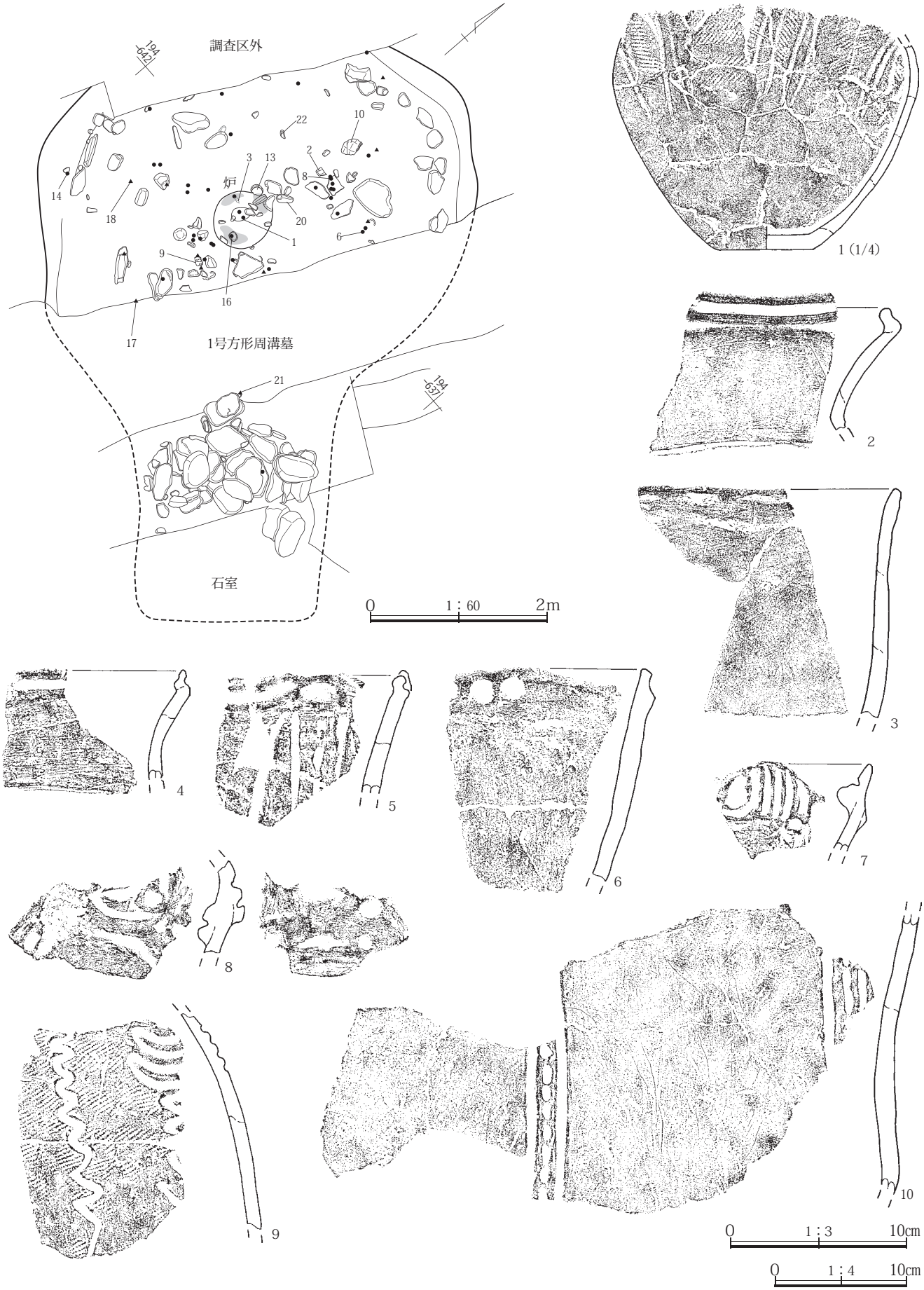
２号竪穴建物Ｐ２　H-H′
1　褐色土10YR4/4　ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　褐色土10YR4/6　ロームブロック微量含。しまり・粘性あり。

２号竪穴建物Ｐ３　I-I′
1　褐色土10YR4/4　ロームブロック多量含。黒褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。
2　黄褐色土10YR5/6　黒褐色土ブロック微量含。しまり・粘性あり。
3　褐色土10YR4/4　ローム粒子微量含。しまり・粘性あり。

２号竪穴建物Ｐ５　J-J′
1　褐色土10YR4/4　砂質土。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土１～３㎝ブロック10％含。

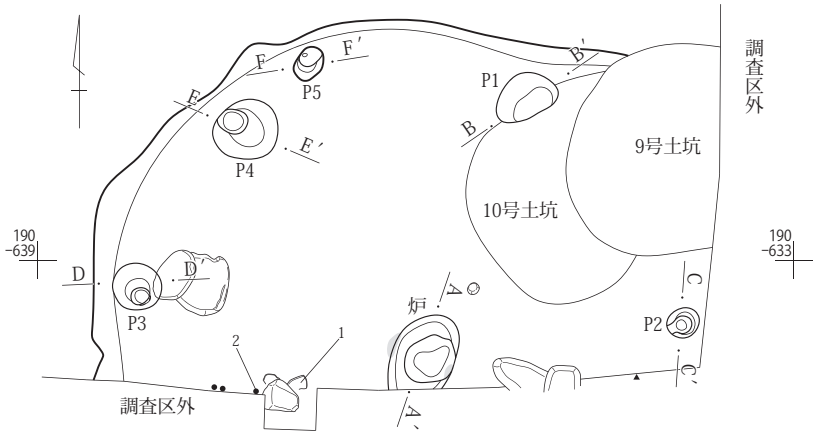
２号竪穴建物Ｐ６　K-K′
1　黒褐色土10YR2/3　砂質土。しまりなし、粘性あり。５㎜黄褐色砂粒少量含。

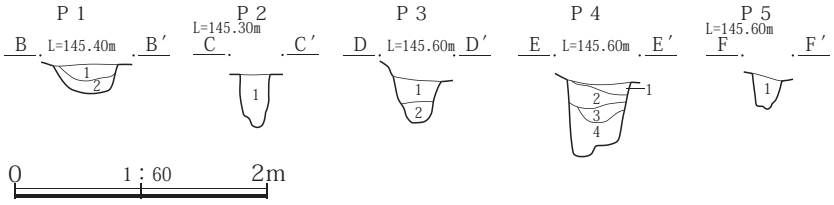
第87図　３区２号竪穴建物炉、柱穴土層断面図

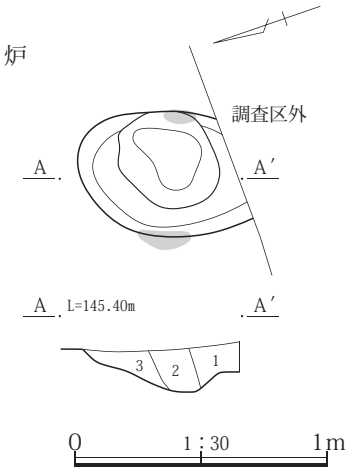


第88図　３区２号竪穴建物遺物出土位置図・出土遺物（１）

第89図　３区２号竪穴建物出土遺物（２）







３号竪穴建物炉　A-A′
1　褐色土10YR4/4　黄色軽石中量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　黄色軽石微量含。しまり・粘性あり
3　褐色土10YR4/6　暗褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

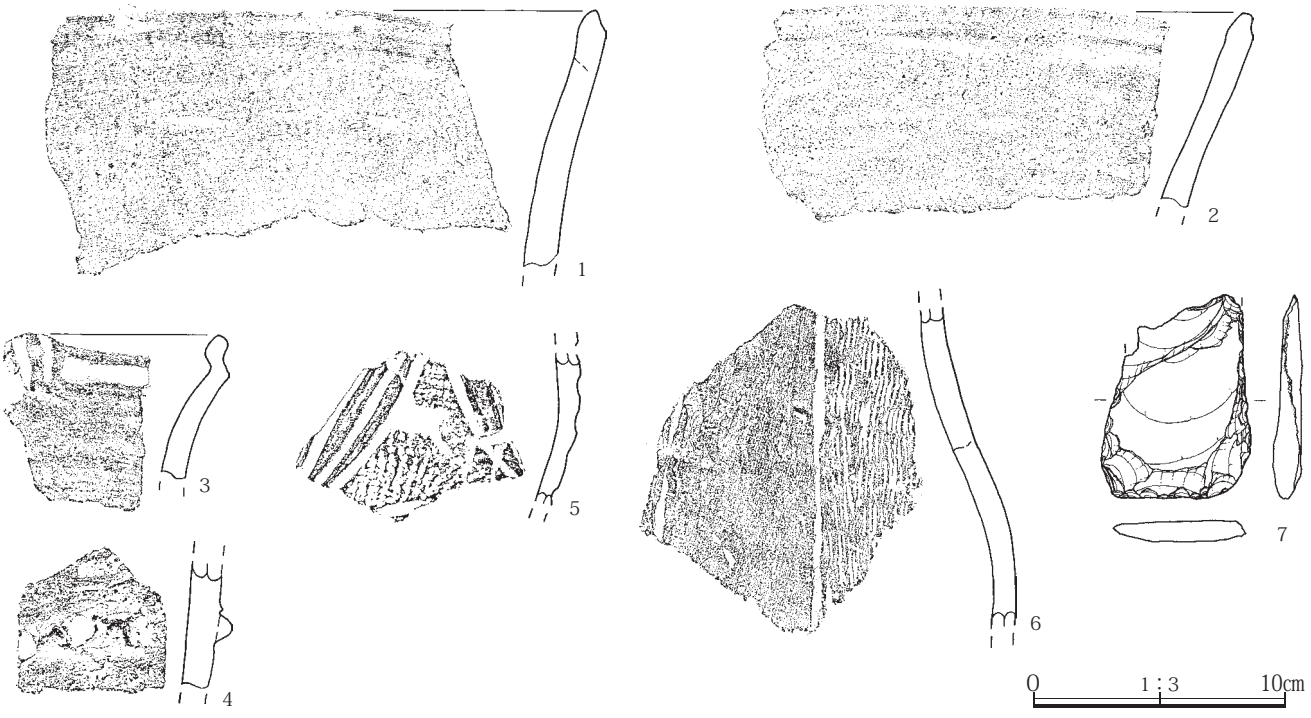
３号竪穴建物Ｐ１　B-B′
1　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまりなし、粘性あり。0.5～１㎝の黄褐色砂粒２％含。
2　褐色土10YR4/4　ローム多量含砂質土。しまりなし、粘性あり。１㎝の黄褐色砂粒少量含。

３号竪穴建物Ｐ２　C-C′
1　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎜の黄褐色砂粒少量含。

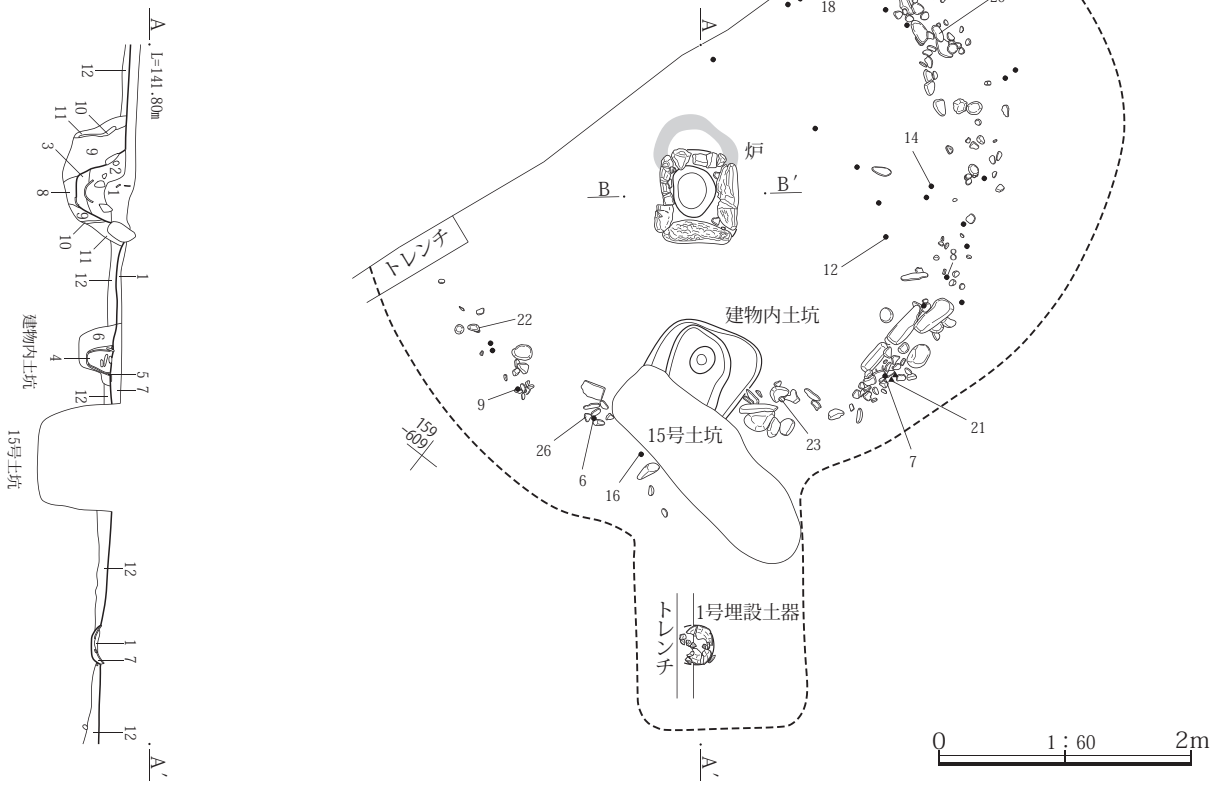
３号竪穴建物Ｐ３　D-D′
1　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性あり。ローム土少量含。
2　暗褐色土10YR3/3　ローム含砂質土。しまり・粘性あり。

３号竪穴建物Ｐ４　E-E′
1　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性あり。１㎝の黄褐色砂粒少量含。
2　にぶい黄褐色土10YR5/4　ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。
3　褐色土10YR4/4　砂含ローム土。しまり・粘性あり。
4　褐色土10YR4/6　砂含ローム土。しまり･粘性あり。４～６㎝のブロック黒褐色土少量含。

３号竪穴建物Ｐ５　F-F′
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　ローム含砂質土。しまり・粘性あり。

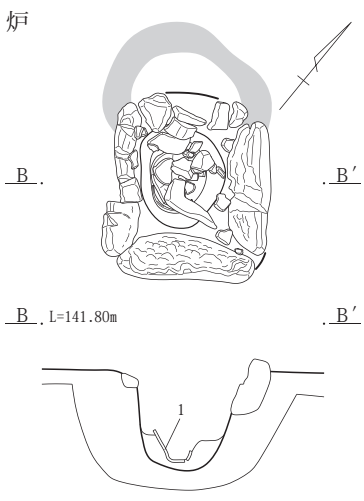


第90図　３区３号竪穴建物・出土遺物

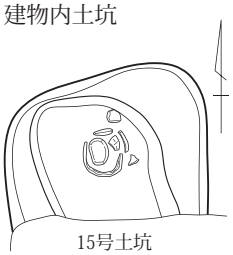


4号竪穴建物　A-A′

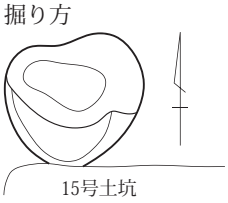
1　黒褐色土10YR2/2　竪穴建物覆土。小石・白色粒多量、焼土粒少量、ローム粒若干含。
2　黒褐色土10YR3/1　炉覆土。淡。北西側崩炉石、焼土ブロック多量含。
3　黒褐色土10YR3/1　炉覆土。粘性甕下土。入込か不明。焼土粒・ローム粒若干含。
4　黒褐色土10YR2/3　建物内土坑内埋甕覆土。やや明るい。こぶし大偏平楕円礫３層に重なり出土。
5　黒褐色土10YR2/3　建物内土坑覆土。やや明。白色粒多量含。
6　黒褐色土10YR2/3　建物内土坑覆土。やや明。ロームブロック多量含。掘り方覆土似。
7　黒褐色土10YR2/3　柄部分１号埋設土器設置土。白色粒多量含。
8　黒褐色土10YR3/2　炉掘り方覆土。やや茶。焼土粒少量含。
9　灰黄褐色土10YR4/2　炉掘り方覆土。焼土ブロック・ロームブロック多量、１㎝大炭化物少量含。
10　赤褐色土10YR4/8　焼土層。平面炉北西確認。炉作替？
11　灰黄褐色土10YR4/2　炉掘り方覆土。黒色味強、焼土ブロック・ロームブロック多量、１㎝大炭化物少量含。
12　暗褐色土10YR3/4　竪穴建物掘り方覆土。しまりあり。ロームブロック、黒褐色土多量含。

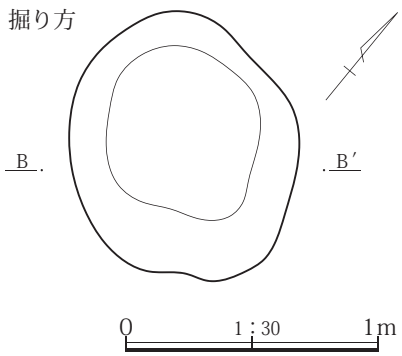


建物内土坑



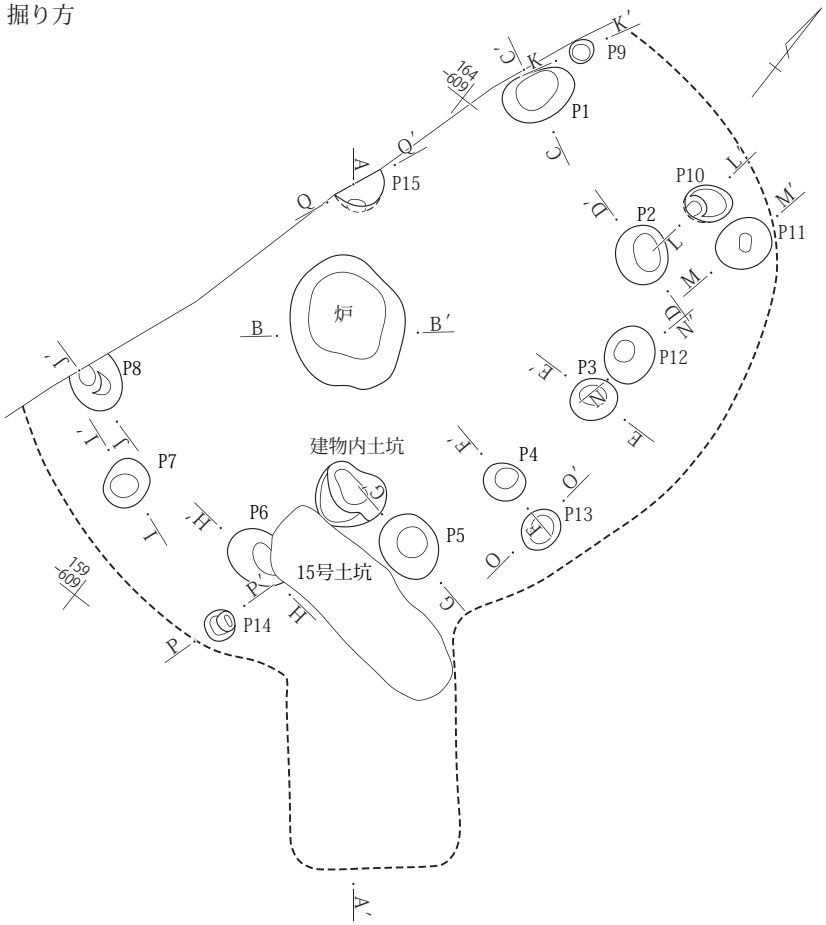
掘り方

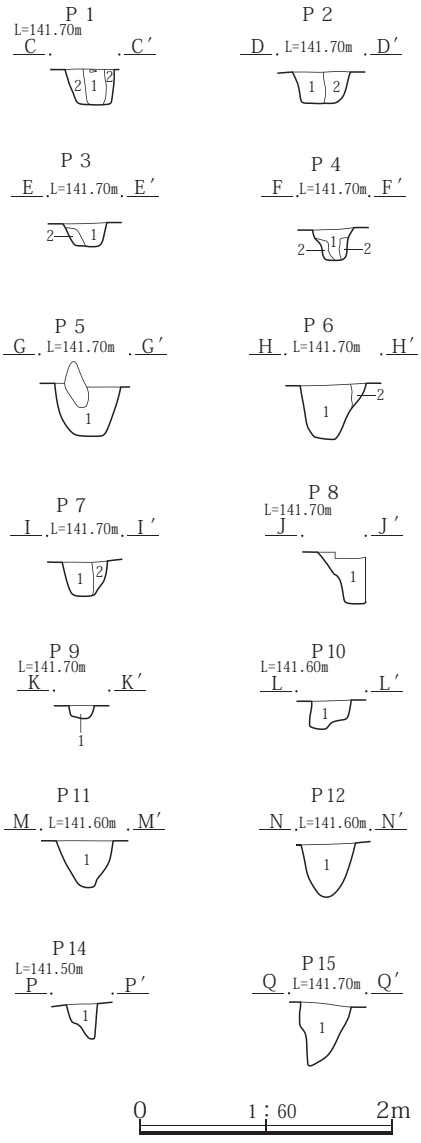




第91図　２区４号竪穴建物

掘り方



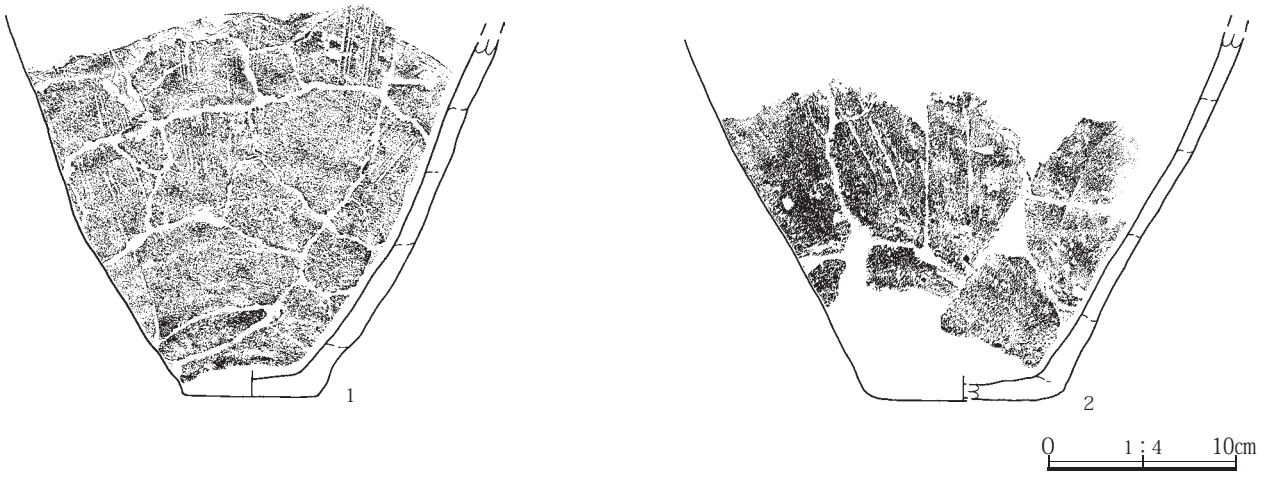


４号竪穴建物Ｐ１・Ｐ５　C-C′・G-G′
1　黒褐色土10YR3/1　やや淡。白色粒少量含。
2　１層にローム多量含。

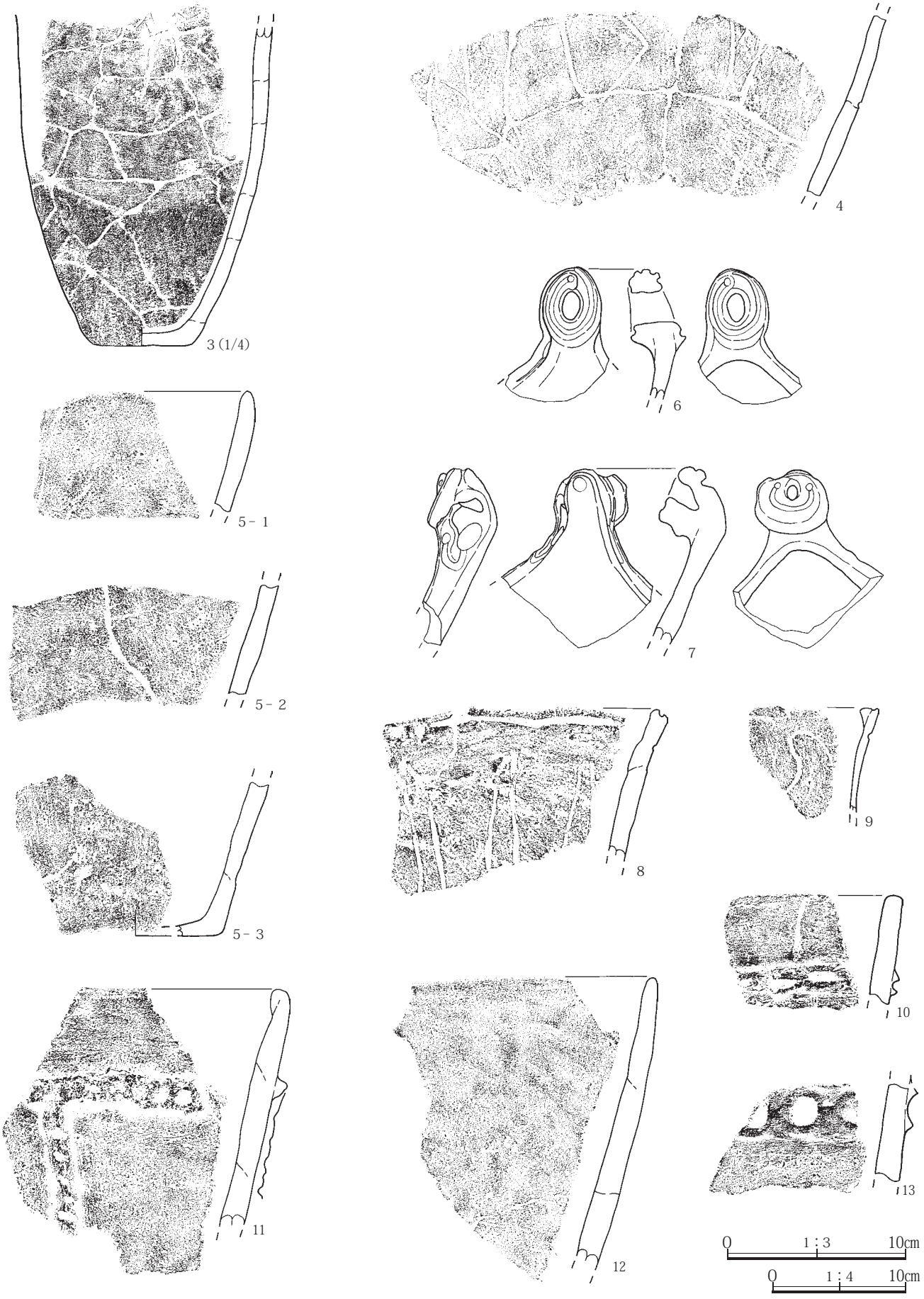
４号竪穴建物Ｐ２～Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７　D-D′～ F-F′・H-H′・I-I′
1　黒褐色土10YR3/1　やや淡。白色粒・ローム粒多量含。
2　黄褐色土10YR5/6　黒褐色土・にぶい黄褐色土多量含。

４号竪穴建物Ｐ８　J-J′
1　やや淡。白色粒・ローム多量、焼土粒若干含。

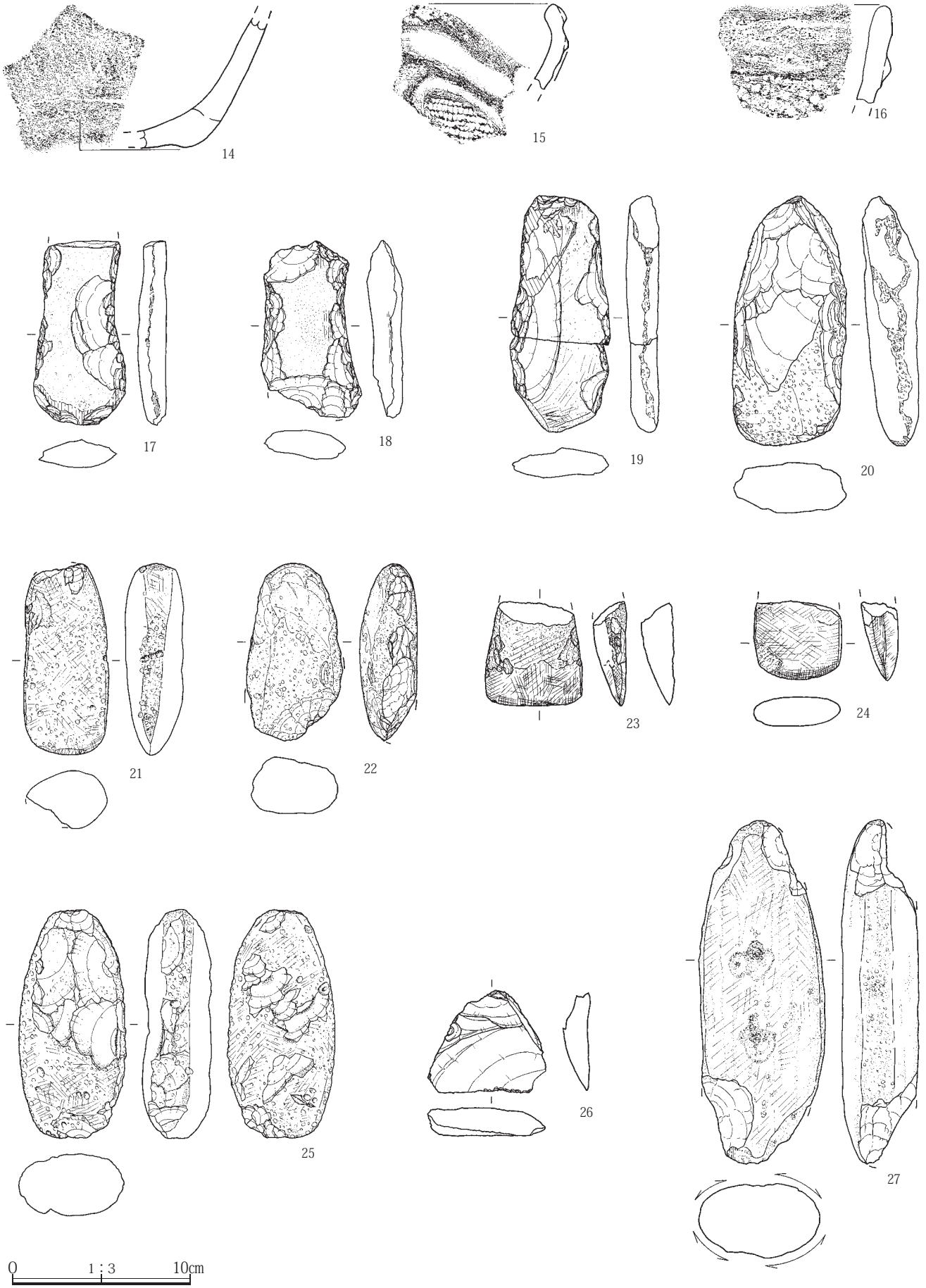
４号竪穴建物Ｐ９～Ｐ15　K-K′～Q-Q′
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒多量、ローム少量含。



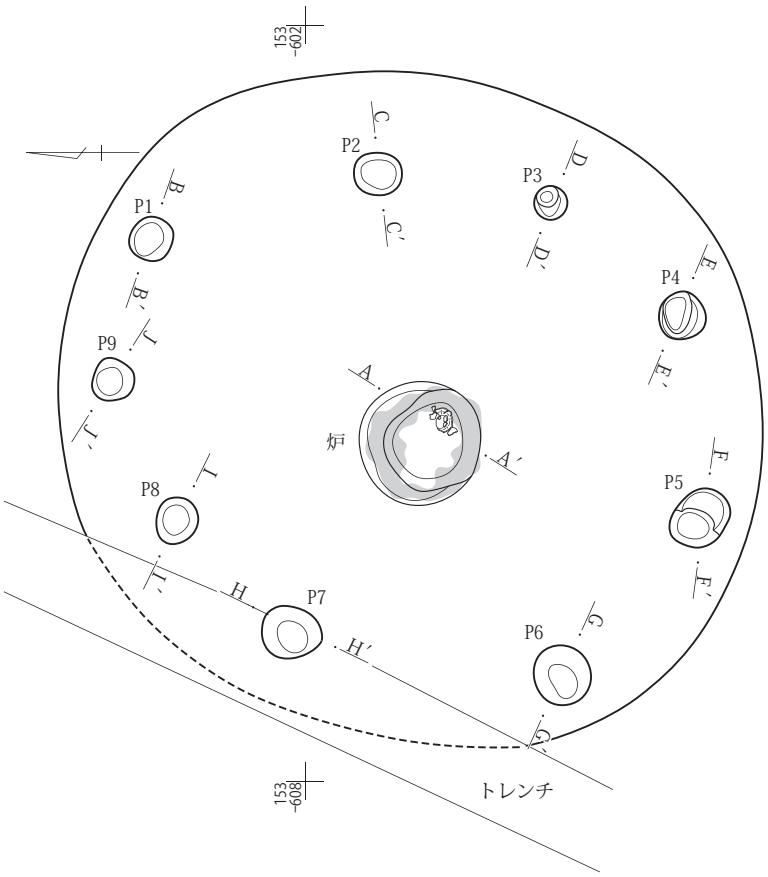
第92図　２区４号竪穴建物掘り方・出土遺物（１）

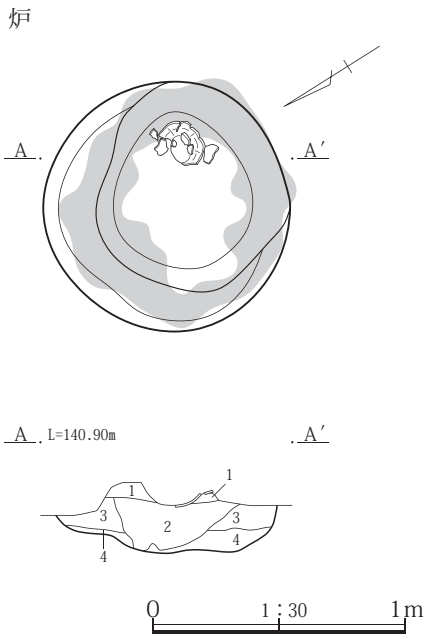


第93図　２区４号竪穴建物出土遺物（２）

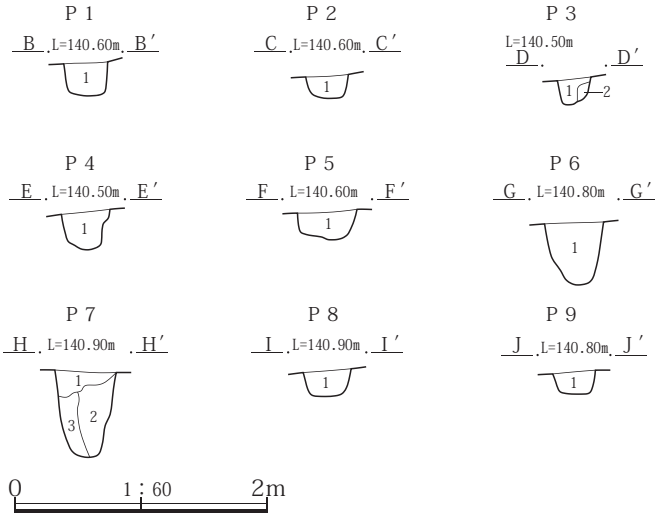


第94図　２区４号竪穴建物出土遺物（３）





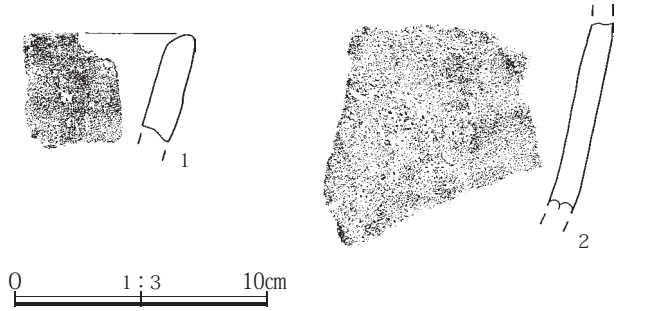
８号竪穴建物炉 A-A′
1　黒褐色土10YR2/2　白色粒多量含。
2　黒褐色土10YR3/2　やや明。炭化物粒・焼土粒多量、白色粒少量含。
3　黒褐色土10YR3/3　焼土ブロック多量、白色粒少量含。
4　黄褐色土10YR5/6　黒褐色土多量、白色粒少量含。



８号竪穴建物Ｐ１・Ｐ９　B-B′･J-J′
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒・ローム・にぶい黄褐色土多量含。

８号竪穴建物
Ｐ２～Ｐ６・Ｐ８　C-C′～G-G′･I-I′
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒多量、ローム少量含。
2　１層似ローム多量含。

８号竪穴建物Ｐ７　H-H′
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒多量、ローム粒少量含。
2　１層に白色粒少量含。
3　２層似ロームブロック多量含。



第95図　２区８号竪穴建物・出土遺物

５．土坑

３区１号土坑(第96図・第９表・PL.56)
位　　置　X＝30217～219　Y＝-80632
重複遺構　１号ピットと重複。１号土坑が旧い。
形　　状　不整形
主軸方位　N-16°-E
規　　模　長軸2.09m　短軸0.60m　深さ0.10m
埋没土層　ローム粒を含む。
出土遺物　なし
所　　見　３区傾斜地に確認され出土遺物はない。時期は不明。

３区２号土坑(第96図・第９表・PL.56)
位　　置　X＝30215・216　Y＝-80631・632
重複遺構　なし
形　　状　円形
主軸方位　N-74°-W
規　　模　長軸1.38m　短軸1.30m　深さ0.29m
埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。
出土遺物　なし
所　　見　時期は不明。

３区３号土坑(第96図・第９表・PL.56)
位　　置　X＝30213～215　Y＝-80632・633
重複遺構　なし
形　　状　長円形
主軸方位　N-26°-E
規　　模　長軸1.80m　短軸0.68m　深さ0.08m
埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。
出土遺物　なし
所　　見　時期は不明。

４号土坑　欠番

１区５号土坑(第96図・第９表・PL.56・90)
位　　置　X＝30233・234　Y＝-80572・573
重複遺構　なし
形　　状　楕円形
主軸方位　N-42°-W
規　　模　長軸1.04m　短軸0.95m　深さ0.43m
埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。
出土遺物　剥片(１)が１点出土している。
所　　見　剥片があり、縄文か。

３区６号土坑(第96図・第９表・PL.56・90)
位　　置　X＝30200　Y＝-80633・634
重複遺構　１号竪穴建物と重複。新旧関係は不明。
形　　状　楕円形
主軸方位　N-87°-W
規　　模　長軸0.99m　短軸0.48m　深さ0.82m
埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。
出土遺物　堀之内１式土器(１)が出土している。
所　　見　遺物は１号竪穴建物と同時期ではあるが、炉の北に接し、掘り込まれている。覆土は１号竪穴建物覆土と同質のものであり、断面図を見ると土坑の掘り込みは確認できず､土坑ではなく１号竪穴建物に伴う施設か、床下土坑か。

３区７号土坑(第96図・第９表・PL.56)
位　　置　X＝30192・193　Y＝-80635
重複遺構　なし
形　　状　楕円形
主軸方位　N- 2°-E
規　　模　長軸1.19m　短軸0.78m　深さ0.78m
埋没土層　ローム粒を含む砂質土。
出土遺物　なし
所　　見　時期は不明。

３区８号土坑(第97図・第９表・PL.56・90)
位　　置　X＝30193・194　Y＝-80635・636
重複遺構　36号ピットと重複。新旧関係はピットが新しい。
形　　状　楕円形
主軸方位　N- 6°-E
規　　模　長軸1.45m　短軸1.01m　深さ0.66m
埋没土層　ロームを少量含む砂質土。
出土遺物　磨製石斧(１)が出土している。
所　　見　磨製石斧が１点出土するが、埋没覆土は縄文時代の遺構とは異なり、混入したものと考えられる。時

期は不明。

３区９号土坑(第97図・第９表・PL.56・90)
位　　置　X＝30190・191　Y＝-80633・634
重複遺構　３号竪穴建物、10号土坑と重複。９号土坑が一番新しい。
形　　状　不明
主軸方位　不明
規　　模　長軸1.62m　短軸(1.21)m　深さ0.71m
埋没土層　細砂質土。
出土遺物　堀之内１式土器片(１)が出土している。
所　　見　９号土坑からは堀之内１式土器が出土しているが混入と考えられる。覆土等の検討から新しいものと考えられる。時期は不明である。

３区10号土坑(第97図・第９表・PL.56・90)
位　　置　X＝30189～191　Y＝-80634・635
重複遺構　３号竪穴建物、９号土坑と重複。10号土坑は３号竪穴建物より新しく、９号土坑より旧い。
形　　状　不明
主軸方位　N-60°-E
規　　模　長軸1.53m　短軸(1.40)m　深さ0.37m
埋没土層　細砂質土。
出土遺物　縄文時代後期前葉の土器(１)が出土している。
所　　見　縄文土器が出土するが、混入と考えられる。覆土の検討から９号土坑に近い時代と考えられる。時期は不明である。

11号土坑→３号竪穴建物炉

３区12号土坑(第97図・第９表・PL.56・90)
位　　置　X＝30192・193　Y＝-80633・634
重複遺構　なし
形　　状　楕円形
主軸方位　N-65°-E
規　　模　長軸0.93m　短軸0.57m　深さ0.25m
埋没土層　細砂質土層。
出土遺物　堀之内１式土器片(１)が出土している。
所　　見　堀之内１式土器が出土しているが、混入と考えられる。覆土の検討から新しい。時期は不明である。

２区13・14号土坑(第98図・第９表・PL.56・57・90)
位　　置　X＝30139～145　Y＝-80610～615
重複遺構　14号土坑は２号方形周溝墓、３号溝、13号土坑と重複。２号周溝との新旧関係は不明。３号溝、13号土坑が新しい。
形　　状　楕円形
主軸方位　N-22°-E(13号)　N-75°-W(14号)
規　　模
　13号　長軸(0.48)m　短軸0.55m　深さ0.48m
　14号　長軸(3.50)m　短軸4.36m　深さ0.94m
埋没土層　暗・黒褐色土層。
出土遺物　14号土坑から堀之内１式土器(２)、前期中葉以前土器片(１)が出土している。
所　　見　13･14号土坑は７号墳を造る時の整地に伴い、縄文の配石遺構を壊してまとめたと考えた。県教育委員会の墳丘内の試掘トレンチ内底部でも、配石状に石が配置されていたからである。14号土坑の上面は人の手により４個の石で組まれていた。さらに13号土坑内には墳丘内の葺石も混じり、後世に落ちたものであろう。７号墳から南に向かい、鏑川に向かって傾斜がきつくなる。雨が降れば傾斜を削ったことも考えられ、昭和時代には畑にするため遺跡内の古墳を壊した時、低いところに投げた可能性もある。

２区16号土坑(第99図・第９表・PL.57・91)
位　　置　X＝30174～177　Y＝-80592・593
重複遺構　なし
形　　状　楕円形
主軸方位　N-11°-E
規　　模　長軸(2.57)m　短軸1.29m　深さ0.81m
埋没土層　白色粒子、ロームブロックを含む。
出土遺物　堀之内１式土器片(２・３)、加曾利Ｅ３式土器片(１)が出土している。
所　　見　縄文時代中・後期の土器が出土し、混入したものと考えられる。時期は埋没土の検討から縄文時代と考えられる。

２区17号土坑(第99図・第９表・PL.57・91)

位　　置　Ｘ＝30168・169　Ｙ＝-80601・602

重複遺構　７号墳と重複。本土坑が旧い。

形　　状　円形

主軸方位　Ｎ-43°-Ｅ

規　　模　長軸0.82m　短軸0.75m　深さ0.22m

埋没土層　白色粒子、ローム粒を含む。

出土遺物　堀之内１式深鉢(１)が出土している。

所　　見　７号墳周堀の墳丘側の中段で検出されている。古墳構築時に壊された遺構と考えられる。

18号土坑→８号竪穴建物炉

２区19号土坑(第99図・第９表・PL.57)

位　　置　Ｘ＝30155・156　Ｙ＝-80598・599

重複遺構　なし

形　　状　円形

主軸方位　Ｎ-56°-W

規　　模　長軸0.81m　短軸0.76m　深さ0.71m

埋没土層　白色粒、ローム粒を含む。

出土遺物　なし

所　　見　２区中央東に検出され、南東方向の傾斜地で確認されている。時期は埋没土の検討から縄文時代と考えられる。

１区20号土坑(第99図・第９表・PL.57・91)

位　　置　Ｘ＝30205・206　Ｙ＝-80587・588

重複遺構　なし

形　　状　楕円形

主軸方位　Ｎ-25°-Ｅ

規　　模　長軸0.91m　短軸0.73m　深さ0.31m

埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物　七郎内Ⅱ群片(１)が出土している。

所　　見　時期は出土遺物と埋没土層の検討から縄文時代中期初頭と考えられる。

１区21号土坑(第100図・第９表・PL.57・91)

位　　置　Ｘ＝30189～192　Ｙ＝-80592～594

重複遺構　なし

形　　状　楕円形

主軸方位　Ｎ-78°-W

規　　模　長軸(1.59)m　短軸2.04m　深さ0.37m

埋没土層　白色粒、ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物　凹石(１)、敲石(２)が出土している。

所　　見　時期は不明だが、縄文期の埋没土層に似る。

１区22号土坑(第100図・第９表・PL.57)

位　　置　Ｘ＝30197～199　Ｙ＝-80585～587

重複遺構　105・106号ピットと重複。22号土坑が旧い。

形　　状　楕円形

規　　模　長軸2.23m　短軸2.07m　深さ0.58m

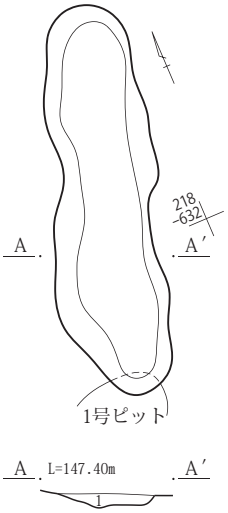
主軸方位　Ｎ-51°-Ｅ

埋没土層　白色粒子、ローム粒、ロームブロックを含む。

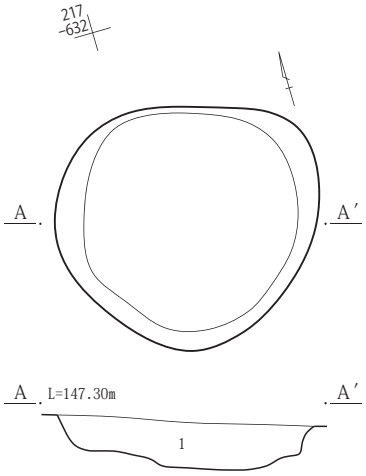
出土遺物　なし

所　　見　時期は不明だが、縄文期の埋没土層に似る。

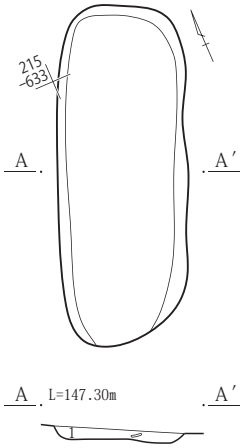
３区１号土坑



３区２号土坑



３区３号土坑

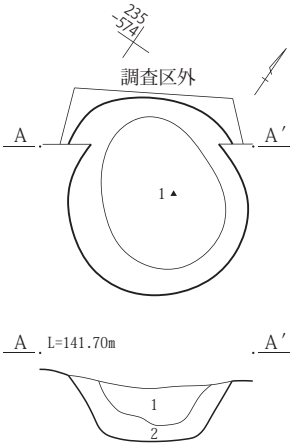


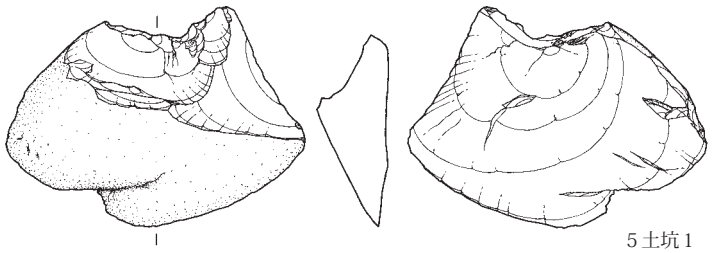
１号土坑
1　にぶい黄褐色土10YR4/1　ローム粒少量含。

２号・３号土坑
1　にぶい黄褐色土10YR4/2　ローム粒ブロック状含。As-C ？少量含。

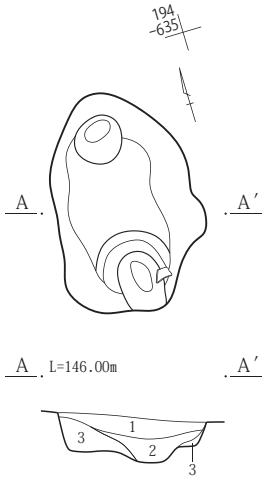
５号土坑
1　黒褐色土10YR3/1　ローム小塊・粒含。しまり・粘性あり。
2　にぶい黄褐色土10YR4/3　黒褐色土少量、ローム小塊・粒多量含。しまり・粘性あり。

１区５号土坑

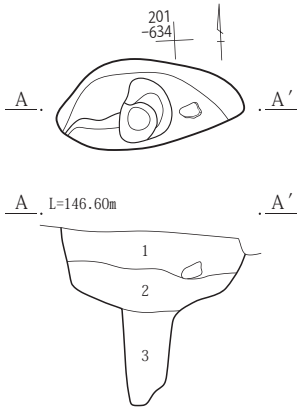



5土坑1

３区７号土坑



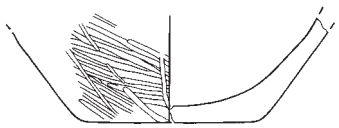
３区６号土坑



６号土坑
1　黒褐色土10YR3/2　白色・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR3/2　白色粒子微量、ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR2/3　ローム粒子・ロームブロック中量含。しまり・粘性なし。

７号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりなし、粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　細砂質土。しまりなし、粘性あり。0.5～1㎝の黄褐色砂礫少量含。
3　にぶい黄褐色土10YR5/3　ローム土含砂質土。しまり・粘性あり。0.5～1㎝の黄褐色砂礫少量含。

6号土坑1

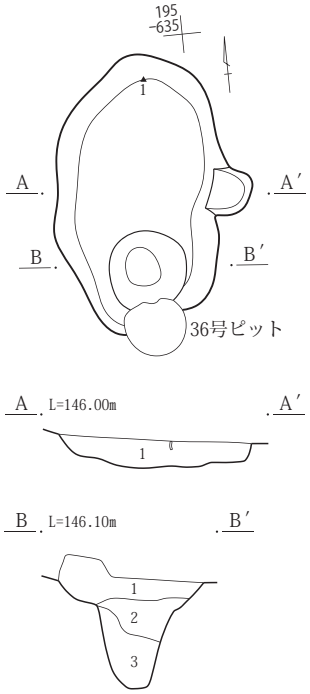

6号土坑2

0　1：40　1m

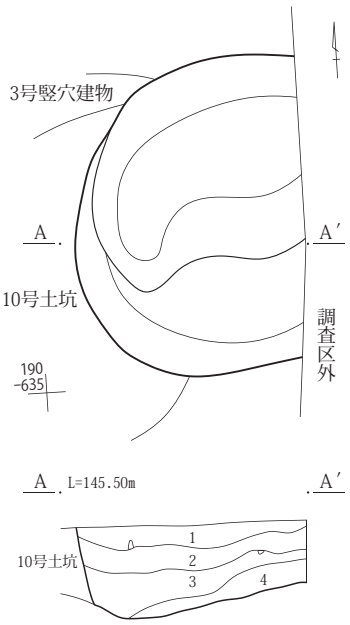
0　1：3　10㎝

第96図　３区１号～３号・６号・７号土坑、１区５号土坑、５号・６号土坑出土遺物

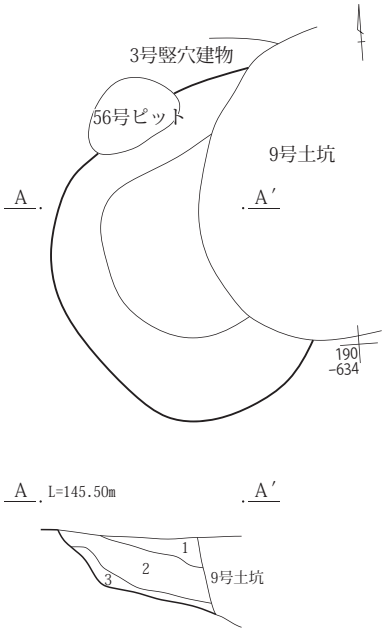
３区８号土坑



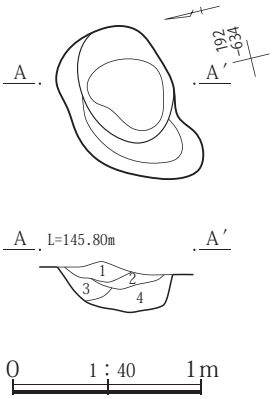
３区９号土坑



３区 10 号土坑



３区12号土坑



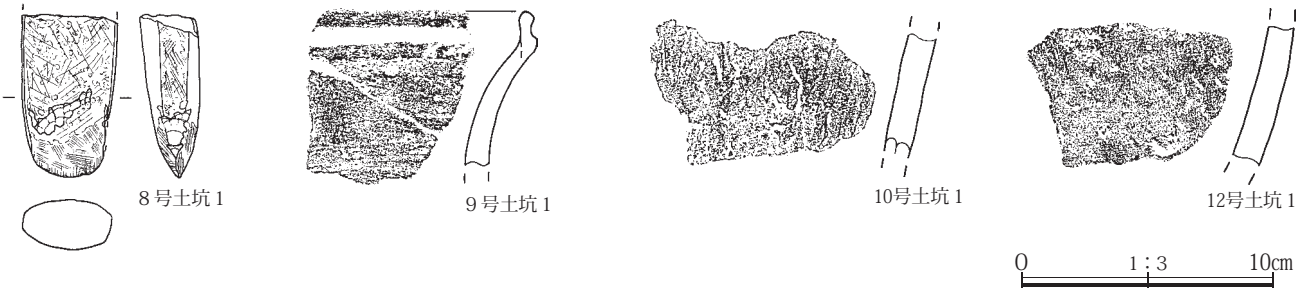
８号土坑　A-A′
1　褐色土10YR4/4　ローム少量含砂質土。しまりあり、粘性なし。0.5～１㎝の黄褐色砂粒少量含。

８号土坑　B-B′
1　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまり・粘性あり。２～３㎜の黄褐色砂粒少量含。
2　黒褐色土10YR3/2　砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎝の黄褐色砂粒２％含。
3　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまり・粘性あり。

９号土坑
1　黒褐色土10YR3/1　細砂質土。しまりなし、粘性あり。１㎝の黄褐色砂粒2％含。
2　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまりなし、粘性あり。0.5～１㎝の黄褐色砂粒少量含。
3　黒色土10YR2/1　細砂質土。しまりなし、粘性あり。
4　にぶい黄褐色土10YR5/3　ローム多量含砂質土。しまり・粘性あり。

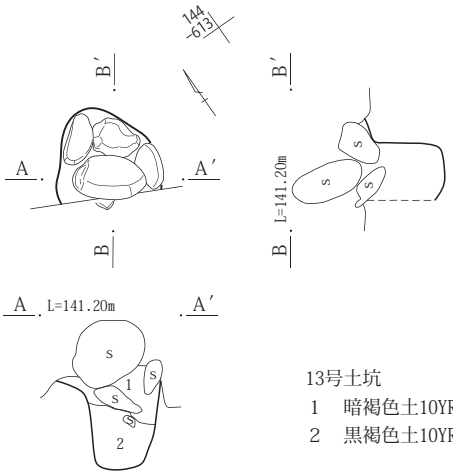
10号土坑
1　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまりなし、粘性あり。
2　黒褐色土10YR3/1　細砂質土。しまりなし、粘性あり。５㎜の黄褐色砂粒３％含。
3　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまりなし、粘性あり。にぶい黄褐色(10YR5/3)ローム土30％含。

12号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまりあり、粘性なし。明黄褐色(5YR5/8)焼土４㎝ブロック少量含。
2　黒褐色土10YR3/2　砂質土。しまり・粘性なし。
3　黒褐色土10YR2/2　砂質土。しまりあり、粘性なし。
4　黒褐色土10YR2/3　砂質土。しまりあり・粘性あり。下層にぶい黄褐色砂３㎝ブロック含。

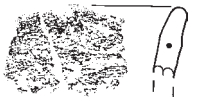


第97図　３区８号～ 10号・12号土坑、出土遺物

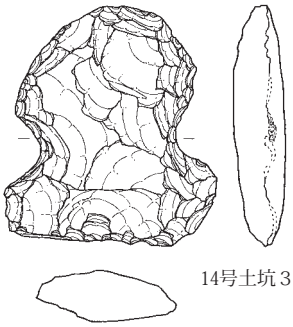
２区13号土坑



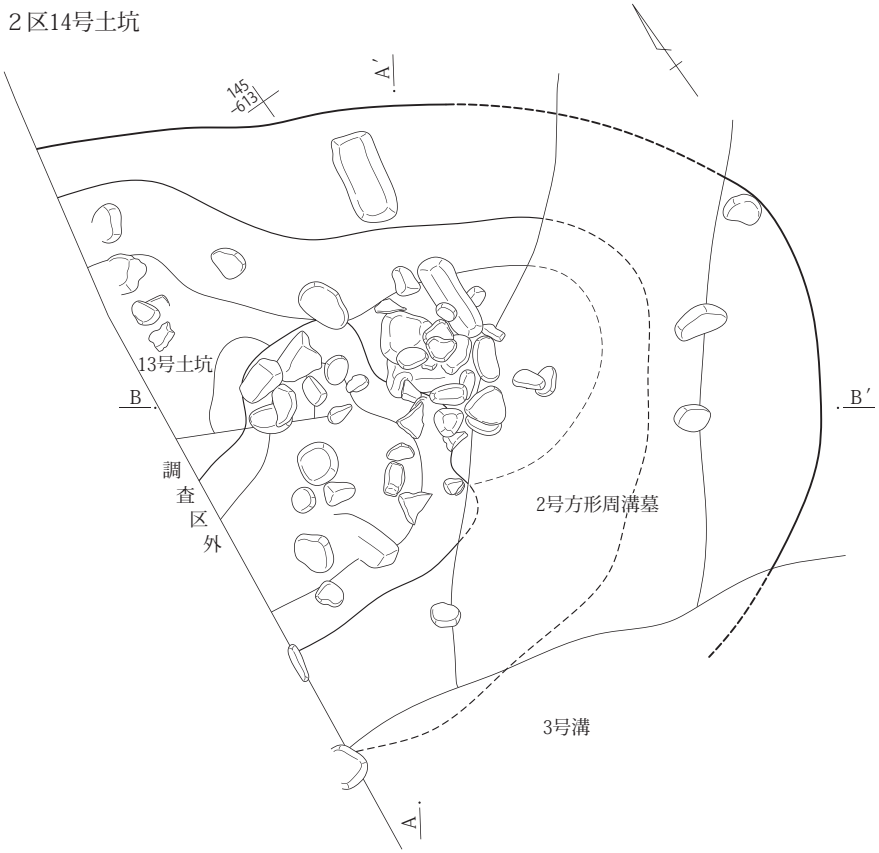
13号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　しまりあり・粘性なし。
2　黒褐色土10YR2/3　しまり・粘性あり。

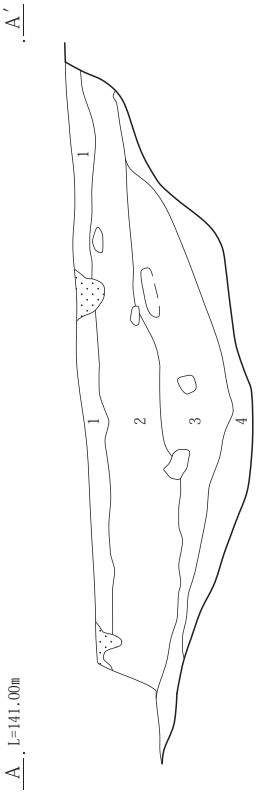

14号土坑１

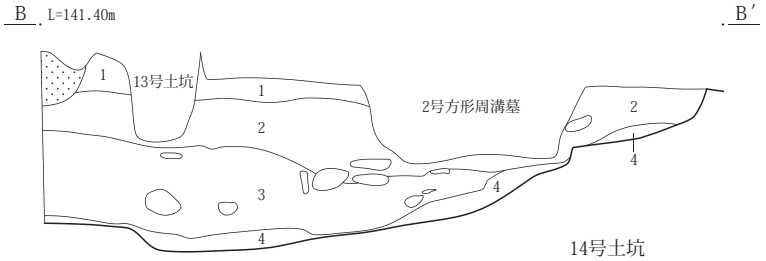
14号土坑２


14号土坑３

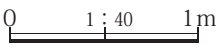
２区14号土坑





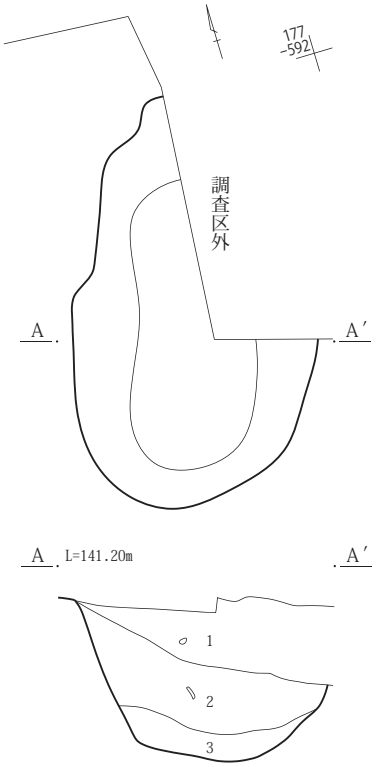


14号土坑
1　黒褐色土10YR2/2　白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・黄色粒子微量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR3/1　酸化鉄分中量含。しまり・粘性あり。
4　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。



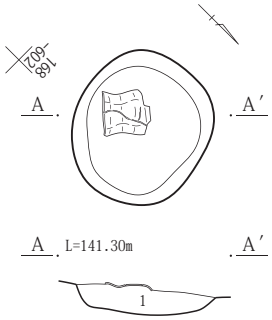
第98図　２区13号・14号土坑、14号土坑出土遺物

２区16号土坑



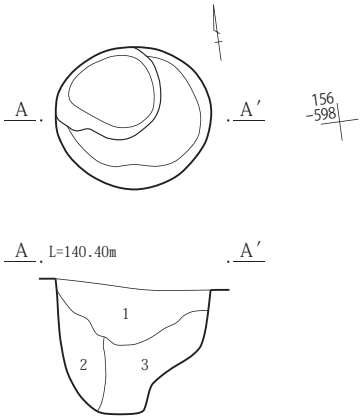
16号土坑
1　黒褐色土10YR2/3　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。

２区17号土坑



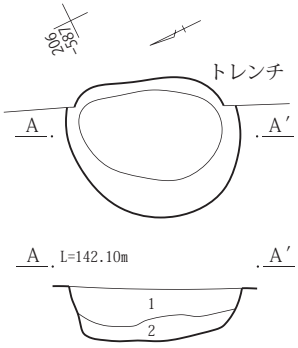
17号土坑
1　黄褐色土10YR5/6　黒褐色土・白色粒多量含。

２区19号土坑



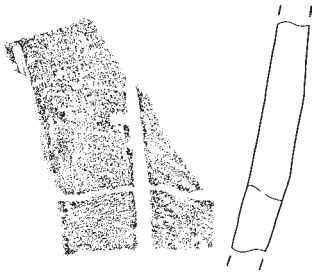
19号土坑
1　黒褐色土10YR2/2　白色粒多量、ローム少量含。
2　１層似白色粒少量含、やわらかい。
3　１層にローム大量含。

１区20号土坑

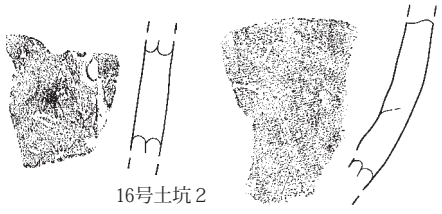


20号土坑
1　黒褐色土10YR2/3　黄色軽石・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック大・黄色軽石中量含。しまり・粘性あり。

0　1：40　1m



16号土坑１



16号土坑２

16号土坑３

17号土坑１(1/4)

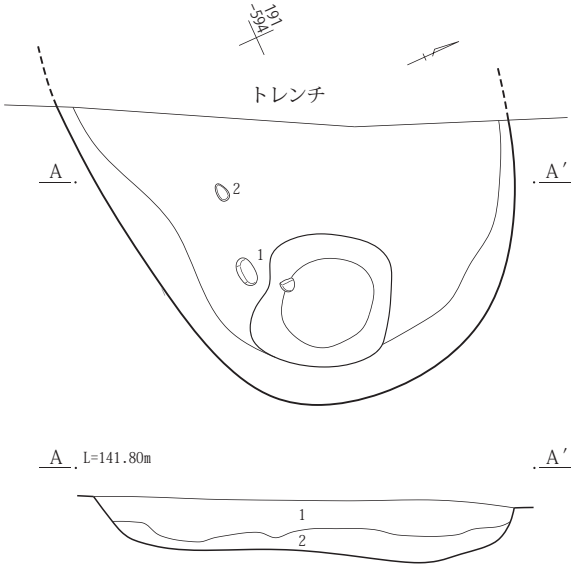
20号土坑１

0　1：3　10cm

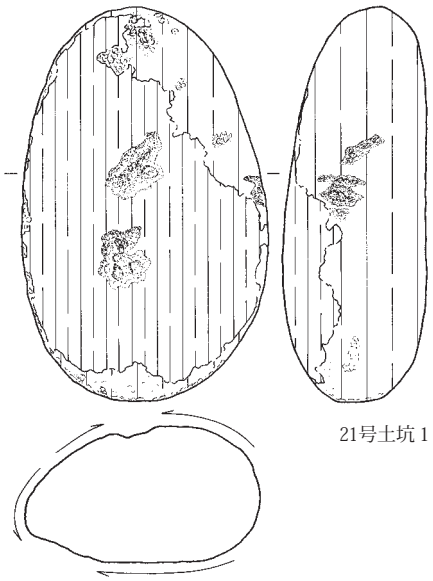
0　1：4　10cm

第99図　２区16号・17号・19号土坑、１区20号土坑、16号・17号・20号土坑出土遺物

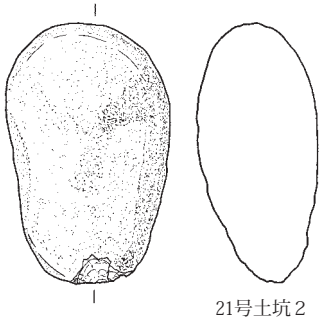
１区21号土坑



21号土坑
1　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック小～中多量含。しまり・粘性あり。

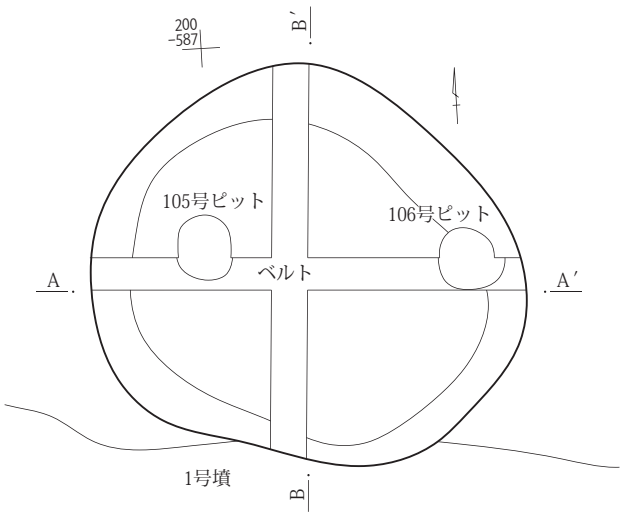


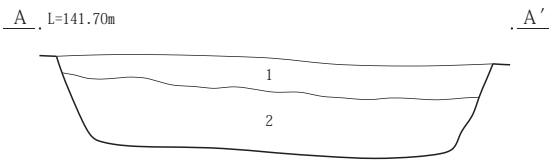
21号土坑１



21号土坑２

１区22号土坑





22号土坑
1　暗褐色土10YR3/4　白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
2　褐色土10YR4/4　ローム主体　暗褐色土ブロック大多量含。（地山可能性）

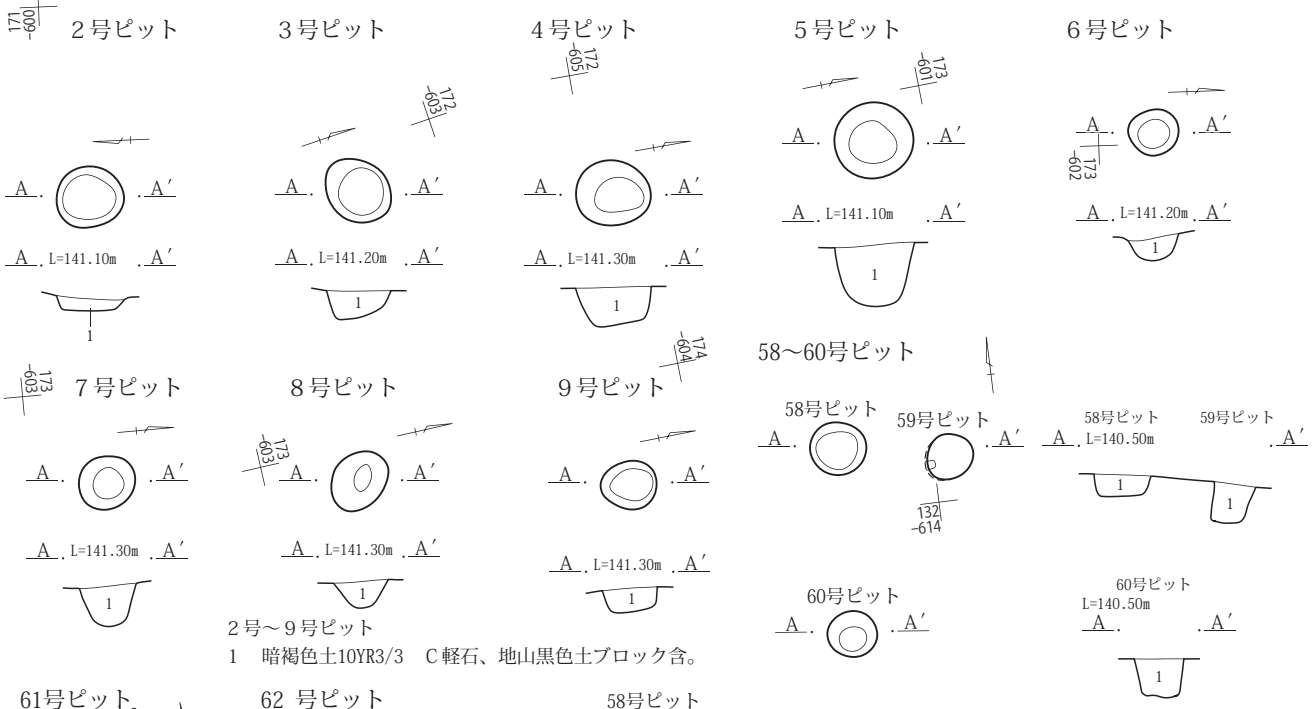
0　1：3　10cm

0　1：40　1m

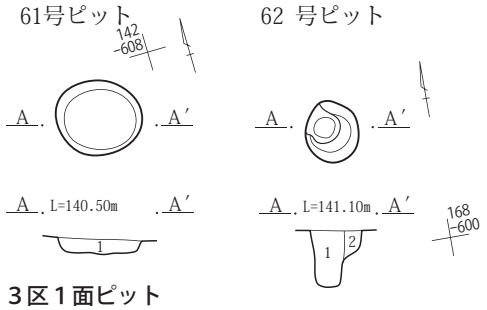
第100図　１区21号・22号土坑、21号土坑出土遺物

６．ピット

２区１面ピット

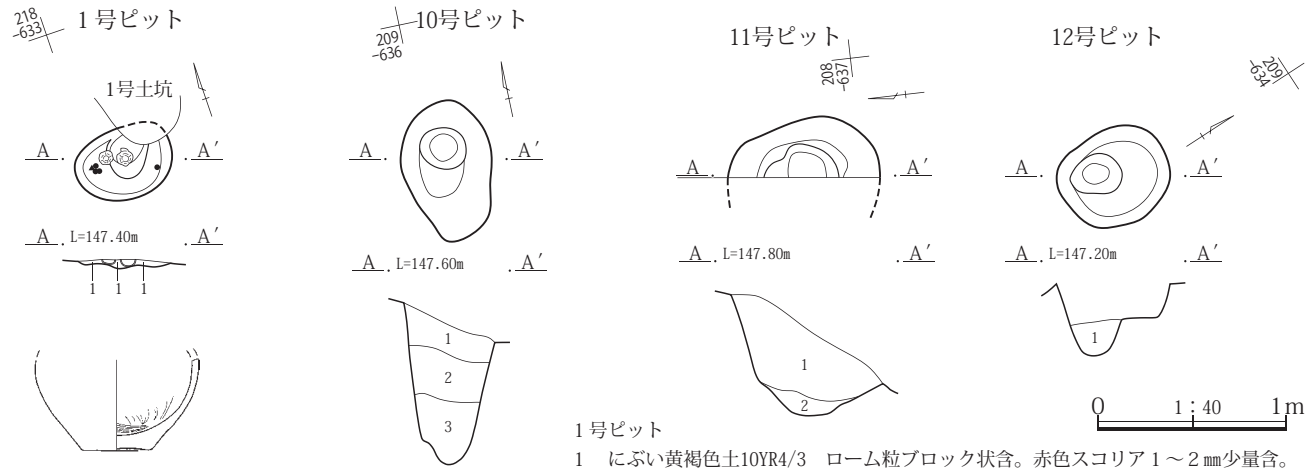


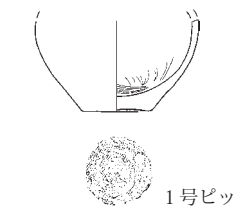
２号～９号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　Ｃ軽石、地山黒色土ブロック含。

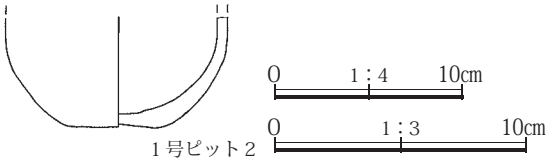


58号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
59号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
60号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
61号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　白色粒子・黄色粒子・炭化物微量含。しまり・粘性あり。
62号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　柱痕。暗褐色土・ローム・白色粒多量、小石・黄橙色粒少量含。
2　１層似ローム少量含。

３区１面ピット





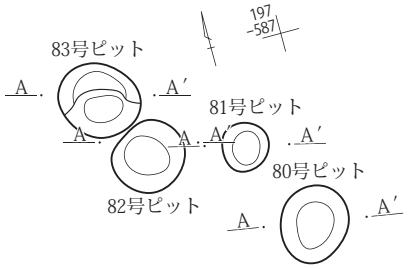


１号ピット
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　ローム粒ブロック状含。赤色スコリア１～２㎜少量含。
10号ピット
1　褐色土10YR4/4　ロームブロック・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
2　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック少量、ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
3　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。
11号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　　黄褐色軽石・砂粒中量含。しまりあり、粘性なし。
2　褐色土10YR4/6　砂粒少量含。しまり・粘性あり。
12号ピット
1　褐色土10YR4/6　ロームブロック・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。

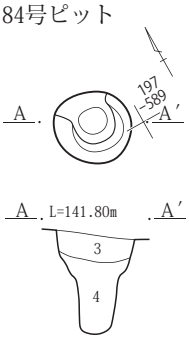
第101図　２区・３区１面１号～ 12号・58号～ 62号ピット、１号ピット出土遺物

１区２面ピット

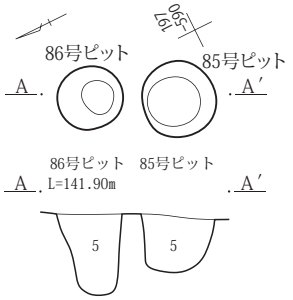
80号～83号ピット



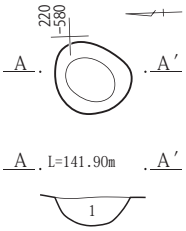
84号ピット

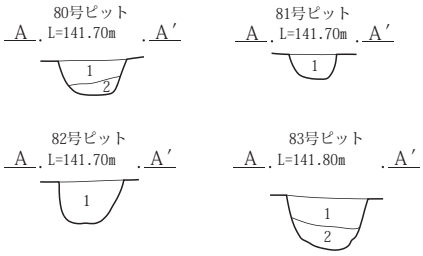


85号・86号ピット



92号ピット

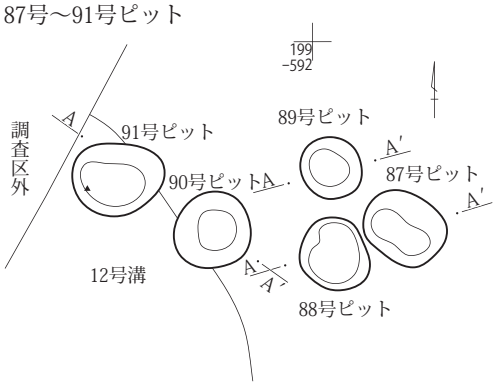


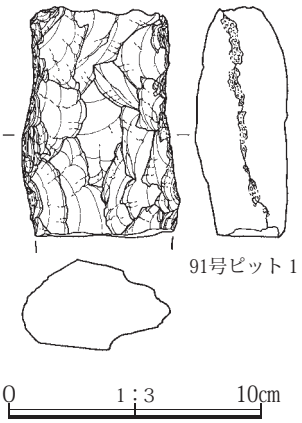


80号～ 91号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　砂粒・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/2　ロームブロック小微量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック小～中多量含。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック中少量含。
5　黒褐色土10YR2/2　砂粒・ロームブロック小微量含。しまり・粘性あり。

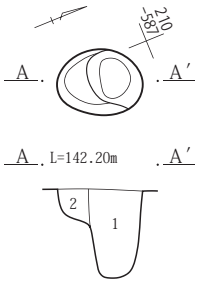
92号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック大中量、黄色軽石少量含。しまり・粘性あり。

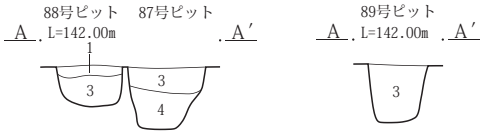
87号～91号ピット

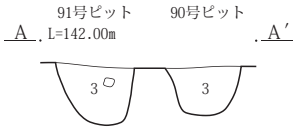




100号ピット





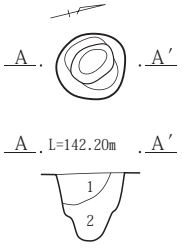


100号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック小少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック小中量含。しまりあり、粘性なし。

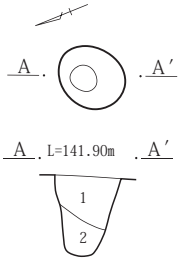
101号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。

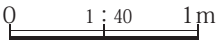
102号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック大多量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック小少量含。しまり・粘性あり。

101号ピット



102号ピット

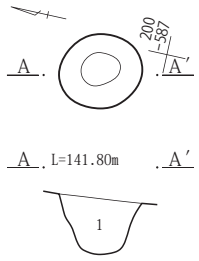




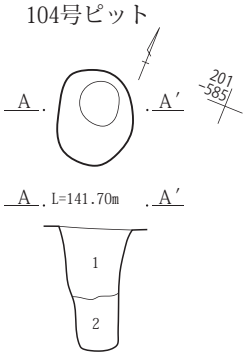
第102図　１区２面80号～ 92号・100号～ 102号ピット、91号ピット出土遺物

１区２面ピット

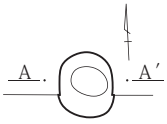
103号ピット



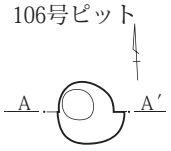
104号ピット

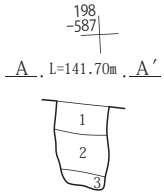


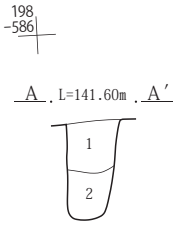
105号ピット



106号ピット







103号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック小少量含。しまり・粘性あり。

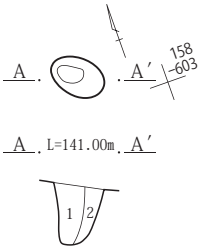
104号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック中・炭化物少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック中少量含。しまり・粘性あり。

105号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　砂粒・白色粒子少量含。
2　黒褐色土10YR2/3　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR2/3　ロームブロック中中量含。しまり・粘性あり。

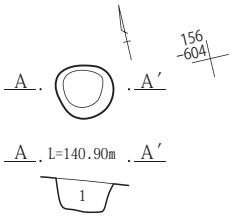
106号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・砂粒・炭化粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　砂粒・炭化粒子微量含。しまり・粘性あり。

２区２面ピット

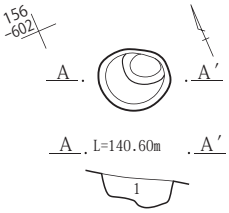
63号ピット



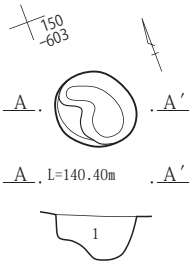
64号ピット



65号ピット



73号ピット

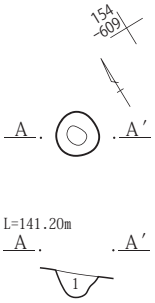


63号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　柱痕。白色粒多量含。
2　１層似ローム多量含。

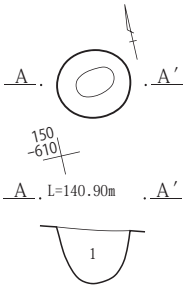
64号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒多量、ローム少量含。

65号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒多量、白色粘質ブロック土・ローム・鉄分沈着少量含。

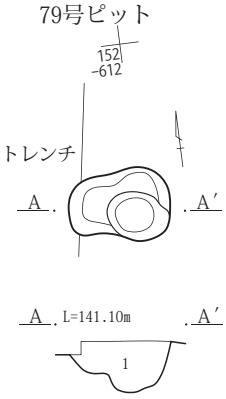
75号ピット



76号ピット



79号ピット



73号・76号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒・ローム多量含。

75号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒多、ローム少量含。

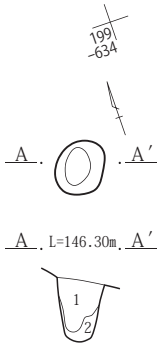
79号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒・ロームブロック多量含。

0　1：40　1m

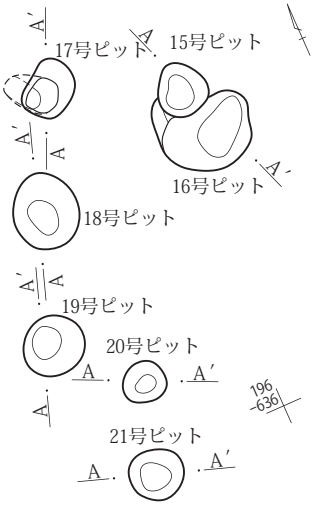
第103図　１区・２区２面63号～ 65号・73号・75号・76号・79号・103号～ 106号ピット

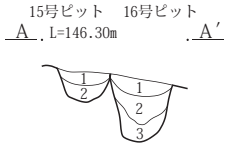
３区２面ピット

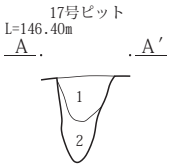
13号ピット

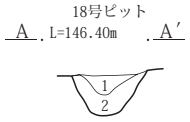


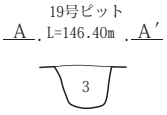
15号～21号ピット

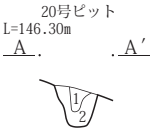


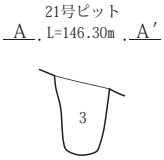












13号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　砂質土。しまり・粘性あり。２～３㎜のローム粒３％含。
2　にぶい黄褐色土10YR5/4　ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。１層土上層含。

15号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性なし。
2　黄褐色土10YR5/6　ローム土。しまりなし､粘性あり。１層土30％含。

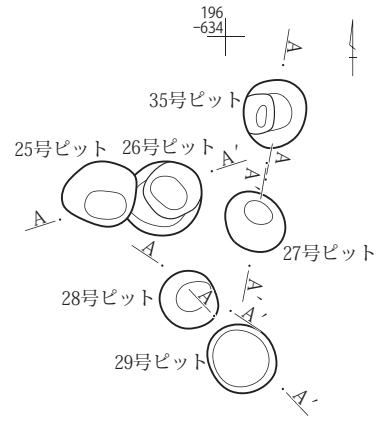
16号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土10％含。
2　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。
3　にぶい黄褐色土10YR5/3　ローム土。しまりなし、粘性あり。２層土20％含。

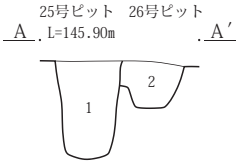
17号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　細砂質土。しまり・粘性なし。
2　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまりなし、粘性あり。

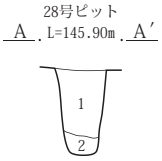
18号・19号ピット
1　褐色土10YR4/4　砂質土。しまり・粘性なし。
2　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性なし。0.5～１㎝の明黄褐色砂粒40％含。
3　にぶい黄褐色土10YR4/3　細砂質土。しまり・粘性なし。0.5～１㎝の黄褐色砂粒10％含。

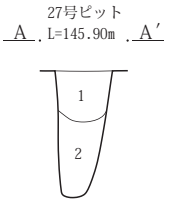
20号・21号ピット
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　細砂質土。しまり・粘性なし。
2　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまり・粘性あり。
3　黒褐色土10YR2/3　細砂質土。しまり・粘性あり。

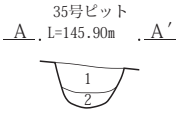
25号～29号・35号ピット











25号・26号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎜の黄褐色砂粒少量含。
2　にぶい黄褐色土10YR5/4　細砂質土。しまり・粘性あり。

27号・29号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。

28号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまりなし、粘性あり。
2　褐色土10YR4/4　ローム含砂質土。しまり・粘性あり。

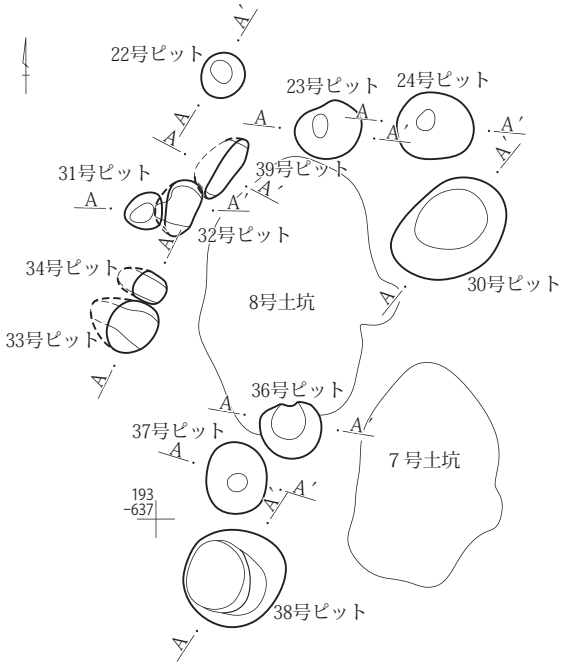
35号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　細砂質土。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　細砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎜の黄褐色砂粒少量含。

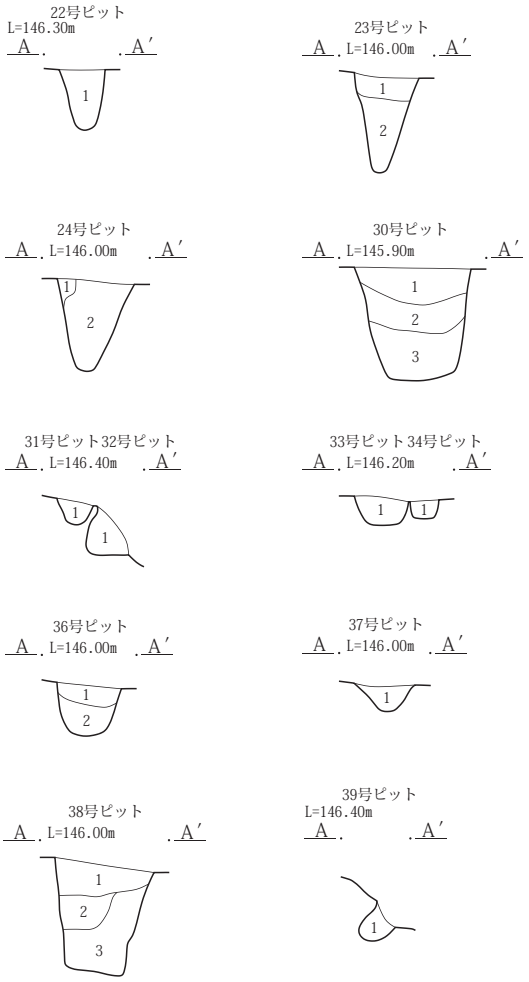
0　1：40　1m

第104図　３区２面13号・15号～21号・25号～29号・35号ピット

３区２面ピット

22号～24号・30号～34号・36号～39号ピット





22号ピット
1　黒褐色土10YR2/2　細砂質土。しまり・粘性あり。

23号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。0.5～1㎝の黄褐色砂粒３％含。
2　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎝の黄褐色砂粒少量含。

24号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。２～３㎜の黄褐色砂粒２％含。
2　にぶい黄褐色土10YR5/4　ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。１㎝の黄褐色砂粒少量含。

30号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。0.1～1㎝の黄褐色、白色砂粒少量含。
3　褐色土10YR4/4　ローム含砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎝の黄褐色砂粒５％含。

31号～34号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性あり。

36号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　黒ボク土。しまり・粘性あり。
2　褐色土10YR4/4　ローム土。しまり・粘性あり。

37号ピット
1　暗褐色土7.5YR3/3　黒ボク土。しまり・粘性あり。

38号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり･粘性あり。ローム土少量含む。
3　にぶい黄褐色土10YR4/3　ローム土多量含砂質土。しまり･粘性あり。

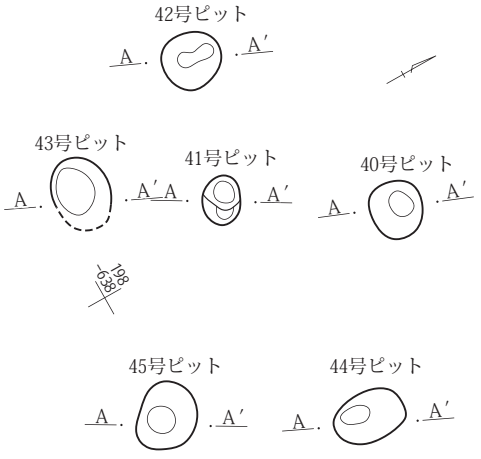
39号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性あり。0.5～1㎝の黄褐色砂粒２％含。

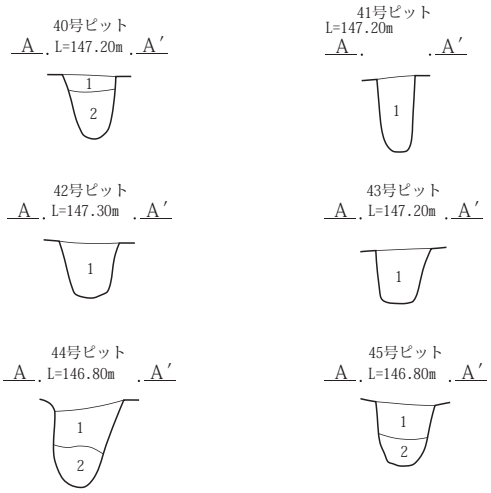
0　1：40　1m

第105図　３区２面22号～24号・30号～34号・36号～39号ピット

３区２面ピット

40号～45号ピット





40号ピット
1　褐色土10YR4/4　砂質土。しまりなし、粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　砂質土。しまりなし、粘性あり。

41号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性なし。0.5～１㎝の黄褐色砂粒少量含。

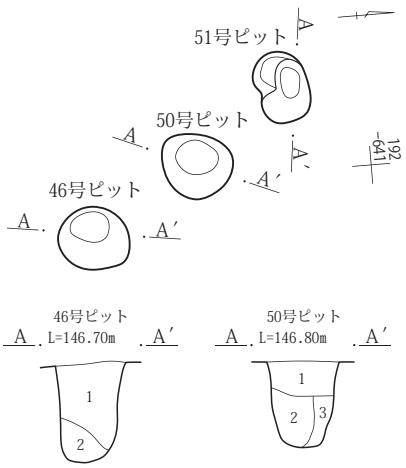
42号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土ブロック状10％含。

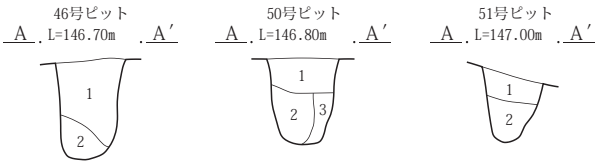
43号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性なし。１㎝の黄褐色砂粒少量含。

44号ピット
1　暗褐色土7.5YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。１㎝の黄褐色砂粒少量含。
2　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。

45号ピット
1　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性あり。１㎜の黄褐色、白色軽石少量含。
2　褐色土10YR4/4　細砂質土。しまり・粘性あり。ローム土少量含。

46号・50号・51号ピット



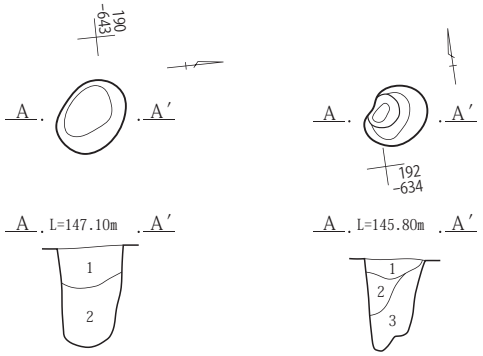


46号ピット
1　黒褐色土7.5YR3/2　砂質土。しまり・粘性あり。５㎜の黄褐色砂粒少量含。
2　黒褐色土10YR3/2　砂質土。しまり・粘性あり。ローム土含。

50号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　細砂質土。しまり・粘性あり。１～３㎜の黄褐色砂粒少量含。
3　黒褐色土10YR3/2　細砂質土。しまり・粘性あり。0.5～１㎝の黄褐色砂粒２％含。

51号ピット
1　黒褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎜の黄褐色砂粒少量含。
2　暗褐色土10YR3/1　細砂質土。しまり・粘性あり。

52号ピット　　57号ピット



52号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。１～２㎜の黄褐色砂粒少量含。
2　暗褐色土10YR3/3　細砂質土。しまり・粘性あり。

57号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　細砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土少量含。
2　暗褐色土10YR3/3　砂質土。しまり・粘性あり。１～３㎜の黄褐色砂粒少量含。
3　にぶい黄褐色土10YR4/3　砂質土。しまり・粘性あり。ローム土少量含。

0　1：40　1m

第106図　３区２面40号～ 46号・50号～ 52号・57号ピット

７．溝

２区３号溝(第107図・第６表・PL.64)

位　　置　X=30139～141　Y=-80608～614

重複遺構　５号墳・14号土坑・２号方形周溝墓。新旧関係は５号墳、14号土坑、周溝墓より３号溝が新しい。

断面形状　蒲鉾形　　**走　　向**　西→東

主軸方位　N-76°-W

規　　模　長さ(6.40)m　最大幅0.95m　最小幅0.70m　深さ10～41cm。

埋没土層　溝内にはAs-Bが確認されている。

所　　見　走向は尾根の南北傾斜に交差している。

２区４号溝(第107図・第６表・PL.64・91)

位　　置　X=30123～125　Y=-80609～616

重複遺構　４号方形周溝墓、５号墳。新旧関係は４号溝が新しい。

断面形状　三日月形。　　**走　　向**　西～東

主軸方位　N-75°-W

規　　模　長さ(7.35)m　最大幅1.07m　最小幅0.66m　深さ29～45cm

埋没土層　As-Aが混入する。

所　　見　３号溝とほぼ同じ走向である。

遺物概要　断面四角の先端が尖る棒状品(２)と、断面長方形の板状品(３)が出土している。棒状品は工具の一部と考えている。

１区５号溝(第108図・第６表・PL.64)

位　　置　X=30219～220　Y=-80577～581

重複遺構　なし

断面形状　台形　　**走　　向**　西～東

主軸方位　N-83°-W

規　　模　長さ(3.90)m　最大幅1.33m　最小幅0.80m　深さ28～34cm

埋没土層　ローム粒を含む砂質土。

所　　見　尾根上を走る台形の掘り込みを持つ。

２区６号溝(第108図・第６表・PL.64)

位　　置　X=30114～120　Y=-80609～614

重複遺構　５号墳。新旧関係は６号溝が新しい。

断面形状　台形　　**走　　向**　北西～南東

主軸方位　N-37°-W

規　　模　長さ(8.10)m　最大幅0.51m　最小幅0.37m　深さ21～26cm

時　　期　不明。

２区７号溝(第109図・第６表・PL.64)

位　　置　X=30108～110　Y=-80616～620

重複遺構　なし

断面形状　台形　　**走　　向**　西～東

主軸方位　N-75°-E

規　　模　長さ(4.20)m　最大幅0.86m　最小幅0.56m　深さ23～34cm

埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。

所　　見　尾根に直交して、東西方向に走る。

２区８号溝(第109図・第６表)

位　　置　X=30111～118　Y=-80615～618

重複遺構　５号墳。新旧関係は８号溝が新しい。

断面形状　台形　　**走　　向**　北～南

主軸方位　N-16°-W

規　　模　長さ7.58m　最大幅1.03m　最小幅0.64m　深さ18～53cm

埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。

所　　見　尾根に沿い南北方向に走る。

２区９号溝(第109図・第６表・PL.64)

位　　置　X=30150～159　Y=-80599～602

重複遺構　７号墳。新旧関係は９号溝が新しい。

断面形状　台形　　**走　　向**　北東～南西

主軸方位　N-23°-E

規　　模　長さ9.64m　最大幅0.30m　最小幅0.21m　深さ11～16cm

埋没土層　ロームブロック、白色粒子を含む。

所　　見　尾根に対してほぼ傾斜に沿い走る。

１区10号溝(第110図・第６表・PL.64・91)

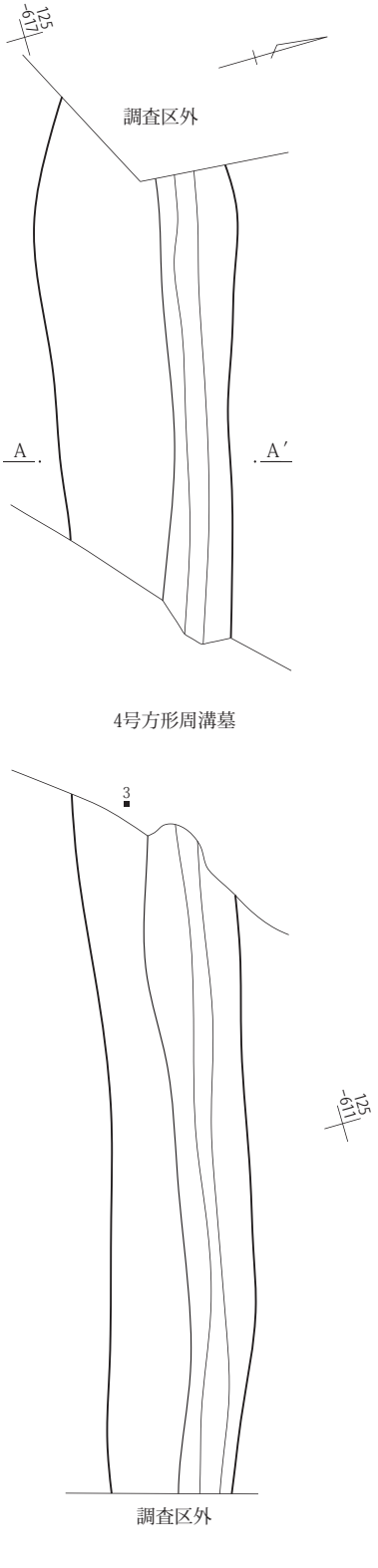
位　　置　X=30205～212　Y=-80581～584

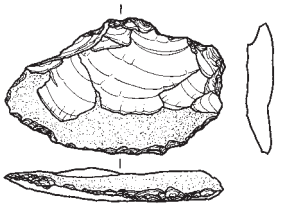
重複遺構　７号竪穴建物。新旧関係は10号溝が新しい。

断面形状　台形　　**走　　向**　北～南～東に蛇行

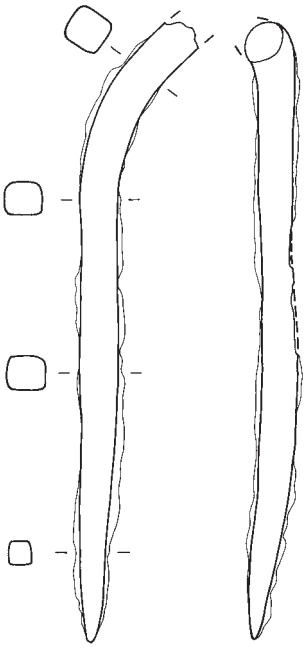
２区３号溝

２区４号溝

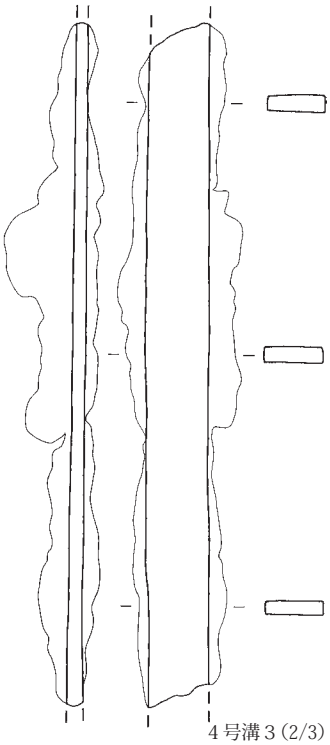




4号溝１



4号溝２(2/3)



4号溝３(2/3)

3号溝
1　黒褐色土10YR2/3　As-B粗粒多量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/2　As-B細粒多量含。しまり・粘性あり。

4号溝
1　黒褐色土10YR3/2　礫中多量、As-A・砂粒中量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR3/2　As-A・砂粒少量含。しまり・粘性あり。

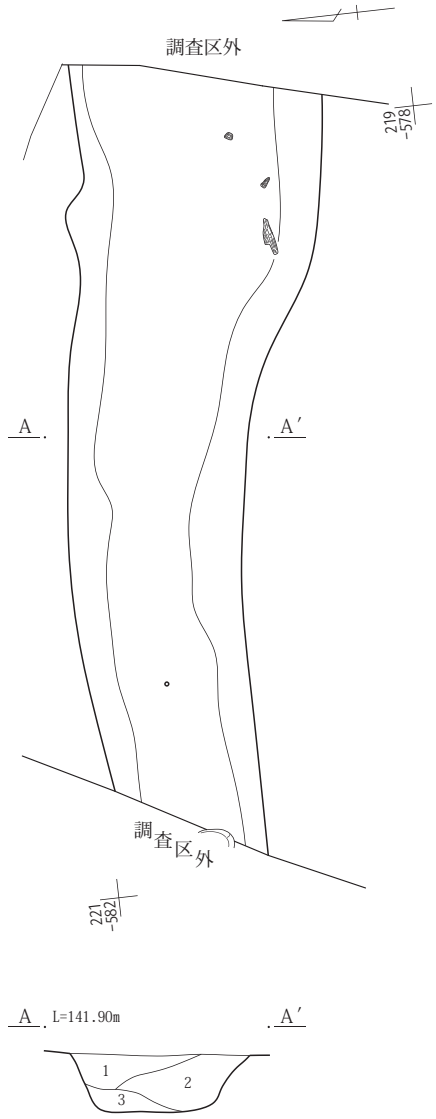
0　1：40　1m

0　1：3　10cm

0　2：3　5cm

第107図　２区３号・４号溝、４号溝出土遺物

１区５号溝



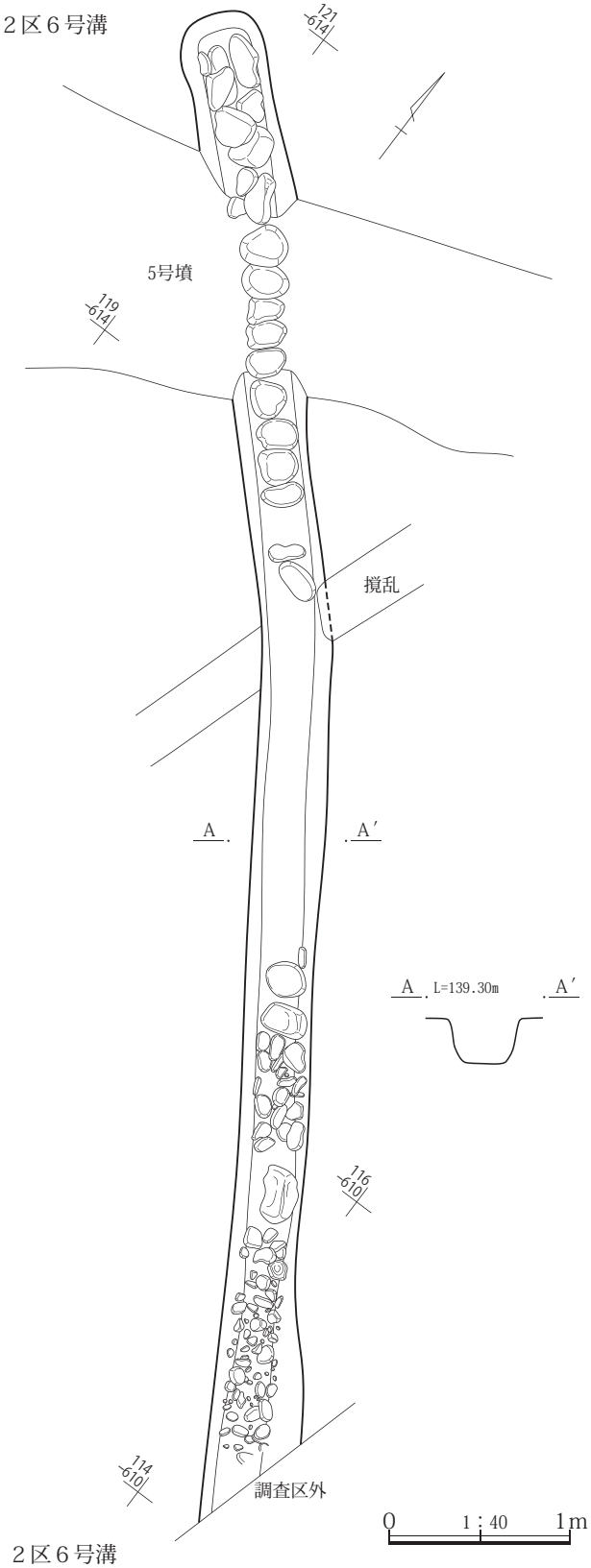
５号溝

1　黒褐色土10YR3/2　砂質土。１～３㎝の風化明黄褐色砂礫少量含。しまり・粘性あり。

2　暗褐色土10YR3/3　砂質土。明黄褐色ローム土３～10㎝のブロック10％、１～３㎝風化明黄褐色砂礫２％混。しまり・粘性あり。

3　にぶい黄褐色土10YR5/4　明黄褐色ローム土、暗褐色砂質土混。しまり・粘性あり。

２区６号溝



第108図　１区５号・２区６号溝

主軸方位　N-60°-W

規　　模　長さ(8.05)m　最大幅1.65m　最小幅0.95m
深さ22～59㎝

埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。

所　　見　時期不明、礫混入。

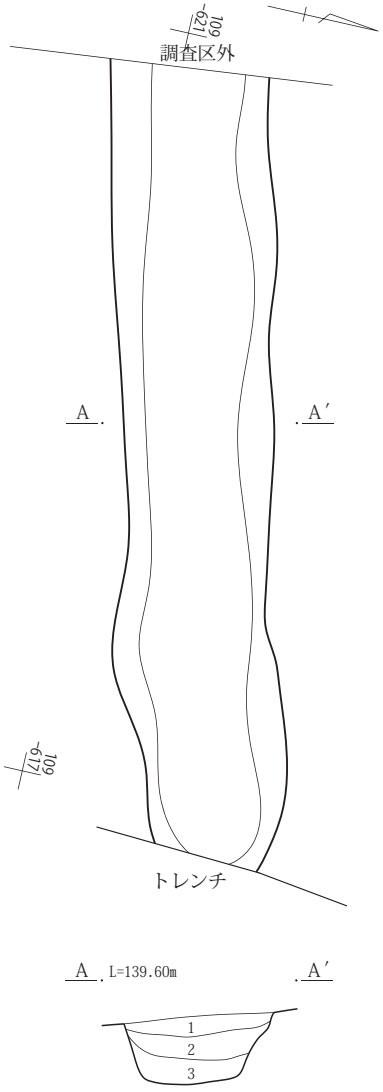
１区11号溝(第111図・第６表・PL.91)

位　　置　X=30187～189　Y=-80591～598

重複遺構　なし

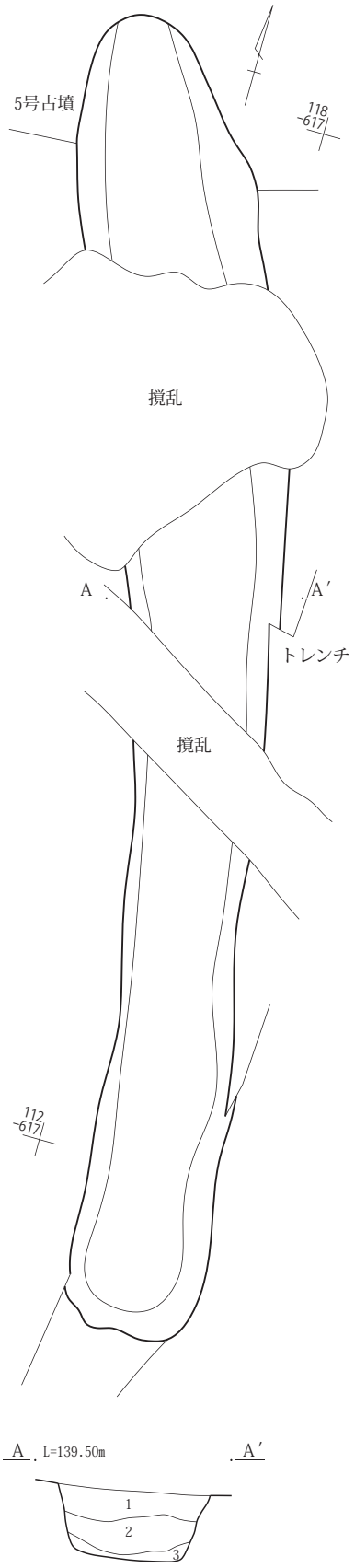
断面形状　半円形　　**走　　向**　西～東

２区７号溝



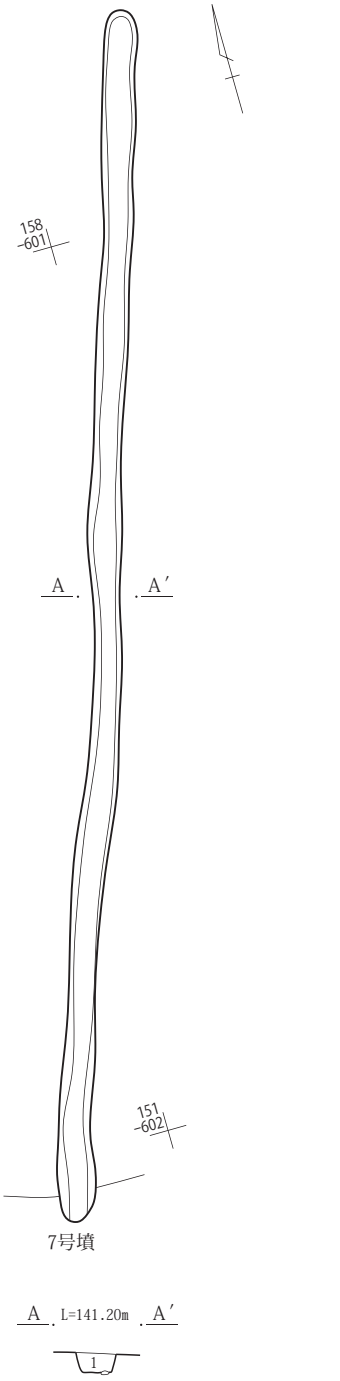
７号溝
1　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・ローム粒子・白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

２区８号溝



８号溝
1　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック・ローム粒子・白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

２区９号溝

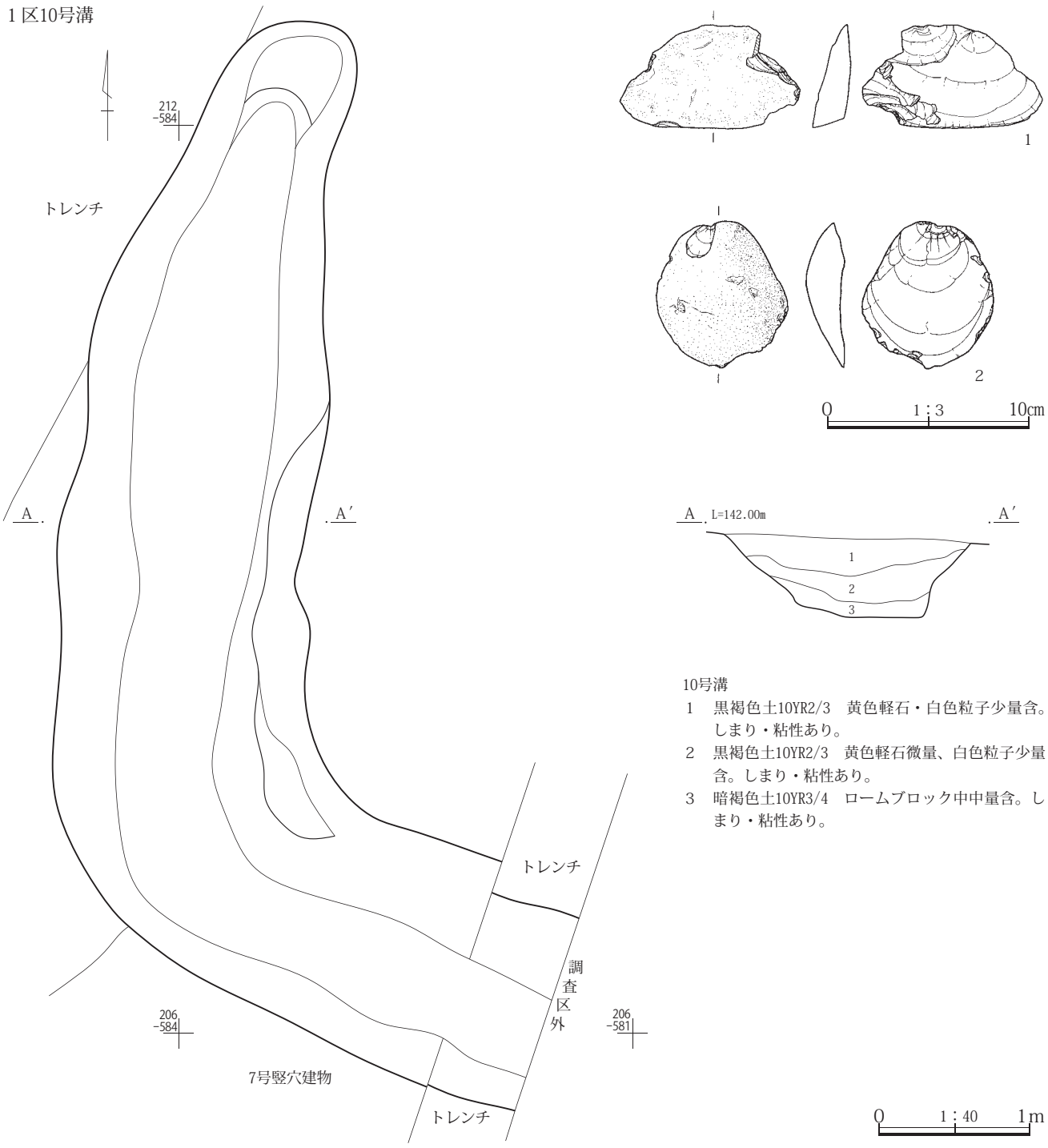


９号溝
1　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック小・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。

0　1：40　1m

0　1：60　2m

第109図　２区７号～９号溝



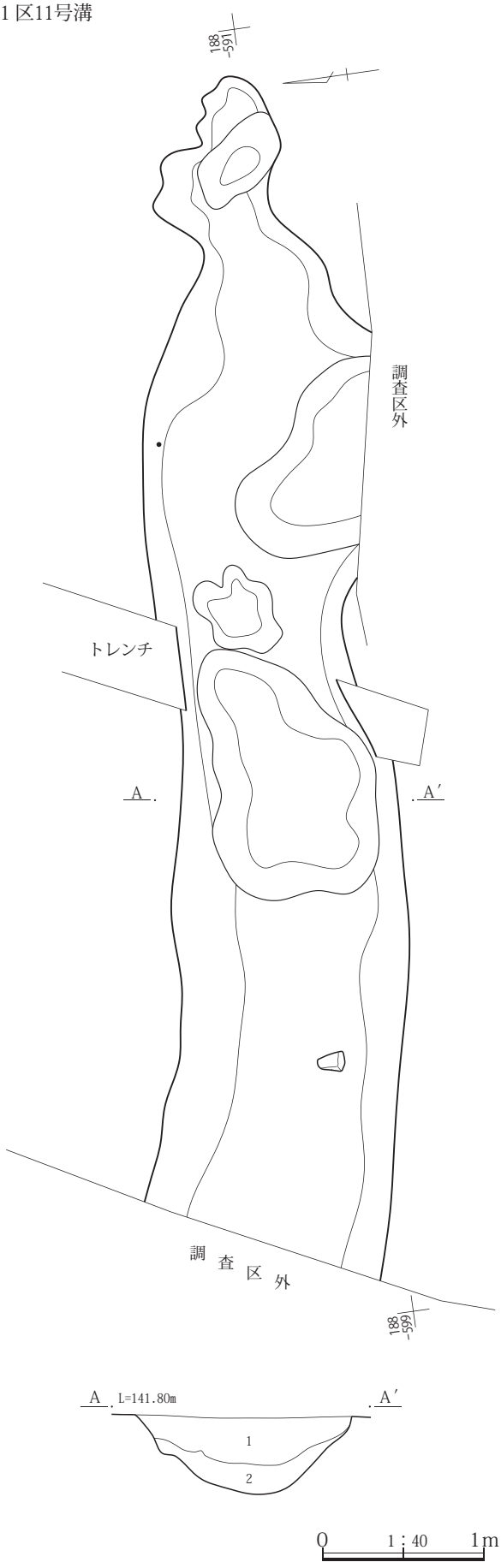
10号溝
1　黒褐色土10YR2/3　黄色軽石・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　黒褐色土10YR2/3　黄色軽石微量、白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック中中量含。しまり・粘性あり。

第110図　１区10号溝・出土遺物

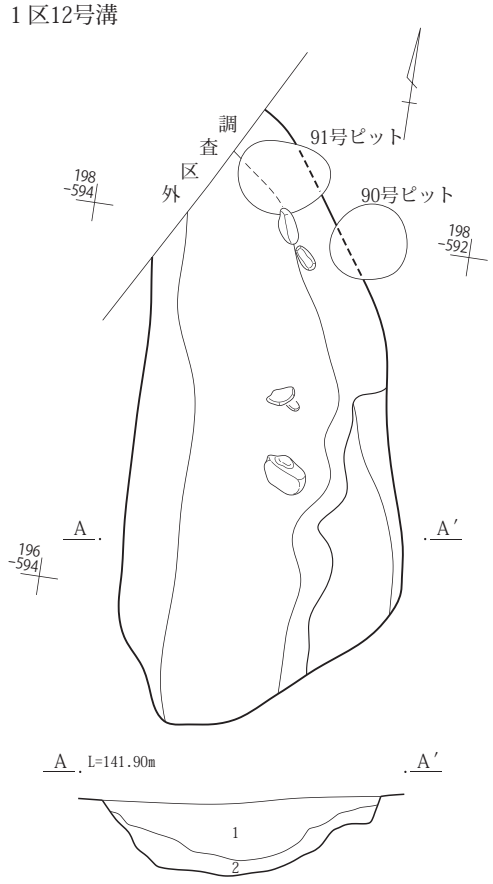
主軸方位　N-82°-W
規　　模　長さ(7.17)m　最大幅1.48m　最小幅0.50m
深さ15～41cm
埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。
所　　見　時期不明、打製石斧(２)、磨石(３)混入。

１区12号溝(第111図・第６表・PL.64)
位　　置　X=30195～198　Y=-80592～593
重複遺構　なし
断面形状　半円形　　**走　　向**　北～南
主軸方位　N-21°-W
規　　模　長さ(2.62)m　最大幅1.56m　最小幅1.00m
深さ39～47cm
埋没土層　ローム粒、ロームブロックを含む。
所　　見　時期不明。

１区11号溝

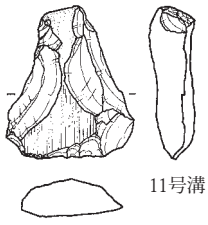


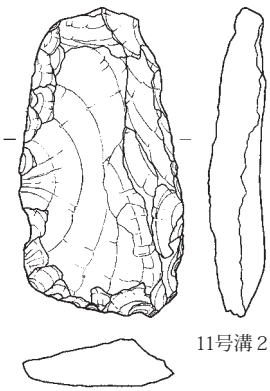
１区12号溝

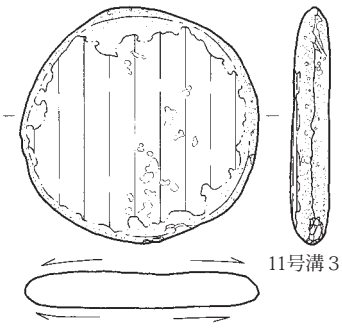


11号溝
1　黒褐色土10YR2/3　ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック大多量含。しまり・粘性あり。

12号溝
1　黒褐色土10YR2/3　黒褐色土、暗褐色土(10YR3/4)含。白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/4　ロームブロック中～大多量含。しまり・粘性あり。


11号溝１


11号溝２


11号溝３

0　1：3　10cm

第111図　１区11号・12号溝、11号溝出土遺物

８．集石遺構

２区１号集石(第112図・第７表)

位　　置　X=30142～146　Y=-80603～608

重複遺構　２号方形周溝墓・７号墳と重複。新旧関係は本集石が旧い。

形　　状　不明

主軸方位　N-78°-W

規　　模　長軸(5.01)m　短軸(3.12)m

埋没土層　７号墳盛り土

出土遺物　なし

所　　見　本集石遺構は２号方形周溝墓に壊されている。川原石主体で平たい石(凝灰岩)が数点出土している。

２区２号集石(第113～115図・第７表・PL.65・92)

位　　置　X=30155～158　Y=-80602～605

重複遺構　７号墳と重複。新旧関係は本集石が旧い。

形　　状　楕円形

主軸方位　N-81°-W

規　　模　長軸(2.78)m　短軸2.43m

埋没土層　白色粒、ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物　縄文時代後期堀之内１式(１)、加曾利Ｅ３式片(２)。弥生後期樽式土器甕(５)、高杯(３)、蓋(６)等が出土している。石は川原石が主で、磨製石斧(11)、打製石斧(10)、磨製石斧の未成品(12・13)、多孔石(19)、石棒(17・18)が出土している。

所　　見　本集石遺構は７号墳の盛り土の除去中墳丘上で確認されている。１号集石同様、７号墳構築時に壊されたと考える。構築時の弥生と縄文時代の遺構が存在したと考えられる。

２区３号集石(第116・117図・第７表・PL65～68・92)

位　　置　X=30161～165　Y=-80606～609

重複遺構　７号墳と重複。新旧関係は本集石が旧い。

形　　状　長円形

主軸方位　N-21°-E

規　　模　長軸(3.75)m　短軸(3.35)m

埋没土層　７号墳盛り土

出土遺物　堀之内１式(１～５)、加曾利Ｅ３式(６)、加曾利Ｅ４式(７)、打製石斧(８・９)が出土している。

２区４号集石(第116・117図・第７表・PL.68・92)

位　　置　X=30158～161　Y=-80605～609

重複遺構　７号墳と重複。新旧関係は本集石が旧い。７号墳墳丘上の陪葬土壙墓。詳細は所見。

形　　状　長円形

主軸方位　N-65°-W

規　　模　長軸3.73m　短軸2.88m

埋没土層　不明

出土遺物　加曾利Ｅ３式片(１)出土。

所　　見　本集石遺構も７号墳墳丘上の盛り土の除去中に確認された。墳丘構築に伴う地業が行われたと考える。さらに３・４号集石の間には７号墳墳丘内の陪葬土坑墓が確認されている。この墓からは蛇紋岩の石製模造品刀子形が検出されている。

２区５号集石(第118図・第７表・PL.92)

位　　置　X=30149～156　Y=-80605～612

重複遺構　７号墳と重複。新旧関係は本集石が旧い。

形　　状　不整形

主軸方位　N-40°-E

規　　模　長軸8.60m　短軸2.57m

埋没土層　なし

出土遺物　土器は出土していない。打製石斧(１)が１点出土している。

所　　見　６号集石遺構で述べる。

２区６号集石(第118図・第７表・PL.92)

位　　置　X=30148～154　Y=-80599～607

重複遺構　７号墳と重複。新旧関係は本集石が旧い。

形　　状　不整形

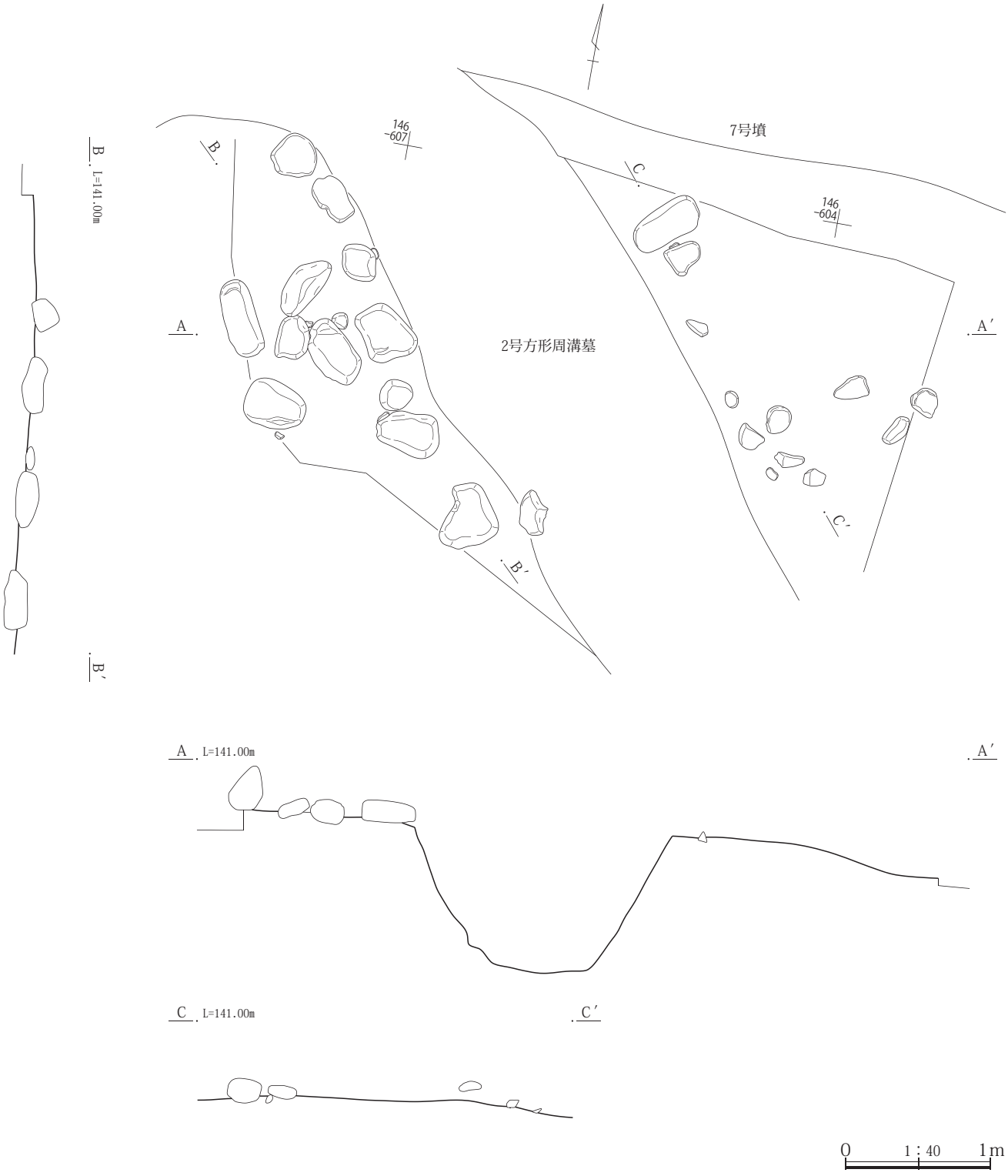
主軸方位　N-66°-W

規　　模　長軸6.70m　短軸6.52m

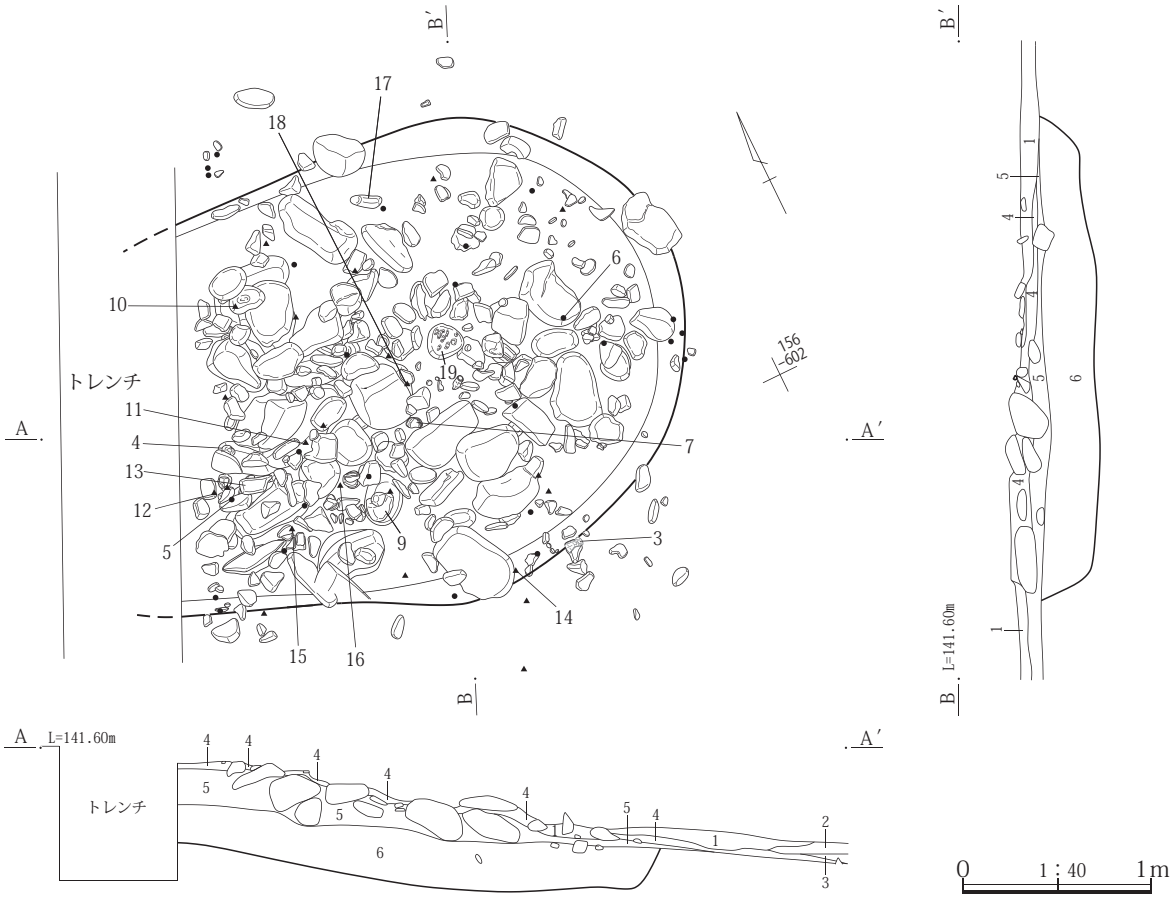
埋没土層　不明

出土遺物　打製石斧(１)が１点出土。

所　　見　本５・６号集石遺構は古墳の地業か昭和時代に畠を造るために壊されたときに葺石が散乱したものと考えられる。５号と６号の集石の真ん中を北東方向に発掘調査前の試掘トレンチが残っており、２つの集石は攪乱の葺石を埋めた可能性が指摘できる。

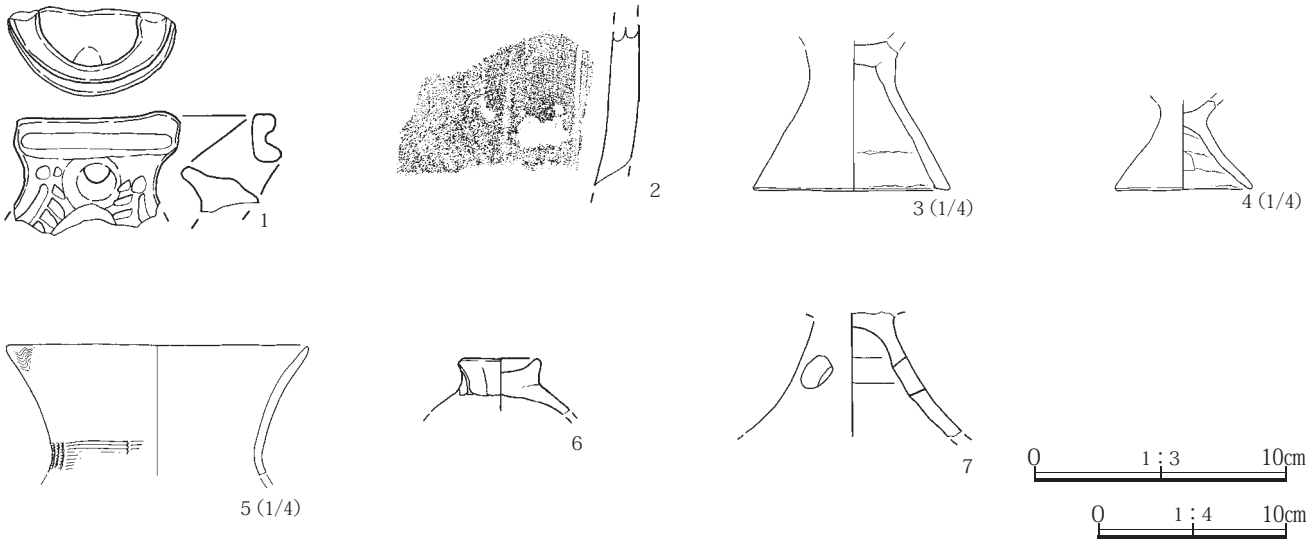


第112図　２区１号集石



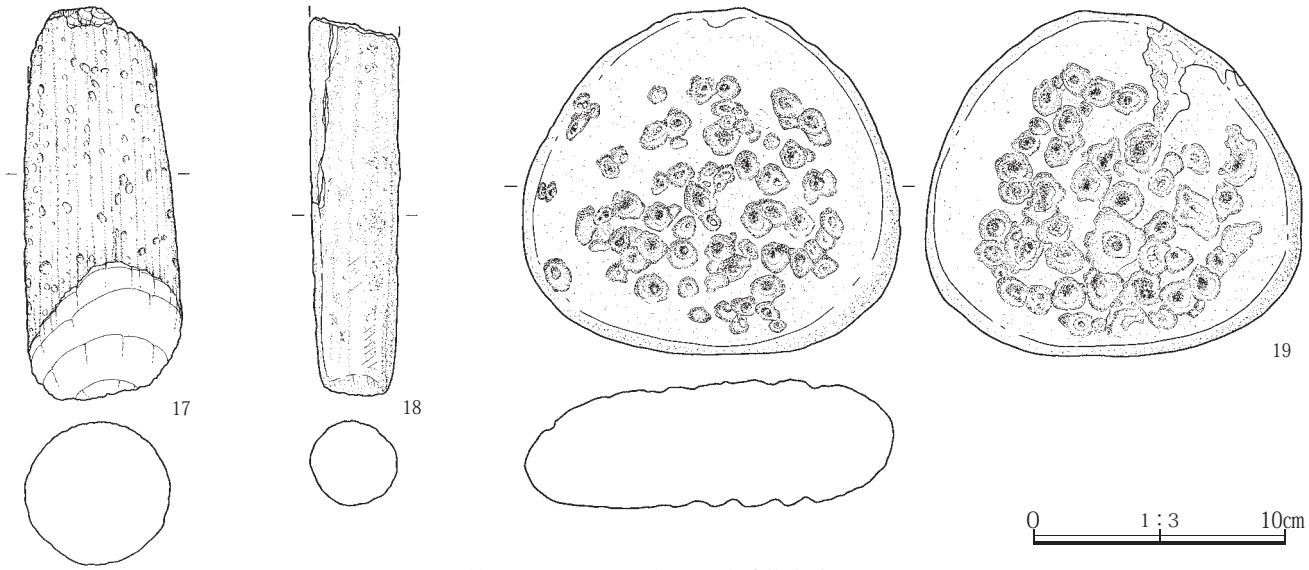
２号配石　A-A′・B-B′

1　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
2　暗褐色土10YR3/3　ロームブロック(１～２㎝)多量含。しまり・粘性あり。
3　暗褐色土10YR3/3　ローム粒子極微量含。しまり・粘性あり。
4　黒褐色土10YR2/2　白色粒子極微量含。しまり・粘性あり。
5　黒褐色土10YR2/2　白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土10YR2/3　白色粒子・黄色粒子・炭化粒子微量含。しまり・粘性あり。



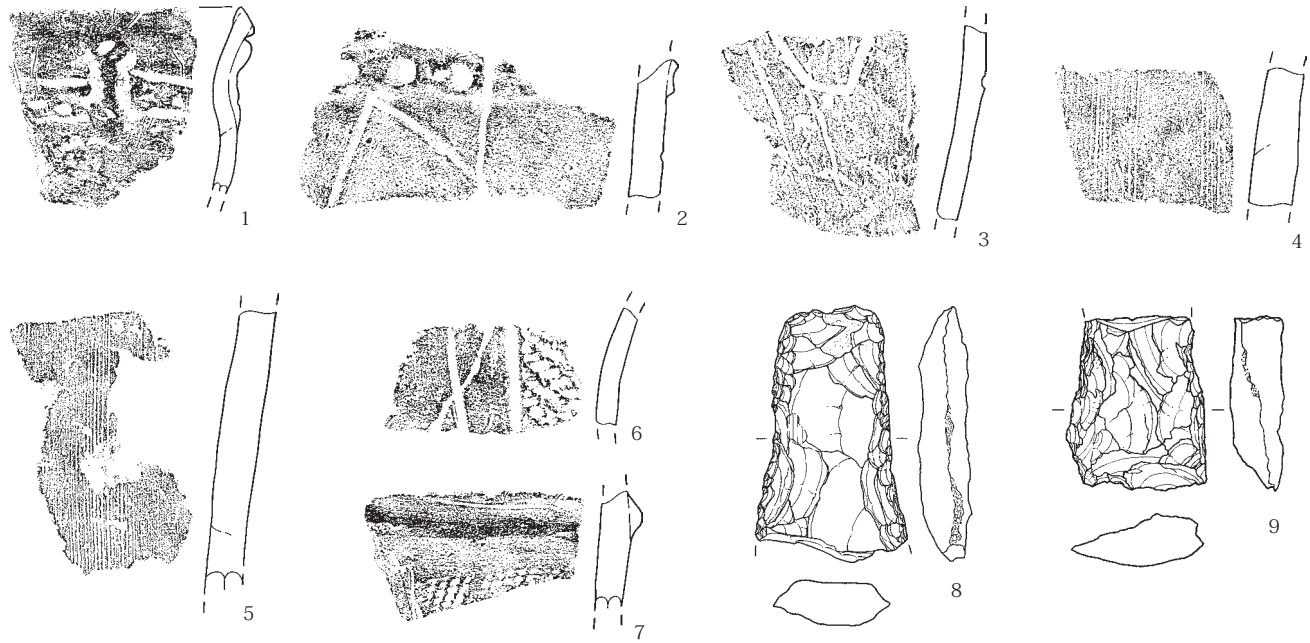
第113図　２区２号集石・出土遺物(１)

第114図　２区２号集石出土遺物（２）

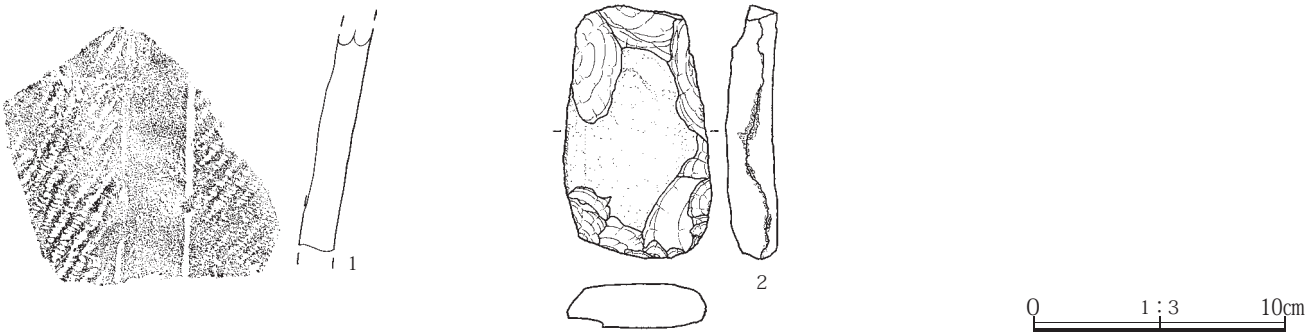


第115図　２区２号集石出土遺物（３）

３号集石

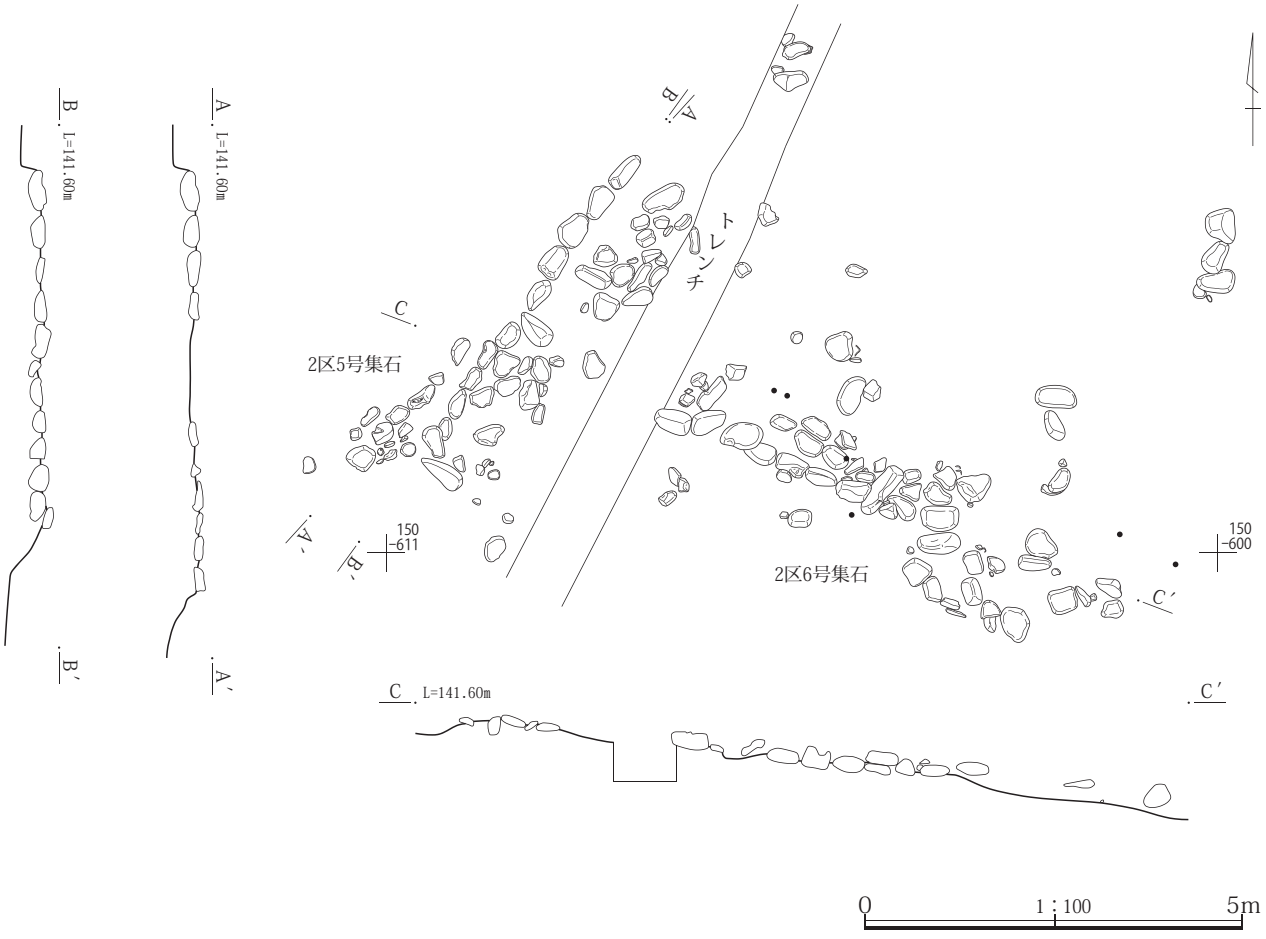


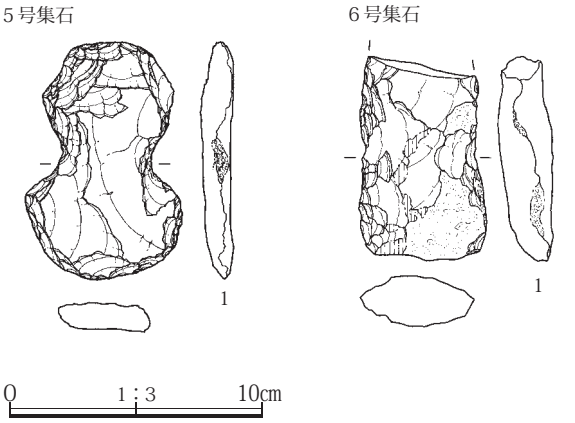
４号集石



第116図　２区３号・４号集石出土遺物

第117図　２区３号・４号集石



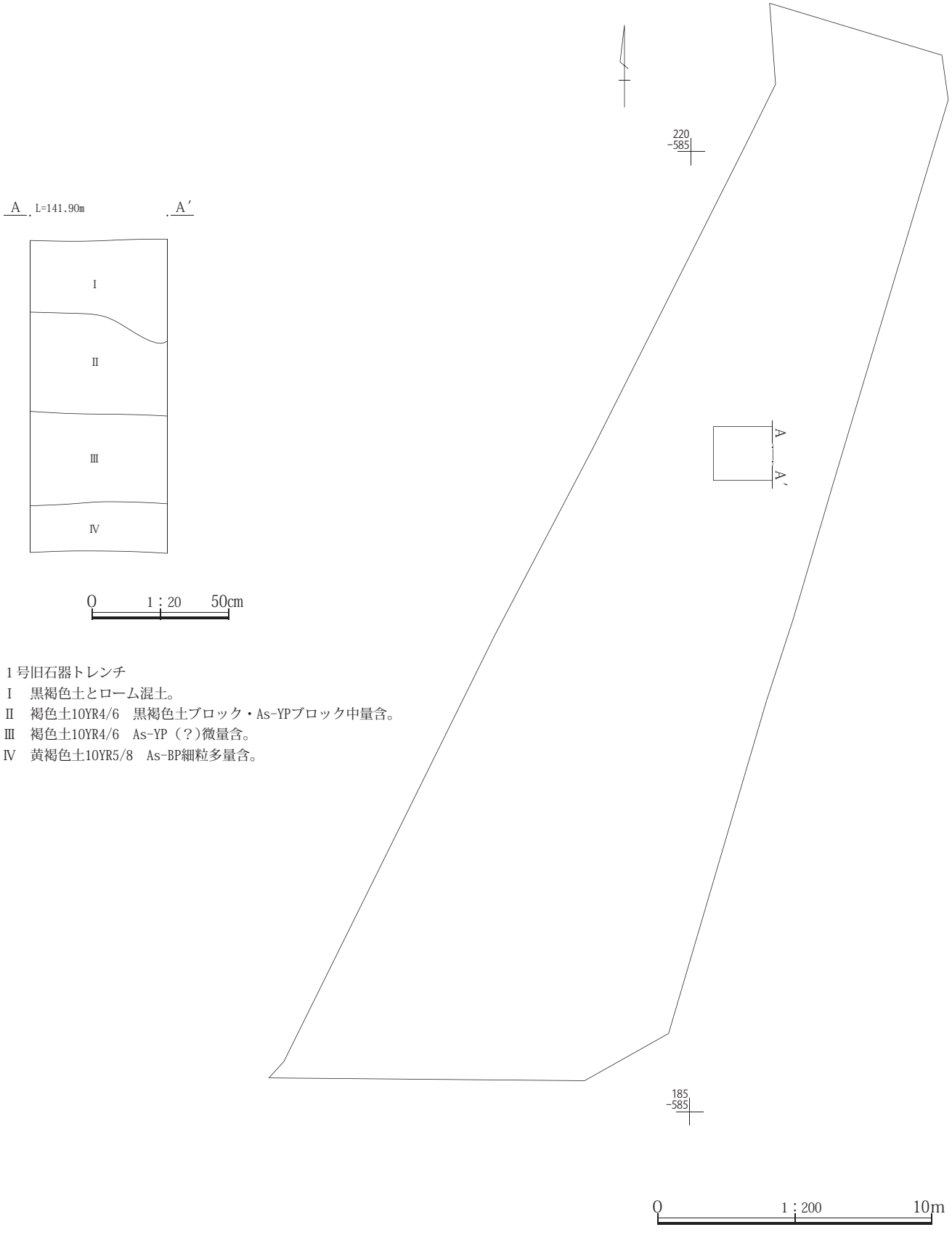


第118図　２区５号・６号集石、出土遺物

９．遺物集中

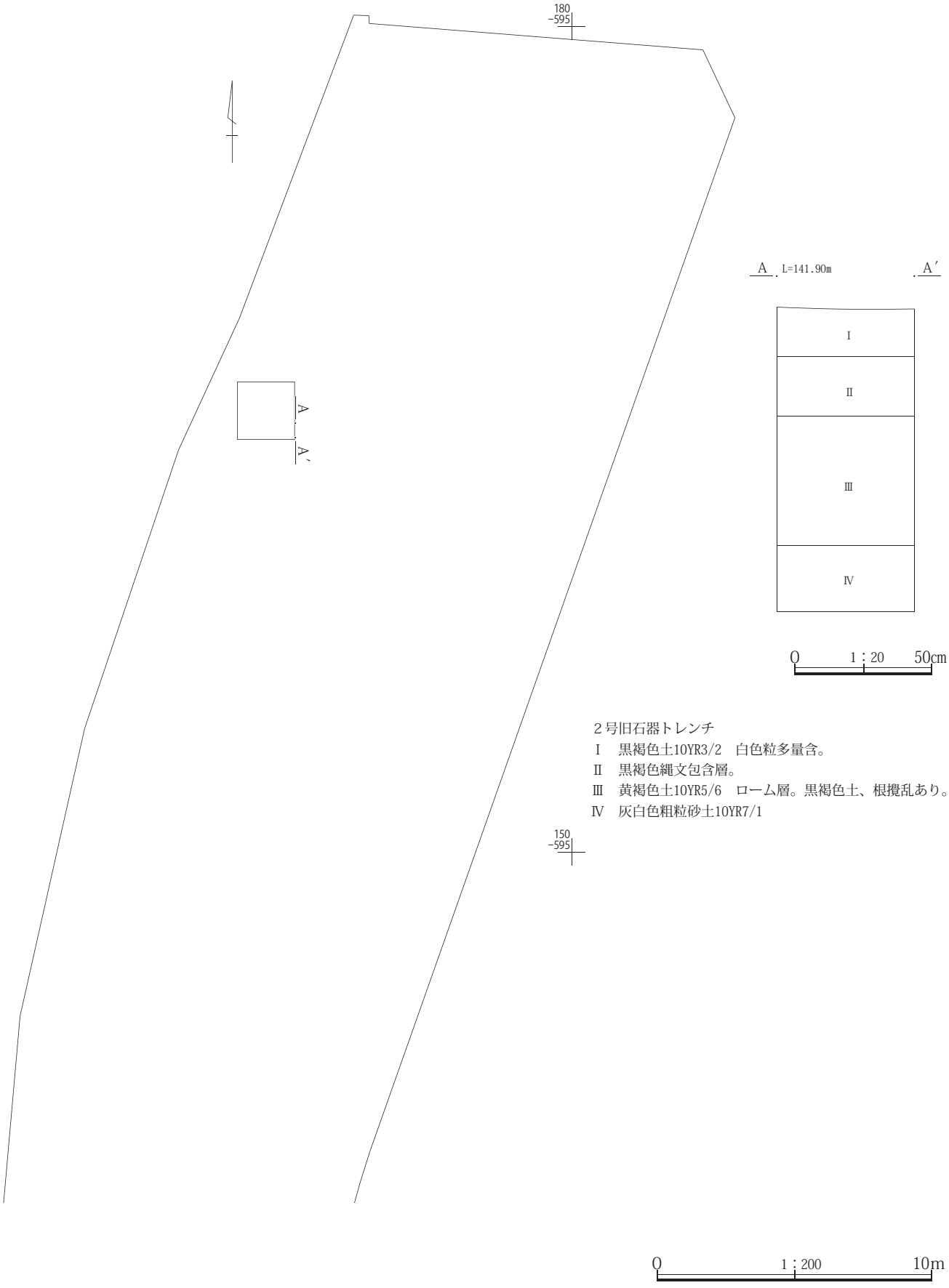
第119図　２区１号遺物集中・出土遺物

10. 旧石器トレンチ



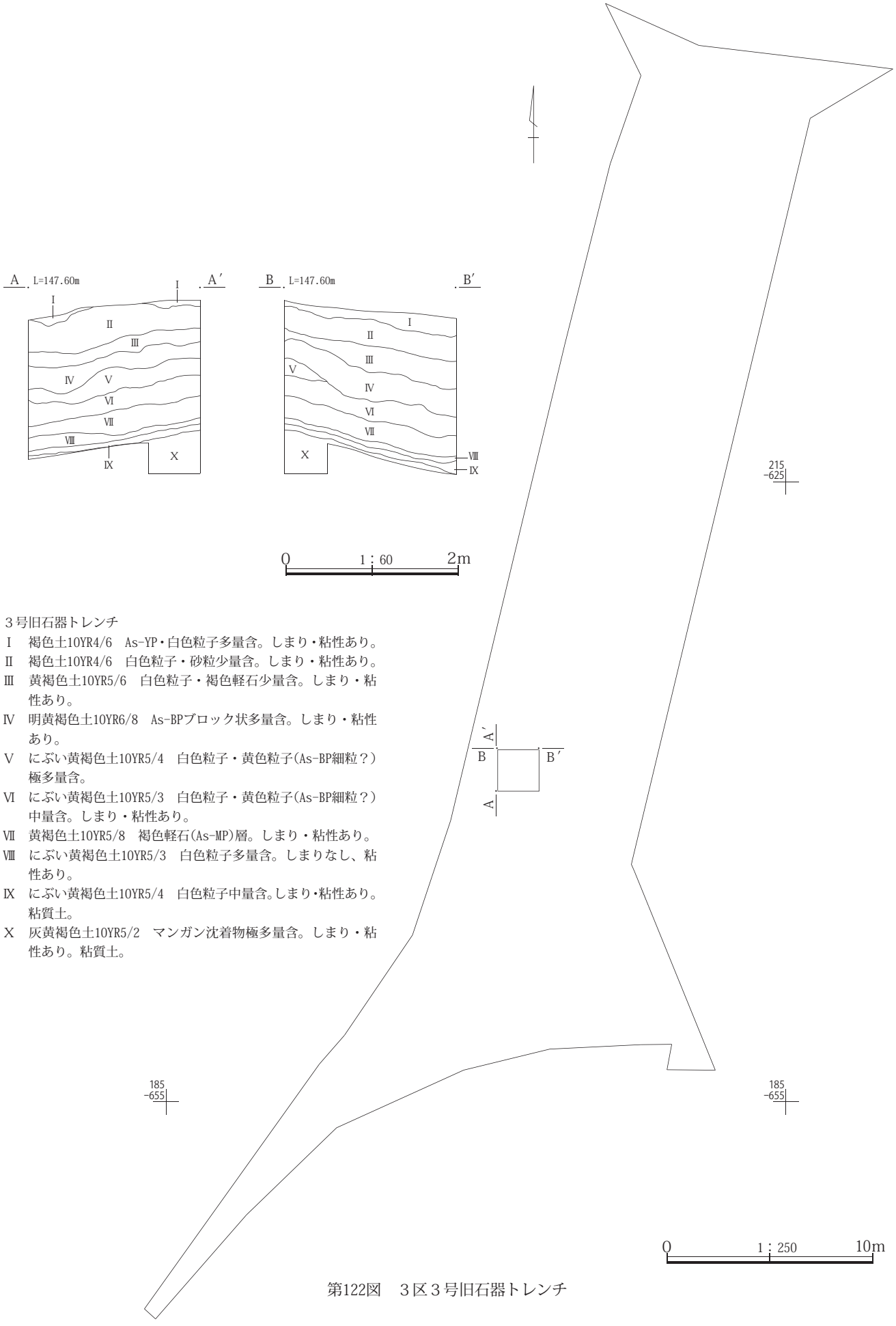
１号旧石器トレンチ
Ⅰ　黒褐色土とローム混土。
Ⅱ　褐色土10YR4/6　黒褐色土ブロック・As-YPブロック中量含。
Ⅲ　褐色土10YR4/6　As-YP（？）微量含。
Ⅳ　黄褐色土10YR5/8　As-BP細粒多量含。

第120図　１区１号旧石器トレンチ



２号旧石器トレンチ
Ⅰ　黒褐色土10YR3/2　白色粒多量含。
Ⅱ　黒褐色縄文包含層。
Ⅲ　黄褐色土10YR5/6　ローム層。黒褐色土、根攪乱あり。
Ⅳ　灰白色粗粒砂土10YR7/1

第121図　２区２号旧石器トレンチ

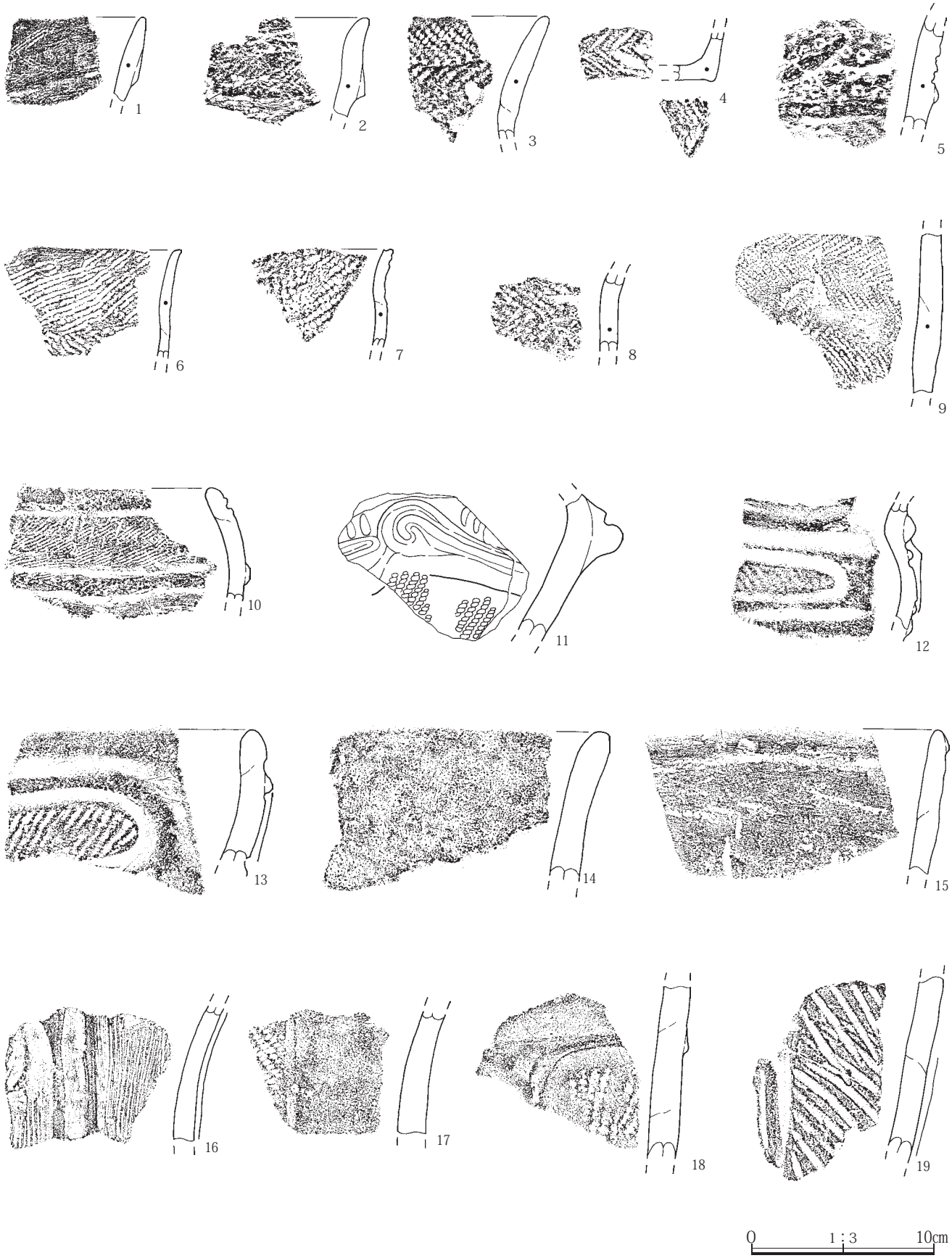


３号旧石器トレンチ

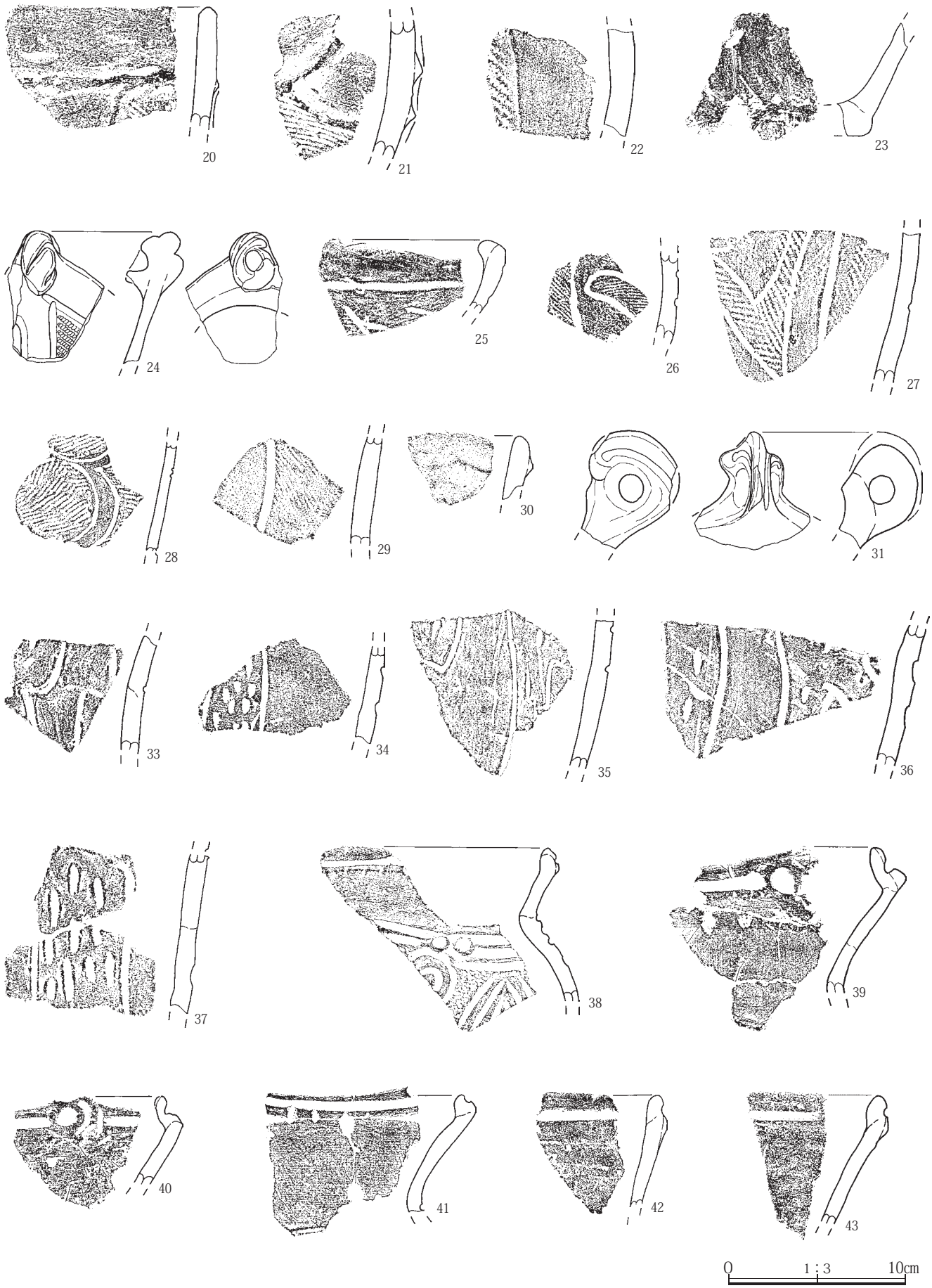
Ⅰ　褐色土10YR4/6　As-YP・白色粒子多量含。しまり・粘性あり。
Ⅱ　褐色土10YR4/6　白色粒子・砂粒少量含。しまり・粘性あり。
Ⅲ　黄褐色土10YR5/6　白色粒子・褐色軽石少量含。しまり・粘性あり。
Ⅳ　明黄褐色土10YR6/8　As-BPブロック状多量含。しまり・粘性あり。
Ⅴ　にぶい黄褐色土10YR5/4　白色粒子・黄色粒子(As-BP細粒？)極多量含。
Ⅵ　にぶい黄褐色土10YR5/3　白色粒子・黄色粒子(As-BP細粒？)中量含。しまり・粘性あり。
Ⅶ　黄褐色土10YR5/8　褐色軽石(As-MP)層。しまり・粘性あり。
Ⅷ　にぶい黄褐色土10YR5/3　白色粒子多量含。しまりなし、粘性あり。
Ⅸ　にぶい黄褐色土10YR5/4　白色粒子中量含。しまり・粘性あり。粘質土。
Ⅹ　灰黄褐色土10YR5/2　マンガン沈着物極多量含。しまり・粘性あり。粘質土。

第122図　３区３号旧石器トレンチ

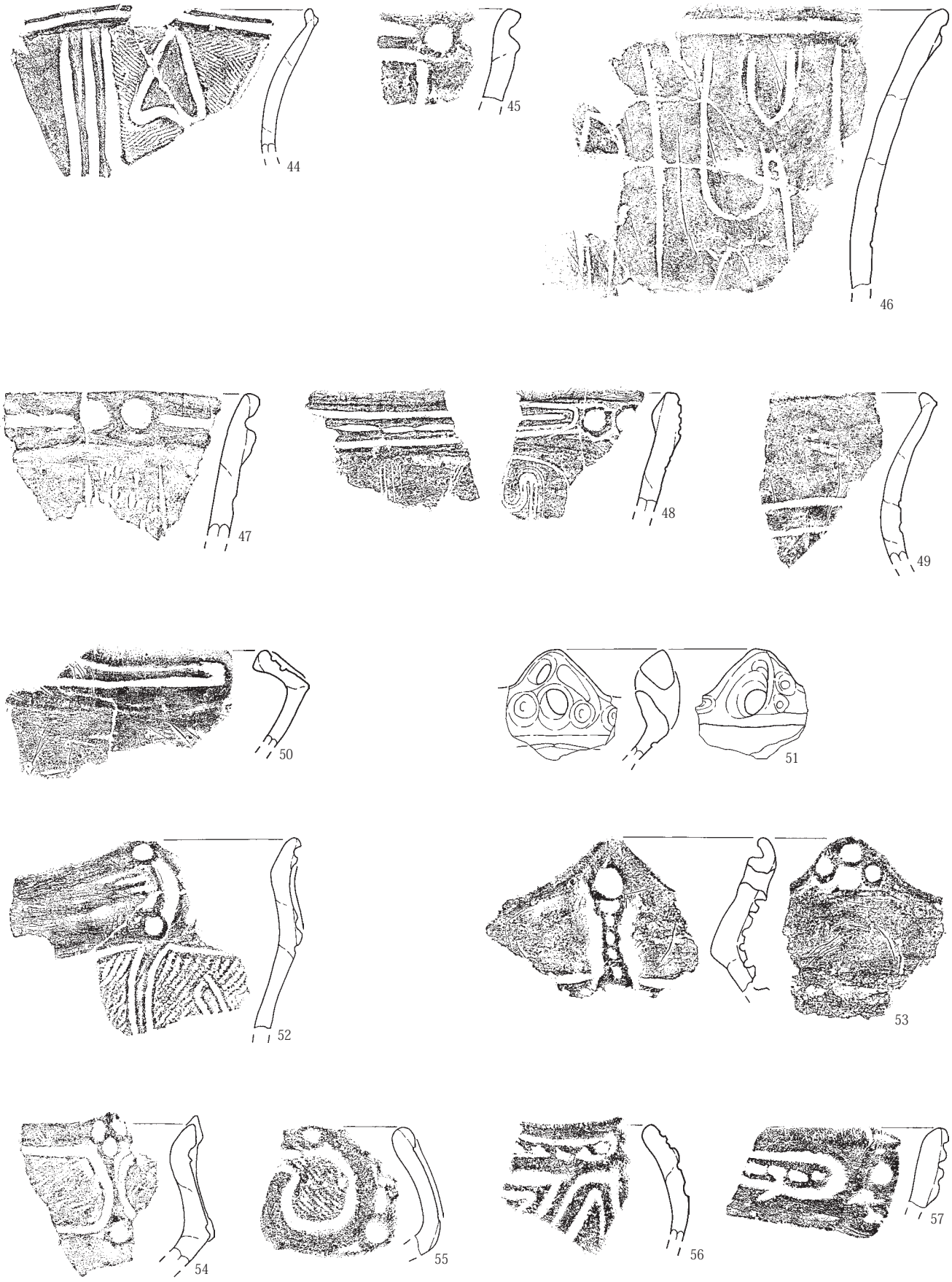
11. 遺構外の出土遺物



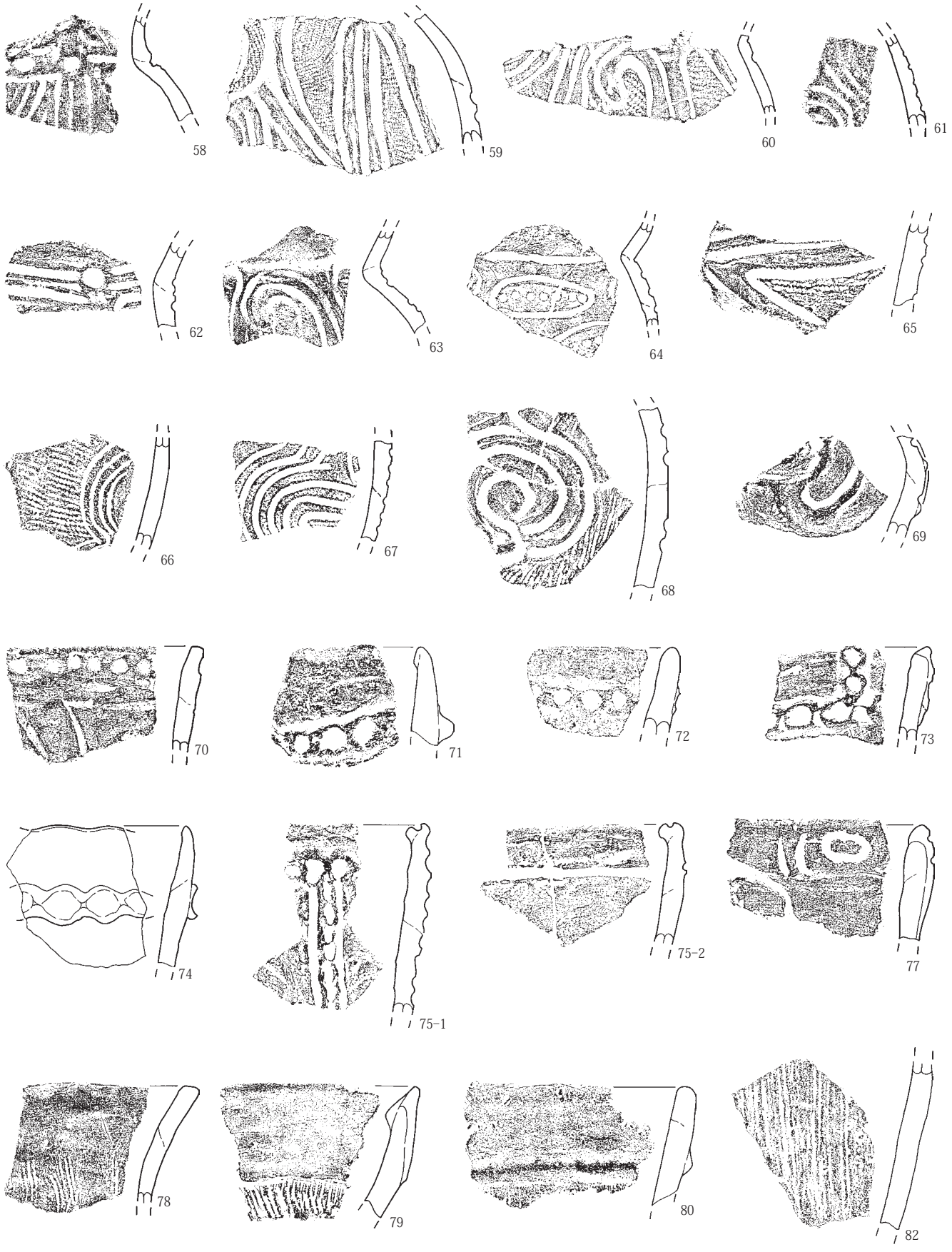
第123図　遺構外出土縄文土器（１）



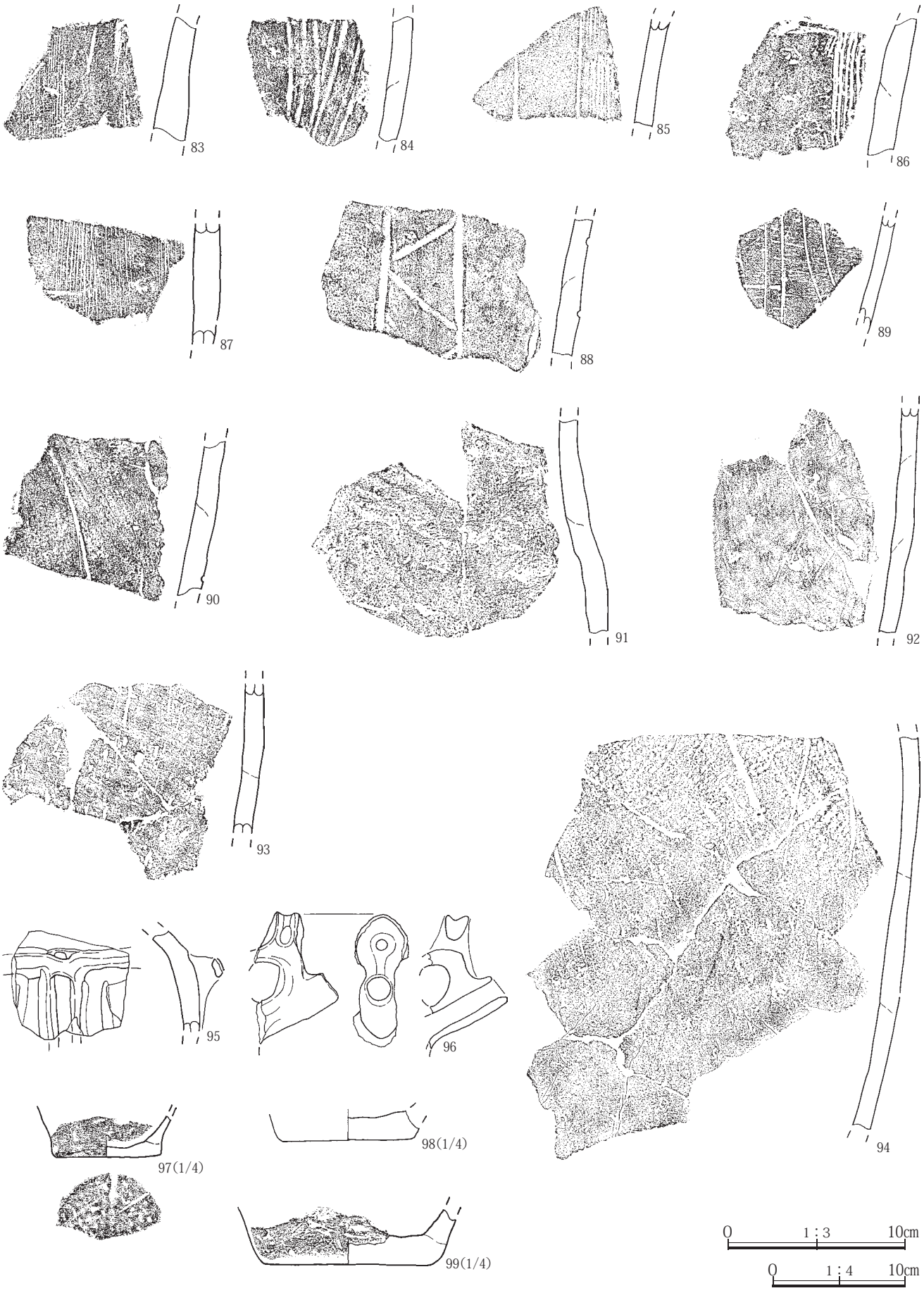
第124図　遺構外出土縄文土器（２）



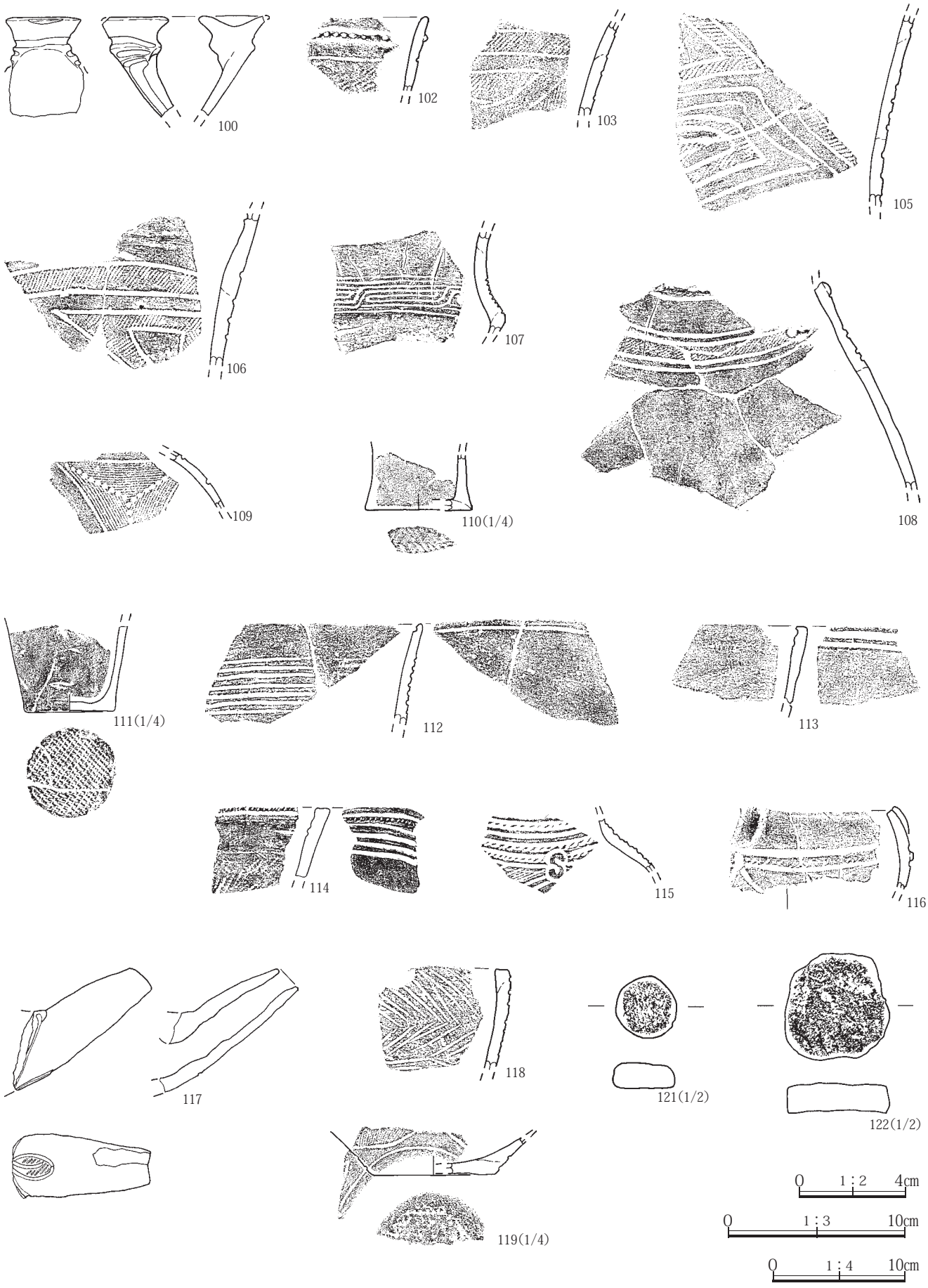
第125図　遺構外出土縄文土器（３）



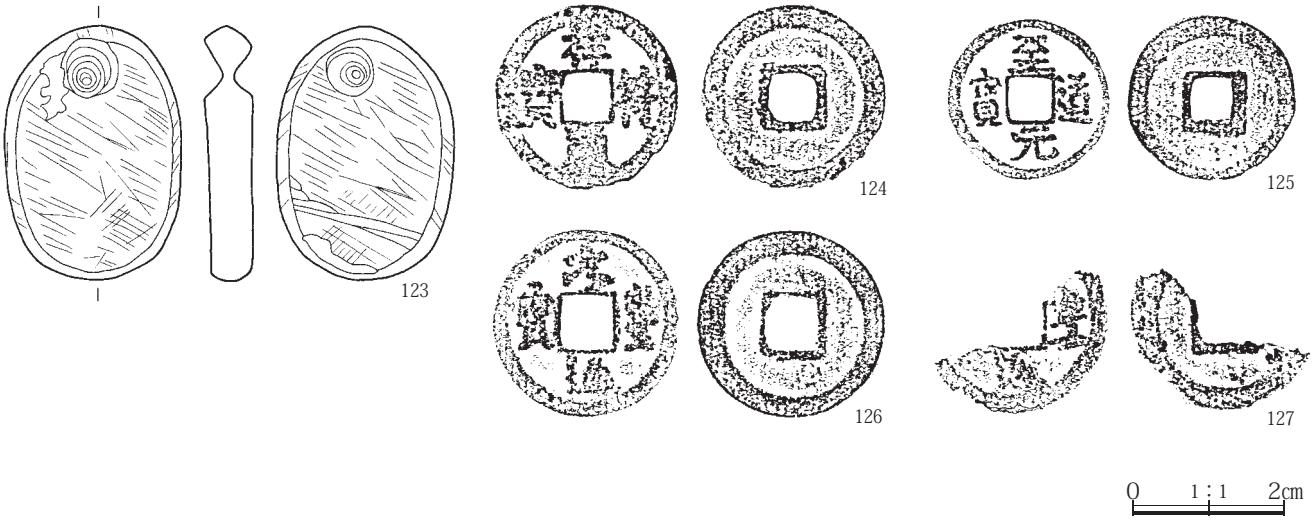
第126図　遺構外出土縄文土器（４）



第127図　遺構外出土縄文土器（５）



第128図　遺構外出土縄文土器（６）

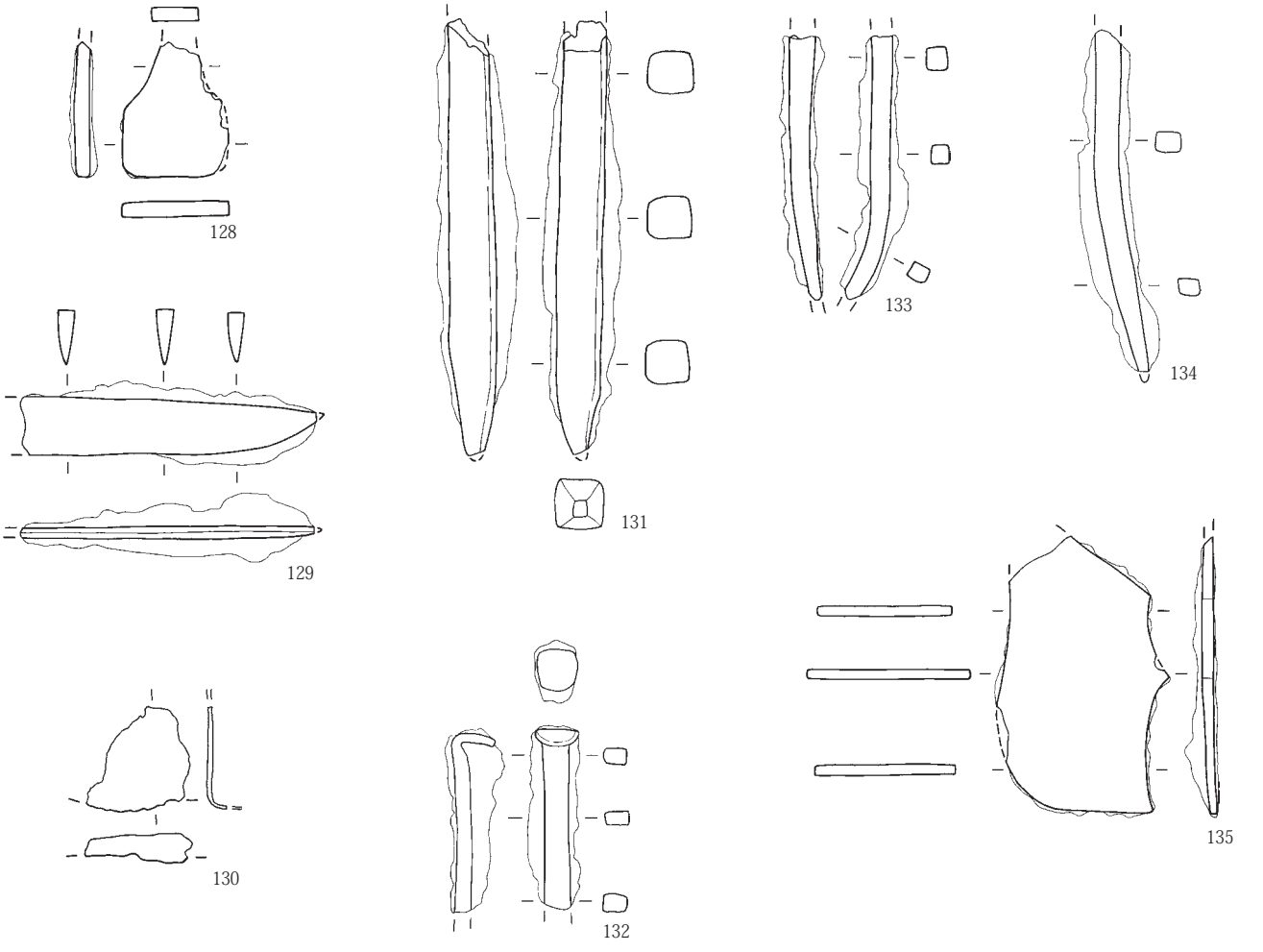


調査区出土遺物

凸状の形態の板状品(128)。凸部上部は欠損している。刀子の刃部の破片(129)と、薄板状品で端が曲げられているもの(130)の３点が出土している。

表土一括遺物

断面四角の棒状品が２点(131・134)、釘が２点(132・133)出土している。工具の破片かと推定する。また稜角がある不定形の薄鉄板(135)がある。



第129図　遺構外出土石器・金属器

第４章　分析

群馬県後賀中割遺跡古墳出土人骨について

波田野悠夏(1)・吉田貴恵(1)・鈴木敏彦(1)・
辰巳晃司(2)・佐伯史子(2)・奈良貴史(2)
（１）東北大学大学院歯学研究科
（２）新潟医療福祉大学

はじめに

2017年群馬県埋蔵文化財調査事業団の後賀中割遺跡の発掘調査において古墳２基から人骨が出土した。これは人類学的調査の報告である。歯の計測は藤田(1949)、杉山・黒須(1964)に準拠した。歯の計測値は第２表に示す。残存歯の歯式について、水平線は上下顎の境界を、垂直線は正中線を表し､向かって左側が個体の右を意味する。歯の記号が記されている箇所は歯の存在が確認された部分で、Ｉは切歯、Ｃは犬歯、Ｐは小臼歯、Ｍは大臼歯、diは乳切歯、dcは乳犬歯、dmは乳臼歯をそれぞれ表し、また数字は同一歯種内での順位を表す。

病変は、歯について山本(1988)の基準によってエナメル質減形成の有無を確認し、WHO(2013)の基準によって齲蝕の程度をＣ１：齲蝕がエナメル質に限局するもの、Ｃ２：齲蝕が象牙質にまで達しているが、歯髄には達していないもの、Ｃ３:齲蝕が歯髄にまで達しているもの、Ｃ４：齲蝕のため歯冠がほとんど崩壊したもの、に区分した。

１号古墳出土人骨

遺存状況：頭骨と四肢骨が確認できるが、細片化が著しく遺存状態は概して不良である｡頭骨で同定できたのは、前頭骨頭頂部片､左頭頂骨冠状縫合部片である(写真１)。四肢骨で同定できたのは脛骨骨幹部片のみである(写真２)。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない。上顎右側第一大臼歯、上顎左側犬歯及び下顎右側第三大臼歯に重複を認め､少なくとも２個体を認める。歯冠の形成状態ならびに咬耗の程度から判断して、Ａ個体歯とＢ個体歯とした。なお歯の形成段階から３個体である可能性が高い(詳細は個体Ｂの特記事項に示す)。歯と頭骨片と四肢骨片との関係は不明である。

Ａ個体歯：以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない(写真３)。

＜萌出歯＞

		▽	▽					▽		▽	◇			▽		
=	=	M1	dm2	=	=	=	=	I1	=	C	P1	=	=	M2	=	
=	=	=	P2	P1	=	=	=	=	=	C	P1	=	M1	=	=	
			▽	◇						▽	▽		▽			

〈未萌出歯〉

			▽								▽					
=	=	=	P2	=	=	=	=	=	=	=	=	P2	=	=	=	
M3	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	M3	
▽															▽	

◇：歯槽の有無は確認できないが，歯冠・歯根共に遺存するもの(遊離歯)
▽：歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するもの(遊離歯)
＝：歯槽、歯ともに確認できず状況不明であるもの

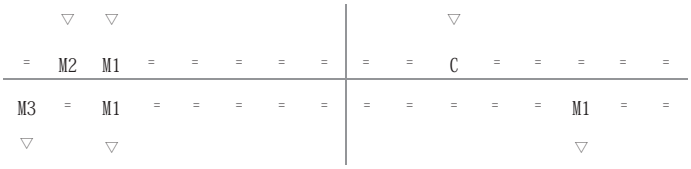
年齢：歯の形成・萌出段階を示すUbelakerのチャートでは、下顎第三大臼歯は歯冠が1/2以上形成が進むのは12歳以降であり、18歳以上で萌出する。また、上顎第二小臼歯の萌出は12歳である(Ubelaker,1989)。上顎第一小臼歯は萌出し咬耗をみとめる一方、上顎第二小臼歯は未咬耗で埋伏歯と推定される。上顎右側第二乳臼歯も確認され、こちらは過度に咬耗が進行している。下顎第三大臼歯は未萌出歯であり、左側第三大臼歯の形成段階はほぼ歯冠が完成されていることから、12歳以上18歳未満と推定される。12歳以上と推定する場合、上顎右側第二乳臼歯が確認されていることで矛盾が生じる。しかし、第二乳臼歯は晩期残存乳歯になる可能性が比較的高い歯種である。以上の事から､晩期残存乳歯と仮定するならば、説明が可能である。

性別：歯冠計測値は、古墳時代成人男性と女性の平均値

の間に位置するものが多く、計測値からは推定困難である。

特記事項：特異咬耗は認められない。上顎左側中切歯はシャベル状の形態を呈している。上顎右側第二乳臼歯には、象牙質まで達する咬耗を認める。その他の萌出歯については、多数歯にわたり、エナメル質に限局した咬耗が認められる。歯石沈着は認められなかったが、エナメル質減形成が上顎両側第一小臼歯､下顎両側第一小臼歯、上顎右側第一大臼歯、上顎左側犬歯および第一小臼歯、ならびに下顎右側第二小臼歯、下顎左側犬歯に観察できた。病変は上顎左側犬歯にのみ、遠心面にＣ２の齲蝕を認めた。

Ｂ個体歯：以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で埋伏歯である｡歯槽に植立するものはない(写真４)。



▽：歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するもの(遊離歯)

＝：歯槽、歯ともに確認できず状況不明であるもの

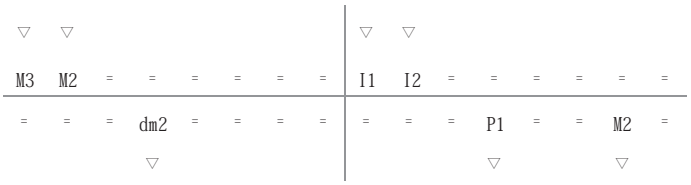
年齢：歯の形成・萌出段階を示すUbelakerのチャートでは、第二大臼歯の歯冠1/2程度まで形成が進むのは６歳である(Ubelaker,1989)。また６歳で萌出する上下顎第一大臼歯は肉眼的に咬耗が認められない。萌出して間もない場合ならば咬耗が認められないことの説明はつくことから、歯の形成・萌出状態に矛盾はなく、推定死亡時年齢はおよそ６歳と推測できる。

特記事項：齲蝕、歯石沈着はどの歯にも認められない。エナメル質減形成が上顎右側第一大臼歯および第二大臼歯、上顎左側犬歯、下顎両側第一大臼歯に認められる。下顎右側第三大臼歯については、咬頭部のみが完成し、11歳と推定される。このため、Ｂ個体とは別個体と考えられる。なお下顎第三大臼歯の形態的特徴・歯冠形成段階がことなるため、Ａ個体とも別個体だと考えられる。

８号古墳出土人骨

遺存状況：細片化の著しい頭骨片と四肢骨片が遺存する。頭骨で同定できたものは､左上顎骨歯槽部片である。四肢骨において同定できたものは左橈骨遠位部偏と肩甲骨棘突起基部片のみである。歯に同一の種類の重複はない。しかし歯冠のみが残存する大部分の歯に対し、上顎左側犬歯、第二小臼歯、第一大臼歯および下顎左側犬歯の４本の歯は歯根まで残存し、歯質の色調も異なっている。従って歯根まで残存する４本の歯は別個体のものと判断される。歯冠のみが遺存する個体をＡ個体歯、歯根まで確認できる個体をＢ個体歯とした。頭骨片と四肢骨片との関係は不明である。

Ａ個体歯：以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない(写真５)。



▽：歯槽の有無は確認できないが，歯冠のみが遺存するもの(遊離歯)

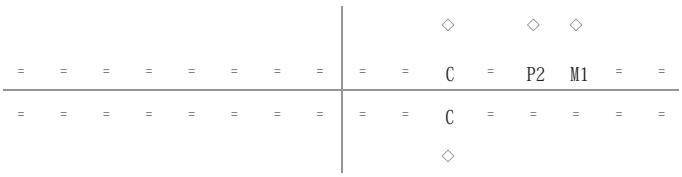
＝：歯槽，歯ともに確認できず状況不明であるもの

年齢：歯の咬耗は軽度であり、また下顎右側第二乳臼歯が残存していることから見て、Ubelaker（1989)による歯の形成・萌出段階を示すチャートに基づき11歳程度と考えられる。

性別：歯冠計測値は、古墳時代成人男性と女性の平均値の間に位置するものが多く、計測値からは推定困難である。

特記事項：齲蝕、歯石沈着はどの歯にも認められない。エナメル質減形成が上顎右側第二大臼歯、上顎右側第三大臼歯、上顎左側切歯に認められる。

Ｂ個体歯：以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない(写真６)。



◇：歯槽の有無は確認できないが，歯冠・歯根共に遺存するもの(遊離歯)

＝：歯槽，歯ともに確認できず状況不明であるもの

年齢：全ての歯根が根尖まで形成されていることと、咬耗が進行していることから考えて、成人段階には達していたと思われる。

性別：計測可能な歯冠計測値が１つしかなく、歯冠計測値からは推定困難である。

特記事項：咬耗は上顎歯に顕著に認められる。このうち上顎左犬歯に関しては歯冠歯質が大きく欠損するが、歯髄腔が開放して見え、死後の破折と推測される。齲蝕、歯石沈着はどの歯にも認められない。下顎左側犬歯にエナメル質限形成が確認される。

文献
藤田 恒太. 1949. 歯の計測基準について.人類誌 61:27-31.
杉山乗也. 黒須一夫. 1964. 乳歯の計測基準について.小児歯誌 2:1-8.
Ubelaker DH. 1989. Human skeletal remains: Excavation, Analysis, Interpretation (2nd edition). Washington, DC. : Taraxacum: 172.
WHO(World Health Organization). 2013. World Health Statistics 2013.WHO Press, Geneva.
山本美代子. 1988. 日本人古人骨永久歯のｴﾅﾒﾙ質減形成. 人類学雑誌, 96:417-433.

第２表　歯冠計測値(mm)

			1号A				1号B				8号A				8号B			
			右側		左側		右側		左側		右側		左側		右側		左側	
			近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径
【乳歯】	上顎	乳中切歯(di1)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		乳側切歯(di2)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		乳犬歯(dc)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		第一乳臼歯(dm1)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		第二乳臼歯(dm2)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	下顎	乳中切歯(di1)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		乳側切歯(di2)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		乳犬歯(dc)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		第一乳臼歯(dm1)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		第二乳臼歯(dm2)	9.56 *	×	－	－	－	－	－	－	11.57	10.87	－	－	－	－	－	－
【永久歯】	上顎	中切歯(I1)	－	－	9.32	×	－	－	－	－	－	－	×	×	－	－	－	－
		側切歯(I2)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7.35	×	－	－	－	－
		犬歯(C)	－	－	7.43	8.09	－	－	8.05 *	×	－	－	－	－	－	－	×	×
		第一小臼歯(P1)	6.89	9.63	7.23	9.35	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		第二小臼歯(P2)	－	－	7.33	9.23	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	×	×
		第一大臼歯(M1)	×	×	－	－	11.26	12.09	－	－	－	－	－	－	－	－	×	×
		第二大臼歯(M2)	－	－	10.08	11.09	10.70	12.18	－	－	10.97 *	11.85 *	－	－	－	－	－	－
		第三大臼歯(M3)	－	－	－	－	－	－	－	－	9.51	9.62	－	－	－	－	－	－
	下顎	中切歯(I1)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		側切歯(I2)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		犬歯(C)	－	－	7.37	×	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6.78	7.30
		第一小臼歯(P1)	7.44	9.08	7.52	8.10	－	－	－	－	－	－	7.57	7.91	－	－	－	－
		第二小臼歯(P2)	7.45	8.74	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		第一大臼歯(M1)	－	－	×	×	11.45 *	×	×	×	－	－	－	－	－	－	－	－
		第二大臼歯(M2)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	10.61 *	9.44 *	－	－	－	－
		第三大臼歯(M3)	11.57	10.71 *	10.92	10.09	×	×	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

第三大臼歯(M3) A-2:確認済み、Bとは別個体の可能性高い、MD,BLは計測できず
－：該当歯が存在しないもの
×：破損等のため計測値が得られない計測項目
＊：咬耗，エナメル質の欠損等によって計測点を欠くために，計測点の近くを用いて計測した近似値である。

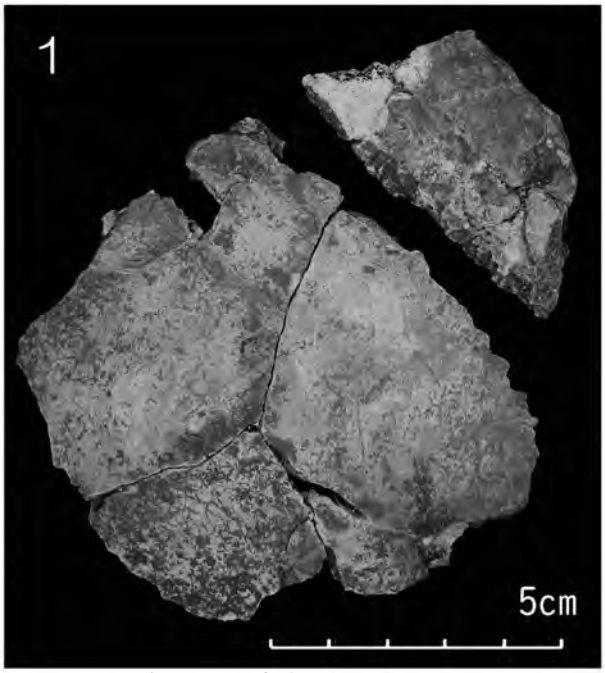


写真１　１号古墳出土人骨　頭骨

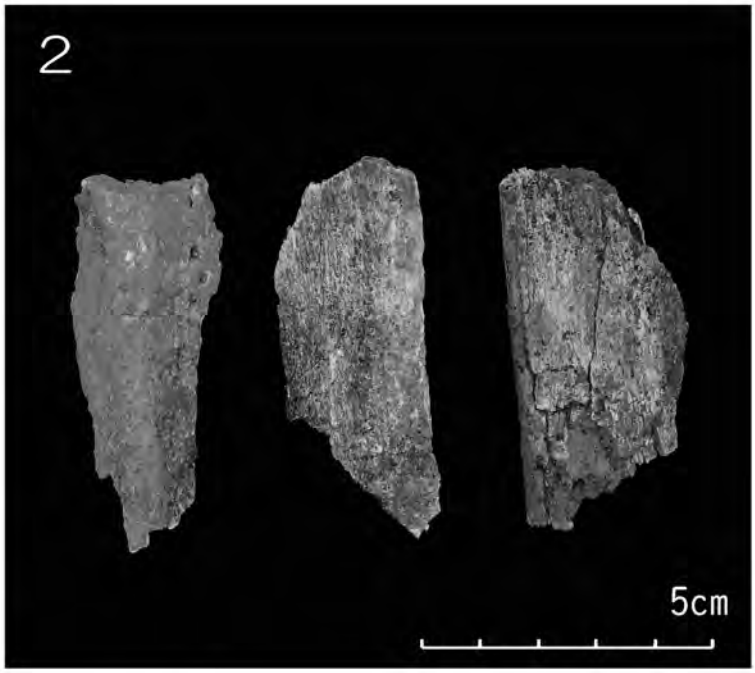


写真２　１号古墳出土人骨　脛骨

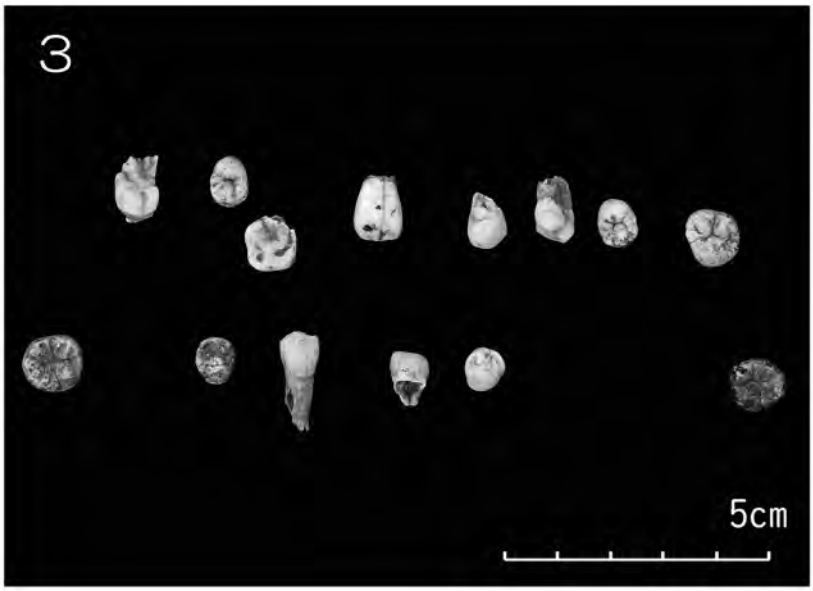


写真３　１号古墳出土人骨　Ａ個体歯

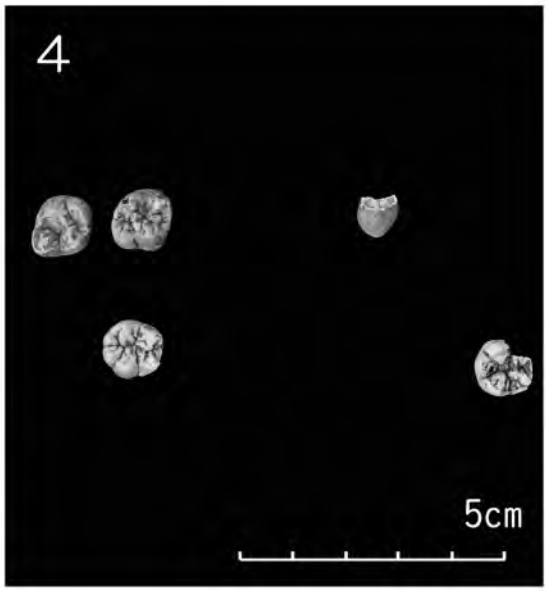


写真４　１号古墳出土人骨　Ｂ個体歯

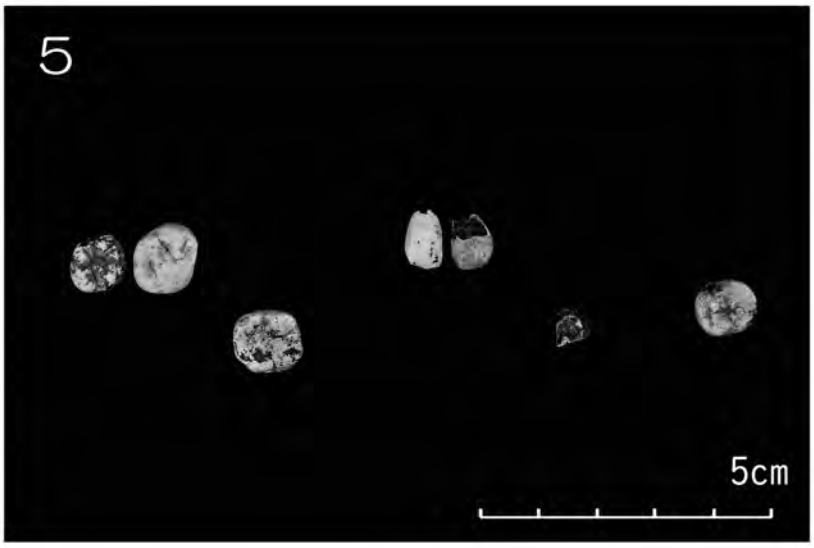


写真５　８号古墳出土人骨　Ａ個体歯

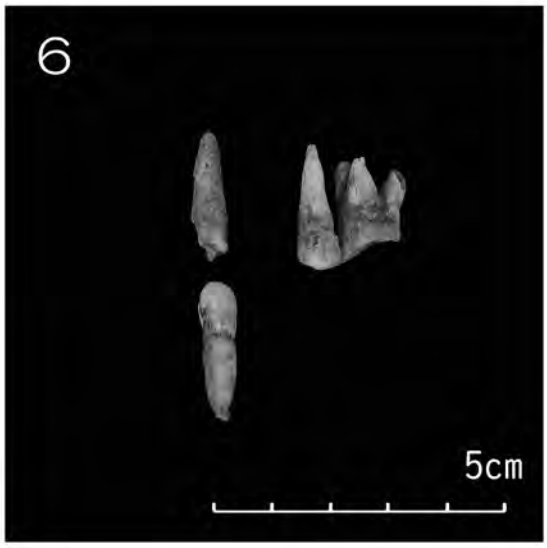


写真６　８号古墳出土人骨　Ｂ個体歯

蛍光Ｘ線分析

群馬大学研究・産学連携推進機構高度研究推進・支援部門 機器分析センター

試料名　金銅製品・金属製品(銀)10点

【測定装置】

蛍光Ｘ線分析装置(XRF、日立ハイテクサイエンス製　エレメントモニタSEA1200VX)

【測定条件】

・使用管球：ロジウム

・加速電圧＋

１次フィルタ：50kV+Pbフィルタ(Mn″Y、Hf″Uの測定に使用),

50kV+Cd(Zr″Baの測定に使用)

・ピーキングタイム：1.0μsec

・コリメータ：Φ１㎜

・雰囲気：大気

・測定時間：100s(フィルタごと)

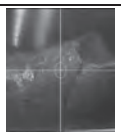
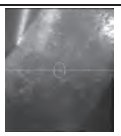
【解析方法】

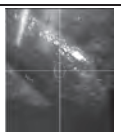
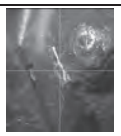
試料の解析には装置に搭載されている汎用的な標準試料のデータを適用し、ファンダメンタルパラメータ法による定量を行った。

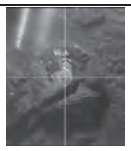
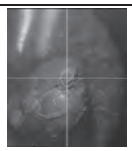
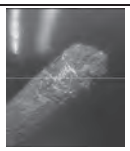
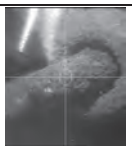
【測定結果】

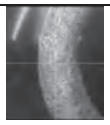
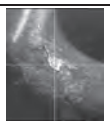
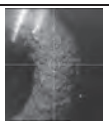
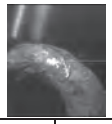
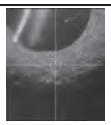
以下のとおり。

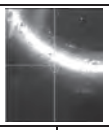
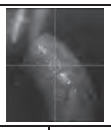
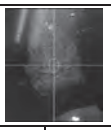
第３表　蛍光Ｘ線分析装置(XRF)による分析結果

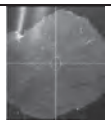
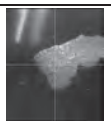
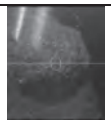
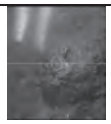
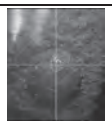
番号	1				2				3	
遺構名	８号墳				８号墳				８号墳	
図番号	56				57				59	
遺物番号	62				65				126	
種類器種	中空銅地金メッキ耳環				銀製鞘尻金具、銅製縁金具付				銀装具付刀子片	
出土位置	裏込め				埋土				玄室	
測定場所	Ⅰ		Ⅱ		Ⅰ		Ⅱ		Ⅰ	
										
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	18.82	410.86	91.87	2418.64	0.93	13.39	3.20	45.73	0.77	11.57
Ag	1.53	3.90	0.74	2.37	98.83	383.59	96.59	368.85	99.14	405.29
Sn										
Au	67.21	814.10	6.27	40.36	0.24	3.43	0.22	2.98	0.10	1.49
Hg	12.44	313.55	1.12	15.37						

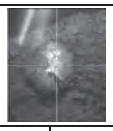
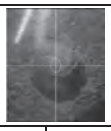
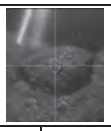
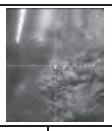
番号	4						5		6	
遺構名	8号墳						8号墳		8号墳	
図番号	60						60		61	
遺物番号	130						132		133	
種類器種	渦巻形杏葉						渦巻形杏葉留金具部		渦巻形杏葉	
出土位置	埋土						玄室		玄室	
測定場所	I		II		III		I		I	
										
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	1.07	8.22	0.21	2.05	1.11	10.48	0.78	8.53	0.94	12.80
Ag	98.23	202.51	99.29	261.68	98.42	248.52	98.81	291.16	98.24	356.39
Sn										
Au	0.70	5.33	0.50	4.98	0.47	4.38	0.41	4.50	0.82	11.06
Hg										

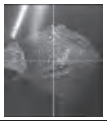
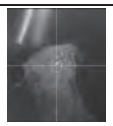
番号	7		8		9				10	
遺構名	8号墳		8号墳		8号墳				8号墳	
図番号	61		62		64				64	
遺物番号	134		136		165				172	
種類器種	渦巻形杏葉		四脚辻金具		金銅製連結金具				銀張花弁形金具	
出土位置	玄室		玄室		裏込め				玄室	
測定場所	I		I		I		II		I	
										
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	0.21	1.41	2.42	2.70	51.26	1284.75	99.15	1731.59	0.21	2.57
Ag	99.21	180.79	97.27	29.06	1.64	5.13	0.85	1.74	99.31	328.02
Sn										
Au	0.58	3.97	0.31	0.34	39.35	419.24			0.48	5.96
Hg					7.75	167.76				

番号	11				12		13		14		15	
遺構名	1号墳				1号墳		8号墳		8号墳		8号墳	
図番号	20				20		56		56		56	
遺物番号	31				32		57		58		59	
種類器種	小型銅地細型耳環				銅地金メッキ耳環(銀張下地)		小型銅地銀張耳環		銅地金メッキ小型耳環		銅地金メッキ?小型耳環	
出土位置	埋土				羨道		玄室		玄室		埋土	
測定場所	I		II		I		I		I		I	
												
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	99.50	1641.22	99.64	2271.00	15.32	324.76	81.73	1513.41	53.31	651.66	87.15	2419.36
Ag	0.43	0.83	0.22	0.59	50.21	180.87	18.27	50.00	1.87	2.87	1.98	6.81
Sn												
Au	0.07	0.24	0.14	0.62	24.84	383.20			41.04	204.51	10.03	72.74
Hg					9.63	221.11			3.78	60.10	0.85	20.87
Fe（参考）												

番号	16				17				18		19	
遺構名	8号墳				8号墳				8号墳		8号墳	
図番号	56				56				57		57	
遺物番号	60				61				63		66	
種類器種	銅地金張耳環				銅地金張耳環				銀製鋺		銀装具片稜線部	
出土位置	玄室				玄室				裏込め		玄室	
測定場所	I		II		I		II		I		I	
												
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	2.24	41.21	62.87	1378.94	2.22	40.67	92.38	2153.81	0.07	0.94	0.02	0.26
Ag									99.90	361.89	99.88	284.41
Sn												
Au	97.76	1040.06	37.13	292.09	97.78	1036.33	7.62	41.46	0.03	0.40	0.09	0.98
Hg												
Fe（参考）												

番号	20		21		22		23		24		25	
遺構名	8号墳		8号墳		8号墳		8号墳		8号墳		8号墳	
図番号	57		59		62		62		62		62	
遺物番号	67		124		135		137		141		142	
種類器種	銀装具片板状品		銅製小型装具		四脚辻金具/コハゼ形留金具片		辻金具、１/２破損		コハゼ形金具		コハゼ形金具	
出土位置	玄室		埋土		玄室		玄室		玄室		埋土	
測定場所	I		I		I		I		I		I	
												
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	0.66	9.43	7.91	0.91	0.70	0.23	0.29	0.85	1.44	11.42	0.17	0.93
Ag	99.14	380.37			99.30	8.71	99.71	80.36	98.35	210.39	99.83	147.10
Sn												
Au	0.20	2.86							0.21	1.68		
Hg												
Fe（参考）			92.09	19.61								

番号	26		27		28		29		30	
遺構名	8号墳		8号墳		8号墳		8号墳		8号墳	
図番号	62		63		63		63		63	
遺物番号	143		146		147		152		155	
種類器種	コハゼ形留金具		コハゼ形留金具		コハゼ形留金具小		方形留金具		方形留金具	
出土位置	不明		玄室		玄室		玄室		裏込め	
測定場所	I		I		I		I		I	
										
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	1.53	12.57	1.11	12.08	0.04	0.28	1.35	14.31	1.42	4.13
Ag	98.25	216.95	97.95	284.13			98.46	281.76	98.51	77.27
Sn										
Au	0.21	1.73	0.94	10.10			0.17	1.85	0.07	0.20
Hg							0.02	0.59		
Fe（参考）					99.96	1389.54				

番号	31				32		33	
遺構名	8号墳				8号墳		8号墳	
図番号	64				64		64	
遺物番号	166				173		174	
種類器種	金銅製連結金具				銀張花弁形金具		鉄地銀張責金具	
出土位置	埋土				玄室		埋土	
測定場所	I		II		I		I	
								
	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）	濃度（Wt%）	強度（cps）
Cu	49.39	1128.07	78.84	1078.63	1.27	0.15	1.51	5.58
Ag	1.31	3.72	0.96	1.65	98.73	3.18	96.58	93.66
Sn								
Au	40.99	405.43	17.02	70.81			1.91	6.89
Hg	8.30	164.35	3.18	27.68				
Fe（参考）								

渦巻形杏葉のＸ線ＣＴ

撮影機器

Ｘ線ＣＴとしては、日本ベーカーヒューズ株式会社製のPhoenix v|tome|x m 240/180を使用した。

この装置は最大管電圧240kVのマイクロフォーカスＸ線発生装置である。

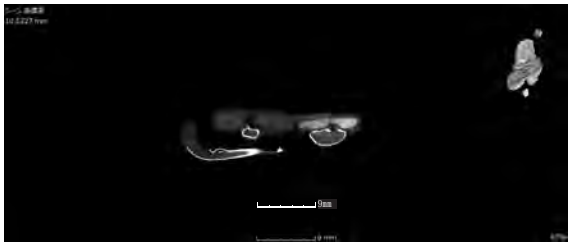
撮影条件

渦巻形杏葉に対して最適な分解能を得るために、管電圧を200kv、管電流を180μA、露光時間を250ms、投影画像取り込み数を1800枚とし、Ｘ線焦点と遺物の間に金属フィルタとしてCu厚さ0.4mm及びSn厚さ1.0mmを設置した。

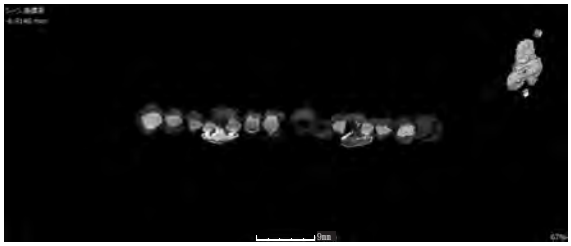
解析方法

断面画像のボリュームデータ化には、ボリュームグラフィックス株式会社製のVGSTUDIOMAX3.2を使用した。再構成した３次元画像のボクセルサイズは0.0396μm3である。

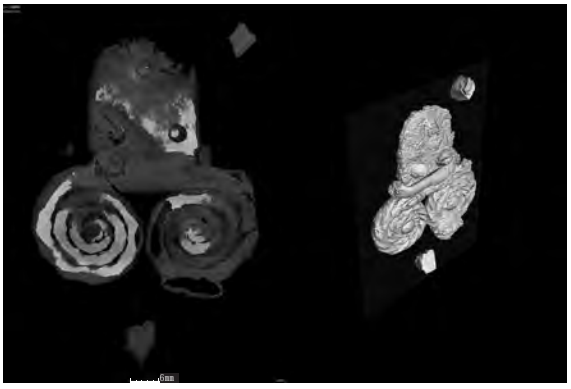
群馬県立群馬産業技術センター　令和３年10月１日
群技セ第2302-231号



ＸＹ断面①



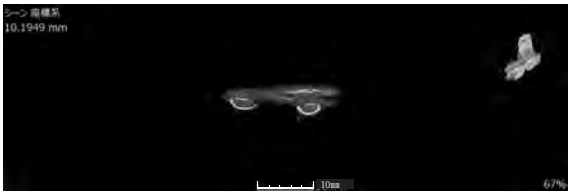
ＸＹ断面②



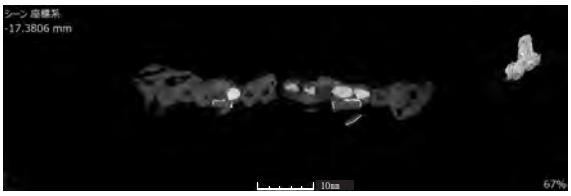
ＸＺ断面

ＹＺ断面

渦巻形杏葉(130)Ｘ線ＣＴ画像

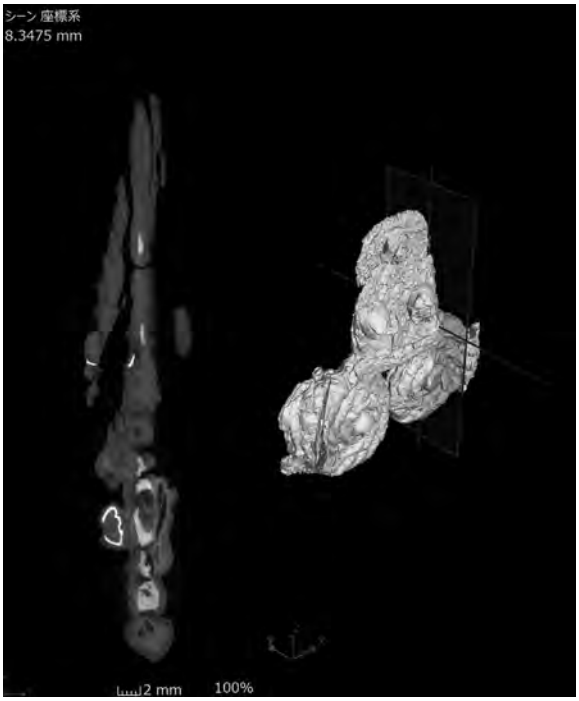


ＸＹ断面①



ＸＹ断面②

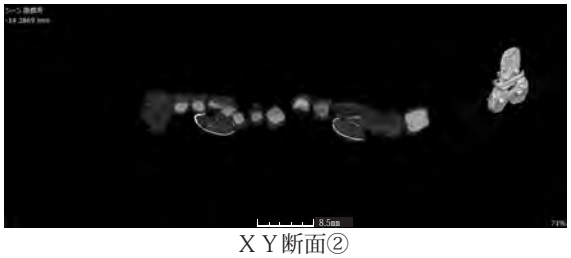
ＸＺ断面



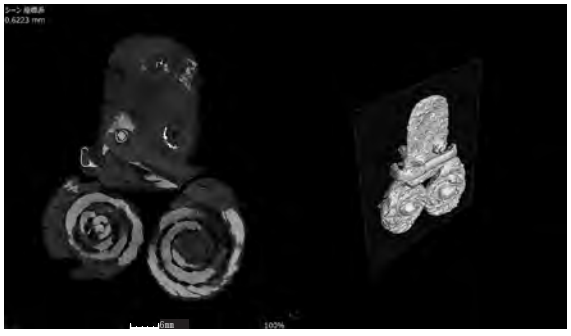
ＹＺ断面

渦巻形杏葉(131)Ｘ線ＣＴ画像

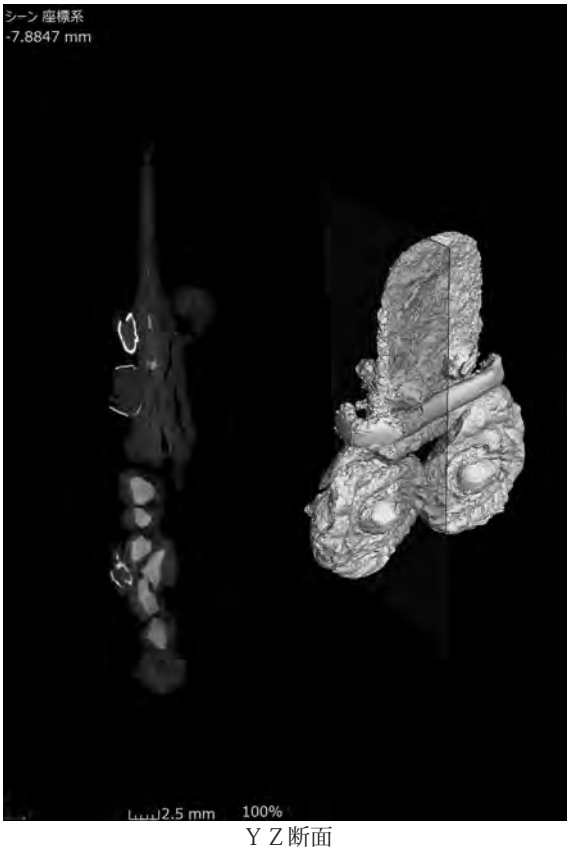
ＸＹ断面①



ＸＹ断面②



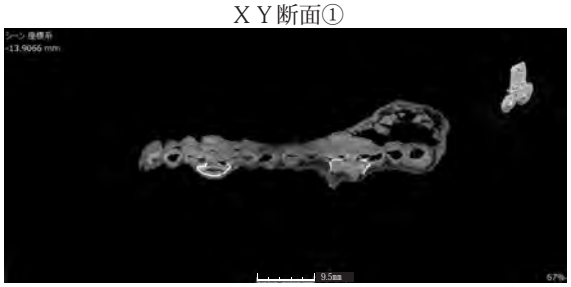
ＸＺ断面

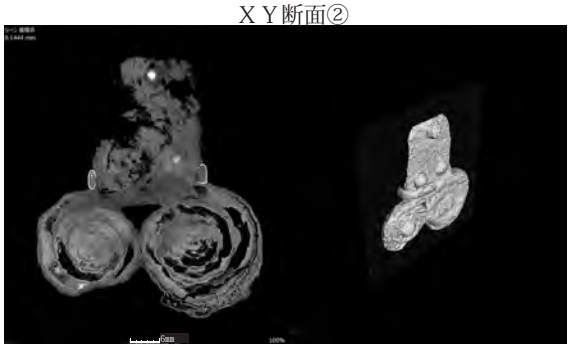


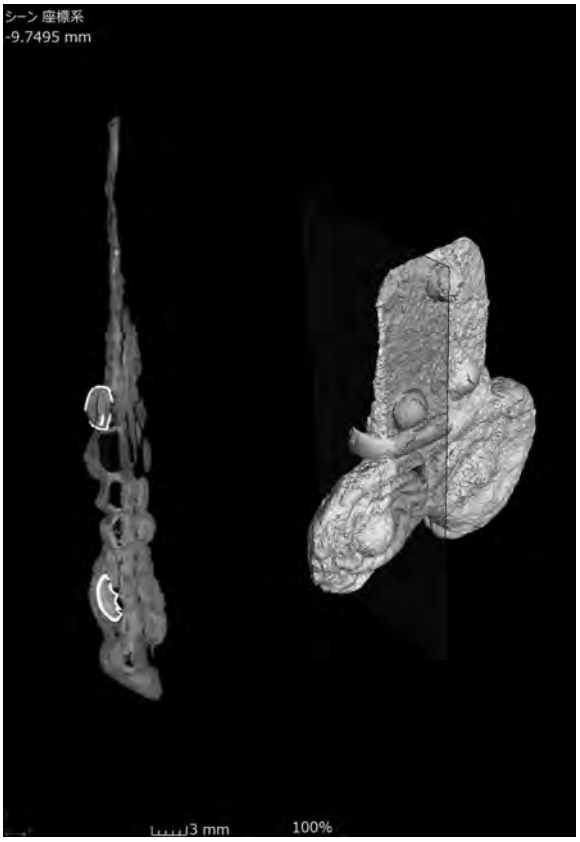
ＹＺ断面

渦巻形杏葉(132)Ｘ線ＣＴ画像

ＸＹ断面①


ＸＹ断面②

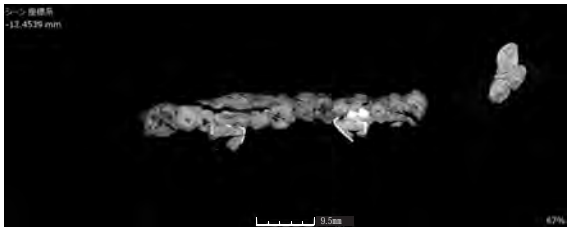

ＸＺ断面

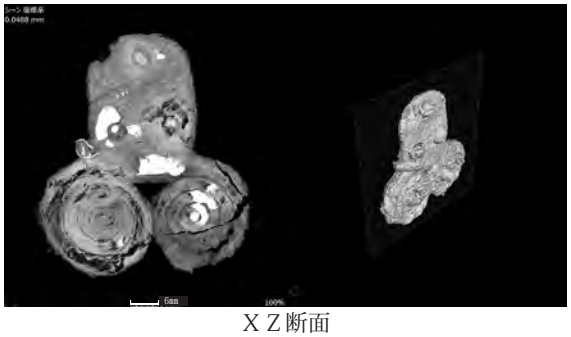


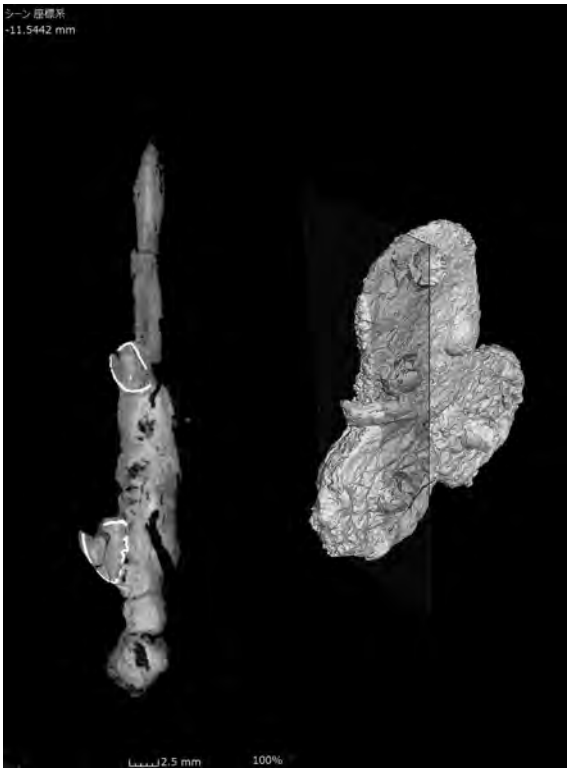
ＹＺ断面

渦巻形杏葉(133)Ｘ線ＣＴ画像

ＸＹ断面①


ＸＹ断面②


ＸＺ断面



ＹＺ断面

渦巻形杏葉(134)Ｘ線ＣＴ画像

第５章　まとめ

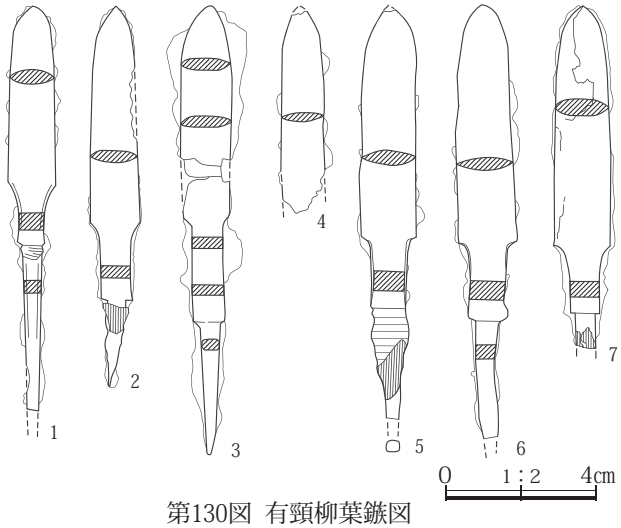
後賀中割遺跡出土武器他について

はじめに　後賀中割遺跡からは、馬具を初め武器・武具が盗掘にあいながらも出土している。出土した武器他のうち、特に鏃を中心に類例を年代順に並べて述べる。

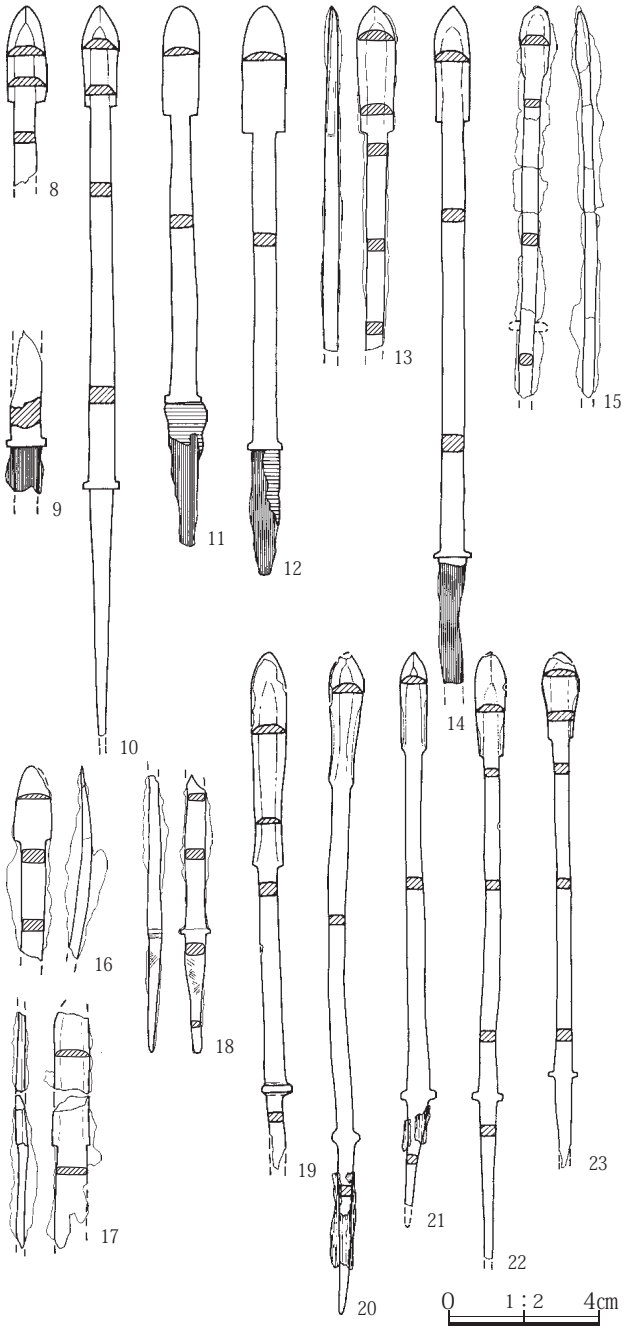
７号墳出土鏃(第130図−３)７号墳からは墳丘より少数の遺物が出土しており、その中でも７号墳からは有頸の柳葉鏃が１点(３)出土している。この柳葉鏃は、鋒よりふくらを有した後、ほぼ直線状に垂下して斜関を形成するもので、頸部の有るものである。鏃身の長身化、拡大化の視点により５型式に区分でき、うち、細身長身化した４型式に比定できる。この類の鏃は、県内の類例は少なく、伊勢崎市達磨山古墳Ａ号石室(４)から刃部の一部が出土している。７号墳例の類例を鏃身の長身化から見て年代順に並べて見ると、県外例では、長野県倉科２号墳例(１)がやや先行するもので、７号墳例(３)は、長野県土口将軍塚古墳例(２)に極めて近い。刃部の長身化が進んだ、奈良県兵家１号墳北槨例(５・６)や、長野県鎧塚１号墳例(７)が続くものである。更に細身長身化した例として図示しないが長野県一時坂古墳例がある。この系列の鏃は長野県に多く、７号墳から出土した鏃も長野との関係性が想定される。５世紀第２四半期に比定される。

２号墳出土鏃(第131図−13)　２号墳からは１点の鏃(13)が出土している。この鏃は長頸の柳葉(長三角形)鏃で、刃部と頸部の一部が遺存しているのみである。刃部は、片丸造で、鋒よりふくらを有した後に、やや内湾ぎみになり、角関にいたるという形態をとる。しっかりとした造りで頸部もやや太めである。類例としては、八幡観音塚古墳例(14)などがある。年代的には６世紀後半〜７世紀初頭に入る。釘が出土していることから７世紀代に入るものと想定している。

１号墳出土鏃(第131図−15〜18、133図−32)　１号墳からは、長頸柳葉(長三角形)鏃を中心に長頸片刃鏃も出土している。長頸柳葉鏃は、刃部の短いもの(15・16)と、長いもの(17)の２種類ある。刃関は､斜関が中心であるが、刃と関の区別は明瞭である。類例としては、八幡観音塚古墳例(14)がある。長頸片刃鏃(32)は、刃関が不明瞭な



第130図 有頸柳葉鏃図



第131図 長頸柳葉(長三角形)鏃図①

斜関である。類例としては八幡観音塚古墳例(37)がある。さらに、広根の有頸長三角形鏃が１点出土している。破片なので不明瞭であるが、明瞭な角関で、薄手幅広の刃部を有するものである。類例は図示しないが、上の山漏４号墳例や奥原30号墳例がある。１号墳の鏃全体を見ると、八幡観音塚古墳例に近似するものが多く、６世紀末～７世紀初頭と比定することが出来る。

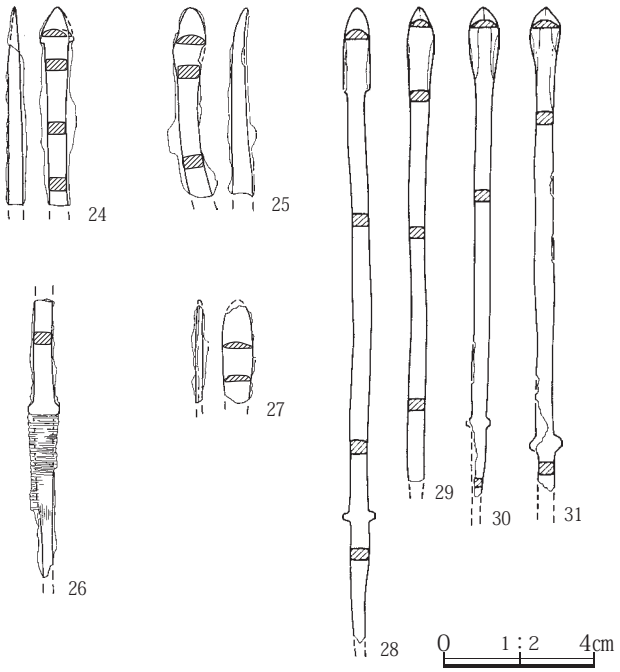
８号墳出土鏃(第132図-24～27、133図-33～36)　８号墳からは、長頸柳葉(長三角形)鏃、長頸三角形鏃、長頸片刃鏃が出土している。長頸柳葉鏃は、刃部が不明瞭な鏃で、斜関状を呈している(25・27)。長頸柳葉鏃の類例としては、奥原49号墳例(29)がある。刃部が先端に集約する鑿箭形のものは無い。長頸片刃鏃は、刃部の関はいずれも不明瞭であるが斜関状を呈している(33～35)。個体差があり、片刃部分の長さはバラエティーがあり、片刃鏃の刃長は1.35～2.8㎝以上である。類例としては、八幡観音塚古墳例(37)や奥原30号墳例(38・39)がある。鏃身関は長頸柳葉形・片刃ともに明瞭な棘状関である。鏃から見ると、７世紀初頭～前半に比定できる。

８号墳出土銀製鞘尻・鋲(第57図-63・65)　８号墳からは、銀製の鞘尻と想定される装具が出土している。包状の本体を造り、鞘尻の先端部に畦目状の段を形づくった端部を接合していると想定するが、接合痕は確認できない。縁の部分には、銅芯に上から銀を銅縁部端まで被せている。この畦目状の段を持つ銀製鞘尻は今のところ類例を確認できない。ただし、懸通孔が無いことなども考慮すれば、この８号墳例は、鞘尻として良いと思われる。なお、銀製の鋲が出土しているが、共伴する直刀より幅が大きく、また鞘尻金具の断面幅との比較からセットになるものでは無い可能性が高い。

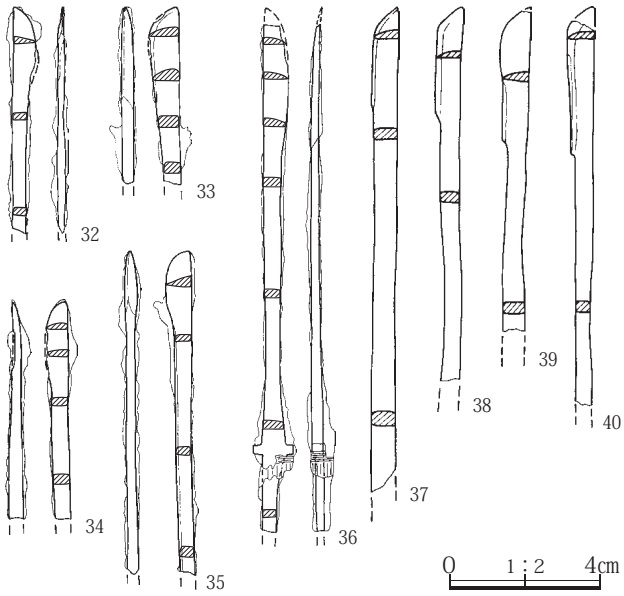
８号墳出土銀装刀子(第59図-124)　８号墳からは、銀製の鋲を持つ刀子片が１本出土している。鋲のみを銀製とする刀子は、県内でも出土例がごく限られており、台所山古墳例がある。

８号墳銀製品について　銀製品は馬具(雲珠上部座金具花弁)・武器などの装飾に使用された。これだけの銀の装飾が施されている遺物が多出すること自体がこの古墳の重要性を示している。

図版に使用した報告書名は紙数の関係から省略させていただいた。また、諫早直人・内山敏行・大谷晃二・片山健太郎・金宇大・徳江秀夫・右島和夫の各氏には遺物について情報・助言をいただいた。記して感謝いたします。



第132図　長頸柳葉(長三角形)鏃図②



第133図　長頸片刃鏃図

後賀中割遺跡鉄鏃図

1	倉科２号墳	19	奥原15号墳
2	土口将軍塚古墳	20・21	奥原30号墳
3	後賀中割遺跡７号墳	22・23	少林山台７号墳
4	達磨山古墳Ａ号石室	24~27	後賀中割遺跡８号墳
5・6	兵家１号墳北槨	28・29	少林山台17号墳
7	八丁鎧塚１号墳	30	奥原49号墳
8・9	富岡５号墳	31	奥原37号墳
10	綿貫観音山古墳	33~36	後賀中割遺跡８号墳
11・12	上の山漏３号墳	37	八幡観音塚古墳
13	後賀中割遺跡２号墳	38・39	奥原30号墳
14	八幡観音塚古墳	40	奥原49号墳
15~18・32	後賀中割遺跡1号墳		

渦巻文杏葉について

はじめに

後賀中割遺跡８号墳からは、全国的にも希少な渦巻文杏葉が出土している。東京国立博物館(以下東博)には群馬県藤岡市神田出土とされる渦巻文杏葉４点が所蔵されており、後賀中割例は東日本２例目となる。

渦巻文杏葉については、その造形の特異性が以前から注目されてきたものの、出土例が稀少であること等も相まって、研究が充分に深化されてきたとはいいがたい。そこで本稿では､渦巻文杏葉の位置付けや起源について、若干の検討を試みていくこととしたい。

類例および先行研究

渦巻文杏葉については、福岡県小郡市三沢古墳群17号墳の調査によって存在が認識されて以来、その特異な形態や分布状況について注目を集めてきた(宮田1992、杉本・宮田2001)。立聞部の下側に、向かい合うようにして２つの内巻きの渦巻が造り出されるという構造を最大の特徴とし、後賀中割遺跡８号墳以外には、伝群馬県藤岡市神田(東博所蔵)、奈良県宇陀市室の谷２号墳、兵庫県多可町東山14号墳、兵庫県朝来市音谷１号墳、兵庫県香美町文堂古墳、鳥取県八頭町福本70号墳、鳥取県八頭町万代寺３号墳、岡山県津山市万燈山古墳(註１)、福岡県小郡市三沢17号墳、福岡県広川町内古墳、熊本県山鹿市オブサン古墳、宮崎県西都市持田17号墳の12例が知られている(亀田2014、岸本2018、東方2014)。第134図に分布を示したが、島根・兵庫に５例が集中するほか、北部九州と群馬において複数例が確認されている。また、杏葉としては比較的小型であり、ほとんどの事例では１～２点の出土に留まるようである。金銅装のものは三沢17号墳のみで、このほかには銀装・錫装のものが少数例知られている。

先学によって、渦巻文杏葉は６世紀末から７世紀前半に位置付けられること、渡来系集団と関わりのある地域から出土する傾向があること(杉本・宮田2001)、伽耶との関わりがある渡来系遺物であること(亀田2014)、板状(Ｘ字脚・十字脚)辻金具との共伴例が多く関連性が見出されること(大谷2013)等が指摘されている。分布の背景に関しては、宮田浩之によって馬匹生産による陸上交通路の展開の中で作成された可能生が示されている(宮田2020)。また、各事例の形態は類似するものの、法量や材質の差異が大きいことから、製作場所や時期はバラバラであり、使用者サイドの要請によって製作されたのではないかという指摘もある(東方2014)。

後賀中割遺跡８号墳例の概要と特徴

後賀中割遺跡８号墳の横穴式石室からは、完形の渦巻文杏葉５点(第60・61図-130～134)が出土している。他例では１～２点ずつの出土が大多数を占めていることと比較すると、かなりまとまった数量での出土といえる。伝藤岡市神田例が４点という数量である点も踏まえれば、馬装を構成する上で配置された渦巻文杏葉の個体数が、群馬県地域では他地域よりも多かった可能性も考えられる。

立聞部と渦巻部の接続箇所には責金具が巡る。立聞部の形状やサイズ等に多少の差異はみられるものの、いずれの個体も共通する構造をしており、同一工房で製作されセット関係を成すものと思われる。

渦巻部は、鉄棒に捻りをくわえながら２回転半ほど巻き込んで成形しており、２つの渦巻の中央部にはそれぞれ装飾のための鋲が打たれている。立聞部との接続箇所には捻りがくわえられず平坦なままであり、別造りの立聞部を鍛接しているとみられる。立聞部には３箇所に鋲が打たれており、これによって革帯に接続していたようである。立聞部・渦巻部・責金具・鋲のいずれも鉄製であるが、責金具と鋲は鉄地に銀の薄板を貼っている。

共伴した馬具としては鞍金具、辻金具、留金具、鉸具があるが、轡、鏡板、雲珠などを欠いており、全体としてどのような馬装を構成していたのかは不明確である。ただし、辻金具の鋲には銀の薄板が残存するものがあることから、装飾に銀が多用された馬装であった可能性が高い。

類例と比較した上での後賀中割８号墳例の最大の特徴は、渦巻部を巻き取る前に捻りがくわえられている点である。こうした製作技法は、管見の限りでは本例が唯一であり、他例にはみられない。また、責金具が付属するのは本例のみである。

渦巻部中央に鋲をもつものとしては、室の谷２号墳、東山14号墳、文堂古墳、オブサン古墳の４例があり、鋲

に銀・錫といった金属を被せるものとしては文堂古墳、万代寺３号墳、三沢17号墳の３例がある（亀田2014、東方2014）。なお、文堂古墳例では、錫装の金属光沢を目立たせるために鉄部分に表面処理が行われていた可能生が示されているが（東方2014）、これは後賀中割８号墳例においても同様のことがいえ、銀装を目立たせるために、鉄部分への黒漆の塗布等が行われていた可能生がある。

起源についての検討

渦巻文杏葉の造形については、イモ貝装馬具や朝鮮半島の有棘利器を源流としている可能生が指摘されているが（杉本・宮田2001）、これに対しては慎重論もある（東方2014）。たしかに、渦巻文杏葉の最大の特徴である「内向きの１対の渦巻」は、これらの遺物にはみられない。

さて、従来はあまり注目されてこなかったが、渦巻文杏葉と同様の造形をもつ鏡板付轡が存在する。東博が所蔵する、伝群馬県藤岡市平井出土とされる資料で、滝沢誠の分類による「複環式鏡板轡Ｃ類」に該当し、６世紀末～７世紀頃の所産と考えられている（第136図）。Ｃ類は大韓民国慶尚北道慶州市（新羅の王都周辺）の味鄒王陵地区等に類例をもつが、日本国内ではこの１例のみである（滝沢1992）。渦巻文杏葉とはデザインの共通性が高く、セット関係を成していても違和感がない。造形の類似性からの推測となるが、この複環式鏡板轡Ｃ類をデザインの原型とし、鏡板ではなく杏葉に意匠を取り入れていったことで、渦巻文杏葉が誕生したと考えることができる。

くわえて注目されるのは、複環式鏡板付轡が長野県下伊那地域からまとまって出土するという点である（滝沢1992）。Ａ類２例・Ｄ類１例が確認されているが、これらも朝鮮半島へ系譜がたどれる遺物であり、Ａ類にみられる重なる円環は、一見すると渦巻とも似た印象を受ける（第137図）。Ａ類については、５世紀後葉から６世紀前葉という年代観が与えられており、Ｃ類や渦巻文杏葉に若干先行する時期である。下伊那は馬匹生産の盛んな地域であり、渡来系の馬飼集団によって複環式鏡板付轡が使用されていた可能性も、充分に想定できる。Ｃ類が群馬へともたらされた理由も、こうした馬匹生産と関連した交流によるものかもしれない。

なお筆者は、各例の渦巻文杏葉に構造等の差異がみられることから、一箇所で生産して配布されたのではなく、使用者が保持していた「共通のイメージ」をもとに、各例が個別生産されたと考えている。この場合、使用者間での情報のやりとりが必要となり、例えば実物をみた記憶を基づいて製作が行われるような状況もあったと想定される。

以上のような状況を踏まえ、敢えて想像を逞しくするならば、渡来系遺物である複環式鏡板付轡Ｃ類を祖型として渦巻文杏葉が誕生し、馬匹生産に関連した遠隔地域間の交流によって分布を広げていった可能性が指摘できる。共有されたイメージを基にして個別生産された渦巻文杏葉は、集団間の紐帯を明示・再確認する役割を果たし、彼らの生活の拠りどころでもある馬を飾り立てていたのかもしれない。

おわりに

本稿では、渦巻文杏葉が渡来系の鏡板を基にして生み出され、馬匹生産に関連する地域間交流によって波及した可能生を提示した。今回、こうした検討の機会を与えられたものの、仮定の上に仮定を重ねる、まさに屋上屋を架す様な内容となってしまった感は否めない。今後とも検討を深めていく必要があるが、本稿が先学諸兄の研究に幾許かでも資するところがあれば幸いである。

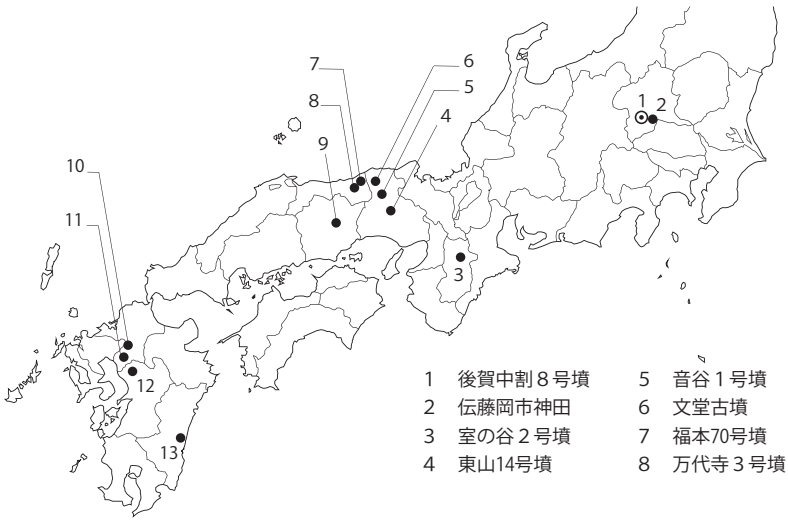
（註１）大谷晃二氏の御教示による。

引用参考文献

大谷宏治　2013「船津Ｌ-第62号墳の馬具について」『船津古墳群Ⅱ』富士市埋蔵文化財調査報告第55集　富士市教育委員会
亀田修一　2014「福本70号墳の銅匙が語るもの」『福本70号墳発掘調査報告書』郡家町文化財調査報告書第20集　八頭町教育委員会
岸本一宏　2018「大型の無袖石室墳　音谷１号墳」『兵庫県埋蔵文化財情報　ひょうごの遺跡』97号　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
桑原憲彰・勝又俊一　1987『オブサン古墳』熊本県文化財調査報告第87集　熊本県教育委員会
杉本岳史・宮田浩之　2001「三沢古墳群」『小郡市史』第４巻資料編　小郡市
滝沢　誠　1992「複環式鏡板付轡の検討」『史跡森将軍塚古墳―保存整備事業発掘調査報告書―』　更埴市教育委員会
東方仁史　2014「文堂古墳出土馬具の検討」『文堂古墳』大手前大学史学研究所研究報告第13集　大手前大学史学研究所
宮田浩之　1992「17号墳から出土した渦巻文杏葉について」『三沢古墳群Ⅱ　三沢土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告７』小郡市文化財調査報告書第79集　小郡市教育委員会
宮田浩之　2020「筑紫平野北部の古墳と馬飼い」『遺跡学研究の地平―吉留秀敏氏追悼論文集―』　吉留秀敏氏追悼論文集刊行会

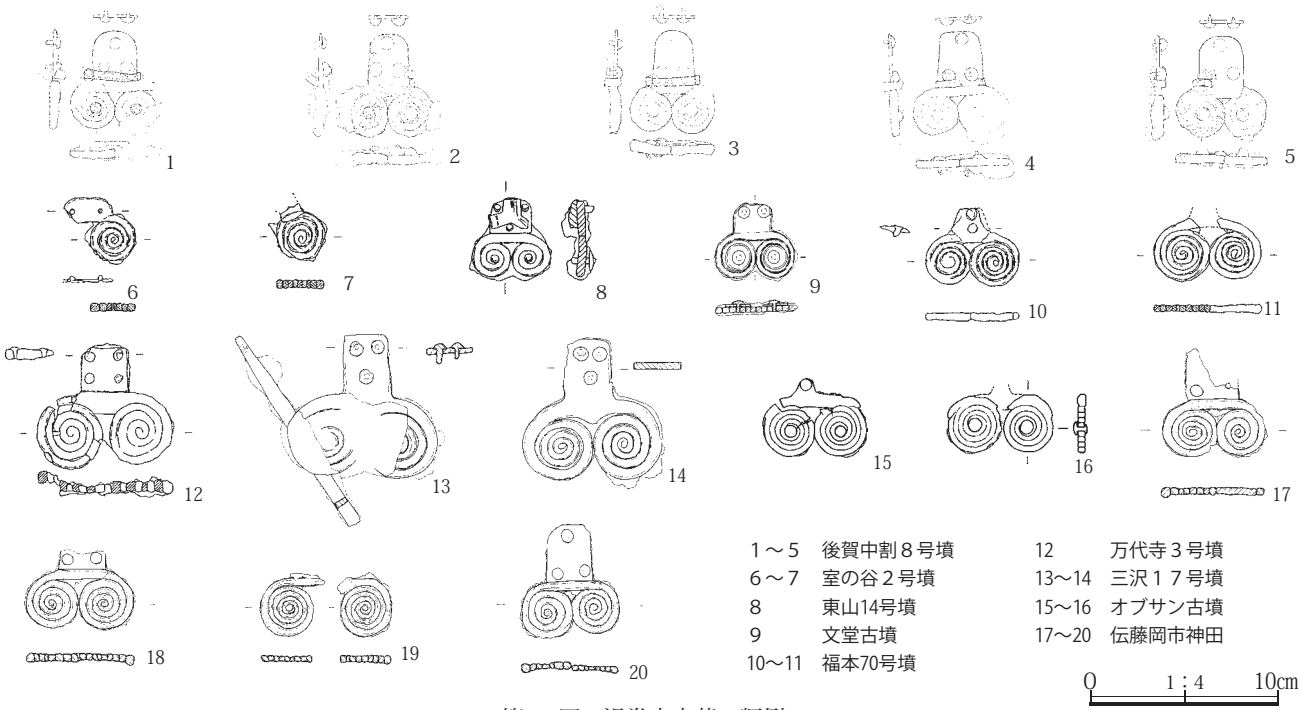
図版典拠

第134図 筆者作成
第135図 下記文献より引用
１～５：本書、６～８・10～12：亀田2014、９：東方2014、13～14・17～20：宮田1992、15～16：桑原・勝又1987
第136図 東京国立博物館提供（資料番号Ｊ-36749）
第137図 滝沢1992を一部改変



1　後賀中割８号墳　　5　音谷１号墳　　9　万燈山古墳　　13　持田17号墳
2　伝藤岡市神田　　6　文堂古墳　　10　三沢17号墳
3　室の谷２号墳　　7　福本70号墳　　11　広川町内古墳
4　東山14号墳　　8　万代寺３号墳　　12　オブサン古墳

第134図　渦巻文杏葉の分布

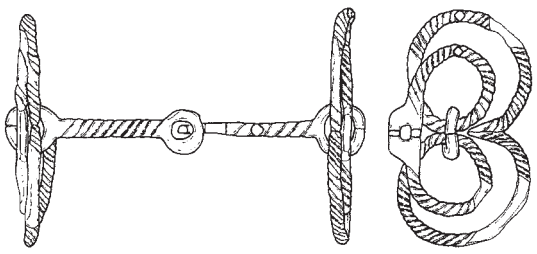


1～5　後賀中割８号墳
6～7　室の谷２号墳
8　東山14号墳
9　文堂古墳
10～11　福本70号墳
12　万代寺３号墳
13～14　三沢１７号墳
15～16　オブサン古墳
17～20　伝藤岡市神田

0　1：4　10cm

第135図　渦巻文杏葉の類例

第136図　伝藤岡市平井出土の複環式鏡板付轡
（Image:TNM Image Archives）



0　1：4　10cm

第137図　長野県高森町上洞３号墳出土の複環式鏡板付轡

後賀中割遺跡８号墳の小札甲と関連資料

公益法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
内山敏行

はじめに（要旨）　後賀中割遺跡８号墳の小札甲を、古墳時代後期末（後期第４段階）に位置づける。胴部小札が縅５孔の小札甲と、縅６孔の小札甲は、古墳後期の小札甲の代表的な二種類である。縅５孔と縅６孔の小札を一定量ずつ混用する後賀中割遺跡８号墳のような小札甲は、この二種類の製作者や生産組織が近い関係だったか、または後期末にその関係が近くなったことを示唆する。群小古墳被葬者が小札甲を入手する機会や経路として、地域の有力首長を介する場合と、近畿中央政権から直接に入手する場合が考えられる。

１．小針鎧塚型の小札甲の変化

群馬県富岡市後賀中割遺跡８号墳の小札甲の型式学的および編年的な位置づけを検討する。「小針鎧塚型」の小札甲（清水1993）の中でも、縅６孔の小札を胴部に使う「小針鎧塚Ａ」の類型（胴部縅３孔×２列円頭形）に含まれる。古墳時代後期の甲冑を４段階に分けると（内山2006）、「小針鎧塚Ｂ」の類型（第138図左上）は後期第２段階、「小針鎧塚Ａ」の類型（第138図中段右）は後期第３段階と第４段階にみられる（註１）。後期第２段階は古墳時代後期中葉と後葉（ＭＴ85−ＴＫ43型式期）、第３段階は後期後葉（ＴＫ43−ＴＫ209型式期）、第４段階は後期末（ＴＫ209型式期）に相当する。

後賀中割遺跡８号墳の小札幅22㎜は、後期第３～第４段階の移行期ころに見られる値である。第２～第４段階の札幅の変化を表１と第138図に示す。後期第２段階には幅が狭い小札（21㎜以下）と広い小札（22㎜以上）の両方が見られる。後期第３段階には狭い小札をほとんど用いなくなる。その後、第４段階には幅22㎜以下に小札幅が縮小してゆき、広い小札が衰退・減少する。

小札の縅孔数とその組み合わせ関係からみると、後賀中割遺跡８号墳の小札甲は後期第４段階と考える。後賀中割遺跡８号墳と同様に、縅６孔小札の他に縅５孔小札も多く含む組み合わせが、群馬県太田市割地山古墳（第138図中段左）・千葉県栄町浅間山古墳（第138図下段）にある。

栄町浅間山古墳の小札甲は、（１）Ω字型裾札がなく平裾札を使うと見られる、（２）頭部が方形に近づいた小札を含む、（３）縅６孔と縅５孔の小札を一定量ずつ使う（前述の割地山・後賀中割遺跡８号墳と共通）、という特徴を持つ。（１）と（２）は、後期第４段階の飛鳥寺型小札甲（清水1993，内山1992b，初村2015）から影響を受けた可能性がある。（３）と関係して、割地山古墳の草摺札の第３縅孔も飛鳥寺型の影響と指摘されている（横須賀2017，p.25）。

栄町浅間山古墳の小札甲は、後期第４段階より後の終末期初頭まで下がるかもしれない（横須賀2017）。一方で、浅間山に幅23～26㎜の広い札も多いことは第３段階に近い特徴なので、後期第４段階におさめる考え方もできる。飛鳥寺型と小針鎧塚型は別系統であるが、腰札幅を比較すると、後期第４段階の飛鳥寺出土腰札は上幅23㎜・下幅20㎜、栄町浅間山の腰札は幅23～25㎜、後賀中割８号墳は幅22㎜である。

２．小札幅・孔配置と縅紐の関係

後賀中割遺跡８号墳の小札甲は、革紐を用いた縅かもしれない痕跡がわずかに認められただけで、縅紐の材質や縅法が不明確である。綴紐、裾札下縁覆輪、下搦紐の状況や材質も不詳で、わずかに革紐下搦かもしれない痕跡がみられた。

不明な点が多い後賀中割遺跡８号墳の連結を考える参考事例を第139図に示す。縅法の分類は、清水（1993）などによる。胴部は縅６孔で、革紐縅の場合でも組紐縅でも、法皇塚古墳（縅紐２条／列）や小針鎧塚Ａ（縅紐１条／列）のような各段縅ｂ類にする。草摺部は縅４孔で、革縅の場合には法皇塚古墳や金鈴塚古墳のような綴付縅が多いが、各段縅ａ類もある（富木車塚型）。組紐縅の場合は小針鎧塚古墳の甲Ａ・Ｂの草摺のように各段縅ａ類にする。

縅５孔の札は、金鈴塚古墳胴部（革紐縅）や割地山古墳草摺部（組紐縅）のような各段縅ｂ類になる。後賀中割遺跡８号墳は縅５孔の札の使用部位が不明確だが、縅４孔の札や草摺裾札と同じ長さ70㎜なので、縅４孔と縅５孔を草摺に使ったのかもしれない。

各段縅ａ類には組紐を使うことが多い。組んだ紐の隙

間に紐を刺し貫いて固定する作業は、革紐よりも組紐のほうが通しやすく、やり直しも容易である。綴付縅に革紐が多い(組紐は少ない)理由は、上下段の距離に合わせて紐に印をつけて穿孔する作業が組紐より革紐で行ないやすいことと、古墳中期の天狗山型小札甲からの伝統によると考える。

次に、小札幅と縅紐の関係に触れておく(表１)。

古墳中期末葉～後期前葉には、狭く小さい小札を組紐で縅す小札甲が、上位の甲であった可能性がある(内山2019a，p.451)。組紐縅が増えてくる過渡期の古墳中期第７～後期第１段階に、革紐縅の小札甲は大形の札、組紐縅の小札甲は小形の札を使う傾向がある。紐製作に手間がかかる組紐で縅す甲は、小さくて狭い札をたくさん製作・連結する手間もかけている。

後期第２段階でも、幅の狭い小札を使う甲は組紐縅が多い傾向がある(表１上段)。後期第３段階(表１中段)に札幅が広くなると革縅が増えるので、(１)製作手間を省いた下位ランクの甲を量産したか、(２)札幅によるランク分けが衰退したと評価できる。後期第４段階に向けて札幅が再び狭くなる変化は、丁寧な製品に回帰する現象でもあり、同時期の縅孔１列小札甲が広い札(後期第３段階・藤ノ木型)から狭い札(後期第４段階・飛鳥寺型)へ変化することに習った現象でもある。

３．縅６孔の胴部小札と縅５孔の小札

古墳時代後期の小札甲が最も多く分布する東日本では、縅５孔の胴部小札を使う富木車塚型・金鈴塚型(清水1993)と、縅６孔の胴部小札を使う小針鎧塚Ａの類型に、分布地域の差がある。富木車塚型・金鈴塚型は、東海道沿いの静岡県静岡市賤機山古墳や神奈川県南足柄市塚田３号墳から、関東地方東部の千葉・茨城に多い(内山2019ｂ，pp.65，68；田邊2020，p.25)。小針鎧塚Ａの類型が北関東西部の群馬・栃木・埼玉に多いことと対比できる。ただし、分布の差は量的で、排他的ではない。群馬・栃木でも伊勢崎市古城稲荷山古墳(東京国立博物館所蔵品)や下野市御鷲山古墳にも縅５孔の札があり、千葉県北部の城山１号墳・法皇塚古墳にも縅６孔の札がある。

縅６孔の札に加えて一定量の縅５孔札を混用する後賀中割８号墳などの事例は、(１)同一か近い関係の工人や集団が縅５孔と６孔を作りわけたか、または(２)縅５孔と縅６孔の工人や集団が後期第４段階に交流・統合した状況を示唆する。縅５孔の小札を製作集団に対応させる意見も提出されている(田邊2020，p.28)。

縅５孔と６孔が製作者の違いに対応する場合でも、相互に情報や技術を共有・交流していた可能性が高い。縅５孔と６孔に共通して札幅の変化を追跡できることも理由の一つである。また、縅紐の通しかたを基準に、小札の縅５孔と６孔のグループを横断する３系列を、古墳後期後半の小札甲に認定できる(横須賀2017，pp.23-25)。孔配置は小札の設計・製作に関わる製作者の関係、縅法は小札の連結に関わる製作者の関係を示しているかもしれない。

縅６孔の胴部札の他に、縅５孔札も多く使う後賀中割遺跡８号・割地山・栄町浅間山古墳のような小札甲を検討するには、縅５孔札を使う部位を明らかにする必要がある。縅５孔札を小札甲の草摺部分に使ったとみる群馬県割地山古墳での推定は(谷津・坂庭2000，p.23)、後賀中割遺跡８号墳や栄町浅間山古墳にも適用できるのだろうか？各小札の使用部位を推定できる事例を確認してゆく必要がある。

４．小札甲を出土する群集墳と首長墳

群馬県域と、それに隣接する栃木県域西部・埼玉県域北西部では、小札甲が群集墳の中・小古墳(群小墳)から出土する事例がある(谷畑ほか2016)。群馬県域では伊勢崎市蟹沼東古墳群や高崎市山名原口古墳群が代表的である。後賀中割遺跡８号墳も、墳径17～18ｍの群小墳である。古墳後期の小札甲は、有力古墳から出土する場合のほうが一般的である。

群小墳の被葬者が小札甲を入手する機会あるいは経路に、その地域の有力首長が介在したことがわかる事例を示す。高崎市若田坂上古墳群(山本ほか2021)では、群集墳中の墳径10ｍの円墳である４号墳の小札が、同じ地域の最有力首長墳である八幡観音塚古墳(内山1992a)の２号甲と同種である(第140図)。古墳後期第４段階の飛鳥寺型(清水1993)のうちでも、札幅が非常に幅広い特徴的な小札甲で、軍事的役割を示す外観を実用性よりも重視した特殊品である。この事例は、武器を伴って群集墳に埋葬された人々を、中央政権が直接的に軍事編制したの

ではなくて、地方首長を介して編制した状況を示唆する。

後賀中割遺跡８号墳の被葬者が小札甲を入手する機会も、同様の背景がありえる。西毛地域や富岡地域の有力首長と同じ機会に後賀中割の被葬者が小札甲を入手し、または有力首長が入手した複数の小札甲を地域内で二次的に分配する状況である。もちろん、後賀中割遺跡８号墳の場合に、被葬者が近畿中央政権から直接に小札甲を入手した可能性を否定するわけではない。

(註１)福島県山崎横穴墓の事例から、胴部縅孔４個の小針鎧塚Ｂ類型が後期３段階以後に少数残る可能性がある(横須賀2011，2017)。他の事例が増加すれば、検討する必要があろう。

〔**参考文献**〕　遺跡名がわかりにくい場合は末尾()に示す

石渕保　1993「諏訪神社古墳」藤岡市史編さん委員会編『藤岡市史』資料編　原始・古代・中世　藤岡市，pp.219-222

上田舒・森浩一・藤原光輝・秋山進午・宇田川誠一　1960『富木車塚古墳』大阪市立美術館学報第三　大阪，pp.26-28

臼井洋輔　1981『岡山の甲冑』山陽カラーシリーズ30　山陽新聞社岡山(八幡大塚)

内山敏行　1992a「挂甲と付属具」・「挂甲と付属具について」，『観音塚古墳調査報告書』高崎市教育委員会，pp.79-90，130-135

内山敏行　1992b「古墳時代後期の朝鮮半島系冑」『研究紀要』第１号栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　国分寺，pp.143-165（永明寺・飛鳥寺）

内山敏行　2006「古墳時代後期の甲冑」『古代武器研究』第７号　古代武器研究会　彦根，pp.19-28

内山敏行　2004「第４節　古墳時代　２遺物　(11)武具」『千葉県の歴史』資料編　考古４　千葉県発行，pp.832-843（城山１号）

内山敏行　2019ａ「金井東裏遺跡の甲冑と関連資料」『金井東裏遺跡古墳時代編』理学分析編・考察編　群馬県埋蔵文化財調査事業団　渋川，pp.451-456

内山敏行　2019ｂ「大刀・甲冑・馬具からみた関東と東海東部の首長墓」『賤機山古墳と東国首長』季刊考古学別冊30　雄山閣　東京，pp.65-78（賤機山）

内山敏行　2020「第７節　小札・衝角付冑」『千葉県木更津市　金鈴塚古墳出土品再整理報告書』第１分冊　木更津市教育委員会，pp.283-311

内山敏行・穴沢咏光　2002「伝愛媛県川上神社古墳出土甲冑の検討」『遺跡』第39号　松前(愛媛県伊予郡)，pp.117-130

岡本健一編　1997『将軍山古墳　史跡埼玉古墳群整備事業報告書』確認調査編・付編　埼玉県教育委員会　浦和，pp.48-49，110-114

小野山節・都出比呂志・黒川冨美子編　1968『京都大学文学部博物館考古学資料目録　第２部　日本歴史時代』京都大学文学部，pp.93-94（太秦天塚）

折原覚ほか　2017『永明寺古墳』羽生市文化財調査報告書第５集　羽生市教育委員会，pp. 47-51，79-81

斎藤優　1970『若狭上中町の古墳』上中町教育委員会(福井県上中郡)，p.42，47図(丸山塚)

清水和明　1993「挂甲-製作技法の変遷からみた挂甲の生産-」『甲冑出土古墳にみる武器・武具の変遷』第33回埋蔵文化財研究集会　宮崎，pp.13-27

志村哲　1993「小札」『平井地区１号古墳』範囲確認調査報告書Ⅷ　藤岡市教育委員会，pp.33-38

白井久美子　2002「鉄製小札」『印旛郡栄町浅間山古墳発掘調査報告書』千葉県史編さん資料　千葉県，pp.77-104

白井久美子・山口典子編　2002『千葉県古墳時代関係資料』千葉県，第１分冊pp.45-49，第２分冊pp.29-34，第３分冊図版11・12・36（祇園大塚山鉄製小札・鶴巻塚）

白井久美子・内山敏行　2017「法皇塚古墳の小札甲」『市史研究　いちかわ』第８号　市川，pp.69-98

末永雅雄　1934『日本上代の甲冑』岡書院　東京，pp.44，104，108-110，298-299，第47図，図版33，37，42（小見真観寺）

鈴木裕芳・片平雅俊　1987『赤羽横穴墓群-Ｂ支丘１号墓の調査-』日立市教育委員会，pp.39-42

高橋克壽　1993「第４節　出土遺物　Ⅱ．武具」『滋賀県野洲郡野洲町　宮山一号墳調査報告書』野洲町教育委員会，pp.27-33

田代隆・小森哲也　1984「横塚古墳」『石橋町史』第一巻　史料編(上)石橋町(栃木県下都賀郡)，pp.56-108

田邊凌基　2020「古墳時代後期の小札甲にみる地域性-縅孔２列５孔型小札の導入の様相-」『遡航』第38号　東京，pp.21-30

谷畑美帆・中村享史・内山敏行　2016「四十八塚古墳群に埋葬された被葬者を考察する」『研究紀要』第24号　とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター　下野，pp.81-97

塚本敏夫・上田直美・杉本和江・川本浩三　1994「挂甲について」『団子塚九号墳出土遺物保存処理報告書』袋井市教育委員会，pp.73-112

塚本敏夫・中村新之介　2015「第186号墳　小札甲」『信濃大室積石塚古墳群の研究』Ⅳ　明治大学文学部考古学研究室　東京，報告篇pp.101-105

徳江秀夫編　1999『綿貫観音山古墳Ⅱ　石室・遺物編』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　北橘，pp.115-164，325-328

中束彰子　1982「鉄製挂甲札」『金冠塚(山王二子山)古墳調査概報』前橋市教育委員会，pp.11-12

初村武寛　2015「東大寺金堂鎮壇具挂甲残闕を再考する」『国宝　東大寺金堂鎮壇具　保存修理調査報告書』東大寺　奈良，pp.263-272（飛鳥寺）

初村武寛　2018ａ「奈良国立博物館蔵　大和二塚古墳・珠城山三号墳出土遺物の調査」『鹿園雑集』20　奈良，pp.51-71

初村武寛　2018ｂ「小札式甲冑の研究史と導入・展開期の諸様相」『古代武器研究』Ⅴｏｌ．14　山口，pp.47-76

船山政志・塚田良道　1991「小針鎧塚古墳の挂甲」『行田市郷土博物館研究報告』第２集，pp．１-30

松本友之　1971「挂甲小札」『いわき市史　別巻　中田装飾横穴』いわき市発行，pp.153-161

谷津浩司・坂庭秀紀　2000「東矢島古墳群(割地山古墳)」『市内遺跡』Ⅻ太田市教育委員会，pp．３-48

山田琴子　2012「益子天王塚古墳出土遺物の調査　（５）-挂甲-」『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』13　東京，pp.135-149

山ノ井清人・水沼良浩　1992「御鷲山古墳」『南河内町史』資料編１考古　南河内町(栃木県河内郡)，pp.461-493

山本ジェームズ・大野義人　2021『若田坂上遺跡』高崎市文化財調査報告書第457集　高崎市教育委員会，pp.55-56

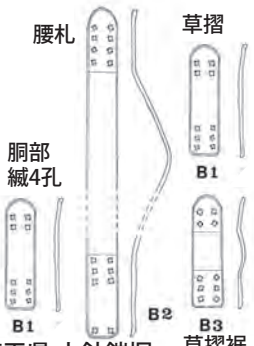
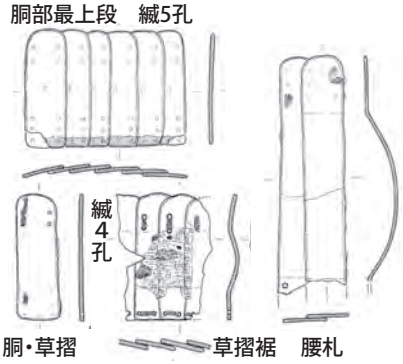
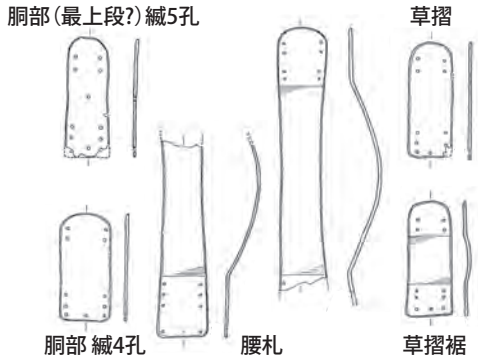
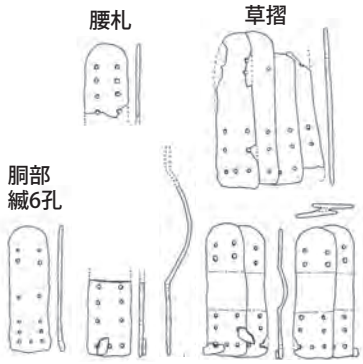
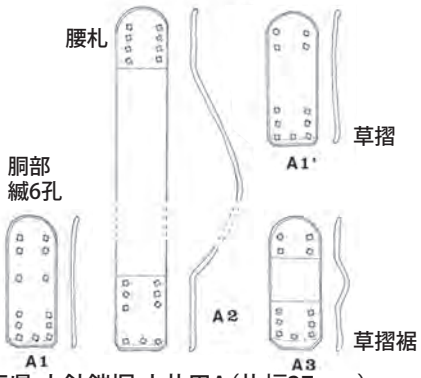
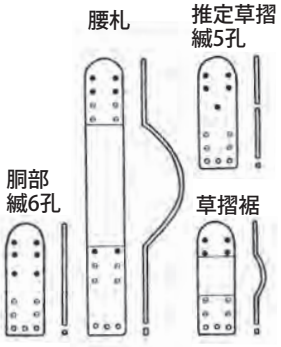
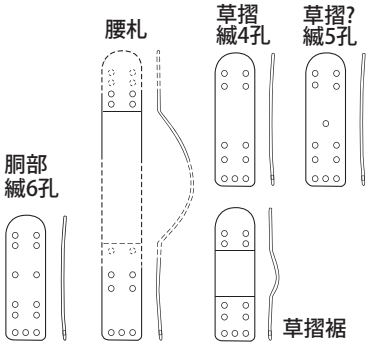
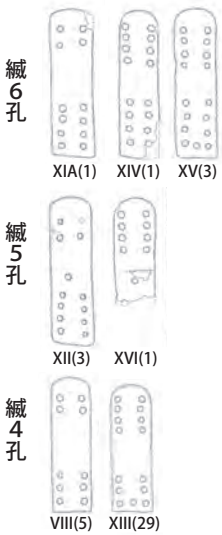
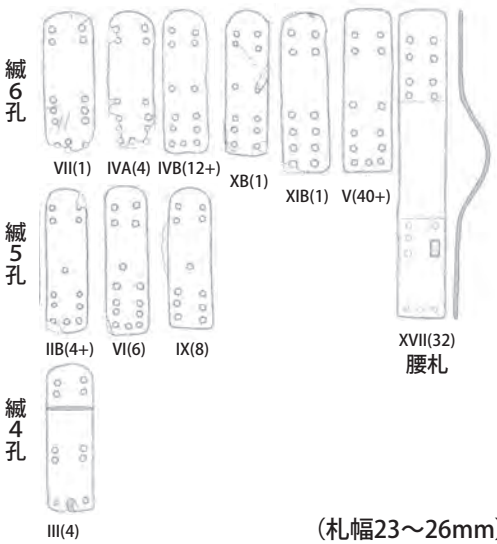
横須賀倫達ほか1998『常陸日天月天塚古墳』茨城大学人文学部考古学研究報告第２冊　水戸，pp.57-81，pp.134-138

横須賀倫達　2011「山崎横穴古墳群出土小札甲の調査と研究」『福島県立博物館紀要』第25号　会津若松，pp．３-23

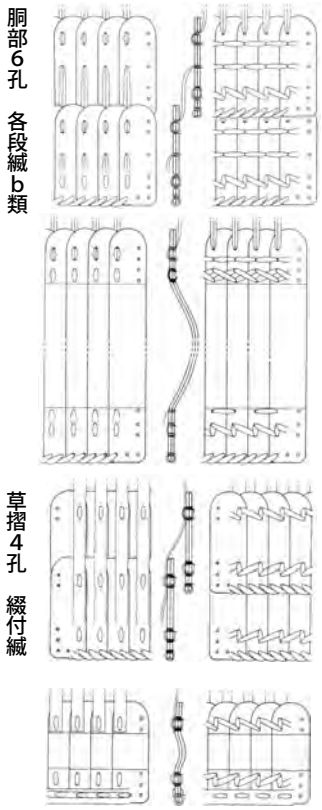
横須賀倫通　2017「双葉町清戸廹８号横穴出土遺物の研究Ⅰ-小札甲-」『福島考古』第58号　福島，pp．９-28

〔**参考文献**〕**(韓国文)**題名は日本語に翻訳

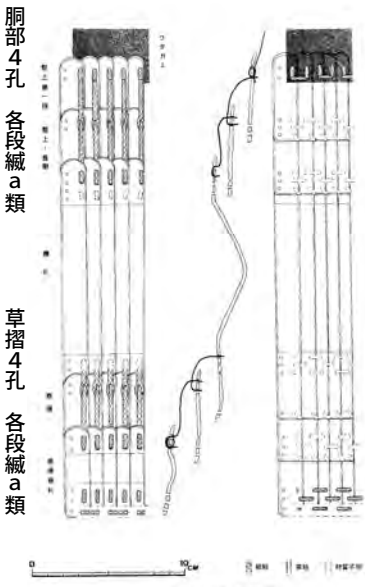
李建龍　2020「甲冑を通して見た長鼓墳の性格」馬韓研究院編『長鼓墳の被葬者と築造背景』馬韓研究院叢書８　学研文化社　ソウル，pp.287-298（新徳１号墳）

	札幅16～21mm	札幅22mm	札幅23～29mm
後期第２段階	 埼玉県 小針鎧塚 小札甲B（札幅17mm）	 埼玉県 将軍山 小札甲A	 滋賀県 宮山1号墳（札幅28～29mm）
後期第３段階	幅21mm以下の狭い札 は使用しなくなる （→札幅が広い段階）	 栃木県 石橋横塚	 埼玉県 小針鎧塚 小札甲A（札幅27mm）
後期第４段階	 群馬県 割地山（札幅20mm）	 群馬県 後賀中割8号墳	幅23mm以上の札が衰退・減少して、 幅21mm以下の札が再び現れる （後期第3→第4段階に、札幅が狭くなってゆく）
千葉県栄町浅間山古墳（後期第４段階?）	 I(102+)は 小札I類(102枚よりも多数) の意味。他も同様。 （札幅19～21mm）		 （札幅23～26mm）

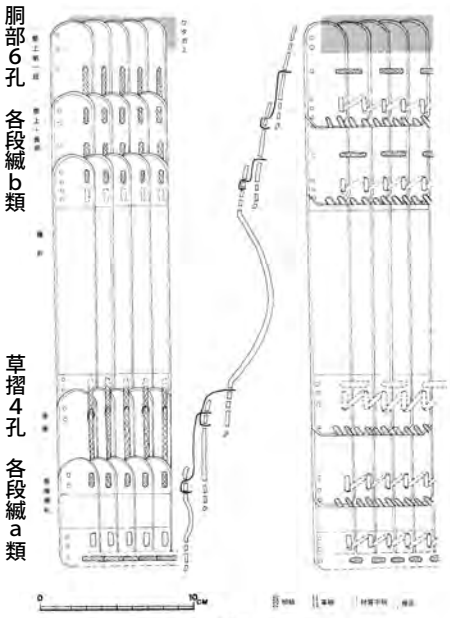
第138図　小針鎧塚型小札甲および関連資料の変遷と札幅



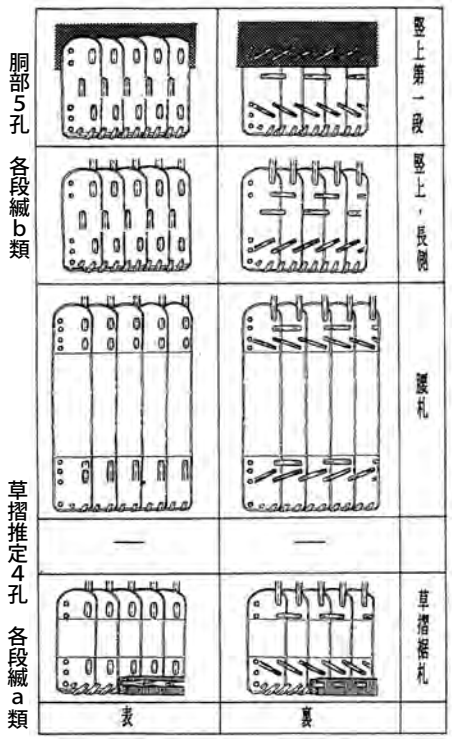
小針鎧塚型(小針鎧塚A類型)
の変種　革紐縅
千葉県法皇塚古墳(内山2004)



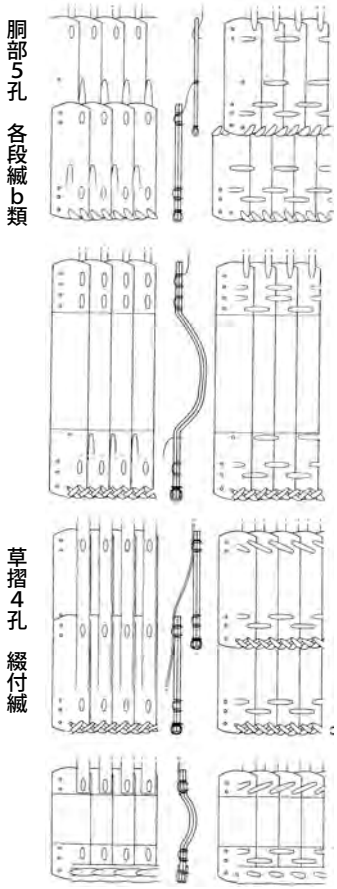
小針鎧塚型(小針鎧塚B類型)　組紐縅
埼玉県小針鎧塚古墳　甲B
(船山・塚田1991)



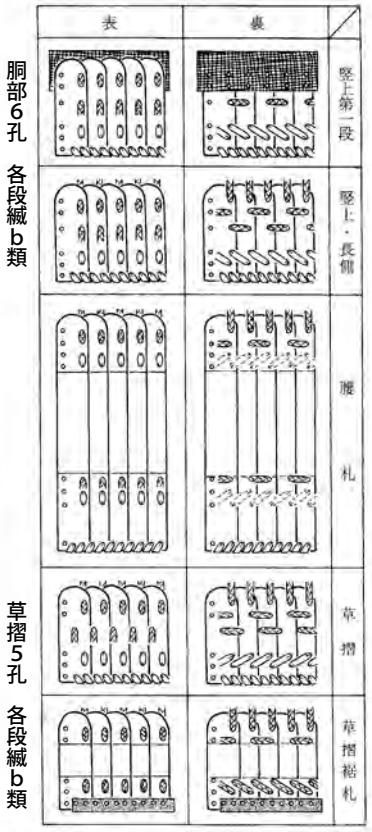
小針鎧塚型(小針鎧塚A類型)　組紐縅
埼玉県小針鎧塚古墳　甲A
(船山・塚田1991)



富木車塚型　革紐縅
大阪府富木車塚古墳(清水1993)

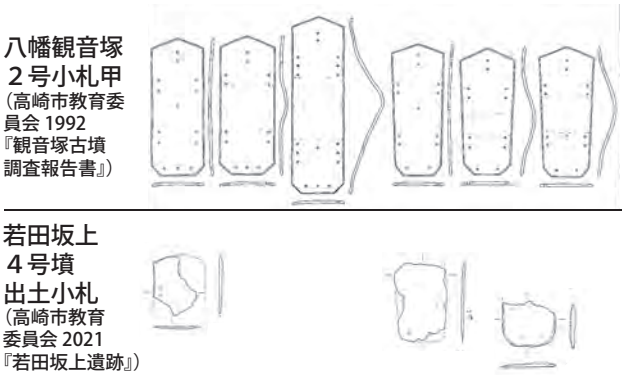


金鈴塚型　革紐縅
千葉県金鈴塚古墳(内山2004)



小針鎧塚型(小針鎧塚A類型)
の変種　組紐縅
群馬県割地山古墳(谷津・坂庭2000)

第139図　小札縅法の関連資料　胴部各段縅2列円頭系　小針鎧塚型・富木車塚型・金鈴塚型



第140図　八幡観音塚古墳と若田坂上４号墳の小札

表１　縅４・５・６孔の小札甲の札幅（各段縅２列円頭形　小針鎧塚型・富木車塚型・金鈴塚型）

小札の幅(mm)→		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	縅紐	材質	
後期第2段階　小針鎧塚型（胴部縅4孔　小針鎧塚Bの類型）																組紐	革紐	
静岡	団子塚9号																○	
群馬	綿貫観音山 甲A															○		下搦2孔
埼玉	将軍山 甲A															○		最上段に縅5孔の札
福井	丸山塚		胴･腰	草	草	草										○		
埼玉	永明寺			胴･草	腰											○		最上段に縅6孔の札
埼玉	小針鎧塚 甲B															○		下搦2孔
京都	太秦天塚															○		下搦2孔
後期第2段階　縅5孔（少数）+縅4孔（多数）																		
滋賀	野洲宮山1号									草				腰	胴?			縅5孔の札は少数
後期第2段階　縅2列5孔+縅1列2孔																		
全南	新徳1号									裾							○	縅1列･2列併用?

後期第3段階　小針鎧塚型（胴部縅6孔　小針鎧塚Aの類型）																		
岡山	八幡大塚2号															○		縅6孔は上端 下段は革
福島	清戸廹8号横穴											腰	竪上	裾			○	縅6孔は上端 下段は革
埼玉	小針鎧塚 甲A															○		
群馬	平井地区1号															(○)		
千葉	城山1号									腰	腰	腰					○	縅5孔の札も少数有
長野	大室186号							胴草	胴			腰					○	鉄札と革札を併用
福島	中田横穴																○	
千葉	法皇塚																○	縅5孔の札も6枚有
埼玉	将軍山 甲B																○	
栃木	石橋横塚															○		
後期第3段階　富木車塚型（胴部縅5孔）・金鈴塚型（胴部と腰札縅5孔）																		
千葉	鶴巻塚																○	
大阪	富木車塚							裾		腰	竪上						○	鉄札と革札を併用か
茨城	赤羽B1号横穴																	
静岡	賤機山																○	下搦3孔多･2孔少数
栃木	益子天王塚								腰	腰							○	縅5孔の札は24枚
千葉	上総金鈴塚																○	
奈良	珠城山3号																○	縅5孔は上端 下段は革
群馬	古城稲荷山															○		
茨城	日天月天塚																○	
後期第3段階の富木車塚型（胴部縅5孔）が中期古墳の遺物に混入?																		
千葉	祇園大塚山鉄札																○	革紐縅で組紐片も付着

後期第4段階　小針鎧塚型（胴部縅6孔　小針鎧塚Aの類型）																		
愛媛	伝川上神社																○	下搦2孔
埼玉	小見真観寺									裾?						(○)	○	下搦2孔と3孔有
群馬	山王金冠塚															○		下搦2孔と3孔有
後期第4段階　縅6孔と縅5孔を併用																		
千葉	栄町浅間山（竜角寺111号）				IIA 草?	I 草?	I 草?	IV 胴?	IV 胴?	XVII 腰	V･XVII 胴?･腰						○	下搦2孔と3孔有 5孔の札は6孔の8割
群馬	後賀中割8号																(○)	5孔の札は6孔の4割
群馬	割地山															○		5孔の札は6孔の8割
後期第4段階　富木車塚型or金鈴塚型（胴部縅5孔）																		
栃木	御鷲山																	偏円頭札は下搦2孔
後期第4段階　胴部縅6孔か5孔か不詳																		
群馬	藤岡諏訪神社																	下搦2孔

後賀中割遺跡７号墳調査の意義

群馬県立歴史博物館特別館長　右島和夫

はじめに

一辺が約24.5mと比較的大型の方墳・後賀中割遺跡７号墳(以下では､断りのない限り「７号墳」と略称する)は、調査前においては、全くと言ってよいほど、存在を予期していなかった古墳で、今回の発掘調査によって初めて確認されたと言うのが当を得ている。その場合、２段築成の墳丘第１段上面から出土した土師器高杯が、現在の土師器研究の趨勢に照らすならば、５世紀第２四半期ないし中葉、すなわち陶邑須恵器編年のTK208型式に併行する時期の所産と考えて大過ないとの土師器研究者からの教示を得ている。このことは、本墳の墳丘第１段、第２段の斜面部に施された葺石の築成法・構造的特徴や副次的埋葬施設の可能性が考えられる中心寄りの土壙から出土した刀子形石製模造品の形態的特徴とも矛盾するものではない。

ところで、本墳の場合、５世紀に属する比較的整美な方墳である点が大いに注目される。この時期の方墳という墳丘形式が、当該期の古墳総体の中では、主体的位置を占めていないこと、さらには、非常に限られた存在であるからである。それでは、７号墳の場合、いかなる背景の中でこの墳丘形式が採用されたのかを考えていく必要がある。

その解決法として、一つには、当古墳を取り巻く周辺地域一帯の同時期の考古学的動向を見ていく必要があるだろう。同様に上毛野地域総体の時期的動向とも照らし合わせて見る必要がある。さらには、列島における５世紀に属する方墳の存在形態との関係性如何も重要になってくるだろう。結論からのべるならば､本墳については、当地域における馬生産開始の問題と深く関わっている可能性が見え隠れしてくるところである。その場合、特に渡来系の被葬者像が想定されてくるところである。ただし、後述するように、「５世紀方墳」イコール「渡来系」とは必ずしも言い切れない。この時期の方墳(方形原理)の根底にはいかなる規定要因が存在したのだろうか。

ところで、筆者は以前、本墳の発掘調査を担当した群馬県埋蔵文化財調査事業団に、調査担当職員として長く勤務していた際、平成元年・２年・４・５年度の長期間にわたり本墳と鏑川を挟んだ南側に当たる旧甘楽郡新屋村地区(現甘楽郡甘楽町)に所在する白倉下原・天引向原遺跡の発掘調査･整理担当として従事する機会があった。この４年間は、当地域一帯の古墳時代の特徴的な地域相への強い関心を持つ機会となった。そのこともあって、７号墳発見・調査の知らせを受けた時、本墳の周辺一帯が、これまでの甘楽町教育委員会、富岡市教育委員会、群馬県埋蔵文化財調査事業団等による考古学的調査成果の集積を踏まえると、馬生産開始の先駆的な地域の一つである可能性を考えてきていたところである。そして本墳が、その真っ只中に関わる調査地区に当たっていることが思い浮かんだところである。その意味では、今回の７号墳の発見・調査は、より具体的に馬生産開始の先駆的状況に具体的道筋を与えてくれる可能性を内包されていることが想起されたところである。

１．後賀中割遺跡７号墳の基礎的検討

当古墳の調査の情報を教えてもらい、はじめて古墳を見たとき、墳丘上半部を後世に失っていること、中心的主体部を失っている可能性が強いこと等、古墳の具体的評価を定めていくための基本的情報が、非常に乏しいことが、調査担当者ともども悩ませるところであった。それでも整美な比較的大型の２段築成の方墳であることは、当該地域で占めた位置が非常に大きかったことを物語るものであった。

その後、調査が進む中で、第１段の平坦面直上から土師器高杯が出土したり､墳丘調査が大きく進展する中で、葺石の施工法に顕著な特徴が見いだせるところとなり、５世紀の所産として間違いないことが確信されるようになってきた。

墳丘の形状と規模　墳丘は方位にほぼ軸線を合わせている。調査区の範囲との関係で、辺全体が検出できたところはなく、墳丘の辺長は、南辺裾と北辺裾から測りだしたものである。

葺石の構造的特徴　葺石は、遺存状態が良好な第１段に施されたものが、ほぼ完存していたため、特徴が明瞭に把握できた。

基本的には、根石部分に他の葺石石材と差異性が明確にわかるほどの大ぶりの石を設置するところから開始し

ている。すなわち根石列を全周させるところから葺石施工は開始しているわけである。次に、３m前後の距離を空けて縦に目地が通るように重箱積みに積み上げる。これは、コーナー部の斜辺部についても同様に積み上げられている。これにより縦長の長方形区画が連なることになる。次にその区画内を充填するように積み上げていくのであるが、その場合も場所によって精粗の差異性がよくわかる。区画内が充填され終わると、葺石の最上端面には、最上部を揃えることを意識して比較的整然と配置される。

なお、第１段葺石根石の設置箇所は、周堀の墳丘側底面の位置であり、そこまで葺石上端部から連続的に続いている。周堀内側底面が墳丘の輪郭として意識されていたことがわかる。

ところで、第１段について各辺の葺石の施工状態を比較検討してみると、南側部分が最も丁寧に、整然と仕上げていることは明瞭である。次には、東側部分であり、北側部分が最も乱雑な感は免れない。このことは、墳丘全体の中で、南側部分について、その南側からの視覚を意識したものであったことが考えられるところであり、正面観としての位置づけがなされていたことがわかる。

このことは、古墳の南側を流れる鏑川の段丘面の河岸縁辺部を意識して墳丘占地がなされていたこと、対岸からの視覚、あるいは古墳の位置から見下ろすように展開する対岸の平坦地を視覚に入れる意識があったのではないだろうか。このことは、後述するように、対岸の７号墳と同時期の遺跡展開状況が直接的に関係している可能性がある。

第２段の葺石は、残る部分がわずかであるため、その精粗を判断できるほどの遺存状態ではない。強いて言うならば､第１段ほど整然としていなかった可能性がある。

周堀の状況と墳丘構造　周堀の規模が墳丘の高さを反映している可能性は高い。その高さは、検出状況より増すことは明らかだが、第２段の高さを第１段以上に想定することはできないだろう。周堀の幅が、約２m前後とさほど大きくないからである｡現状では２段構造であるが、当初も高さは現状より高いものの、比較的低平な墳丘であったことが推測される｡確認された墳丘は､後世に徐々に削平されていった結果と考えられるが、元々それほど高い墳丘を備えていなかったため、周囲から区分出来るほどの高塚墳ではない。低墳丘の方墳であったと考えられる。

主体部　主体部は未確認である。墳丘の中心寄りから15号土坑とされ、調査時には、古墳に直接帰属しないものと位置づけられたが、そこから出土した刀子形石製模造品は、時期的には古墳と矛盾しない。ただし、墳丘にくらべあまりにも貧相な構造なので、これを中心的な埋葬施設とするには躊躇せざるを得ない。

２．後賀中割遺跡の周辺の遺跡動向

前述したように、７号墳の占地箇所は、鏑川を挟んだ対岸に展開する部分を意識している可能性が強い。具体的に該当部分における遺跡の存在形態を見てみよう。

西大山遺跡　７号墳の上に立って､南側少し見下ろすと、鏑川が西から東へと流れている。その対岸のすぐ南西側には、５世紀後半を中心とした低墳丘の円墳から構成される、いわゆる初期群集墳が確認されている。道路建設予定地で確認された円墳４基（１号～４号墳）が知られるところとなった。そのうちの１号墳は、径約11.5mの小型円墳であり、周堀幅１m前後である。主体部は明らかでないが、周堀内に川原石で覆われた土壙墓と思われるものが確認されている。また、これとは別に、周堀内から、鉄製の鑣轡が出土している。これは、韓国の忠清北道清州市の新鳳洞古墳群（百済地域に属する）からよく似たものが出土しており､５世紀前半の所産とされている。埴輪樹立がなされており、その埴輪の特徴とも併せ、５世紀第２四半期ないし中葉と考えた７号墳に近い時期としてよいだろう。

なお、東京国立博物館に充実した副葬品セット（鋳銅製三鈴杏葉､各種玉類､各種石製模造品､大刀､提砥ほか）が収蔵されている５世紀後半の大山鬼塚古墳は、西大山遺跡のすぐ隣接地に所在していたことが知られており、そこから出土した舟形石棺が地権者のお宅に運び込まれている。西大山遺跡と一体の古墳で､その最有力古墳（舟形石棺を有する古墳は限られており、帆立貝式か大型円墳）であると考えられる。

ところで、この鑣轡の周堀内という出土位置は何を物語るのだろうか。馬に装着した状態で周堀内に埋葬される事例が、長野県飯田市の天竜川右岸の段丘面に所在する５世紀を中心とした初期群集墳で確認されている。飯

田市の付近一帯は、５世紀に入り突如として馬生産が活発に開始される地域であり、そのこととの関係の中で理解できる存在形態である。西大山１号墳の事例も、その観点から評価することが可能である。

甘楽条里遺跡　本稿で本文の後に付した図版の「１」に掲げたものは、甘楽条里遺跡を南から俯瞰したものである。その奥に左右に流れているのが鏑川であり、そのすぐ対岸が７号墳の位置であり、その手前左が西大山遺跡の古墳群の位置である。

甘楽条里遺跡と称している遺跡群は、濃密な分布を示す集落遺跡を中心としている。集落跡の所在地は、鏑川の第１段の段丘面から南に奥まった第２段丘面寄りの地点である。そこで、５世紀前半以降顕著な展開を見せる集落が確認されており、西大山遺跡の古墳群に対応する可能性がある。早くに調査され、大量の遺物を出土した笹遺跡は、この甘楽条里遺跡を構成する集落遺跡の一つと考えてよいだろう。

ところで、「甘楽条里」という遺跡名称は、鏑川寄りの平坦地に現在水田が広く認められるが、その水田の区割りが条里制地割りに則っているため付された名称である。この部分に対して、土地改良事業に伴って調査されたのが甘楽条里遺跡であり、この川寄りの広大な平坦面は、遺構が極めて希薄であり、水田化されたのも、その大半は古墳時代までさかのぼらないことが確認されている。このことは、近年、群馬県埋蔵文化財調査事業団が、国道254号バイパスの建設工事に伴って、この中心部分を東西に横切るように発掘調査したが、結果はやはり非常に希薄であることが明らかになった。

新屋牧　鏑川右岸のこの地域一帯は、甘楽町になる前は、北甘楽郡新屋村であった。この新屋という地名は、古代甘楽郡新屋郷として登場してくるとともに、古代上野国に設定された官牧として新屋牧があり、それらの有力比定地になっている。これらもろもろのことを併せた時、甘楽条里遺跡として位置づけた遺跡群のうち、鏑川寄りの広大な現在の水田地点こそ新屋牧の中心部分であった可能性が考えられてくるところである。そして、その官牧として設定された地は、それ以前の古墳時代から馬生産の伝統的地域を継承する形で設定されたのではないかと考えられるところである。

これらのことに、後賀中割遺跡７号墳の位置づけが結びつき、この想定される馬生産に関わる一連の流れの中で理解することができるのではないだろうか。

３．５世紀における方墳とその意義

上毛野地域（古墳時代の群馬県地域に近い範囲をこう呼称する）における５世紀を中心とした時期の主な方墳を整理すると、次表（表１）のようになる。最初に述べたように、５世紀に属する方墳は、極めて少数派である。その場合、墳丘形式として主体的に採用されたのは、多い方から順に、円墳、帆立貝式古墳、前方後円墳である。そこには、円形原理の中で主たる墳丘形式が選定されていることは明らかである。以下、当地域の当該期の方墳のいくつかについて具体的に見てみる。

剣崎長瀞西遺跡　古墳群の形成は、５世紀前半から後半にかけての時期になされ、その中核をなすのは、５世紀第２四半期の所産である長瀞西古墳（帆立貝式あるいは造り出し付円墳、径30m）であり、その周囲には、中小の円墳が確認できる。これに対して、群の北東隅寄りに円墳より小型の方墳と方形積石塚が位置しており、両者の間には墳形にとどまらず、占地形態においても明瞭な区分が存在したことがわかる。ところで、古墳群中には、半島系の鉄製鏡板付轡（加耶系譜の可能性）を装着したままの状態の埋葬馬が見つかっている。また、方墳の10号墳には、やはり加耶に系譜が求められる金製垂飾付耳飾が伴っていた。

ここから見えてくるのは、新たに馬生産に従事するようになった集団に関わる古墳群としての位置づけである。古墳群が所在する剣崎丘陵の位置から北側の眼下を見渡すと、烏川とその右岸の第１段丘面が見える。こここそ、馬生産に伴う格好の放牧地になるのではないかと考えられる。

方墳の被葬者は、加耶を中心とした朝鮮半島南部の地域からやって来た、馬生産の専門家ではなかったかと考えられるところである。

渋川市東町古墳・坂下町古墳群と高崎市下芝谷ツ古墳

ここで取り上げる古墳は全て５世紀末葉ないし６世紀初頭噴火の榛名山噴火火山灰層（Hr-FA）に覆われていたものである。

東町古墳は、完全に解明できなかった側面もあるが、墳丘上半部の構造的特徴は、高崎市箕郷町下芝谷ツ古墳と酷似している方墳である。すなわち、谷ツ古墳は、２

表１　上野野地域における５世紀代んお主要方墳

古墳名	所在地	墳丘規模(m)		主体部形式	葺石	埴輪	副葬品	その他
		辺長	高さ					
下芝谷ツ	高崎市箕郷町	約20	4.7以上	竪穴式石室	○	○	金銅製飾履・ｆ字形鏡板・剣菱形杏葉ほか	２段築成、上段は積石塚構造
剣崎長瀞西５号	高崎市八幡町	6.6		竪穴式石槨	○	×		
〃　９号	〃	10		〃	○	×	金製垂飾付耳飾	２段築成、
〃　10号	〃	9		〃	○	×		２段築成
〃　11号	〃			〃		×		これら３基は一辺が2.9～1.1m の規模で、石のみ構成
〃　12号	〃			〃		×		
〃　16号	〃			〃		×		
〃　100号	〃	4.2		〃				
倉賀野万福寺２号	高崎市倉賀野町	8.4	墳丘削平	〃	○	○	鉄刀子	近接の墳丘伴わない石槨から鉄鐸
石原坊主山	高崎市石原町	24	墳丘削平	―	○	○		埴輪に人物・馬等
東町	渋川市東町	(5.5)	1以上	竪穴式石槨	○	○	鉄刀子・鏃	２段築成の古墳の上段部分のみの調査
坂下町１号	渋川市坂下町	2.6		竪穴式石槨	×	×		積石塚
２号	〃	3.7		〃	×	×		〃
３号	〃	3		〃	×	×		〃
４号	〃	3		〃	×	×		〃
５号	〃	3.6		〃	×	×		〃
６号	〃	4.9	0.5	〃	○	×		２段築成
岩下清水１号	利根郡昭和村	4以上		―	○	×		両墳とも２段築成、石のみから構成。６世紀前半
〃　２号	〃	5.1	0.7以上	横穴式石室	○	×		
川額軍原２・３・４・５・８・12号集石遺構	利根郡昭和村							底面のみの確認だが、岩下清水２号墳に酷似する構造が推定
後賀中割７号	富岡市後賀	27.8		―	○	×		２段築成

段築成の方墳であり、下段のおよそ半分以下は地山削り出し、上半分は盛土とし、地山削り出し部分から連続的に葺石が施されており、高さ4.2mである。第２段は第１段にくらべると高さは僅かであり、すべて川原石で構成されている積石塚状を呈する。この時期の副葬品としては極めて希少な半島系の金銅製飾履が出土しており、この場合も、方墳が渡来系の被葬者と結びつけられる可能性を示唆している。

東町古墳の所在する榛名山東麓から北東麓にかけての一帯は、これまで見てきた地域と同様、５世紀第２四半期ないし中葉の時期を嚆矢とし、馬生産が組織的・大規模に展開しようとしていた特徴的な様相を示している。そこで確認された方墳の存在は、重要である。

調査時、付近が湧出状態にあったため、墳丘の下半部は未調査である。確認された墳丘第２段と思われる部分は、川原石のみから構成され、１辺約５ｍ、高さ0.75mを測り、その周囲を埴輪列が方形に囲繞していた。その外側に下段の上面縁辺部が位置し、第１段の斜面部へと続いていくことは明らかである。

東町古墳の北側に近接する坂下町古墳群では、密接して６基が検出された。調査区を周囲に広げればまだ数多く確認できることは間違いない。６基の内訳は、２段築成の方墳である６号墳(１辺約4.9m)とこれより小規模で方形に石を寄せ付けた積石塚状を呈するもの５基である。

東町古墳、坂下町古墳群とも、そのすぐ近くが利根川と吾妻川の合流点付近に位置している。ところで、両者が所在する榛名山東～北東麓のHr-FA下から発見される古墳がすべて方墳かと言うと、そうではない。むしろ、逆で、主体はやはり円墳である。同時期の渋川市空沢古

墳群は、すでにHr-FA下から50基以上が密集して確認されているが、その主体をなすのは円墳であり、客体的に方形積石塚状(区画は平面的で、あまり高さを有していない)のものが確認されている。坂下町古墳群の方墳の６号墳以外の５基に近いものである。

方墳成立の背景　以上の見てきたように、上毛野地域西部の地域には、数こそ多くはないが、地域全体に５世紀に属する方墳及び方形積石塚が確認される。現在まで確認されている事例による限り、朝鮮半島との関係性、さらには、馬生産開始の時期との関係性の中で位置づけていくことができそうである。

ところで、最近、群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査し、大冊の報告書を刊行してきた渋川市金井遺跡群(金井東裏・下新田遺跡)は５世紀中葉を前後した時期から、主として馬生産の開始を視野に開発され、定着していった集団に関わる遺跡群であることが明らかになってきた。この遺跡群が５世紀末～６世紀初頭に被った被害は甚大で、被災直後のこの地域の復旧は、基本的には断念されたと考えられる。このことと表裏一体の関係で６世紀初頭ないし前半以降、大規模・組織的に馬生産が開始されてくるのが、吾妻川の対岸の子持山南麓の黒井峯遺跡・白井遺跡群等である。そのような中で、これら遺跡群から利根川を上流に少しさかのぼった河岸で見つかった昭和村の岩下清水１・２号墳、同川額軍原古墳群の小型方墳の存在は注目されるところである。ここで見つかった小型方墳は、時期こそ異なるが坂下町６号墳の墳丘構造に酷似している

利根川上流域に当たる現在の昭和村をはじめとする諸町村及び沼田市域では、古墳時代後期以降、古墳からの馬具・武器の出土頻度が極めて高いことでよく知られており、利根川上流域で馬生産が急速に展開していったことを物語っている。

上記方墳は、５世紀後半を中心とした時期、榛名山東～北東麓における馬生産の技術的基礎を担った渡来系専門技術者の出自系譜に連なることが推測されてくるところである。

おわりに　　－畿内地域における５世紀の方墳－

古墳における方形原理には、もともと様々な側面がある。まず、弥生期の方形周溝墓・台状墓は、古墳時代から見ると、伝統的な墳墓の原理であった。このことからすると、弥生末～古墳前期に大和盆地東南部で新たに誕生した古墳(墳丘墓)が、初期ヤマト王権の成立と表裏一体の関係の中で円形原理を基礎にして創出されたことは重要である。列島内の多くの地域では出雲を除けば、同じ円形原理を受け入れていった流れが重要である。それゆえ、６世紀末葉に東アジアの王陵の影響下に成立した大型方墳の登場とは、異なる流れであることは間違いない。

写真　岩下清水２号墳

これ以降、畿内地域及び影響下にある列島全体においては、方形原理(方墳)は、客体的な存在になっていった。前期の期間中は、地域により命脈をかろうじて保った前方後方墳も基本的には消滅していく道筋を歩んだことがこの間の事情をよく示している。

それゆえ、５世紀に入って築造された方墳については、その古墳の被葬者、あるいは築造した集団の特別な背景を考えていく必要があるだろう。

いわゆる「陪冢」と位置づけられている古墳については、藤田和尊らにより、厳格に定義し、評価していく必要が主張されている。そのような作業を経ることにより、なにゆえに方墳が採用されたのかが見えてくるのだろう。

新沢千塚に近接する枡山古墳(倭彦命墓)や終末期の最

有力墳を除けば、周囲の古墳にくらべて小型(比較的大型の方墳の場合も前方後円墳にくらべると相対的に小型)であるところに特徴がある。そこには、墳形及びその規模によって明確に区別しようという意図が作用していたと考えられないだろうか。

大阪市長原古墳群は、５世紀代に形成された200基以上から構成される古墳群で、その大半は方墳を採用している。これについては、初期群集墳の一形態としてとらえる立場と伝統的な方形墳墓の延長上でとらえ、新たに登場してくる群集墳の類型には含めない立場がある。長原古墳群は、長原遺跡群で見つかっている集落跡と一体の関係の中で見ていくことが可能とされている。その場合、集落跡では韓式系土器の出土頻度が極めて高いことが知られており、５世紀に入り河内平野で新たに展開した様々な産業を担った渡来系集団が想起されてきている。古墳群を構成する方墳には、埴輪を伴うものが多いことも注意される。

この時期に属する比較的大型の方墳の場合、新沢千塚126号墳や五条猫塚古墳をはじめとして、顕著に半島系遺物を伴う事例が注意されるところである。

このように見てくると、５世紀に登場してくる方墳には、厳格に墳丘形式としてシステム化されているわけではないが、主体的である円形原理の古墳に対して、何らかの区分・区別(差別ではない)していくことに意味があったのではないかと考えられる。そのような中で、半島的要素を有している方墳が多いのも注意される。

５世紀の方墳の個々について、存在形態を詳細に検討していくことが、解決につながりそうである。

本稿を草するに当たり、下記の方々をはじめ多くの方々から御教示・支援をいただいた。記して感謝申し上げる次第である(順不動)。

青柳泰介、新井　仁、飯田浩光、諫早直人、亀田修一、小安和順、斉藤利昭、坂口　一、桜岡正信、笹澤泰史、杉山秀宏、高田貫太、徳江秀夫、友廣哲也、土生田純之、深澤敦仁

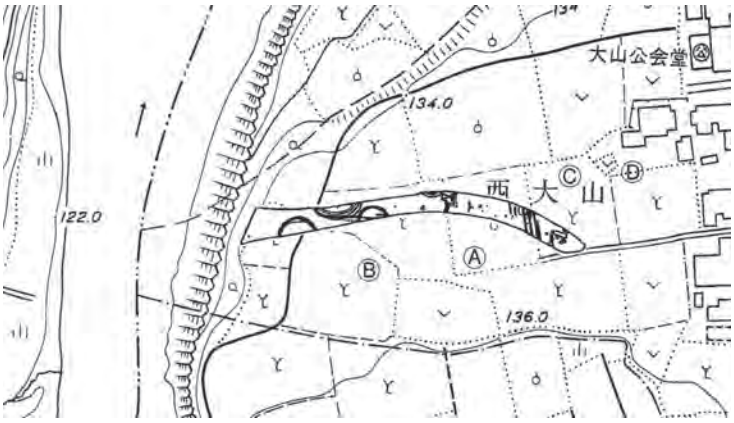
引用・参考文献

石部正史1988「群集墳の発生と古墳文化の変質」『東アジア世界における日本古代史講座４』学生社
大塚昌彦1999「群馬の積石塚(１)」『群馬考古手帳』９
尾崎喜左雄1971「古墳文化」『北群馬・渋川の歴史』
京嶋覚1997「初期群集墳の形成過程」『立命館大学考古学論集Ⅰ』
木村收編1997『白倉下原・天引向原遺跡Ⅳ　古墳時代編』群馬県埋蔵文化財調査事業団
群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『甘楽条里遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『金井下新田遺跡』
群馬県立歴史博物館2017『海を渡って来た馬文化』
小安和順1989『甘楽条里遺跡』甘楽町教育委員会
小安和順1996『西大山遺跡』甘楽町教育委員会
笹澤泰史2021『鉄が語る群馬の古代史』みやま文庫
渋川市教育委員会1989『空沢遺跡第８次』
昭和村教育委員会1996『川額軍原Ⅰ遺跡』
昭和村教育委員会2002『岩下清水古墳群』
専修大学文学部考古学研究室2003『剣崎長瀞西５・27・35号墳』高崎市教育委員会
高崎市教育委員会2001『剣崎長瀞西遺跡１』
高崎市倉賀野万福寺遺跡調査会1983『倉賀野万福寺遺跡』
田口一郎1988「群馬県下芝・谷ツ古墳」『日本考古学年報39』日本考古学協会
奈良県立橿原考古学研究所1977『新沢126号墳』
土生田純之編2003『古墳時代東国における渡来系文化の受容と展開』専修大学文学部
土生田純之編2017『積石塚大全』雄山閣
真鍋成史2019「鍛冶を担う人々」『馬の考古学』雄山閣
右島和夫編1994『白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ　弥生・古墳時代編』群馬県埋蔵文化財調査事業団
右島和夫2012「群集墳」『古墳時代研究の現状と課題　下』同成社
右島和夫2019「総論　群馬発「馬の考古学」」『馬の考古学』雄山閣
右島・青柳泰介・諫早直人・菊地大樹・中野咲・深澤敦仁・丸山真史編2019『馬の考古学』雄山閣
山本良知1981「東町古墳」『群馬県史』資料編３
若狭徹2017「上毛野(西毛)」『積石塚大全』雄山閣
和田晴吾1992「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本５』角川書店

図版典拠

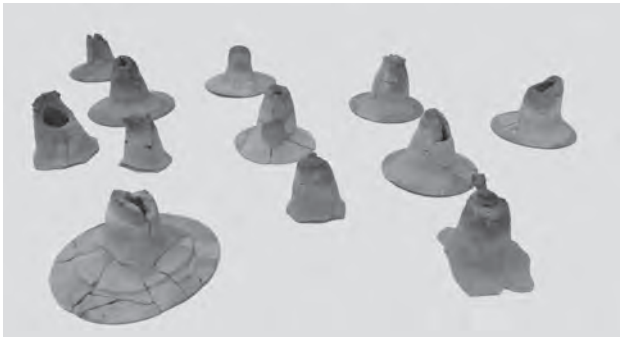
１：甘楽町教育委員会提供
２：小安和順1996
３・４・５：筆者撮影
６：田口一郎1988
７：山本良知1981
８：尾崎喜左雄1971
９：群馬大学提供
10・11・12：高崎市倉賀野万福寺調査会1983
13・14・15：高崎市教育委員会提供
16：群馬県教育委員会『下郷』1980
17：近つ飛鳥博物館『百舌鳥・古市の陵墓古墳』2011
18：白石太一郎「大型古墳と群集墳」『考古学論攷』第２冊　橿原考古学研究所1973
19：京嶋覚1997
20：坂靖『近内古墳群』橿原考古学研究所1991
21：橿原考古学研究所付属博物館・橿原市教育委員会『海を越えたはるかな交流』2006
22：橿原考古学研究所『四条シナノ遺跡』2007

１．甘楽条里遺跡と鏑川　左上で鏑川手前の×印が西大山古墳群、その対岸の×印が後賀中割遺跡



２．西大山古墳群調査区と大山鬼塚（A）

３．西大山２号墳周掘出土鑪轡

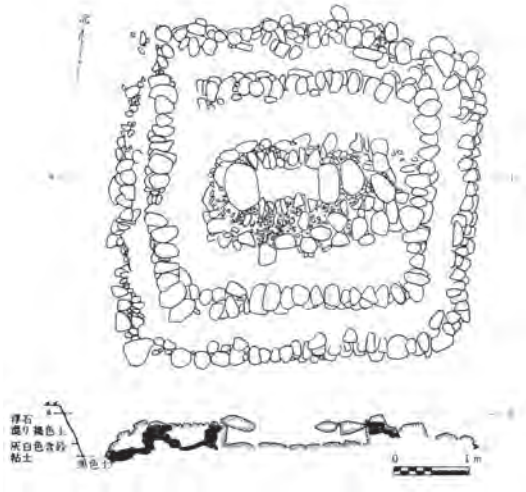


４．甘楽条里遺跡出土高杯転用羽口

５．西大山古墳群・大山鬼塚古墳舟形石棺

６．高崎市下芝谷ツ古墳

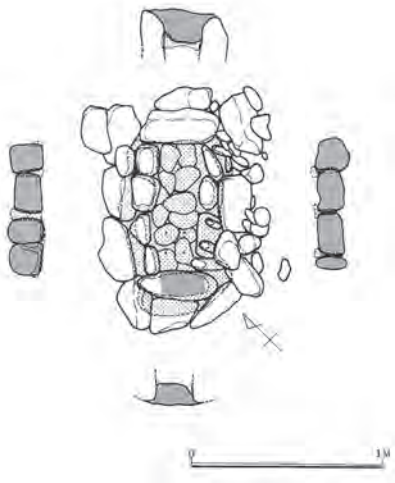
７．渋川市東町古墳全体図



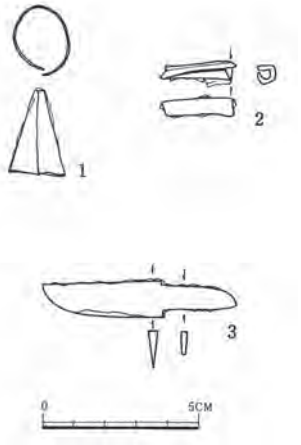
８．渋川市坂下町古墳群６号墳

９．同古墳群(左から右へ２・３・４・５号墳)

10．高崎市倉賀野万福寺遺跡２号墳



11．同６号墳小石槨



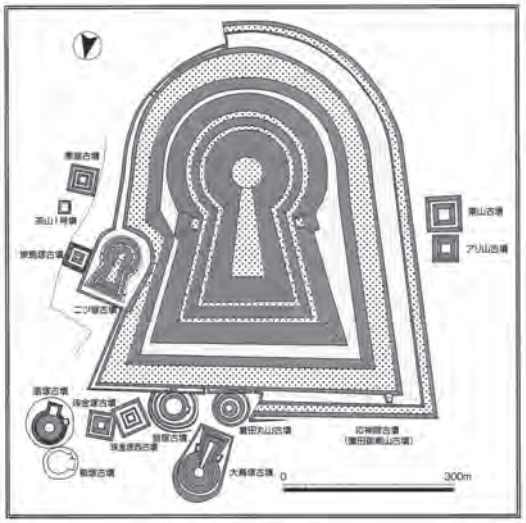
12．同６号墳出土鉄鐸・刀子

13. 高崎市剣崎長瀞西古墳群(右端に方墳)

14. 同10号墳

15. 同10号墳出土
金製垂飾付耳飾

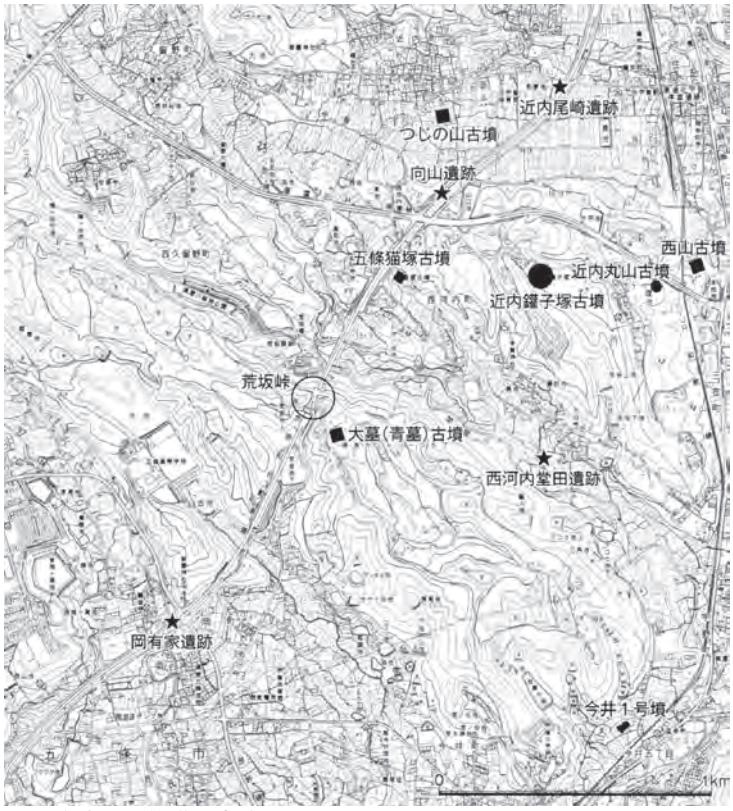
16. 群馬県玉村町下郷遺跡の古墳時代前期周溝墓群



17. 応神陵古墳(誉田御廟山)と陪冢

18. 橿原市新沢千塚全体図

19. 大阪市長原遺跡群の方墳群（一部）



20. 奈良県五條猫塚古墳とその周辺

21. 奈良県橿原市の曲川古墳群　大量の半島系遺物を出土する新堂遺跡に隣接

22. 橿原市四条シナノ遺跡の方墳群

後賀中割遺跡まとめ

本後賀中割遺跡は群馬県富岡市後賀地区に所在する。検出された遺構、遺物は縄文時代から中近世に至る複合遺跡である。遺跡の南面を東西に流れる鏑川があり、東流し現在の高崎市へと流下する。遺跡は尾根の先端に所在し、西側は尾根が南北にそそり立っている。このため１・２区と３区の標高差は約５ｍを測る。さらに遺跡地内は南側の鏑川に向かい緩く南東に傾斜している。

縄文時代の遺構、遺物は竪穴建物５棟が確認され、後期称名寺式土器とこの時期に特徴的な柄鏡型竪穴建物、敷石の床面を持っている。時期的には後期初頭期の土器が出土し、集落は短い時間内で終わる。

弥生時代は前・中期の遺構、遺物は確認できなかったが、尾根の高い場所に集落がある可能性は指摘できる。竪穴建物からは後期樽式土器が確認されている。

古墳時代の遺構、遺物は初頭期から前期に至る方形周溝墓が４基確認され、樽式土器時代の集落は墓域に変化している。方形周溝墓からは土師器が出土し、弥生時代から古墳時代へと継続経過していることが理解できる。

古墳時代中期には墳丘を持つ古墳が７基確認されている。調査開始前には墳丘の存在は確認できなかった。昭和時代に耕作地開墾のため、削平が進み確認されていない。古墳の時期は７号墳が５世紀代の葺石を持つ方墳に比定されている。時期の根拠については墳丘葺石の間から５世紀代の土師器や墳丘盛り土内から陪葬墓が確認でき、石製模造品が副葬品として出土している。石製模造品も土師器と同じ５世紀代に比定することができる。８号墳からは多量の鉄製品が出土している。８号墳の時期は７世紀代と考えられ、武器、武具、馬具、太刀鞘尻等の装飾品が出土している。武具としては小札が多量に出土している。

後賀中割遺跡の古墳群は以上のことから、５世紀から７世紀に継続する古墳群であると考えられる。古墳はすべて前述のとおり、耕作地に改変するための人力による削平が行われ、確認できなかった。７基の古墳の墳丘はすべて破壊、削平され、遺跡地は平坦な畠地にされていた。このため７号墳の石室は確認できなかった。陪葬墓はこの墳丘の盛り土内に確認されている。

８号墳は石室床面が多少残っていたが、石室内の床面は掘り起こされ、小札は散乱した状態で出土した。小札鎧と共に冑の存在も想定される。太刀は出土していないが、銀製の鞘尻も出土している。

周辺の畠地には傾斜地の土留めとして石垣状に人頭大の石が使われている。この石垣の石は周囲に存在していた古墳の葺石である。遺跡地外にも石室の石や大型の石室の石が畠の隅にみることができる。遺跡の南側には富岡市内を東西に流れる鏑川があり、生活水や耕作地を潤す水源としての存在も指摘できる。

遺跡が存在する富岡市内では後期群集墳の存在が多く確認されているが、後賀中割遺跡７号墳のような５世紀代の方墳が確認されたことの意義は大きい。５世紀代から７世紀にかけて数百年を経過継続した古墳群の存在を確認できた意義も大きいと言える。

特に７号墳の南面からは鏑川だけでなく富岡市内の平野が一望でき、古墳時代の繁栄を認めることができる。逆に言うと平野部からはこの古墳が尾根先端上に眺望することとなる。立地と葺石が見事に望めたことが彷彿とされる。調査時に確認できたのは葺石の積み方以前の区画を割る方形の列石は南面が多面より丁寧に区画され、区画内の石も同様に丁寧に仕上げられていることがわかる。このことから南面の葺石が平野部から見上げることを前提にして葺いたことが理解できる。

後賀中割遺跡で確認された５世紀代の方墳の存在、７世紀まで継続する古墳群は富岡市内、鏑川左・右岸に広がる平野部からの眺望だけではなく、古墳群を構成した時期の長さと継続を示している。一辺40mを測る５世紀代の方墳の存在と豊富な鉄製品を副葬された８号墳の出土から、後賀中割遺跡内に存在した古墳被葬者層が長期に渡り、鏑川の両岸に広がる生産域を支配したことと理解できる。

豊富な鉄製品から武器、武具、馬具の存在からは支配者層が馬を所有したことを示唆している。

参考文献
小原俊行2017「富岡市で発見された終末期古墳(T007遺跡)」『ぐんま地域文化』第50号４・５頁
群馬地域文化振興会(本文では調査開始時のため当初７号墳を７世紀代の古墳と考えていた。)

1区1号墳出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17図 PL.69	1	須恵器 椀	埋土 底部	底	7.3			細砂粒/酸化焔/黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	混入
第17図	2	須恵器 杯身	埋土 口縁部～稜片	口 稜	13.0 14.6			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部は内側に傾く。	
第17図 PL.69	3	須恵器 高杯	基壇・北部周堀 底面直上 杯部底部～脚部 柱状部					細砂粒・粗砂粒/酸化焔/暗赤褐	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。脚部に1段3法の透孔。	
第17図 PL.69	4	須恵器 高杯	南部底面上5㎝ 杯部底部～脚部 柱状部					細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。杯部底部はカキメ。脚部は中位と下位に凹線が巡り、上半にカキメ、中位の凹線の上下に2段3方の透孔。	
第17図	5	須恵器 高杯	埋土 脚部片	脚	14.0			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。脚部は屈曲、端部に凹線が2条巡る。	
第17図	6	須恵器 鉢	埋土 口縁部片	口	11.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第17図 PL.69	7	土師器 直口壺	埋土 口縁部片	口	9.2			細砂粒/良好/赤褐	口唇部は横ナデ、口縁部はヘラ削り。内面は口唇部が横ナデ、口縁部はヘラナデ。	
第17図	8	灰釉陶器 長頸壺	埋土 胴部片					夾雑物無/還元焔/オリーブ黒	ロクロ整形、回転は右回りか。外面には釉薬が厚く施釉されている。	
第17図 PL.69	9	土師器 台付甕(S字状口縁)	埋土 口縁部片	口	16.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はハケメ。内面胴部はナデ。	混入
第17図 PL.69	10	土師器 台付甕(S字状口縁)	埋土 口縁部片	口	17.8			細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部は横ナデ、胴部はハケメ(1㎝当たり6本)。内面は胴部がナデ。	混入
第17図 PL.69	11	土師器 台付甕(S字状口縁)	埋土 口縁部片	口	20.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はハケメ。内面胴部はナデ。	混入
第17図 PL.69	12	土師器 台付甕(S字状口縁)	埋土 脚部	脚	11.0			細砂粒/良好/にぶい黄褐	端部は内側に折り返し。内外面ともナデ。	混入
第17図 PL.69	13	土師器 甕	北部周堀内底面直上 底部1/3片	底	8.0			細砂粒/良好/褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第17図 PL.69	14	須恵器 甕	北部周堀内埋土 胴部上位片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	外面は平行叩痕の上から粗いカキメ。内面は同心円状アテ具痕が明瞭に残る。	
第18図	15	須恵器 甕	北部周堀内底面直上 胴部下半片					細砂粒/還元焔/灰	外面の平行叩き痕、内面の同心円状アテ具痕とも微かに残る。内面の一部にヘラナデ。	
第18図	16	須恵器 甕	埋土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内外面とも摩滅している。	
第18図	17	須恵器 甕	北部周堀内底面上5㎝ 胴部片					細砂粒/還元焔/黄灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内外面とも摩滅している。	
第18図	18	須恵器 甕	北部周堀内埋土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内外面とも摩滅している。	
第19図	19	須恵器 甕	埋土 胴部片					細砂粒/還元焔/暗灰黄	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内外面ともやや摩滅している。	
第19図 PL.69	20	石製模造品 臼玉	埋土 完形	長 幅	0.6 0.6	厚 重	0.4 0.3	滑石	剥片素材？白っぽい石材、やや片岩質。上下両面に弱い研磨痕、側面に粗く深い研磨痕が残る。両側穿孔、途中にズレ有り。孔径0.2㎝。	
第19図 PL.69	21	石製模造品 管玉	基壇北埋土 完形	長 幅	2.6 0.7	厚 重	0.6 1.9	蛇紋岩	風化して白っぽく変色しているが、本来は黒みの強い片岩質の石材。孔は中央でかなりズレあり。両側穿孔。孔径0.4㎝、孔の周りに道具の当たり有り。	
第19図 PL.69	22	打製石器 石鏃	埋土 ほぼ完形	長 幅	(1.7) 1.2	厚 重	0.4 0.5	黒曜石	凸基有茎鏃。両面加工。やや小形。非常に透明感のある石材。基部は打撃ではない横からの力により欠損。側面形に反りはない。やや表面が高く、裏面は平坦だが、横断面形は凸レンズ状。	
第19図 PL.69	23	打製石器 石匙	基壇中央部底面上5㎝ 完形	長 幅	5.7 6.6	厚 重	1.1 45.4	ホルンフェルス	横型。横長剥片素材。やや薄手、大形粗製の部類。縁辺部調整。上の打点側に摘まみを作成している。打面は剥離面。	
第19図 PL.69	24	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	11.8 5.6	厚 重	1.3 104.6	黒色頁岩	撥形、半月形に反る。薄手。横長剥片素材。裏面に主要剥離面を残す。刃部使用痕は明瞭。両側縁に敲打痕有り。断面形は薄い凸レンズ状。	
第19図 PL.69	25	打製石器 打製石斧	基壇南部埋土 完形	長 幅	10.6 6.0	厚 重	1.5 121.7	粗粒輝石安山岩	分銅形。横長剥片素材。上下両端に使用による磨滅痕あり。表面に大きく自然面を、裏面に主要剥離面残す。両側縁に敲打痕有り。表面中央からやや上に柄ズレによる磨滅痕あり。	
第19図 PL.69	26	打製石器 打製石斧	基壇北部底面直上 完形	長 幅	11.8 3.9	厚 重	1.7 93.7	変玄武岩	通常の撥形に比べてかなり細身。横長剥片素材。裏面に主要剥離面。自然面はない。刃部は使い込まれ、かなり光沢を持つ程磨滅している。両側縁は敲打により敲き潰されている。横断面形はやや表側が盛り上がる凸レンズ状。側面形に僅かに反りがある。	

遺物観察表

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19図 PL.69	27	磨製石器 磨製石斧	南部周堀内埋土 1/2	長 幅	(6.5) 5.8	厚 重	2.9 184.1	黄緑色結晶質岩	定角式。楕円形礫利用？敲打後研磨整形。刃部平面形は本来直刃であったものが使用と再生によりやや偏刃ぎみとなったものと考えられる。側面形は両凸刃(蛤刃)で刃先は厚く鈍い。左側縁のものは敲打による剥離、刃部の細かいものは使用痕。上部は側縁からの打撃により欠損。	
第19図 PL.69	28	礫石器 凹石	基壇南部底面直上 1/2?	長 幅	(10.8) 7.6	厚 重	3.3 367.1	変玄武岩	楕円形礫利用。緑色を呈する重量感のある石材。表裏両面に敲打痕と磨面あり。表面には長さ2.2㎝×幅1.5㎝×深さ４㎜の凹みあり。敲打による打撃が原因で欠損したものと考えられる。	
第19図 PL.69	29	打製石器 石核	基壇中央部埋土 完形	長 幅	3.8 6.7	厚 重	3.3 88.5	硬質泥岩	剥片素材。打面は比較的平坦な剥離面。船底に近い形、細石核状に整えて右側面上からの直接打撃により細石器状の縦長剥片を剥離した痕跡がある。	
第19図 PL.69	30	磨製石器 石棒	北部周堀内埋土 1/2 ？	長 幅	(32.1) (10.3)	厚 重	(7.8) 4411.5	緑色片岩	棒状礫利用。剥離、敲打成形後研磨整形。頭端はやや細くなっている。首は研磨によりやや細く絞られている。胴下半部は欠損。頭部には一部比較的新しい剥離がある。	一部被熱、赤変。

1区2号墳出土遺物観察表

第25図 PL.70	1	須恵器 杯蓋	埋土 摘	摘	3.9			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。摘は偏平な粘土盤を貼付し、周囲をつまみあげ環状に作る。	
第25図	2	須恵器 壺	埋土 底部～胴部下位片	底 台	11.6 12.2			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第25図 PL.70	3	須恵器 壺	埋土 口縁部片					細砂粒/酸化焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部下に凸帯、口縁部に２条の凹線で区画、口唇部の平坦面と、口縁部凹線区画上位に波状文を巡らす。	８と同一か
第25図 PL.71	4	須恵器 壺	周堀北東部埋土 口縁部～胴部	口 頸	12.8 10.0	胴	22.8	細砂粒/還元焔/灰	底部から胴部は粘土紐巻き上げによる叩き締め、外面に格子目状叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。胴部上半から口縁部はロクロ整形、回転は右回り。頸部中位と胴部に各１条の凹線が巡る。	
第25図	5	軟質陶器 甕	埋土 胴部片					細砂粒/酸化焔/にぶい黄褐	外面に格子目状叩き痕が残る。内面はヘラナデ。	
第26図 PL.71	6	須恵器 甕	埋土 口縁部					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部は肥厚し、口縁部は浅い凹線によって区画、区画上位に波状文を巡らす。	
第26図 PL.71	7	須恵器 壺	周堀西部底面上８㎝ 口縁部下位～胴部上位片	頸	19.8			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	口縁部はロクロ整形。口縁部には波状文が巡る、頸部はナデ、胴部は格子目状叩き痕が残る。内面は胴部にヘラナデ。	３と同一か
第25図 PL.70	8	須恵器 壺	周堀北部埋土 1/2	口 胴	22.5 41.0	高	41.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	口縁部はロクロ整形、胴部は叩き締め。口縁部中位に波状文が巡る。胴部は平行叩き痕の上に粗いカキメ。内面は口縁部下半がヘラナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
第26図 PL.71	9	須恵器 壺	周堀・トレンチ内埋土 口縁部～胴部下位 1/3	口 頸	27.6 20.4	胴	47.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、胴部は叩き締め。口縁部は上半に波状文を巡らす、下半はヘラナデ。胴部は平行叩き痕が残る。内面は口縁部中位から頸部下までヘラナデ、底部から胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
第27図 PL.72	10	打製石器 石鏃	中央部床面上 ４㎝ 完形	長 幅	1.4 1.7	厚 重	0.4 0.6	黒曜石	平基無茎鏃、底辺は若干内彎する。剥片素材？主要剥離面は残っていない。横幅が広い割には長さは短い。縦断面を見ると先端は薄く鋭く、下辺も薄く調整されている事が分かる。若干裏面が表面に比べて平坦。両面加工で断面は薄い凸レンズ状。側面形に反りは無い。	
第27図 PL.72	11	打製石器 打製石斧	埋土 2/3	長 幅	(10.0) (6.1)	厚 重	2.3 111.3	細粒輝石安山岩	分銅形。横長剥片素材。表面上部に自然面残す。裏面に主要剥離面を大きく残す。両側縁は敲打により敲き潰されている。下刃部は欠損している。	被熱、赤変
第27図 PL.72	12	打製石器 二次加工ある剥片	埋土 完形	長 幅	7.1 7.7	厚 重	1.6 54.5	硬質泥岩	横長剥片素材。縁辺部に微細な剥離痕があるが、左側縁のものはやや大きめのものが並ぶ調整剥離で、右側縁のものは大きさの違うものが不規則に付くので使用痕と考えられる。上縁のものは打面調整加工。裏面に自然面、表面に主要剥離面。打面は自然面ではなく剥離面。	
第27図 PL.72	13	礫石器 磨石	埋土 完形	長 幅	8.0 7.7	厚 重	5.4 479.4	粗粒輝石安山岩	円礫利用。ほぼ全面研磨面。表裏両面とも真ん中は特によく磨られている。特に裏面は平坦になるまで研磨されている。一部敲打痕が残る。表面には新傷痕あり。	

1区3号墳出土遺物観察表

第28図 PL.72	1	打製石器 石鏃	埋土 完形	長 幅	1.8 1.6	厚 重	0.6 1.4	黒曜石	平基無茎鏃。剥片素材。頭部は欠損後再生途中の未成品？断面形は裏面側が比較的平坦で表面側に盛り上がる低いカマボコ形。表面に一部自然面あり。側面形に若干の反りあり。	

2区5号墳出土遺物観察表

第31図	1	須恵器 甕	埋土 口縁部下位～頸部片					細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい赤褐	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部を２条の凹線による区画、区画内に波状文が巡る。内面はヘラナデ。	
第31図	2	須恵器 甕	周堀北部埋土 口縁部中位片					細砂粒・粗砂粒/酸化焔/黒褐	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部を２条の凹線による区画、区画内に波状文が巡る。内面はロクロ痕が残る。	３と同一個体か。
第31図	3	須恵器 甕	周堀北部埋土 口縁部片					細砂粒・粗砂粒/酸化焔/黒褐	ロクロ整形、右回りか。外面は２条の凹線によって４段以上に区画、最下段以外は区画内に１段から３段の波状文が巡る。内面は破片下半にヘラナデ、上半はロクロ痕が残る。	２と同一個体か。
第31図	4	須恵器 甕	周堀北東部埋土 胴部上半片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	外面の平行叩き痕は明瞭に残るが、内面のアテ具痕は摩滅により不鮮明。	

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31図	5	須恵器 甕	周堀北東部埋土 胴部下半片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	外面の平行叩き痕は明瞭に残るが、内面のアテ具痕は摩滅により不鮮明。	
第31図 PL.72	6	打製石器 打製石斧	埋土 2/3	長 幅	(9.5) 4.9	厚 重	2.0 115.6	粗粒輝石安山岩	短冊形。楕円形礫利用。表裏両面に自然面残す。表面は上部および下端に、裏面は中央に部分的に残す。両側縁に敲打痕有り。側縁からの打撃が原因で刃部欠損。	
第31図 PL.72	7	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	9.2 5.8	厚 重	1.9 110.3	硬質泥岩	分銅形。刃部平面形は円刃。下刃の方が使い込まれ、刃部変形も見られる。表面下部に自然面を残す。裏面に主要剥離面を残す。側面稜部の磨れは顕著ではない。	
2区15号土坑										
第36図 PL.72	1	打製石器 石鏃	埋土 4/5	長 幅	(1.8) 1.3	厚 重	0.4 1.0	赤碧玉	平基無茎鏃。赤褐色不透明の良質な石材。横長剥片素材？先端部欠損。表面が平坦で裏面がやや盛り上がる。側面形に若干反りあり。横断面形は薄い凸レンズ状。	
第36図 PL.72	2	石製模造品 刀子形	北西壁際底面直上 2/3	長 幅	1.9 (4.6)	厚 重	0.6 6.6	蛇紋岩	鞘入刀子形。剥片素材？緑色がかる黒みの強い石材。柄は刀子により削り出し、端部研磨。孔はない。表裏両面研磨、裏面刃部に一部剥離面の磨き残し部分あり。先端欠損、古い欠損の上に一部新傷痕が被る。	
2区7号墳出土遺物観察表										
第36図 PL.72	76	縄文土器 深鉢	埋土 体部上半破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部下に爪形状の刻みを加えた横位隆線を設ける。内外面とも平滑なナデ調整。	後期前葉
第36図 PL.72	81	縄文土器 深鉢	埋土 口縁～体部上半 1/3残存	口	(27.0)			粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/にぶい褐色	口縁部に横位隆線を１条設け、以下体部は無文。縦位削り調整。後ナデを加える。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第36図 PL.72	101	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口唇部内折。口縁部に横位沈線２条に画された施文部を設け、縦位波状沈線が垂下する。施文部縄文は横位ＬＲ。内面	後期前葉
第36図 PL.72	104	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英・片岩・白色粒/良好/にぶい黄褐色	沈線で画された施文部と磨消部による重幾何学文構成。施文部縄文はＬＲ充填施文。内面平滑なナデ。	後期前葉
第36図 PL.72	120	縄文土器 ミニチュア土器	埋土 体部～底部残存	底	2.7			粗:石英・片岩/軟質/にぶい橙色	台付深鉢ミニチュアか。無文で内外面ナデ調整が覆う。器面磨滅する。	後期か
第38図 PL.72	1	土師器 高杯	周堀北東部底面上５㎝ 脚部片					細砂粒/良好/にぶい橙	杯部底部にホゾ状の差込を作り、脚部と接合。脚部は柱状部がヘラナデ、裾部は横ナデ。内面も同様。	
第38図 PL.72	2	土師器 高杯	周堀北東部底面上８㎝ 杯部底部～脚部上位片					細砂粒/良好/明赤褐	杯部と脚部の接合方法不鮮明。杯部底部はヘラ削り、脚部はヘラナデ。内面脚部に粘土を絞った痕跡が残る。	
第38図 PL.72	3	土師器 高杯	周堀北東部底面上４㎝ 脚部	脚	13.6			細砂粒/良好/明褐	杯部と脚部は接合。脚部は放射状のヘラミガキ、裾部は横ナデ。内面は上半にヘラナデが残る。	
第38図 PL.72	4	土師器 二重口縁壺	埋土 口縁部片					黒色鉱物粒・細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面ナデ後縦方向の磨き。内面ナデ後磨き。	
第38図 PL.72	5	須恵器 甕	埋土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
第38図 PL.72	6	打製石器 石鏃	埋土 ほぼ完形	長 幅	(1.9) 1.5	厚 重	0.5 1.0	黒曜石	平基無茎鏃。剥片素材。頭部は極一部先端欠損。断面形は裏面側が比較的平坦で表面側に盛り上がる低いカマボコ形。裏面に主要剥離面、下側に打点あり。側面形にほとんど反りはない。右脚部が石匙の摘まみ状になっているが、石器が小さいことと左右両側からの調整加工がなく、石匙ではないものと判断した。	
第38図 PL.72	7	打製石器 石鏃	埋土 ほぼ完形	長 幅	(1.7) 1.6	厚 重	0.5 1.2	チャート	平基無茎鏃。半透明の良質な石材。剥片素材。裏面に主要剥離面を残す。頭端部欠損。裏面が平坦で表面がやや盛り上がる。横断面形は低い山形。側面形に反りあり。	
第38図 PL.72	8	打製石器 石匙	埋土 完形	長 幅	4.9 2.4	厚 重	1.0 9.6	チャート	縦型。縦長剥片素材。半透明良質な石材。打面は剥離面、打点は上端。上部に両側から調整剥離を入れ、摘まみ作出。裏面に主要剥離面。表面左側縁に新傷痕。下端は欠損面ではない。	
第38図 PL.72	9	打製石器 石匙	周堀北東部埋土 完形	長 幅	4.0 6.4	厚 重	0.8 12.9	黒色頁岩	横型。横長剥片素材。薄手。縁辺部調整。上の打点側に摘まみを作成している。表面左端に極一部自然面を残す。	
第38図 PL.72	10	磨製石器 石錘	埋土 2/3	長 幅	(5.2) (2.8)	厚 重	1.0 11.9	砂岩	切目石錘。扁平楕円形礫利用。上下両端に擦り切りで切り込みを入れたもので、横方向の左右にはない。表裏両面に剥落あり。表面に一部新傷痕あり。	
第38図 PL.72	11	磨製石器 石錘	北部底面上７㎝ ほぼ完形	長 幅	6.6 3.4	厚 重	1.6 45.2	珪質準片岩	楕円形偏平礫利用。下側が厚く重い。上下両端に紐掛けのための擦り切りの入る切目石錘。右下は新傷痕(節理面より欠損)。若干の磨れはあるものの、表裏両面とも自然面。裏面はやや平坦。	
第38図 PL.72	12	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	12.2 7.1	厚 重	2.3 185.8	硬質泥岩	撥形。やや薄手。大形横長剥片素材。表面に主要剥離面、裏面に1/3程自然面残す。側縁部は敲打されている。刃部使用痕は明瞭で刃部はやや光沢を持つ。胴部に柄ズレによる磨滅痕あり。側面形に反りはない。横断面形は薄い凸レンズ状。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.72	13	打製石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長 8.2 幅 5.3		厚 1.9 重 103.1		硬質泥岩	短冊形。定角式というよりも打製石斧の一部を磨いたものに近い。剥片素材。刃部は薄く直線的。長さが短く通常の1/2程度。表面に自然面が残るが、その部分に研磨痕と考えられる線状痕あり。刃部右角は使用による刃毀れ。横断面形は薄い凸レンズ状。側面形に若干の反りあり。頭部～両側縁に敲打痕あり。	
第38図 PL.72	14	打製石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長 11.7 幅 5.7		厚 2.6 重 139.9		硬質泥岩	分銅形。細身で両頭、抉りは深くない。剥片素材？横断面形は厚い凸レンズ状。両刃だが、使用痕はあまり明瞭ではない。下左端は側面からの敲打によるヒビ割れが原因で欠損。両側縁は敲打により敲き潰されている。裏面に部分的に自然面を残す。	
第38図 PL.73	15	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 9.7 幅 5.3		厚 2.0 重 69.6		硬質泥岩	撥形。横長剥片素材。裏面に主要剥離面を残す。自然面はない。両側縁に敲打痕有り。側面形に若干反りあり。側縁部に若干の柄ズレはある。刃部は直刃、使用痕はほとんどない。	
第38図 PL.73	16	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 9.5 幅 5.3		厚 1.3 重 76.5		粗粒輝石安山岩	分銅形。やや細身、薄手。上下両端に刃部作出、若干磨滅している。両側縁は敲打によりよく敲き潰されている。裏面に大きく自然面を残す。側面形に若干の反りあり。	
第38図 PL.73	17	打製石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長 10.4 幅 6.7		厚 2.3 重 144.0		硬質泥岩	分銅形。横長剥片素材。刃部平面形は上下ともやや尖るとなっている。表面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。両側縁は敲打により抉りを入れている。上下両端とも磨滅痕は認められないので、ほとんど使用されていない可能性がある。下刃部右側一部新傷痕あり。	
第38図 PL.73	18	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 14.0 幅 7.4		厚 1.8 重 181.5		硬質泥岩	分銅形。横長剥片素材。やや薄手。くびれ部は中心より上の位置にある。上部は三角形、下部は長方形。下部の刃部には使用痕がある。裏面に主要剥離面があるが、自然面はない。横断面形は薄い凸レンズ状、側面形にほとんど反りはない。	
第39図 PL.73	19	打製石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長 (13.8) 幅 5.0		厚 2.2 重 198.3		黒色片岩	短冊形。棒状礫利用。刃部平面形は円刃。両側縁に敲打痕有り。表面中央に細長く自然面を残す。頭端部一部欠損。裏面は比較的平坦で、表面はやや盛り上がる。側面形に反りはない。	
第39図 PL.73	20	打製石器 打製石斧	埋土 2/3	長 (9.9) 幅 6.0		厚 2.8 重 165.8		硬質泥岩	短冊形。剥片素材？両面加工で自然面は裏面刃部に極く一部あり。側面形に反りはない。側縁に敲打痕あり。刃部は鋭く使用による磨滅はほとんどない。側縁からの打撃が元で割れたものと考えられる。	
第39図 PL.73	21	磨製石器 磨製石斧	埋土 完形	長 6.7 幅 3.7		厚 1.5 重 44.6		黄緑色結晶質岩	小形、二等辺三角形。楕円形礫利用。刃部平面形は直刃。刃部側面形は弱凸強凸片刃。裏面に1/3程度自然面を残す。表面の稜部を中心に研磨されるが､刃部も研磨されている。方向は不明瞭。側縁は敲打後研磨されている。裏面はやや平坦で表面がやや盛り上がる。横断面形は低い山形～凸レンズ状。	
第39図 PL.73	22	磨製石器 磨製石斧	埋土 完形	長 6.3 幅 3.9		厚 1.5 重 61.5		黄緑色結晶質岩	定角式。緑色を呈する大きさの割に重い石材。刃部平面形は直刃、側面形は両凸刃(蛤刃)。頭部に敲打痕を残す。刃部には刃毀れと長軸に平行する方向に使用痕が残るので横斧であることが分かる。	
第39図 PL.73	23	磨製石器 磨製石斧	埋土 完形	長 6.2 幅 2.3		厚 1.1 重 26.0		黄緑色結晶質岩	小形。刃部平面形は若干丸味はあるが直刃。裏面は平坦で表面がやや盛り上がる。刃部側面形は弱凸強凸刃。横断面形は低い山形。刃部は鋭く薄い。頭部は敲き潰されている。	
第39図 PL.73	24	磨製石器 磨製石斧	周堀北東隅埋土 1/2?	長 (3.0) 幅 3.5		厚 (1.3) 重 23.6		黄緑色結晶質岩	定角式。やや小形。上部欠損。刃部平面形は直刃。刃部側面形は両凸刃(蛤刃)だが、刃先から見た形態はやや円鑿状に彎曲する。刃部に使用痕が残る。刃部を除き風化、荒れている。	
第39図 PL.73	25	磨製石器 磨製石斧	埋土 1/2弱	長 (5.0) 幅 4.5		厚 (1.9) 重 68.0		黄緑色結晶質岩	定角式。やや小形。上部欠損。刃部平面形は本来は直刃、研ぎ直しでやや円刃気味に。刃部側面形は弱凸強凸刃、鋭さはない。表裏面は剥離後敲打・研磨で調整、刃部に使用痕残る。裏面は表面に比べてやや平坦で剥離面が大きく残る。側面は敲打後研磨、風化してやや荒れており、研磨方向不明。	
第39図 PL.73	26	磨製石器 磨製石斧未成品	埋土 完形	長 10.5 幅 6.1		厚 2.7 重 257.6		珪質凝灰岩	偏平円礫分割素材利用。定角式や乳棒状ではない。両側縁に敲打痕有り。表面の自然面部分や裏面の刃部など一部研磨。現状では刃部平面形は偏刃、側面形は弱平強凸刃であるが、両凸刃(蛤刃)を目指したものか？	
第39図 PL.73	27	打製石器 石核	周堀北東部底面 上７cm 完形	長 8.9 幅 9.4		厚 5.8 重 488.0		硬質泥岩	楕円形礫利用。表裏両面に自然面を残すが、裏面に比べ表面側の自然面の方が丸味は少ない。打面は自然面であり石製ハンマーで直接打撃を加え、打点を転移させながら剥離している。ほぼ残核に近い状態で放棄または廃棄されたものと考えられる。	
第39図 PL.73	28	打製石器 石鏃	埋土 1/3	長 (9.2) 幅 (9.5)		厚 5.4 重 547.3		硬質泥岩	撥形？大形亜角礫利用。下方は凍みて剥がれて欠損しているが、やや開くものと考えられる。左側面と裏面に部分的に自然面を残す。両側縁に敲打痕有り。	
第39図 PL.73	29	打製石器 石鏃	埋土 ほぼ完形	長 17.5 幅 8.5		厚 4.2 重 675.2		変輝緑岩	撥形。楕円形礫利用。表裏両面に自然面を残す。側面に敲打痕あり。刃部は右側縁からの打撃による欠損。本来２倍の厚さがあったものと考えられる。刃部左側の自然面に若干光沢を持つ部分あり。	
第39図 PL.73	30	打製石器 礫器	周堀南東部底面 上５cm 完形	長 12.4 幅 8.0		厚 5.8 重 677.0		硬質泥岩	楕円形礫利用。表裏両面に自然面残す。側縁部には敲打痕が残る。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第39図 PL.73	31	礫石器 凹石	埋土 完形	長	5.7	厚	3.3	粗粒輝石安山岩	円礫利用。極めて小形、深い石鉢様。中心の抜けた凹みを利用したもの。中央に3.8㎝×4.0㎝×1.8㎝の凹みあり。磨り潰す事に使用したものか？縁の部分はやや滑らかになっており、磨られている可能性あり。他の面は自然面。	
				幅	6.2	重	138.8			
第40図 PL.73	32	礫石器 凹石	埋土 完形	長	13.0	厚	4.2	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。上下両端と両側縁に敲打痕有り。表裏両面に敲打による凹みが縦に３個ずつあり。表面の凹みは上から長さ1.9㎝×幅1.8㎝×深さ0.4㎝、長さ2.1㎝×幅2.3㎝×深さ0.6㎝、長さ1.5㎝×幅1.8㎝×深さ0.3㎝。裏面の凹みの方がやや浅い。表裏両面とも凹みの周りはやや磨滅している。	
				幅	6.0	重	428.3			
第40図 PL.73	33	礫石器 凹石	埋土 4/5	長	13.6	厚	4.8	緑色片岩	楕円形礫利用。表面に縦に長さ3.0㎝×幅2.4㎝×深さ0.8㎝と長さ3.7㎝×幅2.8㎝×深さ0.6㎝の凹みあり。凹みの周りと裏面および側面は磨面、平滑でやや光沢を持つ。上下両端部に敲打痕あり。	
				幅	6.1	重	543.3			
第40図 PL.73	34	礫石器 凹石	埋土 1/2	長	12.8	厚	3.2	緑色片岩	棒状礫利用。表面に縦に長さ2.5㎝×幅1.6㎝×深さ0.4㎝と長さ2.1㎝×幅1.6㎝×深さ0.3㎝の２つの凹みあり。周縁部に敲打痕あり。上下端には強い当たりあり。左側は敲打の際のヒビ割れが原因で縦に割けたものと考えられる。	
				幅	(3.9)	重	235.3			
第40図 PL.73	35	礫石器 磨石	埋土 完形	長	11.0	厚	5.5	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。表面はよく磨れているが、裏面はほとんど磨れていない。側面の敲打痕も弱く不明瞭。	
				幅	9.6	重	850.1			
第40図 PL.73	36	礫石器 磨石	埋土 完形	長	8.0	厚	6.2	粗粒輝石安山岩	円礫利用。大きさの割には重要感のある石材。被熱､黒変･赤変部分あり。表裏両面とも磨面で一部に敲打痕あり。周縁部に敲打痕あり。よく使い込まれ、ほぼ自然面は残っていないものと思われる。	黒変・赤変
				幅	7.6	重	459.5			
第40図	37	礫石器 石皿	周堀南西部埋土 1/2	長	(25.9)	厚	11.2	粗粒輝石安山岩	大形楕円形礫利用。敲打成形後研磨整形。側面や裏面に一部自然面を残すがほとんど加工面。裏面も研磨されている。内面は使用により比較的滑らかとなっている。廃棄の際裏面から敲いて割っている。	
				幅	(26.0)	重	6800.0			
第41図	38	礫石器 砥石	埋土 1/3	長	(6.1)	厚	(1.3)	牛伏砂岩	玉砥石様の溝２条(深さ３・５mm)がある。石材粒度は粗く、やや硬い石材感。裏面側は未使用。	
				幅	(7.2)	重	65.0			
第41図	39	礫石器 砥石	埋土 1/4	長	(4.7)	厚	(0.9)	凝灰質砂岩	板状を呈し、表裏面ともよく使い込んでいる。やや軟質だが、細粒石材を使用する。	
				幅	(6.0)	重	23.2			
第41図 PL.73	40	磨製石器 石棒	周堀南東部埋土 ほぼ完形	長	22.4	厚	2.9	緑色片岩	棒状礫利用。剥離、敲打成形後研磨整形。先端は剣先状に細くなっている。頭部はやや太くなっているが、極一部欠損。頭部には一部剥離の磨き残しがある。	
				幅	2.9	重	294.4			

３区８号墳出土遺物観察表

第51図 PL.74	1	須恵器 甕	玄室左壁寄埋土 口縁片					細砂粒/還元焔/オリーブ黒	ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部下に小凸帯をつまみ上げ、口縁部は凹線によって３段に区画、区画内部に波状文を巡らす。	
第51図 PL.74	2	須恵器 大甕	前庭西部埋土 口縁部～胴部	口頸	35.2	胴	66.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、回転は左回りか。胴部は叩き締め。口縁部は上半に凹線で２区画に区画、区画内に波状文が巡る、下半から頸部はヘラナデ。胴部は叩き痕をナデ消している。内面は口縁部下半がヘラナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
					26.8					
第52図 PL.74	3	須恵器 甕	南部トレンチ周辺埋土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第52図 PL.74	4	石製品 石製小玉	埋土 完形	長	0.4	厚	0.3	蛇紋岩	やや濃い緑色がかる石材で片岩質。かなり小形品。全面に粗い研磨痕残る。両側穿孔。孔径0.1㎝。	
				幅	0.4	重	0.1			
第52図 PL.74	5	打製石器 石鏃	埋土 ほぼ完形	長	(1.8)	厚	0.4	流紋岩	凹基無茎鏃。剥片素材。灰色不透明だが比較的良質な石材。頭端部が細く作出されているが、極く一部欠損している。裏面に主要剥離面を残す。左右両脚端一部欠損。両面加工だが、裏面は平坦で、表面がやや盛り上がる。横断面形は表面がやや盛り上がる凸レンズ状を呈する。側面形に反りがある。	
				幅	(1.8)	重	0.9			
第52図 PL.74	6	磨製石器 石錘	埋土 1/2？	長	(2.4)	厚	(0.8)	頁岩	礫石錘。下半部欠損。全体の形は不明であるが、偏平な円礫利用し、上下両端に打ち欠きを入れたものと考えられる。欠損面に打点はなく折り取られた様な欠け口となっている。表裏両面とも比較的滑らかであるが、研磨されているかどうかは不明である。	
				幅	(5.0)	重	13.8			
第52図 PL.74	7	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長	11.4	厚	3.6	変玄武岩	分銅形。円礫利用？裏面に一部自然面を残す。全体に調整加工は粗く両端とも厚く刃部の鋭さはない。横断面形は平行四辺形。使用痕も明瞭ではなく、あまり使用されなかった可能性がある。上部は欠損後再生しているものと思われる。両側縁中央部に敲打痕有り。	
				幅	8.2	重	359.1			
第52図 PL.74	8	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長	14.9	厚	2.9	硬質泥岩	分銅形。やや大形。両側縁に敲打痕、一部磨滅。上下両方の刃縁に使用による磨滅あり。表面中央に柄ズレあり。表面左下端に自然面を一部残す。	
				幅	9.1	重	392.8			
第52図 PL.74	9	磨製石器 磨製石斧	埋土 1/2？	長	(4.8)	厚	1.1	変質蛇紋岩	定角式。小形。剥片素材？かなり良質な石材であり、搬入品？剥離成形後研磨整形、敲打痕はない。角が立つように研磨されている。部分的に剥離面の磨き残しがある。	
				幅	(2.3)	重	17.9			
第52図 PL.74	10	礫石器 凹石	埋土 完形	長	12.4	厚	9.1	粗粒輝石安山岩	円礫。敲打による凹み以外ほぼ全面磨面、方向は不明。表面に3.0㎝×2.2㎝×0.6㎝の凹み、裏面に3.5㎝×1.3㎝×深さ0.6㎝の凹みと1.8㎝×1.3㎝×0.7㎝の凹みあり。	
				幅	11.6	重	1302.5			

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図 PL.74	11	礫石器 凹石	埋土 完形	長 幅	19.8 4.2	厚 重	2.9 351.3	緑色片岩	棒状礫利用。表面は敲打後研磨整形。裏面は敲打のみで研磨されていない。周縁部に敲打痕あり。表面に長さ3.0cm×幅2.0cm×深さ0.3cmの凹みと長さ3.0cm×幅1.8cm×深さ0.3cmの凹みあり。	
第52図 PL.74	12	磨製石器 石錘	埋土 完形	長 幅	7.2 4.3	厚 重	1.3 61.9	雲母石英片岩	楕円形偏平礫利用。両側縁中央部に表面からの打撃による剥離あり。その抉り部は剥離後磨滅している。	
第53図 PL.74	13	礫石器 砥石	埋土 ほぼ完形	長 幅	9.3 9.1	厚 重	3.3 371.5	砂岩	扁平角礫利用。表裏両面の平坦部分を使用していると思われるが、風化が進行し、表面の剥落が多く、研磨方向が確認できない部分がある。	
2区10号墳										
第66図 PL.83	1	打製石器 石鏃	埋土 2/3	長 幅	2.2 (1.4)	厚 重	0.3 0.4	黒曜石	凹基無茎鏃。薄手。横長剥片素材。体部左側から左脚部にかけて欠損している。断面は薄い凸レンズ状。側面形に反りはない。	
第66図 PL.83	2	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	10.3 5.3	厚 重	2.1 116.0	硬質泥岩	撥形。横長剥片素材。自然面は残っていない。両側縁はよく敲打されている。刃部は薄く鋭い。使用痕はほとんどない。裏面がやや平坦で、表面が盛り上がる。側面形に反りはない。	
第66図 PL.83	3	礫石器 敲石	埋土 2/3	長 幅	(10.3) 7.4	厚 重	5.5 547.0	礫岩	厚みのある楕円形礫利用。重い石材だが、粒子が粗く割れ易い。割れ口は被熱のため赤変。上部欠損。下端の割れは敲打によるもの。	被熱、赤変
3区1号方形周溝墓										
第69図 PL.84	1	土師器 坩	溝内埋土 完形	口 稜	10.2 7.2	高	6.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部はナデ、口縁部は横ナデ。	
第69図 PL.84	2	土師器 台付甕	溝内埋土 口縁部・胴一部欠損	底	8.4			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒//にぶい黄橙	口縁部は残存しない。外面頸部～脚部全面ハケメ、胴下部一部ハケメが切れる。脚接合部刷毛工具で外面より調整する。内面ナデ、脚部内面は指ナデ。胴部下面脚と接合する部分に砂が貼り付けるように塗ってある。	
第69図 PL.84	3	土師器 壺	溝内埋土 口縁部上半と胴部の一部を欠損	口 底	14.3 10.6	高 胴	42.5 34.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、一部にハケメ、同部はハケメ(1cm当たり5～7本)、底部はヘラ削り。内面は口縁部上半が横ナデ、下半がヘラナデ、底部から同部はヘラナデか。	
第70図 PL.85	4	打製石器 石鏃	埋土 ほぼ完形	長 幅	2.1 (1.6)	厚 重	0.5 1.0	チャート	凹基無茎鏃。灰色不透明だが比較的良質な石材。横長剥片素材。頭端部がやや細く作出されている。左脚端極く一部欠損。両面加工だが、裏面は平坦で、表面がやや盛り上がる。側面形に反りがある。裏面に主要剥離面を残す。横断面形は表面がやや盛り上がる凸レンズ状を呈する。	
第70図 PL.85	5	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	7.6 3.9	厚 重	1.6 45.2	黒色頁岩	小形。横長剥片。トランシェ様。篦状石器に近い形態。側面形は僅かに反りがある。裏面に縦に帯状に自然面を残す。剥離は奥まで入らず、縁辺部のみ。横断面形は裏面側に出っ張る凸形。刃部に新傷痕あり。	
第70図 PL.85	6	打製石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長 幅	(11.5) 6.3	厚 重	1.7 124.9	蛇紋岩	分銅形。片岩質、扁平礫利用。薄手。刃縁は下端が直線的、上端がやや彎曲する。上部は使用による磨滅が顕著で光沢を持つ。下部は刃毀れあり。両側縁は敲打により敲き潰されている。両面加工で横断面形は薄い凸レンズ状で、表裏両面に部分的に自然面を残す。	
第70図 PL.85	7	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	9.3 5.8	厚 重	2.5 120.5	砂質頁岩	分銅形。厚手。礫素材？両側縁は敲打により敲き潰されている。刃縁は下端が直線的、上端がやや彎曲する。下端が厚く、上端が薄い。両端とも刃部再生されているものと思われる。側面形に反りはない。両面加工で横断面形は厚い凸レンズ状であるが、自然面は残らない。	
第70図 PL.85	8	磨製石器 磨製石斧	埋土 ほぼ完形	長 幅	3.4 (2.6)	厚 重	0.8 11.5	黄緑色結晶質岩	定角式。小形。薄手。剥片素材？頭部の縁が研磨されているので、欠損後再生したものと考えられる。刃部刃毀れ、一部欠損。器面風化。	
第70図 PL.85	9	礫石器 凹石	埋土 1/2?	長 幅	(13.2) 5.7	厚 重	2.1 278.5	緑色片岩	偏平棒状礫利用。表面に長さ2.3cm×幅1.8cm×深さ0.4cmの凹みと長さ2.6cm×幅1.7cm×深さ0.3cmの凹みが縦に並ぶ。下端および両側縁に敲打痕あり。表面の上端と凹みの周りに新傷痕あり。	
第70図 PL.85	10	礫石器 砥石	埋土 破片	長 幅	(5.9) (5.0)	厚 重	(2.2) 96.0	牛伏砂岩	石鹸状の棒状礫利用？ぼぼ全面磨面と考えられる。表面はかなり滑らかであるが、裏面はやや荒れた感じでザラついており敲いている可能性も否定できない。上下端とも欠損しており、全体の大きさは不明。	
第70図 PL.85	11	礫石器 砥石	埋土 破片	長 幅	(17.5) (14.5)	厚 重	2.1 667.1	粗粒輝石安山岩	板状角礫利用。表面は光沢を持つ程使用されているが、裏面はほとんど使用されていないものと思われる。表面の低い稜線の右側は強い磨れ、左側は弱い磨れで使用頻度の違いが認められる。右側～下側にかけて欠け口があまり風化しておらず、欠損しているものと思われる。	一部黒変。
2区2号方形周溝墓										
第72図 PL.85	1	土師器 高杯	北東周溝内埋土 杯部2/3欠損	口 脚	10.5 12.4	高	11.6	細砂粒/良好/明赤褐	杯部底部にホゾ穴を作り脚部に差し込む接合。杯部口縁部は横ナデ、稜下は器面摩滅のため整形不明、脚部は柱状部はヘラナデ、裾部は横ナデ。内面は脚部上半がヘラナデ。	
第72図 PL.85	2	土師器 壺	西部周溝内埋土 胴部～底部上位片	胴 底	27.7 7.4			細砂粒・粗砂粒/良好/灰黄	底部は砂底か、胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第72図 PL.85	3	礫石器 石皿	埋土 1/4以下	長 幅	(10.7) (8.5)	厚 重	(5.7) 665.2	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。部分破片。凹みは明確。内面は粗い敲打により整えられた後に使用され、弱い磨面となっている。縁辺からの打撃により割られている。裏面はやや平坦。	

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第72図 PL.85	4	磨製石器 石棒	北部周溝内埋土 1/2	長	(16.7)	厚	2.1	黒色片岩	細身石棒？刃は明確ではないが石剣形の可能性もある。下端部には下からの剥離が入り、断ち切られたように研磨されている。全面研磨面であり、敲打痕はない。裏面に上部に剥離痕の痕跡が残る。	
				幅	(2.7)	重	170.0			
2区4号方形周溝墓										
第74図 PL.85	1	打製石器 石鏃	中央部底面直上 2/3	長	(1.8)	厚	0.3	黒曜石	凹基無茎鏃。透明感のある良質な石材。剥片素材？先端極一部および両脚欠損。左脚は球果部分より欠損。側面形に反りはない。両面加工で横断面形は凸レンズ状、やや裏面側が平坦。	
				幅	(1.3)	重	0.5			
第74図 PL.85	2	打製石器 打製石斧	北東溝内埋土 2/3	長	(7.9)	厚	2.3	硬質泥岩	分銅形ではあるが、あまり整った形態ではない。楕円形礫利用。側面形に反りはない。表裏両面に部分的に自然面残す。下部は節理面より欠損。裏面稜部分一部磨滅。	
				幅	6.1	重	119.8			
第74図 PL.85	3	打製石器 二次加工ある剥片	北東溝内埋土 完形	長	8.1	厚	1.7	硬質泥岩	縦長剥片素材。打面は剥離面。先端が木葉形に尖るように左側は裏面から右側は表面から調整加工されている。裏面に打点および打瘤は残る。表面頂部と左下に一部自然面を残す。	
				幅	6.1	重	66.3			
第74図 PL.85	4	礫石器 砥石	東溝内埋土 完形？	長	11.1	厚	1.9	粗粒輝石安山岩	板状角礫利用。磨製石斧用？表面に極一部剥離面を残す。自然面部分は使い込まれ極めて滑らかとなっている。裏面および上端面は自然面のまま、側面および下端面は欠けたままで使用していない。もっと大きい状態で使用したのか、この状態で使用したのかは判然としない。	
				幅	6.4	重	203.6			
1区5号竪穴建物										
第76図 PL.85	1	弥生土器 台付甕	中央部南寄床面直上 脚部湾曲部片	高	(4.6)			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/黄橙	外面湾曲面は上から下へラナデ調整。脚部外面ヘラによる横ナデ。上部甕底部、ヘラ先による調整痕残る。脚部内面ヘラ調整痕残る。	
第76図 PL.85	2	弥生土器 壺	西部床面直上 口～胴下位	口	14.8			白・黒色鉱物・細砂粒・砂粒/にぶい赤褐	外面口縁部ナデ、頸部1連等間隔止め簾状文7歯、胴上部波状文、胴下部ナデ後縦方向の磨き。	
				高	(25.5)					
第76図 PL.85	3	弥生土器 甕	西部床面直上 口縁部1/3欠損	口	23.2	高	27.7	白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒含/橙	外面口縁端部ヘラナデ後横ナデ、口縁部ヘラ状工具による縦、斜めのナデ、頸部簾状文2段、2連止めだが、間隔は同じではない。上胴部波状文7歯、波の上下幅はあまりなく、櫛工具が器面に一定ではなく櫛歯が一定していない。波状文下下部は波状文前に横ナデ、胴下部は縦のナデ。内面口縁部はヘラ工具による斜め横ナデ、頸部ヘラによる横ナデ、胴部ヘラ状工具による横ナデ。	
				底	7.8					
第76図 PL.85	4	打製石器 石鏃	北部床面直上 ほぼ完形	長	(2.0)	厚	0.4	黒曜石	凹基有茎鏃。透明感のある良質な石材。横長剥片素材。茎部と頭端および左脚端一部欠損。側面形に反りはない。裏面に主要剥離面を残す。横断面形は表面がやや盛り上がる凸レンズ状を呈する。	
				幅	(1.3)	重	0.8			
第76図 PL.85	5	打製石器 剥片	北部床面直上 完形	長	5.4	厚	2.2	細粒輝石安山岩	横長剥片。打面は剥離面。調整剥離はない。裏面側は若干被熱を受けやや赤黒く変色している。	赤黒く変色
				幅	8.8	重	93.9			
1区6号竪穴建物										
第78図 PL.86	1	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:繊維・チャート・白色粒/良好/にぶい褐色	横位ＬＲを施す。あるいは羽状縄文構成か。	前期中葉
第78図 PL.86	2	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部下に押圧を加えた横位隆線を設ける。他は無文で横位ナデ調整を施す。内面は平滑なナデ調整。	後期前葉
第78図 PL.86	3	弥生土器 高坏	中央部埋土 湾曲部片	高	(4.2)			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/にぶい橙	湾曲部外面ヘラ調整、杯部底面丁寧なナデ、脚部内面ヘラ調整。	
第78図 PL.86	4	弥生土器 高坏	中央部埋土 湾曲部片	高	(2.8)			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/にぶい橙	湾曲部外面ヘラ調整、杯部底面丁寧なナデ、脚部内面ヘラ調整。	
第78図 PL.86	5	弥生土器 甕	北部埋土 胴下半部1/2	底	7.0			白色鉱物・黒色鉱物/にぶい褐	外面全面右上から下方向に左が下がる斜めの条痕文。内面同じ工具でのナデ。在地の土器の胎土ではない。	
第78図 PL.86	6	弥生土器 壺	北部床上4㎝ ほぼ完形	口	16.4	高	22.0	白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/橙	口縁部外面ヘラ状工具によるナデ後横方向の磨き。頸部屈曲する部分はヘラ状工具による整形痕の後、縦方向の磨き。内面口縁部横方向のヘラ調整後磨き、胴部ヘラ状工具による成形痕。口縁内面赤採。	
				底	6.0					
第78図 PL.86	7	弥生土器 壺	中央・南東部床上5㎝ 口～胴部2/3	口	21.1	高	33.6	白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒・砂粒/橙	口縁部横ナデ、端部刻み一周する。口縁部ナデ、頸部簾状文9歯、等間隔の2連止め。胴上部波状文、波の上下幅は狭い。胴下部ナデ。内面口縁部ナデ、胴部横ナデ。	
				底	9.0					
第78図 PL.86	8	弥生土器 壺	中央～南東部床面直上 胴上部～底部1/4	底	12.2			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/にぶい橙	胴部上位ヘラ状工具で斜め・横ナデ後磨き、胴下部ヘラナデ後縦方向の磨き。内面ヘラ状工具によるナデ。	
第78図 PL.86	9	弥生土器 壺	南部～南東部床面直上 頸～胴下部	胴	(47.3)			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/橙	頸部簾状文1連等間隔止め9歯、胴上位波状文、胴下部ナデ後縦方向の磨き。	
第79図 PL.86	10	打製石器 二次加工ある剥片	中央部床上5㎝ 完形	長	11.4	厚	2.5	硬質泥岩	大形縦長剥片。表面左側に帯状に自然面を残す。左上に新しい剥落部分あり。裏面は主要剥離面。右側縁に細かい剥離があるが、やや不規則なもので使用痕の可能性あり。	
				幅	5.6	重	125.5			
第79図 PL.86	11	打製石器 石核	中央部床面直上 完形	長	12.0	厚	4.7	硬質泥岩	大形横長剥片素材。裏面に大きく自然面を残す。表面上端から剥離している。下端に礫の段階で当たった時の割れが2カ所入っている。	
				幅	13.1	重	578.8			

遺物観察表

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
1区7号竪穴建物										
第81図 PL.86	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・チャート・白色粒/良好/褐灰色	波状縁波頂部を双波状となす。頂部より押圧を加えた隆線が垂下し頸部の円形貼付文に連接する。口唇部に沿って沈線２条、頸部に弧状短沈線を施す。内面横位研磨を施す。	後期前葉
第81図 PL.86	2	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	口縁部内屈し横位沈線を設ける。頸部外反し内外面とも弱い横位研磨を加える。	後期前葉
第81図 PL.86	3	縄文土器 深鉢	埋土 体部上半破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/灰白色	頸部屈曲する。２・３条の沈線による体部上半の区画文か。横位ＬＲを充填する。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第81図 PL.86	4	弥生土器 高坏	南部埋土 湾曲部片	高	(5.4)			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/にぶい黄橙	外面脚部ヘラナデ、内面ヘラによる調整痕残る。上部杯面底部ヘラによる丁寧な調整。杯面残存部赤採。	
第81図 PL.86	5	弥生土器 甕	南壁寄床面直上 口縁・胴一部	口	16.1			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/褐	口縁端部刻み一周する、頸部簾状文７歯、止め間隔一定ではない。口縁外面刷毛状工具により縦方向のナデ、その後口縁直下に横方向のナデ。胴上部波状文、波状の上下は一定せず、櫛の動きが器面に一定していない。波状文下刷毛状工具による縦・斜め方向の弱いナデ。内面口縁部縦・斜め方向の刷毛状工具のナデ後横方向の磨き。胴部横方向のナデ。	
第81図 PL.86	6	弥生土器 壺	貯蔵穴内埋土 口縁部1/4欠損	口 底	16.8 6.6	高	20.1	白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒・砂粒/にぶい橙	口縁部折り返し、折り返し部縦方向の刷毛状工具のナデ、口縁部直下には横方向の同じ工具での横ナデが一周する。頸部に簾状文が一周する、11歯２連止め、簾状文上下に波状文８歯。胴下半部にも口縁外面と同じ刷毛状工具の縦・斜めにナデがある。内面にも刷毛状工具で斜め横方向にナデが入っている。	
第81図 PL.86	7	弥生土器 壺	貯蔵穴内埋土 胴一部欠損	口 底	19.0 9.0	高	27.6	白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/橙	口縁端部刻み一周する。口縁部ナデ、頸部１連等間隔止め７歯、胴上部波状文７歯、胴部横ナデ後磨き、胴下半部ナデ後縦方向の磨き。内面口縁部ナデ後磨き、胴部ナデ。	
第81図 PL.87	8	弥生土器 壺	北東・南西部床面直上 完形	口 底	18.8 10.0	高	38.2	白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/橙	口縁端部やや内傾する。外面横方向のナデ、頸部簾状文ほぼ等間隔２連止め、胴上部縦、横方向のナデ後波状文。波状文は数度にわたり重ねて施文する。胴部は縦・横方向のナデ。内面口縁端部は横ナデ、頸部まではヘラ状工具によるナデ。胴下部はヘラ先状の横ナデ。	
第81図 PL.87	9	打製石器 スクレイパー	埋土 1/2？	長 幅	5.9 (3.0)	厚 重	1.4 24.8	硬質泥岩	横長剥片素材。右側欠損。裏面に主要剥離面、表面に一部自然面があるが、その部分が研磨され平滑となっている。上下両端の刃部は直線的、左側縁は内彎している。	
第81図 PL.87	10	打製石器 二次加工ある剥片	北東部床上５cm 完形	長 幅	6.9 4.2	厚 重	1.3 29.2	硬質泥岩	縦長剥片。表面に自然面を残す。打点は自然面で剥離時に縦二つに割けたものと考えられる。左側縁に細かい調整剥離が並ぶ。裏面側の剥離はいずれも不規則であり、使用痕の可能性が高い。	
第81図 PL.87	11	打製石器 二次加工ある剥片	南西壁寄埋土 完形	長 幅	9.2 15.7	厚 重	2.8 288.6	硬質泥岩	大形横長剥片素材。表面に自然面を残す。打面は自然面。表面上端に打点あり。下縁に微細な剥離が並び使用痕と考えられる。それ以外の部分も含め使用部分は色調がやや濃くなっている。左縁辺にやや不規則な剥離痕が並ぶ。	
第81図 PL.87	12	礫石器 敲石	埋土 完形	長 幅	5.1 1.8	厚 重	1.1 13.7	緑色片岩	小形棒状礫利用。両端に敲打痕が明瞭に残る。表上端のものは敲打による剥離。	
第81図 PL.87	13	礫石器 敲石	埋土 完形	長 幅	8.8 4.9	厚 重	2.4 139.8	デイサイト	楕円形礫利用。両端に敲打痕が明瞭に残る。表上端のものは敲打による剥離。表裏両面に磨れによる線状痕あり。右側面上部の欠け口部分にも磨れあり。	
3区1号竪穴建物										
第83図 PL.87	1	縄文土器 深鉢	炉内底面上８cm 体部中位～下半のみ残存					粗:石英・輝石少・片岩・白色粒/良好/にぶい橙色	縦位沈線に画された施文部と磨消部の交互懸垂文構成。６単位を数える。施文部は５条１単位の短条線を縦位に充填する。内面平滑なナデ。被熱のため内面色調が変色する。	後期前葉
第83図 PL.87	2	縄文土器 深鉢	炉内底面直上 体部下半のみ残存					細:石英・白色粒/良好/橙色	体部中位と下位で意図的な欠損か。強く開く体部下半。上位に弧状沈線下端を見る。外面平滑なナデ。内面は横位研磨を施す。内面は被熱のため変色。	後期前葉
第83図 PL.87	3	縄文土器 深鉢	北部床面直上 口縁～体部1/4欠損	口 高	11.0 12.3	底	5.0	粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	小型深鉢。非対称な波状突起を４単位設ける。口縁部と突起下に沈線を施し、頸部屈曲部以下に円文と太い沈線２条による渦巻状意匠や弧状意匠が配される。外面は平滑なナデ、内面は弱いナデ調整を施す。	後期前葉
第83図 PL.87	4	縄文土器 深鉢	中央部北寄埋土 口縁部破片					細:輝石・白色粒/良好/灰黄橙色	口唇部内屈。口縁部は無文で、口唇部と頚部屈曲部を押圧を加えた縦位隆線が繋ぐ。体部は太い沈線による弧状意匠が配される。内面丁寧な横位研磨を施す。	後期前葉
第83図 PL.87	5	縄文土器 深鉢	中央部北寄埋土 口縁部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/明黄褐色	小波状突起を付す。口縁部横位沈線２条を設けるが乱雑な施文。内面口唇部沈線は浅い。内外面とも弱いナデ調整。	後期前葉
第83図 PL.87	6	縄文土器 深鉢	中央部埋土 頸部破片					細:輝石・白色粒/良好/灰黄橙色	頸部屈曲部以下の体部に太い沈線による弧状意匠や縦位意匠が配される。無節Ｌを施す。４と同一個体。	後期前葉
第83図 PL.87	7	縄文土器 深鉢	中央部埋土 頸部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	頸部屈曲部に小円文と横位沈線３条を設ける。体部は沈線による環状意匠や波状意匠が配される。縄文はＬＲ充填施文。内面横位削り調整後研磨を加える。	後期前葉
第83図 PL.87	8	縄文土器 深鉢	西部埋土 体部上半破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/灰黄褐色	頸部屈曲し円文と横位沈線を設ける。体部は太い沈線による弧状・渦巻状意匠が配される。縄文はＬＲ充填施文。内面は丁寧な横位研磨を加える。	後期前葉
第83図 PL.87	9	縄文土器 深鉢	西壁寄床上５cm 口縁部破片					粗:石英・輝石少・片岩・白色粒/良好/橙色	大型深鉢か。口縁部に押圧を加えた横位隆線を配す。以下体部は縦位・斜位条線を施す懸垂文構成か。内面横位削り調整後弱い研磨を加える。	後期前葉

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第83図 PL.87	10	縄文土器 深鉢	南西部埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/浅黄橙色	口縁部下に押圧を加えた横位隆線を設ける。体部は無文で弱い研磨を施す。内面横位削り調整後ナデ。	後期前葉
第83図 PL.87	11	縄文土器 深鉢	中央部床上８cm 口縁～体部上半 破片					粗:石英・片岩・チャート少・白色粒/良好/橙色	無文。外面平滑なナデ調整。内面横位削り調整後弱い研磨を加える。外面口縁部に煤付着。	後期前葉
第83図 PL.87	12	縄文土器 深鉢	中央部埋土 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	斜位弧状沈線以下縦位沈線による懸垂文構成。縄文は斜位ＬＲ充填施文。内面ナデ、器面剥落。	後期前葉
第84図 PL.87	13	縄文土器 深鉢	西部床上５cm 体部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/にぶい橙色	体部下半か。横位弧状の沈線文を施す。意匠は不明。下半は縦位研磨を加える。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第84図 PL.88	14	縄文土器 深鉢	南西部床上８cm 体部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/にぶい褐色	２条の沈線による横位区画と半渦巻文を配す。施文は交互構成ではなく、横位ＬＲを充填する。下位は縦位研磨を加える。内面は横位削り調整後ナデ、煤が付着する。	後期前葉
第84図 PL.88	15	縄文土器 注口土器	西部床上10cm 注口部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/褐灰色	注口部上位に橋状把手を付し、波頂部より深い沈線が垂下する。内面口縁部は横位ナデ､注口部周辺は弱いナデ調整。	後期前葉
第84図 PL.87	16	縄文土器 深鉢	中央部埋土 底部のみ残存	底	8.4			粗:石英・輝石少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	体部下半は外反気味に開く。無文で内外面ともナデ調整。器面磨滅する。	後期前葉
第84図 PL.88	17	縄文土器 深鉢	中央部西寄床上 ９cm 体部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/橙色	沈線で画された施文部に列点状刺突文を充填する。磨消部は平滑なナデ調整。内面器面磨滅。	後期初頭
第84図 PL.88	18	打製石器 打製石斧	中央部西寄床上 ８cm ほぼ完形	長 幅	10.7 6.3	厚 重	2.5 193.4	粗粒輝石安山岩	撥形。頭部が尖り、刃部平面形が直刃となる。剥片素材。表裏両面に第一次剥離面を残す。自然面は残っていない。両側縁部を敲打により潰している。側面形に反りはない。刃部に一部欠損があるが、磨滅痕はほとんどない。	
第84図 PL.88	19	磨製石器 磨製石斧	埋土 ほぼ完形	長 幅	(10.4) 6.0	厚 重	3.9 406.2	変輝緑岩	定角式。厚手。重量感のある石材。楕円形礫利用。頭部は打撃による欠損。刃部平面形は円刃だが､本来は直刃であった可能性がある。側面形は両凸刃(蛤刃)。刃部は欠損後敲打による再生途中で放棄されたものと考えられる。胴部はよく研磨され、黒みを帯びた光沢を放つ。	
第84図 PL.88	20	磨製石器 磨製石斧未成品	埋土 完形	長 幅	12.2 5.3	厚 重	3.3 348.7	変輝緑岩	乳棒状、短い。楕円形礫利用。剥離成形後敲打、研磨整形未完成品。刃縁平面形は円刃。側面形は弱凸強凸刃、刃部に鋭さはなく完成していない。。自然面は表裏両面と右側面に部分的に残す。自然面はやや光沢を持つ部分あり。刃部や側面に部分的に剥離面を残す。	
第84図 PL.88	21	打製石器 尖頭器	中央部北寄埋土 ほぼ完形	長 幅	(10.8) 2.2	厚 重	1.1 20.7	硬質頁岩	草創期。柳葉形尖頭器。剥片素材？頭端と基部欠損。基部は尖るものと思われる。丁寧な調整剥離が両面に施され、細長く仕上げられている。側面形にほとんど反りはない。横断面は凸レンズ状。	
第84図 PL.88	22	礫石器 凹石	中央部西寄埋土 完形	長 幅	10.4 7.9	厚 重	5.8 624.7	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。表面が平坦で裏面が山形に盛り上がる。表面最大最深の凹みは長さ2.5cm×幅2.0cm×深さ0.5cm。凹み周辺部は平坦で滑らかであり磨面と考えられるが方向は不明。側面に敲打痕および敲打の際の剥離あり。	
第84図 PL.88	23	礫石器 磨石	中央部埋土 完形	長 幅	11.9 10.3	厚 重	6.4 1088.3	粗粒輝石安山岩	円礫利用。重量感のある石材。表裏両面とも磨面、敲打の集中する部分あり。周縁部敲打。	
第85図 PL.88	24	礫石器 石皿	南西部埋土 1/4?	長 幅	(16.5) (12.5)	厚 重	(6.0) 1019.9	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。敲打後研磨整形。ほぼ自然面はない。内面は使用により、外面もよく磨られている。廃棄の際に裏側から敲き割っている。	
第85図 PL.88	25	礫石器 多孔石	中央部床上９cm 完形	長 幅	18.0 18.3	厚 重	12.3 5486.4	粗粒輝石安山岩	大形円礫利用。表裏両面に無数の凹みあり。表面の方が径1.5cm前後、深さが0.8cmと深いものが多い。凹みの周りは磨面。周縁部は自然面。	
第85図 PL.88	26	磨製石器 石棒	西部床上４cm 完形	長 幅	32.7 12.3	厚 重	8.1 5506.6	緑色片岩	棒状礫利用。敲打成形後研磨整形。敲打により一部剥離痕が残る。両側縁は敲打により敲き割って幅を減じている。	
第85図 PL.88	27	磨製石器 石棒	西部床上６cm 1/2?	長 幅	(30.4) 10.8	厚 重	8.7 4827.4	緑色片岩	大形棒状礫利用。敲打による小さく浅い凹みあり。方向は不明だが、器面は敲打後研磨されている可能性あり。左側縁からの打撃による欠損。全体がどのくらいあったかは不明。	

３区２号竪穴建物

第88図 PL.88	1	縄文土器 深鉢	炉内底面下８cm 体部中位～底部 残存	底	7.0			粗:石英・輝石・白色粒/良好/褐色	薄手の器厚で内湾する体部中位。縦位沈線２条による分岐懸垂文。縄文は横位・縦位ＬＲ充填施文。内面は平滑なナデ調整。被熱のため内面体部中位の器壁剥落。	後期前葉
第88図 PL.88	2	縄文土器 深鉢	北部埋土 口縁部破片					細:輝石・白色粒/良好/にぶい橙色	口縁部屈曲し横位沈線を設ける。頸部は無文で屈曲部に横位沈線を配す。内面丁寧な横位研磨を加える。	後期前葉
第88図 PL.88	3	縄文土器 深鉢	炉内埋土 口縁部破片					粗:石英・片岩/良好/褐色	口縁部外反し体部上半は緩やかに内湾する。無文で口縁部は弱い研磨、体部は平滑なナデを施す。内面弱い研磨。	後期前葉
第88図 PL.88	4	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/黒褐色	内折部に口縁部沈線を設け頸部は外反し下端に横位沈線を施す。内外面とも横位研磨を加える	後期前葉
第88図 PL.88	5	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	小波状突起を付し口縁部沈線を設ける。突起下より縦位沈線と斜位沈線が懸垂し、沈線間に列点状刺突文を施す。内面弱いナデ調整に止まり凹凸が顕著。	後期前葉
第88図 PL.88	6	縄文土器 深鉢	北東部埋土 口縁部破片					粗:石英・片岩・チャート/良好/にぶい黄褐色	口縁部は肥厚し、円文を施す。体部は無文で弱い縦位研磨を加える。内面は横位削り調整に止まる。	後期前葉

遺物観察表

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第88図 PL.88	7	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/灰褐色	波状突起。外面波頂部は縦位短沈線を施す。下端に横位隆線を設け８字状貼付文を付す。左下端部より内面に貫孔する。内面波頂部に円文を配す。	後期前葉
第88図 PL.88	8	縄文土器 深鉢	北部埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/明赤褐色	おそらく環状の口縁部突起。隆線で形成され沈線と円文が重なる。	後期前葉
第88図 PL.88	9	縄文土器 深鉢	中央部埋土 体部破片					細:石英・片岩/良好/橙色	内湾する体部上半。振幅の大小ある２種の縦位波状沈線による懸垂文構成。縄文は横位ＬＲ。内面横位研磨。	後期前葉
第88図 PL.89	10	縄文土器 深鉢	北部埋土 体部破片					粗:石英・輝石・チャート・白色粒/良好/浅黄色	体部中位か。縦位沈線２条に画された幅狭の列点状刺突文施文部による懸垂文構成。無文部は縦位ナデ調整。内面は斜位削り調整後弱い研磨を加える。	後期前葉
第89図 PL.88	11	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					粗:石英・白色粒/良好/黒色	半渦巻状意匠を連接した２・３条の隆線による懸垂文構成。内面弱いナデ調整。	後期前葉
第89図 PL.88	12	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/灰褐色	内湾する体部中位。横位沈線を設け上位に短沈線による対弧状意匠を配す。内面ナデ調整。	後期前葉
第89図 PL.89	13	縄文土器 深鉢	炉脇埋土 底部3/4残存	底	12.4			粗:石英・輝石・チャート・白色粒/良好/明黄褐色	大型の深鉢。僅かに上げ底を呈す。外反気味に開く体部下半。無文で縦位削り調整後横位ナデ。内面横位ナデ。底面に網代痕が僅かに残る。	後期前葉
第89図 PL.89	14	縄文土器 深鉢	西壁寄埋土 底部破片	底	(11.0)			粗:石英・輝石・白色粒/良好/明赤褐色	大型の深鉢。厚手の器厚を呈す。無節Ｌ斜位施文。外器面磨滅。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第89図 PL.89	15	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英・片岩・チャート・白色粒/良好/褐色	沈線に画された施文部による意匠文が配される。列点状の刺突文を施す。内面丁寧な横位研磨。	後期初頭
第89図 PL.89	16	打製石器 打製石斧	炉内埋土 ほぼ完形	長 幅	11.4 5.3	厚 重	2.8 246.4	粗粒輝石安山岩	短冊形。棒状礫利用？厚みがある。反りはほとんどない。刃部左角欠損。両側縁は敲打により敲き潰されている。風化しており、使用痕は明瞭ではない。	
第89図 PL.89	17	打製石器 打製石斧	南西部床面直上 2/3	長 幅	(9.6) (6.6)	厚 重	2.8 166.5	硬質泥岩	分銅形。大形剥片素材？刃部は上下端とも欠損。側縁部は敲打により敲き潰されているが、やや磨滅している部分あり。	
第89図 PL.89	18	磨製石器 磨製石斧	西部埋土 完形	長 幅	14.7 6.1	厚 重	4.3 748.7	変玄武岩	楕円形礫利用。定格式磨製石斧を刃部欠損後凹石に転用しているものと考えられる。現状のものに刃部はない。表面縦に２カ所の中が比較的滑らかな極浅い凹みあり。全面敲打成形後研磨整形。	
第89図 PL.89	19	磨製石器 磨製石斧	埋土 破片	長 幅	(6.0) (4.4)	厚 重	(2.9) 140.0	変輝緑岩	乳棒状。楕円形礫利用？頭部破片。敲打成形後研磨整形。裏面は表面に比べやや平坦で中央に自然面を残す。胴部は敲打痕が残る程度に研磨されている。頭部に使用による打撃痕あり。側縁部からの打撃が元で欠損している。	
第89図 PL.89	20	礫石器 凹石	中央部北寄埋土 完形	長 幅	16.9 8.2	厚 重	4.4 1096.5	緑色片岩	長楕円形礫利用。石英の点紋のある石材。表裏両面に２カ所ずつの凹みあり。表面の凹みは上のものが径2.8㎝×深さ0.7㎝、下のものが径2.7㎝×深さ0.6㎝でほぼ類似している。表裏両面の大部分と側面の平坦部分は研磨されているものと思われる。上下両端に敲打痕あり。	
第89図 PL.89	21	礫石器 凹石	南部埋土 完形	長 幅	20.3 5.2	厚 重	3.8 571.3	緑色片岩	棒状礫利用。点紋のある石材。表と裏に下から1/3程の位置に径2.0㎝×1.8㎝×深さ0.3㎝、径1.8㎝×1.3㎝×0.2㎝の凹みあり。下部に敲打痕あり。器面の多くはやや磨滅しているが、研磨整形しているか否か不明である。	
第89図 PL.89	22	磨製石器 石棒	北部埋土 破片	長 幅	(20.6) 9.1	厚 重	(5.7) 1622.3	緑色片岩	棒状礫利用。上端部はかなり滑らかに研磨されている。表から側面は敲打後研磨整形、風化による剥落もあり不明な部分も多い。縦に割けており裏面は欠損。	
３区３号竪穴建物										
第90図 PL.89	1	縄文土器 深鉢	中央部西寄埋土 口縁部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/灰黄色	口唇部に僅かに凹線状となるが顕著ではない。他は無文で外面は平滑な横位ナデ調整、内面は横位研磨を加える。	後期前葉
第90図 PL.89	2	縄文土器 深鉢	中央部西寄埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/淡黄色	口唇部は僅かに凹線状となるが明瞭ではない。他は無文で外面は平滑な横位ナデ調整､内面は弱い横位研磨を加える。	後期前葉
第90図 PL.89	3	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・チャート・白色粒/良好/黄橙色	波状突起に縦位短沈線を施す。口縁部は内屈し横位沈線を設ける。頸部は外反し平滑なナデ調整。突起内面にも円文を配す。頸部内面は平滑なナデ調整。	後期前葉
第90図 PL.89	4	縄文土器 深鉢	埋土 口頸部破片					細:石英少・チャート・白色粒/良好/灰色	口縁部下に強い押圧を加えた横位隆線を付す。口縁部の一部に横位研磨。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第90図 PL.89	5	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英・輝石/良好/褐灰色	横位および弧状斜位沈線により区画文を画す。区画内はＬＲを充填する。内面丁寧な横位研磨を加える。	後期前葉
第90図 PL.89	6	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	体部中位か。縦位沈線に画された施文部と磨消部の懸垂文構成。施文部は５・６条単位の短条線を縦位に施文する。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第90図 PL.89	7	打製石器 打製石斧	埋土 1/2	長 幅	(8.1) 5.9	厚 重	1.2 55.1	硬質泥岩	撥形。薄手。大形扁平剥片素材。側縁部は敲打されている。刃部使用痕は不明瞭。中程で欠損しているのはあまりに薄く長い使用に耐えられなかったものと考えられる。側面形に反りはない。	
２区４号竪穴建物										
第92図 PL.89	1	縄文土器 深鉢	炉内底面直上 体部下半～底部残存	底	7.0			粗:石英・白色粒/やや軟質/明黄褐色	強く開く体部下半。数条単位の条線が縦位に施される。外器面磨滅。体部中位に被熱痕跡を見る。内面平滑なナデ。	後期前葉

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図 PL.89	2	縄文土器 深鉢	埋土 体部下半～底部 残存	底	10.0			粗:石英・輝石・片岩・褐色粒・白色粒/やや軟質/橙色	体部下半強く開く。斜位沈線の下端を見るが磨滅のため判然としない。内面ナデ。	後期前葉
第93図 PL.89	3	縄文土器 深鉢	埋土 体部中位～底部 残存	底	7.0			粗:石英・輝石・褐色粒・白色粒/やや軟質/橙色	内湾気味に立ち上がる体部下半。無文で縦位削り調整後ナデを加える。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第93図 PL.89	4	縄文土器 深鉢	炉内底面直上 体部破片					細:輝石・褐色粒・白色粒/やや軟質/黒褐色	体部下半。沈線による弧状区画文下端か。僅かに斜位ＲＬが看取される。内外器面被熱のため磨滅する。	後期前葉
第93図 PL.89・90	5	縄文土器 深鉢	埋土 口縁～底部破片 ３点					粗:石英・輝石・褐色粒・白色粒/軟質/橙色	口縁部に僅かに沈線の痕跡を見るが器面磨滅するため判然としない。	後期前葉
第93図 PL.90	6	縄文土器 深鉢	南部床面直上 口縁部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	捻転状突起。表裏および両側縁より貫孔する。内外面とも平滑なナデ調整を施す。	後期前葉
第93図 PL.90	7	縄文土器 深鉢	東部床面直上 口縁部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい褐色	波頂部突起。裏面が捻転状意匠を配す。裏面と左側面が貫孔する。内外面とも平滑なナデ調整。	後期前葉
第93図 PL.90	8	縄文土器 深鉢	東部床面直上 口縁部破片					細:石英・輝石・片岩粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口唇部沈線を設け横位８字状意匠を加える。以下体部は２条の弧状沈線による懸垂文構成か。内外面弱いナデ調整。	後期前葉
第93図 PL.90	9	縄文土器 深鉢	南部床面下４cm 口縁部破片					細:石英・片岩粒/軟質/にぶい褐色	口唇部内稜状に突出し横位沈線を設ける。以下細沈線による弧状意匠が配される。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第93図 PL.90	10	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/淡黄色	口縁部に強い刺突文を加えた横位隆線を設け、以下縦位条線を施す。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第93図 PL.90	11	縄文土器 深鉢	北部埋土 口縁部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部に押圧を加えた横位隆線を設け､同隆線が懸垂する。内外面とも平滑な横位ナデ調整を施す。	後期前葉
第93図 PL.90	12	縄文土器 深鉢	東部床上４cm 口縁部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	無文。内外面とも斜位ナデ調整が施される。	後期前葉
第93図 PL.90	13	縄文土器 深鉢	埋土 口頸部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/灰黄褐色	幅広の横位隆線に大型の円形押圧を加える。体部は無文で横位ナデ調整、内面も横位ナデ調整を施す。	後期前葉
第94図 PL.90	14	縄文土器 深鉢	北東部床面直上 底部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/淡黄色	内湾気味に開く体部下半。無文で縦位削り調整後ナデ。内面ナデ調整。外器面磨滅。	後期前葉
第94図 PL.90	15	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細:石英・輝石多・白色粒/良好/明赤褐色	緩やかな波状縁か。隆線と凹線による口縁部区画文。横位ＬＲを充填する。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第94図 PL.90	16	縄文土器 深鉢	南部床面直上 口縁部破片					粗:石英・白色粒/良好/黄灰色	口縁部横位隆線を設け以下斜位縦位ＬＲを充填する。内面横位ナデ調整。	中期末葉
第94図 PL.90	17	打製石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長 幅	(10.4) 5.2	厚 重	1.6 117.2	粗粒輝石安山岩	撥形。剥片素材。表側に自然面、裏面に主要剥離面。刃部に使用痕あり。両側縁に敲打痕有り。横断面形はやや薄い凸レンズ状。側面形にわずかに反りあり。頭端部は欠損。	
第94図 PL.90	18	打製石器 打製石斧	北部床面直上 ほぼ完形	長 幅	9.9 5.7	厚 重	2.0 112.2	粗粒輝石安山岩	撥形。横長剥片素材？刃部左側一部欠損。側縁部に柄ズレによる磨滅あり。表面に大きく自然面を残す。横断面形は薄い凸レンズ状。側面形に反りはない。	
第94図 PL.90	19	磨製石器 磨製石斧未成品	埋土 完形	長 幅	13.3 5.7	厚 重	1.8 208.2	変玄武岩	打製石斧状。横長剥片素材？側面形に反りはないので、偏平礫の可能性もある。表面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。横断面形は薄い凸レンズ状。側縁は敲打されているが、それが原因で２つに割れたものと考えられる。欠け口に段差があるので欠損後上端を刃部に再生しようとした可能性がある。一部研磨面あるが､全体にはおよんでいない。上下両端とも刃部は完成していない。	２点接合
第94図 PL.90	20	磨製石器 磨製石斧未成品	北部床上５cm 完形	長 幅	14.0 6.4	厚 重	3.3 410.1	変玄武岩	定角式。楕円形礫利用。剥離成形後敲打、研磨整形。両凸刃(蛤刃)を目指しているものと思われるが、作成中で刃部は完成していない。表面敲打部分は自然面、裏面中央にも縦に長く自然面が残る。側縁部はよく敲打されている。	
第94図 PL.90	21	磨製石器 磨製石斧	東部床面直上 ほぼ完形	長 幅	(10.7) 4.8	厚 重	3.3 282.8	黄緑色結晶質岩	乳棒状。楕円形礫利用。剥離後敲打成形、研磨整形。刃縁はやや丸味を持つ直刃。側面形は両凸刃(蛤刃)、刃縁に鋭さはない。部分的に剥離面を残す。刃部は斜め横方向の研磨痕の上を刃縁に直交する使用痕が覆う。体部は敲打痕が目立つが研磨痕あり。上面は剥離面。表面右上部の剥離は上からの打撃によるもの。裏面体部の欠損は横方向からの打撃によるもの。	
第94図 PL.90	22	磨製石器 磨製石斧	南部床面直上 ほぼ完形	長 幅	9.9 5.4	厚 重	3.2 248.7	変玄武岩	定角式？楕円形礫利用。欠損後刃部再生。剥離成形後敲打、研磨整形。両凸刃(蛤刃)を目指しているものと思われるが、刃部は剥離後敲打途中で完成していない。裏面中央に自然面が残る。側縁部および両面とも厚さを減らそうとよく敲打されている。	
第94図 PL.90	23	磨製石器 磨製石斧	南東部床面直上 1/2?	長 幅	(5.8) 5.4	厚 重	(1.8) 81.4	変玄武岩	定角式。刃部平面形は直刃。側面形は弱凸強凸刃。横断面形は裏面がやや平坦で表面が盛り上がる低いカマボコ形。刃部は薄く鋭く横もしくは斜め方向に研磨されている。その上に使用痕である縦方向の線状痕と細かい刃毀れがある。両側縁に剥離面の磨き残しがある。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図 PL.90	24	磨製石器 磨製石斧	埋土 1/3？	長 幅	(4.3) 4.9	厚 重	(2.0) 65.7	黄緑色結晶質岩	定角式。刃部破片。刃部平面形はやや丸味を持つが、直刃、側面形は両凸刃(蛤刃)。研磨は斜めもしくは横方向。刃部使用痕は刃縁に対して直交しており横斧としての使用が考えられる。表面に研磨後風化した部分が、裏面に剥離面の磨き残しが認められる。	
第94図 PL.90	25	磨製石器 磨製石斧未成品	埋土 完形	長 幅	12.8 6.1	厚 重	3.9 528.1	黄緑色結晶質岩	楕円形礫利用。剥離、敲打成形後研磨整形。刃部平面形は直刃、両凸刃(蛤刃)を目指して一部横または斜めに研磨し始めているが、刃部作出には至っていない。	
第94図 PL.90	26	打製石器 剝片	南西部床面直上 完形	長 幅	5.6 6.6	厚 重	1.5 55.8	細粒輝石安山岩	横長剥片素材。三角形の下辺に微細な剥離痕が並ぶ。使用痕と考えられる。裏面に主要剥離面、打面は剥離面。自然面はない。	
第94図 PL.90	27	礫石器 凹石	埋土 ほぼ完形	長 幅	19.2 7.1	厚 重	4.4 587.6	緑色片岩	棒状礫利用。表面に長さ2.3㎝×幅1.7㎝×深さ２㎜と長さ2.0㎝×幅1.7㎝×深さ２㎜の浅い凹みが２つ縦位置に並ぶ。表裏両面とも磨面で弱い磨痕がある。側面や上下両端には敲打痕あり。右上と下端の欠損は敲打の打撃によるもの。	
2区８号竪穴建物										
第95図 PL.90	1	縄文土器 深鉢	Ｐ６内埋土 口縁部破片					細:輝石・白色粒/良好/橙色	口唇部内削状。無文で内外面とも平滑なナデ調整を施す。	後期前葉
第95図 PL.90	2	縄文土器 深鉢	Ｐ５内埋土 体部破片					粗:石英・輝石・褐色粒・白色粒/良好/明黄褐色	体部下半。無文で外面は縦位ナデ、内面は平滑なナデ調整を施す。外面器面磨滅。	後期前葉
1区５号土坑										
挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第96図 PL.90	1	打製石器 剝片	中央部埋土 完形	長 幅	8.7 11.9	厚 重	3.1 257.2	硬質泥岩	横長剥片。打面は剥離面。表面下半に自然面を１/２程残す。裏面は主要剥離面。使用痕や加工痕はない。	
3区６号土坑										
第96図 PL.90	1	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	沈線による重弧状意匠か。縄文はＬＲを施す。内面研磨。	後期前葉
第96図 PL.90	2	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	底	7.0			細砂粒/良好/褐	胴部はヘラミガキ、底部はヘラ削りか。内面は底部から胴部にヘラミガキ、器面摩滅のため単位不明。	
3区８号土坑										
第97図 PL.90	1	磨製石器 磨製石斧	北部壁寄底面直上 1/２?	長 幅	(6.4) (3.8)	厚 重	(2.3) 97.5	変はんれい岩	乳棒状。棒状礫利用？上部欠損。剥離、敲打成形後研磨整形。部分的に剥離面を残す。刃部は光沢を持つ程丁寧に研磨されているが、胴部は敲打痕が残る程度に粗く研磨されている。刃部は使用による微細な剥離や線状痕が見られる。	
3区９号土坑										
第97図 PL.90	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細:石英少・褐色粒・白色粒/良好/浅黄橙色	口縁部内屈し横位沈線を設ける。頸部は外反し無文、横位ナデ調整を施す。内面は平滑なナデ調整。	後期前葉
3区10号土坑										
第97図 PL.90	1	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/橙色	体部下半か。無文で縦位研磨を施す。内面横位ナデ調整。	後期前葉？
1区12号土坑										
第97図 PL.90	1	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	体部下半か、無文で縦位削り調整後ナデ。内面はナデ調整。	後期前葉
2区14号土坑										
第98図 PL.90	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黒褐色	外器面が著しく磨滅・器壁剥落し判然としない。内面は平滑なナデ調整。	前期中葉以前
第98図 PL.90	2	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/黄褐色	無文。外面器面磨滅、内面横位ナデ調整。	後期前葉
第98図 PL.90	3	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	9.5 8.5	厚 重	2.0 159.6	硬質泥岩	分銅形。横長剥片素材。下刃部欠損後再生したため刃縁が直線的。裏面１/２程自然面。横断面形は凸レンズ状。側面形に反りはない。使用痕はほとんど見られない。刃部再生後はあまり使用されていない可能性が高い。側面の抉り部分はよく敲打されている。	
2区16号土坑										
第99図 PL.91	1	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英・白色粒/良好/にぶい黄褐色	垂下・弧状沈線に画された磨消部と施文部の懸垂文構成か。施文部は縦位ＬＲ充填施文。外器面磨滅。内面横位ナデ調整。	中期後葉
第99図 PL.91	2	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英・白色粒/良好/黒褐色	結節状の縦位刺突文を施す。内外面とも平滑なナデ調整。	後期前葉
第99図 PL.91	3	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	体部下半か、無文で縦位ナデ調整を施す。内面弱いナデ調整。	後期前葉
2区17号土坑										
第99図 PL.91	1	縄文土器 深鉢	南部底面直上 口縁～体部 1/３残存	口	(29.8)			粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	無文。緩やかな括れを持たせる。外面弱いナデ、内面横位ナデ調整。外面下半に被熱のための変色を見る。	後期前葉

挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
1区20号土坑										
第99図 PL.91	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細:石英・白色粒/良好/灰黄褐色	波状縁か。沈線と連続刺突文による弧状意匠。ＲＬを充填施文する。内面研磨。	中期前葉
1区21土坑										
第100図 PL.91	1	礫石器 凹石	南部埋土 完形	長 幅	15.6 9.6	厚 重	5.6 1120.7	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。ほぼ全面磨面で側面から上下に敲打痕あり。表面に縦に２カ所敲打による凹み、右側縁部に同様な凹みあり。	ほぼ全面被熱黒変、一部赤変。
第100図 PL.91	2	礫石器 敲石	南東部埋土 完形	長 幅	10.2 6.4	厚 重	4.7 421.6	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。下端に敲打痕明瞭、敲打による剥離あり。	
3区1号ピット										
第101図 PL.91	1	弥生土器 小型甕	底面直上 底部	底	3.6			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/にぶい橙	外面上から下へ磨き。内面底面にハケメ・磨き。	
第101図 PL.91	2	土師器 小型壺	底面直上 底部～胴部下半	底 胴	3.4 8.8			細砂粒/良好/明黄褐	外面は器面の大部分が剥離しており、整形不鮮明。内面はヘラナデ、単位不鮮明。	
1区91号ピット										
第102図 PL.91	1	打製石器 打製石斧	西部埋土 1/2	長 幅	(9.1) (6.2)	厚 重	(3.6) 281.3	硬質泥岩	短冊形。厚手。楕円形礫利用。裏面に縦長に自然面残す。両側縁は敲打により敲き潰されている。下半は側縁からの敲打が原因で欠損。	
2区4号溝										
第107図 PL.91	1	打製石器 二次加工ある剥片	埋土 完形	長 幅	5.3 8.6	厚 重	1.2 55.3	硬質泥岩	横長剥片素材。打面は剥離面。表面下辺に横に帯状に自然面を残す。裏面に主要剥離面あり。下縁辺部のみ加工痕と考えられる細かい剥離が並ぶ。	
1区10号溝										
第110図 PL.91	1	打製石器 二次加工ある剥片	埋土 完形	長 幅	5.1 8.9	厚 重	2.0 94.2	硬質泥岩	横長剥片素材。打面は自然面。右側縁部に一部調整剥離が施される。表面に自然面、裏面は主要剥離面。	
第110図 PL.91	2	打製石器 剝片	埋土 完形	長 幅	7.2 6.5	厚 重	1.9 86.2	硬質泥岩	楕円形剥片素材。表面に自然面、裏面に主要剥離面を大きく残す。縁辺部の薄い部分に細かい不規則な剥離があり、自然に付いたことも考えられるが､使用痕の可能性もある。縦断面形は低い山形。	
1区11号溝										
第111図 PL.91	1	打製石器 スクレイパー	埋土 完形	長 幅	5.9 5.0	厚 重	1.7 44.2	硬質泥岩	頂部の尖らない二等辺三角形､石匙に近い形状。剥片素材。層理が発達した石材。刃部平面形は直刃。裏面頭部に打点が残る。片面加工。裏面から表面側の打撃により整えられている。頭部から表面に自然面を残す。左側縁に敲打による潰れあり。	
第111図 PL.91	2	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	12.2 6.5	厚 重	2.4 199.9	細粒輝石安山岩	撥形。横長剥片素材。裏面に大きく自然面を残す。側縁部を主体に調整加工。側面形に若干反りあり。横断面形は低い山形。左側面および裏面刃部の稜部に極わずかに磨れがある。	
第111図 PL.91	3	礫石器 磨石	埋土 完形	長 幅	9.3 9.4	厚 重	1.6 242.1	緑色片岩	扁平円礫利用。かなり真円に近い整った形。表裏両面とも磨面で滑らか。周縁部には敲打痕が巡る。	
2区2号集石										
第113図 PL.92	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					粗:石英･輝石少･褐色粒･白色粒/良好/にぶい橙色	上面半円状の柱状突起。中位円孔を配し、両側縁と裏面両端部に円文を施す。外面は沈線と刺突文を埋める。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第113図 PL.92	2	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					細:石英･白色粒/良好/にぶい黄橙色	縦位沈線で画された施文部と磨消部。施文部は縦位ＬＲ充填施文。磨消部および内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第113図 PL.92	3	弥生土器 高杯	南壁際床下５㎝ 脚部1/3	底	10.2			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/橙	杯底部磨き。脚部内外面ナデ。	
第113図 PL.92	4	弥生土器 台付甕	西部床下６㎝ 脚部	脚 高	7.1 4.7			白色鉱物・黒色鉱物・細砂粒/明黄橙	外面ヘラナデ。内面ヘラによる回したように横ナデ。甕底面は剥離。	
第113図 PL.92	5	弥生土器 甕	南西部床面直上 口縁片	口	15.8			白色鉱物・黒色鉱物・砂粒/橙	外面頸部に簾状文３連止め９歯、口縁部に羽状文部分的に内外面ともに表面の剥離が大きい。内面かすかに横方向のナデの痕跡が確認できる。	
第113図 PL.92	6	土師器 蓋	東部埋土 摘	摘	3.0			細砂粒/良好/にぶい橙	摘は天井部に貼付、摘周縁部はナデ。	
第113図 PL.92	7	土師器 高杯	中央部床面直上 脚部上半					細砂粒/良好/明黄褐	脚部はヘラ削り後ヘラミガキか、器面摩滅のためヘラ削りの単位不明。内面はヘラナデ。中位に円形の透孔が３方に設けられている。	
第114図 PL.92	8	打製石器 石鏃	埋土 完形	長 幅	15.2 10.4	厚 重	3.4 632.4	粗粒輝石安山岩	撥形。縦長剥片素材。両側縁に磨滅痕あり。刃部平面形は直線的。裏面が平坦で表面が盛り上がる。側面形は表面側に反りあり。表面左側に大きく自然面を残す。裏面に主要剥離面を大きく残す｡刃部と側縁部に極わずかに磨れあり。頭部は欠損していない。	
第114図 PL.92	9	打製石器 石鏃未成品	南部床面直上 完形	長 幅	18.2 12.4	厚 重	4.2 978.3	粗粒輝石安山岩	大形縦長剥片素材。下端には刃部が作出されているが、側面部の調整は左側縁に一部調整加工が見られるが、右側縁は粗いままで敲打痕はない。裏面に大きく自然面を残す。	
第114図 PL.92	10	打製石器 打製石斧	北西部埋土 完形	長 幅	11.7 8.9	厚 重	2.0 238.6	粗粒輝石安山岩	分銅形。横長剥片素材。両側縁に敲打痕あり。括れが明確、上下の刃縁が直線的。裏面が平坦で表面が盛り上がる。側面形はわずかに反りあり。表面に大きく第一次剥離面を残す。裏面に主要剥離面はない。自然面もない。刃部と括れ部に極わずかに磨れあり。	

遺物観察表

挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第114図 PL.92	11	磨製石器 磨製石斧	西部床面直上 破片	長	(3.7)	厚	(2.8)	黄緑色結晶質岩	定角式。頭部破片。敲打成形後研磨整形。よく研磨され、敲打痕はあまり残っていない。頭端部右側に使用による敲打痕あり。	
				幅	(5.6)	重	95.9			
第114図 PL.92	12	磨製石器 磨製石斧未成品	南西部床面直上 完形	長	11.4	厚	4.5	緑色片岩	長方形。分厚く重い石材。亜角礫利用。表裏両面および左側縁に自然面を残す。両側縁は敲打痕により整形。下端にも敲打痕有り。全体の形は整えられているものの、刃部は作出されていない。研磨前の個体と考えられる。	
				幅	7.2	重	610.5			
第114図 PL.92	13	磨製石器 磨製石斧未成品	南西部床面直上 2/3	長	(14.6)	厚	(5.4)	変輝緑岩	長方形亜角礫利用。原産地に近い川原などで採取したものと考えられる。剥離成形後礫の稜の部分を敲打により潰している。研磨なし。表裏両面に自然面を残す。下部欠損。左側が厚い。	
				幅	(8.3)	重	935.4			
第114図 PL.92	14	打製石器 石核	南壁際床上４cm 完形	長	12.0	厚	4.5	硬質泥岩	楕円形礫利用。打面は自然面。上下両端に打点あり。横長剥片剥離。表裏とも自然面残す。表面は下端に、裏面は上端に帯状に残す。横断面形は平行四辺形に近い。上下対峙する位置に打撃痕があり、台石の上でハンマーストーンで敲いている可能性あり。	
				幅	12.0	重	696.4			
第114図 PL.92	15	打製石器 二次加工ある剥片	南西部床面直上 完形	長	7.8	厚	3.7	硬質泥岩	横長剥片素材。上半は剥離時に縦に２つに裂けたもの。右側縁の薄く鋭い部分に調整剥離が並ぶ。裏面の主要剥離面に二次加工はない。	
				幅	10.9	重	196.1			
第114図 PL.92	16	礫石器 凹石	南西部床上４cm 完形	長	9.9	厚	4.8	粗粒輝石安山岩	円礫利用。孔が多く、小さい割には重い石材。表裏両面とも磨面で中央に敲打による浅い不定形の凹みあり。周縁部はかなり使い込まれ、全周に明確な敲打痕が残る。	
				幅	8.4	重	568.4			
第115図 PL.92	17	磨製石器 石棒	北部床上７cm 破片	長	(15.5)	厚	6.1	緑色片岩	棒状礫利用。敲打成形後研磨整形。研磨方向は不明瞭。上下とも欠損。頭部は欠失。上部は敲打による欠損。下部はその部分にハードハンマーによる直線的打撃を加えたわけではないが、もっと下の部分を敲き付けた時に中央から折れたものと思われる。	
				幅	(6.3)	重	791.4			
第115図 PL.92	18	磨製石器 石棒	中央部床面直上 1/2？	長	(15.1)	厚	3.4	緑色片岩	棒状礫利用。石英の点紋が多数認められる石材。上半部欠損。全面敲打成形後研磨整形。中央横断面は真円に近いが、下端部は研磨されやや薄くなっている。上部左側のヒビ割れは新しいもの。	
				幅	3.7	重	318.8			
第115図 PL.92	19	礫石器 多孔石	中央部床面直上 完形	長	18.4	厚	6.9	粗粒輝石安山岩	おむすび形扁平円礫利用。表裏両面に無数の凹みあり。凹みの径は１～1.5cm深さ５㎜前後のものが多い。凹みの周りは弱い磨面だが方向は不明。	
				幅	19.8	重	3459.9			
２区３号集石										
第116図 PL.92	1	縄文土器 深鉢	北東部床面直上 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/赤褐色	頸部の緩やかな屈曲部に８字状貼付文を付し横位沈線２条を施す。体部の器面磨滅する。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第116図 PL.92	2	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					粗:石英・片岩多・白色粒/良好/明褐色	押圧を加えた鎖状隆帯を横位に配し以下斜位沈線を施す。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第116図 PL.92	3	縄文土器 深鉢	北部床面直上 体部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/にぶい褐色	縦位沈線３条施文後に弧状沈線を重ねる。外面は縦位削り調整。に止まる。内面はナデ調整。	後期前葉
第116図 PL.92	4	縄文土器 深鉢	北部床面直上 体部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/にぶい黄褐色	厚手の器厚を呈す。縦位条線による懸垂文構成。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第116図 PL.92	5	縄文土器 深鉢	南西隅床面直上 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	厚手の器厚を呈す。約２cm幅の縦位条線による懸垂文構成。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第116図 PL.92	6	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					石英・輝石多・白色粒/良好/にぶい黄橙色	縦位沈線に画された施文部と磨消部。施文部はＬＲＬ縦位充填施文。磨消部には縦位沈線を加える。内面平滑なナデ。	中期後葉
第116図 PL.92	7	縄文土器 深鉢	南西部床面直上 口頸部破片					粗:輝石多・白色粒/良好/褐色	口縁部区画下端か。隆線を設け以下体部は細沈線が垂下する。施文部縄文は縦位ＲＬ。内面横位ナデ調整。	中期末葉
第116図 PL.92	8	打製石器 打製石斧	南東隅床下６cm 2/3	長	(10.1)	厚	2.1	粗粒輝石安山岩	撥形。剥片素材？両面加工で表面上部に一部自然あり。側面形に若干反りあり。側縁に敲打痕、柄ズレあり。刃部欠損、使用により割れたものと思われる。下端に若干磨滅部分あり。	
				幅	(6.0)	重	124.1			
第116図 PL.92	9	打製石器 打製石斧	南部床面直上 1/2	長	(6.9)	厚	2.2	硬質泥岩	短冊形。剥片素材？両面加工で自然面はない。側面形に反りはない。側縁に敲打痕あり。刃部は鋭く使用による磨滅はなく、側縁からの打撃が元で割れたものであり、ほとんど使用されていないものと考えられる。	
				幅	5.5	重	93.5			
２区４号集石										
第116図 PL.92	1	縄文土器 深鉢	南部床下７cm 体部破片					石英・輝石多・白色粒/良好/明褐色	縦位沈線に画された施文部と磨消部。施文部はＬＲ縦位充填施文。内面平滑なナデ調整、器壁剥落。	中期後葉
第116図 PL.92	2	磨製石器 磨製石斧未成品	東部床面頂上 完形	長	9.9	厚	1.8	変玄武岩	定角式。楕円形扁平礫利用。緑色を呈する大きさの割に重い石材。一見打製石斧のような作りであるが、刃部の調整加工を見ると刃がなく、磨製石斧の未成品であることが分かる。表裏両面に自然面を大きく残す。両側縁に敲打痕を残す。頭部と刃部には石材中の石英脈が露出している。	
				幅	5.8	重	185.8			
２区５号集石										
第118図 PL.92	1	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長	9.4	厚	1.3	硬質泥岩	分銅形。横長剥片素材。やや薄手。側面形はわずかに反りあり。裏面に大きく主要剥離面を残す。裏面上端部右上に極わずかに自然面を残す。刃部稜部に極わずかに磨れあり。	
				幅	6.2	重	84.8			

挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
2区6号集石										
第118図 PL.92	1	打製石器 打製石斧	埋土 2/3	長 幅	(8.0) 5.0	厚 重	2.2 103.5	細粒輝石安山岩	短冊形。横長剥片素材？表面は刃部と右側縁寄りに一部自然面を残す。側面形に反りはほとんどない。刃部の稜部に極わずかに磨れはあるが、光沢を持つような部分はなく、あまり使用されていないものと考えられる。両側縁に敲打痕あり。頭部欠損。欠損の原因は側縁からの打撃によるもの。	
2区1号遺物集中										
第119図 PL.91	1	礫石器 磨石	南西部床面直上 完形	長 幅	11.3 9.1	厚 重	5.8 841.1	粗粒輝石安山岩	円礫利用。表裏両面は滑らかな磨面。周縁部は敲打されている。裏面中央に極わずかに浅く凹む部分あり。	
第119図 PL.91	2	礫石器 磨石	南西部床面直上 完形	長 幅	8.5 7.4	厚 重	6.4 453.4	粗粒輝石安山岩	円礫利用。器面は滑らかで光沢を持つ部分あり。周縁部は敲打されている。長さや幅の割には厚みがある。表裏両面とも磨面、若干敲打痕を残す部分あり。	
第119図 PL.91	32	縄文土器 深鉢	北部床面直上 口縁～体部上半 破片2点	口	(36.0)			粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/橙色	沈線で画された施文部によるＪ字状意匠やスペード状意匠が上半に配され、下半部と連接する。施文部は列点状刺突文を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
遺構外										
第123図 PL.93	1	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/黄褐色	波状縁。口縁部僅かに肥厚する。３条の撚糸側面圧痕による菱形状意匠が施される。内面平滑なナデ調整。	前期初頭
第123図 PL.93	2	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/橙色	口唇部短く外反し口縁部は肥厚する。原体幅の短いＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。器面磨滅。	前期初頭
第123図 PL.93	3	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					細:繊維・白色粒/やや軟質/橙色	口縁部外反。ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面平滑なナデ調整。外器面磨滅。	前期初頭
第123図 PL.93	4	縄文土器 深鉢	2区表土 底部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/橙色	直立気味開く体部下半。ＬＲとＲＬによる横位羽状状文構成。底面にもＬＲを施す。内面平滑なナデ調整。	前期初頭
第123図 PL.93	5	縄文土器 深鉢	2区表土 口頸部破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい黄橙色	頸部隆線で画され、隆線による区画文が配される。区画内は円形竹管による刺突文が充填される。体部は横位ＲＬを施す。内面平滑なナデ調整。	前期前葉
第123図 PL.93	6	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい黄褐色	緩やかな波状縁か。薄手の器厚を呈す。口縁部外反する。無節ＬとＲによる横位羽状縄文構成。内面横位ナデ調整。	前期中葉
第123図 PL.93	7	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/明褐色	口縁部外反。口唇端部にＲＬ。以下ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面平滑なナデ。	前期中葉
第123図 PL.93	8	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片					細:繊維・石英/良好/灰黄褐色	ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面平滑なナデ調整。	前期中葉
第123図 PL.93	9	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片					粗:繊維・石英/良好/橙色	ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。追加整形施文の痕跡も見る。内面平滑なナデ調整だが凹凸が顕著。	前期中葉
第123図 PL.93	10	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					細:石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部沈線と頸部隆線による口縁部区画文。区画内は無節Ｌの横位充填施文。内面平滑なナデ調整。	中期中葉末
第123図 PL.93	11	縄文土器 深鉢	2区表土 口頸部破片					粗:石英多・輝石・白色粒/やや軟質/にぶい褐色	頸部に沈線を重ねた横位隆線と渦巻状突起を配す、口縁部は短沈線を充填した区画文構成。体部は縦位ＲＬを施す。内面平滑なナデ調整。	中期中葉末
第123図 PL.93	12	縄文土器 深鉢	2区表土 口頸部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	２条隆線よる渦巻文と区画文構成か。区画内側線は沈線で縦位ＬＲを施す。外器面磨滅。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第123図 PL.93	13	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					粗:石英少・輝石多・白色粒/良好/橙色	隆線による口縁部楕円状区画文構成。区画内側線は幅広の沈線、縦位ＲＬを充填施文する。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第123図 PL.93	14	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・褐色粒・白色粒/良好/明黄褐色	厚手の器厚を呈し、口縁部外反する。無文。内外面器面磨滅。	中期後葉
第123図 PL.93	15	縄文土器 鉢	2区表土 口縁部破片					粗:石英・片岩多・白色粒/良好/明赤褐色	あるいは身深の浅鉢か。口唇部僅かに肥厚する。内外面とも弱い研磨を加える。	中期後葉
第123図 PL.93	16	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片					粗:石英・輝石少・白色粒/良好/にぶい橙色	縦位隆線２条による懸垂文構成。中位より弧状隆線が派生し渦巻文意匠になる。施文部は縦位条線が密接に施文される。内面丁寧な横位研磨を加える。	中期後葉
第123図 PL.93	17	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片					粗:石英・輝石多・白色粒/良好/明赤褐色	縦位沈線に画された幅広の磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位ＬＲ充填施文。内外器面磨滅。	中期後葉
第123図 PL.93	18	縄文土器 深鉢	3区表土 口頸部破片					細:石英・輝石多・白色粒/良好/明赤褐色	隆線に画された口縁部区画文。区画内は凹線を側線とし縦位ＲＬを充填する。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第123図 PL.93	19	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/黄褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第124図 PL.93	20	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					粗:石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部細隆線に小突起を付し突起下より弧状沈線が派生する。分岐懸垂文か。突起下に縄文施文ＬＲか。内面平滑なナデ調整。	中期末葉
第124図 PL.93	21	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/黄褐色	縦位波状隆線による懸垂文構成か。縦位ＲＬを充填する。内面平滑なナデ調整。	中期末葉
第124図 PL.93	22	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/浅黄色	微隆線が弧状に垂下する。分岐懸垂文か。施文部は縦位ＬＲ充填施文。内面はナデ調整。	中期末葉
第124図 PL.93	23	縄文土器 深鉢	1区表土 底部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	強く開く体部下半。外面は斜位研磨を施す。内面はナデ。	中期後葉～後期

遺物観察表

挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第124図 PL.93	24	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	波状縁。波頂部に捩りを加えた突起を付す。突起内面は円形貼付文を付す。体部外面は沈線に画された施文部と磨消部。施文部縄文は縦位ＬＲ。内面は横位研磨。	後期初頭
第124図 PL.93	25	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/黄灰色	波状縁。口縁部内面突出する。横位沈線を設け縦位弧状沈線が垂下し斜位沈線も施される。縄文はＬＲ充填施文。内面研磨を加えるも器壁剥落。	後期初頭
第124図 PL.93	26	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片					粗:石英・輝石・チャート・白色粒/良好/橙色	沈線で画された施文部による半渦巻状意匠。ＬＲを充填する。磨消部および内面は平滑なナデ調整。	後期初頭
第124図 PL.93	27	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片					細:石英・白色粒/良好/明黄褐色	沈線で画された施文部と磨消部の交互配列による弧状意匠。施文部はＬＲを充填。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
第124図 PL.93	28	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片					細:石英・雲母・白色粒/良好/明黄褐色	小径の小型深鉢体部中位か。２条沈線に画された幅狭磨消部による縦位波状意匠。基点に小刺突文を施す。施文部は横位・斜位ＬＲ充填施文。内面は縦位研磨を加える。	後期初頭
第124図 PL.93	29	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片					粗:石英・褐色粒・白色粒/良好/黄橙色	沈線で画された磨消部弧状意匠。施文部は縦位無節Ｌを充填施文する。内面ナデ調整。	後期初頭
第124図 PL.93	30	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					粗:石英・片岩/やや軟質/浅黄色	あるいは蓋か。小径で横位隆線を設ける。内外面磨滅。	後期初頭
第124図 PL.93	31	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	縦位環状突起。両側面に非対称な弧状沈線を配す。内外面とも平滑なナデ調整。	後期初頭
第124図 PL.93	33	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	沈線に画されたスペード状、銛先状の意匠文か。列点状刺突文を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
第124図 PL.93	34	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片					粗:輝石・片岩・白色粒/良好/にぶい黄橙色	沈線で画された施文部と磨消部。逆Ｕ字状懸垂文か。小型の列点状刺突文を充填する。内面ナデ調整。	後期初頭
第124図 PL.93	35	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片					粗:石英・輝石・片岩多・白色粒/良好/赤褐色	弧状沈線で画された施文部と磨消部。施文部は列点状刺突文を施す。磨消部は弱い研磨。内面器面磨滅。	後期初頭
第124図 PL.93	36	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。あるいはＪ字状意匠か。施文部は列点状刺突文を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
第124図 PL.93	37	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	沈線で画された逆Ｕ字状懸垂文。列点状刺突文が強く施文される。内面横位削り調整後ナデ。	後期初頭
第124図 PL.93	38	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/明黄褐色	口縁部内屈し横位沈線を施す。頸部屈曲部に円文と横位沈線３条を設け体部は沈線による環状意匠や斜位沈線文を配す。施文部には無節Ｌを充填施文する。内面研磨を加える。	後期前葉
第124図 PL.93	39	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石少・白色粒/良好/褐灰色	口縁部内屈し波頂部に円文を配し沈線が巡る。頸部は外反し無文。内外面とも丁寧な研磨を加える。	後期前葉
第124図 PL.93	40	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					細:石英・片岩・白色粒/良好/灰褐色	波状突起を付し円文と弧状沈線を配す。口縁部沈線を設ける。内外面とも研磨を加える。	後期前葉
第124図 PL.93	41	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・褐色粒・白色粒/良好/にぶい橙色	口縁部屈折し、横位沈線を設ける。頸部は無文で屈曲部に横位沈線を配す。内外面丁寧な研磨を加える。	後期前葉
第124図 PL.93	42	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片					細:石英・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部内屈弱い。口縁部横位沈線を設ける。体部は無文でナデ調整。。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第124図 PL.93	43	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部に横位沈線を設ける。頸部外反部は無文で平滑なナデ調整。内面も平滑なナデ。	後期前葉
第125図 PL.93	44	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					細:石英・片岩・白色粒/良好/暗赤褐色	口唇部沈線を設け､以下体部は縦位沈線と斜位沈線を配す。おそらく懸垂文構成でＶ字状の区画を配す。区画内は沈線二画された磨消部による三角状意匠文が配される。縄文はＬＲ充填施文。内面丁寧な研磨を加える。	後期前葉
第125図 PL.93	45	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/橙色	口縁部に円文と横位沈線２条を配す。縦位沈線を施すが懸垂文構成か。施文はいずれも深い。内面横位研磨。	後期前葉
第125図 PL.94	46	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					粗:輝石・褐色粒多・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部沈線を設け、体部は沈線による懸垂文を主に弧状意匠やＵ字状の小意匠を配す。内面研磨を施す。	後期前葉
第125図 PL.94	47	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					細:石英・片岩少・白色粒/良好/橙色	口縁部肥厚し円文と横位沈線を配す。体部は２条の縦位細沈線が画す施文部懸垂文構成か。刺突文を充填する。内面横位研磨を加える。	後期前葉
第125図 PL.94	48	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片２点					細:石英・白色粒/良好/にぶい橙色	口縁部に円文を配し沈線による楕円状区画文を設ける。区画内は横位短沈線を施す。体部は縦位条線および弧状沈線が配される。内面横位研磨を加える。	後期前葉
第125図 PL.94	49	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/黒褐色	口唇部内折。口縁部は無文、頸部に２条の横位沈線を設ける。内面横位研磨を施す。	後期前葉
第125図 PL.94	50	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	口縁部は屈曲で画され、弧状隆線による区画文を配す。区画中位に横位沈線を配す。外面は平滑なナデ調整。内面は器面磨滅する。	後期前葉

挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第125図 PL.94	51	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	小波状突起。表裏および左側縁より貫孔する。突起両下端内外面に円文を配す。内面研磨。	後期前葉
第125図 PL.94	52	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/橙色	緩やかな波状縁。波頂部に円文を繋ぐ弧状小隆線を付し頸部隆線以下２条の沈線による弧状意匠が配される。縄文は横位ＬＲ充填施文。内面研磨。	後期前葉
第125図 PL.94	53	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/黒褐色	波頂部に円孔を設け刺突を加えた隆線が垂下し頸部円文に繋ぐ。頸部は横位沈線と刺突文を施す。波頂部内面も円文を施す。内面平滑な横位ナデ調整。	後期前葉
第125図 PL.94	54	縄文土器 深鉢	２区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・褐色粒・白色粒/やや軟質/にぶい橙色	口縁部外反し頸部屈曲する。口唇部と頸部に円文を配し縦位隆線繋ぐ８字状貼付文。側線は沈線で無節Ｌを横位充填施文する。内外面磨滅。	後期前葉
第125図 PL.94	55	縄文土器 鉢	１区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩少・白色粒/良好/明赤褐色	口縁部は強く内湾する。口唇部に円文を配し隆帯が弧状に懸架する。屈曲部にも円文を配す。側線は沈線で横位ＲＬを充填する。内面は平滑なナデ調整	後期前葉
第125図 PL.94	56	縄文土器 深鉢	２区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩多・白色粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横位隆線上位に刺突文と沈線が沿う。縦位隆線が派生し、空白部は沈線による小型の弧状意匠が配される。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第125図 PL.94	57	縄文土器 深鉢	１区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/橙色	口縁部は隆線による楕円状区画文と円文を配す。区画内は沈線を側線とし横位刺突文を施す。内面平滑な横位ナデ調整。	後期前葉
第126図 PL.94	58	縄文土器 深鉢	２区表土 体部上半破片					細:石英・輝石・片岩少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	屈曲部に縦位８字状貼付文を付し横位沈線２条と円文を配す。体部は縦位沈線は弧状沈線による懸垂文構成。内面は横位ナデ調整。	後期前葉
第126図 PL.94	59	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/にぶい黄褐色	３条の太い沈線による分岐懸垂文を主とし弧状沈線や環状意匠を連接する。縄文はＬＲ充填施文。内面横位研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	60	縄文土器 深鉢	３区表土 体部上半破片					細:石英・輝石・片岩少・白色粒/良好/黒褐色	体部は太い沈線による分岐懸垂文や半渦巻状意匠、弧状意匠が配される。内面丁寧な横位研磨を施す。	後期前葉
第126図 PL.94	61	縄文土器 深鉢	２区表土 体部破片					粗:石英・褐色粒・白色粒/良好/浅黄橙色	沈線による重環状・弧状意匠を配す。内外面とも器面磨滅。	後期前葉
第126図 PL.94	62	縄文土器 深鉢	３区表土 頸部破片					粗:石英・輝石・褐色粒/良好/浅黄橙色	頸部緩やかな屈曲。円文と横位沈線３条を配し、上位に派生する。内面横位研磨を施す。	後期前葉
第126図 PL.94	63	縄文土器 鉢	３区表土 体部上半破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/黄褐色	頸部強く屈曲。頸部無文、体部上半は３条の沈線による弧状意匠が配される。内面丁寧な横位研磨を施す。	後期前葉
第126図 PL.94	64	縄文土器 深鉢	３区表土 頸部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/黒褐色	頸部屈曲部に横位沈線を設け体部は沈線に画された楕円状区画文が多段に配される。区画内は円形刺突文が横位に施される。内外面研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	65	縄文土器 深鉢	１区表土 体部破片					細:石英・片岩・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	太い沈線で画された三角形状の区画文構成か。区画内はＬＲを充填する。内面は平滑な横位ナデ調整。	後期前葉
第126図 PL.94	66	縄文土器 深鉢	２区表土 体部破片					細:石英・白色粒/良好/にぶい橙色	細沈線による重環状・弧状意匠を配す。縄文は斜位ＬＲ充填施文。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第126図 PL.94	67	縄文土器 深鉢	１区表土 体部破片					細:石英・輝石少・白色粒/良好/褐灰色	太い沈線による重環状意匠か。下端より縦位沈線が派生する懸垂文構成か。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第126図 PL.94	68	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・片岩・白色粒/良好/黄橙色	太い沈線による半渦巻状意匠を配す。斜位沈線も施され、ＬＲを充填する。内面横位研磨。	後期前葉
第126図 PL.94	69	縄文土器 鉢	３区表土 体部上半破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい褐色	内湾する体部上半。隆線による弧状意匠が配される。側線は一部沈線を施すが丁寧なナデ。刺突文も施される。内面横位研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	70	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/赤褐色	口縁部円文を連続する。体部は横位沈線より２条の弧状沈線が派生する。内面丁寧な研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	71	縄文土器 深鉢	１区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	口縁部に強い押圧を加えた横位隆線を設ける。口唇部内面肥厚し弱い横位ナデ調整を施す。	後期前葉
第126図 PL.94	72	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩/良好/明黄褐色	口縁部下に押厚を加えた低位隆線を巡らす。内面横位削り調整後ナデを施す。	後期前葉
第126図 PL.94	73	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					粗:輝石・褐色粒・白色粒/良好/黄褐色	口縁部に押圧を加えた横位隆線を設け、口唇部より同隆線が垂下する。内面横位削り調整後弱い横位研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	74	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部下に強い押圧を加えた横位隆線を配す。他は無文で平滑なナデを施す。内面は横位研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	75	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片２点					粗:輝石少・片岩・褐色粒/良好/浅黄橙色	口唇部沈線はやや乱雑。口縁部横位沈線を設け、連続する円文より２条の沈線と列点状刺突文が垂下する。斜位沈線も施される。内面弱いナデ調整。	後期前葉
第126図 PL.94	77	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/にぶい橙色	口縁部に沈線による小楕円状意匠を配し弧状短沈線を加える。内外面とも研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	78	縄文土器 深鉢	２区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/明褐色	口縁部緩やかに外反し無文。体部は条線が縦位波状に垂下する。内面平滑なナデ調整。	後期前葉

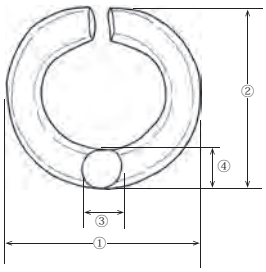
遺物観察表

挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第126図 PL.94	79	縄文土器 深鉢	３区表土 口縁部破片					細:石英・白色粒/良好/橙色	口縁部は無文で横位研磨後赤彩を加える。体部は縦位条線を施す。強い施文。内面は横位研磨を加える。	後期前葉
第126図 PL.94	80	縄文土器 深鉢	１区表土 口縁部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/橙色	口縁部横位隆線を設け体部は縦位条線を施す。内面平滑なナデ調整。外面器面磨滅。	後期前葉
第126図 PL.94	82	縄文土器 深鉢	２区表土 体部破片					粗:石英・褐色粒・白色粒/良好/明黄褐色	幅狭の内皮施文による縦位条線群が施される。内外面器面磨滅する。	後期前葉
第127図 PL.95	83	縄文土器 深鉢	２区表土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい褐色	体部下半か。厚手の器厚を呈し浅い縦位条線による懸垂文構成。内面平滑な横位ナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	84	縄文土器 深鉢	１区表土 体部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄褐色	２・３条の縦位沈線と弧状沈線による懸垂文構成か。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	85	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・輝石・片岩/良好/明黄褐色	縦位細沈線で画された施文部と無文部の懸垂文構成。施文部は縦位条線を充填する。無文部は器面磨滅のため判然としない。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	86	縄文土器 深鉢	１区表土 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	体部上半か。縦位条線による懸垂文構成か。無文部は縦位ナデ、内面は横位ナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	87	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・白色粒/良好/明褐色	厚手の器厚を呈し、縦位条線が施される。内面横位研磨を加える。	後期前葉
第127図 PL.95	88	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・片岩少・白色粒/良好/明黄褐色	縦位沈線２条に画された施文部懸垂文構成。短沈線による山形波状文が充填される。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	89	縄文土器 深鉢	１区表土 体部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/にぶい褐色	幅広の平行沈線を縦位・弧状に施す。横位削り調整後ナデ。内面は平滑な横位ナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	90	縄文土器 深鉢	２区表土 体部破片					粗:石英・輝石・片岩多・白色粒/良好/にぶい黄橙色	弧状沈線による懸垂文構成か。外面は縦位ナデ、内面は横位ナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	91	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・輝石・円チャート・白色粒/良好/浅黄橙色	破片左端に沈線の痕跡を見る。他は無文で縦位ナデ。内面は横位削り調整後弱いナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	92	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/明黄褐色	体部下半か。縦位・斜位研磨を施す。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	93	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・片岩・褐色粒・白色粒/良好/にぶい橙色	体部下半か。無文で縦位削り調整後ナデを加える。内面は平滑なナデ調整。	後期前葉
第127図 PL.95	94	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					細:石英・輝石少・白色粒/良好/黄褐色	体部中位～下半か。垂下沈線２条による懸垂文構成下端部。地文は無節Ｌ横位・縦位施文。下半は縦位研磨を加える。内面横位研磨。	後期前葉
第127図 PL.95	95	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	瓢状深鉢肩部か。横位隆線に横位小把手を付す。把手両下端より垂下隆線が派生する。側線は沈線。	後期前葉？
第127図 PL.95	96	縄文土器 注口土器	３区表土 注口部破片					粗:石英少・褐色粒・白色粒/良好/浅黄橙色	小型の注口部上位に環状突起を配した橋状把手を付す。環状突起中位は小孔を穿つ。	後期前葉
第127図 PL.95	97	縄文土器 深鉢	２区表土 底部1/2残存	底	8.2			粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい橙色	体部下半は薄手の器厚を呈し外反気味に開く。横位ナデ調整。内面は平滑なナデ。底面に網代痕。	後期前葉
第127図 PL.95	98	縄文土器 深鉢	３区表土 底部1/4残存	底	(10.0)			粗:石英・輝石/良好/にぶい黄橙色	厚手の器厚。体部は弱いナデ、底面は平滑なナデ調整。内面は横位ナデ。	後期前葉
第127図 PL.95	99	縄文土器 深鉢	３区表土 底部1/4残存	底	(13.0)			粗:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい橙色	厚手の器厚を呈す大型の深鉢。外面ナデ調整。後弱い研磨を加える。内面横位ナデ調整。	後期前葉
第128図 PL.95	100	縄文土器 深鉢	１区表土 口縁部破片					細:輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	波頂部突起。上端は皿状を呈し突起両下端は沈線を施す。内外面とも平滑なナデ調整。	後期前葉
第128図 PL.95	102	縄文土器 深鉢	２区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/黒褐色	刻みを付す口縁部細隆線を設け、以下横位沈線と横位ＬＲを施す。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第128図 PL.95	103	縄文土器 深鉢	２区表土 体部破片					細:輝石・片岩少・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	沈線で画された施文部と磨消部の交互配列による重幾何学文構成。施文部縄文はＬＲ充填施文。内面平滑な横位ナデ。	後期前葉
第128図 PL.95	105	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					粗:石英・輝石・片岩・白色粒/良好/明黄褐色	薄手の器厚を呈す。沈線で画された施文部と磨消部による重幾何学文構成。施文部縄文はＬＲ充填施文。内面平滑なナデ。	後期前葉
第128図 PL.95	106	縄文土器 深鉢	３区表土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	体部上半。２条の沈線に画された施文部と磨消部交互配列による幾何学文構成。施文部縄文はＬＲ充填。口縁部内面横位沈線。体部は研磨を加える。	後期前葉
第128図 PL.95	107	縄文土器 鉢	３区表土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/黒褐色	体部屈曲鉢。口縁部は外反し体部屈曲する。屈曲部上位に沈線による重クランク状意匠が配される。内面弱い研磨。	後期前葉
第128図 PL.95	108	縄文土器 鉢？	２区表土 体部上半破片					細:石英・片岩・白色粒/良好/黒褐色	あるいは大型の注口土器か。肩部で横位隆線以下横位沈線２条の間を横位ＬＲを充填し横位８字状貼付文を付す。内面ナデ調整ながら若干の凹凸を見る。	後期前葉

挿図 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第128図 PL.95	109	縄文土器 注口土器	２区表土 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/灰褐色	肩部か。強く内湾し横位沈線以下弧状沈線で画された区画内を細沈線と刺突文が施される。内面横位削り調整。	後期前葉
第128図 PL.95	110	縄文土器 深鉢	２区表土 底部破片	底	(8.0)			細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい橙色	底部端部張り出し外反気味に直立する体部下半。内外面とも平滑なナデ調整。底面網代痕残る。	後期前葉
第128図 PL.95	111	縄文土器 深鉢	１区表土 体部下半1/2～底部残存	底	6.8			細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	底部端部僅かに張り出し直立気味に開く体部下半。内外面とも平滑なナデ調整。底面に網代痕残る。	後期前葉
第128図 PL.95	112	縄文土器 深鉢	２区表土 口縁部破片					細:石英・輝石少・白色粒/良好/灰褐色	口縁部に７条の横位沈線群を設ける。口唇部内面も沈線を施す。内外面とも研磨を加える。	後期中葉
第128図 PL.95	113	縄文土器 深鉢	２区表土 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部内面に横位沈線２条を設ける。外面は無文で内外面とも研磨を施す。	後期中葉
第128図 PL.95	114	縄文土器 深鉢	１区表土 口縁部破片					細:石英・白色粒/堅緻/にぶい黄褐色	筒状の器形か。口唇部端部に沈線と浅い刻みを施し、内面も横位沈線４条が巡る。外面は横位ＬＲを施す。内面は光沢を持つ研磨を加える。	後期中葉
第128図 PL.95	115	縄文土器 注口土器	２区表土 体部破片					細:輝石少/良好/灰黄褐色	体部上半か。横位沈線群に刻みを加え、沈線による縦位Ｓ字状意匠が重なる。内面弱いナデ調整。	後期中葉
第128図 PL.95	116	縄文土器 鉢	１区表土 口縁部破片					細:石英・白色粒/良好/明褐色	口縁部横位隆線で画され弧状貼付文を付す。下端に刺突文を施し弧状沈線が派生する。隆帯上にＬＲ、側線に沈線を施す。内面横位研磨。	後期中葉
第128図 PL.95	117	縄文土器 注口土器	２区表土 注口部のみ残存					細:輝石多・白色粒/良好/にぶい黄橙色	注口部基部に沈線を施し、下面は沈線による小楕円状意匠を配す。意匠内は無節Ｌを施す。	後期中葉
第128図 PL.95	118	縄文土器 深鉢	２区表土 口縁部破片					細:輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	口唇端部角頭状をなす。体部上半に横位沈線２条を施し、横位矢羽状短沈線を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期中葉
第128図 PL.95	119	縄文土器 鉢か	２区表土 底部破片	底	(9.0)			粗:輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	厚手で強く開く体部下半。底部に横位沈線を設け上位に沈線による入り組み状弧線文が配される。縄文は横位ＬＲ。底面網代痕が残る。内面研磨。	後期中葉
第128図 PL.95	121	土製品 土製円盤	２区表土 完形	径 径	2.3 2.3	厚 重	0.9 5.1	細:石英・輝石・白色粒/やや軟質/にぶい黄橙色	体部破片の再利用か。小型で周縁を丁寧に研磨する。外面は無文か、器面磨滅する。	後期前葉
第128図 PL.95	122	土製品 土製円盤	２区表土 完形	径 径	3.9 3.8	厚 重	1.0 21.7	細:石英・輝石・白色粒/良好/明赤褐色	深鉢体部破片の再利用。周縁は弱い研磨を加える。外面無文でナデ調整。	後期前葉
第129図 PL.96	123	石製品 垂飾り	完形	長 幅	3.3 2.3	厚 重	0.6 7.2	硬質泥岩	未成品？楕円形偏平礫を表裏両面が平坦になるまで研磨整形。周縁部は弱い研磨。表裏両面に先端の尖った錐による径６～７㎜、深さ2.5～３㎜の回転による凹みがあるが、貫通していない。	
第129図 PL.96	124	古銭 銅古銭	１区埋土 完形	外 内	2.460 1.877	厚 重	0.159 3.2		面の彫が深く文字、輪、郭は明瞭。背の輪、郭も明瞭。	祥符通寶
第129図 PL.96	125	古銭 銅古銭	１区埋土 完形	外 内	2.196 1.836	厚 重	0.151 2.5		面、背ともに、文字、輪、郭が明瞭。面の輪がやや右にずれる。背は輪、郭が左下にずれる。	至元通寶
第129図 PL.96	126	古銭 銅古銭	１区埋土 完形	外 内	2.489 2.011	厚 重	0.120 2.3		面、背ともに、文字、輪、郭が明瞭。	銘読めず
第129図 PL.96	127	古銭 不明銅古銭	１区埋土 1/2残存	厚 重	0.172 1.5				右に「豊」の字が見られるため元豊通寶と判断した。行書体。文字が一部潰れている。	半分遺存

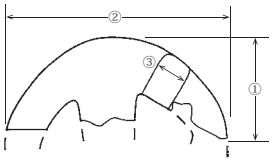
金属器部位の計測位置図

耳環



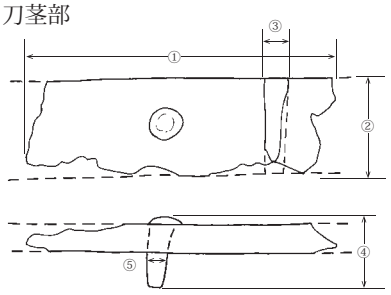
① 全径①
② 全径②
③ 環幅
④ 環厚

鍔



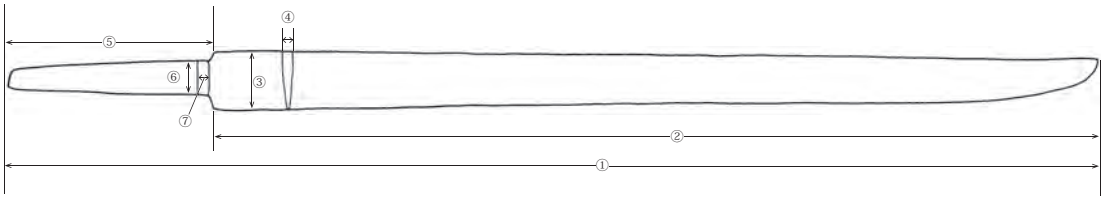
① 長
② 幅
③ 厚

刀茎部



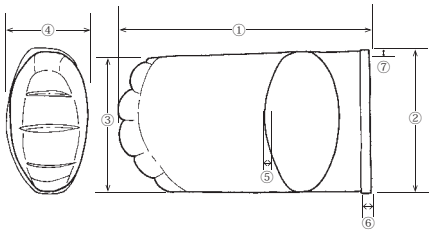
① 茎長
② 茎幅
③ 茎厚
④ 目釘長
⑤ 目釘径

直刀



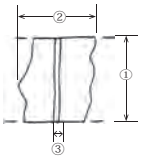
① 全長
② 刃長
③ 刃元幅
④ 刃元厚
⑤ 茎長
⑥ 茎元幅
⑦ 茎元厚

鞘尻



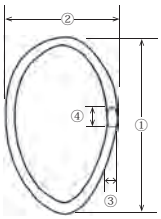
① 全長
② 縁幅
③ 尻幅
④ 全厚
⑤ 厚
⑥ 縁厚
⑦ 縁高

板状品



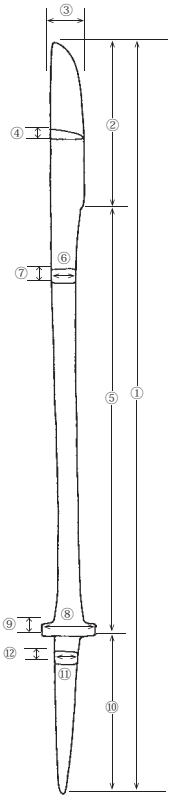
① 長
② 幅
③ 厚

鋲



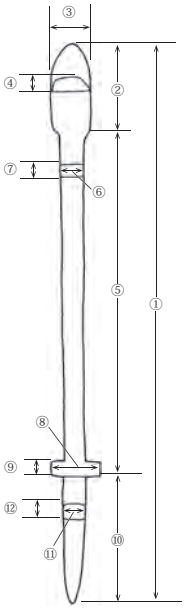
① 全長
② 全幅
③ 厚
④ 高

長頸片刃鏃



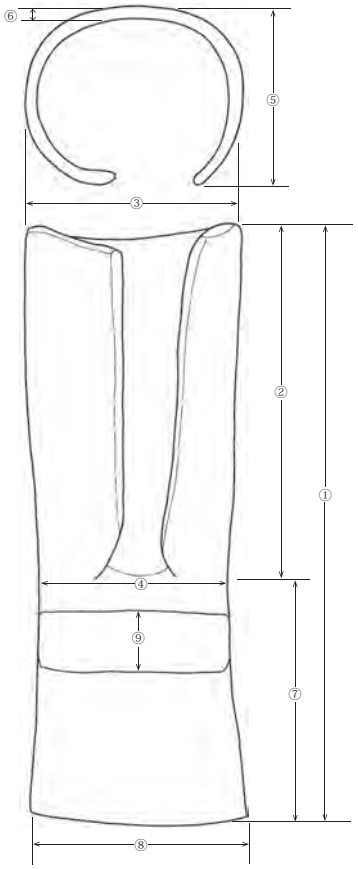
① 全長
② 刃長
③ 刃幅
④ 刃厚
⑤ 頸長
⑥ 頸幅
⑦ 頸厚
⑧ 棘関幅
⑨ 棘関厚
⑩ 茎長
⑪ 茎幅
⑫ 茎厚

長頸柳葉(長三角形)鏃



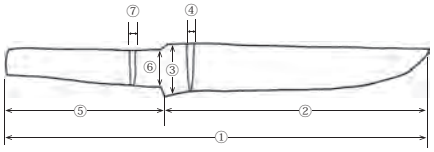
① 全長
② 刃長
③ 刃幅
④ 刃厚
⑤ 頸長
⑥ 頸幅
⑦ 頸厚
⑧ 棘関幅
⑨ 棘関厚
⑩ 茎長
⑪ 茎幅
⑫ 茎厚

有袋無肩斧



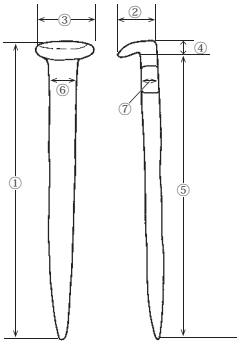
① 全長
② 袋部長
③ 袋部径
④ 刃元幅
⑤ 袋部全厚
⑥ 袋部厚
⑦ 刃長
⑧ 刃先幅
⑨ 刃元厚

刀子



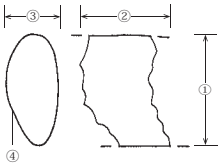
① 全長
② 刃長
③ 刃元幅
④ 刃元厚
⑤ 茎長
⑥ 茎元幅
⑦ 茎元厚

釘



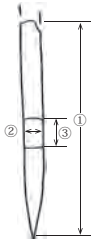
① 全長
② 頭長
③ 頭幅
④ 頭厚
⑤ 茎長
⑥ 茎元幅
⑦ 茎元厚

銅製小型装具



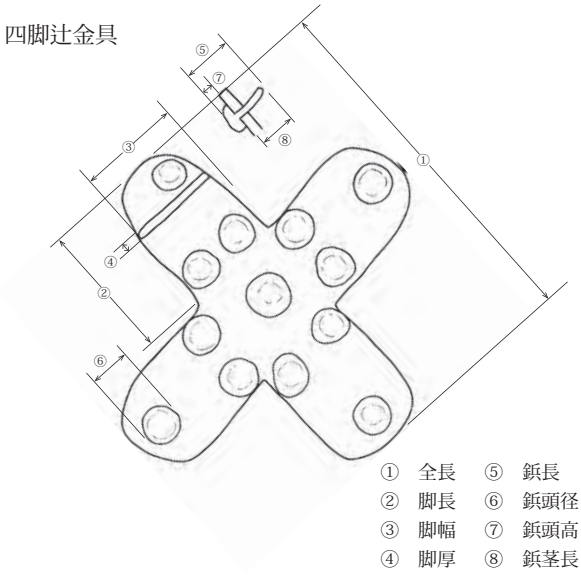
① 長
② 幅
③ 環全厚
④ 環厚

針状工具



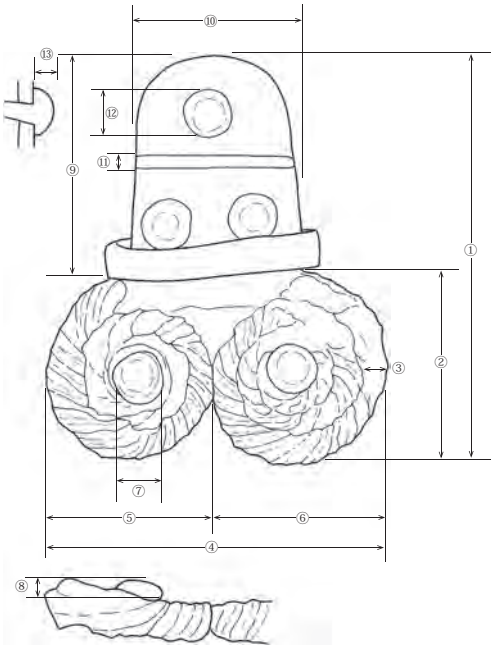
① 長
② 幅
③ 厚

四脚辻金具



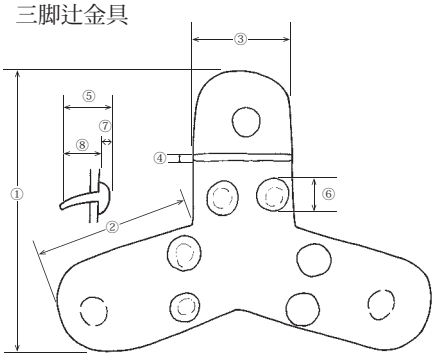
① 全長　⑤ 鋲長
② 脚長　⑥ 鋲頭径
③ 脚幅　⑦ 鋲頭高
④ 脚厚　⑧ 鋲茎長

渦巻形杏葉



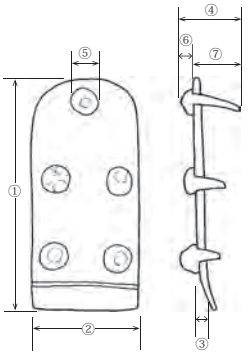
① 全長
② 渦巻長
③ 渦巻厚
④ 渦巻全幅
⑤ 渦巻左幅
⑥ 渦巻右幅
⑦ 渦巻中央飾鋲茎
⑧ 渦巻中央飾鋲高
⑨ 立聞長
⑩ 立聞幅
⑪ 立聞厚
⑫ 立聞鋲径
⑬ 立聞鋲高

三脚辻金具



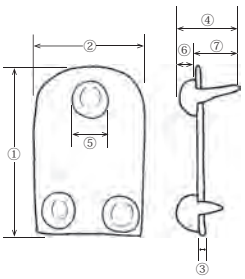
① 全長
② 脚長
③ 脚幅
④ 脚高
⑤ 鋲長
⑥ 鋲頭径
⑦ 鋲頭高
⑧ 鋲茎長

コハゼ形金具①



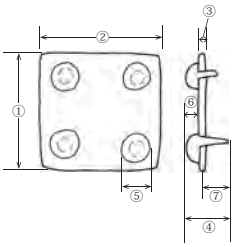
① 長
② 幅
③ 厚
④ 鋲長
⑤ 鋲頭径
⑥ 鋲頭高
⑦ 鋲茎長

コハゼ形金具②



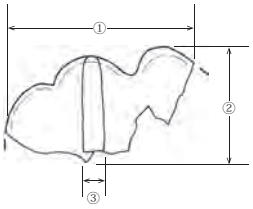
① 長
② 幅
③ 厚
④ 鋲長
⑤ 鋲頭径
⑥ 鋲頭高
⑦ 鋲茎長

方形金具



① 長
② 幅
③ 厚
④ 鋲長
⑤ 鋲頭径
⑥ 鋲頭高
⑦ 鋲茎長

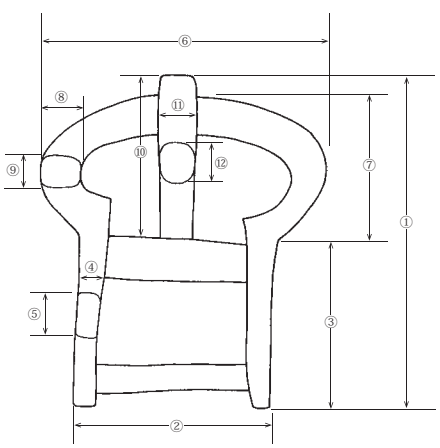
花形座金具



① 長
② 幅
③ 厚

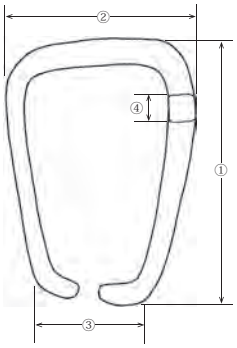
金属器部位の計測位置図

絞具



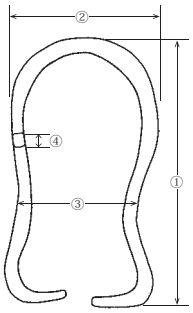
① 全長
② 基部全幅
③ 基部長
④ 基部幅
⑤ 基部厚
⑥ 環全長
⑦ 環全幅
⑧ 環幅
⑨ 環厚
⑩ 刺金長
⑪ 刺金幅
⑫ 刺金厚

絞具



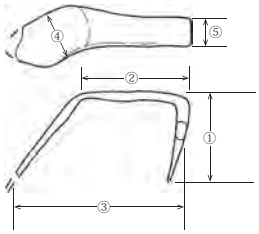
① 長
② 最大幅
③ 最小幅
④ 厚

絞具



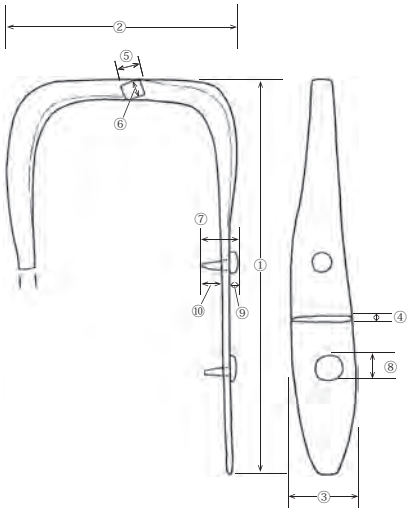
① 長
② 幅
③ 内湾部幅
④ 厚

留金具



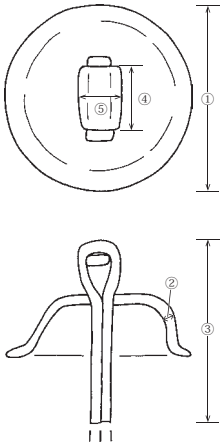
① 脚長
② 背幅
③ 脚幅
④ 背幅
⑤ 脚幅

鎧吊金具



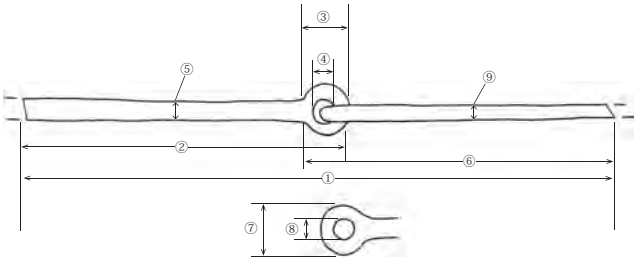
① 全長
② 全幅
③ 脚部幅
④ 脚部厚
⑤ 吊手幅
⑥ 吊手厚
⑦ 鋲長
⑧ 鋲頭径
⑨ 鋲頭高
⑩ 鋲茎長

鞍



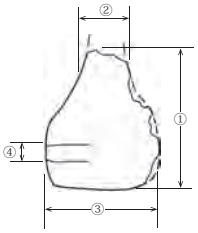
① 座金具径
② 座金具厚
③ 軸長
④ 軸幅
⑤ 軸厚

連結金具



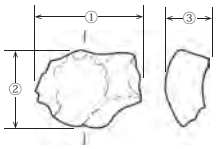
① 全長
② 連結金具①長
③ 連結金具①環部径
④ 連結金具①環部内径
⑤ 連結金具①厚
⑥ 連結金具②長
⑦ 連結金具②環部径
⑧ 連結金具②環部内径
⑨ 連結金具②厚

先広形板状品



① 長
② 上部幅
③ 下部幅
④ 厚

鉄滓



① 長
② 幅
③ 厚

金属器観察表

1号墳

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第20図 PL.69	31	小型銅地細型耳環	埋土	2.6	2.4	0.4	0.4										中実で、細身の銅製耳環。金・銀の数値が少量出ている。
第20図 PL.69	32	銅地金メッキ耳環	羨道南部 埋土	2.9	2.7	0.7	0.7										大型で、銅地に銀張り、上から金のメッキをしていると想定。
第20図 PL.69	33	直刀２本？中折れ？	埋土	56.0+	45.3+	2.6+	0.5	(10.2)+	2.1	0.5							折りたたまれているような状況で２つに分かれている。直刀の茎の先端が欠失しているものと刃部の一部が残る。茎の関は少し段違いになっている可能性が高い。表採の個体が同一個体である。
第20図 PL.69	34	直刀茎片	玄室北部 埋土	6.2	1.9+	0.5	1.3	0.5									直刀茎片。直刀茎中央部。目釘が１つ残る。棟の方が少し厚みがある。
第20図 PL.69	35	鍔片	玄室北部 埋土	1.7+	4.5+	0.5											直刀鍔片。窓の数は破片のため不明。
第20図 PL.69	36	直刀刃片	玄室北部 埋土	6.3+	1.7+	0.6											直刀刃部片。平造で剥離が進んでいる。
第20図 PL.69	37	刀子茎 （目釘孔有）	玄室北部 埋土	6.3+	0.7+	1.2+	0.3+	5.5	1.0	0.4							刀子茎片。一部刃棟部遺存。柄端に目釘孔あり。茎柄端は円形状を呈する。柄部木質が一部付着。
第20図 PL.69	38	長頸柳葉鏃片	玄室中央部 埋土 床面上９cm	10.4+	1.7	0.9	0.3	6.6	0.4	0.3			1.8+	0.35	0.25		長頸柳葉形鏃。茎部端欠損。棘状関欠損。
第20図 PL.69	39	長頸柳葉形鏃刃・頸片	玄室北西壁際 埋土	6.3+	3.6+	0.9	0.2	2.7+	0.8	0.25							長頸柳葉形鏃刃部・頸部片。刃部は片丸造である。刃関は角関で、全体に薄手である。
第20図 PL.69	40	長頸柳葉形鏃刃・頸片	玄室北西壁際 埋土	4.0+	1.2+	1.0	0.2	2.8+	0.9	0.2							長頸柳葉形鏃の刃部・頸部の破片。刃部は薄手片丸造りで刃関は角関を呈する。
第20図 PL.69	41	長頸柳葉形鏃刃片	玄室北西壁際 埋土	5.1+	1.9	1.0	0.2	3.2	0.65	0.3							長頸柳葉形鏃。刃関は直関である。片丸造。やや内側に湾曲している。故意に曲げたか？錆が内側から破裂している。
第20図 PL.69	42	長頸柳葉形鏃刃片	玄室北西壁際 埋土	3.0+	2.0+	0.9	0.15	1.0+	0.55	0.35							長頸柳葉形鏃。刃先と頸部下部は欠損。刃関は斜関か。片丸造。
第20図 PL.69	43	長頸柳葉形鏃刃片	玄室北西壁際 埋土	2.6+	2.6+	0.8	0.15										長頸柳葉形鏃の刃部破片。薄手片丸造りである。
第20図 PL.69	44	長頸長柳葉形鏃刃片	玄室北西壁際 埋土	2.1+	2.1+	0.9	0.1										長頸柳葉形鏃の刃部破片。薄手片丸造りである。
第20図 PL.70	45	長頸柳葉形？鏃刃・頸	玄室北西部 埋土	5.9+	1.8	0.6	0.2	4.1+	0.4	0.25							長頸片刃鏃刃・頸部片。刃関は斜関である。
第20図 PL.70	46	長頸片刃刃部、刀子刃部	玄室北西部 埋土	3.5+	2.9	0.7	0.1	0.6	0.6	0.1							長頸片刃鏃の刃部片。刃部が長い。片丸造の可能性高い。
第20図 PL.70	47	長頸柳葉形鏃刃・頸片	玄室北西壁際 埋土	3.2+	1.9	0.8	0.25	1.3+	0.8	0.3							長頸片刃鏃刃部と頸部の一部破片。刃部は片丸に近い造り。刃関は斜め関で明瞭ではない。
第20図 PL.70	48	平根長三角形鏃刃・茎片	埋土	4.0+	1.9+	2.6	0.2	2.1+	0.7	0.3							平根有頸長三角形鏃の刃・頸部片。刃の上部、茎が欠損。刃関は直角関で、刃部刃薄手両丸造り。
第21図 PL.70	49	長頸鏃頸・茎片	玄室北西壁際 埋土	5.2+				5.2+	0.6	0.5	1.0	0.5					長頸鏃、頸部片。棘状関が明瞭に残る。
第21図 PL.70	50	長頸鏃頸・茎	玄室北西壁寄 埋土	7.2				4.1+	0.6	0.3	0.8	0.3	3.1	0.5	0.3		長頸鏃頸・茎部片。茎はほぼ完存。明瞭に棘状関が分る。頸部上半部欠損。植物繊維の糸巻きが茎に少し観察できる。
第21図 PL.70	51	長頸鏃頸・茎片	玄室北西壁際 埋土	3.5+				2.5+	0.6	0.5	1.2	0.55	0.6+	0.6	0.5+		長頸鏃、鏃身関・茎部片。棘状関が明瞭に残る。

金属器観察表

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第21図 PL.70	52	長頸鏃頸・茎片	玄室中央部 埋土床面上６cm	4.2+				2.6+	0.8	0.4			1.5+	0.7	0.4		長頸の頸部と茎部。一部木質遺存。
第21図 PL.70	53	長頸鏃頸・茎	玄室北西壁寄 埋土	5.2+				2.1+	0.5	0.3	0.9	0.25	0.3	0.4	0.3		長頸鏃頸・茎片。茎は完存。明瞭に棘状関が分る。頸部上半部欠損。
第21図 PL.70	54	長頸鏃頸・茎片	玄室北西壁際 床面上６cm	4.2+				0.3+			0.75	0.3	3.9+	0.45	0.3		長頸鏃頸・茎部片。明瞭な棘状関を有する。
第21図 PL.70	55	長頸鏃頸・茎片	玄室北部 床面上９cm	3.4+				1.0+	0.45	0.3	0.9	0.3	2.4+	0.4	0.2		長頸鏃頸・茎部片。明瞭な棘状関を有する。
第21図 PL.70	56	長頸鏃頸片	北西裏込め　埋土	3.0+				3.0+	0.65	0.4							長頸鏃の頸部片。
第21図 PL.70	57	鏃頸・茎片	埋土	4.1+	0.6	0.4											長頸鏃の頸・茎片。
第21図 PL.70	58	長頸鏃茎片	埋土	4.3+									4.3+	0.5	0.4		長頸鏃の茎と推定。やや太めである。
第21図 PL.70	59	長頸鏃頸・茎片	玄室北西壁際 埋土	2.7+							0.75	0.4	2.6+	0.35	0.40		長頸鏃、鏃身関・茎部片。棘状関がごく一部残る。
第21図 PL.70	60	長頸鏃頸・茎片	玄室北西壁際 埋土	1.9+							0.85	0.40	1.7+	0.4	0.35		長頸鏃、鏃身関・茎部片。棘状関がごく一部残る。
第21図 PL.70	61	円弧状鉄製品 馬具？	埋土	3.8+	2.5+	0.1	0.4	0.6	0.1	0.3							円弧状を呈して、縁金部を有する破片。３鋲残る。杏葉か鏡板の破片と推定する。金・銀の痕跡無し。
第21図 PL.70	62	小型釘片頭部	玄室北西壁際 埋土	2.0+	1.5+	0.4	0.3	0.6	0.6	0.2							小型釘片。頭部も一部残る。

２号墳

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第27図 PL.72	14	無肩袋斧	周溝内 埋土	11.9	7.0	4.3	3.9	3.4	0.2	4.9	4.4	1.5	0.5				無肩の袋柄斧。柄内部に有機質の遺存無し。刃先一部欠損。袋部一部歪んでいる。刃先に向かいやや幅広となる。
第27図 PL.72	15	長頸長三角形鏃刃・頸片	墳丘内 埋土	9.1+	3.3+	1.0	0.3		5.8+	0.5	0.3						長頸長三角形（柳葉）鏃。刃は長めで、ややふくらを有した後少し内湾して角関にいたる。鏃身関は不明。
第27図 PL.72	16	刀子刃部	埋土	4.2+	4.2+	1.5	0.2										刀子の刃部片。錆付着。剥落あり。
第27図 PL.72	17	小型釘頭部？	埋土	2.35+	0.1+	0.5+	0.1	2.1+	0.4	0.2							小型釘片。頭部と茎端部欠損。

５号墳

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第31図 PL.72	8	鏃茎片？	埋土	2.6+									2.6+	0.35	0.3		長頸鏃の茎片。茎両端部が欠失している。

７号墳

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第41図 PL.73	41	柳葉形鏃	埋土	11.8	5.5	1.4	0.2	2.8	0.8	0.3	0.8	0.3	3.4	0.5	0.3		錆びがひどく、本体の推定困難。X線などから、短頸柳葉式と想定。刃部はやや眺めで、刃側線は直線状を停止、刃関は斜関と想定。刃の幅・厚みはあまりない。頸部もやはり薄手で短い。
第41図 PL.73	42	釘	埋土	6.1+	6.1+	0.6	0.5										棒状品。工具の破片か？
第41図 PL.73	43	板状品	埋土	5.7	3.1	0.2											鉄板状片。右測面が尖っている。基部は少し厚みがある。

８号墳

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第56図 PL.79	57	小型銅地銀張耳環	玄室南東部 床面上５cm	18	17	3.5	7.5										小型だが、高さのある銅製耳環。銅地に銀を張っている。
第56図 PL.79	58	小型銅地金メッキ耳環	玄室南東部	18.5	16.5	0.4	0.5										小型の銅製耳環。金メッキを施す。
第56図 PL.79	59	小型銅地金メッキ耳環	埋土	1.8	1.6	0.4	0.45										小型の銅製耳環。金メッキを施す。

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第56図 PL.79	60	銅地金張耳環	玄室北西壁寄 床面下5cm	2.6	2.4	0.5	0.5										銅地に金張りしたと推定される耳環。緑錆が一部銅地から吹き出ている。
第56図 PL.79	61	銅地金張耳環	玄室北西壁寄 床面下3cm	26.0	23.5	0.5	0.5										銅地の上から金張りしたと推定される耳環。緑錆が一部銅地から吹き出ている。
第56図 PL.79	62	中空銅地金メッキ耳環	北西裏込め 埋土	3.2	2.8	0.7	0.9	0.2									中空の銅地金メッキの耳環。大型で精巧な造りである。緑錆が各所に銅地から出てきている。
第57図 PL.79	63	銀製鏃	東部裏込め 埋土	3.5	2.3	0.2	0.3										銀製の鏃。断面は内側が直線状で、外側は傾斜部のある五角形状である。
第57図 PL.79	64	直刀	羨道北部 床面上4cm	16.6+	16.6+	1.5+	0.35										短刀の刃部片。茎は欠損し、刃端部も欠損が多い。
第57図 PL.79	65	銀製鞘尻金具	埋土	5.0	2.8	2.6	1.6	0.03	0.2	0.1							銀装の鞘尻金具。鞘尻部先端には4本の溝状の窪みをつけ畦目状の装飾を施す。側面から見ると真ん中が突出して上下が弧状を呈している。下部のほうが弧状の角度が急で、深くまで戻る。断面は倒卵形で、厚みは極めて薄い。端部に銅芯を入れ、その上に銀を被せているが折り込まない。装飾大刀に伴う鞘尻である。
第57図 PL.79	66	銀装具片稜線部	玄室中央 埋土	2.1+	0.6+	0.02											銀製の薄板片。稜線があり、屈曲している。刀の装具？
第57図 PL.79	67	銀装具片板状品	玄室中央 埋土	2.1+	1.0+	0.02											銀製の薄板片。板状を呈する。
第57図 PL.79	68	鉄薄板片	埋土	1.7	1.5+	0.1											板状品。左右が欠失。
第57図 PL.79	69	鉄薄板片	埋土	1.7	1.5+	0.1											板状品。左右が欠失。
第57図 PL.79	70	長頸鏃刃部	玄室西部壁寄 埋土	2.55+	2.55+	0.8	0.2										長頸柳葉形鏃刃部。長三角形で、片丸造りで撫関である。
第57図 PL.79	71	長頸鏃柳葉？片刃？	玄室西部壁寄 床面下6cm	5.0+	1.5	0.7	0.3		3.5+	0.6	0.4						長頸柳葉形鏃の刃・頸部の破片。片丸造の刃部を持つ。薄手の工具の可能性もある。
第57図 PL.79	72	長頸柳葉鏃	北部裏込め 埋土	5.2+	0.8	0.6	0.2	4.4+	0.6	0.4							長頸柳葉形鏃。鑿箭に近い鏃で、刃部と頸部の境が撫関状である。
第57図 PL.79	73	長頸鏃頸部片	玄室西部壁寄 埋土	5.0+	0.4	0.8	0.2		4.6+	0.7	0.3						長頸柳葉形鏃と推定する。頸部と刃部の一部が遺存する。刃関は撫関が一部確認できる。
第57図 PL.79	74	長頸片刃鏃刃・頸	玄室南西部 床直	5.7+	(1.9)	0.6	0.15		3.8+	0.4	0.3						長頸の片刃鏃。片丸造と推定。刃関部ははっきりしないが、なだらかに移行するものと推定。刃部はやや長めである。
第57図 PL.79	75	長頸片刃鏃刃・頸	玄室南西部 壁寄 埋土	4.8+	2.5	0.8	0.3		2.1+	0.6	0.3						長頸片刃鏃の刃・頸部破片。刃部はやや長めで、片丸造り。刃関は撫関と推定。
第57図 PL.79	76	長頸片刃鏃刃・頸部	羨道北西部床面 上3cm	6.1+	2.0	0.75	0.25		4.15+	0.6	0.2						長頸片刃鏃。刃関は斜め関で、刃部がやや短くなりはじめている。片丸造りと推定する。
第57図 PL.79	77	長頸片刃鏃刃・頸部片	埋土	5.3+	1.6	0.7	0.2		3.7+	0.5	0.15						長頸片刃鏃。刃はふくらが斜関で終息する箇所まである。残存率1/2。
第57図 PL.79	78	長頸片刃鏃	西部裏込め 埋土	13.3+	1.5+	0.7	0.2	8.2	0.6	0.3	1.0	0.3	2.0+	0.6	0.2		長頸片刃鏃。片丸造の片刃。刃の長さがある程度あり、刃関は不明瞭で、なだらかに頸部に移行するものと推定。明瞭な棘状関を周する。茎に木質とその上に樹皮巻が残る。
第57図 PL.79	79	長頸片刃鏃	玄室南西隅 床面下6cm	8.55+	1.5	0.7	0.3	7.0+	0.4	0.25							長頸片刃鏃の破片。刃関はな斜め関で、刃部はやや短くなる。刃部は片丸造りである。
第57図 PL.79	80	長頸片刃鏃・刃部	玄室南西壁寄 床面下2cm	3.2+	1.7+	0.7	0.2	1.5+	0.7	0.2							長頸片刃鏃刃部破片。刃部は片丸造でふくらは弱い。刃部もやや上に位置する。

金属器観察表

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第57図 PL.79	81	長頸片刃鏃・ 刃部	玄室北部 床面下5cm	2.5+	2.1	0.75	0.2	0.4	0.6	0.2							長頸片刃鏃の刃部片。一部頸部も遺存。刃部が片丸造であることを示す良好な例。
第58図 PL.79	82	長頸鏃頸・茎	玄室西部 床面下9cm	7.0+				6.1+	0.6	0.35	1.0	0.3	0.9+	0.5	0.4		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻が残る。頸部途中から斜めに屈曲する。
第58図 PL.79	83	長頸鏃頸・茎	玄室南西隅 床面下4cm	8.9+				4.8+	0.4	0.3	0.7+	0.25	4.1+	0.35	0.25		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻遺存。
第58図 PL.79	84	長頸鏃頸・茎	西部裏込め 埋土	7.7+				4.6+	0.4	0.35	0.75+	0.4	3.1+	0.4	0.4		長頸鏃頸・茎片。棘状関残る。樹皮巻と木質が茎に一部残る。
第58図 PL.79	85	長頸鏃頸・茎	羨道北西壁際 床面下4cm	6.9+				4.8+	0.45	0.3	0.9	0.3	1.9+	0.35	0.3		長頸鏃頸部・茎部片。棘状の関が明瞭に分かる資料。
第58図 PL.79	86	長頸鏃棘関	玄室南西部 床面上3cm	6.5+				4.5+	0.4	0.25	0.8	0.25	1.9+	0.35	0.25		長頸鏃の頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に樹皮巻残る。
第58図 PL.79	87	長頸鏃頸・茎 片	玄室南西壁際 床面下3cm	9.2+				4.2+	0.6	0.3	0.8	0.2	4.9+	0.4	0.3		長頸鏃頸・茎部片。
第58図 PL.79	88	長頸鏃頸・茎	玄室南西壁寄 床面下4cm	5.2+				4.3+	0.45	0.25	0.6+	0.2	0.8+	0.5	0.2		長頸鏃の頸・茎部片。頸部がやや細い。棘状関が先端部が破損しながらも残る。
第58図 PL.79	89	長頸鏃頸・茎 片	玄室南西部 床面上1cm	6.5+				3.9+	0.4	0.3	0.85	0.2	2.7+	0.35	0.25		長頸鏃頸・茎部片。棘状関明瞭に残る。茎に樹皮巻及び木質付着。
第58図 PL.79	90	長頸鏃頸・茎	玄室南西隅寄 床面下3cm	8.4+				4.0+	0.45	0.3	0.8	0.25	4.4+	0.4	0.25		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻、植物繊維で茎半ば下部に糸巻き遺存。
第58図 PL.79	91	長頸鏃頸・茎	玄室南西部 床面下4cm	5.9+				4.1+	0.5	0.2	0.8	0.2	1.8+	0.35	0.2		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻遺存。
第58図 PL.79	92	長頸鏃棘関	玄室南西部 床面上3cm	5.2+				3.8+	0.5	0.4	0.9+	0.4	1.4+	0.5	0.4		長頸鏃頸・茎部片。
第58図 PL.79	93	長頸鏃頸・茎	玄室南西隅 埋土	7.3+				3.0+	0.5	0.35	0.8	0.4	4.3+	0.5	0.3		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻がかなり多く残る。
第58図 PL.80	94	長頸鏃頸・茎	前庭北部 床面上4cm	4.9+				3.2+	0.35	0.3	0.8	0.3	1.6+	0.4	0.3		長頸鏃頸部・茎部片。棘状の関が明瞭に分かる資料。
第58図 PL.80	95	長頸鏃頸・茎 片	玄室西部壁寄 床面上2cm	6.6+				2.9+	0.4	0.3	0.95+	0.2	3.7+	0.35	0.25		長頸鏃頸部・茎部片。棘状の関が良く分かる資料。茎に樹皮巻、木質付着。
第58図 PL.80	96	長頸鏃頸部	玄室西部 埋土	3.6+				2.8+	0.5	0.3	0.7	0.2	0.7	0.5	0.35		長頸鏃頸・茎片。棘状関残る。
第58図 PL.80	97	長頸鏃頸・茎	埋土	4.5+				2.6+	0.4	0.3	0.8	0.3	2.0+	0.35	0.3		長頸鏃頸・茎片。棘状関残る。
第58図 PL.80	98	長頸鏃頸・茎	玄室南西隅 床面下7cm	6.6+				2.1+	0.8	0.5	0.9	0.5	4.5	0.9	0.5		長頸鏃の頸の一部と茎部である。棘状関が明瞭に分かる。茎には木質と樹皮巻が確認できる。
第58図 PL.80	99	長頸鏃頸・茎 部片	埋土	5.8+				1.8+	0.5	0.35	1.0+	0.35	4.0+	0.4	0.3		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が良く残る。
第58図 PL.80	100	長頸鏃頸・茎	埋土	3.4+				2.1+	0.6	0.35	0.6+	0.35	1.3+	0.45	0.25		長頸鏃の頸・茎片。棘状関が良く残る。
第58図 PL.80	101	長頸鏃頸・茎	玄室西部壁際 床面下1cm	3.7+				1.8+	0.4	0.3	0.9	0.3	1.9+	0.4	0.3		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻遺存。
第58図 PL.80	102	鏃頸・茎部	玄室西部壁寄 床面下1cm	5.1+				1.7+	0.6	0.45	(1.0)	0.35	3.3+	0.4	0.3		長頸鏃の頸・茎部片。棘状関が先端部が破損しながらも残る。植物繊維が糸巻状に巻かれている。
第58図 PL.80	103	長頸鏃頸・茎 片	玄室南西部壁寄 床面下3cm	3.7+				1.4+	0.55	0.4	0.9+	0.3	2.3+	0.4	0.28		長頸鏃頸・茎部片。棘状関明瞭に残る。茎に樹皮巻及び木質付着。
第58図 PL.80	104	長頸鏃頸・茎	玄室西部壁寄 床面上2cm	6.1+				0.5+	0.4	0.35	0.8	0.35	5.6+	0.4	0.3		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻遺存。
第58図 PL.80	105	釘片	玄室北東壁寄 床面上2cm	4.7+				0.2+			0.7	0.2	4.5	0.5	0.35		鏃頸・茎部。棘状関分る。茎部は完存。

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第58図 PL.80	106	長頸鏃頸・茎	玄室西部 埋土	4.8+				1.8+	0.4	0.3	(0.8)	0.4	2.9	0.35	0.3		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。茎に木質、樹皮巻遺存。
第58図 PL.80	107	長頸鏃頸・茎片	玄室西部 床面上８cm	4.1+				1.8+	0.5	0.3	0.8+	0.3	2.3+	0.4	0.3		長頸鏃頸部・茎部片。棘状の関が分かる資料。
第58図 PL.80	108	長頸鏃頸・茎	埋土	3.4+				0.7+	0.65	0.4	0.8+	0.5	2.7+	0.5	0.4		長頸鏃頸・茎部片。棘状関が明瞭に残る。
第58図 PL.80	109	長頸鏃頸・茎	玄室西部壁寄 床面下４cm	2.15+									2.15+	0.7	0.45		茎片。棘状関の点前で折れた茎片。樹皮巻が一部遺存。
第59図 PL.80	110	長頸鏃頸	玄室西部壁際 床面下２cm	6.4+				6.4+	0.5	0.35							長頸鏃頸部片。頸部の長さを知る資料。
第59図 PL.80	111	長頸鏃頸部	玄室西東部 床面上２cm	5.3+				5.3+	0.5	0.35							長頸鏃頸部片。関部は無し。
第59図 PL.80	112	長頸鏃頸片？	埋土	4.2+				4.2+	5.0	3.5							長頸鏃頸部片。頸部両端部が欠失。
第59図 PL.80	113	長頸鏃頸	玄室南西壁寄 床面下４cm	4.2+				4.2+	0.35	0.3	0.5+	0.3					長頸鏃頸部片。棘状関が残る。
第59図 PL.80	114	長頸鏃頸部	玄室南西部 床面上６cm	4.1+				4.1+	0.3	0.25							長頸鏃頸部片。
第59図 PL.80	115	長頸鏃頸部	玄室南西壁寄 床面上１cm	4.3+				4.3+	0.5	0.25							長頸鏃頸部片。
第59図 PL.80	116	長頸鏃頸部	玄室南西壁寄 床面下２cm	3.6+				3.6+	4.5	0.2							長頸鏃頸部片。
第59図 PL.80	117	鏃・茎小片	埋土	2.8+								2.8+	0.4	0.3	0.3		鏃茎片。樹皮巻が良く残る。
第59図 PL.80	118	鏃茎片	羨道北東壁寄 埋土	4.6+								4.6+	0.4	0.35	0.35		鏃の茎片。植物繊維の糸巻きが残る。
第59図 PL.80	119	鏃茎先片	不明									4.05+	0.35	0.35	0.35		長頸鏃の茎。
第59図 PL.80	120	鏃茎	玄室西部 床面上２cm	5.2+								5.2+	0.5	0.4	0.4		長頸鏃茎片。木質付着、上部に樹皮巻の痕跡遺存。
第59図 PL.80	121	鏃茎	玄室南西部 床面上４cm														
第59図 PL.80	122	鏃茎先端	羨道北西壁寄 埋土	3.7+								3.7+	0.3	0.25	0.25		長頸鏃の茎の先端部。植物繊維の糸巻きが良く見える。
第59図 PL.80	123	鏃茎片	玄室南西隅寄 埋土	2.1+								2.1+	0.35	0.3	0.3		鏃茎片。植物繊維の糸巻き残り良。
第59図 PL.80	124	銅製小型装具	埋土	0.7	0.5+	0.35	0.02										刀子の銅製装具片と推定。破損で、幅は不明。
第59図 PL.80	125	刀子片、刃部	埋土	3.2+	3.2+	0.9+	0.25										刀子刃部片。鋒と刃基部が欠損。
第59図 PL.80	126	銀装具付刀子片	玄室南部 床直	2.5+	1.0+	1.4	0.5	1.5+	1.2	0.6	2.2	0.8	0.03				銀装刀子の破片。銀装具は完存。刀子は刃部と関・茎部の一部が遺存。両関である。銀装具は銀の薄板を加工したもので県内では珍しい。
第59図 PL.80	127	直刀片、刃部	東部裏込め 埋土	6.8+	(4.0)	1.5	0.2	2.8+	1.0	0.2							刃部が太く、やや寸胴な形態を有する。茎の一部が欠損している。有機質の付着無し。
第59図 PL.80	128	刀子茎部	玄室南部 床面上４cm	5.0+				5.0+	0.9	0.6							刀子の茎片。真ん中より緩やかなくの字状に屈曲している。
第59図 PL.80	129	針？	玄室北部 埋土	2.4+	0.15												断面円形の径0.15㎜の棒状品。下部は尖っており針状工具と推定する。
第60図 PL.80	130	渦巻形杏葉	玄室左袖 埋土	5.1	2.55	4.75	0.55	2.35	2.4	0.6	0.15	2.6	2.3	0.15	0.7	0.25	
				コハゼ形の立聞の下部に２つの捩じりながらの渦巻文装飾が対になって立聞の下部が上に被せるようにして鍛接されている。渦巻きは４重巻になっており、しかも捩じりを加えながら曲げている。立聞には、３つの鋲が打ち込まれており、いずれも銀薄板を鋲頭に被せている。長3.0cm、幅0.45cm、厚み0.1cmの責金具が留金具下部の２鋲のすぐ下に配され、責金具にも銀薄板が被せられている。立聞の裏側には有機質の遺存は無い。渦巻部中央に飾鋲があり、鉄地鋲頭に銀が被せられている。													
第60図 PL.81	131	渦巻形杏葉	玄室左袖 埋土	5.5	2.6	(4.7)	0.5	2.35	2.35	0.6	0.4	2.75	2.1	0.1	0.7	0.35	
				コハゼ形の立聞の下部に２つの捩じりながらの渦巻文装飾が対になって立聞の下部が上に被せるようにして鍛接されている。渦巻きは４重巻になっており、しかも捩じりを加えながら曲げている。立聞には、３つの鋲が打ち込まれており、いずれも銀薄板を鋲頭に被せている。長2.1+cm、幅0.45cm、厚み0.1cmの責金具が留金具下部の２鋲のすぐ下に配され、責金具にも銀薄板が被せられている。立聞の裏側には有機質の遺存は無い。渦巻部中央に飾鋲があり、鉄地鋲頭に銀が被せられている。													

金属器観察表

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第60図 PL.81	132	渦巻形杏葉	玄室南西部 床面下７cm	5.4	2.3	0.45	4.4	2.2	2.2	0.7	0.2	3.1	2.1	0.1	0.65	0.25	コハゼ形の立聞の下部に２つの捩じりながら施した渦巻文装飾が対になって立聞の下部が上に被せるようにして鍛接されている。渦巻きは４重巻になっており、しかも捩じりを加えながら曲げている。立聞には、３つの鋲が打ち込まれており、いずれも銀薄板を鋲頭に被せている。長2.85cm、幅0.45cm、厚み0.1cmの責金具が留金具下部の２鋲のすぐ下に配され、責金具にも銀薄板が被せられている。立聞の裏側には皮革と想定される有機質が遺存する。渦巻部中央に飾鋲があり、鉄地鋲頭に銀が被せられている。
第61図 PL.81	133	渦巻形杏葉	玄室南西壁際 床面下５cm	5.4	2.45	0.35	5.1	2.35	(2.75)	0.65	0.2	2.9	2.4	0.1	0.7	0.3	コハゼ形の立聞の下部に２つの捩じりながら渦巻状の装飾が対になって留金具の下部が上に被せるようにして鍛接されている。渦巻きは４重巻になっており、しかも捩じりを加えながら曲げている。立聞には、３つの鋲が打ち込まれており、いずれも銀薄板を鋲頭に被せている。一部欠損している長(2.85) cm、幅0.45cm、厚み0.1cmの責金具が留金具下部の２鋲のすぐ下に配され、責金具にも銀薄板が被せられている。裏側は欠損している。留金具の裏側に有機質の付着は無い。渦巻部中央に飾鋲があり、鉄地鋲頭に銀が被せられている。
第61図 PL.81	134	渦巻形杏葉	玄室南西隅 床面下７cm	5.3	2.6	4.8	2.6	2.25	0.4	0.95	0.3	2.65	2.35	0.1	0.7	0.35	コハゼ形の立聞の下部に２つの捩じりながら渦巻状の装飾が対になって留金具の下部が上に被せるようにして鍛接されている。渦巻きは４重巻になっており、しかも捩じりを加えながら曲げている。立聞には、３つの鋲が打ち込まれており、いずれも銀薄板を鋲頭に被せている。一部欠損している長1.1cm、幅0.4cm、厚み0.1cmの責金具が留金具下部の２鋲のすぐ下に配され、責金具にも銀薄板が被せられている。裏側は欠損している。留金具の裏側に有機質の付着は無い。渦巻部中央に飾鋲があり、鉄地鋲頭に銀が被せられている。
第62図 PL.82	135	四脚辻金具片	玄室南西隅寄 床面下４cm	7.2	2.6	2.0	0.1	0.8	0.8	0.2	0.6						４脚の辻金具。コハゼ形の留金具が十字形に接合されている。各留金具に鋲が三角形状に３鋲打たれている。また、辻金具の中央部にも１鋲打たれている。銀の薄板を鉄鋲頭部に貼り込んでいる。
第62図 PL.82	136	四脚辻金具	玄室南西壁寄 床面下６cm		7.2	2.0	0.1	0.8	0.7	0.3							４脚の金具。それぞれに３つの鋲が三角形状の配置で打たれている。留金具は先端がコハゼ形を呈している。鋲の一部は銀が被せてあるのが遺存する。裏面に有機質痕跡がある。
第62図 PL.82	137	三脚辻金具、 1/2破損	玄室西部壁寄 床面下８cm	6.5	3.1	2.0	0.1	0.9	0.6	0.2	0.7						３脚形の辻金具。それぞれ枝状に延びた留金具には３つの鋲が三角形状の配置で打たれている。留金具は先端がコハゼ形を呈しているものである。裏側には有機質が一部付着している。
第62図 PL.82	138	三脚辻金具片	玄室南西隅 床面下７cm	6.0	3.4	2.0	0.1	1.3	0.6	0.3	1.0						３脚の辻金具。それぞれ枝状に延びた留金具には３つの鋲が三角形状の配置で打たれている。留金具は先端がコハゼ形を呈しているものである。
第62図 PL.82	139	コハゼ形金具	玄室南西隅寄 床面下３cm	4.6	2.2	0.1	1.1	0.6	0.3	0.8							コハゼ形金具。直線状の端部に、幅0.5cmの段差を有してやや斜めに下る形となっている。鋲は５つ打たれている。裏面には有機質状の痕跡あるも材質不明。
第62図 PL.82	140	コハゼ形金具	西部裏込め 埋土	3.2	2.1	0.1	1.3	0.8	0.4	0.9							コハゼ形金具。３鋲あり。下段の２鋲は錆による割れあり。鋲頭に銀が一部付着。
第62図 PL.82	141	コハゼ形金具	玄室南西隅 埋土	3.0	2.1	0.1	0.9	0.6	0.3	0.6							コハゼ形金具。完存。３鋲あり。鋲頭に一部銀の痕跡あり。
第62図 PL.82	142	コハゼ形金具	埋土	2.8	2.1	0.1	0.5	0.2	0.7	0.5							コハゼ形留金具。完存。３鋲を有する。鋲頭の一部に銀が張られていた痕跡あり。裏面に皮かと思われるような有機質の痕跡があるが、はっきりしない。
第62図 PL.82	143	コハゼ形金具	不明	2.4	2.2	0.15	0.7	0.6	0.1	0.6							コハゼ形金具。完存。３鋲を有する。鋲頭に銀が張られている。
第62図 PL.82	144	コハゼ形金具	不明	4.0	2.2	0.15	0.7	0.6	0.3	0.4	0.3						コハゼ形金具。一部欠損。２鋲有する。
第62図 PL.82	145	コハゼ形金具	玄室南西隅寄 埋土	3.3	2.15	0.15	0.5	0.15	0.3	0.2							コハゼ形金具。２鋲を上下端部に有する。表面に布が付着し、裏面に黒色物質があり革の可能性あり。
第63図 PL.82	146	コハゼ形金具	玄室南西隅 埋土	3.1	2.8	0.15	(0.8)	0.6	0.3	0.5	0.25						コハゼ形金具。小型。一部欠損。２鋲有する。上部鋲頭に銀が遺存。
第63図 PL.82	147	コハゼ形金具 小	玄室南西隅寄 床面下２cm	2.5+	1.3+	0.1	1.05	0.7	0.3	0.95							コハゼ形金具。２鋲を上下端部に有する。表に黒色物質あり。物質内容不明。
第63図 PL.82	148	金具破片	埋土	1.75+	2.05+	0.1	0.3	0.5	0.2	0.1							端が隅円方形状を呈する留金具片。残存率1/4。鋲は１鋲が残る。
第63図 PL.82	149	金具破片	埋土	2.1+	2.05	0.1	0.8	0.6	0.2	0.6							端が隅円方形状を呈する金具片。残存率1/2鋲は１鋲が残る。

挿図No. PL.No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第63図	150	金具	西部裏込め 埋土	2.8+	2.4	0.1	0.4+	(0.6)	－	0.4							コハゼ形金具。コハゼ先端部付近遺存。鋲1点確認できる。裏側に有機質痕跡あり。
第63図 PL.82	151	金具片	埋土	2.7+	1.45+	0.15	1.1	0.7	0.1	1.0							端部形態不明の金具片。残存率1/4。
第63図 PL.82	152	方形金具	玄室南西隅寄 埋土	2.4	2.4	0.1	0.8	0.5	0.3	0.5							方形留金具。完存。四隅に4鋲あり。銀がほんの一部鋲頭に痕跡として残る。
第63図 PL.82	153	方形金具	西部裏込め 埋土	2.4	2.4	0.2	0.9	0.6	0.3	0.6							方形金具。4隅に4鋲あり。鋲頭錆割れしているものあり。銀が一部鋲頭に付着している。
第63図 PL.82	154	コハゼ形金具？	玄室西部壁寄 埋土	2.4	2.2	0.1	0.9	0.7	0.3	0.6							コハゼ形金具。1/4欠失。四隅に4鋲あるものと推定(実物は3鋲のみ残存)。銀の痕跡一部にある。
第63図 PL.82	155	方形金具	西部裏込め 埋土	2.4	2.4	0.1		(0.3+)		0.3+							方形金具。4隅に4鋲あると推定。1鋲は痕跡も不明。銀がごく一部に残存。鋲頭の遺存なし。
第63図 PL.82	156	絞具	埋土	2.4	3.8	2.0	0.5										絞具片。基部の片方が欠損している。
第63図 PL.82	157	絞具	玄室南西隅寄 床面下5cm	2.4	3.2	(2.4)	0.6										絞具の一部欠損品。
第63図 PL.83	158	絞具	玄室南西壁際 床面下2cm	2.4	3.8	2.7	0.7	1.0	5.5	2.6	0.8	0.65	3.6	0.7	0.6		絞具。完存品。環部はかなり扁平楕円形化している。基部も先端に向けて少し狭まる形態である。
第63図 PL.83	159	大型絞具	玄室南西壁際 床面上2cm	2.4	4.0	3.2	0.6	0.9	5.8	2.8	0.8	0.8	4.0	0.8	0.7		絞具。完存品。環部はかなり扁平楕円形化している。軸部は、絞具基部に軸が入り込んでいる。
第63図 PL.83	160	絞具	東部裏込め 埋土	2.4	3.0	2.5	0.3										絞具。完存している。瓢形で片方が直角に屈曲し、屈曲した先端部同士の間に空きを設ける。
第63図 PL.83	161	絞具	西部裏込め 埋土	2.4	3.1+		0.4										絞具片。165と近似。
第63図 PL.83	162	絞具片	玄室南西隅寄 床面上1cm	2.4													絞具片。
第64図 PL.83	163	鞍片	羨道東部壁際 埋土	3.2	0.1	4.5+	1.0	0.8									鞍片。変形激しい。
第64図 PL.83	164	鞍片	埋土	3.3	0.1	2.8+	1.1	0.8									鞍。軸部残存良好。
第64図 PL.83	165	金銅製連結金具	羨道南部 埋土	2.4	6.6+	0.9	0.4	0.35	6.0+	0.9	0.4	0.3					引手金具の連結部片。いずれも鉄地に銅薄板を貼り、金メッキをしたものである。166と同じ部品。馬具の一部か
第64図 PL.83	166	金銅製連結金具片	埋土	2.4	0.3	(0.8)	0.2										金銅製の引手金具。鉄地に銅薄板を巻いて金メッキしている。馬具の一部とか？
第64図 PL.83	167	留金具	埋土	2.4	2.1	3.2	1.1	0.5	0.2								留金具。ほぼ完存。ハの字形に開く。片方が幅広い。
第64図 PL.83	168	留金具	埋土	2.4	2.2	3.1+	1.0	0.4	0.2								留金具。先端欠損。ハの字形に開く。片方が幅広い。
第64図 PL.83	169	留金具片	埋土	2.4	2.1	2.4+	1.0+	0.4	0.2								留金具。先端欠損。ハの字形に開く。片方が幅広い。
第64図 PL.83	170	留金具片	埋土	2.4	2.1	2.9+	1.0+	0.3	0.2								留金具。ハの字形に開く部分はほとんど欠損。片方が幅広い。
第64図 PL.83	171	木製鐙吊金具	北西壁寄 埋土	2.4	4.6	1.2	0.2	0.4	0.35	0.4	0.4	0.1	0.3				木装壺鐙吊金具と想定する。片方の脚部が欠損。コの字形で、脚部に2鋲を有する。
第64図 PL.83	172	花弁形座金具	玄室南西壁寄 床面下4cm	2.4	1.9+	0.2											厚さ0.2cmの鉄地に花弁形の端部を表現したと想定した上に銀を被せた花弁形座金具。
第64図 PL.83	173	花弁形座金具	玄室南西壁寄 床面下4cm	2.4	3.1+	0.5											花弁状の鉄地板に、薄い銀板を貼っている。花弁形座金具。

金属器観察表

挿図No. PL.No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第64図 PL.83	174	鉄地銀張責金具	埋土	2.4	0.5	0.3+											責金具片。銀が貼り込まれている。
第64図 PL.83	175	留金具板状部片	埋土	2.2+	1.7+	0.1											板状品。厚さは0.1cmと薄い。留金具の一部破片か。
第64図 PL.83	176	長方形小板	埋土	3.3+	1.0	0.18											長方形の板状品。真中で少し波状に高くなり、径0.1cmの穿孔がある。新しい時代の製品の可能性あり。
第64図 PL.83	177	長方形小板	埋土	2.5+	1.0	0.22											長方形の板状品。波状になっている。176と同じ製品の可能性高い。
第64図 PL.83	178	鏃片	玄室西部壁寄 埋土	2.3+	0.3	0.2											鏃片か？
第64図 PL.83	179	鏃	玄室南西隅寄 床面下２cm	4.75+	1.5	0.25	0.2										鏃片と推定。屈曲部の反対側が欠損。
第65図 PL.83	180	鉄滓？	埋土	2.1	1.5	0.8											鉄滓と想定される。
第64図 PL.83	181	刀装具、鞘口金具か？	玄室西部 床面上２cm	3.5	2.1	0.1											幅広の弧状に屈曲する板状品。刀装具の破片の可能性あるが、ややカーブの角度が異なる。内面に有機質状の付着痕跡あり。
第65図 PL.83	182	棒板状品	玄室西部壁寄 床面下５cm	3.5+	0.45	0.35											棒板状品。上下端が欠損。
第65図 PL.83	183	棒板状品	玄室南西壁寄 床面下５cm	2.9+	0.4	0.18											棒板状品。上下端が欠損。
第65図 PL.83	184	小型釘？	埋土	3.95+	3.6+	0.35	0.3	0.5+	0.4	0.2							小型釘片。頭部一部遺存。茎の下部遺存。
第65図 PL.83	185	小型釘片	埋土	1.5+	1.3+	0.3	0.25	0.5	0.4	0.2							小形釘片。頭部一部欠損。茎端欠損。
第65図 PL.83	186	小型釘片	埋土	2.5+	2.1	0.25	0.25	0.4+	0.3	0.2							小形釘片。頭部一部欠損。茎端欠損。ゆるやかにくの字状に曲がっている。
第65図 PL.83	187	小型釘片	埋土	1.4+	0.3	0.4	0.2	1.3+	0.2	0.2							小型釘頭部片。
第65図 PL.83	188	大型釘片	埋土	3.9+	0.75	1.1	0.4	3.5+	0.5	0.4							大型釘頭部片。先端が欠失。
第65図 PL.83	189	大型釘	羨道北西壁際 埋土	5.2+	4.9+	0.45	0.3	0.9	0.9	0.3							大型釘。先端が欠失。
第65図 PL.83	190	釘片・頸部	玄室北東部 床面下１cm	3.8+				3.8+	0.6	0.5							釘茎部片。
第65図 PL.83	191	大型釘頭・頸部	玄室西部壁寄 床面下２cm	3.75+	1.3	1.5	0.4	3.5+	0.9	0.5							釘片。釘頭部は幅が大きい。
第65図 PL.83	192	釘	西部裏込め 埋土	7.1	6.8	0.5	0.35	0.8	0.9	0.1							大型釘完存。木質等の付着無し。
第65図 PL.83	193	釘頭・頸部破片	北西裏込め 埋土	4.9+	4.6	0.6	0.4	0.75	1.15	0.2							大型釘破片。釘先部が欠損。木質遺存無し。
第65図 PL.83	194	釘	埋土	6.3+	0.7	0.6+	0.3	6.1	0.4	0.35							大型釘ほぼ完存。頭部一部欠失。茎先端部少し屈曲している。
第65図 PL.83	195	大型釘頭部片	埋土	2.7+		0.9		2.4	0.5	0.4							大型釘の破片。頭部がほぼ欠失。
第65図 PL.83	196	小型釘頭部片	埋土	1.2+	0.9+	0.5	0.3	0.7	0.6	0.3							小型釘の頭部と茎の一部。頭部が小さい。

1号方形周溝墓

挿図No. PL.No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第70図 PL.85	12	刀子茎片	墳丘内埋土	4.9+				4.9+	0.9	0.3							刀子の茎片。茎尻と茎元が欠損。木質が一部遺存する。

4号溝

挿図No. PL.No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第107図 PL.91	2	棒状品釘？	埋土	12.2+	0.7	0.6											上部がやや屈曲する棒状品。断面は方形状である。下部先端部は尖っており、大型釘の可能性あり。
第107図 PL.91	3	棒板状品	中央部 床面上５cm	13.5	1.3	0.3											長方形の板状品。両端欠失断面はほぼ長方形。用途不明品。

遺構外

第129図 PL.96	128	板状品	１区埋土	2.8+	0.9	2.2	0.3										凸状の形態。刃の表現無し。上端部欠損。厚みは一定である。板状片。

挿図No. PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第129図 PL.96	129	刀子？	1区埋土	6.1+	1.2	0.3											刀子破片と推定。錆がひどく識別困難。刃部と想定できる面あり。
第129図 PL.96	130	鉄片	2区埋土	2.2	2.1	0.1											板状品。端部が屈曲している。
第129図 PL.96	131	鑿？	1区表土	8.9	1.0	1.0											鑿の可能性あり。先端が尖り、体部は四角柱状である。剥離が激しい。
第129図 PL.96	132	釘？	1区表土	3.7+	3.5+	0.6	0.3	0.9	0.8	0.1							大型の釘片。頭部と茎の上部遺存。
第129図 PL.96	133	釘？	3区表土	5.4+	5.4+	0.5	0.4										大型の釘片。茎の下部遺存。
第129図 PL.96	134	工具片	2区表土	7.0+	7.0+	0.5	0.4										棒状品。工具の破片か？
第129図 PL.96	135	板状品	2区表採	5.5	3.4	0.2											板状鉄片。右側面が波状の形態となる。左側面は少し弧状を呈する。

8号墳小札計測表(挿図第53～56図・PL.75～78)

1．胴部小札　長66㎜（66～67㎜)。繊孔３孔×２列
　胴部最上段札頭部裏面にワタガミの織物痕跡があるもの
　胴部小札頭部裏面に織物痕跡がないもの
2．腰札長さ不詳のΩ字型腰札(オメガじがたこしざね)。下位の部分の札配置がわかる破片がわかる破片が１点ある。ほかに、中間の窪み部分の破片が少しある。
3．草摺小札　長70㎜－A(70～71㎜)。繊孔２孔×２列
4．草摺裾札　長69㎜Ω。Ω字型裾札で、窪み部分の長さ23㎜程度・繊孔２孔×２列
5．部位不明　長70㎜－B(70～71㎜)。繊孔３孔×２列＋中央１孔
6．部位不明　長70㎜－C(70～71㎜)。繊孔２孔×２列＋中央１孔

図番号	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	類
14	胴部	6.6	2.2	0.2	1
15	胴部	6.6	2.2	0.2	1
16	胴部	6.6	2.1	0.18	1
17	胴部	6.6	2.0	0.2	1
18	胴部	6.6	2.05	0.16	1
19	胴部	6.7	2.1	0.2	1
20	胴部	6.7	2.2	0.2	1
21	胴部	6.6	2.2	0.2	1
22	胴部	6.7	2.1	0.2	1
23	胴部	(6.3)	2.15	0.2	1
24	胴部	(6.9)	2.2	0.17	1
25	胴部	(3.3)(3.4)	2.15	0.16	1
26	胴部	(5.4)	2.1	0.2	1
27	胴部	(5.3)	2.2	0.2	1
28	胴部	(5.5)	2.1	0.17	1
29	胴部	(5.0)	2.15	0.23	1
30	胴部	(5.1)	2.3	0.2	1
31	腰札	(4.1)	2.2	0.2	2
32	腰札	(4.2)	2.1	0.18	2
33	腰札	(3.5)	2.1	0.2	2
34	腰札	(3.6)	2.1	0.2	2
35	腰札	(4.0)	2.2	0.16	2
36	腰札	(4.8)	2.1	0.2	2

図番号	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	類
37	腰札	(3.2)	2.2	0.2	2
38	草摺	7.2	2.1	0.2	3
39	草摺	6.9	2.0	0.18	3
40	草摺	7.1	2.2	0.2	3
41	草摺	(7.1)	2.3	0.13	3
42	草摺	(6.1)	2.2	0.2	3
43	草摺裾札 (Ω字型裾札)	6.9	2.2	0.2	4
44	草摺裾札 (Ω字型裾札)	7.0	2.1	0.18	4
45	草摺裾札 (Ω字型裾札)	6.9	2.1	0.2	4
46	草摺裾札 (Ω字型裾札)	(4.5)	2.2	0.2	4
47	草摺裾札 (Ω字型裾札)	(4.3)	2.1	0.18	4
48	草摺裾札 (Ω字型裾札)	(5.1)	2.2	0.2	4
49	草摺裾札 (Ω字型裾札)	(3.8)	2.0	0.2	4
50	草摺裾札 (Ω字型裾札)	6.85	2.0	0.2	4
51	部位不明	6.9	2.2	0.23	5
52	部位不明	(4.7)	2.2	0.2	5
53	部位不明	(5.8)	2.1	0.2	5
54	部位不明	(3.6)	2.2	0.2	5
55	部位不明	(4.3)	2.05	0.2	5
56	部位不明	(3.0)	1.8	0.23	5

第４表　古墳一覧表

区	遺構名	グリッド	形状	総長(m)	周溝長(m)	幅・深さ(m)			軸方位	重複
1	1号墳	X＝ 30196～219 Y＝-80578～592	円墳	南北　22.3		南 北	2.00 6.95	0.97 1.35	N-８°-E	
1	２号墳	X＝ 30187～195 Y＝-80586～599	円墳か	—			4.07	1.61	—	
1	３号墳	X＝ 30231～233 Y＝-80574～576	円墳	—			—	—	—	
2	５号墳	X＝ 30117～141 Y＝-80604～621	円形	北～南　23.0	円周（37.5）	南 北	3.40 1.30	1.21 0.50	—	２・４号方形周溝墓、３・４・６・８号溝
2	７号墳	X＝ 30145～174 Y＝-80593～613	方形	北～南　27.8	東～西（12.3） 東～南（13.0） 北～東（16.5）	南 北	4.95 4.80	1.89 0.93	—	９号溝、１・２号方形周溝墓、１・２号集石、17号土坑、62号ピット
3	８号墳	X＝ 30187～208 Y＝-80631～644	不明	南北　（20.0）			6.00	0.97	—	１号方形周溝墓
2	10号墳	X＝ 30166～175 Y＝-80591～595	不明	計測不能		北	6.70		—	

第５表　方形周溝墓一覧表

区	遺構名	グリッド	形状	総長(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方位	重複
3	１号方形周溝墓	X= 30188～200 Y=-80632～640	不明	北～南　11.00 東～北　（2.20）	1.87 1.12	0.74 0.87	N-25°-E	１～３号竪穴建物
2	２号方形周溝墓	X= 30133～146 Y=-80603～614	方形	東～北　（6.00） 北～西　7.00 西～南　8.50 南～東　（4.00）	1.60 1.08 1.45 1.25	1.09 0.71 0.95 0.59	N-43°-W	５・７号墳、３号溝、14号土坑、１号集石
2	３号方形周溝墓	X= 30170～175 Y=-80591～594	不明	南～北　（4.40） 東～西　（2.00）	1.32 —	0.56 0.44	N-31°-E	７号墳
2	４号方形周溝墓	X= 30121～135 Y=-80609～620	方形	東～西　（8.50） 南～北　11.00 南～西　（3.00）	2.10 1.25 1.72	0.50 0.86 0.80	N-52°-E	４号溝

第６表　溝一覧表

区	遺構名	グリッド	走行	長さ(m)	最大幅(m)	最小幅(m)	深さ(cm)	長軸方位	重複
2	３号溝	X= 30139～141 Y=-80608～614	西～東	（6.40）	0.95	0.70	10～41	N-76°-W	５号墳、14号土坑、２号方形周溝墓
2	４号溝	X= 30123～125 Y=-80609～616	西～東	（7.35）	1.07	0.66	29～45	N-75°-W	４号方形周溝墓、５号墳
1	５号溝	X= 30219～220 Y=-80577～581	西～東	（3.90）	1.33	0.80	28～34	N-83°-W	
2	６号溝	X= 30114～120 Y=-80609～614	北西～南東	（8.10）	0.51	0.37	21～26	N-37°-W	５号墳
2	７号溝	X= 30108～110 Y=-80616～620	西～東	（4.20）	0.86	0.56	23～34	N-75°-E	
2	8号溝	X= 30111～118 Y=-80615～618	北～南	7.58	1.03	0.64	18～53	N-16°-W	５号墳
2	9号溝	X= 30150～159 Y=-80599～602	北東～南西	9.64	0.30	0.21	11～16	N-23°-E	７号墳
1	10号溝	X= 30205～212 Y=-80581～584	北～南～東	（8.05）	1.65	0.95	22～59	N-60°-W N-11°-E	７号竪穴建物
1	11号溝	X= 30187～189 Y=-80591～598	西～東	（7.17）	1.48	0.50	15～41	N-82°-W	
1	12号溝	X= 30195～198 Y=-80592～593	北～南	（2.62）	1.56	1.00	39～47	N-21°-W	

第７表　集石・遺物集中一覧表

区	遺構名	グリッド	長(m)	短(m)	長軸方位	重複
2	１号集石	X= 30142～146 Y=-80603～608	（5.01）	（3.12）	N-78°-W	２号方形周溝墓、７号墳
2	２号集石	X= 30155～158 Y=-80602～605	（2.78）	2.43	N-81°-W	７号墳
2	３号集石	X= 30161～165 Y=-80606～609	（3.75）	（3.35）	N-21°-E	７号墳
2	４号集石	X= 30158～161 Y=-80605～609	3.73	2.88	N-65°-W	７号墳
2	５号集石	X= 30149～156 Y=-80605～612	8.60	2.57	N-40°-E	７号墳
2	６号集石	X＝ 30148～154 Y＝-80599～607	6.70	6.52	N-66°-W	７号墳
2	１号遺物集中	X＝ 30174～176	1.77	1.13	N-20°-E	

第８表　竪穴建物一覧表

	遺構名	グリッド	重複	形状	規模(m)			主軸方位	面積(㎡)	炉				貯蔵穴			柱穴					床下土坑				
										位置	規模(cm)			規模(cm)			No.	規模(cm)			備考	No.	規模(cm)			
					長軸	短軸	残存深度				長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	深さ		長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ	
3	１号竪穴建物	X= 30198 ～ 203 Y=-80632 ～ 636	１号方形周溝墓、６号土坑	円形か	4.63	(3.54)	0.59	N- 9°-E	(13.38)	中央	44	38	14				P 1	34	32	70						
																	P 2	30	28	65						
																	P 3	39	34	21						
																	P 4	58	50	25						
																	P 5	30	26	74						
																	P 6	23	20	28	旧14号ピット					
3	２号竪穴建物	X= 30189 ～ 196 Y=-80636 ～ 642	１号方形周溝墓	柄鏡形	(6.68)	4.98	0.67	N-49°-W	(18.52)	中央	72	64	23				P 1	23	20	37						
																	P 2	28	19	53						
																	P 3	45	39	62						
																	P 4	105	100	51	旧１号床下土坑					
																	P 5	33	31	28	旧53号ピット					
																	P 6	32	30	28	旧47号ピット					
3	３号竪穴建物	X= 30188 ～ 191 Y=-80633 ～ 638	９・10号土坑	不明	(4.88)	(2.95)	0.92	不明	(12.01)	中央	60	50	21				P 1	50	35	23	旧56号ピット					
																	P 2	26	23	43	旧54号ピット					
																	P 3	40	39	48	旧55号ピット					
																	P 4	52	51	67	旧48号ピット					
																	P 5	28	21	79	旧49号ピット					
2	４号竪穴建物	X= 30158 ～ 165 Y=-80605 ～ 610	15号土坑	柄鏡形	(6.50)	(6.00)	0.13	N-38°-W	(20.09)	中央	104	90	48				P 1	60	40	29		1	56	50	24	
																	P 2	47	40	25						
																	P 3	38	37	29						
																	P 4	34	30	26						
																	P 5	52	45	42						
																	P 6	(54)	40	44						
																	P 7	40	34	29						
																	P 8	(37)	40	43						
																	P 9	20	18	10	旧95号ピット					
																	P10	38	30	24	旧98号ピット					
																	P11	45	39	37	旧93号ピット					
																	P12	48	39	50	旧94号ピット					
																	P13	35	30	37	旧96号ピット					
																	P14	25	24	28	旧97号ピット					
																	P15	(38)	(22)	49	旧99号ピット					
1	５号竪穴建物	X= 30216 ～ 221 Y=-80577 ～ 579	１号墳、５号溝	不明	(4.04)	(1.18)	0.35	N-18°-E	(3.94)	不明							P 1	40	(22)	38						

	遺構名	グリッド	重複	形状	規模(m)			主軸方位	面積(㎡)	炉				貯蔵穴			柱穴					床下土坑				
					長軸	短軸	残存深度			位置	規模(cm)			規模(cm)			№.	規模(cm)			備考	№.	規模(cm)			
											長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	深さ		長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ
1	6号竪穴建物	X= 30191～196 Y=-80587～591	2号墳	隅丸長方形	4.87	3.40	0.58	N-0°	(13.48)	中央北辺寄り	66	47	2													
1	7号竪穴建物	X= 30202～207 Y=-80581～586	10号溝	隅丸長方形	(4.56)	3.24	0.63	N-50°-E	(11.88)	中央西壁寄り	56	43	6	70	56	40	P 1	70	55	24						
2	8号竪穴建物	X= 30149～154 Y=-80602～607		円形か	5.57	(4.55)	0.10	N-0°	(23.96)	中央 (旧18土坑)	100	95	21				P 1	35	33	27	旧77号ピット					
																	P 2	38	35	19	旧66号ピット					
																	P 3	26	26	25	旧67号ピット					
																	P 4	40	38	32	旧74号ピット					
																	P 5	50	40	21	旧68号ピット					
																	P 6	48	45	52	旧69号ピット					
																	P 7	49	41	72	旧70号ピット					
																	P 8	38	33	22	旧72号ット					
																	P 9	33	32	19	旧78号ピット					

第９表　土坑一覧表

区・面	遺構名	座標値		平面形状	規模(cm)			長軸方位	重複	備考
					長軸	短軸	深さ			
３区１面	１号土坑	X=30217～219	Y=-80632	不整形	209	60	10	N-16°-E	１号ピット	
３区１面	２号土坑	X=30215・216	Y=-80631・632	円形	138	130	29	N-74°-W		
３区１面	３号土坑	X=30213～215	Y=-80632・633	長円形	180	68	8	N-26°-E		
欠番	４号土坑									
１区１面	５号土坑	X=30233・234	Y=-80572・573	楕円形	104	95	43	N-42°-W		
３区２面	６号土坑	X=30200	Y=-80633・634	楕円形	99	48	82	N-87°-W	１号竪穴建物	
３区２面	７号土坑	X=30192・193	Y=-80635	楕円形	119	78	78	N-２°-E		
３区２面	８号土坑	X=30193・194	Y=-80635・636	楕円形	145	101	66	N-６°-E	36号ピット	
３区２面	９号土坑	X=30190・191	Y=-80633・634	不明	162	(121)	71	—	３号竪穴建物、10号土坑	
３区２面	10号土坑	X=30189～191	Y=-80634・635	不明	153	(140)	37	N-60°-E	３号竪穴建物、９号土坑	
欠番	11号土坑									３号竪穴建物炉に変更
３区２面	12号土坑	X=30192・193	Y=-80633・634	楕円形	93	57	25	N-65°-E		
２区１面	13号土坑	X=30143・144	Y=-80613・614	楕円形か	(48)	55	48	N-22°-E	14号土坑	
２区１面	14号土坑	X=30139～145	Y=-80610～615	楕円形か	(350)	436	94	N-75°-W	２号方形周溝墓、３号溝、13号土坑	
２区１面	15号土坑	X=30159・160	Y=-80606～608	楕円形	217	64	101	N-85°-W	７号墳	
２区１面	16号土坑	X=30174～177	Y=-80592・593	楕円形	(257)	129	81	N-11°-E		
２区１面	17号土坑	X=30168・169	Y=-80601・602	円形	82	75	22	N-43°-E	７号墳	
欠番	18号土坑									８号竪穴建物炉に変更
２区２面	19号土坑	X=30155・156	Y=-80598・599	円形	81	76	71	N-56°-W		
１区２面	20号土坑	X=30205・206	Y=-80587・588	楕円形	91	73	31	N-25°-E		
１区２面	21号土坑	X=30189～192	Y=-80592～594	楕円形か	(159)	204	37	N-78°-W		
１区２面	22号土坑	X=30197～199	Y=-80585～587	楕円形	223	207	58	N-51°-E	105・106号ピット	

第10表　ピット一覧表

区・面	遺構名	座標値		平面形状	規模(cm)			長軸方位	重複	備考
					長軸	短軸	深さ			
３区１面	１号ピット	X=30217	Y=-80632・633	楕円形	53	38	5	N-89°-W	１号土坑	
２区１面	２号ピット	X=30170	Y=-80600・601	楕円形	35	33	10	N-２°-E		
２区１面	３号ピット	X=30171	Y=-80602	楕円形	39	31	16	N-58°-E		
２区１面	４号ピット	X=30171・172	Y=-80604	楕円形	40	34	20	N-10°-E		
２区１面	５号ピット	X=30172	Y=-80600	円形				—		
２区１面	６号ピット	X=30173	Y=-80601・602	楕円形	26	24	15	N-２°-E		
２区１面	７号ピット	X=30173	Y=-80602	円形	30	28	24	N-30°-W		
２区１面	８号ピット	X=30173	Y=-80602	楕円形	35	26	15	N-42°-E		
２区１面	９号ピット	X=30173	Y=-80603	楕円形	30	25	13	N-７°-E		
３区１面	10号ピット	X=30207・208	Y=-80635・636	楕円形	75	48	90	N-12°-E		
３区１面	11号ピット	X=30207・208	Y=-80637	楕円形	80	(30)	64	N-５°-E		
３区１面	12号ピット	X=30207・208	Y=-80633・634	楕円形	58	50	47	N-５°-E		
３区２面	13号ピット	X=30198	Y=-80634	楕円形	29	25	35	N-30°-E		
欠番	14号ピット									１号竪穴建物Ｐ６に変更
３区２面	15号ピット	X=30197	Y=-80634	楕円形	28	26	18	N-３°-W	16号ピット	
３区２面	16号ピット	X=30197	Y=-80634・635	不定形	49	40	33	N-55°-E	15号ピット	
３区２面	17号ピット	X=30197・198	Y=-80635	楕円形	30	23	59	N-54°-E		
３区２面	18号ピット	X=30197	Y=-80635	楕円形	40	35	23	N-３°-E		
３区２面	19号ピット	X=30196	Y=-80635・636	円形	33	32	23	N-45°-E		
３区２面	20号ピット	X=30196	Y=-80635	円形	22	21	22	N-35°-E		
３区２面	21号ピット	X=30195・196	Y=-80635	円形	30	28	42	N-68°-W		
３区２面	22号ピット	X=30195	Y=-80636	円形	24	24	33	—		
３区２面	23号ピット	X=30194・195	Y=-80635・636	楕円形	35	29	57	N-65°-E		
３区２面	24号ピット	X=30194・195	Y=-80635	楕円形	40	35	51	N-85°-W		
３区２面	25号ピット	X=30194・195	Y=-80634	楕円形	40	35	53	N-89°-E	26号ピット	
３区２面	26号ピット	X=30194・195	Y=-80634	円形	42	39	25	N-39°-E	25号ピット	
３区２面	27号ピット	X=30194・195	Y=-80633	楕円形	35	30	68	N-42°-W		
３区２面	28号ピット	X=30194	Y=-80634	円形	32	30	46	N-44°-W		
３区２面	29号ピット	X=30194	Y=-80633・634	円形	39	35	10	N-44°-W		
３区２面	30号ピット	X=30194	Y=-80635	楕円形	62	48	61	N-39°-E		
３区２面	31号ピット	X=30194	Y=-80636・637	楕円形	20	19	14	N-10°-E		
３区２面	32号ピット	X=30194	Y=-80636	楕円形	30	17	28	N-15°-E		
３区２面	33号ピット	X=30193・194	Y=-80636・637	楕円形	(37)	29	37	N-61°-W		
３区２面	34号ピット	X=30194	Y=-80636・637	楕円形	(28)	17	35	N-65°-W		
３区２面	35号ピット	X=30195	Y=-80633	楕円形	37	33	30	N-６°-E		
３区２面	36号ピット	X=30193	Y=-80636	円形	32	29	26	N-87°-E	８号土坑	
３区２面	37号ピット	X=30193	Y=-80636	楕円形	37	31	14	N-０°		
３区２面	38号ピット	X=30192	Y=-80636	円形	52	51	62	N-32°-E		

遺構一覧表

区・面	遺構名	座標値		平面形状	規模(cm)			長軸方位	重複	備考
					長軸	短軸	深さ			
3区2面	39号ピット	X=30194・195	Y=-80636	楕円形	35	10	7	N-32°-E		
3区2面	40号ピット	X=30199	Y=-80637	円形	30	29	37	N-73°-W		
3区2面	41号ピット	X=30198	Y=-80638	楕円形	26	20	43	N-52°-W		
3区2面	42号ピット	X=30198・199	Y=-80638・639	円形	32	30	31	N-0°		
3区2面	43号ピット	X=30198	Y=-80638	楕円形	40	30	37	N-88°-E		
3区2面	44号ピット	X=30198・199	Y=-80636	楕円形	47	25	33	N-6°-E		
3区2面	45号ピット	X=30197・198	Y=-80637	楕円形	36	30	40	N-38°-W		
3区2面	46号ピット	X=30190	Y=-80640	楕円形	35	33	55	N-9°-E		
欠番	47号ピット									2号竪穴建物P6に変更
欠番	48号ピット									3号竪穴建物P4に変更
欠番	49号ピット									3号竪穴建物P5に変更
3区2面	50号ピット	X=30190・191	Y=-80640・641	楕円形	40	35	48	N-23°-E		
3区2面	51号ピット	X=30191	Y=-80641	楕円形	40	26	41	N-75°-E		
3区2面	52号ピット	X=30189・190	Y=-80642	楕円形	41	32	56	N-49°-W		
欠番	53号ピット									2号竪穴建物P5に変更
欠番	54号ピット									3号竪穴建物P2に変更
欠番	55号ピット									3号竪穴建物P3に変更
欠番	56号ピット									3号竪穴建物P1に変更
3区2面	57号ピット	X=30192	Y=-80633・634	楕円形	35	30	51	N-47°-E		
2区1面	58号ピット	X=30132	Y=-80614	円形	30	29	13	N-87°-W	4号墳	
2区1面	59号ピット	X=30132	Y=-80613・614	円形	25	23	44	N-47°-E	4号墳	
2区1面	60号ピット	X=30131	Y=-80614	円形	26	25	36	N-72°-W	4号墳	
2区1面	61号ピット	X=30141	Y=-80608	円形	45	40	9	N-74°-W		
2区1面	62号ピット	X=30168	Y=-80600	楕円形	34	29	30	N-9°-W	7号墳	
2区2面	63号ピット	X=30158	Y=-80603	楕円形	30	20	34	N-46°-W		
2区2面	64号ピット	X=30155・156	Y=-80604	円形	30	28	15	N-77°-W		
2区2面	65号ピット	X=30155	Y=-80601	楕円形	39	33	19	N-67°-W		
欠番	66号ピット									8号竪穴建物P2に変更
欠番	67号ピット									8号竪穴建物P3に変更
欠番	68号ピット									8号竪穴建物P5に変更
欠番	69号ピット									8号竪穴建物P6に変更
欠番	70号ピット									8号竪穴建物P7に変更
欠番	71号ピット									
欠番	72号ピット									8号竪穴建物P8に変更
2区2面	73号ピット	X=30149	Y=-80602・603	楕円形	42	40	24	N-70°-W		
欠番	74号ピット									8号竪穴建物P4に変更
2区2面	75号ピット	X=30153	Y=-80609	円形	24	22	14	N-32°-E		
2区2面	76号ピット	X=30150	Y=-80609	円形	28	25	30	N-79°-W		
欠番	77号ピット									8号竪穴建物P1に変更
欠番	78号ピット									8号竪穴建物P9に変更
2区2面	79号ピット	X=30150・151	Y=-80611・612	不定形	54	39	30	N-83°-W		
1区2面	80号ピット	X=30195・196	Y=-80586・587	楕円形	42	35	20	N-24°-E		
1区2面	81号ピット	X=30196	Y=-80587	円形	26	25	13	N-15°-E		
1区2面	82号ピット	X=30196	Y=-80587・588	円形	38	35	25	N-46°-W		
1区2面	83号ピット	X=30196・197	Y=-80587・588	楕円形	43	38	31	N-44°-W		
1区2面	84号ピット	X=30196・197	Y=-80589	円形	40	38	55	N-61°-W		
1区2面	85号ピット	X=30197	Y=-80590	円形	39	40	29	N-65°-W		
1区2面	86号ピット	X=30197	Y=-80589・590	円形	35	33	45	N-27°-E		
1区2面	87号ピット	X=30197・198	Y=-80591	楕円形	43	35	33	N-55°-W		
1区2面	88号ピット	X=30197・198	Y=-80591・592	楕円形	37	35	22	N-18°-W		
1区2面	89号ピット	X=30198	Y=-80591・592	円形	33	32	31	N-14°-W		
1区2面	90号ピット	X=30197・198	Y=-80592	円形	40	38	26	N-90°	12号溝	
1区2面	91号ピット	X=30198	Y=-80592・593	楕円形	50	40	34	N-82°-E	12号溝	
1区2面	92号ピット	X=30219・220	Y=-80580	楕円形	40	38	17	N-2°-W		
欠番	93号ピット									4号竪穴建物P11に変更
欠番	94号ピット									4号竪穴建物P12に変更
欠番	95号ピット									4号竪穴建物P9に変更
欠番	96号ピット									4号竪穴建物P13に変更
欠番	97号ピット									4号竪穴建物P14に変更
欠番	98号ピット									4号竪穴建物P10に変更
欠番	99号ピット									4号竪穴建物P15に変更
1区2面	100号ピット	X=30209	Y=-80586・587	楕円形	45	35	48	N-22°-E		
1区2面	101号ピット	X=30208	Y=-80587	円形	38	37	36	N-20°-W		
1区2面	102号ピット	X=30200	Y=-80588	楕円形	37	21	44	N-50°-E		
1区2面	103号ピット	X=30200	Y=-80586・587	楕円形	44	39	32	N-13°-W		
1区2面	104号ピット	X=30200	Y=-80585	楕円形	50	40	67	N-23°-W		
1区2面	105号ピット	X=30198・199	Y=-80586・587	楕円形	35	28	14	N-0°	22号土坑	
1区2面	106号ピット	X=30198	Y=-80585	円形	35	33	15	N-0°	22号土坑	

写 真 図 版

1区1号墳石室(西から)

1区1号墳直刀出土状態(西から)

1区1号墳直刀出土状態(西から)

1区1号墳土層断面C－C′(南から)

1区1号墳土層断面A－A′(南から)

PL.2

1区1号墳石室床面全景(西から)

1区1号墳石室全景(南から)

1区1号墳石室全景(北から)

1区1号墳全景(空撮　上が東)

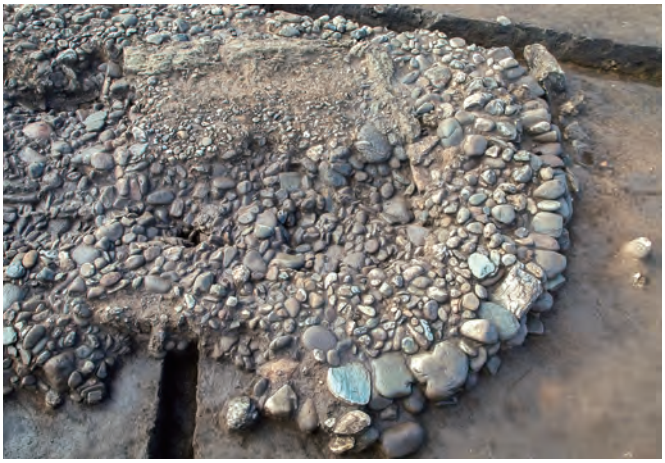
PL.4

1区1号墳石室梱石全景(南から)

1区1号墳石室梱石全景(南から)

1区1号墳奥壁・側壁設定状況(東から)

1区1号墳周堀石器出土状況(北から)



1区1号墳石室全景(東から)

1区1号墳石室全景（北から）

1区1号墳石室全景（西から）

PL.6

1区1号墳骨・鉄製品出土状態(東から)

1区1号墳長頸鏃(53)出土状態(東から)

1区1号墳臼玉(20)出土状態(西から)

1区1号墳石棒(30)出土状態(南から)

1区1号墳石室全景(北から)

1区2号墳全景(北から)

1区2号墳全景(北から)

PL.8

1区2号墳全景(空撮　上が南東)

1区2号墳全景(北から)

1区2号墳全景(北から)

1区2号墳北側周溝全景(北から)

PL.10

1区2号墳全景(西から)

1区2号墳裏込め全景(西から)

1区2号墳全景(西から)

1区2号墳遺物出土状態(北から)

1区2号墳須恵器壺(8)出土状態(北から)

1区2号墳須恵器壺(7)出土状態(北から)

1区2号墳遺物出土状態(北から)

PL.12

1区3号墳周堀全景(東から)

2区5号墳全景(北から)

2区5号墳南周堀礫出土状況(東から)

2区5号墳北周堀礫出土状況(北から)

2区5号墳南周堀礫出土状況(南から)

2区5号墳北周堀礫出土状況(西から)

2区5号墳完掘全景(北から)

PL.14

２区７号墳南側検出（南から）

２区７号墳南側浮石（南から）

２区７号墳南側浮石（南から）

２区７号墳墳丘南側前凝灰岩（東から）

２区７号墳墳丘南側前凝灰岩（東から）

２区７号墳墳丘北側（東から）

２区７号墳調査風景（北東から）

２区７号墳調査風景（北から）

２区７号墳北側葺石（北東から）

２区７号墳北側葺石（北東から）

PL.16

2区7号墳北側葺石(北から)

2区7号墳北側葺石(北から)

2区7号墳墳丘南側前凝灰岩(南から)

2区7号墳墳丘南側(南から)

2区7号墳墳丘南側(南から)

2区7号墳南側下層葺石(南から)

2区7号墳墳丘南側(南から)

2区7号墳墳丘南側前凝灰岩(南から)

２区７号墳墳丘南側（南から）

２区７号墳南半部断面Ａ－Ａ′（南西から）

PL.18

２区７号墳南面葺石状況（南から）

２区７号墳南面区画列石状況（南から）

2区7号墳南面区画列石状況(南から)

2区7号墳南面区画列石状況(南から)

PL.20

2区７号墳南下出土石器(南から)

2区７号墳墳丘北側周溝遺物出土状態(北から)

2区７号墳南下出土石器(南から)

2区７号墳南下出土石器(南から)

2区７号墳南下出土石器(南から)

2区７号墳南下出土石器(南から)

2区７号墳周溝内石錘(11)出土状態(北東から)

2区７号墳周溝内石核(27)出土状態(北東から)

2区７号墳南下礫器(30)出土状態(南から)

2区７号墳南下石器出土状態(南から)

2区７号墳南下石器出土状態(南から)

2区７号墳南下石器出土状態(南から)

2区７号墳墳丘北側周溝土師器出土状態(北東から)

2区７号墳墳丘北側周溝土師器出土状態(北から)

2区７号墳墳丘北側周溝土師器出土状態(北から)

２区15号土坑（７号墳墳丘内陪葬）出土状態（東から）

２区15号土坑（７号墳墳丘内陪葬）出土状態（南から）

PL.22

２区15号土坑石製模造品刀子形（２）出土状態（南から）

２区15号土坑石製模造品刀子形（２）出土状態（南から）

3区8号墳石室全景(東から)

3区8号墳周堀全景(南東から)

PL.24

3区8号墳石室全景(東から)

3区8号墳石室礫確認状況(北から)

3区8号墳石室礫確認状況(南東から)

3区8号墳石室礫確認状況(北から)

3区8号墳石室礫確認状況(南から)

3区8号墳土層断面D－D′（南東から）

3区8号墳土層断面A－A′（南西から）

3区8号墳土層断面B－B′（南から）

3区8号墳土層断面C－C′（南から）

3区8号墳土層断面A－A′（西から）

3区8号墳土層断面B－B′（南から）

3区8号墳土層断面B－B′（南から）

3区8号墳土層断面C－C′（南から）

PL.26

3区8号墳周溝内葺石崩落状況(北から)

3区8号墳周溝内葺石崩落状況(北から)

3区8号墳周溝内葺石崩落状況(東から)

3区8号墳土層断面A－A′(西から)

3区8号墳土層断面A－A′(西から)

３区８号墳前庭・羨道（南西から）

３区８号墳前庭右側壁石積（東から）

PL.28

3区8号墳前庭土層断面A－A′（西から）

3区8号墳前庭土層断面B－B′（南から）

3区8号墳前庭下層土層断面F－F′（西から）

3区8号墳前庭須恵器大甕（2）出土状態（東から）

3区8号墳前庭須恵器大甕（2）出土状態（東から）

3区8号墳前庭須恵器大甕（2）出土状態（東から）

3区8号墳前庭須恵器大甕（2）出土状態（西から）

3区8号墳前庭須恵器大甕（2）出土状態（西から）

3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)

3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)

3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)

3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)

3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)

3区8号墳前庭小札(32)出土状態(東から)

3区8号墳前庭小札(33)出土状態(南から)

3区8号墳前庭長頸鏃(94)出土状態(南から)

PL.30

３区８号墳羨道閉塞石下部(南から)

３区８号墳羨道左壁裏込め(東から)

３区８号墳羨道右壁(東から)

３区８号墳羨道断面Ｋ－Ｋ′(東から)

３区８号墳羨道断面Ｋ－Ｋ′(東から)

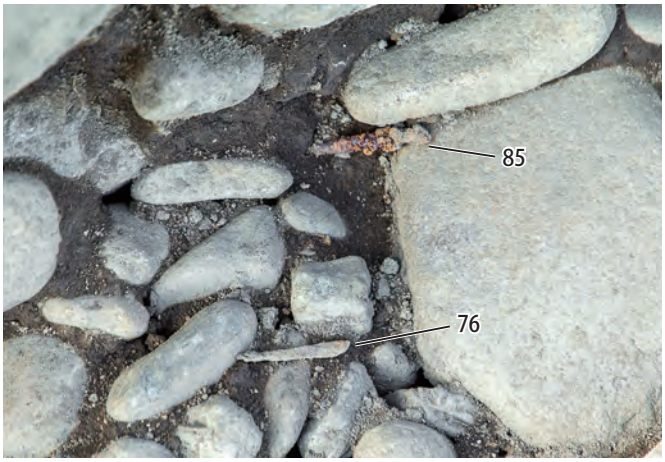
3区8号墳羨道石下断面C－C′（南から）

3区8号墳羨道小札(39)出土状態（東から）

3区8号墳羨道小札(44)出土状態（東から）

3区8号墳羨道小札(51)出土状態（北から）

3区8号墳羨道直刀(64)出土状態（南から）



3区8号墳羨道長頸片刃鏃(76)、長頸鏃(85)出土状態（東から）

3区8号墳羨道鏃茎片(118)出土状態（西から）

3区8号墳羨道絞具(161)出土状態（北から）

PL.32

3区8号墳羨道鞍片(163)出土状態(西から)

3区8号墳羨道金銅製連結金具(165)出土状態(東から)

3区8号墳羨道木製鐙吊金具(171)出土状態(東から)

3区8号墳羨道釘(189)出土状態(西から)

3区8号墳前庭全景(南から)

3区8号墳羨道・前庭下層全景(南から)

3区8号墳羨門西側石積状況(南から)

PL.34

３区８号墳玄室土層断面Ａ－Ａ′（西から）

３区８号墳玄室西壁下石出土状況（西から）

３区８号墳玄室石出土状態（東から）

３区８号墳玄室出土須恵器甕（１）出土状態（東から）

３区８号墳玄室遺物出土状態（東から）

３区８号墳玄室骨出土状態（東から）

３区８号墳玄室骨出土状態（東から）

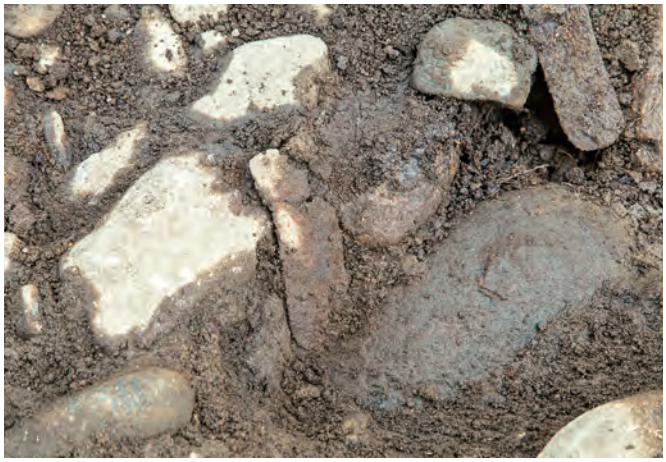
３区８号墳玄室小札出土状態（南から）

3区8号墳玄室小札(16)出土状態(東から)

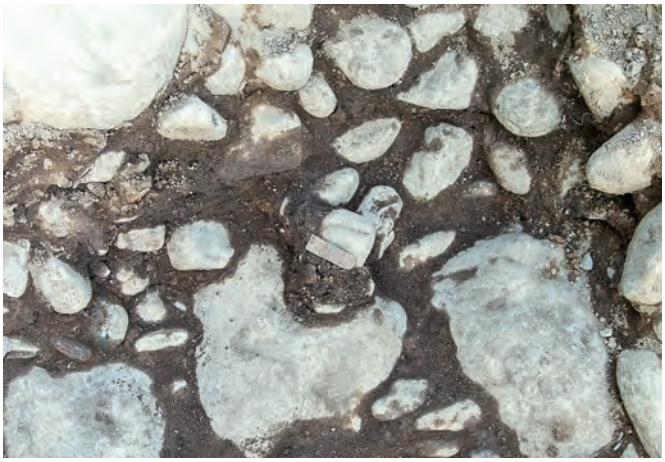
3区8号墳玄室小札(19)出土状態(東から)

3区8号墳小札(38)出土状態(北から)

3区8号墳玄室小札(40)出土状態(東から)



3区8号墳玄室小札(41)出土状態(東から)



3区8号墳玄室小札(43)出土状態(南から)

3区8号墳玄室小札(46)出土状態(東から)

3区8号墳玄室小札(47)出土状態(北東から)

PL.36

3区8号墳玄室小札(48)出土状態(南から)

3区8号墳玄室小札(52)出土状態(東から)

3区8号墳玄室耳環(57)出土状態(南から)

3区8号墳玄室耳環(58)出土状態(東から)

3区8号墳玄室耳環(60)、長頸片刃鏃(76)出土状態(東から)

3区8号墳玄室耳環(61)出土状態(東から)

3区8号墳玄室鏃(179)出土状態(東から)

3区8号墳玄室長頸片刃鏃(75)出土状態(東から)

3区8号墳玄室長頸鏃(90)出土状態(東から)

3区8号墳玄室鏃茎(122)出土状態(東から)

3区8号墳玄室鏃茎(123)出土状態(東から)

3区8号墳玄室長頸鏃(89)出土状態(東から)

3区8号墳玄室長頸鏃出土状態(東から)

3区8号墳玄室長頸鏃(95)出土状態(東から)

3区8号墳玄室鉄器出土状態(東から)

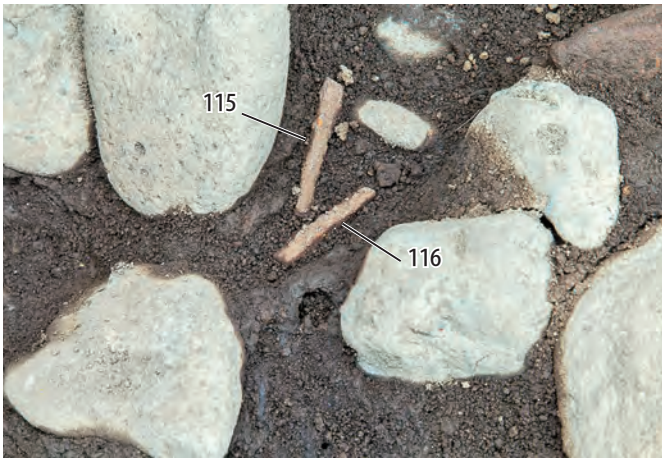
3区8号墳玄室長頸鏃(103)出土状態(東から)

PL.38

3区8号墳玄室釘(105)出土状態(南から)

3区8号墳玄室長頸鏃(111)出土状態(東から)

3区8号墳玄室長頸鏃(114)出土状態(東から)



3区8号墳玄室長頸鏃(115・116)出土状態(東から)

3区8号墳玄室銀装具付刀子(126)出土状態(南から)

3区8号墳玄室刀子(128)出土状態(東から)

3区8号墳玄室四脚辻金具(136)出土状態(東から)

3区8号墳玄室コハゼ形金具(141)出土状態(東から)

3区8号墳玄室花弁形座金具(173)出土状態(東から)

3区8号墳玄室刃装具(181)出土状態(東から)

3区8号墳玄室棒板状品(183)出土状態(東から)

3区8号墳玄室釘(190)出土状態(東から)

3区8号墳閉塞部正面(南から)

PL.40

3区8号墳閉塞部断面(東から)

3区8号墳閉塞石断面(東から)

3区8号墳羨道作業風景(南から)

3区8号墳石室作業風景(南西から)

3区8号墳玄室左壁裏込め断面D−D′(南から)

3区8号墳玄室右壁裏込め断面D－D′（南から）

3区8号墳羨道右壁裏込め断面C－C′（北から）

3区8号墳羨道右壁裏込め断面C－C′（北から）

3区8号墳羨道左壁裏込め断面C－C′（北から）

3区8号墳玄室奥壁裏込め断面A－A′（西から）

PL.42

３区８号墳奥壁裏込め被覆検出状況（東から）

３区８号墳裏込め小札（27）出土状態（東から）

３区８号墳裏込め小札（53）出土状態（南から）

３区８号墳裏込め銀製鋲（63）出土状態（東から）

３区８号墳裏込め刀鞘出土状態（北から）

３区８号墳掘り方土層断面Ｂ－Ｂ′（南から）

３区８号墳掘り方土層断面Ｂ－Ｂ′（南から）

３区８号墳掘り方土層断面Ｂ－Ｂ′（南から）

３区８号墳掘り方北側周堀石列（東から）

３区８号墳ベルト須恵器大甕（２）胴部破片出土状態（西から）

３区８号墳ベルト須恵器大甕（２）胴部破片出土状態（西から）

３区８号墳ベルト遺物出土状態（西から）

３区８号墳ベルト遺物出土状態（南から）

PL.44

3区1号方形周溝墓西溝全景(北から)

3区1号方形周溝墓土層断面A－A′(南から)

3区1号方形周溝墓土層断面C－C′(北から)

3区1号方形周溝墓遺物出土状態(南から)

3区1号方形周溝墓土師器壺(3)出土状態(東から)

3区1号方形周溝墓内1号土坑全景(東から)

2区2号方形周溝墓全景(西から)

2区2号方形周溝墓土層断面A－A′(南西から)

２区２号方形周溝墓遺物出土状態（北西から）

２区２号方形周溝墓土師器壺（２）出土状態（西から）

２区３号方形周溝墓全景（北から）

２区３号方形周溝墓土層断面Ａ－Ａ′（南西から）

２区３号方形周溝墓遺物出土状態（西から）

２区４号方形周溝墓全景（南西から）

２区４号方形周溝墓土層断面Ｂ－Ｂ′（北から）

２区４号方形周溝墓土層断面Ｄ－Ｄ′（南東から）

PL.46

1区5号竪穴建物全景(西から)

1区5号竪穴建物土層断面A−A′(南から)

1区5号竪穴建物遺物出土状態(西から)

1区5号竪穴建物P1全景(西から)

1区6号竪穴建物全景(北から)

1区6号竪穴建物土層断面A－A′西側（南西から）

1区6号竪穴建物土層断面A－A′東側（南西から）

1区6号竪穴建物土層断面B－B′（北西から）

1区6号竪穴建物遺物出土状態（北東から）

1区6号竪穴建物遺物出土状態（北から）

1区6号竪穴建物炉全景（南から）

1区6号竪穴建物炉土層断面C－C′（西から）

PL.48

1区7号竪穴建物全景(北東から)

1区7号竪穴建物遺物出土状態(南西から)

1区7号竪穴建物弥生土器壺(8)出土状態(北西から)

1区7号竪穴建物炭化物出土状態(北西から)

1区7号竪穴建物炉土層断面C－C′(南西から)

3区1号竪穴建物全景(北西から)

3区1号竪穴建物土層断面A−A′(北から)

3区1号竪穴建物土層断面B−B′(西から)

3区1号竪穴建物遺物出土状態(東から)

3区1号竪穴建物炉全景(北から)

PL.50

３区１号竪穴建物炉土層断面Ｃ－Ｃ′（北東から）

３区１号竪穴建物炉埋甕（深鉢１）出土状態（南西から）

３区１号竪穴建物炉下部埋甕（深鉢２）出土状態（北から）

３区１号竪穴建物炉掘り方全景（北から）

３区１号竪穴建物Ｐ１全景（東から）

３区１号竪穴建物Ｐ２全景（東から）

３区１号竪穴建物Ｐ３全景（南から）

３区１号竪穴建物Ｐ４全景（南から）

３区２号竪穴建物全景（南から）

３区２号竪穴建物土層断面Ａ－Ａ′（西から）

３区２号竪穴建物土層断面Ｂ－Ｂ′（南から）

３区２号竪穴建物遺物出土状態（北から）

３区２号竪穴建物Ｐ４上敷石出土状態（南東から）

PL.52

３区２号竪穴建物炉全景（北から）

３区２号竪穴建物炉土層断面Ｅ－Ｅ′（西から）

３区２号竪穴建物縄文土器深鉢（１）出土状態（西から）

３区２号竪穴建物炉掘り方全景（南から）

３区２号竪穴建物Ｐ４全景（東から）

３区３号竪穴建物全景（北東から）

３区３号竪穴建物炉全景（東から）

３区３号竪穴建物遺物出土状態（北から）

2区4号竪穴建物全景(北西から)

2区4号竪穴建物土層断面A－A′北部(南西から)

2区4号竪穴建物土層断面A－A′南部(南西から)

2区4号竪穴建物内土坑全景(南東から)

2区4号竪穴建物炉全景(北西から)

PL.54

2区4号竪穴建物炉遺物出土状態(北東から)

2区4号竪穴建物炉土層断面B－B′(南東から)

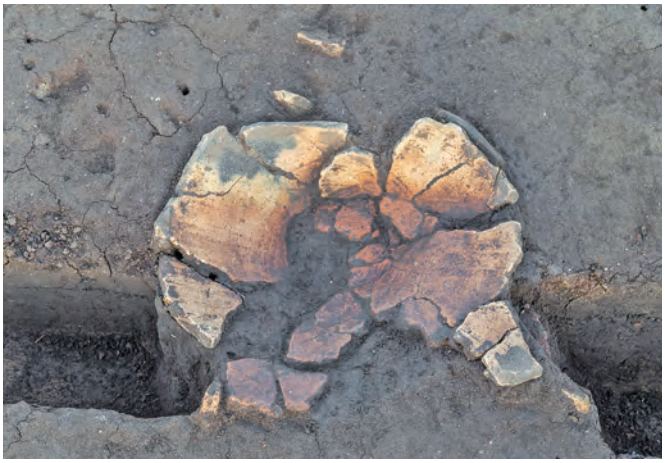
2区4号竪穴建物炉掘り方全景(北西から)

2区4号竪穴建物内土坑遺物出土状態(西から)

2区4号竪穴建物内土坑遺物出土状態(北東から)

2区4号竪穴建物内土坑遺物出土状態(北東から)

2区4号竪穴建物内土坑掘り方全景(北東から)



2区4号竪穴建物1号埋設土器(南西から)

2区4号竪穴建物Ｐ１全景(北から)

2区4号竪穴建物Ｐ２全景(北から)

2区4号竪穴建物Ｐ３全景(北から)

2区4号竪穴建物Ｐ４全景(北から)

2区4号竪穴建物Ｐ５全景(北から)

2区4号竪穴建物Ｐ６全景(北から)

2区4号竪穴建物Ｐ７全景(北から)

2区4号竪穴建物Ｐ８全景(北から)

PL.56

3区1号土坑全景(南から)

3区2号土坑全景(南から)

3区3号土坑全景(南から)

1区5号土坑剝片(1)出土状態(西から)

1区5号土坑全景(南東から)

3区6号土坑全景(東から)

3区7号土坑全景(南から)

3区8号土坑磨製石斧(1)出土状態(南から)

3区8号土坑全景(南から)

3区9号土坑全景(北から)

3区10号土坑全景(北から)

3区12号土坑全景(西から)

2区13号土坑遺物出土状態(南西から)

2区13号土坑全景(南から)

2区14号土坑遺物出土状態(東から)

2区14号土坑全景(東から)

2区15号土坑(7号墳墳丘内陪葬)出土状態(東から)

2区15号土坑(7号墳墳丘内陪葬)出土状態(南から)

2区15号土坑(7号墳墳丘内陪葬)遺物出土状態(西から)

2区15号土坑(7号墳墳丘内陪葬)遺物出土状態(南東から)

2区15号土坑(7号墳墳丘内陪葬)遺物出土状態(東から)

2区15号土坑(7号墳墳丘内陪葬)石製模造品刀子形(2)出土状態(西から)

2区15号土坑(7号墳墳丘内陪葬)全景(東から)

2区16号土坑全景(南から)

2区17号土坑縄文土器深鉢(1)出土状態(南西から)

2区17号土坑全景(北から)

2区19号土坑全景(北から)

1区20号土坑全景(東から)

1区21号土坑全景(西から)

1区22号土坑全景(南西から)

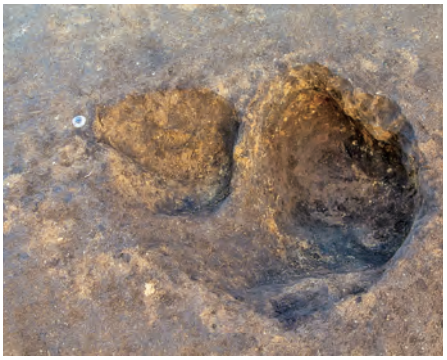
PL.58

3区10号ピット全景(北から)

3区12号ピット全景(北から)

3区13号ピット全景(南から)

3区14号ピット(1号竪穴建物P6)全景(南から)



3区15号(左)・16号(右)ピット全景(南西から)

3区17号ピット全景(東から)

3区18号ピット全景(東から)

3区19号ピット全景(東から)

3区20号ピット全景(南から)

3区21号ピット全景(南から)

3区22号ピット全景(東から)

3区23号ピット全景(南から)

3区24号ピット全景(南から)

3区25号(左)・26号(右)ピット全景(南から)

3区27号ピット全景(西から)

3区28号ピット全景(南西から)

3区29号ピット全景(南西から)

3区30号ピット全景(南東から)

3区31号ピット全景(南から)

3区31号(左)・32号(右)ピット全景(南から)

3区33号(左)・34号(右)ピット全景(東から)

3区35号ピット全景(西から)

3区36号ピット全景(南から)

3区37号ピット全景(南から)

3区38号ピット全景(東から)

3区39号ピット全景(東から)

3区40号ピット全景(東から)

3区41号ピット全景(南東から)

3区42号ピット全景(東から)

3区43号ピット全景(南東から)

PL.60

3区44号ピット全景(南東から)

3区45号ピット全景(南東から)

3区46号ピット全景(東から)

3区47号ピット(2号竪穴建物P6)全景(南から)

3区48号ピット(3号竪穴建物P4)全景(南から)

3区49号ピット(3号竪穴建物P5)全景(南から)

3区50号ピット全景(南東から)

3区51号ピット全景(南から)

3区52号ピット全景(東から)

3区53号ピット(2号竪穴建物P5)全景(南から)

3区54号ピット(3号竪穴建物P2)全景(西から)

3区55号ピット(3号竪穴建物P3)全景(南から)

3区56号ピット(3号竪穴建物P1)全景(南東から)

3区57号ピット全景(南から)

2区61号ピット全景(南から)

2区62号ピット全景(北から)

2区63号ピット全景(北から)

2区64号ピット全景(北から)

2区65号ピット全景(北から)

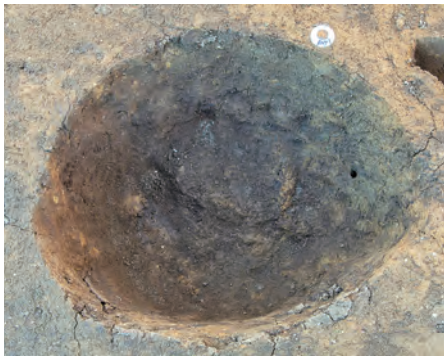
2区66号ピット(8号竪穴建物P2)全景(北から)

2区67号ピット(8号竪穴建物P3)全景(北から)

2区68号ピット(8号竪穴建物P5)全景(北から)

2区69号ピット(8号竪穴建物P6)全景(北から)

2区70号ピット(8号竪穴建物P7)全景(西から)


2区72号ピット(8号竪穴建物P8)全景(北から)

2区73号ピット全景(北から)

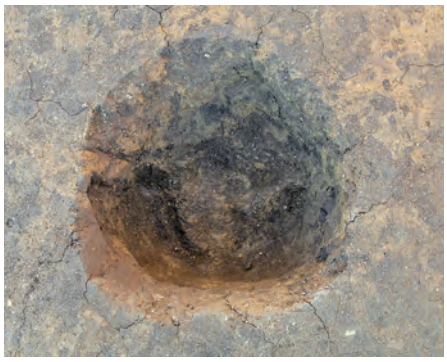
2区74号ピット(8号竪穴建物P4)全景(北から)

2区75号ピット全景(北から)

2区76号ピット全景(北から)

2区77号ピット(8号竪穴建物P1)全景(北から)

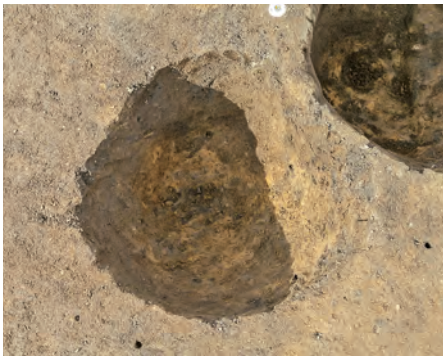
PL.62

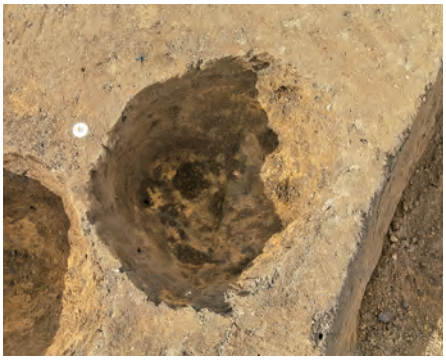

2区78号ピット(8号竪穴建物P9)全景(北から)

2区79号ピット全景(北から)

1区80号ピット全景(東から)

1区81号ピット全景(東から)


1区82号ピット全景(東から)


1区83号ピット全景(東から)

1区84号ピット全景(東から)

1区85号ピット全景(東から)

1区86号ピット全景(東から)

1区89号ピット全景(東から)

1区90号ピット全景(東から)

1区91号ピット全景(東から)

1区92号ピット全景(東から)

2区93号ピット(4号竪穴建物P11)全景(東から)

2区94号ピット(4号竪穴建物P12)全景(東から)

2区95号ピット(4号竪穴建物P9)全景(東から)

2区96号ピット(4号竪穴建物P13)全景(東から)

2区97号ピット(4号竪穴建物P14)全景(東から)

2区98号ピット(4号竪穴建物P10)全景(北東から)

2区99号ピット(4号竪穴建物P15)全景(東から)

1区100号ピット全景(東から)

1区101号ピット全景(東から)

1区102号ピット全景(東から)

1区103号ピット全景(東から)

1区104号ピット全景(東から)

1区105号ピット全景(西から)

PL.64

2区3号溝全景(西から)

2区4号溝全景(西から)

1区5号溝全景(西から)

2区6号溝全景(西から)

2区7号溝全景(東から)

2区9号溝全景(北から)

1区10号溝全景(西から)

1区12号溝全景(東から)

２区２号集石全景（東から）

２区３号集石全景（西から）

PL.66

２区３号集石礫出土状態（西から）

２区３号集石礫出土状態（西から）

２区３号集石礫出土状態（西から）

２区３号集石礫出土状態（西から）

PL.68

２区３号集石礫出土状態（西から）

２区４号集石全景（東から）

1区1号墳

1

3

4

7

12

9

13

10

11

14

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

33

31

32

33

34

36

38

39

40

41

35

37

42

43

44

PL.70

1区2号墳

1

3

8

4

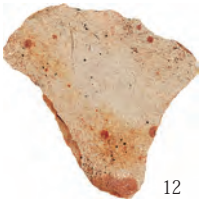
6

7

9

PL.72

10


12

11

15

16

17

13

14

1区3号墳

1

2区5号墳

6

7

8

2区15号土坑

1

2

2区7号墳

縄文76

縄文81

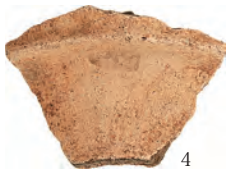
縄文101

縄文104

縄文120

1

2


4

3

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

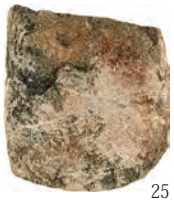
20

21

22

23

24


25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

40

41

42

43

PL.74

3区8号墳

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

PL.76

23

24

26

25

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

PL.78

44

45

46

47

48

49

50

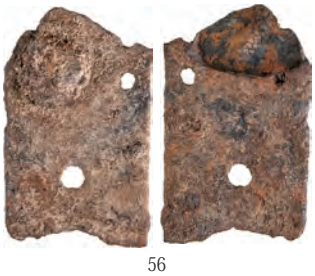
51

52

53

54

55


56

57 58 59 60 61 62

63 64

65 66 67 68 69

70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81

82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93

PL.80

94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107

108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

PL.82

135

136

137

139

140

138

141

142

143

144

145

146

147

148

149

151

152

153

75-1
156

157

154

155

158

159

160

161

162

164

163

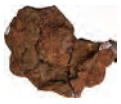
165

166

167

168

169


172

170

171

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

2区10号墳

1

2

3

PL.84

3区1号方形周溝墓

1

2

3

2区2号方形周溝墓

2区4号方形周溝墓

1区5号竪穴建物

PL.86

1区6号竪穴建物

1

2

3

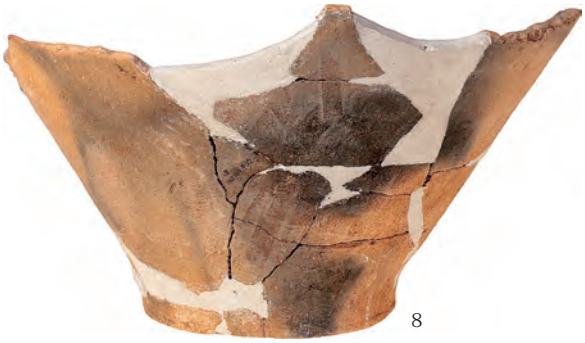
4

5

6

7

9


8

10

11

1区7号竪穴建物

1

2

3

4

7

5

6

8

9

10

11

12

13

3区1号竪穴建物

1

3

4

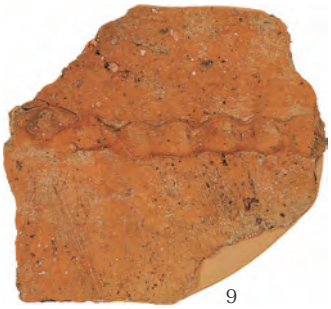
5

6

2

7

8


9

10

11

12

16

13

PL.88

14

15

17

18

19

21

20

22

23

24

25

26

27

3区2号竪穴建物

1

2

3

4

5

6

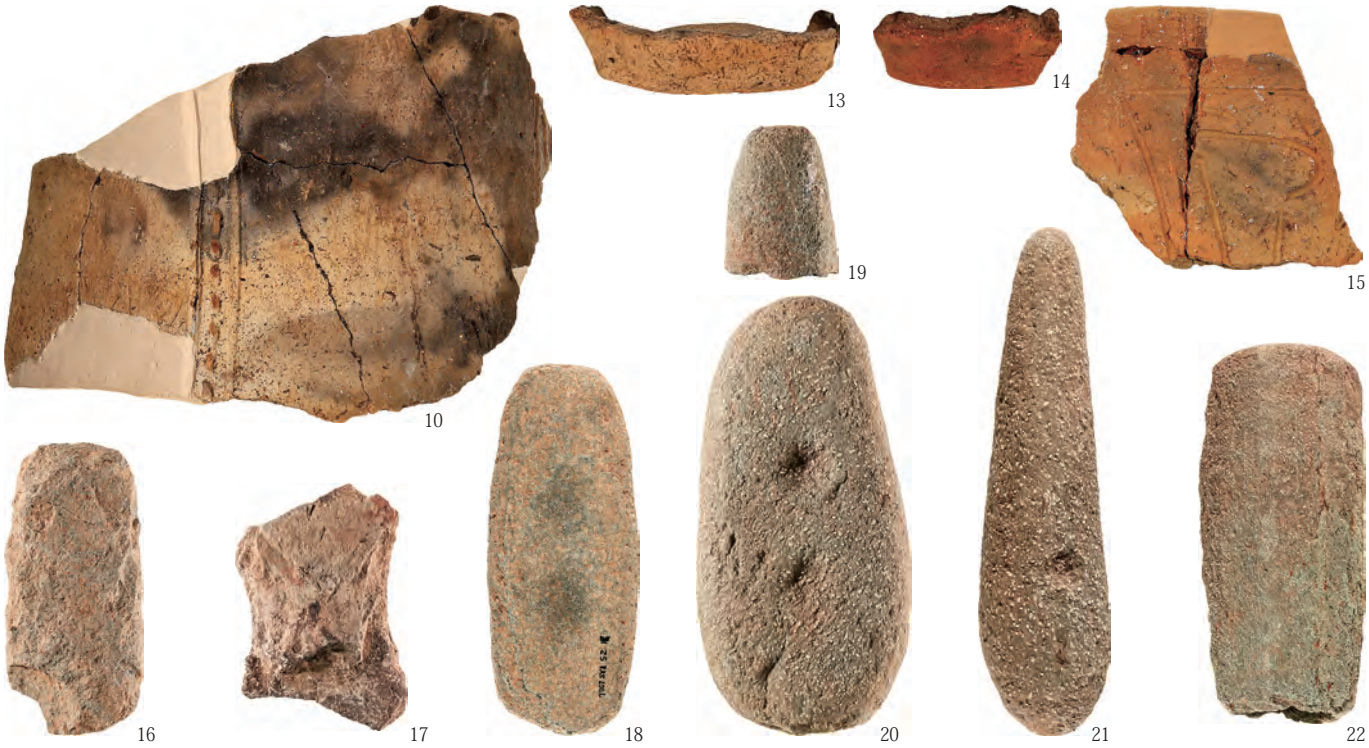
7

8

9

11

12



3区3号竪穴建物

2区4号竪穴建物

PL.90

5－3

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

25

27

23

24

26

2区8号竪穴建物

1

2

1区5号土坑

1

3区6号土坑

1

2

3区8号土坑

1

3区9号土坑

1

3区10号土坑

1

1区12号土坑

1

2区14号土坑

1

2

3

2区16号土坑

1

2

3

2区17号土坑

1

1区21号土坑

1

2

1区20号土坑

1

3区1号ピット

1

2

1区91号ピット

1

2区4号溝

1

2

3

1区10号溝

1

2

1区11号溝

1

2

3

2区1号遺物集中

1

2

縄文32

PL.92

2区2号集石

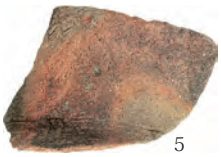
1

2

3

4

6


5

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

2区3号集石

1

2

3

4

5

6

7

8

9

2区4号集石

1

2

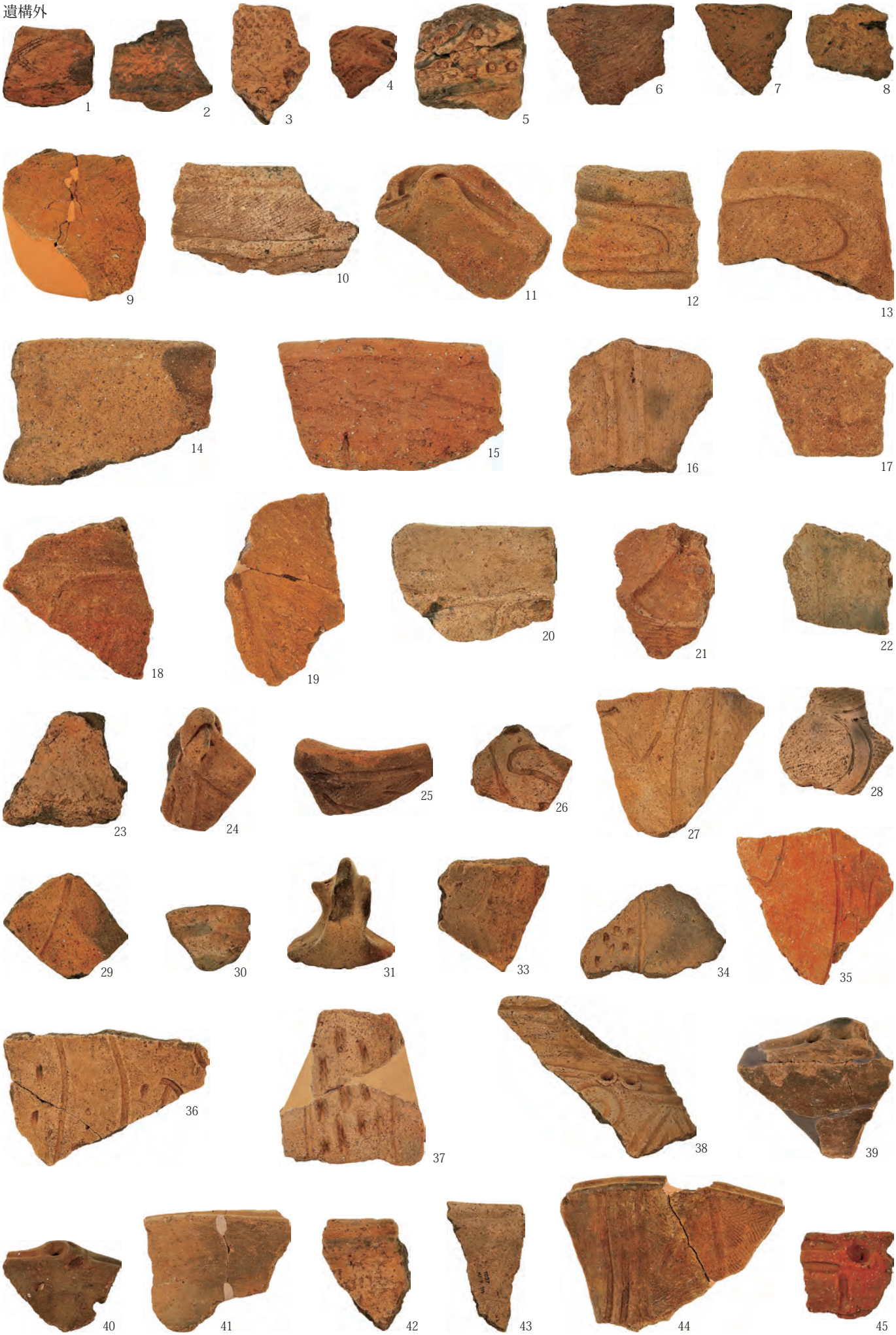
2区5号集石

1

2区6号集石

1

遺構外


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45

PL.94

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

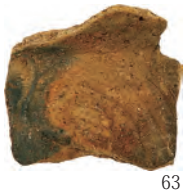
58

59

60

61

62


63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

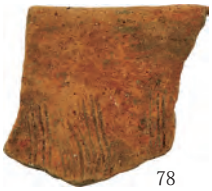
73

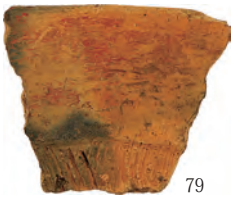
74

75-1

75-2

77


78


79

80

82

83

84

85

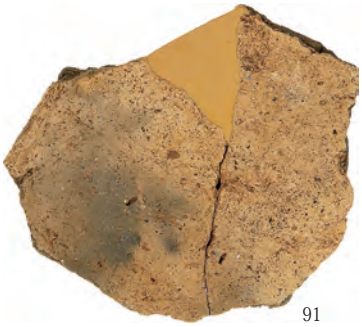
86

87

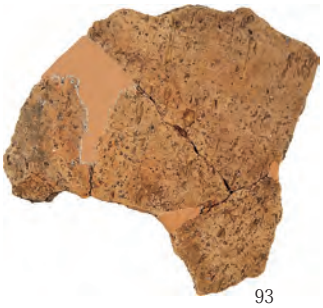
88

89

90


91

92


93

95

94

97

98

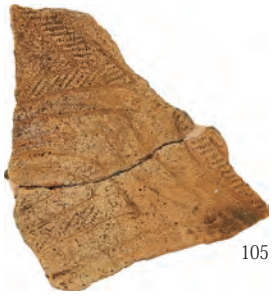
96

99

100

102

103


105

106

107

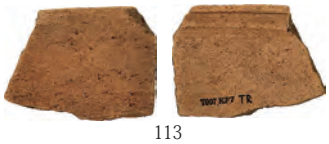
108

109

110

111

112


113

114

117

118

119

115

116

121

122

PL.96

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

報　告　書　抄　録

書名ふりがな	ごかなかわりいせき(てぃーぜろぜろななないせき)
書　　名	後賀中割遺跡(T007遺跡)
副　署　名	㈠下高尾小幡線 庭谷工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	698集
編著者名	友廣哲也
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20211217
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ごかなかわりいせき(てぃーぜろぜろななないせき)
遺　跡　名	後賀中割遺跡(T007遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんとみおかしごか
遺跡所在地	群馬県富岡市後賀
市町村コード	10210
遺跡番号	T007
北緯(世界測地系)	30163
東経(世界測地系)	-80609
調査期間	20170801～20170930 20180901～20190131
調査面積	2169.86㎡
調査原因	道路建設工事
種　　別	古墳・竪穴建物跡・周溝墓・集石・土坑群・ピット群
主な時代	縄文時代～古墳時代～中近世
遺跡概要	古墳７基/竪穴建物＋縄文時代５棟＋弥生時代３棟/古墳時代方形周溝墓４基/古墳時代以降土坑19基＋溝10＋ピット81/
特記事項	古墳が７基確認された。すべては近代に開墾で壊され、現状は畠地になっている。７～８世紀の終末期の群集墳である。本遺跡内２区７号墳は方形墳に葺石を持ち、竪穴式石室で５世紀の古墳で、富岡市内鏑川周辺では５世紀代の古墳は少なく、希少な墳墓である。３区８号墳からは鉄製馬具、小札鎧等200点を超す。
要　　約	縄文時代後期竪穴建物、弥生時代後期竪穴建物が検出され、古墳時代の方形周溝墓４基、古墳７基が検出されている。縄文時代、弥生時代は時期的に離れているが、弥生時代から古墳時代周溝墓には継続している。古墳は終末期にかかる群集墳だが、２区７号墳は方墳、竪穴石室を持つものと考えられる。７世紀から８世紀にかかる３区８号墳からは大量の鉄製品が出土し、小札鎧、馬具等が200点以上確認されている。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第698集

後賀中割遺跡（T007遺跡）

㈠下高尾小幡線 庭谷工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

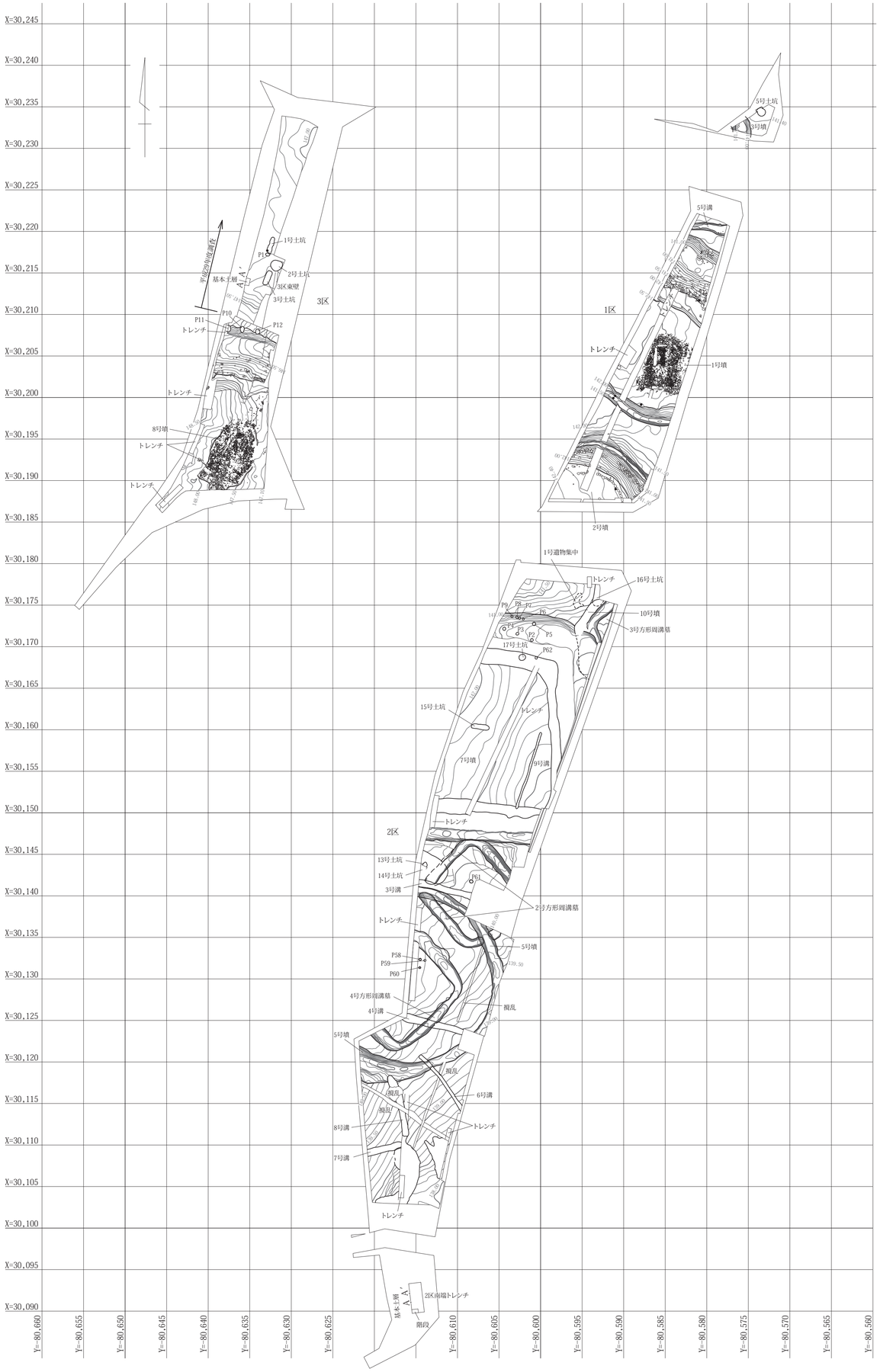
令和３(2021)年12月３日　印刷
令和３(2021)年12月17日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

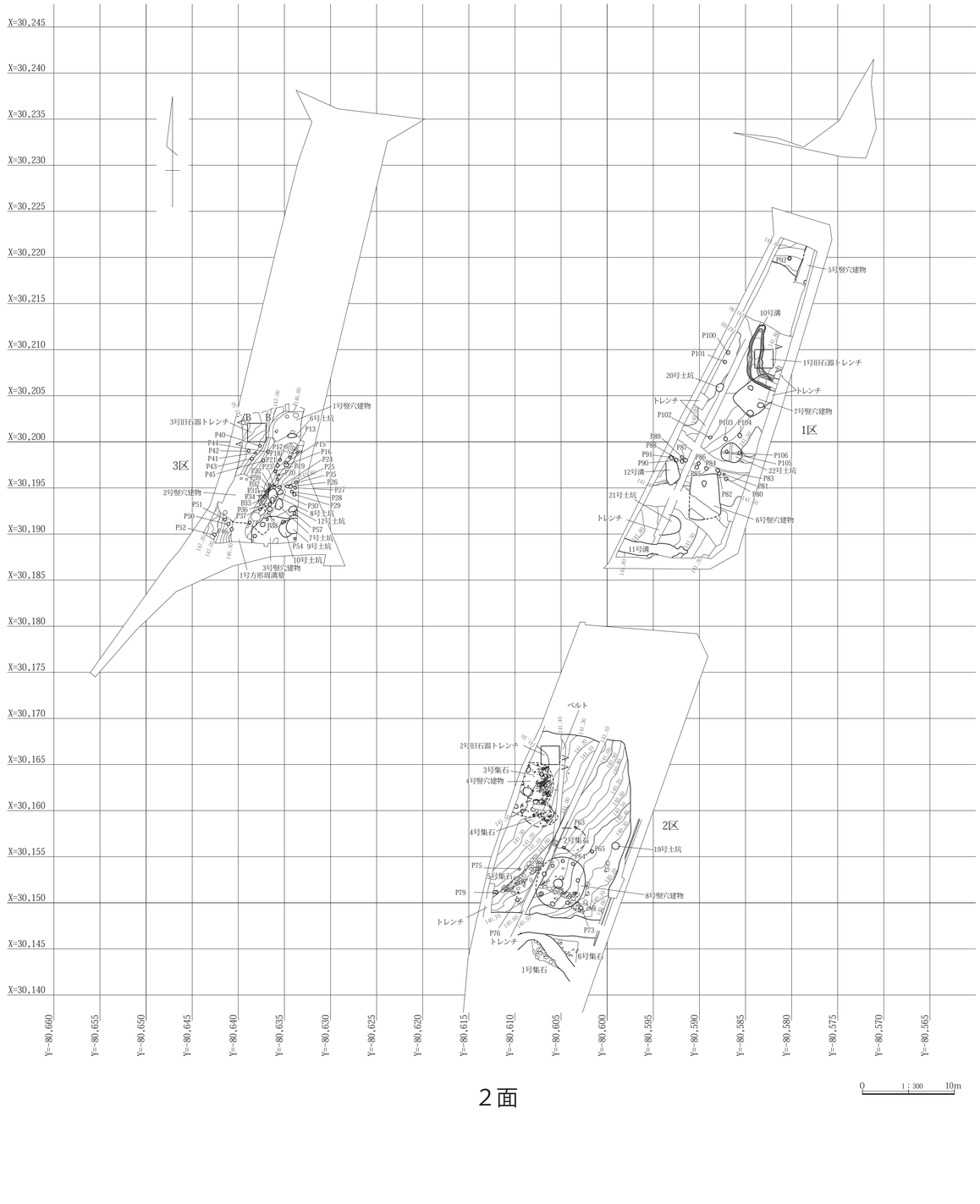
〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／株式会社大塚カラー

付図 1　後賀中割遺跡（T007 遺跡）全体図　1/300



1 面



2 面